

あら お みなみ

荒尾南遺跡 A 地区 I

(第1分冊)

2 0 1 2

岐阜県文化財保護センター

序

大垣市とその周辺を含む西濃地域は、東海地方の中でも、弥生・古墳時代の遺跡が集中する地域として知られます。肥沃な平野と大小の河川を有する西濃地域は、古来、北陸・近畿と東海を結ぶ交通の要衝でもあり、奈良時代以降も国分寺や国分尼寺、国衙、不破関など、国家の重要な機関が置かれたため、古代を通じ、美濃国の中心地であり続けました。

荒尾南遺跡は、大垣市中心部の西方にある遺跡で、弥生・古墳時代の遺跡としては、県下でも最大級の規模を有します。過去の調査では、3艘の船が表現された土器や、人面が描かれた土器が出土し、全国的にも大きな話題を呼びました。

このたび国土交通省中部整備局岐阜国道事務所による東海環状自動車道建設工事に伴い、工事予定地内の埋蔵文化財の記録保存を図るため、再び荒尾南遺跡の発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査でも、縄文時代晚期から中世に至る多種多様な遺構とともに、多量の土器や石器、木製品などの遺物が出土し、県内有数の大規模な遺跡であることが明らかになってきています。このうち、本書は平成18年度から平成20年度に実施した「荒尾南遺跡A地区」の発掘調査の成果をまとめたものです。

当遺跡の調査成果によって、黎明期の古代美濃を探る上での重要な知見を得られたことは真に喜ばしい限りのことあります。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、大垣市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成24年2月

岐阜県文化財保護センター

所長 高橋 照美

例言

- 1 本書は大垣市荒尾町・桧町に所在する荒尾南遺跡（岐阜県遺跡番号21202-08568）A地区の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、東海環状自動車道（養老JCT～大垣西IC）建設に伴うもので、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、平成20年度までは（財）岐阜県教育文化財団文化財保護センター、平成21年度からは岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 発掘調査及び整理作業は、八賀晋三重大学名誉教授及び山田昌久首都大学東京教授の指導のもとに実施した。荒尾南遺跡は南北に長く、規模も大きな遺跡であるため、便宜的に北からA地区、B地区、C地区に大別して整理作業を実施している。本書では、平成18年度から20年度に行ったA地区（遺跡北部）の発掘調査（面積10,569m²）について、平成19年度から21年度に整理作業を実施してまとめた。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は第3章を林直樹、藤田英博、三島誠、第5章を藤田が行い、それ以外を三島が行った。また、編集は三島が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量などの業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社イビソク（平成18年度）、国際航業株式会社（平成19年度）、株式会社アーキジオ（平成20年度）に委託して行った。
- 7 整理作業における土器実測図デジタルトレースの一部は、株式会社イビソク（平成20年度）、株式会社アルカ（平成21年度）に、金属製品・木製品・石製品の実測及びデジタルトレースの一部は、株式会社フジヤマ（平成19年度）、株式会社イビソク（平成20年度）、株式会社太陽測地社（平成21年度）に委託して行った。
- 8 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 9 自然科学分析は、株式会社バレオ・ラボ、吉田生物研究所に委託して行い、その結果は第4章に掲載した。
- 10 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。（敬称略・五十音順）
青木哲哉、赤澤徳明、赤塚次郎、石井智大、石川ゆずは、石黒立人、石野博信、伊丹徹、伊藤正人、伊庭功、肩崎由、大塚初重、大野薫、恩田知美、河合章行、川崎志乃、鬼頭剛、黒坂貴裕、黒沢浩、黒須恵希子、下濱貴子、鈴木元、鈴木とよ江、鈴木正貴、高木宏和、高野陽子、永井宏幸、中井正幸、中野晴久、長瀬治義、原田幹、林大智、早野浩二、樋上昇、久田正弘、深澤芳樹、福永伸哉、藤川智之、藤澤良祐、藤田慎一、穂積裕昌、堀木真美子、豆谷和之、宮腰健司、森下草司、矢野健一、渡邊博人、大垣市教育委員会
- 11 本文中の方位は、世界測地系の座標北を示し、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系で表している。
- 12 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2005・2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 13 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目次（第1分冊）

序	
例言	
目次	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の環境	8
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	9
第3節 過去の調査	12
第3章 調査の成果	14
第1節 現地形の状況	14
第2節 基本層序	14
第3節 遺構の概要	16
第4節 遺物の概要	19
第5節 墓	43
第6節 堅穴住居跡	182
第7節 掘立柱建物跡・柵跡	336

報告書抄録

第2分冊 目次

第3章 調査の成果

第8節 溝状遺構

第9節 土坑・柱穴

第10節 水田跡

第11節 井戸跡

第12節 包含層出土遺物

第4章 自然科学分析

第5章 総括

第1節 時期細分について

第2節 遺構の時期別変遷について

参考文献

第3分冊 目次

遺構全体図分割図

写真図版

挿図目次

図 1 遺跡位置図	1	図49 SZ022遺構図	89
図 2 荒尾南遺跡の調査地区位置図	3	図50 SZ023遺構図	90
図 3 A地区調査地点位置図	5	図51 SZ024遺構図	91
図 4 周辺の地形と遺跡の立地	8	図52 SZ025・SZ026・SZ027遺構図	93
図 5 周辺遺跡位置図	11	図53 SZ028遺構図	95
図 6 過去の調査位置図	13	図54 SZ029遺構図	97
図 7 06.1地点東壁土層図	15	図55 SZ030遺構図	98
図 8 遺構断面の形状模式図	18	図56 SZ031遺構図	99
図 9 I～VII期土器分類図①	22	図57 SZ032遺構図	101
図10 I～VII期土器分類図②	24	図58 SZ033遺構図	102
図11 I～VII期土器分類図③	25	図59 SZ034遺構図（1）	104
図12 I～VII期土器分類図④	28	図60 SZ034遺構図（2）	105
図13 I～VII期土器分類図⑤	29	図61 SZ035遺構図	107
図14 I～VII期土器分類図⑥	32	図62 SZ036遺構図（1）	108
図15 I～VII期土器分類図⑦	33	図63 SZ036遺構図（2）	109
図16 I～VII期土器分類図⑧	36	図64 SZ037遺構図	110
図17 I～VII期土器分類図⑨	38	図65 SZ038遺構図	112
図18 I～VII期土器分類図⑩	40	図66 SZ039遺構図（1）	114
図19 方形・円形周溝墓位置図	43	図67 SZ039遺構図（2）	115
図20 SZ001遺構図	45	図68 SZ040・SZ041遺構図	116
図21 SZ002遺構図（1）	48	図69 SZ042遺構図	118
図22 SZ002遺構図（2）	49	図70 SZ043遺構図	119
図23 SZ003遺構図（1）	50	図71 SZ044遺構図	120
図24 SZ003遺構図（2）	51	図72 SZ045遺構図（1）	121
図25 SZ004遺構図（1）	54	図73 SZ045遺構図（2）	122
図26 SZ004遺構図（2）	55	図74 SZ046遺構図	124
図27 SZ005遺構図	58	図75 SZ047遺構図	125
図28 SZ006遺構図	59	図76 SZ048・SZ049遺構図	126
図29 SZ007遺構図	61	図77 出土遺物実測図（1）	130
図30 SZ008遺構図	63	図78 出土遺物実測図（2）	131
図31 SZ009遺構図	65	図79 出土遺物実測図（3）	132
図32 SZ010遺構図	66	図80 出土遺物実測図（4）	133
図33 SZ011遺構図（1）	68	図81 出土遺物実測図（5）	134
図34 SZ011遺構図（2）	69	図82 出土遺物実測図（6）	135
図35 SZ012遺構図	70	図83 出土遺物実測図（7）	136
図36 SZ012・SK00406遺構図	71	図84 出土遺物実測図（8）	137
図37 SZ013遺構図	72	図85 出土遺物実測図（9）	138
図38 SZ014遺構図	74	図86 出土遺物実測図（10）	139
図39 SZ015遺構図	75	図87 出土遺物実測図（11）	140
図40 SZ016遺構図（1）	76	図88 出土遺物実測図（12）	141
図41 SZ016遺構図（2）	77	図89 出土遺物実測図（13）	142
図42 SZ017・SZ018遺構図（1）	78	図90 出土遺物実測図（14）	143
図43 SZ017・SZ018遺構図（2）	79	図91 出土遺物実測図（15）	144
図44 SZ017遺物出土状況図	80	図92 出土遺物実測図（16）	145
図45 SZ017南溝土器群4出土状況図	81	図93 出土遺物実測図（17）	146
図46 SZ019遺構図	84	図94 出土遺物実測図（18）	147
図47 SZ020遺構図	86	図95 出土遺物実測図（19）	148
図48 SZ021遺構図	87	図96 出土遺物実測図（20）	149

图97 出土遗物实测图 (21)	150	图147 SB018遗構図	206
图98 出土遗物实测图 (22)	151	图148 SB019遗構図	208
图99 出土遗物实测图 (23)	152	图149 SB020遗構図	209
图100 出土遗物实测图 (24)	153	图150 SB021遗構図	210
图101 出土遗物实测图 (25)	154	图151 SB022遗構図	211
图102 出土遗物实测图 (26)	155	图152 SB023遗構図	212
图103 出土遗物实测图 (27)	156	图153 SB024遗構図	214
图104 出土遗物实测图 (28)	157	图154 SB025遗構図	215
图105 出土遗物实测图 (29)	158	图155 SB026遗構図	216
图106 出土遗物实测图 (30)	159	图156 SB027遗構図	217
图107 出土遗物实测图 (31)	160	图157 SB028遗構図	218
图108 出土遗物实测图 (32)	161	图158 SB029-SB030-SB031-SB032遗構図	220
图109 出土遗物实测图 (33)	162	图159 SB033-SB034遗構図	222
图110 出土遗物实测图 (34)	163	图160 SB035遗構図 (1)	224
图111 出土遗物实测图 (35)	164	图161 SB035遗構図 (2)	225
图112 出土遗物实测图 (36)	165	图162 SB036遗構図	226
图113 出土遗物实测图 (37)	166	图163 SB037-SB038遗構図	227
图114 出土遗物实测图 (38)	167	图164 SB039-SB040遗構図 (1)	229
图115 出土遗物实测图 (39)	168	图165 SB039-SB040遗構図 (2)	230
图116 出土遗物实测图 (40)	169	图166 SB041遗構図	231
图117 出土遗物实测图 (41)	170	图167 SB042遗構図	232
图118 出土遗物实测图 (42)	171	图168 SB043-SB044遗構図	233
图119 出土遗物实测图 (43)	172	图169 SB045遗構図	234
图120 出土遗物实测图 (44)	173	图170 SB046遗構図	235
图121 出土遗物实测图 (45)	174	图171 SB047遗構図	236
图122 出土遗物实测图 (46)	175	图172 SB048遗構図	238
图123 出土遗物实测图 (47)	176	图173 SB049遗構図	239
图124 出土遗物实测图 (48)	177	图174 SB050遗構図	240
图125 出土遗物实测图 (49)	178	图175 SB051遗構図	241
图126 出土遗物实测图 (50)	179	图176 SB052遗構図	242
图127 出土遗物实测图 (51)	180	图177 SB053遗構図	243
图128 出土遗物实测图 (52)	181	图178 SB054遗構図	244
图129 穹穴住居跡位置図	182	图179 SB055遗構図	246
图130 SB001遗構図	183	图180 SB056遗構図	247
图131 SB002遗構図	185	图181 SB057遗構図	249
图132 SB002-SB003遗構図	186	图182 SB058遗構図	250
图133 SB004遗構図	188	图183 SB059遗構図	251
图134 SB005遗構図	189	图184 SB060遗構図 (1)	252
图135 SB006遗構図	190	图185 SB060遗構図 (2)	253
图136 SB007遗構図	191	图186 SB061遗構図	255
图137 SB008遗構図	192	图187 SB062遗構図	256
图138 SB008-SB009遗構図	193	图188 SB063遗構図 (1)	258
图139 SB010-SB011遗構図	195	图189 SB063遗構図 (2)	259
图140 SB012遗構図	197	图190 SB063遗構図 (3)	260
图141 SB013遗構図	198	图191 SB064遗構図	261
图142 SB014遗構図 (1)	200	图192 SB065遗構図 (1)	262
图143 SB014遗構図 (2)	201	图193 SB065遗構図 (2)	263
图144 SB015遗構図	202	图194 SB066遗構図	264
图145 SB016遗構図	204	图195 SB067遗構図	266
图146 SB017遗構図	205	图196 SB068遗構図	268

図197 SB069遺構図	269	図226 出土遺物実測図 (61)	314
図198 SB070・SB071遺構図	270	図227 出土遺物実測図 (62)	315
図199 SB072遺構図	272	図228 出土遺物実測図 (63)	316
図200 SB073・SB074遺構図	273	図229 出土遺物実測図 (64)	317
図201 SB075・SB076遺構図	275	図230 出土遺物実測図 (65)	318
図202 SB077遺構図	276	図231 出土遺物実測図 (66)	319
図203 SB078・SB079遺構図	277	図232 出土遺物実測図 (67)	320
図204 SB080・SB081遺構図	279	図233 出土遺物実測図 (68)	321
図205 SB082遺構図	280	図234 出土遺物実測図 (69)	322
図206 SB083遺構図	282	図235 出土遺物実測図 (70)	323
図207 SB084遺構図	283	図236 出土遺物実測図 (71)	324
図208 SB085遺構図	285	図237 出土遺物実測図 (72)	325
図209 SB086遺構図	286	図238 出土遺物実測図 (73)	326
図210 SB087遺構図	287	図239 出土遺物実測図 (74)	327
図211 SB088遺構図	288	図240 出土遺物実測図 (75)	328
図212 SB089・SB090遺構図	290	図241 出土遺物実測図 (76)	329
図213 SB091・SB092遺構図	291	図242 出土遺物実測図 (77)	330
図214 SB093・SB094遺構図	293	図243 出土遺物実測図 (78)	331
図215 SB095遺構図	295	図244 出土遺物実測図 (79)	332
図216 SB096遺構図	296	図245 出土遺物実測図 (80)	333
図217 SB097遺構図	297	図246 出土遺物実測図 (81)	334
図218 出土遺物実測図 (53)	306	図247 出土遺物実測図 (82)	335
図219 出土遺物実測図 (54)	307	図248 SH001遺構図 (1)	337
図220 出土遺物実測図 (55)	308	図249 SH001遺構図 (2)	338
図221 出土遺物実測図 (56)	309	図250 SH002遺構図	339
図222 出土遺物実測図 (57)	310	図251 SH003遺構図	340
図223 出土遺物実測図 (58)	311	図252 SA001遺構図	341
図224 出土遺物実測図 (59)	312	図253 SA002遺構図	342
図225 出土遺物実測図 (60)	313		

表目次

表1 調査体制表	7	表13 深穴住居跡一覧表 (4)	300
表2 荒尾南遺跡調査一覧	13	表14 深穴住居跡内小穴等一覧表 (1)	300
表3 A地区遺構数量表	17	表15 深穴住居跡内小穴等一覧表 (2)	301
表4 出土遺物点数	19	表16 深穴住居跡内小穴等一覧表 (3)	302
表5 弓生土器・土師器分類別個体数集計	20	表17 深穴住居跡内小穴等一覧表 (4)	303
表6 石器器種別出土点数一覧表	42	表18 深穴住居跡内小穴等一覧表 (5)	304
表7 方形周溝墓等一覧 (1)	127	表19 深穴住居跡内小穴等一覧表 (6)	305
表8 方形周溝墓等一覧 (2)	128	表20 挖立柱建物跡一覧表	336
表9 方形周溝墓等一覧 (3)	129	表21 挖立柱建物跡柱穴一覧表	336
表10 深穴住居跡一覧表 (1)	297	表22 植跡一覧表	341
表11 深穴住居跡一覧表 (2)	298	表23 植跡柱穴一覧表	342
表12 深穴住居跡一覧表 (3)	299		

挿入写真目次

写真1 平成18年度作業風景	4	写真4 平成19年度作業風景	6
写真2 平成18年度現地説明会風景	4	写真5 平成19年度高校生遺跡見学風景	6
写真3 平成18年度作業風景	5	写真6 荒尾南遺跡とその周辺	9

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

荒尾南遺跡は、大垣市荒尾町・桧町に所在する（図1）。今回の発掘調査は、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所（以下「岐阜国道事務所」という。）による東海環状自動車道（養老JCT～大垣西IC）建設に伴い実施した。東海環状自動車道は、東名・名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道などを、環状にネットワーク化することを目的とし、鋭意建設が進められている高速自動車道である。

荒尾南遺跡は、大垣市教育委員会が平成元年度～5年度に実施した市内遺跡詳細分布調査によって確認した、弥生時代～中世に至る遺跡である（大垣市教委1994）。この分布調査では、JR東海道線と国道21号の間で濃密な遺物散布が認められている（大垣市教委1993）。分布調査結果に基づく大垣市遺跡地図の刊行後、平成6年度に県道50号（大垣環状線）建設に伴い、財団法人岐阜県文化財保護センターが発掘調査を実施し、弥生時代前期～古墳時代初頭を中心とした遺構・遺物が確認された。その後も市道建設に伴う試掘調査や発掘調査が大垣市教育委員会によって実施され、弥生時代中期の方形周溝墓や弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡が確認された。

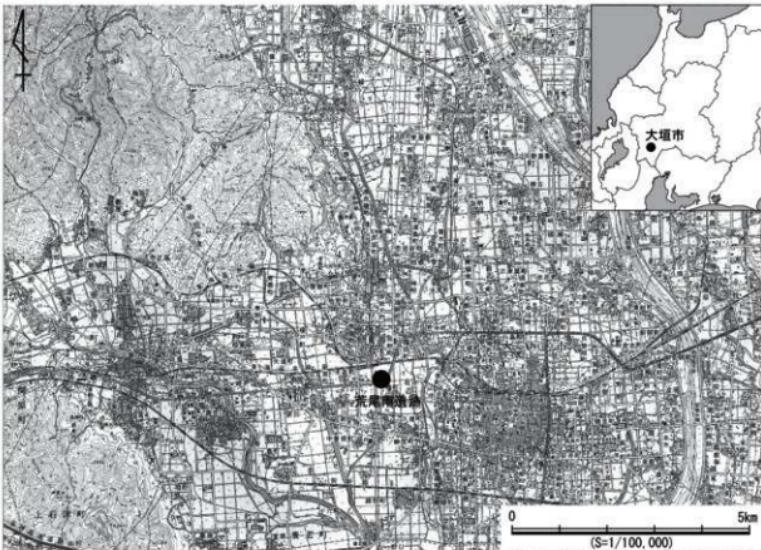


図1 遺跡位置図（国土地理院発行の5万分の1地形図（大垣）を使用した。）

東海環状自動車道が当該地に建設されることになり、平成17年度に岐阜国道事務所と県教育委員会の間で、過去の調査成果に基づき、事業予定地の発掘調査が必要であることを確認し、工事計画による道路敷、調整池堰堤部分など工事により埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲の発掘調査を実施することになった。平成18年度に岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会において、調査成果に基づき調査対象範囲を一部変更することを結論づけた。

荒尾南遺跡は、南北750m、東西250mに広がる細長い遺跡であるため、JR東海道線から国道21号までの範囲のうち、北部をA地区、南部をB地区、国道21号より南側をC地区と区分した。発掘作業は平成18年度から、二次整理作業は平成19年度から実施した。なお、発掘調査は、財団法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター（平成21年度から岐阜県文化財保護センター）が調査主体となって実施した。

本書は、平成18年度から平成20年度に実施した荒尾南遺跡A地区10,569m²分（図2）についての発掘調査成果の記録である。

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘調査においては、用地買収状況及び工事計画の優先度に応じて調査地点を協議し、平成18年度から開始したが、遺跡範囲が東西約250m、南北約750mと広大であるため、遺跡範囲を取り囲むように、世界測地系座標のX=69,400、Y=53,000を原点に1辺100mで区画し（大区画）、北西から南東へアルファベット、A～ACを付した。さらにその内部を5m四方に区画して杭を設置し、調査区画の最小単位（グリッドと呼称）とした。杭には、南北列を西から1～20、東西列を北からA～Tと番号を付し、グリッドの呼称は北西隅の杭番号を用いた。このため、グリッドの名称は、大区画名と杭番号によって「A A 1」のように表示した。また、調査地点の番号は、各年度毎に便宜的に使用した番号であり、調査年度を明示するため、必要に応じて西暦の下二桁を前に付けて、06_1地点のように表示した。

基本層は、過去の調査成果を基に、I層からVI層まで設定し、I層が表土層、II層が耕地整理等に伴う盛土層、III層及びIV層を遺物包含層、V層を遺構基盤層と設定した（第3章第1節参照）。このうちII層～IV層は、微地形の自然堤防上にあたる場所では、土地利用による形状の改変のため確認できない場所があった。なお、A地区においては、II層及びIII層が確認できず、IV層上面で中世以降、V層上面で弥生時代以降の遺構が確認できる。

発掘調査では、先ず重機により調査区全体の表土を掘削した後に、人力でIV層上面の遺構検出、遺構掘削作業を行い、第1調査面とした。第1調査面の調査終了後に、IV層を人力で掘削し、V層上面で遺構検出、遺構掘削作業を行った。遺構の調査記録は、写真撮影及び手測り実測、デジタル測量を行った。検出した遺構は、検出順を原則として、暫定的に調査担当職員ごとの通番を付し、整理作業時に遺構種別番号を設けた。遺物包含層から出土した遺物は、層位・グリッド単位、遺構から出土した遺物は、遺構内を概ね5cm単位の人工層位もしくは、分層した層位毎に取り上げたが、原位置性が高い遺物や、遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、実測あるいは出土位置を測定して



図2 荒尾南遺跡の調査地区位置図（平成20年度時点）

取り上げた。遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「西暦下二桁とAM（遺跡名略号）」「出土場所（遺構番号又はグリッド番号）」「出土層位」「取上日」「備考」を記入し、この記録とともに一次遺物台帳を作成した。遺構番号は、担当職員を区別するアルファベット（A、B、C…）と4桁の数字により表記した（例、A0001）。このため、二次整理作業時には、遺構種別番号を新たに付けた。

なお、出土遺物の洗浄及び注記作業、遺物台帳作成（一次整理作業）は、発掘調査支援業務の一部として現地で行った。

2 調査の経過

現地での調査経過は以下の通りである。

平成18年度 発掘調査面積5,137.6m²

5月22日から30日にかけて、部分的な発掘調査を行った。その結果、弥生時代から近世に至る遺構や遺物を確認し、IV層上面（第1面）とV層上面（第2面）に調査面を設定する必要があることが判明した。調査地点は、既設用水路や農道によって大きく3分割され、さらに道路敷と調整池堰堤部分に分かれたため、06_1地点～06_5地点として調査を行った。

重機による表土掘削は、5月31日から06_4・5地点で開始し、6月6日から06_2地点、6月7日から06_1・3地点で行った。6月12日からは06_2・4・5地点で、6月19日からは06_1・3地点で第1面の遺構検出作業を開始した。第1面では、中世以降と思われる水田遺構を06_1～3地点で検出したが、06_4・5地点では古墳時代中期以降の掘立柱建物跡、土坑墓などを確認した。7月31日に06_2地点の第1面の調査を終え、調査区全体の写真撮影を実施した。8月1日には「タイムスリップ探検隊 一親子で発掘体験ー」を06_1地点で実施し、24組57名が参加した。06_2地点では第2面の遺構検出作業を開始した。第1面の調査は、06_1・3地点で9月12日に、06_4・5地点で10月19日に終了し、それぞれ調査区全体の写真撮影を行った。9月19日に06_1・3地点で第2面の遺構検出作業を開始し、方形周溝墓を検出した。10月23日に三重大学名誉教授八賀晋氏に、10月30日に愛知県埋蔵文化財センター赤塚次郎氏に現地で指導を受けた。11月18日にはA地区およびB地区の一部を公開して現地説明会を開催し、403



写真1 平成18年度作業風景



写真2 平成18年度現地説明会風景

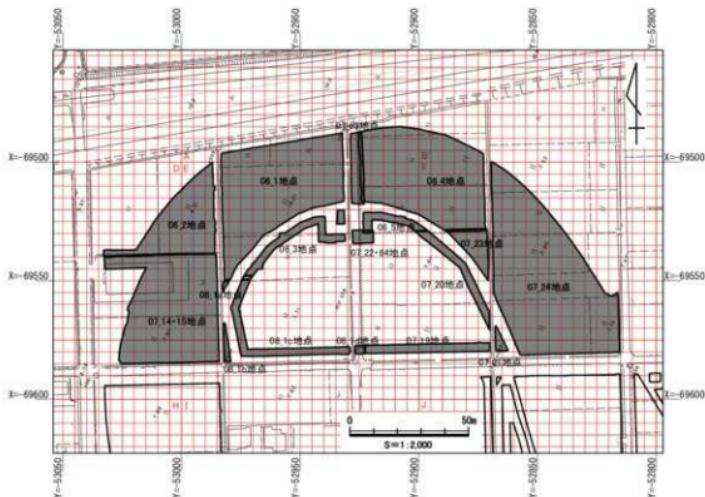


図3 A地区調査地点位置図

名の参加があった。1月15日に愛知県埋蔵文化財センター石黒立人氏に、1月17日に愛知県埋蔵文化財センター赤塚次郎氏に、1月19日に三重大学名誉教授八賀晋氏に現地で指導を受けた。その間の1月16日に県教育委員会社会教育文化課による発掘調査実施状況の確認が行われ、1月23日の調査区全体撮影をもって現地調査を終了した。一次整理作業は3月10日まで実施した。

なお、次の学校や団体の研修や学校生徒による職場体験を受け入れた。

池田町立池田中学校生徒の職場体験、大垣市立宇留生小学校教職員の研修、安八郡中学校社会科研究会の研修、岐阜大学附属中学校生徒の職場体験、大垣市立興文中学校生徒の職場体験、岐阜市立伊奈波中学校生徒の職場体験

平成19年度 発掘調査面積5,166m²

前年度の調査地点の南側にあたる07_14・15地点、07_19～23地点、および06_1・3地点と06_4・5地点の間の農道部分の07_63・64地点の調査を行った。前年度の調査地点の隣接地であり、調査面は2面として実施した。

重機掘削は、07_19～21・23地点を4月23日から開始し、5月8日から第1面の遺構検出作業を実施した。5月14日に07_24地点、5月16日に07_14・15地点においても遺構検出作業を開始



写真3 平成18年度作業風景

した。5月28日に07_19～21・23地点の第1面調査を終了し、調査区全体撮影を実施した後、すぐに第2面包含層掘削作業を開始した。6月4日に現地において一次整理作業を開始した。6月11日から07_19・21地点、6月25日から07_20地点の遺構掘削作業を開始した。7月2日には07_14・15地点においても第1面の水田遺構掘削が始まった。7月16日に07_19～21・23地点の第2面調査区全体の写真撮影を行い、調査を終了した。7月23日から07_24地点の遺構掘削作業を開始した。8月1日に「タイムスリップ探検隊 一親子で発掘体験」を実施し、17組47名の参加があった。また、県教育委員会社会教育文化課による07_19～21・23地点の完了検査が行われた。8月6日には07_24地点南部に水田遺構が残存することを確認し掘削作業を開始した。8月20日に07_14・15地点の第1面調査区全体の写真撮影を行った。8月27日から07_14・15地点の第2面包含層掘削作業を開始した。9月4日に07_24地点の第1面調査区全体の写真撮影を行い、第2面の包含層掘削作業を開始した。9月10日からは第2面遺構検出作業を並行して行い、南西部に竪穴住居、南東部に方形周溝墓群が広がることが判明した。9月17日から07_63地点、9月24日から07_22・64地点において重機による表土掘削作業を実施し、終了した地点から第1面遺構検出作業を行った。10月10日に三重大学名誉教授八賀晋氏に現地で調査指導を受けた。10月15日に07_22・63・64地点の第1面調査区全体の写真撮影を行い、第2面包含層掘削作業を開始した。10月23日に愛知県埋蔵文化財センター赤坂次郎氏に現地で指導を受けた。10月29日から07_24地点で方形周溝墓群の掘削作業を開始した。11月17日にはA地区およびB地区を公開して現地説明会を開催し、404名の参加があった。11月26日に07_22・63・64地点の第2面調査区全体の写真撮影を行い、調査を終了した。11月27日に三重大学名誉教授八賀晋氏に再度現地で指導を受けた。12月3日から07_14・15地点で検出した方形周溝墓群の掘削作業を開始した。12月12日に07_14・15地点、12月13日に07_24地点の第2面調査区全体の写真撮影を行った。12月14日に補足調査等を実施し、現地作業を終了した。1月31日まで現地における一次整理作業を行った。

なお、次の学校や団体の研修や見学、学校生徒による職場体験を受け入れた。

岐阜県立不破高等学校生徒の職場体験、垂井町立不破中学校生徒の職場体験、明宝チャレンジクラブ小学生引率の発掘体験、大垣市中学校社会科研究会（教員8名）の遺跡見学、瑞穂市立南小学校児童の発掘体験、大垣市歴史観光グループの遺跡見学、大垣市立東中学校生徒の職場体験、岐阜県立大垣西高等学校生徒の遺跡見学、鹿児島県埋蔵文化財センター職員の遺跡見学。



写真4 平成19年度作業風景



写真5 平成19年度高校生遺跡見学風景

平成20年度 発掘調査面積269m²

調整池堰堤部分と道路敷にあたる08_1地点の調査を行った。この調査地点は、狭小な調査区もあって4箇所に分割され、a～dの細分をしている。5月19日から表土掘削作業を開始したが、重機による掘削が困難な狭小な部分については、人力で行った。5月21日から第1面遺構検出作業を行ったが、水田遺構と思われるものは北西部の一部で確認ただけであった。5月30日に第1面調査区全体の写真撮影を行った。第2面の調査は6月4日に包含層掘削作業から開始した。順次遺構検出作業に移行し、堅穴住居跡、方形周溝墓などを確認した。7月15日に第2面の調査区全体の写真撮影を行い、7月18日の県教育委員会社会教育文化課による完了検査を受けて、調査を終了した。一次整理作業は、B地区、C地区と合わせて1月31日まで現地で行った。

二次整理作業は、平成19年4月から平成22年3月まで実施した。おおよそ現地調査が終わった翌年度に、二次整理作業を行った。

3 調査体制

発掘調査及び整理作業の体制は、表1のとおりである。平成20年度まで財団法人岐阜県教育文化財団岐阜県文化財保護センターとして業務を行っていたが、平成21年度から県教育機関として岐阜県文化財保護センターが設置された。

表1 調査体制表

職名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
理事長（H20まで）	高木正弘	—	広瀬利和	
副理事長（H20まで）	伊藤克己 高橋宏之 中島正和 岩田重信	伊藤克己（兼理事長職務代理者）	伊藤克己 吉田康雄	
センター所長（H20まで常務理事兼センター所長）	田口久之	田口久之	梅村恒男	後藤満
総務課長（H20まで経営課長）	後藤智	加藤美好	加藤美好	長屋忠司
調査課長（H20まで調査部長）	川部誠	北村厚史	北村厚史	小谷和彌
調査第一担当チーフ（発掘担当、H20まで調査第一課長）	大熊厚志	成瀬正勝	成瀬正勝	早野壽人
調査第二担当チーフ（整理担当、H20まで調査第二課長）	—	谷村和男	谷村和男	谷村和男
発掘調査担当職員 (B・C地区担当職員)	成瀬正勝 吉田 靖 香田明彦 (春日井恒)	石井照久 香田明彦 野々田光則 (春日井恒) (北村昌弘)	(河瀬実浩) (香田明彦) (野々田光則) 春日井恒 (鶴見博史)	(河瀬実浩) 北川真司 野々田光則 春日井恒 鶴見博史
整理担当職員		林直樹	林直樹 藤田英博	藤田英博 三島誠
整理作業員		家岡久美、石原美帆、今尾さち子、今津理、岩田のり子、大西悦子、小川洋子、小木曾美智、小澤真紀子、加藤里佳、亀田勇治、國井悦子、倉持和美、坂井田照子、酒衛成功、清水直美、竹部真理、知本俊美、中島律子、丹羽香、橘本法子、長谷川晶子、長谷保真理、原幸子、林浩美、堀三恵、村瀬俊哉、森山智晴、萩下賀代子、山口久子、山下恭子、山田弘子		

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

荒尾南遺跡が所在する大垣市は、岐阜県南部、木曽川・長良川・揖斐川の三大河川により形成された濃尾平野の西北部に位置する。荒尾南遺跡は、大垣市の西北部、揖斐川が形成した標高6m前後の冲積地に立地する。遺跡の北方には、金生山から南に向かって舌状に延びる牧野台地と通称される低位段丘、北西部には相川によって形成された緩扇状地が位置する。遺跡は、その扇端部から氾濫平野にかけて広がりを見せ、その範囲は東西約250m、南北約750mと広大な範囲に及ぶ。東西方向に走行するJR東海道線と境を接する遺跡の北縁付近が段丘低位面の末端部に相当する。また、遺跡内には、中小の河川が幾筋も推定され¹⁾、結果として網目状になっている。このことから、荒尾南遺跡は、扇状地の微高地部分の旧中州上から旧河道に形成された遺跡といえる。

荒尾南遺跡の東方に位置する桧遺跡も微高地部分の旧中州上に形成された遺跡である。また、遺跡の南縁に位置する桧集落は杭瀬川により形成した自然堤防帶に立地することから、微高地に囲まれた荒尾南遺跡と桧遺跡の間は、排水性の悪い低湿な環境であった可能性がある。

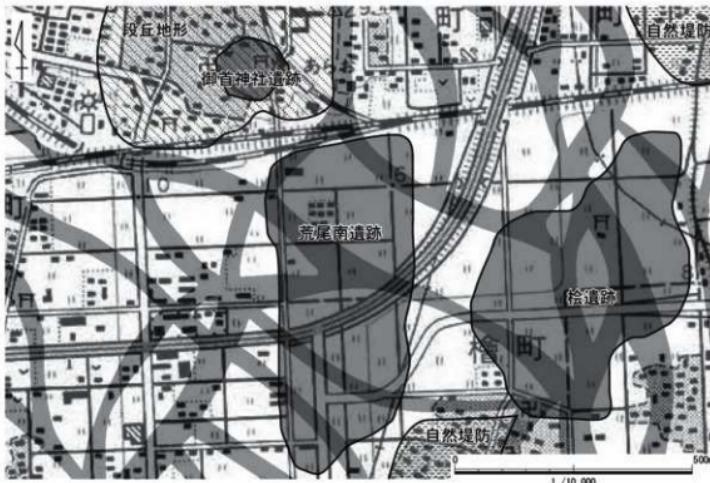


図4 周辺の地形と遺跡の立地（国土地理院発行の2万5千分の1地形図（大垣）を使用した。遺跡の範囲は県域統合型GISぎふ「大垣市都市計画図」をもとに作成した。）

1) 大垣市教育委員会1997「6 荒尾南遺跡・桧遺跡」『大垣市遺跡詳細分布調査報告書一解説編』において、空中写真的解析から網目状の旧河道が推定されており、図4に転記した。



写真6 荒尾南遺跡とその周辺

第2節 歴史的環境

荒尾南遺跡周辺は、大垣市域内でも比較的の遺跡が集中する場所で、特に弥生時代から古代にかけての重要な遺跡が分布している（図5）。

縄文時代の遺跡は少なく、東町田遺跡（24）、矢道B遺跡（30）、御首神社遺跡（35）などで縄文時代中期や晩期の土器が断片的に知られている程度である。また、平成6年度の荒尾南遺跡発掘調査では、自然流路内に堆積した砂礫層から縄文時代晩期の土器が出土した¹⁾。なお、御首神社遺跡東方に当たる場所で、昭和63年度に宇留生地区センター建設に伴い発掘調査が行われたが、遺構・遺物は確認されなかつた²⁾。

弥生時代になると、この地域では遺跡数が増加し、主として揖斐川中下流域の標高15m以下の沖積

1) 財團法人岐阜県文化財保護センター1998『荒尾南遺跡』によると、流路内の砂礫層からは、縄文時代晩期後半から弥生時代中期の遺物が混在した状態で出土したとしている。平成19年度のC地区発掘調査で確認した。同じ自然流路内の砂礫層においても、遺物の出土傾向は同様であった。

2) 大垣市教育委員会1990『御首遺跡』『大垣市埋蔵文化財調査概要 昭和63年度』による。この調査では、遺跡名を御首遺跡としており、現在の御首神社遺跡の範囲からは外れている。なお、御首神社周辺で採集された、縄文時代晩期の土器を含む遺物が紹介されている。

地及びその中の微高地や周辺の扇状地に分布する。その遺跡数は大垣市だけでも30遺跡を越え、県内でも屈指の遺跡が集中する地域である。弥生時代前期の遺物は平成6年度荒尾南遺跡発掘調査で比較的まとまって出土している¹⁾が、これまでに確認された遺構や遺物の多くは弥生時代中期～後期に属する。弥生時代中期以降の遺跡は、片原木遺跡(18)、一本松遺跡(19)、東町田遺跡(24)、熊野遺跡(34)、南一色遺跡(44)、十六遺跡(53)などが知られる。当遺跡の北端に連なる段丘上に立地する東町田遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓や環濠と考えられる溝、弥生時代後期の堅穴住居跡、弥生時代後期末～古墳時代初頭の前方後方形周溝墓が確認されている（大垣市教委2004）。さらに北方に位置する一本松遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓が確認されている（大垣市教委2001）。また、荒尾南遺跡から約2.5km南西に位置する十六遺跡では「十六銅鐸」と呼ばれる、菱環鉢式の銅鐸が出土している。このように、弥生時代中期では、墓域は確認されているものの、居住域は明確でなく、東町田遺跡で検出した環濠内側に居住域の存在が想定されているだけである²⁾。弥生時代後期から終末期及び古墳時代初頭では、堅穴住居跡が東町田遺跡や荒尾南遺跡³⁾で確認され、集落が展開していくことがわかる。

古墳時代前期には、西方の扇状地や星飯町の台地部及びその周辺に、粉糠山古墳(1)、矢道長塚古墳、星坂大塚古墳(13)など、大型の前方後方墳や前方後円墳が集中し、この地域に一大勢力が存在していたことをうかがわせる。また、古墳時代後期を迎えると、金生山やその山麓に100基を越す群集墳が形成されている。この時期の集落跡では、東町田遺跡で堅穴住居跡と掘立柱建物跡が確認されている（大垣市教委2004）。

奈良時代以降、現在の不破郡垂井町に国衙が置かれたため、西濃地域は古代美濃国の政治的中枢となった。8世紀には不破郡閼ヶ原町に不破関が、大垣市に国分僧寺、垂井町に国分尼寺が営まれた。しかし、前時代と比較して荒尾南遺跡周辺では、奈良時代から平安時代にかけて遺跡数の減少が見られる。そうした中でも、大垣市教育委員会が行った発掘調査では、この時代の遺構や遺物が発見されている。興福寺遺跡(37)で8世紀末と9世紀初頭の須恵器が出土⁴⁾、一本松遺跡で8世紀代の堅穴住居跡が検出され（大垣市教委1994・2001）、桧遺跡(47)で10世紀後半の掘立柱建物跡が検出されると共に、300点以上の縦釉陶器片や、鍛冶関連遺物が出土している（大垣市教委1998a）。

中世になると、再び遺跡数は増加するが、鎌倉時代の遺構として興福寺遺跡、曾根八千町遺跡で12世紀後半～13世紀代の掘立柱建物跡（大垣市教委1990・1997）が、桧遺跡では断面V字形の溝や井戸跡、約40点の墨書き施された山茶碗が出土している（大垣市教委1998a）。また、室町時代では、曾根城跡で城館に伴う石列や区画溝（大垣市教委1991）、桧遺跡でピット列と掘立柱建物跡を確認している（大垣市教委1998a）。

1) 前掲注1)と同じ。

2) 報告書を執筆した鈴木氏は、内側の環濠内部に明確な堅穴住居跡を検出していないが、土坑の存在や遺物量の多さから居住域の存在を想定している（大垣市教委2004）。

3) 大垣市教育委員会が調査した、市道桧高屋線建設に伴う発掘調査で、堅穴住居跡1軒を検出している（大垣市教委2008）。

4) 大垣市教育委員会1990「黒平遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要 昭和63年度』によるが、現在黒平遺跡は興福寺遺跡の範囲に含まれている。この調査では奈良時代後半期の掘立柱建物跡が確認されている。



図5 周辺遺跡位置図（国土地理院発行の2万5千分の1地形図（大堤）を使用した。遺跡の位置や範囲は、大垣市教委1994をもとに転記した。なお、枝番号は古墳の号数を示す。）

- 1 花岡山古墳
- 2 社宮司塚跡
- 3 堀ヶ谷古墳群
- 4 東山田古墳群
- 5 西山田古墳
- 6 東山田古墳
- 7 村北古墳群
- 8 村北遺跡
- 9 花岡山古墳群
- 10 金生山古墳群
- 11 粉糠山古墳
- 12 西町田遺跡
- 13 猛鷹大塚古墳
- 14 東根遺跡
- 15 大塚古墳群
- 16 車塚古墳
- 17 児守古墳
- 18 片原木遺跡
- 19 一本松遺跡
- 20 茶屋星雲敷跡
- 21 電神保古墳
- 22 同岡木陣跡
- 23 素坂畠田遺跡
- 24 東町田古墳
- 25 東町田古墳群
- 26 西牧野遺跡
- 27 荒尾古墳群
- 28 榆木B遺跡
- 29 矢道地蔵堂遺跡
- 30 矢道B遺跡
- 31 西瀬古墳
- 32 八幡前遺跡
- 33 素坂新田遺跡
- 34 猪野遺跡
- 35 菅原神社遺跡
- 36 流尻城跡
- 37 舞鶴地蔵堂遺跡
- 38 舞鶴地村北遺跡
- 39 舞鶴地向田遺跡
- 40 保越遺跡
- 41 河間遺跡
- 42 河間村内遺跡
- 43 笠縫城跡
- 44 南一色遺跡
- 45 福田遺跡
- 46 福田城跡推定地
- 47 桧遺跡
- 48 木呂古墳跡
- 49 荒川遺跡
- 50 長松城跡
- 51 荒川南遺跡
- 52 正円寺經塚
- 53 十六遺跡
- 54 若森城跡

第3節 過去の調査

荒尾南遺跡は、大垣市教育委員会による平成2年度市内遺跡詳細分布調査によって遺物散布が確認されたが¹⁾、その範囲が示されたのは『大垣市遺跡地図』刊行による。その間に、財團法人岐阜県文化財保護センターや大垣市教育委員会により発掘調査や試掘調査などが行われ（表2、図6）、遺跡範囲が徐々に明らかとなった。これらの調査は部分的なものであったが、調査結果の集約によって、土地利用の変遷や遺跡の構造を、ある程度知ることが可能となり、時期ごとにその概要がまとめられている（大垣市教委2008）。ここでは、各発掘調査の内容について概述する。

①大垣環状線建設に伴う発掘調査（図6：B）

平成6年度に財團法人岐阜県文化財保護センターが遺跡の南西部2,560m²の調査を実施した。弥生時代後期の方形周溝墓を4基検出し、そのうちの1基の周溝から3艘の船を線刻で表現した蓋が出土した。描かれた船のうち82本の櫂をもつ大型船の表現は、東海地域に類例がなく、全国的にも大きな注目を浴びた。また、方形周溝墓群の北側には、自然流路と思われる落ち込みを確認し、その埋土下部の砂礫層から縄文時代晚期から弥生時代中期の土器がまとまって出土した。また、石製品製作に関わると思われる擦り切り痕跡が残る石材（緑色凝灰岩）も2点出土した。自然流路上部の粘質土層や包含層からは、弥生時代後期から古墳時代前期の多量の土器や木製品が出土した。なお、自然流路内から出土した杭の折れや断壊した状態から、古代以降と弥生時代中期以前の2度の地震が発生したことが想定されている。昆虫遺体の分析からは、縄文時代晚期頃はヨシ等が繁茂する、人為的影響があり見られない湿地草原的な環境、弥生時代中期中葉～後葉は近辺に大きな集落が存在する縁辺地帯で、多量の生活廃棄物が捨てられたこと、弥生時代後期から古墳時代前期は、近くに止水の環境が存在、古墳時代中期頃は乾燥化し乾田型水田が存在、古墳時代後期は再び湿地化してヨシが繁茂し、人為的影響が希薄化、古代は草原の環境で水田も存在していたことなど、周囲の環境変化を推定している（（財）岐阜県文化財保護センター1998）。

②交差点改良に伴う発掘調査（図6：D）

平成6年度に大垣市教育委員会により遺跡の中央部100m²の調査が実施された（大垣市教委2001）。明確な遺構は検出されていないが、砂礫層の存在やそこから出土した縄文時代晚期から弥生時代中期の土器により、自然流路の一部の可能性が考えらる。なお、市道建設に伴う試掘調査（図6：C）においても、砂礫層が調査坑下部で確認されている。しかし、砂礫層中から遺物が出土する調査坑と遺物が伴わない調査坑があり、砂礫層に堆積時期の違いが予想された。

③市道高屋松線建設に伴う発掘調査（図6：G・H）

平成8年度に大垣市教育委員会により遺跡の南部3,000m²の調査が実施され、弥生時代中期から古墳時代の遺物を含み、南北方向に走る大溝が確認された。大溝は、幅約10m、深さ約2mを越え、運河的機能も想定されている。溝内からは、木製の杖の飾りや木製農具の未成品などが出土した。また、溝の東側では、弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる竪穴住居跡が1軒、多数の土坑や溝が確

1) 大垣市教育委員会1993「4 考古学的調査 (2) 平成2年度の調査概要」『岐阜県大垣市 遺跡詳細分布調査概要報告書 (II)』では、荒尾南散布地として紹介され、遺物の出土量から弥生時代後期～古墳時代前期を中心とした遺跡とされた。

表2 荒尾南遺跡調査一覧（大垣市教委2008を参照して作成）

記号	調査主体	調査年度	調査面積	調査原因	文献	備考
A	大垣市教育委員会	平成2年度	—	市内遺跡詳細分布調査	大垣市教委1993	遺物散布の確認
B	(財)岐阜県文化財保護センター	平成6年度	2,560m ²	大垣環状線建設	(財)岐阜県文化財保護センター1998	
C	大垣市教育委員会	平成6年度	20m ²	市道建設	大垣市教委2001	試掘調査
D	大垣市教育委員会	平成6年度	100m ²	交差点改良	大垣市教委2001	
E	大垣市教育委員会	平成7年度	50m ²	下水緑坑立会	大垣市教委1997	
F	大垣市教育委員会	平成7年度	80m ²	市道高屋松線建設	大垣市教委1998a	G・Hの試掘調査
G	大垣市教育委員会	平成8年度	3,000m ²	市道高屋松線建設	大垣市教委2008	
H	大垣市教育委員会	平成10年度	1,000m ²	市道高屋松線建設	大垣市教委2003	

認されている（大垣市教委2008）。

さらに、遺跡の南部1,000m²の調査が平成10年度に実施され、上層面では古墳時代後期以降の遺物を伴う遺構、下層面では弥生時代中期末の方形周溝墓5基、弥生時代末から古墳時代初頭の土坑が確認され、土坑内からは人面を線刻で表現した古墳時代前期の土器が出土した。

以上の調査成果から、遺跡の西側には自然流路が南流し、そこには縄文時代晚期から弥生時代中期の遺物を多く包含する砂疊層が堆積している。遺跡北側の遺物散布状況と遺跡南側の周溝墓や堅穴住居跡を確認したことにより、遺構の空白地帯をはさみながらも、弥生時代後期～古墳時代初頭に集落・墓地域が広範囲に及ぶことが想定できるようになった。また、遺跡周辺部の狭い範囲の調査であるものの、儀仗や線刻絵画土器など類例の少ない資料や県内有数の銅鏡出土数など、美濃地域の弥生時代の拠点集落として注目を集めようになった。

これらの調査場所は、便宜的に呼称するB地区及びC地区に該当する。本書で報告するA地区は、濃密な遺物散布が確認された範囲の北端部から、さらに北側に広がる場所である。



図6 過去の調査位置図 (S=1/5,000、大垣市教委2008を参照して作成)

第3章 調査の成果

第1節 現地形の状況

A地区内では、西部の06_2地点の標高が8.31mと最も高く、06_1地点が8.21m、07_24地点が7.50mと、東に向かうに従って標高は低くなる。特に南北方向の農道を境とする06_1地点と06_4地点の比高差は約0.46mあり、大きな段差を形成しているが、この段差は昭和30年代の耕地整理により削平された結果と思われる。なお、08_1地点の標高は7.71mと南北方向においても段差が生じている。調査前の標高がもっとも低い場所は、07_24地点の南東部7.13mである。

発掘調査による遺構検出面から推定する旧地形では、北西から南東に向かって緩やかに傾斜する地形であったものが、耕地整理時の段切り造成によって、比高差を持った水田として造成されたため、部分的に盛土と削平が行われ、その影響により遺構の遺存状態に差が生じたものと思われる。これはB地区においても同様である。

このため06_1・3地点や07_24地点では、現代の水田耕作土と床土を重機で除去した後に、中世以降の耕作に伴う溝や水田畦畔を検出した。一方、06_4・5地点などでは水田耕作土・床土除去後に、遺物を多量に含む礫混じりの薄い堆積層があり、それをさらに除去したIV層上面で、古墳時代の竪穴住居や土坑などの遺構を検出した。礫混じりの薄い堆積層は、08_1地点でも確認でき、耕地整理に伴うもの（Ic層）と判断した。水田遺構を検出したのは06_1地点、06_2地点、06_3地点、07_14・15地点、07_24地点であるが、他の地点では水田に伴う溝の底面と思われる遺構を認めたのみで、明確な畦畔や耕作土は検出できなかった。このような調査地点による、第1調査面での水田遺構の残存状態の差は、昭和30年代の耕地整理に伴う造成の影響によるものと思われる。

第2節 基本層序

平成6年度から平成10年度にかけて、(財)岐阜県文化財保護センターや大垣市教育委員会が実施した発掘調査や試掘調査で確認された層序及び各土層から出土した遺物、遺構の時期を検討し、今回の調査を行うに当たって荒尾南跡全体の基本層序を検討した。遺跡全体で確認できるのは弥生時代から古墳時代の遺物包含層（IV層）と遺構基盤層（V層）で、この2層を鍵として遺跡全体の状況を検討し、以下のように基本層序を設定した。B地区及びC地区は、この層序と基本的に対応するものの、今回報告するA地区では、II層及びIII層の堆積を確認していない。なお、この遺跡が立地する地形を形成する土層は、基本的に河川による水成堆積によるもので、上部は耕地整理等の造成によるものも含まれる。

I層 耕地整理時に形成された現代の土層で、a層（水田等耕作土）、b層（水田床土）c層（耕地整理に伴う盛土）に細別できる。

II層 鉄分沈着が見られる黒褐色ないしオリーブ黒色を呈する土層である。A地区では確認していないが、C地区の調査ではブロック状の土塊を一部含むことから、崖地を平坦化するための客土

の可能性がある。

- III層 灰色シルト層で、A地区では確認していない。C地区では、古代以降の遺物包含層となる。
- IV層 黄灰色～黒褐色を呈する粘質～砂質土層である¹⁾。主に弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物を包含し、この上面では、西半部で水田遺構を、東半部で古墳時代中期以降の遺構を確認した。
- V層 黄灰色～灰色を呈する粘質～砂質土層である。この土層の上面では、主に弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構を確認した。なお、V層中からは、遺物が出土していない。
- VI層 旧河道に伴う砂礫層である。

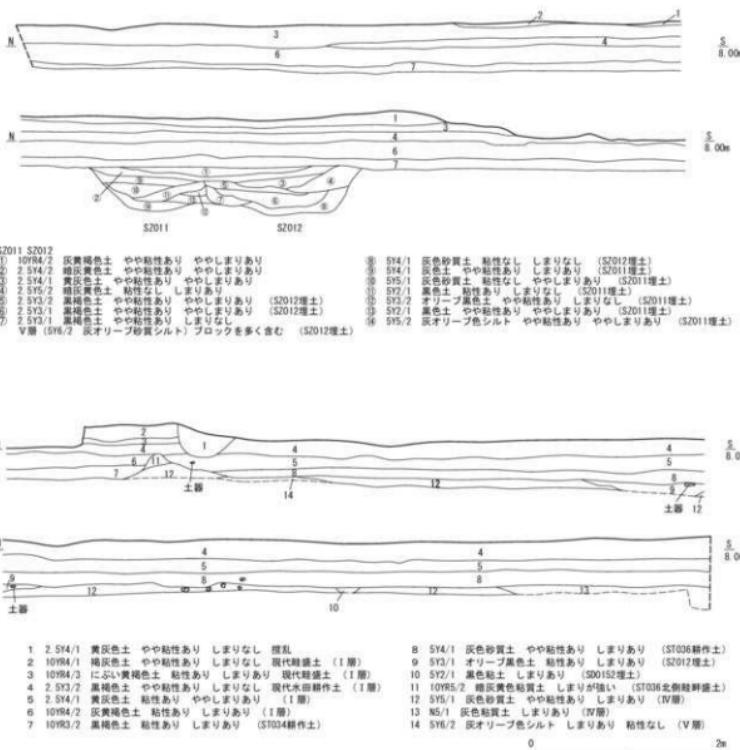


図7 06-1地点東壁土層図

1) 黄灰色となるのは、A地区西部の第1調査面で検出した水田遺構の影響によるものと思われ、他の多くの調査地点では黒褐色となる。また、砂質土となる範囲も西部の一部であり、多くは粘質土となる。

第3節 遺構の概要

調査では、IV層上面とV層上面を遺構検出面とし、縄文時代晚期から中近世に及ぶ竪穴住居跡や方形周溝墓、土坑、溝跡、水田跡などを検出した。IV層上面では、中近世の水田跡や古墳時代中期以降の遺構を確認しているが、中近世の水田跡を確認した地点では、結果的に古墳時代中期から古代の遺構もV層上面でしか確認できていない。V層上面では、主に弥生時代から古墳時代前期の遺構を確認した。なお、06_1・2・3地点では、IV層上面の水田遺構を検出した段階で、この水田遺構よりも新しい溝状遺構などを確認した部分がある。このため、全体図を別に作成してIV層上面①とし、他の地点も含めてIV層上面で検出した遺構の全体図をIV層上面②とした。また、07_19～23・65地点では、V層上面で検出した、弥生時代末から古墳時代初頭の竪穴住居跡などの遺構を主とする全体図をV層上面①とし、弥生時代中期の方形周溝墓を主とする図を、他地点の全体図と合わせてV層上面②とした。

今回報告する、平成18～20年度のA地区発掘調査で検出した遺構の内訳は、周溝墓48基（弥生時代中期、弥生時代末～古墳時代初頭）、土坑墓1基（古墳時代中期）、竪穴住居跡97軒（縄文時代晚期、弥生時代末～古墳時代初頭）、掘立柱建物跡3棟、水田跡51区画（中近世）である。そのほかに溝状遺構12条、土坑1,556基を検出した（表3）。なお、各遺構の所見は、調査担当者の遺構所見をもとに記述した。また、本書における時期区分は、中心となる弥生時代から古墳時代について、既存の土器編年を参考にI期～X期を設定し、一部細分した。詳細は次節で述べる。

墓（略号SZ）

遺体を埋葬した穴であるが、この認定は人骨が遺存していない場合非常に困難である。ただし、方形周溝墓のように、方形や長方形に土地を区画するように溝を配置した遺構は、その区画内部に住居跡が想定できるような柱穴配置や竪穴掘形がない限り、埋葬施設である墓坑を確認できていなくても、原則として方形周溝墓とした。なお、周溝墓には円形のものも1基のみ確認しているが、これは列状に並んだ方形周溝墓群の中に配置されたように確認できたことから、周溝墓と判断したものである。

また、土坑墓の可能性を考えた遺構は、完形もしくはそれに近い形状の土器が土坑内から出土したものや、木棺もしくはその痕跡を確認したもの、こうした土坑と類似した形態であるものや、これらと群をなす土坑について、墓坑と判断した。他にも遺物出土状況から、墓坑の可能性が考えられるものがあるが、それらは土坑に含めた。

竪穴住居跡（略号SB）

遺構の重複や後世の削平により、竪穴住居跡との認定は困難な場合があるが、掘形、柱穴、壁溝、炉跡、貼り床、外周溝などの竪穴住居の構成要素のうち、一部の確認に留まつても竪穴住居跡の可能性があるものとして報告した。なお、床面で検出した柱穴や小穴、土坑は略号をPとしたが、小穴や土坑は竪穴住居跡に必ずしも伴わない可能性がある。

掘立柱建物跡（略号SH）

向かい合う2辺以上が確認できるように、規則的に並んだ複数の柱穴によって構成される遺構を掘立柱建物跡とした。なお、確認した柱穴の略号はPとした。

柵跡（略号SA）

直線的あるいは、屈曲して並んだ複数の柱穴によって構成される遺構を柵とした。なお、確認した

表3 A地区遺構数量表

時代		荒尾南遺跡 大区分 小区分		SZ	SB	SH	SA	SD		SK		SP	ST SX	SE
縄文 時代	晩期	縄文			1					1				
弥生 時代	前期	I期							1					
		II期			1					2				
		III期	1	3							3			
			2	4	9							30		
			3		6	1								
		IV期	1		1				5	24				
			2	6	12						5			
			3											
	後期	V期				1	13			1				
		2				2					3			
古墳 時代		3				2		2				808	62	
		VI期(廻間 I)		2	3	1	33			12		74		
		3					4					15		
		VII期 (廻間 I～II)		1		8						11	14	
		2				5	12		1	7				
		3										2		
	前期	VIII期(廻間 II～III)				1								
		IX期(松河戸)				1						2		
	中期	X期(字田)										1		
	後期	古墳時代後期					1							
奈良時代	古代								6		2			6
平安時代										3				
鎌倉時代～室町時代	中世										1	5	4	56
安土桃山時代～江戸時代	近世								240		213			
時期確定困難	時期確定困難		2	13		1		29		440		1,556	66	56
合計			49	97	3	2		412						6

柱穴の略号はPとした。

溝状遺構（略号SD）

上端の短軸（幅）に対し長軸（長さ）が5倍以上の長さをとる遺構を溝状遺構とした。ただし、5倍以上の長さがない場合でも、他の溝状遺構との関係から、溝状遺構の痕跡が土坑状の穴となって確認できたものと判断できた場合は、溝状遺構に含めた。

土坑（略号SK）

地面に掘りくぼめられた穴のうち、明確に性格付けができるものを土坑とした。遺物の出土状況や形状から墓坑、廐棄土坑といった可能性が考えられるものも含む。

単独柱穴（略号SP）

建物に伴う柱穴と同様の形状、又は柱痕跡や柱根が残存しているものの、規則的な配置が確認できないもの。

水田跡（略号ST）

畦畔状の遺構により区画された範囲を水田跡とし、区画毎に番号を付した。

井戸跡（略号SE）

深い円筒状の土坑を井戸跡とした。遺構の内側に曲物を利用した井戸枠を設けているものもある。

焼土・炉跡（略号SF）

被熱した痕跡のある遺構で、建物跡に伴わないもの。

不明遺構（略号SX）

水田の区画溝の可能性のあるものの断定できない落ち込み等の性格不明の遺構を示す。

各遺構の基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により、一覧表の項目はやや異なるが、共通する基本項目については次のとおりである。

遺構の検出層位 基本層序と検出面で表し、V層上面で検出した遺構の場合「V上」、V層上面で検出したが、その上に堆積していたのがII層だった場合「II基」（II層底面検出）などと表記した。

遺構埋土 分層した土層数と、堆積状況を次のように表示した。

A—埋土が単一層 B—ほぼ水平な堆積 C—中央がU字状に凹むような堆積 D—凹みが片寄つた堆積 E—ブロック状に土層が入り込む堆積 F—最上層が掘り込んだ状態となるもの G—柱痕跡状の土層があるもの H—その他

平面形 堪穴住居や土坑などは、短軸と長軸の長さの比から円形・正方形（1:1.2未満）、楕円形・長方形（1:1.2以上）、長楕円形（1:1.5以上）とし、形状があまり整っていない場合は不整円形、不整長方形などとした。他に調査区外に続く、あるいは他の遺構に削平された形状が明確でないものについては不明、不定形などとした。方形周溝墓については、次のようにアルファベットと数字を組み合わせて一覧表に掲載した。

A—方形に溝が巡る B—4条の溝状遺構で方形に区画する（四隅が途切れる） C—辺の一部が途切れる D—不明 1—正方形 2—長方形 3—不明 4—円形

断面形 堪穴住居跡や土坑、溝など断面の形状（A～C）と、上面での短軸長と深さとの比（1～6）、底面（a～d）と壁面（1～5）の状況の4つの文字で表示した。

A 丸い

B 平ら

C 尖る

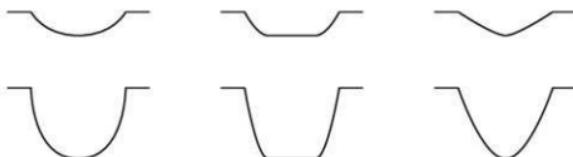


図8 遺構断面の形状模式図

深さ／上面での短軸長 1—0.3未満 2—0.3～0.7未満 3—0.7～1.1未満 4—1.1～1.5未満
5—1.5以上 6—不明

底面の状況 a—丸いか平ら b—底が2段になる（小穴含む） c—底面が凸凹 d—不明

壁面の状況 1—壁が開く 2—壁が直立に近い 3—壁面に段がある 4—袋状 5—不明

遺構の規模 単位はmであるが、()で示したものは、全形が確認できなかったため、残存長を測ったものである。

遺構の切り合い 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 繩文土器：J 弥生土器・土師器：H 須恵器：P 山茶碗・陶器類：T 石器類：S

木製品：W 金属製品：I

第4節 遺物の概要

1 種類と数量

平成18年度から平成20年度のA地区の調査で出土した遺物は、弥生時代から古墳時代のものを中心として、縄文時代や古代以降の土器類、石器類、木製品、金属器などがある。土器類は、縄文時代晩期後半の凸帯文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、中世陶磁器類がある。弥生土器は、美濃地域で最も古い段階の前期土器から、弥生時代末期の土器まで、量的な増減はあるながらも全時期に渡って出土した。弥生時代末期から古墳時代初頭の過渡的時期の土器については、時代区分に諸説があるため、本報告では弥生土器か土師器かの明確な区分は行っていない。このため数量などは、弥生土器と土師器を合わせて表示している。石器類や木製品、金属器など、それ自体で時期が確定できない遺物については、伴出した土器や出土層位などによって所属時期を判断している。これら各種遺物の出土点数は、表4のとおりである。

表4 出土遺物点数

	縄文 土器	弥生土器 ・土師器	須恵器	灰釉 陶器	山茶碗 ・陶磁器類	土製品	石器・ 石製品	金属 製品	木製品	合計
接合前 点数	108	504,016	2,449	320	8,195	5	183	260	355	515,891

2 時期区分

本書における時期区分は、大きく縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世とし（表3）、出土遺物・検出構造の多い弥生時代から古墳時代にかけては、次項で既存の研究成果を参考にI期からX期に細別時期を設定し、この時期の弥生土器と土師器の器種分類を行った。また、石器の器種分類についても後述する。

なお、出土した遺物について、以下の方々から土器様式名、産地、器種、時期などの指導を得た。

弥生土器・土師器：赤塚次郎、石黒立人、深澤芳樹 須恵器：渡邊博人

中世陶磁器：藤澤良祐 常滑焼：中野晴久 木製品：山田昌久

3 弥生時代から古墳時代の土器

ここでは、新たに分類を設定した弥生土器・土師器について説明する。平成18年度から行ったA地区的発掘調査では、縄文時代晩期～近世に至る時期の資料が認められるが、弥生時代～古墳時代前半期に相当する資料が97%を占め、遺跡の中心時期にあたる。質、量共に豊富な内容を持つこの土器群については、当地域の特色を示すものと考え、以下のように器種分類を行った。なお、表5に分類毎の口縁部残存率による個体数を集計した。弥生時代中期～古墳時代前期以外の時期に相当する土器は、その出土数が少ないため細分せず、通有の名称を用いた。

弥生時代～古墳時代前期に相当する土器を既存の土器編年を参考にしてI期～X期に区分し、さらには出土量も多く、良好な資料が得られたIII期～VII期はそれぞれ3小期に細分した。荒尾南遺跡の中心時期は弥生時代～古墳時代前期の長期間に及び、これらの土器資料が遺構に伴うかの有無は別して、

表5 弥生土器・土器類分類別個体数集計

時期区分	総計	壺											小計
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
I	1												1
	4,6												4,6
II	15	2		1									1
	28,8	3,5		1,2									2,0
III	12	9	1										2
	46,1	33,9	4,0										12
IV	193	28	5	10	2	2	1	1	1				1
	494,8	105,2	16,2	22,1	2,5	7,0	11,0	1,0	1,0				51
V～VI	2,274	242	23	59	23	2	40	22	58	15	22	13	15
	4,841,8	572,6	89,4	141,7	60,6	3,0	138,6	55,0	71,8	42,8	55,2	22,0	534
VII・IX	19						1						4
	100,4						1,0						21,8
X	65												0
	153,4												0,0
合計	2,579	281	29	70	25	5	41	23	59	15	22	13	24
	5,669,9	715,2	109,6	165,0	63,1	11,0	149,6	56,0	72,8	42,8	55,2	22,0	607
													1,525,8

時期区分	A	B	C	D	E	F	G	他	小計	鉢						小計	
										A	B	C	D	E	F	G	
I									0							0	
									0,0							0,0	
II	2	6	2						10							0	
	2,0	13,7	3,6						19,3							0,0	
III									0							0	
									0,0							0,0	
IV	62	59	9	1					1	132	1	3				4	
	155,0	119,4	13,8	9,7					1,0	298,9	12,0	7,5				19,5	
V～VI	378	92	201	36	134	125	6	9	981	168	11	8	2	2	2	207	
	621,1	293,2	383,5	88,0	267,3	225,9	15,8	10,9	1,815,7	321	2	27,2	42,0	15,7	8,2	1,8	41,4
VII・IX									1	1						7	
									1,1	1,1						64,9	
X									59	59						2	
									93,6	93,6						24,0	
合計	442	157	212	37	134	125	6	70	1,183	169	14	8	2	2	2	220	
	778,1	336,3	400,9	97,7	267,3	225,9	15,8	106,6	2,228,6	333,2	34,7	42,0	15,7	8,2	1,8	0,0	41,4
																569,1	

時期区分	手縫形	壺											小計	器台			小計	手捏	土製品	壺	その他
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	他	A	B	C							
I												0				0					
												0,0				0,0					
II												0				0				1	
												0,0				0,0				2,8	
III												0				0					
												0,0				0,0					
IV	4	1										5				0				1	
	5,5	1,8										7,3				0				2,1	
V～VI	2	4	122	103	92	35	12	16	2	6	392	20	103	7	130	23	2	3			
	3,2	10,8	207,6	222,9	162,1	81,6	32,6	34,5	6,7	22,6	781,4	61,9	319,9	37,3	419,1	75,1	3,5	4,5			
VII・IX						1					4	5	1		1						
						2,3					7,7	10,0	1,6		1,6						
X											2	2			0			2			
											11,8	11,8			0,0			24,0			
合計	2	8	123	103	92	0	36	12	16	2	12	404	21	103	7	131	23	2	5		
	3,2	16,3	209,4	222,9	162,1	0,0	83,9	32,6	34,5	6,7	42,1	810,5	63,5	319,9	37,3	420,7	75,1	3,5	24,0		

(上段-資料数、下段-口縁部残存率: 口縁部残存率はX/12の数値を示す。)

遺跡内の長期にわたる土地利用が継続したことを見ている。結果として、各時期の遺構が累重して遺構の重複が著しく、現状で把握している遺構はその最終形であり、以前の遺構は損壊されている可能性が高い。そこで調査で検出した遺構出土の土器資料も、複数時期にわたる時期の土器出土資料があった場合、出来るだけその資料化に努めた。また、調査で検出した損壊を受けた遺構を復元するために遺構に伴わない土器資料も出来るだけ資料化に努めた。今回の時期区分及び分類は、遺構のみならず包含層も含めて調査区全体の時期別分布の粗密を明らかにすることを課題にした。荒尾南遺跡の集落構造及び変遷を解明するために、時期別分布を把握することは必要不可欠な情報で、その分布を

統計的な手法（口縁部計測法）を用いて明らかとすることを試行する。そのため、今回の細分はできる限り型式の抽出を念頭においていたが、口縁部計測法を用いる制約上、口縁部形状中心の形状分類であることは否めない。ここで行った分類が型式内容を十分説明したものではないことをここで断つておく。また、併行して整理作業を行っているB地区出土土器も含めて分類した。器種分類を示した図9～図18の土器実測図の右下に「●」印のあるものはB地区出土資料である。

I期 弥生時代前期

分類可能な出土量がないので一括する。平成6年度センター調査や大垣市教委調査によって、当該期の資料が得られていたが、A地区では出土量はきわめて少ない。多くが口縁部が大きく外反し、頸部に多条化した沈線が認められる遠賀川系土器の太頸壺で、甕は認めらなかつた。

II期 弥生時代中期前葉

壺 口縁部形状及び条痕の有無によってA～Cに分類した。

壺A 口縁部が大きく外反する太頸壺。器形的に差異を見出すほどの資料数は認められない。端部の押圧手法によって2分した。

- 1 端部上下端にユビによる押圧が認められる。端部に貝殻による直線文・波状文が充填される。
- 2 端部にキザミが認められるもの。上端のみ、下端のみ、上下端両方にキザミがあるものの3種の手法がある。端部文様、内面文様の有無など資料差がある。

壺B 条痕のある壺。断片的資料ばかりのため、深鉢形を含んでいる可能性がある。

壺C その他、上記分類に含まれないもの。

甕 口縁部形状及び、調整手法によってA～Dに分類した。

甕A 口縁部が短く外反し、調整がハケ調整のもの。

甕B A類と同様だが、口縁部がA類より長く外反する。外面はハケ調整。端部にキザミと押圧があり、内面には波状文が施文される。

甕C B類と器形的な特徴は同じだが、外面に二枚貝による条痕調整を残すもの。出土量はごく少量。

甕D その他、上記分類に含まれないもの。

III期 弥生時代中期中葉

壺 口縁部形状及び文様構成によってAとBに分類した。

壺A 椛描文を施文する細頸壺。口縁部形状から1～3に細分した。

- 1 口縁端部が外反したままで終わるもの。端部に波状文、胴部に直線文、縦位弧線文を施文する。
- 2 口縁端部がわずかに内湾するもの。端部に波状文やキザミ、胴部に直線文、縦位弧線文、貼付文がみられる。
- 3 口縁端部が強く屈曲して直立するもの。端部は櫛や貝殻による刺突もしくは無文、胴部は直線文を施文する。

壺B 壺A以外の壺。

甕 条痕文系の甕。

台形土器 上面が平坦で側面が鏽状を呈し、脚がつくもの。

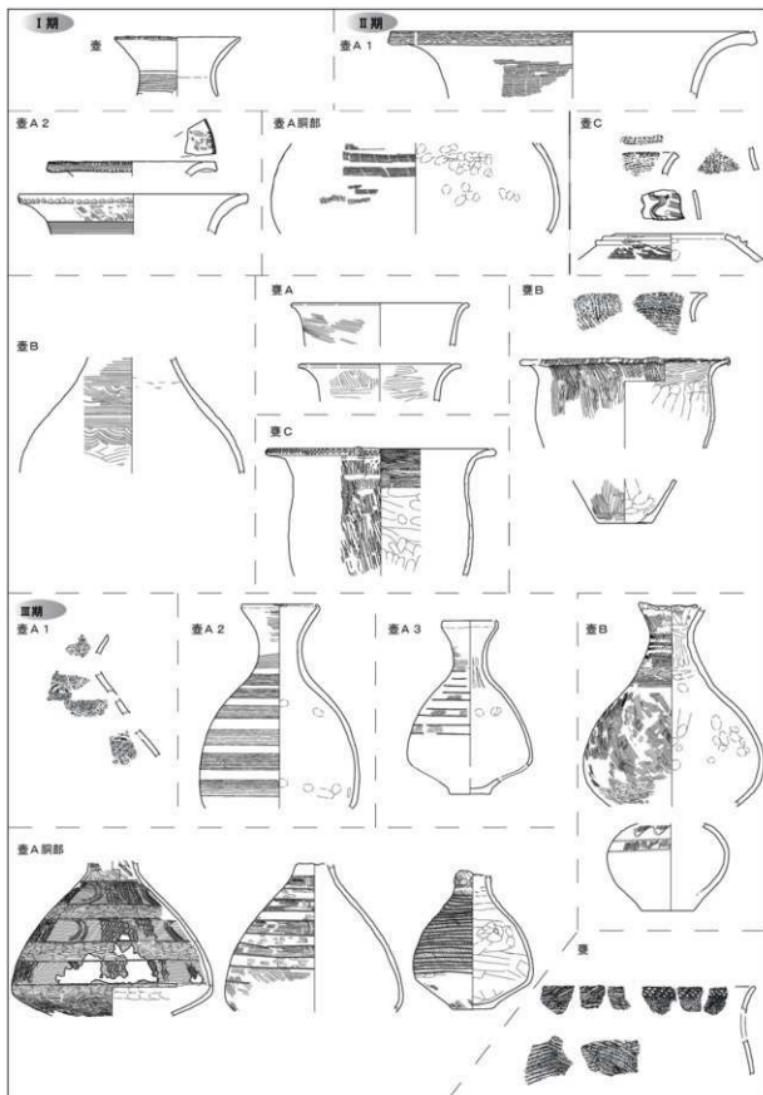


図9 I ~VII期土器分類図①

IV期 弥生時代中期後葉

壺 器形の形状によりA～Hに分類した。

壺A 口縁端部に凹線文を施文する細頸壺。

- 1 口縁端部が屈曲して直立して、数条の凹線をもつ。胴部以下は欠損する資料が多く、詳細は不明。加飾されずハケ調整のみのものが大半を占める。
- 2 口縁端部が袋状を呈し、3条～5条程度の凹線をもつ。頸部以下を加飾するのが通有で、頸部に斜位の刺突文、胴部に櫛描直線文・波状文の組み合わせとなる資料が多い。頸部に廉状文を施文する例が一部にみられる。胴部の施文は胴部最大径まで、直線文と波状文の交互配置2段と直線文3帯～5帯・最下段の波状文の2形態が認められる。

壺B 口縁部が短く聞く広口壺。

- 1 口縁部が短く外反する太頸壺。現状では半完存資料1点のみの確認にとどまる。大きな破片が残存しないと、壺Aとの分類が難しい。文様は端部下端にキザミ、頸部に刺突文。胴部は直線文・波状文の組み合わせで壺A2類と類似するが、波状文の振幅が短い。
- 2 口縁部が短く外反し、端部が直立する太頸壺。胴部器形・文様構成とも壺B1類に酷似し確認例は数例のみ。壺B1類と同様、大破片でないと分類は困難。

壺C 口縁部が大きく聞く、大型壺。口縁端部下端を拵張し、内面には廉状文や肩状文の施文が認められる。瘤状突起をもつ資料も存在する。端部は四線か直線文や波状文が認められる。胴部は欠損する資料ばかりで全形は不明。

壺D 口縁部が袋状となる大型壺。頸部にユビによる押圧が認められる突帯がめぐる。現状では茶褐色を呈する良質な胎土のみの資料が破片となって、1～2個体程度の資料を確認するのみ。搬入品である可能性が高い。胴部に竹管文や波状文をもつ可能性がある。

壺E 短頸壺。口縁が短く字状に立ち上がる、ハケ調整のみの大型の壺。確認例は1例のみ。

壺F いわゆる無頸壺。胴部文様は櫛描直線文と波状文で、壺A2類の胴部と類似する。

壺G 小型の壺。口頸部を欠損し、壺A類の小型品と考えられるので細分した。文様は直線文・波状文が認められ、壺A類と類似する。

壺H 外来系の壺。現状では古井式の資料が認められる。

甕 器形の形状及び口縁部の形状よりAとBに細分した。

甕A 口縁部が短くくの字状に屈曲する甕。口縁部形状で1～4に細分し、口縁部形状が不明で脚台のあるものをA5類とした。

- 1 口縁部が外反し、端部に平坦面が認められる。外面はタタキの後、ハケ調整が認められる。胴部中位に刺突文が認められることが多い。内面は口縁～胴部中位までがハケ調整、胴部下半がケズリ調整をする資料が多くを占める。
- 2 口縁部が外反し、端部にキザミもしくはタタキ痕を残す。胴部は甕A1類と同様である。
- 3 口縁端部が屈曲して直立する。胴部は甕A1類と同様である。
- 4 甕A2類と類似するが、タタキ痕が認められない。口縁端部には上下端に粘土がはみ出るような強いキザミが認められる。
- 5 甕A2類に類似し、脚台のつくもの。現状では確認例は1例にとどまる。脚台は低脚で器壁が

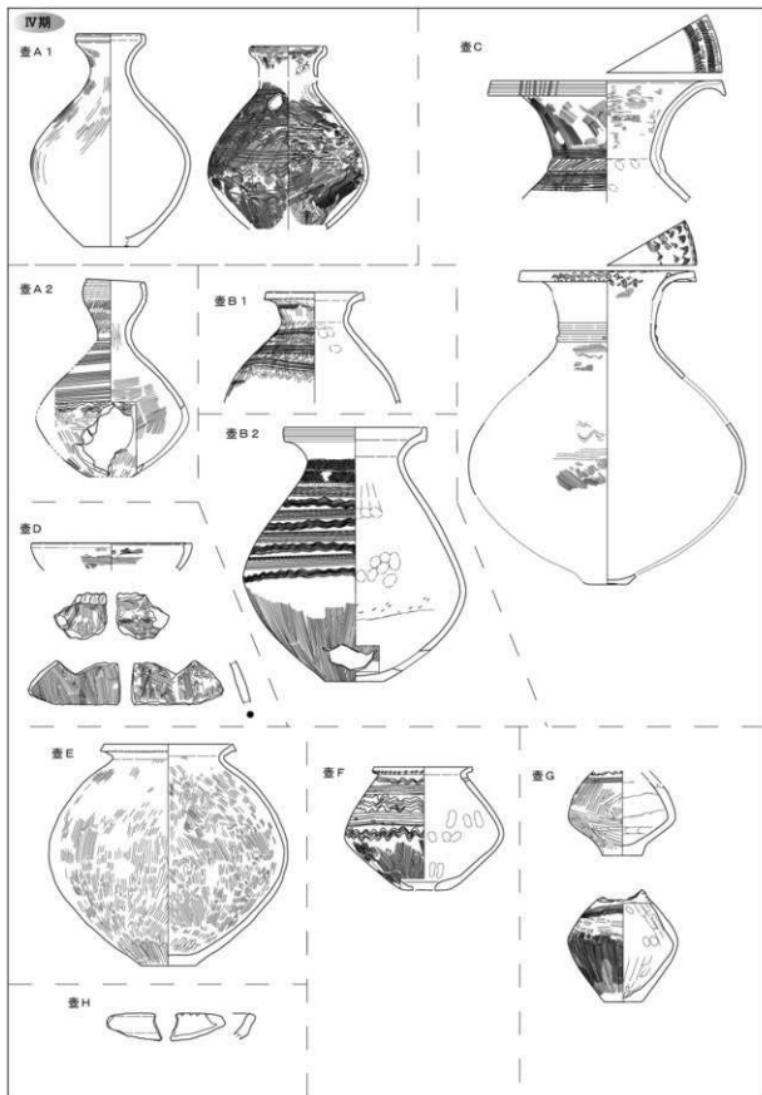


図10 I ~VII期土器分類図②

厚い。口縁部形状による分類では本類を抽出するのは不可能なので、口縁部のみの資料はすべてA1~A4に分類した。

甕B 受口状口縁の甕。その大半が近江湖南地域からの搬入品と考えられる。端部文様で細分した。

1 口縁部に波状文をもつもの。胴部文様は個体差が大きい。直線文帯の間を刺突文や波状文で充填する。

2 口縁部に刺突文をもつ。胴部文様は直線文・刺突文の組み合わせが中心。胴部最大径に波状文をもつ。刺突文のほかに山形文をもつ例が1点あり、この資料も本類とした。

甕C 口縁が強く屈曲し、端部に擬凹線が認められるもの。日本海側及び瀬戸内地方に主に分布するので、搬入品の可能性がある。

甕D 上記分類にあてはまらないもの。

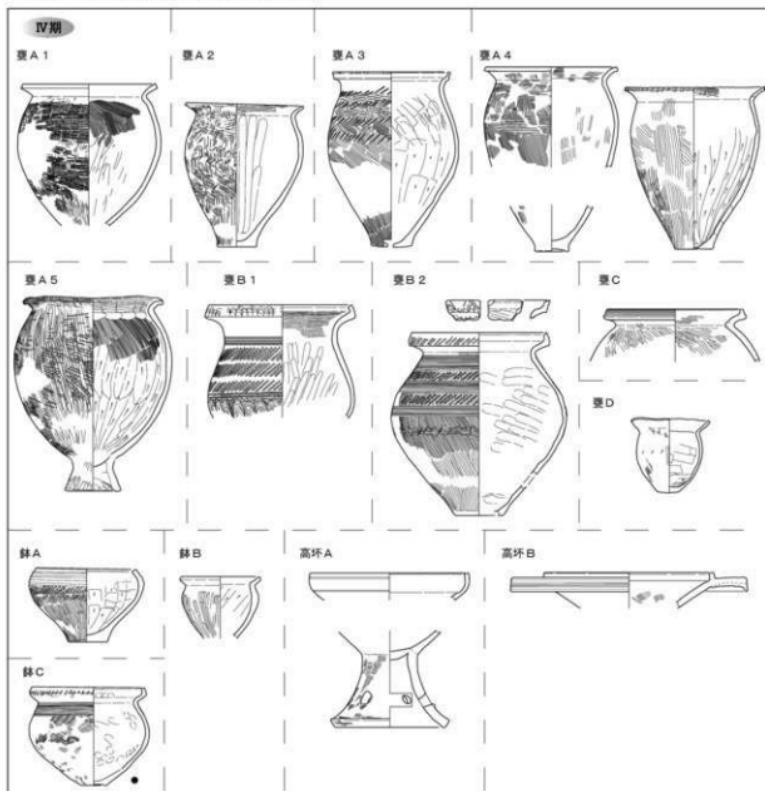


図11 I ~ VII期土器分類図③

鉢 器形の形状でA～Cに分類した。

鉢A 口縁部が袋状となるもの。文様構成は細頸壺A2類と酷似する。

鉢B 口縁部が外反する。出土量はわざがで、破片資料では甕との区別は難しい。

鉢C 口縁が受口状口縁となる鉢。口縁のみでは前述の甕B類との区別は不可能である。

高坏 器形の形状でAとBに分類した。

高坏A 口縁部が袋状を呈し、端部に凹線を有する。脚部は脚端部に面をもち、外傾する。

高坏B 口縁部が跨口状口縁を呈す。現状では1例のみの確認。端部には擬凹線がみられる。

V・VI・VII期 弥生時代後期～古墳時代前期

本報告分において、弥生時代後期の資料は現状のところ、その時期が後半期に限定される可能性が高い。その後、古墳時代前期では前期全般にわたる資料が認められるが、出土土器の中心となるのが古墳時代前期初頭である。以上のことから、出土土器の大半は弥生時代末～古墳時代初頭に位置し、継続性の高い土器資料を分類することになり、その連続性を考慮して、分類上ではV・VI・VII期を区別せず分類した。本来であれば、V～VIII期を構成する分類を示すべきであるが、そこまでの資料整理ができてないのが現状である。一方で、遺跡の変遷を検討する上で、ある一定の時期設定は必要である。そこで、本報告分では暫定的な今後の目安としての時期区分を示し、それぞれの細かな分類・構成については次回報告分以降に改めて検討したい。(また、VIII期～X期に相当する資料は以下の分類から除外したが、一部に分離できなかった資料もあることを断っておきたい。)

壺 器形の形状や大きさによってA～Kに細分した。

壺A 口縁部が大きく開く大型の広口壺。

1 口縁端部をほとんど拡張しないもの。口縁部が外方へ大きく開き、端部に数条の擬凹線を施し、内面の施文はあまり認められない。例外的に横羽状文が認められる。胴部は完存する資料がなくその詳細な形状は不明だが、ほぼ球形を呈し、最大径が胴部中央もしくはやや下がった位置となる。胴部文様は直線文と列点文の組み合せが多く、山形文は例外的である。

a 脇部中位にほぼ最大径が位置するもの。欠損例が多く完存例は認められなかった。

b 壺A1a類の台付壺。

c 脇部形状は後述する壺D類の受口状口縁の壺に類似する折衷的な資料。胴部最大径が中央やや上位に位置し、側面形状が壺A1a類より縱長となるもの。

2 口縁端部の形状や施文は壺A1類に類似するが、口径が13cm前後と一回り小さく、口縁部が短く短頸化する。頸部はやや直立気味で、口縁部との接点で屈曲するのが顕著である。口縁部の短頸化を本類の指標とし、頸部の屈曲によって細分した。

a 頸部が直立気味となり、口縁部でやや屈曲するもの。

b 頸部の屈曲が弱く、口縁部がそのまま外反するもの。

3 口縁部が外反し、端部を拡張するもの。その形状によって細分。外面の擬凹線及び内面の加飾率が高い。なかでも内面文様である横羽状文・列点文の組み合せが多く、次第に横羽状文の多段化、弧線文へと移行する。

a 口縁部が大きく開き、端部をやや拡張する。

b 口縁部が短く開き、端部上方への拡張傾向がやや認められる。

- c 端部下端が顕著に拡張され、擬凹線が多条化する。
- d 口縁部形状は壺A3c類に類似するが、口縁部内面に段をもつ。段が明瞭なものから形骸化したものまで形差があり、細分可能だが、資料数が少ないので一括する。端部はA3c類同様、下方への拡張が強調され、擬凹線が多条化する。内面施文は横羽状文、弧線文に加え波状文が採用され、胴部文様でも認められる。
- e 壺A3d類同様、口縁部内面に段をもつが形骸化が顕著で、内湾する。端部の拡張は下方から上方への拡張が指向され、段周辺の内湾傾向は端部上方拡張への動きと連動する。文様の傾向は壺A3d類と同様だが、外面に横羽状文を施文する例が認められるようになる。

壺B 口縁部が短く外反し、口径より胴部最大径が大きく上回る大型の広口壺。

- 1 口縁部が短く外反し、端部がやや平坦となる。胴部はやや下膨れ状となり、胴部中央やや下がった位置で最大径となる。胴部最大径は口径を大きく上回り、約2倍程度となる。
- 2 口縁部形状は壺B1類と類似するが、端部がやや丸みをおびる。胴部は壺B1類とやや異なり、胴部最大径が中央付近に位置し、側面形状はやや扁平な球形を呈す。

壺C 口縁部が直線的に外傾しながら立ち上がる直口壺。胴部形状はそれほど肩部が強く張らない球形を呈す。胴部最大径の位置には資料差がある。

壺D 受口状の口縁をもつ壺。口縁部形状は資料差が大きく細分が可能だと考えられるが、資料数もそれほど多くないが、その形状で大きく3分した。

- 1 口縁部の屈曲が顕著で、弥生中期末～後期初の近江湖南型の甌・壺に祖型がもとめられる。その時期に比べると屈曲や端部処理がやや退化し、胴部文様が上半に限られる。口縁部に刺突文がみられるが、資料差は大きい。
- 2 口縁部の屈曲の退化が著しく、文様の消失傾向が強い。口縁刺突文の頻度が低下し、胴部文様も、無文もしくは刺突文のみとなる。
- 3 口縁部の屈曲が形骸化し、端部の平坦面もほとんど認められなくなる。端部の刺突文などに壺D1類の残存的要素が認められる。胴部は球形にちかい。
 - a 端部を直立させるが、頸部が直立気味である。
 - b 口頸部の外反傾向が強く、端部が直立する以外は壺A類と共通する。

壺E 二重口縁壺。今回報告資料では断片的にしか確認できていない。

壺F 口縁部形状がほぼ直立する中型の広口壺。胴部形状は壺C類を上下に縮めた算盤玉状となる。丁寧なミガキ調整された精緻な資料が多いが、胴部中央位に煤が付着する例が多い。

壺G 中型の長頸壺。

- 1 壺H類に類似するが、頸部の径が口径とそれほど差がないことが大きな特徴。口縁部のみ残存の場合、長頸壺との識別が難しいが、現状では口径18cmを越える大型品しか認められないで、口径を分類指標とする。口縁形状に差異があるため、細分可能な資料の可能性がある。
 - a 口縁部が内湾しながら上方に立ち上がるもの。
 - b 全形を知りうる資料が認められないが、口縁部が顕著に内湾するものを壺G1a類から分離した。加飾傾向が強い一群で、特徴的な資料。直線文・連弧文で構成される。
- 2 口縁部が短く直線的に開き、やや扁平な胴部をもつ。最大径は胴部中央やや下がった位置に

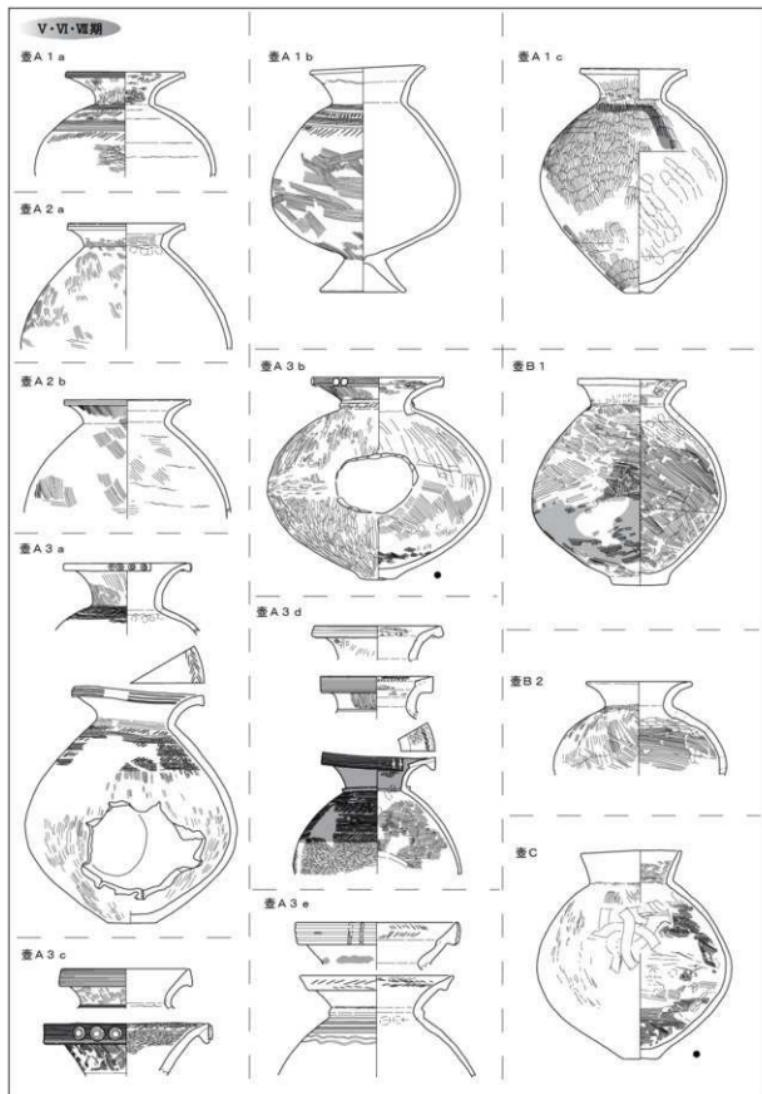


図12 I ~VII期土器分類図④

ある。

3 口縁部が強く内湾し、端部に内傾面をもつ。

壺H 中・小型壺の長頸壺。

1 口縁部が直線的に開き、偏平な胴部をもつ中・小型の壺。最大径は胴部中央よりやや下がつ

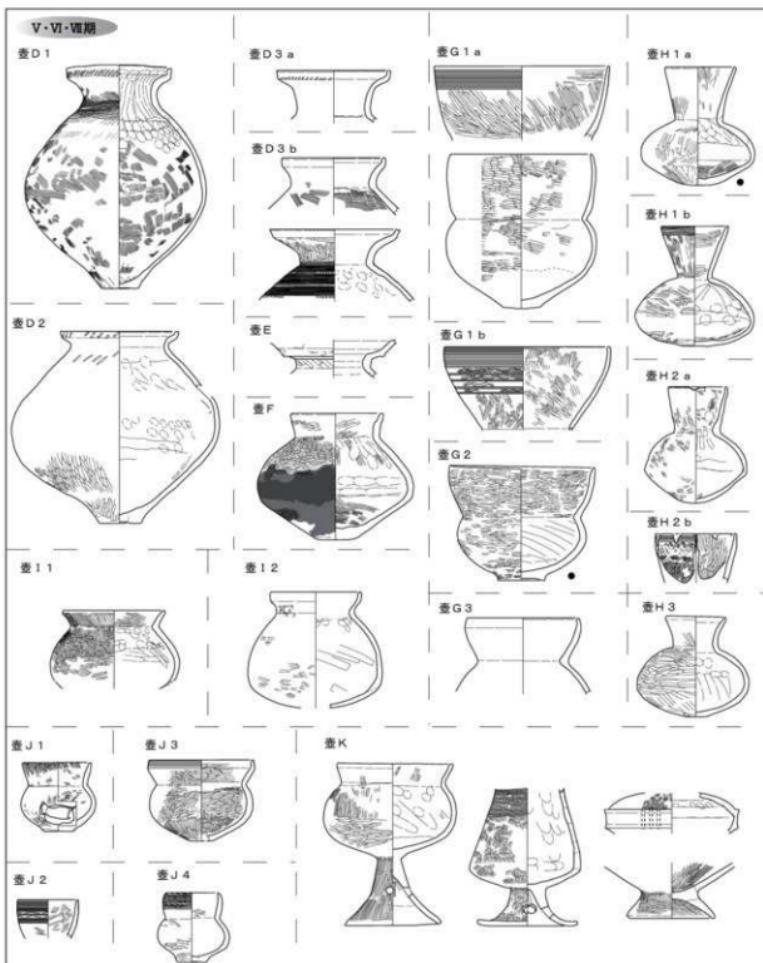


図13 I ~ VII期土器分類図⑤

た位置にある。口径9cm、器高14cm程度が標準。

- a 口縁部に施文しないもの。
 - b 口縁部に施文するもの。
- 2 口縁端部がわざかに内湾するもの。
- a 口縁部に施文しないもの。
 - b 口縁部に施文するもの。

3 口縁部の外反傾向が強く、壺H1類・壺H2類より立ち上がりが短い。そのため、口径が7cmほどと小さくなり、器高も12cmと高さを減じる。

壺I 口縁部が短く外反する中・小型壺。

- 1 口縁部がくの字に外反するもの。
- 2 口縁部が内湾するもの。

壺J 小型壺を一括する。

- 1 小型の直口壺。口縁が短く直線的にハの字に開く。胴部は球形で中央に最大径をもつ。口径8cm前後、器高9cm前後の資料が多く、強く定型化された一群。
- 2 口縁部が内湾する小型の壺。加飾傾向が強い。
 - a 加飾のないもの。
 - b 加飾のあるもの。

3 口縁部が短く直線的に開き、やや扁平な胴部をもつ小型の壺。壺G2類の小型品。最大径は胴部中央や下がった位置にある。口径13cm前後、器高10cm前後が標準サイズ。口縁部に多条沈線で加飾することが多い。底部はやや突出気味となる。

4 壺G3類の小型品。口縁部に多条沈線などで加飾することが多い。底部はやや突出気味となる。口径13cm前後、器高10cm前後が標準サイズ。

壺K その他の壺。上記の分類には該当しないもので、出土資料の中では定型的な資料とは考えられないもの。

甕 器形の形状や大きさによってA～Kに分類した。

甕A 受口状口縁をもつ大型の甕。甕の主要器種で在地の甕の1つと考えられ、搬入品ではない。次第に口縁部の屈曲が形態化するとともに口頸部が長頭化する。

- 1 屈曲部から口縁端部までやや長く内傾し、端部に強い平坦面をもつ。胴部の加飾が強く、2帶にわたって施文が認められ、IV期甕B類の要素が強く残る。
- 2 口縁部が強いヨコナデにとともに短く屈曲し、頸部に直立する部位が存する。端部に顯著な平坦面をもつ。やや器壁が厚く、口径15～17cm程度の大型品が多い。大半が口縁部外面に対し垂直方向から施文する刺突文をもつものが多い。胴部にも弥生時代中期からの系譜をひいた文様をもつが、胴部上半部1/2程度に限定される。直線文・刺突文の組み合わせが通例で、しだいに文様帶の減少、無文化へと加飾を消失する。底部まで完存する例がなく、平底か脚台付か不明である。
- 3 頸部の屈曲がくの字となりあまり直立しない。端部での屈曲は甕A1類ほど顯著ではないが、強いヨコナデを堅持しているため、端部に平坦面をもつ。もしくは幅狭の平坦面を形成するた

め、断面が三角形を呈す資料も認められる。甕A1類と異なり、くの字的な立ち上がりと端部調整の強いヨコナデを分類の指標とした。端部への刺突文の比率は甕A1類と同様だが、端部下端に刺突を施す例が目立つ。胴部文様の傾向は甕A1類と同様。

4 頸部屈曲はくの字を呈するが、口縁部の立ち上がりが長くなる傾向があり、そのため頸部屈曲の度合いもやや弱くなる。また、端部内面調整のヨコナデもややあまくなり、屈曲が退化的となるが、端部の頗著な平坦面は堅持する。口縁部、胴部文様は甕A3類と類似する。

5 頸部・端部とも屈曲はやや弱く、端部も外傾するが、口縁部の長頸化指向が頗著な一群。端部はわずかに屈曲するが、外面では屈曲が認められるが、内面の屈曲部位の退化が著しい。文様は消失傾向が頗著となる。端部の刺突文は下端のものが多い。

6 口縁部の長頸化指向が頗著で端部の屈曲が形骸化し、受口状の形状を消失してわずかに直立するのみとなる。加飾の減少が著しく進行し、胴部文様もほぼ消失する。

- a 台付甕
- b 平底甕

甕B くの字口縁台付甕。口縁部形状で細分した。

1 口縁部が短く外反するもの。

- a 甕B1b類より口縁部の外反が弱くなり、立ち上がりが長くなる。頸部の屈曲も弱くなり、胴部最大径は胴部中央付近となる。端部は平坦面をもつが、刺突文はあまり頗著ではない。
- b 口縁部が短く外反する。口径は20cmを越える大型品が目立つ。口径と胴部径の差が大きく、胴部径が大きく上回る。最大径は胴部中央より上位にある。端部は平坦面をもつが、刺突文の頻度は低い。胴部内面にはケズリ調整を行う。

2 口縁部が長頸化し、立ち上がりが直線的となる。端部の平坦面は甕A類と比べると形骸化するが、依然として維持される。端部刺突文はほぼ消失する。口径は18cm前後の大型品。頸部以下に直線文と刺突文を施す例がある。胴部最大径の位置は胴部中央からやや下方へ移動する。

甕C 甕B類と類似して口縁部がくの字に外反するが、端部の平坦面も形骸化し、口縁部内外面に鋭いハケ目を残すことが多い。4つに細分した。底部形状は台付甕と考えているが、甕C1類は完存例がないが平底甕の可能性がある。

1 頸部がやや直立する傾向にあり、それによって口縁部が強く外反する。端部は平坦面をもち、下方をわずかに拡張する。現状では資料数は少ないが、一定量の組成があると考えられる。胴部形状まで判明する資料に恵まれないが、胴部は肩部があまり張らないことを特徴とする。

2 口縁部形状は甕C1類と類似するが、口縁部と胴部の接合のためか、頸部に強いナデと粘土の貼付がみられる。そのため、口縁端部と頸部において頗著に器壁の差が生じる独特な断面形状を呈すとともに頸部が直立する。

3 くの字に口縁部が外反するが、端部を丸く收める。胴部形状は甕B類に類似。口径18cm前後の大型品。

4 口縁端部が内湾するもの。

甕D 口縁部が比較的短くくの字状となり、端部が尖り気味もしくは直立するもの。その形状は、甕A類とB類の折衷的な一群と想定した。また、口縁端部への加飾が強く、他地域からの影響も

想定できるため分離した。

1 口縁部が比較的短く外反し、端部のヨコナデによって、端部がわずかに内湾するか尖り気味となる。端部への刺突、胴部の直線文・刺突文が顕著で甕A5類との相関関係が強い。

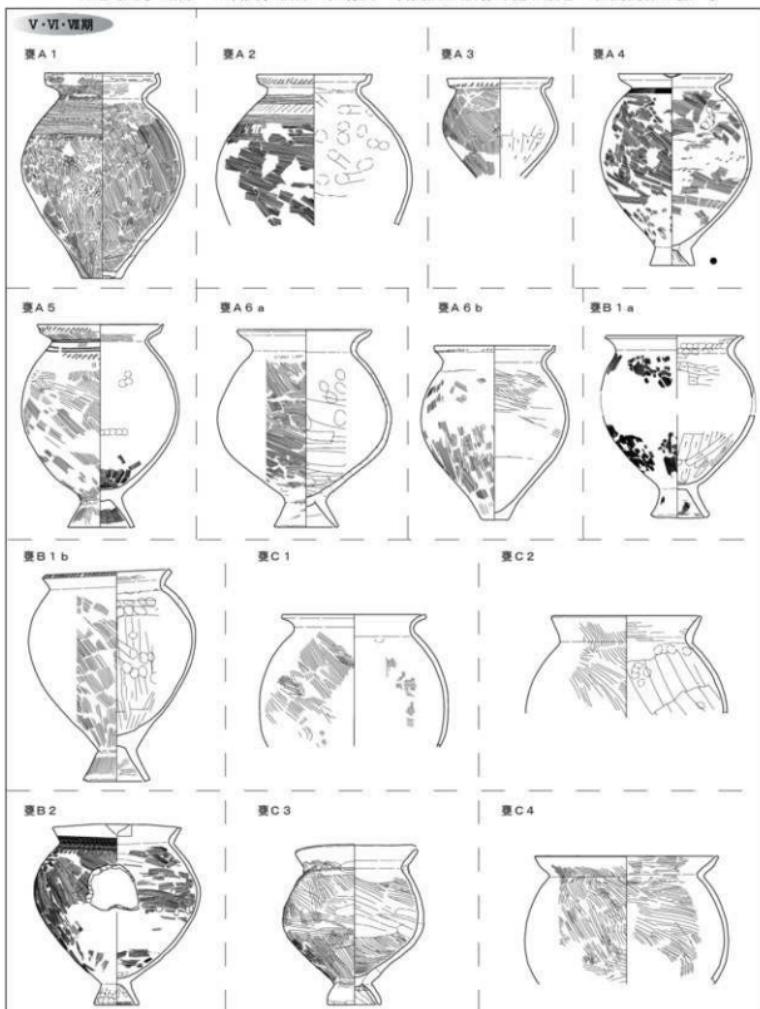


図14 I ~VII期土器分類図⑥

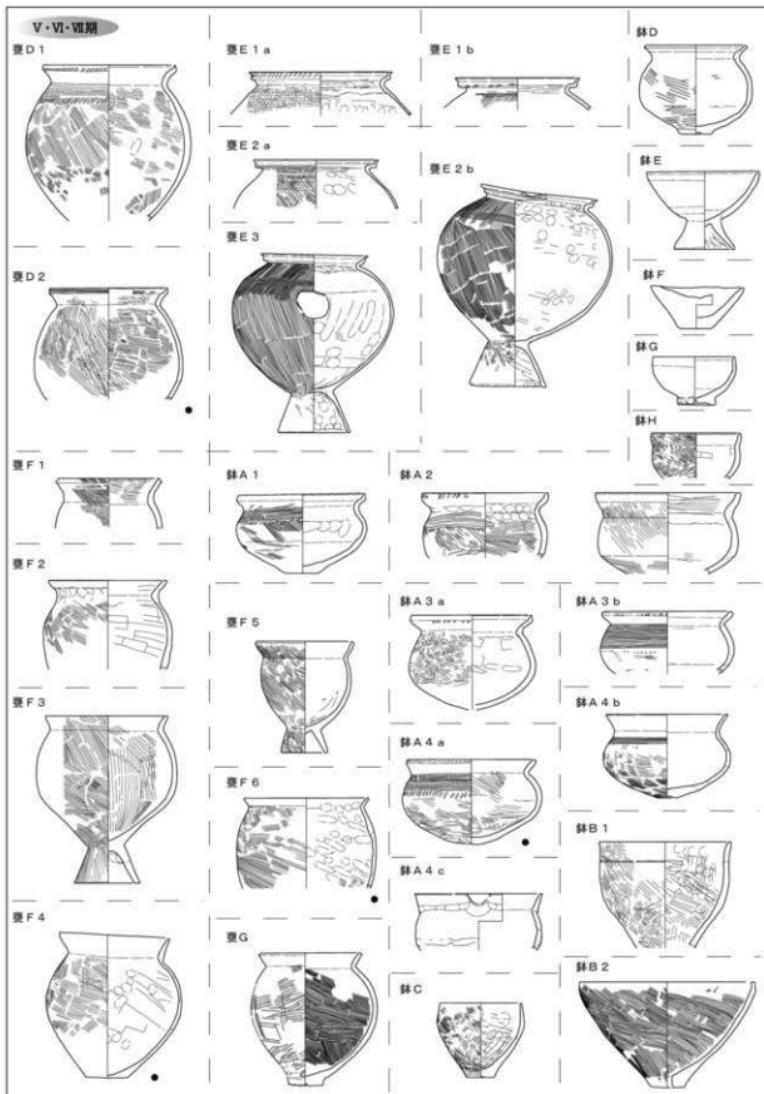


図15 I ~ VII期土器分類図⑦

2 端部が上方に拡張されて、多条沈線をもつ。粗いハケ調整が目立つ。資料数は少ないが特徴的器種であるため細分した。甕A類とは系譜が異なると判断した。

甕E S字甕を対象とするが、V・VI期は弥生時代後期～古墳時代前期初頭を対象とした分類のため、赤塚分類D類はここでは除外する。口縁部形状によって細分した。

1 口縁部の屈曲が明瞭で、押引きがあるもの。

a 口縁部中段が垂直気味に立ち上がる。

b 屈曲部から口縁部下段が外方へ強く外へ引き出されるもの。

2 口縁部の屈曲は堅持するが、押引きが認められないもの。

a 口縁部形状は甕E1a類に類似するが、外面に押引きをもたない。

b 口縁部が短く明確に屈曲し、上段がわずかに外方へ引き出され、平坦面をもつ。

3 口縁部の屈曲が形骸化し、上段の平坦面を消失して肥厚が顕著。

甕F類 中・小型品の甕を一括した。

1 口縁部がくの字状となり、端部が比較的平坦な面をもつ。口径13cm前後の中型品。

2 甕C2類の中・小型品。

3 口縁部が短く外反して、端部を丸くおさめる。口径13cm前後の中型品。

4 口縁部の立ち上がりが長頸化し、直線的になる。端部の刺突はほとんどみられなくなる。中型品が大半を占め、平底甕。胴部は球形にちかくなる。ハケ調整のみが基本。

5 甕C4類の小型品。

6 わずかながら組成する口縁部の立ち上がり著しく短く、器壁の薄いもの。

甕G 上記の他、外来的要素の影響の強いもしくは搬入品の可能性のあるもの。

鉢 器形の形状よってA～Hに分類した。

鉢A 受口状口縁の鉢。底部が矮小化した平底、あるいはケズリ調整によって丸底化するものが多い。口径は、16cm前後に集中する。

1 口縁部が明瞭に受口状口縁を呈し、受口状口縁甕A1～A3類に類似。ただし、甕と比べると屈曲はやや弱い。外面への刺突と頸部直下の直線文・刺突文が顕著でその施文率は甕より高い。胴部で肩部が強く張り、なかには口径を上回るものもみられる。胴部が球形に近いものや胴部最大径の位置が下がるものも認められる。

2 口縁部の長頸化傾向が強く、端部の屈曲が形骸化する。端部内面のヨコナデ調整は意識されるが、平坦面作出があまり意識されなくなり、断面形が三角形にちかくなる。文様は鉢A1類と比べて、減少傾向にありハケ調整のみの資料もみられる。胴部最大径と口径の差は縮小し、口径が上回るものもみられる。最大径の位置は胴部中央からやや下方へ移行し、肩部の張りが弱くなり下半にかけてはやや屈曲して、直線的に底部にいたる。

3 口縁部の長頸化傾向がさらに顕著となり、端部の屈曲が痕跡的となるもの。

a 口縁端部内面のヨコナデ調整への意識が希薄となり、その反面、外面への調整が意識され、端部外面に平坦面が形成されることが多く、端部が尖り気味となる。胴部径は口径を上回ることはほとんどみられなくなる。口縁部・胴部への加飾は堅持する。

b 端部の屈曲がさらに痕跡的となり、肥厚した端部のような形状を示す。

- 4 口縁部に屈曲部がなく、くの字状となる。その形状によって細分した。
- 口縁部が短く外反する。
 - 口縁部が長く外反するようになる。器壁の薄い資料が目立ち、口縁部刺突文の施文率が減少し、胴部文様はやや乱雜となる。
 - 口縁部の立ち上がりが直線的となり、端部に平坦面をもつ。號B2類と類似。ハケ調整・ナデ調整のみの資料がみられ、文様を消失する傾向が強い。

鉢B 大型の鉢を一括した。

- 大型の鉢。口縁部が直立気味に立ち上がる。
- 有孔鉢。口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がるが内湾するものも認められる。端部は強い平坦面をもつ。内外面ともに精緻なハケ調整がみられるが、一部、輪積み痕が残る粗いナデ調整のものも認められる。法量差が存在するが、ここでは一括する。

鉢C 平底の底部から胴部がなだらかに立ち上がり、口縁部がわずかに内湾する。口径10cm、器高12cm前後に定型化されたものが多い。丁寧なケズリ・ハケ調整によって器壁を薄くする傾向が強い。丁寧なミガキ調整を施す精製品もみられる。

鉢D 口縁部が痕跡的に短く外反する平底の鉢。

鉢E 台付鉢を一括した。

鉢F 口縁部が直線的に外傾する小型の鉢。後述する手捏ねC類にも類似するが、ミガキ調整を施す精製品。

鉢G 半球形の胴部とやや突出した底部をもつ。底部や底部側縁に穿孔をもつ。

鉢H その他の鉢を一括した。

手培形土器 覆部まで完存する資料は1例のみ。覆部には斜格子文を施し、胴部に突帯が貼付される。覆部には斜格子文のほかに波状文や山形文を加飾する例があり、加飾傾向が強い。

高坏 器形の形状や大きさによってA～Kに分類した。

高坏A 口縁部が短く直立するか内傾して立ち上がるもの。

- 口縁部が屈曲して内傾しながら立ち上がる。脚部は付根から円錐状に開き、端部で強く外反する。
- 口縁部が短く直立する。

高坏B 口縁部が強く外反する外反高坏。口縁部形状による分類のため、脚部形状との関連に顛倒が生じる可能性がある。脚部形状の変化は口縁部形状とは別の変遷が想定される。口縁部の立ち上がりの長短、口縁端部形状の差異、口縁部の外反傾向から細分した。

- 口縁部が短く外反するが、坏底部からの立ち上がりの直立指向が強いもの。
 - 口縁部が短く立ち上がり、加飾傾向が強い。口縁部は坏部から直立する傾向が強く、その部位に擬回線を施文する例がある。端部のみを外方へ強く引き出し、その内面にも擬回線を施文する例がみられる。そのため、口径と坏部底径との差は小さい。口縁部には擬回線の他に波状文もみられる。脚部は完存する例に恵まれないが、柱状脚で長脚であると想定している。
 - B1a類に比して、口縁部外反傾向が強まる。また、口径と坏部底径の差が大きくなる。口

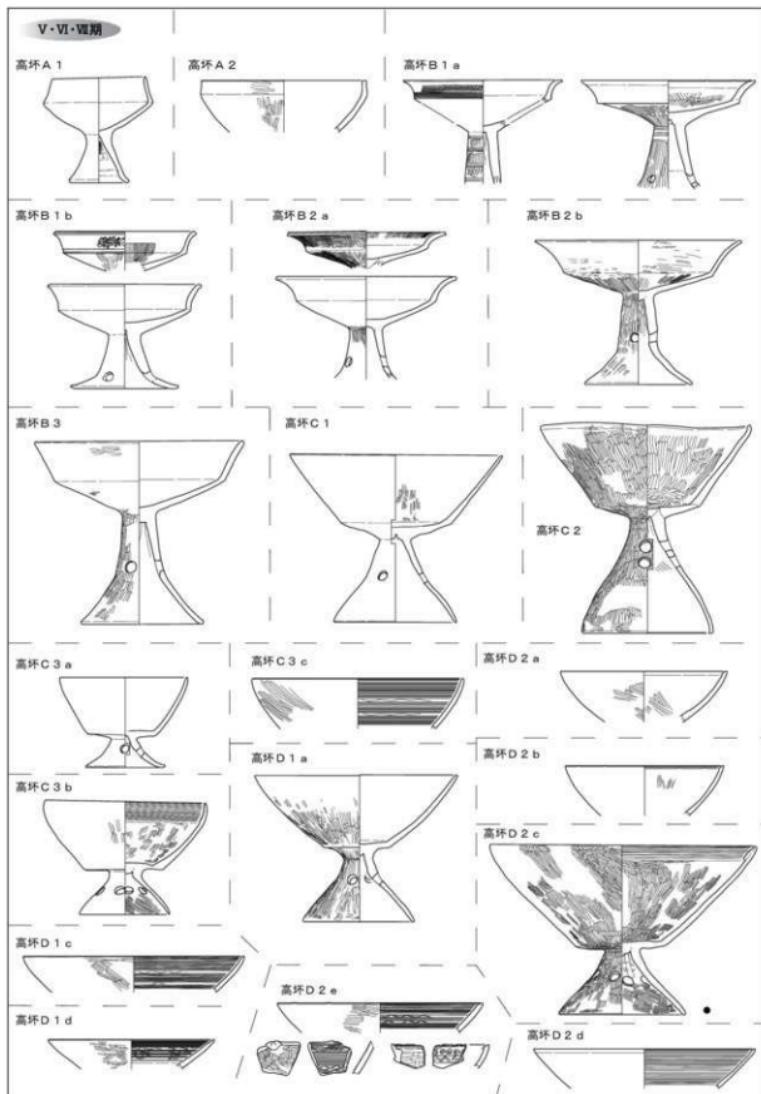


図16 I ~VII期土器分類図⑧

縁部の立ち上がりは直立傾向を保持するものの、その位置が高坏B1a類より下方へ移行して口縁部中位から外反して端部にいたる。なかには、坏底部からすぐに外反する資料もみられる。加飾傾向はやや弱まり、その頻度は低い。端部は外方への突出がなくなり、平坦面のみとなる。脚部は付根から外方へわずかに開く円錐状を呈し、裾部で強く外反する。

2 口縁部が坏底部から強く外反するもの。

- a 口縁部の外反傾向が一層強まり、直立部位が痕跡化する。なかには坏底部から極端に外反する資料もみられる。口縁部と坏底部との屈曲が内外面ともに形骸化する。坏底部高より口縁部高が大きく上回る資料もみられる。端部平坦面の退化傾向はあるものの保持する。加飾はほぼ消失する。
- b 口縁部は外反傾向が顕著だが、高坏B3類との中間的形状を示す資料も多い。口縁部の外反傾向に連動して坏底部高が減少し、坏部との接合部位でみられた直立部位は痕跡的となる。端部は丸いかやや尖り気味。脚部は付根から円錐状に開き、裾部でやや外反する。
- 3 坏底部から口縁部がすぐにゆるやかに外反しながら立ち上がり、高坏C1類の区別が困難で資料の差が大きい。端部は丸くおさめる。口径25cmを越える大型品が目立つ。口縁部と坏底部との屈曲がゆるやかで坏底部高より口縁部高が上回るようになり、口縁部の長脚化が進行する。脚部は完存する資料から判断すると、円錐状に開き、裾部はあまり外反しない。なかには2穿孔の資料もみられる。

高坏C 有段（稜）高坏。

- 1 口縁部がやや外反するか直線的に外傾し、端部を丸くおさめる。口径26cm前後の大型品。口径：坏底径 = 2 : 1 程度。脚部は付根から円錐状に開き、裾部でやや内湾する。
- 2 基本形状は側面形状が台形。口縁端部に内傾面をもつ。また内面の段が顕在化する。脚部は完存する資料から判断すると長脚となり、内湾傾向が強く、2穿孔が増えその位置が上昇する。
- 3 側面形状が台形を呈す。口縁部がわずかに内湾する。内面の段が顕在化する。脚部は付根から円錐状に開くが、裾部で強く屈曲して内湾しながら開く。短脚化が顕著で裾部が外反したまま終わる資料も存する。

 - a 内面に施文のないもの。
 - b 口縁部内面中位からやや下がった位置まで多重沈線のみを施文。口縁端部は丸い。文様帶の区分段差はもつことが多い。
 - c 加飾する高坏のなかで主体的位置を占める。多条沈線に加えて、山形文、斜格子文など直線指向の文様を施文する。

高坏D 高坏Cより坏底部径が大幅に縮小する有段高坏。口縁端部形状で細分した。

- 1 口縁端部に内傾面が認められない。坏底部径が縮小し、脚部の短脚化が進行する。透孔の位置が脚部中位からやや上位に移動し、透孔付近で屈曲して裾部は内湾する。

 - a 内面に施文のないもの。
 - b 口縁部内面中位からやや下がった位置まで多重沈線のみを施文。
 - c 加飾する高坏のなかで主体的位置を占める。多条沈線に加えて、山形文、斜格子文など直線指向の文様を施文する。

d 連弧文で加飾される高環。文様帶は多条沈線・連弧文の3带構成が多い。連弧文の施文工具としてヘラ（太）、ヘラ・櫛（細）、貝（小）、貝（大）の4種が想定可能であるが、大半

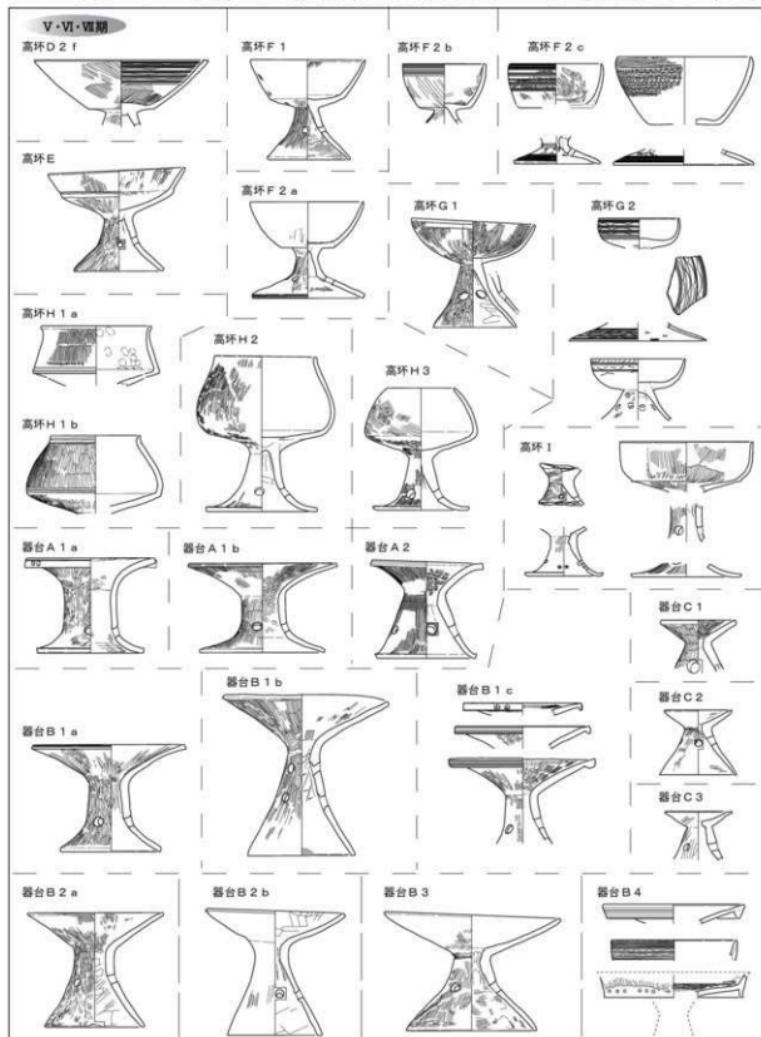


図17 I ~VII期土器分類図⑨

が見である。

2 口縁端部に顕著な内傾面が認められる。

- a 内面に施文のないもの。
- b 内傾面に数条の多条沈線がみられるもの。
- c 内傾面が肥厚及び下方に拡張され、多条沈線を施文するもの。ただし、その部位が端部付近でとどまるもの。
- d 口縁内面中位からやや下がった位置まで多重沈線のみを施文。文様帶の区分段差はないことが多い。
- e 加飾する高坏のなかで主体的位置を占める。多条沈線に加えて、山形文、斜格子文などを施す。
- f 連弧文で加飾される高坏。文様帶は多条沈線・連弧文の3帯構成が圧倒的に多い。

高坏E 高坏B類に祖型をもつ中・小型の高坏。

高坏F 高坏C類に祖型をもつ中・小型の高坏。

1 高坏Cl_a類の中・小型品。口径15~16cm前後。

2 側面形状が台形を呈し、高坏C_a類の形状を基本形とする。内外とも口縁部と坏底部との屈曲及び内面段差が明瞭で、脚部は強く屈折して外方へ開き、脚裾部径が口径を上回るようになる。

- a 加飾のないもの。
- b 口縁部直下のみに多条沈線を施文したもの。
- c 口縁部中位より下がった位置まで、多条沈線に加えて山形文などを施文し、加飾傾向が強い。

高坏G 椭状高坏

1 無文の椭状高坏。出土量は少ない。

2 加飾のあるものを分離。文様傾向は加飾のある有段高坏と類似するが、加飾は外面のみ。小型品で精緻な資料が多い。今のところ多条沈線のみの資料は認められない。

高坏H ワイングラス形高坏。

1 口縁部が直立し、坏底部が強く屈曲するもの。

- a 口縁部が内傾し、坏底部との境界で強く屈曲する。坏底部は直線的に開く、屈曲部直上には擬凹線と円形刺突文が施文されるなど加飾される。
- b 坏部の形状は高坏H_a類に類似するが、屈曲部がやや鈍化する。

2 坏部は椭状を呈して屈曲部は形骸化し、口縁部が直立する。

3 口縁部が内傾し、全体の形状は高坏H_b類に類似する。

高坏I その他。外来的要素の影響の強いもしくは搬入品の可能性のあるもの。

器台 器形の形状によってA~Cに分類した。

器台A 口縁部及び脚裾部の外反が強く、基部径が大きいもの。

1 いわゆる中空器台で基部径が大きい。

- a 柱状部が長いもの。口縁端部、内面、脚部への加飾傾向が顕著で、擬凹線、円形浮文、刺

突文などさまざまな文様が認められる。透孔の位置は脚屈曲部。

- b 器台A1a類と器台B類の中間形状を示す。器台A類より口縁部・脚裾部の外反が弱くなり、柱状部が縮小して短脚化及び付根からすぐに外反する傾向が認められる。施文は減少する。

2 脚部が付根から円錐状に開く。

器台B 口縁部が付根から外方へ大きく開き、直線的もしくはわずかに外反する。端部には擬凹線を施すものみられる。脚部形状はさまざまなものがみられる。脚部形状も含めて細分する。

1 口縁部の形状が直線的なもの。

- a 中空器台の要素が残り柱状部がわずかに直立するが、基部径は縮小する。裾部は少し屈曲して円錐状に開く。

- b 付根直下から脚部が円錐状に開く。長脚となるものが多く、透孔位置が上方に移動し、2孔となるものみられる。

- c 口縁部を下方へ拡張し、擬凹線・円形浮文を施文するなどを加飾する。加飾の強い器台を分離した。

2 口縁部が内湾するもの。脚部形状で細分する。口縁部への加飾はほとんどみられない。

- a 受部形状はわずかに内湾傾向をもつが、脚部は器台B1b類の形状を踏襲する。

- b 長脚で器台B3類に類似。付根からわずかに内湾傾向をもって円錐状に開く。

3 受部は内湾が顕著で、脚部中位やや上方の透孔位置で強く屈曲して、内湾して裾部にいたる。透孔位置が上昇する。内湾形状には資料差が大きい。

4 加飾の強い一群で、形状が上記の分類にあてはまらないもの。

器台C 小型の器台。口径より脚径が上回り、脚部は内湾傾向をもつ。

1 口縁部が短く直線的に外傾する。

2 口縁部が短く円錐状に開く。脚部も円錐状に開き、口縁部・脚部ともに内湾傾向をもつ。

3 受部が浅い皿状となる。

手培形土器 覆部まで完存する資料は1例のみ。覆部に文様をもつものが多い。

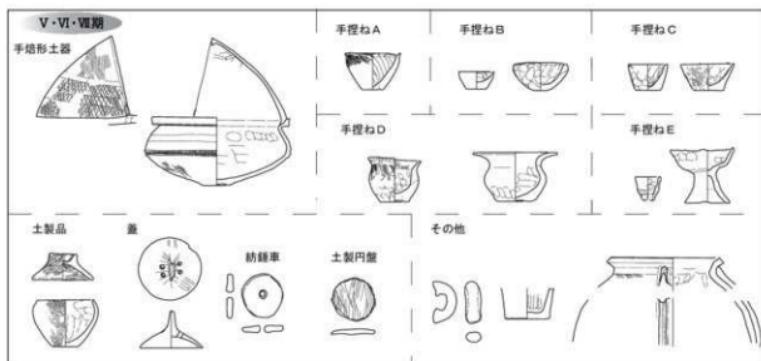


図18 I～VII期土器分類図⑩

手捏ね土器 ユビナデで成形された小型品。一部にハケ調整を残すものも認められる。器形により A ~ E に分類した。

手捏ねA 手捏ねで成形され、口縁部は内湾する。口径 8 cm 前後、器高 4 cm 前後。口縁端部をわずかに外方へつまみ出し、端部の凹凸が顕著なもの。

手捏ねB 手捏ねA 類に類似するが、口縁端部の屈曲がないもの。

手捏ねC 手捏ね成形で口縁部が直線的に外傾する。

手捏ねD 手捏ねで成形され壺形土器に類似する形状をもつもの。なかには例外的なミガキ・ハケ調整のものを含む。

手捏ねE 手捏ねで成形され、上記分類に相当しないもの。

土製品 土製円盤、紡錘車、蓋などを一括する。

その他 上記分類に相当しないもの。

4 石器類

A 地区で出土した石器類は267点（表6）である。このうち183点について図示した。以下、各器種の分類、出土点数、石材について順に報告する。

打製石鏃 芥利な先端部と基部をもつ打製のもの。19点出土した。平面先端角が 50° 以上の先端部をもつも A 類、50° 未満のものを B 類とし、さらに、基部の形状から回状のわざかな抉りが入るもの 1 類、丸みを帯びた深い抉りが入るものを 2 類、「く」の字状の浅い抉りが入るものを 3 類、いわゆる有茎鏃で、基部に茎部をもつものを 4 類に細分し、この組み合わせで分類した。

各類の出土点数は、A1 類 2 点、A2 類 1 点、A3 類 1 点、B1 類 7 点、B2 類 1 点、B4 類 7 点である。先端角は 50° 未満で深い抉りのタイプと茎部をもつものが多い。石材は、下呂石 5 点、サヌカイト 4 点、安山岩 1 点、玉髓 1 点、チャート 7 点、泥岩 1 点である。

磨製石鏃 芥利な先端部と基部をもつ磨製のもの。8 点出土した。石材は、凝灰岩 2 点、泥岩 6 点である。側面が弧状で基部に深い抉りをもつタイプが多く、このうち、1 点は基部中央に表裏両面から円錐状の穿孔が見られる。

石錐 芥利で細い錐状の先端部をもつもの。錐部と基部との境が不明瞭な棒状のタイプが 2 点出土した。石材は 2 点ともにチャートである。

削器 剥片の縁辺に連続的な剥離によって構成される刃部をもつもの。5 点出土した。石材は、すべて泥岩である。刃部數と刃部調整により分類した。A 類は 1 カ所箇所の刃部を有するもので、片面調整により刃部を作出したものを A1 類、両面調整により刃部を作出したものを A2 類とした。B 類は片面調整により作出した刃部を同一面（背面または腹面）の 2ヶ所に有するものである。各類の出土点数は、A1 類 1 点、A2 類 2 点、B 類 2 点である。

楔形石器 剥片の相対する二側辺に、潰れ状の剥離痕が発達するものが 1 点出土した。

R F 剥片の側縁に大小の剥離を施して刃部を形成するが、連続性・統一性に乏しく定形的な刃部をもたないもので、23 点出土した。石材は、下呂石 2 点、流紋岩 1 点、サヌカイト 2 点、ハイアロクラサイト 1 点、片麻岩 1 点、ホルンフェルス 1 点、チャート 7 点、泥岩 8 点である。

剥片 剥片剥離によって生産された素材で、20 点出土した。石材の内訳は、下呂石 2 点、サヌカイト

表6 石器種別出土点数一覧表

打製石斧	磨製石斧	石錐	削器	複形石器	R F	剥片	石核	打製石片	磨製石片	砾石	叩石	砥石	台石	石錐	軽石製品	玉類	石劍	環状石斧	石製品	合計
19	8	2	5	1	23	20	1	3	4	1	19	116	6	2	25	5	1	1	5	267
7.1	3.0	0.7	1.9	0.4	8.6	7.5	0.4	1.1	1.5	0.4	7.1	43.4	2.2	0.7	9.4	1.9	0.4	0.4	1.9	106.0
20.1	39.1	5.1	214.6	16.1	768.9	197.7	774.5	620.0	184.3	65.3	11.795.3	103.369.1	5.62	421.3	183.8	5.7	29.2	172.0	282.5	128.267.0

(上段=資料数、中段=全石器に対する資料数の割合、下段=質量を示す)

1点、安山岩1点、片麻岩1点、チャート6点、砂岩3点、泥岩6点である。

石核 概ねネガティブな剥離面によって構成されるもので、1点出土した。石材の内訳は、サヌカイト1点である。

打製石斧 原礫や剥片を素材とし、縁辺から粗めの剥離調整を施して形状を整え、長軸の一端に刃部を作出したもので、3点出土した。石材の内訳は、泥岩2点、ホルンフェルス1点である。すべて側線がほぼ平行する短冊形である。

磨製石斧 略長方形の形態で一端に刃部を研磨によって作り出しているもので、4点出土した。石材は、ハイアロクラスタイトと凝灰岩が各2点である。凝灰岩製のものは、1点は蛤刀石斧、もう1点は欠損のため刃部形状は不明であるが定角式のものである。ハイアロクラスタイト製のものは、1点は破片であるため形状は不明、もう1点は扁平片刃石斧である。

敲石 主に拳大の礫の表面に敲打の痕跡がみられるもので、安山岩のものが1点出土した。

叩石 主に棒円状・棒状の礫の側面及び長軸端に、剥離を伴うような敲打の痕跡がみられるもので、19点出土した。石材の内訳は、安山岩1点、花崗岩1点、花崗閃緑岩2点、砂岩13点、泥岩1点、凝灰質砂岩1点である。

砥石 磨の表面に溝状や帯状・平面状に砥面が認められるもので、116点が出土した。石材は、砂岩75点、凝灰質砂岩11点、凝灰岩13点、砂質凝灰岩5点、泥岩11点、凝灰質泥岩1点である。

台石 人頭大の礫の表面に敲打痕が認められるもので、6点が出土した。石材は、砂岩5点、凝灰質砂岩1点である。

石錐 扁平又は板状の石を利用し、擦り切りの機能を有する刃部を作り出したもので、2点出土した。石材は、紅簾片岩である。

軽石製品 軽石製の製品をまとめた。5cm以下のものが多く、砥面のような平坦な面を形成するものもあるものの自然面と加工面の判断が難しい。25点出土した。

玉類 曲がった形状のものを勾玉、管状のものを管玉、直径と厚みがほぼ同じで直径2cm以下のものを小玉、厚みが直径の半分程度のものを臼玉とした。勾玉は滑石製2点、管玉は凝灰製1点、小玉はガラス製1点、臼玉は滑石製1点である。

石劍 打製で作られた劍状のもので、1点出土した。石材はサヌカイトである。

環状石斧 敲打・研磨によって環状に成形されたもので、1点出土した。石材は凝灰質砂岩である。

石製品 敲打・研磨によって長く棒状に成形されたもので、5点出土した。このうち石棒と判断できるものが2点出土した。石棒の石材は塩基性岩1点、結晶片岩1点である。その他の石製品の石材はサヌカイト1点、片岩1点、砂岩1点である。

第5節 墓

平成18年度から平成20年度のA地区発掘調査では、方形周溝墓47基、円形周溝墓1基、土坑墓1基を確認した。周溝墓は、周溝底面付近から出土した供献土器の時期や、群集した方形周溝墓の位置関係から、その大半はⅢ期～Ⅳ期、弥生時代中期中葉から後葉の方形周溝墓、円形周溝墓と考えられる。なお、断片的ながら弥生時代中期前葉のⅡ期にさかのぼるものも認められる。これらは四隅切られた方形周溝墓である可能性が高い。Ⅱ期の方形周溝墓は、大半が後続する時期の方形周溝墓によって削平されて、結果として溝の一部しか確認できず残存状況が悪いものがある。さらに、供献土器を伴う例もきわめて少ないことから、時期決定資料を欠く事例が多いが、遺構の先後関係から、最初に構築されたⅡ期の方形周溝墓のあり方は、本遺跡の墓域の成立を語る上で重要な意味をもつため、不確実なものも含めて、復原を試みた。方形周溝墓は、A地区西部、中央部、東部でそれぞれまとまって検出した。特に東部のものは、B地区から南北に列をなして並んでいる。方形周溝墓が群をなす場合、周溝を共有するように重複させるものや、一定の間を空けるものがある。

Ⅳ期の周溝墓埋土からは、高麗式に後続する八王子古宮式段階のいわゆる湖南型受口状口縁甕が出土している。現段階では、弥生時代後期初頭に位置づけられる遺構、及びその他の器種が確認されていないこと、さらには湖南型受口状口縁甕が近江地域では弥生時代中期後半～後期初頭の時期幅を内在していることから、Ⅳ期相当として判断した。しかし、埋土中からはV期、山中式相当の土器も混在し、調査区内に弥生時代後期の生活域が存在する可能性は十分に考えられる。

方形周溝墓の埋土最上層では、主にVI期、廻間I式段階の土器のまとまった出土が見られ、周溝の埋没完了時期と判断した。しかし、埋土最上層の土器と、周辺で検出されている堅穴住居跡群の土器との間に、甚だしい時期差は見られない。周溝がおおむね埋没する時期に、集落が形成されたと判断してよいと思われる。埋土最上層から出土したVI期の土器は、成立した集落で使用されたものが廃棄、混入した資料と考えられるが、一部の周溝墓から出土した土器資料は、その出土状況から時期的なまとまりがあると思われる。こうしたVI期の土器群が出土した方形周溝墓は、比較的規模が大きなものに限られていることから、集落が展開する段階で構が完全に埋没しておらず、凹地となっていたと考

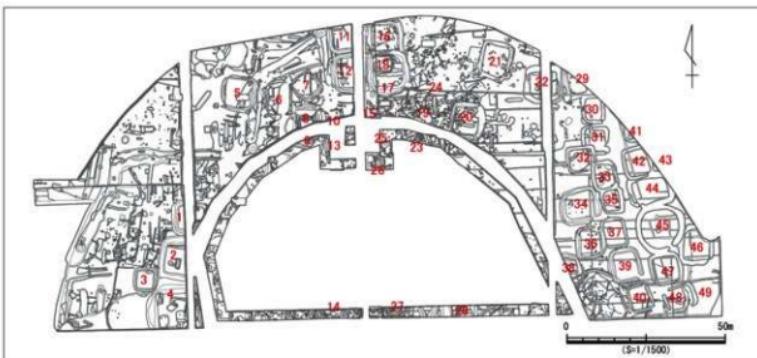


図19 方形・円形周溝墓位置図（数字は遺構番号）

えられる。

また、周溝墓の墳丘や埋葬主体部については、後世の土地利用によって削平を受けており、確認できていない。ただし、位置的に埋葬主体部となる可能性が考えられる土坑が存在するが、周溝墓との関連性を示す出土遺物が認められなかつたため、土坑に含めて報告した。

土坑墓とした遺構は、X期のものである。

SZ001（遺構：図20、遺物：図77～79）

検出状況 A地区の西部やや微高地となる場所のV層上面で検出したが、一部調査区外となる。南側にSZ002と接して並んでいるが、土層断面の観察からはSZ002が古い。

方台部 東辺部は一部しか調査していないが、方台部の各辺は直線的で、ほぼ東西、南北に沿っている。墳丘や主体部は残存していなかった。方台部の平面形は、おおよそ方形となる。

周溝 確認した3ヵ所の隅部は、周溝が途切れず、隅部のみが浅くなることもない。周溝の形状は、確認した範囲では直線的である。周溝規模は、西及び南溝での幅が約2mを超えており、深さは比較的浅く0.30～0.4mほどである。

周溝の壁面断面形は、外側・方台部側とともに緩やかで、周溝底面は比較的平坦である。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落と、水平方向の自然堆積があったと思われる。まず、方台部側から堆積が始まり、その後、外側からの埋没が進行したと想定できる。

遺物出土状況 周溝上層からIV期及びV期後半の土器が豊富に出土した。出土状況から供献土器を想定しうるような資料は得られなかつたが、周囲の状況からみて、IV期壺A類（1）、壺A2類（4・5・6）、甕B2類（3・7・8）が供献土器である可能性が高い。2の壺B類も遺存状況はよくないが、今回報告分では希な大型壺であり、周溝墓と関連する資料と考えられる。後述するが、南溝上層においてSZ002と連続する図20のB-B'土層図16層部分からは、V期後半の資料が大量に出土した。埋没過程での回地（浅い溝状の掘削の可能性もある）に土器を廃棄した可能性が高い。IV期とV期の土器が混在する状況は、V期後半の土器の廃棄の際に、多少の掘削が行われた可能性を示すと思われる。4・6は北溝、7・8は南溝から出土した。

出土遺物 1はIV期壺A1類で、口頸部を欠損する。人為的かどうかは摩耗が著しく断定できないが、その可能性はある。胴部外面はハケ目のみが残存する。4・5は袋状口縁を有するIV期壺A2類で胴部以下を欠損する。6は口頸部を欠損するが、IV期壺A2類であろう。胴部肩部の屈曲が強く、直線文の他に扇形文・斜格子文・刺突文がみられ、IV期壺A2類のなかでは例外的な資料である。3・7・8はIV期甕B類で、8は口縁端部・胴部への刺突文、7は波状文の施文が顕著である。2はSZ005出土土器と類似する資料で、口縁端部の凹線を2本1組3単位の櫛で縦位の沈線を施す。頸部には廉状文がみられ、胴部は直線文と波状文で加飾する。直線文は2本1組3単位の櫛で5帯、波状文は文様帶の最下段、胴部最大径よりやや下がった位置に施文される。7の波状文は口縁端部・胴部上半は振幅が短く、最下段は縦方向の振幅大きいため、重複が著しく波状文としては乱雑にみえる。6はIV期壺C類で内面に羽状文が認められる。20はVI期の壺であろうか。VI期の資料では甕A類の出土が目立ち、いわゆる受口状口縁をもつ甕が優勢である。壺に受口状口縁を呈するG3a類がある。壺L3類（21）がほぼ完品で残存状況が良好である。13は高坏F類で内面に段を持ち、内外面に丁寧なミガキがある。18は高坏の脚部が内彎する。13・18ともVI期後半～VII期前半の資料である。15は高坏B類であろう。遺物取り上げ時の情報からSZ001のものとしたが、上層出土資料については後述するようにSZ002と明確に分離できない要素も認められるので、SZ001南溝上層から出土したVI期の土器については、資料

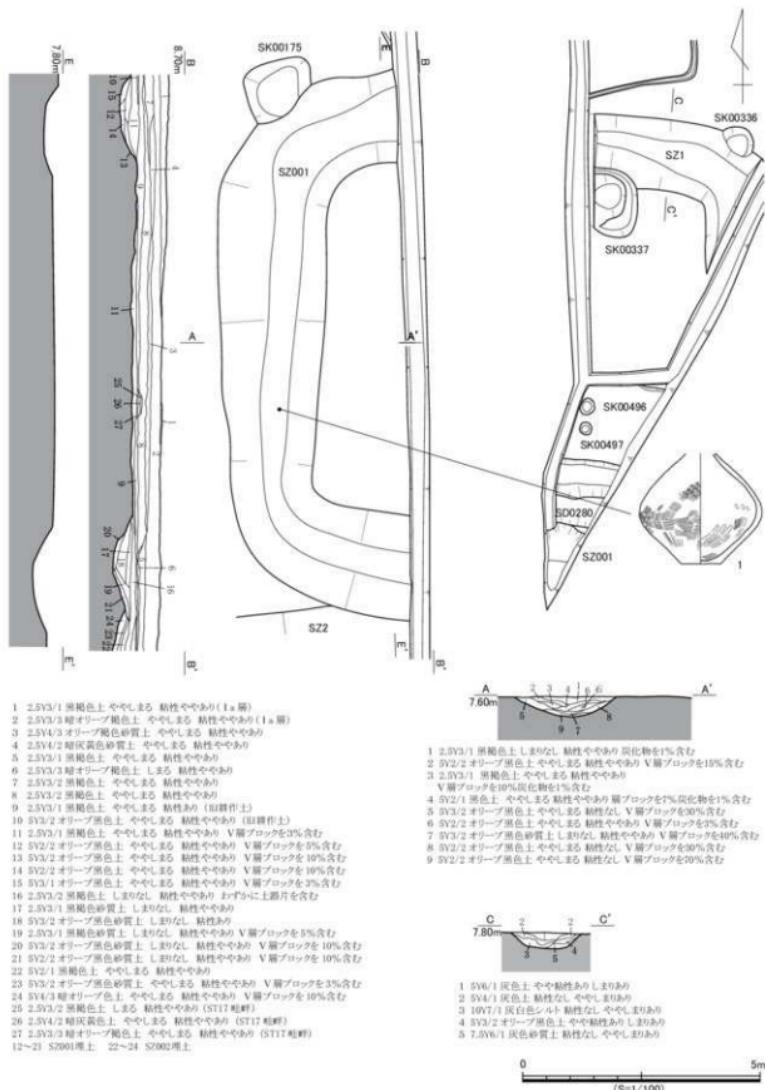


図20 S2001遺構図

としてのまとまりを評価するには慎重な姿勢が必要である。IV期以外の土器は、大半がV期後半の資料で、比較的まとまりがある。23が縄文時代晩期末葉頃の土器片、11がV期後半でも前半期の高杯B類である。30は泥岩製の磨製石鏃未製品。先端部を欠損している。31は泥岩製の削器で刃部は側辺に作出されているが、摩滅が激しい。

時期 供献土器と思われる壺や甕から、IV—2期と思われる。なお、周溝埋土上層から出土したV期以降の遺物は、溝が埋没する過程で廃棄されたものと思われる。

SZ002（遺構：図21・22、遺物：図79～83）

検出状況 A地区の西部、やや微高地となる場所のV層上面で検出した。北側はSZ001、南側はSZ004、南西隅はSZ003に接する。土層断面の観察からSZ001、SZ004が新しい。周溝がSZ003、SZ004と接する部分は、平面形が不明瞭であり、東壁面の観察をもとに遺構の規模を確定した。周溝及び方台部の東半部は調査区外に属する。

方台部 方台部の各辺は直線的で、隅部は丸くなる。方台部の規模は溝底面で南北10.5mを測る。遺構の東半を欠くため、東西幅は不明である。埴丘は残存していなかった。方台部中央やや南側で、平面形が隅丸長方形となる土坑を確認した。その規模は長軸3.31m、短軸1.50m、深さ0.26mである。長軸方向がほぼ南北方向を向き、方台部の中央近くで確認したことから主体部の可能性が考えられるが、棺材の痕跡・供献土器・副葬品などは確認できなかった。埋土は3層に分層したが、ほぼ水平堆積であった。

周溝 確認した周溝に陸橋は認められなかった。周溝の幅は中央で西溝及び南溝は約2m、北溝は約3mで、極端に膨らむことはなくほぼ一定の幅を保っている。周壁の壁面断面形は内外面ともに緩やかな傾斜である。周壁の深さは、各辺の中央部分でほぼ0.4mが残存し、比較的深度のある周溝であるが、堆積状況からは周溝壁面の崩落を想定させる埋土があまり認められない。1～3層から炭化物や大量のVI期の土器が出土している。

遺物出土状況 SZ002北溝からSZ001南溝にかけて、土器を多量に含む溝状遺構がその上部に存在する(SD0066)。ここから出土した土器の大半はVI期に相当する。SD0066は周溝がほぼ埋没する時期にその回地を利用、もしくは浅く掘削して土器等を廃棄する場所として使用された可能性がある。同様の土器を多量に含む溝状遺構は、SZ002南溝からSZ004北溝にかけての範囲にもSD0046が存在する。図79～図83に掲載した土器は、これらの溝状遺構よりも下層、SZ002埋土から出土したものである。しかし、VI期に相当する資料も多く含まれ、現地調査でSD0046やSD0066として区別しきれていない可能性がある。こうした周溝埋没時の廃棄資料について、一応検討できるよう西・南・北の各溝ごとに挿図を作成した。これら埋没時の廃棄資料のほかに供献土器と想定可能な土器がある。VI期の土器廃棄時に周溝内が攪乱され、供献土器が二次的に移動し、VI期資料とともに出土している。残存状況によって判断するとIV期壺A類111、IV期高杯65が供献土器の可能性が高い。65は平成20年度に調査した南溝から出土したので出土位置はほぼ特定できる。IV期鉢B類の62も同様である。そのほかIV期の資料は32～34・63・114の甕B類、58・61の甕A類、壺C類の64が出土した。32～34は北溝及び西溝、58・66は北溝及び東溝、114は南溝及び東溝から出土した。廃棄されたと思われる土器は、V期の一部からVI期全般の時期幅があり、他の周溝と類似する。高杯を中心におくと、71の高杯B1a類、83の高杯B1c類、75の高杯C3c類が出土しており（断片的だが79の高杯D2f類も認められる）、V-2～VII-1段階程度の時期幅があるとみるのが妥当であろう。壺・甕・鉢も高杯と同様と思われる。甕A類では60・102・103・105の口縁部の変化により時期幅が想定できる。以上の観点からすれば周溝埋土上層から

出土した土器は、時期幅を持って廃棄された資料の累積である可能性が高い。各々の各段階における資料が集積していること示す図がないので、単なる混入の結果とみることもできるが、42や86のように意図的に端部を打ち欠く資料が散見する。こうした行為は廃棄資料として想定可能なものの中でも顕著に認められる。

IV期の出土土器 111は胴部上半を欠損する。大型品であることから、壺A以外の可能性もある。胴部中央の波状文が認められる。32~34・63・114は甕B2類で、4個体分を確認した。58は甕A2類。摩耗が著しい資料。これら甕の資料は断片的資料で二次的移動を受けたと考えられる。高坏の65は大型品。坏部を欠損する。胎土が灰白色を呈し、在地のものとは異なる。図では表現出来なかつたが、透孔がわずかに紡錘形となる。

V期~VII期の出土土器 42・66・69・70は鉢A類。42・66・70は口縁部が長頸化した鉢A3b類で、端部刺突文、胴部直線文・刺突文をもち類似した資料である。42は口縁端部に打ち欠きが認められる。71は高坏B1a類で波状文と直線文がみられ、口縁端部をやや外方へ拡張する。73・74・81は高坏B1b類、77・83は高坏B1c類で口縁部が外方へ強く開く。高坏C1a類54の内面には何か使用による剥離痕が認められる。52は外面を多重沈線で加飾する小型の高坏でG2a類にあたる。いわゆる西濃型高坏は75・76がありそれぞれC3e類、C3b類である。79は断片的資料だが、ヘラによる連弧文をもつB2f類。壺A1類の57は頭部が直立気味で弱く屈折して外方へ大きく開く。胴部は偏平な形状を呈し、上半に直線文・刺突文が2带施文され、文様構成は甕に類似する。38・96は口縁部が短く開き端部を加飾する壺。37・91は壺A3c類で、37の内面には波状文がある。中型の壺に壺G2類(40)がある。99は胎土が近似するが、復元すると頭部の径が合致しないので、同一個体とは断定できない。口縁が短く直立し端部がわずかに内湾し、口径21.3cmと大きく短頸広口壺ともいべき資料。丁寧なミガキが施され、その出土量は少ない。小型の壺に36・92・93・95があり、なかでも93の口縁部には、多重沈線のほかにスタンプ文3帯が施文される。上段が連続満巻文、中段がX字状文、下段が連続満巻文である。連続満巻文は日本海沿岸を中心に資料が認められる。県内では類例は見あたらない。近隣地域では一宮市元屋敷遺跡で類例がある¹⁾。X字状文は類例が見あたらない。Xの周囲には円形の凹みが観察できる。X部分は細かな二重の線で表現され、交差する箇所には新旧関係が認められる。つまり、二重線を新旧関係が正確に表現できるようていねい陰刻された印章のようなスタンプが存在したことになる。その細かな二重線の表現からみて、スタンプは木材である可能性が高く²⁾、さらにその材質にもこだわりをもって選定したのではなかろうか。甕はいわゆるS字甕である甕G類、痕跡的な受口状口縁を呈する甕A類(104・107・109)、口縁部が短く屈折する甕C・E類の出土が目立つ。甕G類ではG1b類(46)・G2a類(47)があり、S字甕A類新段階からS字甕B類までの資料がある。痕跡的な受口状口縁を呈する甕A類の出土量が多いことはすでに述べた通りで、その他に粗いハケ目調整を基調とする甕C・E類も一定量出土している(48・115・116・118)。いずれもハケ目調整が口縁部内外面まで及ぶのが特徴の一つである。68は今回の報告分で類例のない資料。内湾する口縁をもち、底部が輪状の底部をもつ。摩耗が著しいがミガキ調整が認められるため、甕ではなく鉢とした。67は68と胴部形状が類似するが、口縁部を欠損し、底部形状が異なる。搬入品とはいえないが、出土数がきわめて少ないので台付壺100、有段口縁の甕98があげられる。100は内面に煤痕が認められる。

出土石器 112は砂岩製の砥石。底面は4面あり、礫頂部に敲打痕を残す。

1) 愛知県埋蔵文化財センター赤塚次郎氏に御教示いただいた。土本典生2004『元屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅱ』一宮市埋蔵文化財調査報告Ⅳ。

2) 奈良文化財研究所深澤芳樹氏に御教示いただいた。

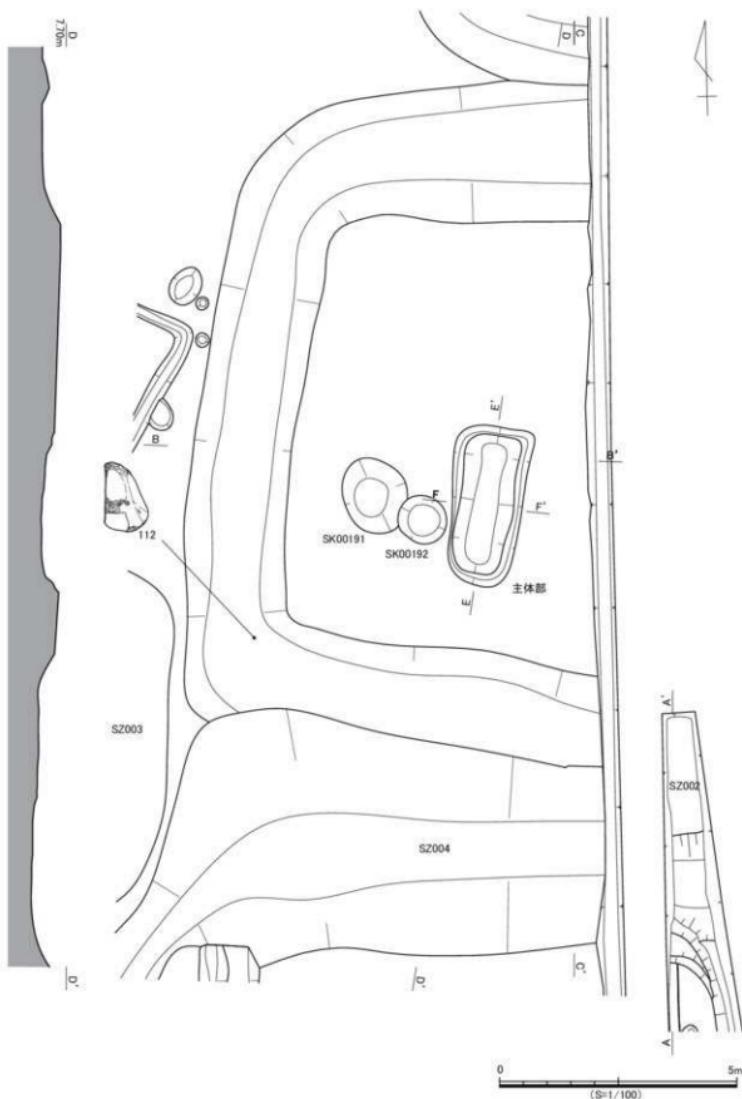
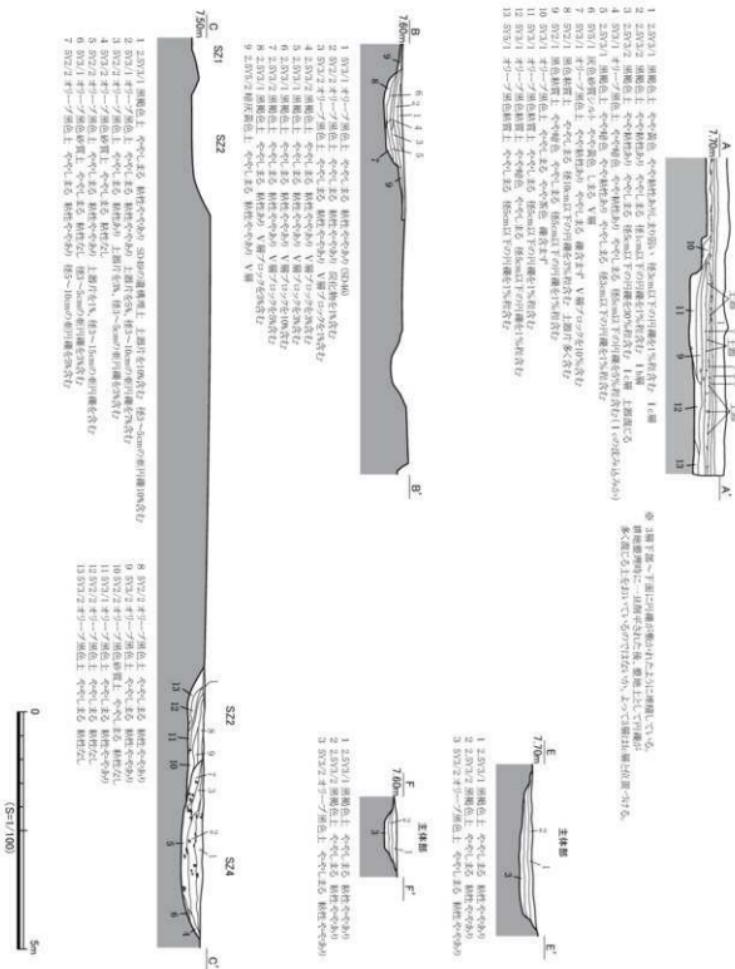


図21 SZ002構造図(1)

時期 供献土器と思われる壺や高杯から、IV-2期と思われる。なお、周溝埋土上層から出土したV期以降の遺物は、溝が埋没する過程で廃棄されたものと思われる。



S2003（遺構：図23・24、遺物：図84～86）

検出状況 A地区西部のやや微高地となる場所で、IV層上面の水田遺構の除去後、V層上面で検出した。東側でS2002及びS2004と接する。東溝と北溝の遺構平面形は、やや不明瞭であった。

方台部 方台部の各辺は直線的で隅部は丸くなる。方台部の規模は溝底面で東西5.75m×南北6.00mほどではほぼ正方形を呈す。墳丘は残存していない。方台部ほぼ中央で隅丸長方形の土坑を検出したが、細かな土器片が出土しただけであった。規模は、長軸1.95m、短軸1.00m、深さ0.15mで、埋土は3

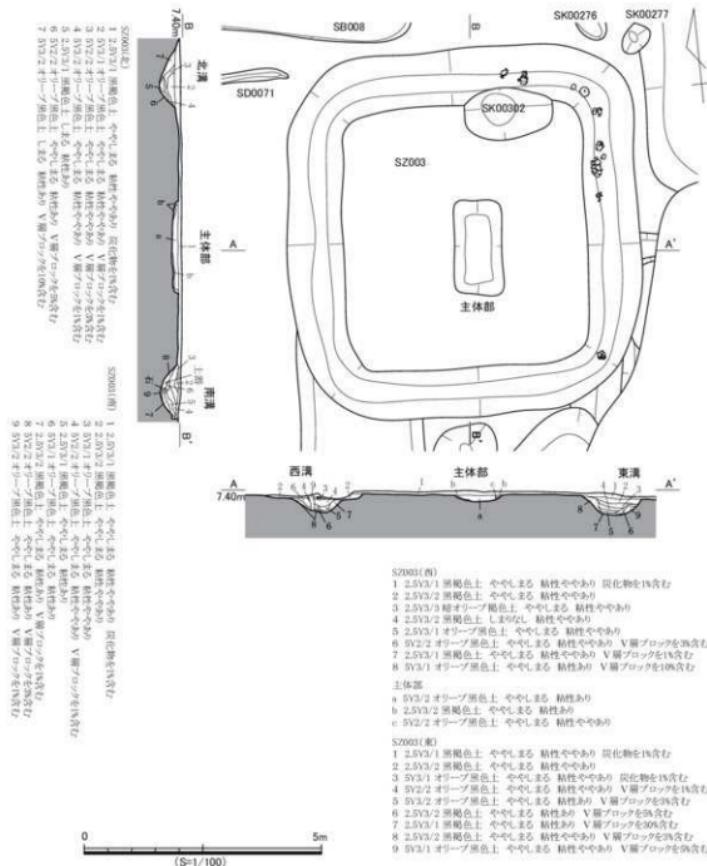


図23 S2003遺構図（1）

供獻土器出土状況

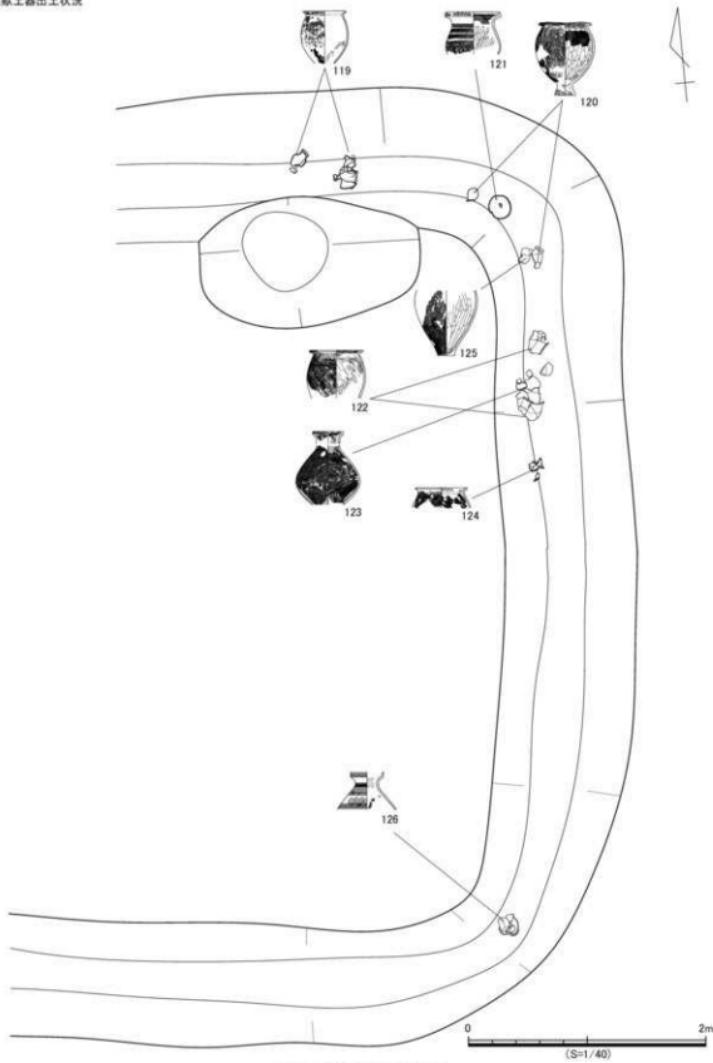


図24 S2003遺構図（2）

層に分層した。平面形及び長軸方向が方形周溝墓の南北軸に合うことから、主体部としての可能性が想定できる。しかし、他に主体部と断定する根拠に欠ける。一応その可能性があるものとして報告しておくる。

周溝 周溝は途切れることなく全周し隅部は丸い。溝幅は幅1.1mほどではほぼ一定している。周壁の断面形は、壁面角度はやや緩やかだがV字形を呈し残りが良い。周溝の深さは0.4mほどではほぼ一定している。外縁は内縁に比べてやや外へ膨らむ傾向があるものの、内縁との整合性があつて直線的である。埋土は、検出土面のブロック土を含む土層が壁面両側面に堆積していることから、構築直後から周囲からの土砂の供給が著しかったようである。その後、ゆっくりと中央部の埋没が進行し、炭化物を含む最上層の堆積によって完全埋没する。最上層にはVI期の土器片を多く含むことから、周溝の埋没時期はVI期と考えられるが、前述したように炭化物を含むことから、周囲に展開するVI期の堅穴住居跡との関連を想定する必要がある。

遺物出土状況 供獻土器と思われる土器が北東隅部を中心に出土した。今回報告分の周溝墓のなかでは最もIV期の土器資料が多い。123は東溝から出土した資料だが、出土状況図では一部の破片しか図化されておらず、詳細な出土状況を示すことはできない。126は他の資料からはやや離れて南東隅から出土した。逆位で出土しており、周囲から転落した可能性もある。上部には12cm程度のチャートの石材がついていた。121は北東隅から逆位で出土しているが、その状況は地面に対して鉛直方向に据えられているように観察できることから、転落したと安易に認定する様子ではない。人為的に据えられた可能性も考えられる。119・120・122・124・125は、いずれも横位で出土し、土圧によって潰れたように観察できる。119・122は、接合関係から転落した可能性が高い。また、出土状況図を作成していないが、134・137・138は北溝から東溝の底面近くから出土している。なお、122の横にも石材が転がっており、さらに内部にも石材が隠れている。偶然の一一致かもしれないが、周囲の供獻土器と何らかの関連があるのかもしれない。

出土遺物 123はIV期壺A1類としたが、胴部にはIV期壺A2類と同様の刺突文・直線文・波状文が認められる例外的資料。口頸部と胴部には接合部位がないが、胎土及び炭化物と煤の付着から同一個体と判断した。頸部には打ち欠きらしい痕跡が残り、外部には顕著な煤痕、内面には炭化物が付着していた。126はIV期壺B2類で、内外面には123と同様、煤痕が認められる。121はIV期壺B1類で、口縁端部・胴部最下段には波状文を施し、胴部には直線文間を3帯の刺突文で埋める。今回報告分資料中ではめずらしい施文構成をもつ。その他の出土状況図の資料は、IV期壺A類に相当する(119・120・122・124・125)。内面はヘラケズリ調整を入念に施し、外面はタタキ調整後のハケ調整で仕上げられる。120は低い脚部のつく台付甕の資料。実際には接合面はないが、出土位置・胎土・調整などから同一個体と判断した。今回報告分において確認できる唯一のIV期台付甕であろう。低脚であることの他に、胴部との接合面が厚いことに特徴がみられるが、このような形態をもつ脚部は確認できなかった。その他、出土状況図からは確認できないが、供獻土器と同時期の資料として131～139の甕、128の壺などがある。そのうち128・133・139は、残存状況から供獻土器に準ずる扱いが可能である。140・141は縄文時代晚期後半～末期の資料。140は低い突帯上にヘラによる押し引き、141は口縁端部に折り返しと低い突帯に貝殻による押し引きが認められる。他の資料は、IV期の資料を除くとVI期の資料で、高坏B類(142)のみ古相だが、143・144はいずれも加飾する高坏で、それほど大きな時期差はなくVI期と考えられる。143は多重沈線と最下段に刺突文がみられる例外的な資料。145は壺A類で、端部下端を大きく拡張する。

時期 供獻土器と思われる北溝及び東溝で出土した土器から、IV～2期と思われる。

SZ004（遺構：図25・26、遺物：図86～97）

検出状況 A地区西部のやや微高地となる場所で、SZ001～SZ003と列状に並ぶ南に位置する。北側でSZ002、北西隅でSZ003と接し、SZ002よりも新しいことを確認した。V層上面において検出したが、東溝の一部と南溝は調査区外となる。

方台部 南辺は未確認であるが、他辺は比較的直線的で、ほぼ南北、東西に沿っている。東西方向では14.2mあり、他の方形周溝墓と比較して大きい。なお、方台内部ではSB009～012やSD0061を検出した。このうちSD0061からは良好なIV期の土器が出土しており、遺構の性格付けについて課題があるがIV期の遺構と考えられる。これらの遺構については、SZ004と関連した遺構である可能性も検討する必要がある。

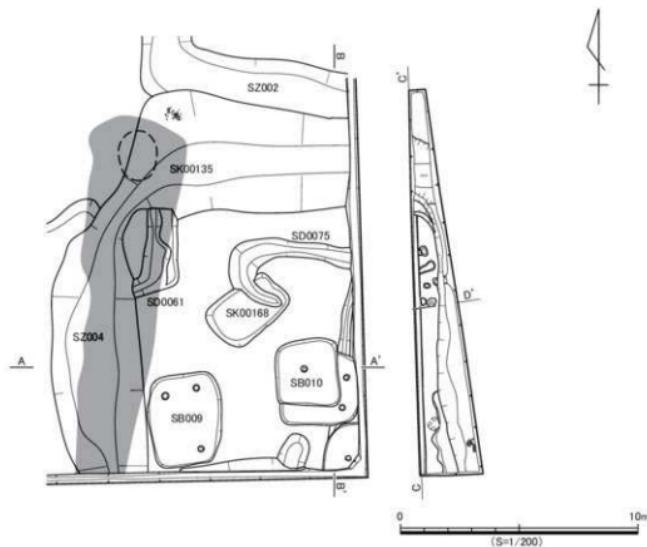
周溝 西溝、北溝、東溝の一部を検出し、隅部は北西部のみ確認した。周溝の形状は残りのよい西溝からすると外縁はやや膨らみ弧状を呈す。北溝はSZ002及び上層にあるV期後半の溝（SD0046）が重複し、判然としない。東溝については外縁が未調査区域となる。周溝幅は各辺の中央付近で測ると、西溝3.8m、北溝4.7mである。周溝の断面形は、北溝及び西溝は皿形となり、その壁面は外縁・内縁側ともに他の周溝墓に比べて緩やかな形状である。埋土は、壁面付近において壁面周囲から崩落土と想定される土層は顯著に認められず、ゆっくりと堆積したことがうかがえる。南溝の上部はSX01やSD0050によって西半分は覆われている。

遺物出土状況 周溝内から多量の土器が出土し、多くがVI期にあたる。東溝の埋土中位からは、ほぼ完存する土器が2個体分（146・147）が横位で出土した。北溝からは、VI期相当の土器が比較的まとまって出土したが、その時期幅が狭いことから一括資料に準じた扱いが可能であろう。周囲の周溝墓と同様、とくに隣接するSZ002との関連からみて、周溝内上層へ廃棄した資料の一群と想定しうる。また、170・171・255・257など小型の精製品も出土し、単なる廃棄では片付けられない様相も認められる。

出土遺物 IV期に相当する資料は、甕A類（154・157）、甕B類（158）、壺A類（149）、鉢（148）が北溝及び西溝から出土した。壺（152・153）、甕A類（155・160）、甕B類（271）が東溝から出土した。いずれにしても供獻土器とする出土状況ではなく、資料そのものも断片的である。このうち153・155には打ち欠きの痕跡が認められる。146はV期の甕B1a類、147は甕A1類にあたる。いずれもV期初頭と思われる。161は土器内部に赤色顔料が付着し、破損した断面にも顔料が付着している。顔料が内部に残されたまま廃棄され、破損した断面に顔料が付着している。150は大型壺の破片でIV期壺B類もしくはC類であろうか。152・153はIV期壺G類。153は口縁部を欠損し、胴部下半に打ち欠きが認められるが貫通はしていない。152は波状文が施文される。148はIV期鉢D類で丁寧なミガキの施された資料で胎土が白色系であり在地のものでは見あたらない。

V期初頭とした甕146は口縁部がくの字に外反するが、頸部に直立する部位があつて頸部における屈曲が弱い。胴部は最大径が胴部上半にあり倒卵形となる。胎土は砂粒を多く含む。口縁端部にはキザミがなく、打ち欠き痕が認められる。脚部は人為的に破損した可能性がある。147は受口状口縁甕の系譜を強く残す甕。ほぼ完存する良好な資料。口縁部が内傾し、顯著な平坦面をもつ。口縁部及び頸部における屈曲、文様帯が胴部上半で収束することから、IV期の受口状口縁甕である甕B類の形態、文様上の属性を継続するが、退化傾向にある資料と判断した。胴部最大径付近に波状文を施文するが連續せず痕跡的となっている。

VI期の資料は、詳細にみれば3段階程度に細分可能だが、大半はVI期でも後半とみなすことができる。主体となる資料より先行する様相の強いものとして、高环（175・201・262・263）があげられる。



出土状況図

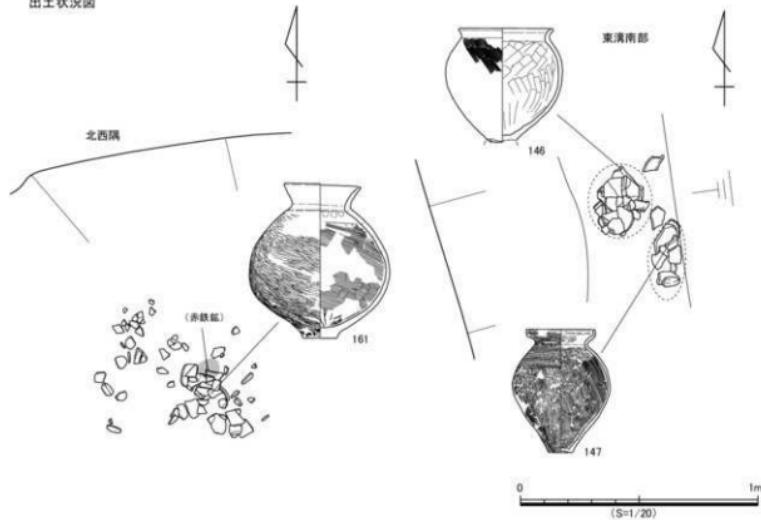
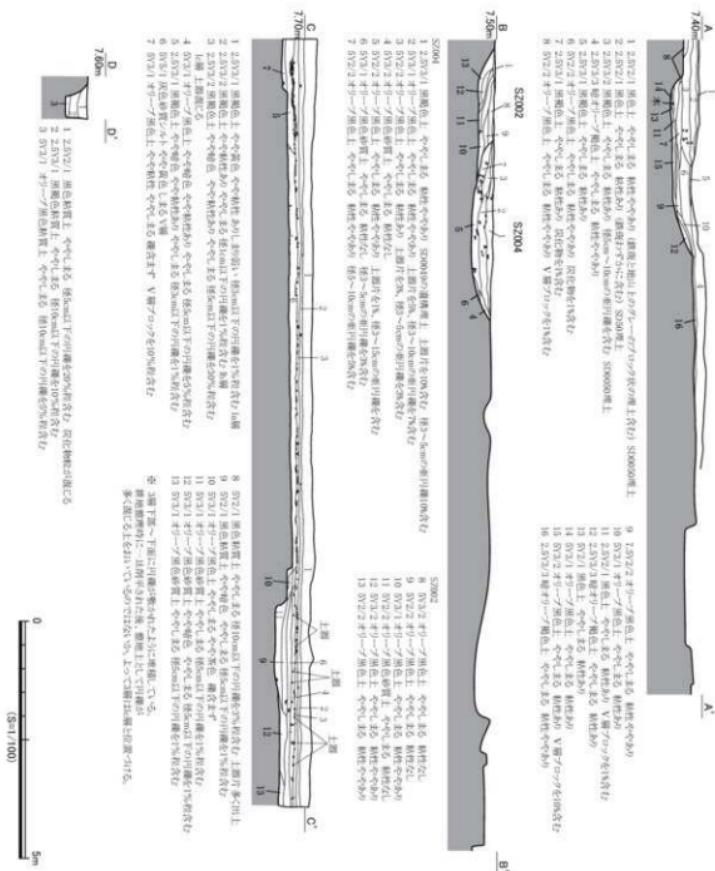


図25 S2004遺構図 (1)

壺(269)も先行する資料であろう。263は直線文が2段に施文され、円錐状に聞く脚部から腹部が強く外反する。201は高壺H1b類、ワイングラス形高壺で口縁部が直立し、壺部で比較的強く屈曲する。これとは逆に明らかに後出する資料は高壺(199)、小型丸底壺(229)、甕(272)があげられる。199は高壺D2e類に相当し、内面ではなく外面加飾のある例外的な資料。スタンプ文である連続溝文と二重の山形文がみられる精製品である。さらに時期不明の脚部資料として288があるが、上記の資料を除いた資料が準一括資料になりうると想定する。主体となる資料を以下に概観する。高壺はC1a類(176~



178)が大半を占め、口縁端部に内傾面をもつ184・278はC2a類。いずれも脚部まで完存する良好な例。184は脚部が円錐状に開き、裾部でわずかに内湾する。穿孔は中央より上位の位置に縦に2つあけられる。278は口縁部が直線的に外方へ開くが、端部は若干内湾して内傾面をもつ。脚部は長脚で強く内湾し、2穿孔の透孔が中位より上に位置する。2穿孔の例は他に器台を含めて180・181・198と多く認められる。176は内外面ともに強い被熱を受け、全面に煤が付着している。多重沈線をもつ高坏C3b類(185・186・190)がある。加飾の著しい高坏は199の他に191・276・277がある。191は連弧文をもつ資料で主体となる資料よりもやや後出でVI-1期に相当する。高坏B1c類(264・265)も少量ながら出土した。口縁部が強く外反する資料で、VI-1期に多いC1類と共伴するのであろう。280は器台B2類で、202は脚部を欠損するが、器台B類。279はおそらく口縁端部が垂下するB4類。多重沈線と山形文を組み合わせ、山形文は相対させる。203は器台C1類。脚部を欠損する。壺は全形が判明する資料がえられた。大型壺では161・217がほぼ全形が分かる。161・217は壺C類で、どちらも丁寧にミガキ調整され、大きさも酷似する資料である。161は底部がやや突出気味で器壁が厚いが、217は底部、器壁とも薄く仕上げられる。前述したように161の内部には赤色顔料が付着していた。小型壺では口頭部のみが残存する資料に219・220、胴部のみが残存する資料に222・223・226・227などがある。とくに胴部については、最大径が中央より下がるのが目立つ。口縁部を欠損するが216・221は壺Fの胴部であろう。鉢は様々な形態のものが出土した。鉢B1類(169)、鉢B2類(172)、鉢A2類(163・164)、鉢A3a類(165・166)、鉢C類(170・171)がみられる。鉢A3a類の出土が目立つ。施文のない鉢に163・164がある。163は摩耗が著しく文様の有無は判断できない。164は壺C類の口縁部整形と類似して、頭部に指頭圧痕が顕著に残る。鉢C類は出土量がきわめて少ないが、170・171は完存する資料である。甕にも多様な形態が認められる。大型の甕に242・246・247・273などがある。246・273は口縁端部に刺突文、胴部文様が刺突文と直線文をもつ甕D類。247は受口状口縁甕が退化した甕A3類の典型資料。242はS字甕A類で、甕E1a類。甕E1a類(285・286)は断片的資料ながら一定量出土している。243は口縁部を欠損するが甕E2a類であろうか。中型の甕に236~238、284がある。238は甕C類で頭部の指頭圧痕が特徴的で胴部最大径が胴部中央からやや下がった位置にあり、壺と類似する形態である。また、最大径付近にヨコハケを施す。236・284は甕B2類、237は甕C4類で鋭い断面を残すハケ調整が認められ、238と類似する。253は脚部内面に赤色顔料が付着する。271は波状文と直線文があり、V期前半の資料であろう。245はタタキのある甕で搬入品の可能性がある。その他、例外的な資料として手培形土器(254)、手捏ね土器(255・256)が出土している。257は丁寧にミガキのある資料で、手捏ねとは違い精製品と考え、合子形土器の可能性がある土製品とした。孔はないがSB031・032出土の蓋(900)とセットとなるとよいが、若干法量が異なる。230は壺の胴部片だが、胎土からみて生駒西麓産である。260は壺の口縁部片にもみえるが形が不明である。259は球形の胴部をもち、直線文・刺突文のあり方は他の資料と類似するが形はやはり不明である。

289は泥岩製の磨製石鐵。290は砂岩製の砥石。291は砂岩製の台石。表裏面下部に赤色顔料が付着する。

時期 土器の遺存状態から、供獻土器の可能性が考えられる土器は、V期初頭頃の146・147であるが、周辺の方形周溝墓がIV期であり、列状に並ぶという構築の連續性から多少の問題が残る。また、出土位置が東溝埋土1層下部から2層上部にかけてあり、周溝埋没過程での廃棄土器である可能性も考えられる。また、方台部上で検出した遺構について、竪穴住居跡の可能性があり、これがIV期と考えられることから、V期初頭の土器をSZ004と関係するものと考え、V期に構築されたものとの可能性もある。しかし、確実な供獻土器と思われるものが少ない状況や、SZ001からSZ003と列状に並ぶこと、

IV期後半の土器の出土量などから、とりあえずIV-2期と考えたい。

SZ005（遺構：図27、遺物：図97・98）

検出状況 A地区北部の中央西寄りに位置する。SZ006の西に隣接する。IV層上面の水田遺構を除去したのち、V層上面において検出した。V層と周溝埋土との差は明瞭で、検出は比較的容易であった。
方丘部 各辺は直線的で、ほぼ東西南北の輪線に沿っている。規模は、東西9.47m×南北9.5mで、平面形はほぼ正方形である。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 周溝は、北西隅部をのぞき、途切れることなく方丘部をめぐる。周溝南西隅部の幅は0.35m程度で、途切れそうになりながら残存している。このことから溝の途切れる北西隅も、本来は溝がめぐっていた可能性がある。周溝全体の平面形も、方丘部と同じく正方形に近いが、隅部では溝幅が狭くなる傾向にある。周溝各辺の幅を中央付近で測ると、北溝0.82m、西溝1.39m、南溝1.38m、東溝で1.61mである。周溝の壁面は、外周側・内周側とともに急傾斜を呈する。周溝各辺の中央付近の深さは、北溝0.38m、西溝0.36m、南溝0.53m、東溝0.57mで、傾斜地上方に位置する西溝及び北溝が浅くなる。地形の高い方の周溝が幅が狭く深い傾向は、SZ007でも認められることから、後世の水田造成及び耕作によって、水平に削平された結果生じた現象かも知れない。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落に続いている、水平方向の自然堆積があった経緯が窺える。

遺物出土状況 北溝内の底面より0.04m上から、IV期壺B2類(292)が横位で出土した。周溝壁からの崩落土の直上から出土している。出土状況から、本遺構に伴うものと判断した。西溝の底面付近からも、残存状態は悪いが、IV期壺及び甕の破片が出土しているが、供獻土器と認定可能な出土状況ではない。横位で出土した292は周溝壁崩落土との関係から墳丘内からの転落した状況を思わせるが、ほぼ水平状態を保持しており、転落による出土状況を示すのか偶然の結果としてかは疑問がある。後述するSZ007も含めて、周溝内から横位で土器が検出される例が多い。その多くが水平状態に近い状況で検出されていることからみると、転落したのではなくこの状態で最初から設置された可能性もある。周溝埋土上層からは、VII期～IX期の土器片が少量出土している。このほか、東側周溝の底面に密着して炭化材が出土した。

出土遺物 292はIV期壺B2類。胴部下半に穿孔（焼成後）を有する。胴部下半のハケ調整は底面まで及ぶ。胴部は5帯の直線文と波状文が胴部最大径の位置まで施文される。頸部には斜位の刺突文を2帯施文するが、その動作は廉状文的である。IV期の壺は297・298・303が出土したが、断片的資料である。IV期の甕は、A・B類とも断片的だが出土している。甕A類は293～296、甕B類は299・300が相当する。甕B類については搬入品の可能性が高い。295の口縁部は296の土器底部と胎土・焼成に類似性があり、同一個体の可能性がある。304は周溝上層から出土したVI期の手焙形土器と思われる。307は泥岩製の砥石。308は玉飾製の石鏡B1類である。

時期 北溝から出土した土器や、周溝と重複する土坑の時期からIV-2期である。北溝によって破壊されているSK00348からは、III期の壺が正位で出土している（305）。305は口頸部を欠損する壺で、沈線内を疑似繩文で充填する稀少な資料である。南東隅部では周溝埋土を破壊する土坑2基（SK00361、SK00362）を検出した。これらの土坑、とりわけ周溝埋土上層で検出したSK00361の時期が、周溝の埋没時期の下限を示す可能性がある。

SZ006（遺構：図28、遺物：図98）

検出状況 A地区北部のはば中央で、SZ005、SZ007、SZ008に挟まれるように位置する。IV層上面の

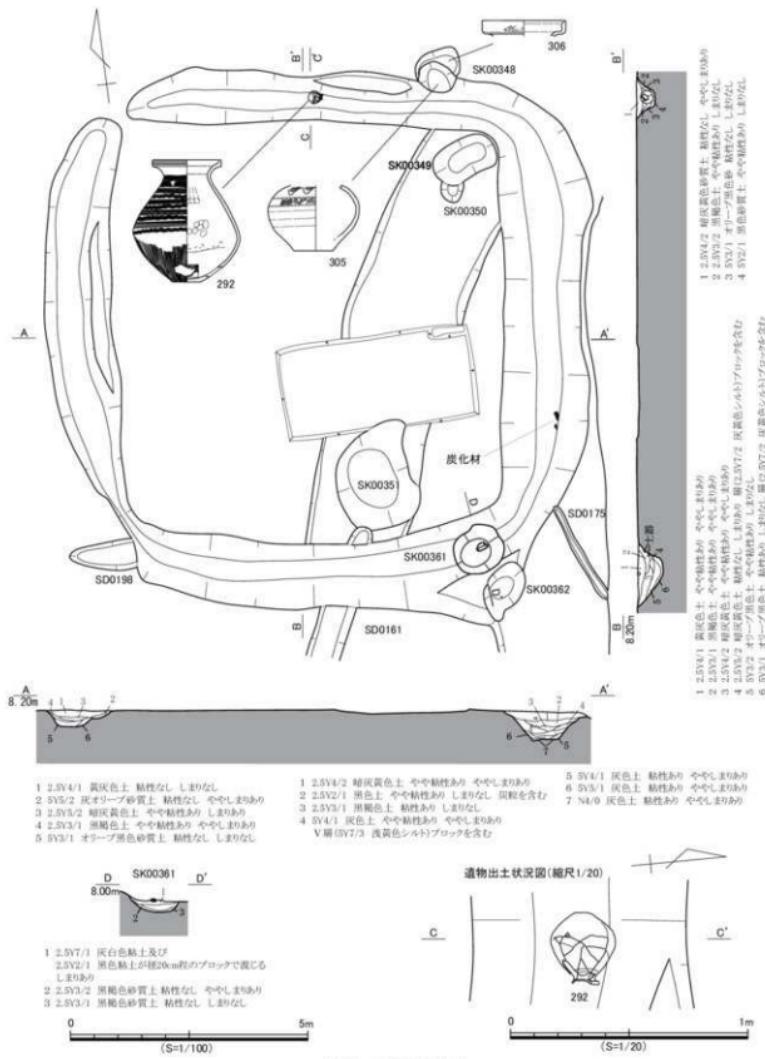


図27 S2005遺構図

南北溝により破壊されているため、残存状態はよくない。IV層除去後V層上面において西側及び南側の周溝の一部を検出し、東側及び北側の周溝は、再精査により検出したが、平面形は不明瞭であった。方台部 各辺は直線的で、隅部は周溝が途切れる。規模は、東西6.92m、南北10.34mで、南北に長い長方形を呈する。墳丘や主体部は残存しない。

周溝 周溝の形状は、南溝のみ外側に向かって膨らむが、他はほぼ直線的である。周溝の上面幅を各辺の中央付近で測ると、北溝で0.94m、西溝で0.95m、南溝1.92m、東溝で0.89mである。周溝壁面の断面形は、外周側・内周側ともに緩やかで、周溝各辺の中央付近の深さは北溝0.32m、西溝0.36m、南溝0.31m、東溝0.24mである。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落に続いて、水平方向の自然堆積があつた経緯が窺える。西溝では、内周側からの土砂供給が著しい。

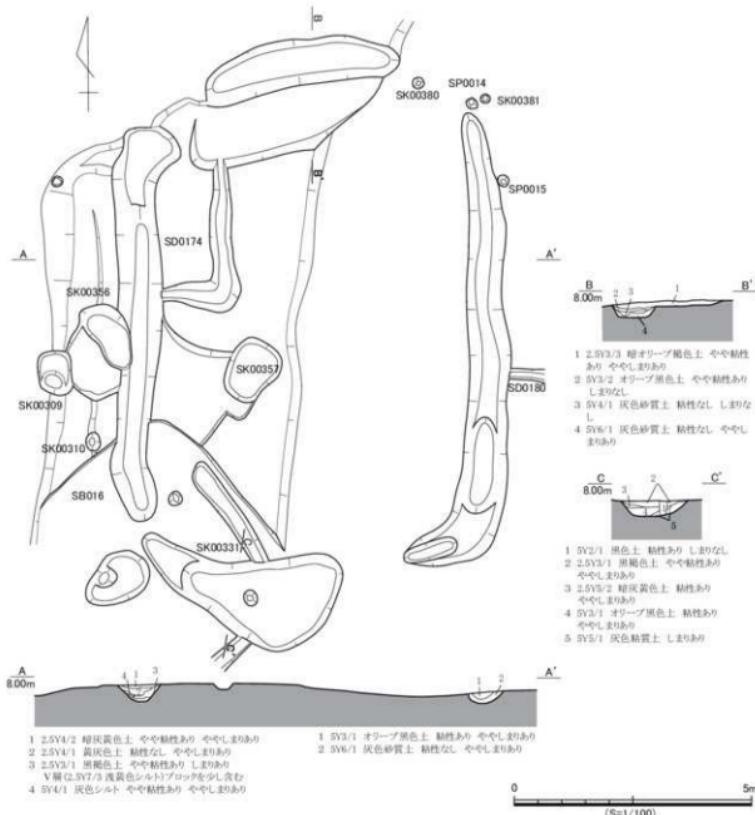


図28 S2006遺構図

遺物出土状況 周溝内から土器片が少量出土しているが、器種や時期を特定できるものは少ない。

出土遺物 図示した土器は、北溝と東溝から出土した資料である。図示した資料は、VI期～VII期相当の資料で、高环D2b類(309)、甕F4類(310)である。方台部直上のIV層からも同時期の資料が得られている。2点の資料は、近辺に位置するSB016に関連する可能性がある。

時期 主軸方位と規模及び平面形が似るIV期のSZ008と同時期の可能性がある。一方で供献土器がなく、周溝の四隅が切れ長方形の方台部となることから、II期からIII期前半の可能性も考えられる。しかし、南西・南東隅の周溝の形状が本来は、連続するように見えることから、IV期の可能性が高い。

SZ007 (遺構: 図29、遺物: 図98・99)

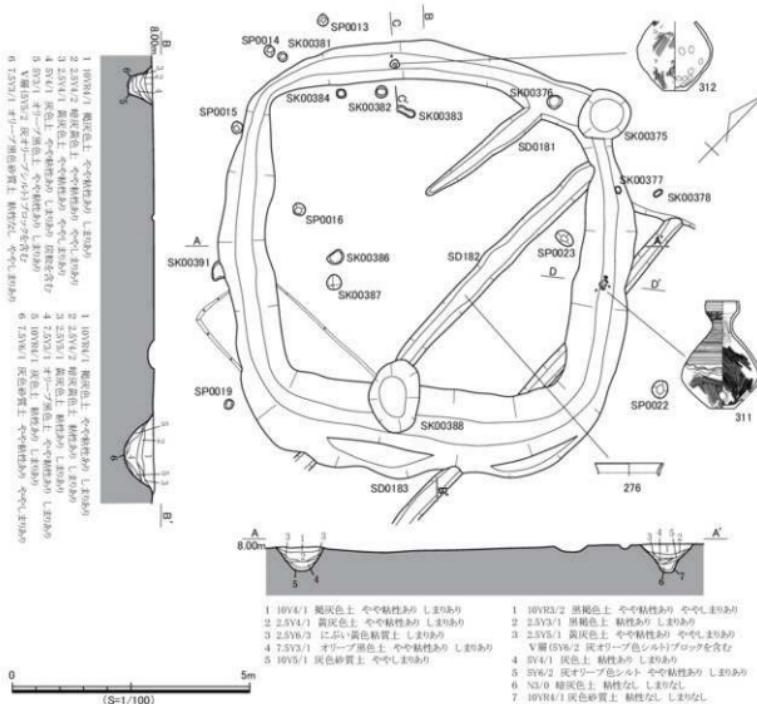
検出状況 A地区北部のほぼ中央で、南東に向かって下る緩やかな傾斜地にあり、SZ006、SZ008、SZ012に接するように位置する。他の方形周溝墓との重複関係や周溝の共有はない。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。

方台部 各辺は直線的で、隅部は丸い。規模は7.38m×7.34mで、平面形は正方形に近い。周辺の方形周溝墓の軸がほぼ南北軸に沿っているのに対し、この方形周溝墓の軸は約45° 西方に傾斜し、異質である。墳丘や主体部は残存しない。

周溝 四辺を囲繞する周溝は、それぞれの辺の中央付近で、外に向かってやや膨らんで幅広となる。周溝を含めた全体の形状は、やや丸みを帯びた方形を呈する。周溝幅は、傾斜地下方の北東及び南東側が広く、周溝壁面の断面形も、傾斜地下方がやや緩やかである。周溝は四隅で浅くなるが、途切れることなく方台部を全周する。周溝の深さは、傾斜地の上方である南西及び北西側は0.5mとやや浅く、傾斜地下方である北東及び南東側は0.6mで深い。周溝内埋土の堆積状態からは、下層において構築直後と思われる灰色系砂質土、中層において周溝壁面もしくは方台部から供給されたと考えられる黄色系の砂質土、上層においてゆっくりと堆積したとみられる黒褐色土の堆積がみられる。断面形はV字形にちかく残存状況は比較的良好である。最上層の第1層は、堆積の厚さが0.2m前後と比較的厚く人為的な堆積である可能性を残す。

遺物出土状況 北西側及び北東側の周溝埋土中層から、IV期の土器が計4個体出土している。北西側周溝では、壺の体部下半から底部にかけての破片(312)が、溝底部から0.1m上で正位で出土した。北東側周溝では、IV期壺A2類(311)が溝底部から0.1m程度で横位で出土した。さらにこの土器の下方から、別個体のIV期壺A2類口縁部片(313)が出土した。北東側周溝では、さらに北側隅部付近で、やはり溝底部から0.1mほどの高さで、IV期甕B1類(316)が1個体出土した。以上の土器は遺構底面から0.1mほど上あたりから出土している。いずれも中層からの出土で、壁面から崩れた土砂が周溝底面に0.1m程度堆積した時期に、周溝内に土器を配置した可能性、あるいは方台部から転落した可能性を想定し得る。311・312が出土状況からみて、供献土器であろう。気になるのは位置と出土状況である。両資料は位置が離れ、その出土状況は正位と横位と違いがみられる。SZ005でも述べたが、転落したには正位・横位に關係なく、傾斜がなくきちんと据え置かれた状況にみてとれる。また、両資料とも完存品ではなく半完形品であることが示唆的である。完存品が周溝周間に配置されていたならば、転落して多少、破損した破片が周囲に散布しているはずである。しかし、そうした状況は確認できなかった。以上のことからSZ007においては最初から破損させた土器を断定はできないものの周溝内に設置した可能性があるのではなかろうか。311・312は位置関係や出土状況から設置した時期の違いを示唆しているものとも考えられ、313についても同様である。

出土遺物 311は胴部下半には穿孔(焼成前)を有する。312は口縁部を欠損するが、IV期壺A1類で胸



遺物出土狀況圖(縮尺1/20)

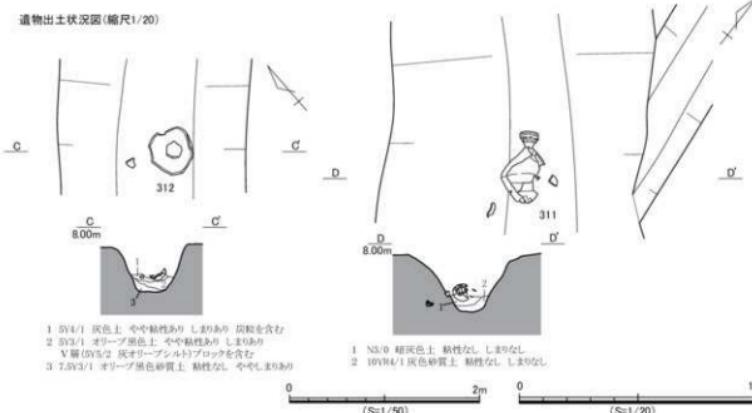


図29 SZ007遺構図

部には文様がなくハケ目調整のみである。311と313はいずれも袋状口縁を呈し、313は頭部に刺突文をもつ。胴部は複合櫛による直線文と波状文がみられる。316は底部は残存しない。胴部には直線文と刺突文を交互に施す。IV期の資料は311～313・316の他に、甕314・315・317・318が出土した。これら以外の資料はVI期の資料である。

時期 周溝から出土した土器から、IV～2期と考えられる。なお、SK00388が周溝埋土1層を破壊していることから、最上層の堆積時期の下限（＝周溝の埋没時期）は、SK00388出土遺物（S字甕）の示す年代に規定される。ここから出土したS字甕は、口縁部の形状から甕E2類に分類され、台付甕の台部が正位で埋設してあったので、周溝の埋没時期はVI期～VII期であったと推察し得る。

SZ008（遺構：図30、遺物：図99）

検出状況 A地区北部のはぼ中央で、南東に向かって下る緩やかな傾斜地にあり、北西でSZ006、北辺でSZ007、東辺でSZ010と接し、これらに挟まれるように位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。周溝、方台部ともにVI期の堅穴住居跡（SB021・022・039）と重複し、堅穴住居による削平が著しい。また、方台部内にはSZ009とした周溝を検出したが、他の方形周溝墓との周溝の共有はない。

方台部 各辺は直線的である。規模は東西7.85m×南北10.5mで、南北に長い長方形を呈する。墳丘や主体部は残存しない。

周溝 周溝は、北西及び南東隅部で切れるが、北東隅部は非常に浅いが溝が連続しているため、本来は接続していた周溝が、削平によって結果的に途切れた可能性がある。とくに南東隅部についてはSB039による削平を受けているので、本来、周溝は接続していた可能性が高い。

周溝の形状は、北溝と東溝の幅がほぼ一定で直線的であるが、西溝と南溝では、辺の中央付近で外側に向かって幅を大きく広げる。周溝幅は、北溝で1.60m、東溝で1.75mである。幅の広がる西溝中央で3.78m、南溝中央で2.20mを測る。周溝は全体的に浅く、壁面の断面形は緩やかな形状を呈する。周溝各辺の中央付近の深さは、北溝0.31m、西溝0.24m、南溝0.38m、東溝0.52mで、基盤層の等高線がやや下る東側が深い。平面形状及び断面形状は、北溝、東溝が比較的原形を保持しており、残る西溝、南溝は後出する堅穴住居による削平が著しかったと考えられる。

周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落と、水平方向の自然堆積があつた経緯が窺える。しかし、西溝、南溝及び東溝では、堅穴住居跡（SB021・SB022）と重複する部分の最上層から、住居の貼床を検出した。周溝埋土の埋没が完了したのに、住居が構築されたと判断できるが、いずれの住居跡も時期決定資料には含まれていない。住居埋土中の土器には、弥生時代中期末・後期初頭にさかばるものもあるが、多くはVI期後半段階の所産である。

出土遺物 埋土中から出土した土器4点を図示した。325はVI期後半の壺A3類。口縁部内面に貝殻施文による羽状文がみられる。322もVI期の壺。324はIV期甕B類、323は繩文時代晩期末期の資料である。いずれも断片的資料であり、供獻土器と認めるることはできない。

時期 周辺の周溝墓との位置関係から、IV期の可能性が高い。

SZ009（遺構：図31、遺物：図99・100）

検出状況 A地区北部のはぼ中央で、南東に向かって下る緩やかな傾斜地にあり、SZ008方台部内で検出したが、一部調査区外に広がる。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。調査で確認した重複関係は、SK00400よりも古く、SB021やSB022などよりも新しい。このため、間接的

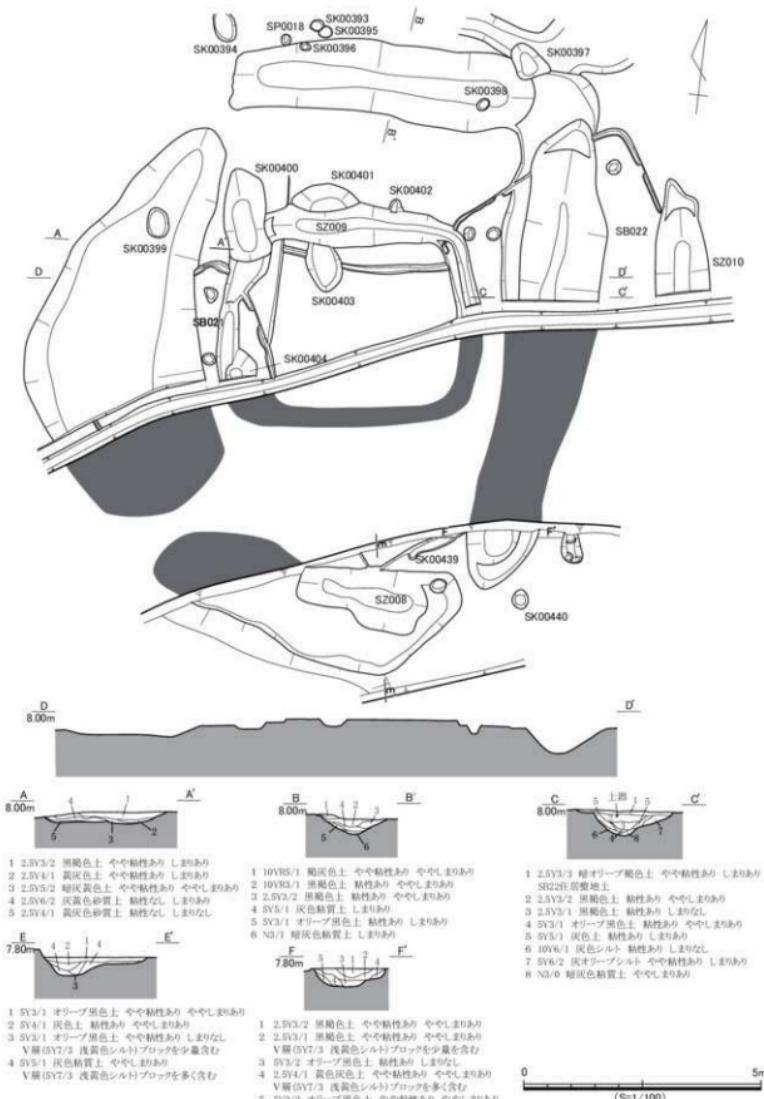


図30 S0208遺構図

にSZ008よりも新しい。

方台部 各辺は直線的で、隅部は丸い。方台部は南に向かってやや幅を広げるが、南側は調査区外で不明である。方台部の東西方向は、溝の底面で5.0mを測る。墳丘や主体部は残存しない。

周溝 周溝幅は、北溝で0.86m、東溝で0.46m、西溝で0.55mで、北溝の幅が他に比べて広い。周溝底部は、北西隅で特に浅くなる。各辺の溝中央付近の深さは西溝0.18m、東溝0.20m、北溝0.53mで、北溝が特に深い。周溝壁面の断面形は北側で急傾斜となるが、東西では緩やかである。以上のように北溝と東西溝では平面形状及び断面形ともに違いがみられる。

周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落と、水平方向の自然堆積があつた経緯が窺える。しかし、北溝周溝の最上層からは、VI期の土器が出土しており、廃棄の際に人为的に土砂を埋めた可能性を残す。溝の埋没時期は土器の年代が示すVI期であろう。

遺物出土状況 北溝の埋土最上層から、VI期の器台B2b類(326)が横位で、壺A3類(339)が正位で出土した。VI期に属する土器は、このほかにも多数出土しているが、埋土最上層に集中しているので、遺構の構築時期を決定する資料にはならないが、時期的にまとまりのある資料と考えられ、周溝の埋没時期を示唆する。

出土遺物 周溝内埋土上層からは、VI期後半段階の壺A類(339～341)、高环B2a類(331)、器台B1b類(332)が主な出土資料である。335は摩耗が著しい小片で、詳細な判断は避けたいがIV期の壺B類の可能性が高い。SK00400からは、VI期後半の壺A類(327)が出土している。327の口縁部内面には扇形文が施文される。しかし、V期前半に相当する長脚の高环B1a類(328)も出土しており、SK00400出土資料は同時性が低いといえよう。342は砂岩製の砥石。

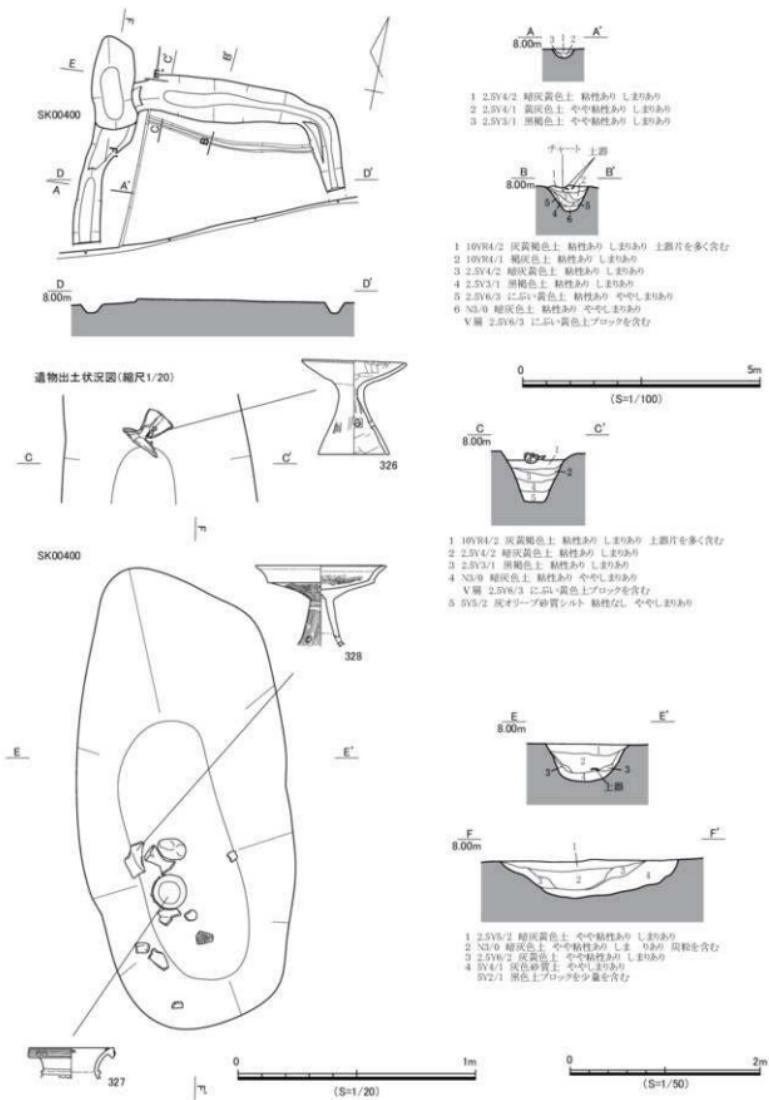
時期 周溝底部付近からまとまった土器の出土はないため、土器から所属時期を決定することはできない。この周溝墓の北西隅を破壊する土坑SK00400からは、V期前半の高环(328)が出土している。この周溝墓に破壊されているSB021とSB022では、VI期の土器片が埋土中から出土しているのみで、時期決定の資料としては不十分であるが、当遺構の上限をVI期に求めることはできる。これにより、2基の方形周溝墓と3軒の住居跡の新旧関係を、遺構の重複と出土遺物の年代から勘案し、SZ008が古く(IV期・V期には周溝埋没)、次にSB021・SB022・SB039(VI期)、その後SZ009(VI期)が構築され、SK00400(VI期後半以降)が掘削されたと推定することもできる。この場合、住居とSZ009は比較的短期間のうちに、すなわちVI期の時間幅の中で構築されたことになる。

SZ010(遺構:図32、遺物:図100)

検出状況 A地区北部のはぼ中央で、SZ008やSZ009よりもやや低い位置になる。1/2以上が調査区外となるが、西側はSZ008と接する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。東溝は、調査区南壁面の観察によって確認し、平面を精査することで北溝とともに検出した。東・北溝の平面形はやや不明瞭であった。

方台部 各辺は直線的で、隅部は丸い。方台部の東西方向は、溝の底面で4.11mを測る。墳丘や主体部は残存しない。

周溝 周溝は北西隅部で途切れ、北東隅部では極端に浅くなる。周溝の形状は、外側に向かって極端に膨らむことはなく、直線的である。周溝幅は各辺の中央付近で測ると、北溝で1.14m、西溝で1.20mである。周溝の壁面は外周側、内周側とともに断面形が急傾斜を呈する。周溝の各辺の中央付近の深さは、北溝0.25m、西溝0.50m、東溝0.32mである。東西溝に比べて北溝は、幅、深さとともに規模が小さいが、SB022との重複が原因と考えられる。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂



崩落と、水平方向の自然堆積があった経緯が窺える。

遺物出土状況 東溝の埋土上部から、少量の土器片が出土しているが、周辺からの混入と思われる。

出土土器 3点を図示した。343は壺A3類で口縁端部に円形浮文のある資料。器台とした344はX字状の脚部をもち、VI期よりも後出的な資料であろう。345は摩耗が著しいが、甕C4類であろう。

時期 出土土器からの時期決定は困難であるが、遺構の重複関係から、SB022より新しく、主軸方向と規模が似るSZ009と同時並行であるVI期の可能性を想定し得る。

SZ011（遺構：図33・34、遺物：図101）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、北部1/3程は調査区外となる。SZ012、SZ016、SZ018の3基の周溝墓と連接し、4基の方形周溝墓が田の字状に並ぶ。このうちSZ011が、周溝の重複関係から最初に構築されたものと判断した。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。

方台部 各辺は直線的で、確認できた南西隅部は丸い。規模は、北の調査区外へ広がるため、南北方向は不明であるが、東西方向は約10mである。墳丘・主体部は残存しない。

周溝 周溝の軸は東西南北にはほぼ沿っている。周溝は隅部で浅くなることなく方台部をめぐる。周溝の形状は、外周側で外に膨らむことなく直線的で、隅部は方台部に沿いつつ丸くなる。周溝の上面幅は各辺の中央付近で測ると、西側で1.62m、南側はSZ012の北側周溝に切られるが、残存する上面で1.50mである。周溝の壁面は外周側がやや緩やかで、内周側を急傾斜を呈する。周溝の各辺の中央付近の深さは西側0.35m、南側0.48mである。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落と、水平方向の自然堆積があった経緯が窺える。

遺物出土状況 南溝中央底面付近から、IV期壺A2類（346）が横位につぶれた状態で出土した。IV期壺A1類（347）も東溝から出土しており、供獻土器の可能性が高い。周溝埋土下層から出土した遺物は極端に少ないが、西溝や南溝の周溝上層部からは、V期からVI期全般に相当する土器片が出土して

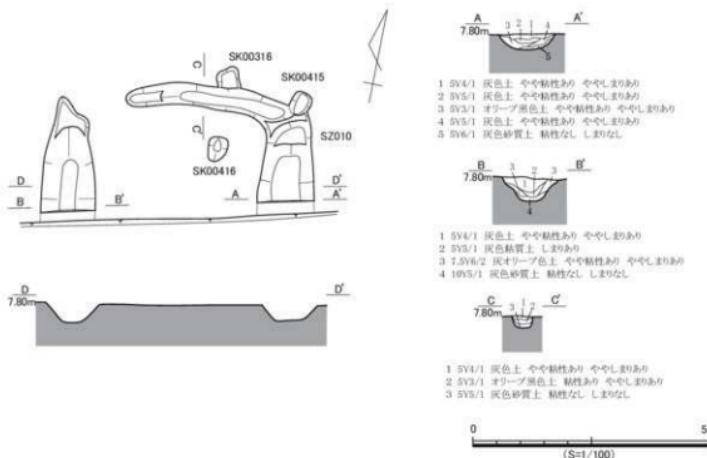


図32 SZ010遺構図

いる。

出土遺物 349はいわゆる湖南型甕でIV期甕B2類、353はVI期前半の甕C2類、350は小片だがV期の器台であろう。348は古井式の壺口縁部、352はV期初頭の高环脚部と思われるが、小片で判断が難しい。351はVI期の手捏ね土器である。347は口縁に2条の凹線文をもつが胴部はハケ目調整のみで、文様は認められない。346は袋状口縁を呈し、頸部～胴部に刺突文・直線文・波状文が認められる。刺突文は3帯、直線文は4帯施文する。349は口縁端部に刺突文、胴部にも文様をもつが、胴部は摩耗が著しく文様が不明瞭である。胴部中央の波状文が最下段の文様であろう。上半の直線文とともにやや粗雑な感じである。351は口縁端部を外へ引き出す手法が特徴的である。354は花崗岩製の叩石類。表裏面に砥面があり、裏面には敲打痕が見られる。

時期 南溝から出土した壺(346)の時期や、遺構の重複関係から、SZ012及びSZ016に先行すると考えられるため、IV-1期に相当すると判断した。

SZ012（遺構：図35・36、遺物：図102・103）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。既設用水路により一部調査できなかつたが、ほぼ全形を確認することができた。SZ011、SZ016、SZ018の3基の周溝墓と連接し、4基の方形周溝墓が田の字状に並ぶ。周溝の重複関係からSZ011より新しく、SZ017より古いと判断した。

方台部 各辺は直線的で、隅部は丸い。方台部の南北方向は溝の底面で10.47m、東西方向は約9.5mを測る。墳丘や主体部は残存しない。なお、南西部で周溝出土土器とほぼ同時期の土器が正位で出土したSK00406がある。

周溝 周溝は南西隅部でやや浅くなり、途切れることなく方台部をめぐるが、東溝はSZ017によって周溝外縁部が削平されている。内周側は方台部の形状を反映して、隅部が顕著に屈曲するが、外周側は丸みを帯びる。断面形は逆台形状を呈し、墳丘からの流失土の供給が著しかったようである。周溝の上面幅を各辺の中央付近で測ると、北溝で1.77m、西溝で1.97m、南溝で1.53mである。東溝は約0.5m残存していた。各周溝の中央付近の深さは、北溝0.53m、西溝0.39m、南溝0.42m、東溝0.52mである。SZ011の南溝と重複する北溝、SZ017西溝と重複する東溝が、南・西溝と比べてやや深い。SZ011と重複する北溝、SZ17と重複する東溝の上層からV期の土器の出土が顕著で、上層の埋没が比較的ゆっくりと進行して、VI期に埋没したと考えられる。

遺物出土状況 各周溝土器から出土したが、北溝埋土最上層からは比較的多くの土器が出土した。この土層は、SZ012がSZ011と同レベルまで埋没した後、凹地状になった部分に堆積した土層であるが、V期以降の土器が廃棄されたように多く出土している。

出土遺物 周溝からIV期壺A1類(355)が出土した。胴部中央に打ち欠き穿孔があり、供獻土器の可能性が高い。西溝周溝底部付近で破片が散逸した状況で出土した。358は周溝上層から出土したIV期甕A類。V期に二次的移動を受けた可能性がある。356・357もIV期の資料。362はV期からVI期の資料であろう。SK00406の底部付近から、IV期の壺(361)が正位で出土している。南溝の上層からは、無柄で孔のない磨製石鏟(364・365)が出土した。弥生中期の所産と考えられるので、本遺構の時期と齟齬がないが、出土状況からは、本遺構との関連性を窺うことはできない。364は泥岩製、365は凝灰岩製である。355は口縁部を欠損するが胴部文様が認められないため、IV期壺A1類と考えられる。356は口縁部に凹線3条、頸部に凹線6条が認められ、その間を刺突文で充填する。IV期の資料は他に甕A類(358～360)、甕B類(357)がある。361は小型の壺で口頸部を欠損するが、人為的に破損させ

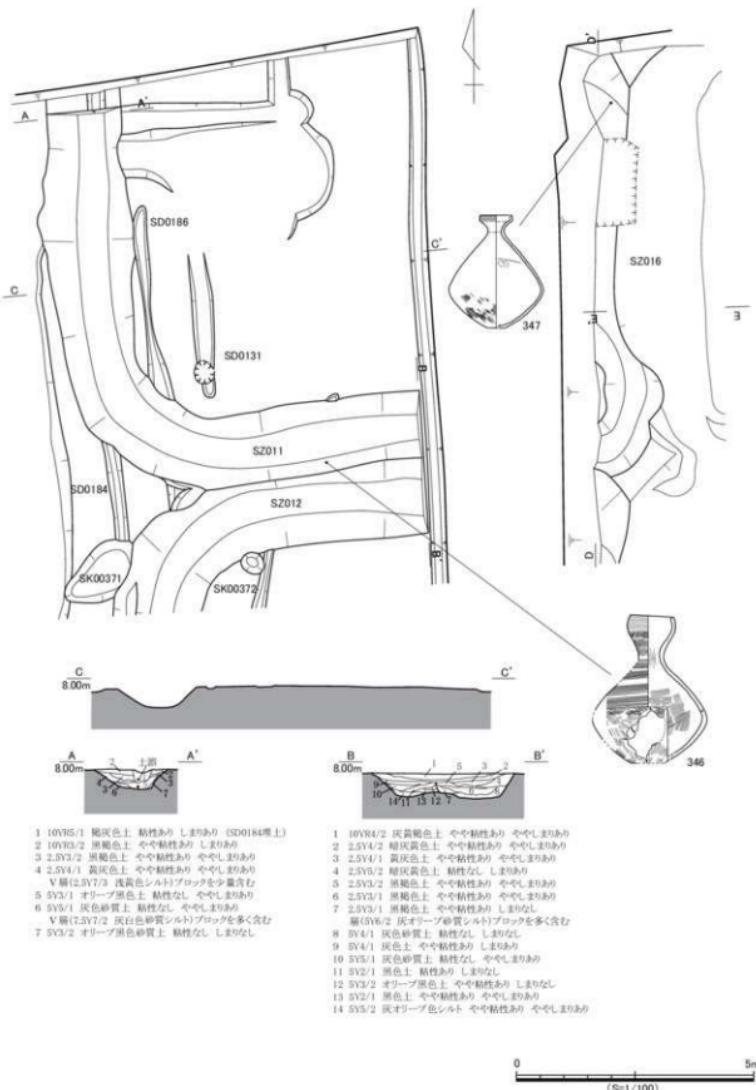


図33 SZ011遺構図（1）

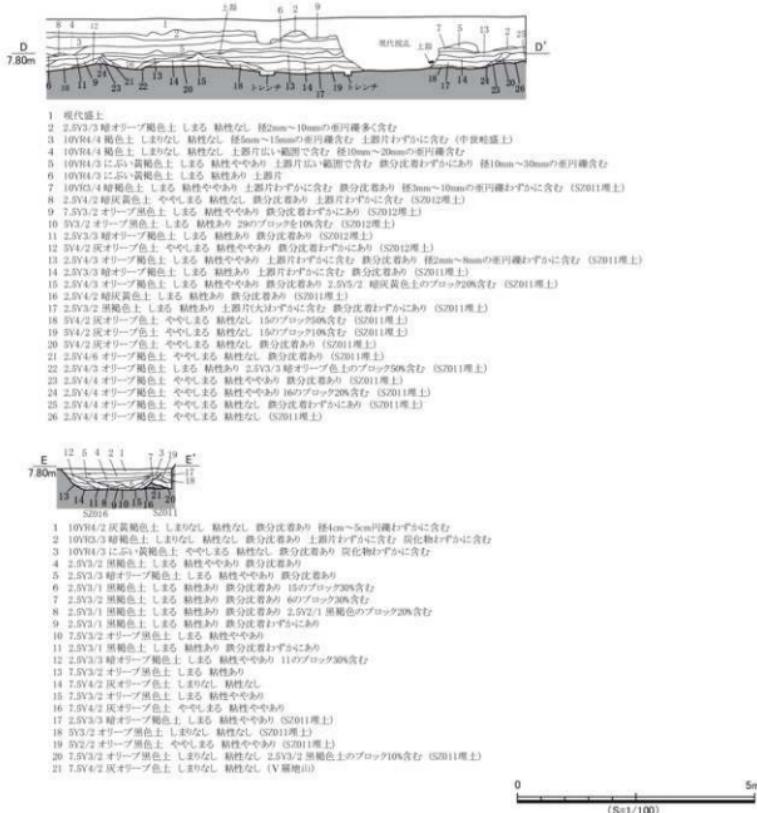


図34 SZ011遺構図（2）

た可能性がある。胸部上半に波状文と直線文がみられる。胸部最大径が胸部中央よりやや下がった位置にあり、そこから直線的に底部にいたる。

以下の資料は北溝最上層出土の資料でSZ011との帰属を明確にできない資料である。周溝墓と関連のある資料は366のみである。366はIV期壺A1類で胸部中央に打ち欠き穿孔を有することから、SZ011もしくはSZ012に由来する供獻土器であろう。残る資料はV期後半からVI期の資料であることから、V期後半において周溝内を再利用された結果として周溝内に残された可能性がある。この場合、366はSZ011とSZ012の新旧関係により、SZ012に帰属する可能性が高い。368~372はV期高壙B類。369は波状文が認められる。367はVI期高壙G1類。375~377はVI期壺A類でいわゆる受口状口縁を呈する資料。屈曲が明瞭で、V期に位置づけられる。また、363は高壙A1類でV期初頭の資料である。残

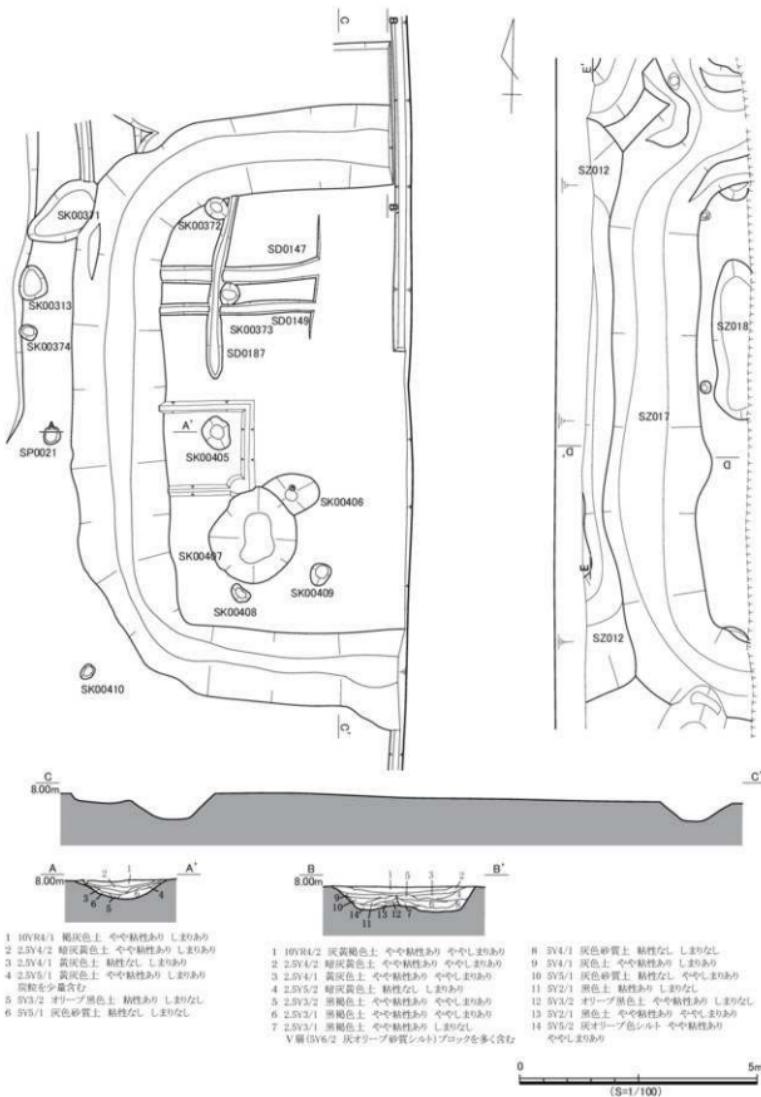
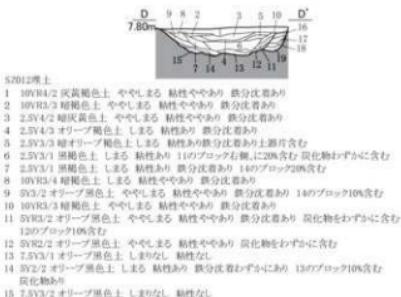


図35 SZ012遺構図



- SZ017 (上)
 16. 2.5V3/3 暗オリーブ緑色土 しまる 粘性あり 鉄分沈着あり
 17. 2.5V3/2 黑褐色土 しまる 粘性あり 鉄分沈着あり
 18. 2.5V3/2 黑褐色土 しまる 粘性あり 190プロック10%含む
 19. 2.5V3/2 オリーブ黒色土 しまる 粘性ややかみ

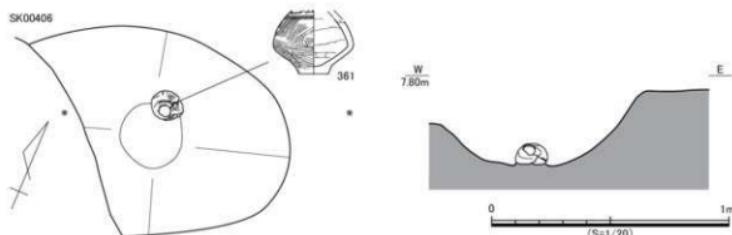
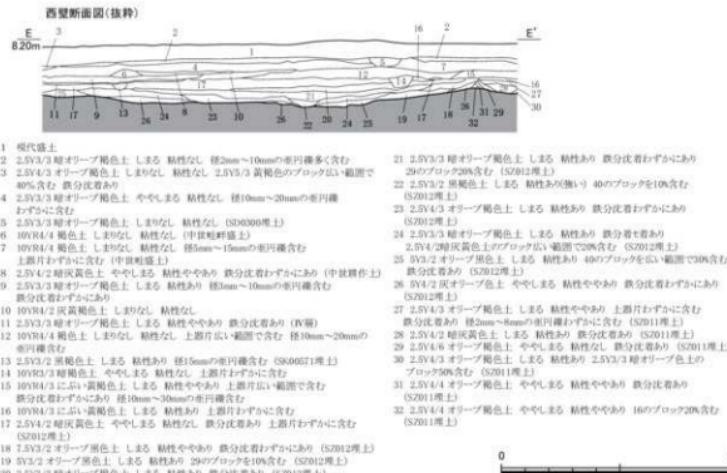


図36 SZ012・SK00406遺構図

る373・378などがVI期後半の壺・甕だが、前述のグループよりも時期が下がる資料である。

時期 本周溝墓構築に関連する資料は355～357の壺A1類、A2類、甕B2類でSZ011と共に、IV期と思われる。周溝の土層断面観察からは、SZ011が古くSZ012が新しいためIV-2期と考えられる。

SZ013（遺構：図37、遺物：図103）

検出状況 A地区北部のはば中央で、IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。SZ009の南東に位置するが、多くが未調査部分にかかり、検出したのは南西隅部を含む西溝から南溝の一部と、北溝及び東溝の一部である。これらの遺構の位置関係や埋土の状況から、同一の遺構、方形周溝墓となる可能性があると判断した。

方台部 西辺は直線的で、南西隅部はやや丸い。方台部の規模は、各溝の推定範囲から南北約7m、東西約6.5mで、調査区内では埴丘や主体部は確認できなかった。

周溝 周溝は幅0.6～0.7mで深さは0.17mと浅い。断面形はやや皿状で北側の壁面が比較的立ち上がりが急なのに対して、南側の壁面はなだらかで顕著な立ち上がりが認められない。上部遺構による掘削による影響もあるが幅、断面形とともに他の方台形周溝墓とはやや異なる。なお、北東隅部では、周溝が途切れている。

遺物出土状況 埋土中から土器片が出土したが、図示できたのは1点だけである。

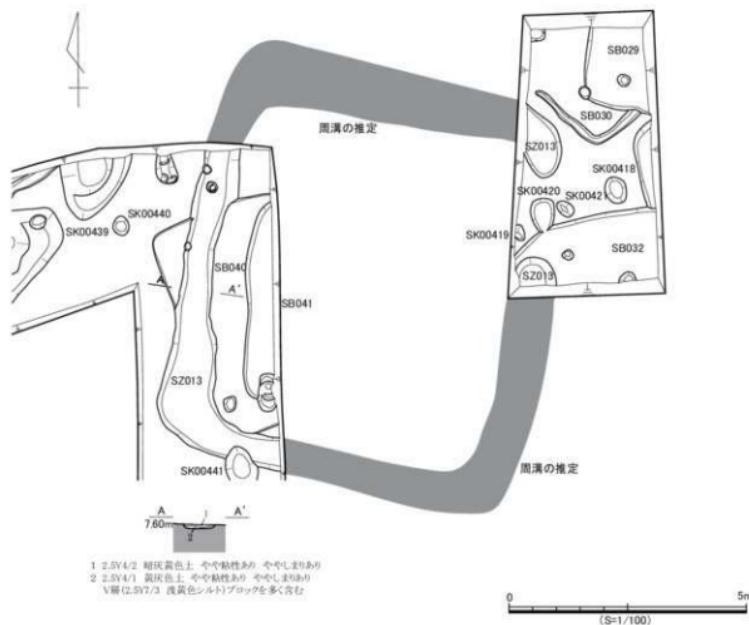


図37 SZ013遺構図

出土遺物 379は高環D2d類と思われる。

時期 出土した遺物では、遺構の時期決定は困難であるが、SZ006やSZ008と並ぶような位置関係にも見えることから、IV期頃の時期を想定したい。

SZ014（遺構：図38、遺物：図104）

検出状況 A地区南部のはぼ中央で、IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。幅が狭い調査区のため、東溝と西溝の一部を確認ただけであるが、遺物の出土状況と2条の溝が平行する位置関係にあることなどから方形周溝墓と考えた。検出時においては、西溝部分は方形プランに近いものとの認識があつたため、四分割して掘り下げを行つたが、最終的に溝状遺構となり、東溝の存在から方形周溝墓と判断したものである。

万台部 万台部はVI期の遺構によって削平を受け、墳丘は残存していない。また、万台部の南東部外縁はやや弧状を呈し、周溝の外縁とは一致していない。こうした状況は、周溝埋土1層とした部分が、周溝とは異なる別の遺構である可能性を示唆するが、調査では一連の堆積と判断した。主体部についても、その可能性が考えられるような土坑は確認できなかつた。

周溝 東溝は幅約1.2m、深さ約0.4m、西溝は幅約2.15m、深さ約0.53m残存し、断面形は最も残りのよいC断面ではV字形となる。いずれも黒褐色土系の土層が堆積し、堆積は徐々に進行したと考えられる。A、B断面では内壁面に沿ってV層ブロック土が混入した土層が堆積していることから、墳丘や壁面の崩落土が、構築直後及び周溝や埋まつた段階と数回に分かれて堆積している。ただし、A断面では前述したように5層が一段高い箇所の最下層まで堆積しているので、その埋没環境について慎重な判断が必要である。なお、当初は東溝が屈曲し、南溝の一部と思われた溝状遺構は、VI期甕B2類（393）が逆位で出土したことから、別の遺構と判断しSD0014とした。

遺物出土状況 東溝埋土上層からIV期の壺が正位及び横位で出土した。上部を後世の遺構で削平されしており、西溝との対比では中層以下と思われる。これは、供獻された土器が周溝内に転落したものと思われる。

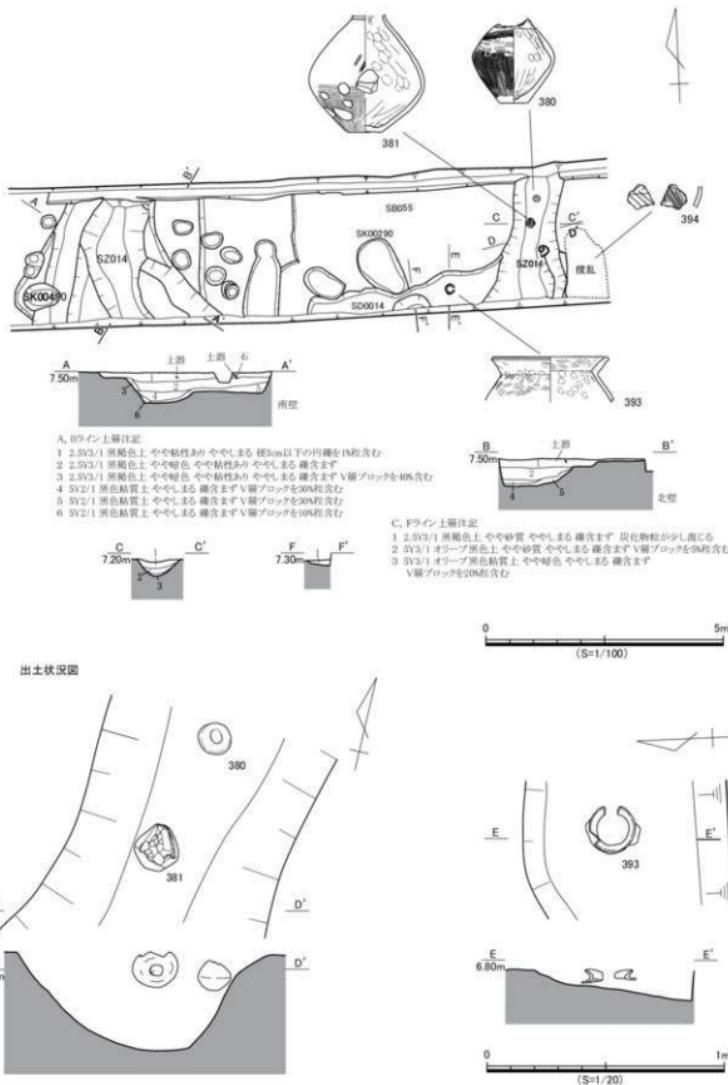
出土遺物 東溝から380のIV期の小形壺の壺G類と381の壺A類が出土した。両資料とも口頭部を欠損し、380は正位の状態、381は横位の状態で出土した。381は胸部中央にも穿孔がある。周溝底面からは0.35mほど浮いている。対応する土層が2層で周溝から流入した土層であることから、転落した可能性がある。その他、東溝上層からは周溝の周溝墓と同様、V期後半からVI期の資料が多く出土した。

西溝からは、IV期～VI期に相当する資料が出土した。下層からはIV期の382・384・389、中層からはV期の390・391、上層からはVI期の385～388・392が出土し、堆積順序と出土土器の時期がほぼ対応する。IV期382・384は断片的資料ばかりで、供獻土器を示唆する資料ではない。386は斜格子文がみられる。390・391はそれぞれ甕B類、甕A類で、390はV期に特にみられる甕である。387は壺G類で、VI期後半でも終末に重心のある資料と考えられる。

時期 東溝から出土した380・381の出土状況や穿孔をもつ土器から、これらを供獻土器と考え、構築時期もIV～2期と考える。

SZ015（遺構：図39、遺物：図105・106）

検出状況 A地区北部のはぼ中央で、V層上面において検出した。北西隅部及び北東隅部から東溝の一部を確認ただけであるが、形状を復原すると方形に区画した溝となりうことから、方形周溝墓と判断した。



方台部 大半が調査区外となるが、確認した範囲では、墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 確認した東溝では、みると幅0.85m、深さ0.28mである。耕地整理時の削平が著しい地点であるため、周溝の深さが他の周溝墓に比して浅く、また、幅も狭い。全形が不明な部分を多く残しているが、東溝南端がやや西側へ向を変えているので、これを南東隅と仮定すると全長7m弱の規模に復原可能であるが、周溝墓としては小さい。

遺物出土状況 東溝方台部側壁面から壺(397)が出土した。底面近くから転落したようだ状態で出土した。他は埋土中から出土したものである。

出土遺物 図示した資料はすべて東溝から出土したものである。このうち395・396・398がIV期の資料である。出土状況が判明するのは397の壺のみである。397は断面が摩耗しているので判断が難しいものの、口頭部を人為的に破損させた可能性のある壺で胴部を完存する良好な資料である。頭部には小さな未貫通の穿孔があり、胴部上半にヘラによる鋸歯文が2帯施される。V～VI期であろう。396はほぼ完形に復元できた鉢。口縁部に回線文・刺突文がみられ、壺A2類と同様の文様構成をもつ。395と398は強いヨコナデによって外傾した口縁端部をもつ資料である。399～401はVI期の資料。いずれも混入資料であり、他の周溝墓出土資料と類似する状況である。402はサヌカイト製の回基無茎式石罐A2類である。403は凝灰質砂岩製の叩石類。404は砂岩製の砥石。

時期 明確な供獻土器は判明しなかったものの、良好なIV期の資料の存在から構築時期はIV期相当と考えたい。軸線がSZ007のように西に傾き、規模がSZ003と類似することから、一応IV期の方形周溝墓とする。

SZ016（遺構：図40・41、遺物：図106）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、北溝の一部が調査区外となる。SZ011、SZ012、SZ017の3基の周溝墓と接続し、4基の方形周溝墓が田の字状に並ぶ。V層上面において検出した。

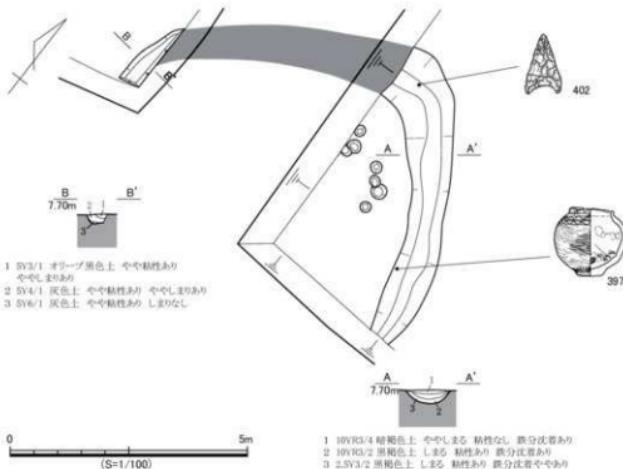


図39 SZ015遺構図

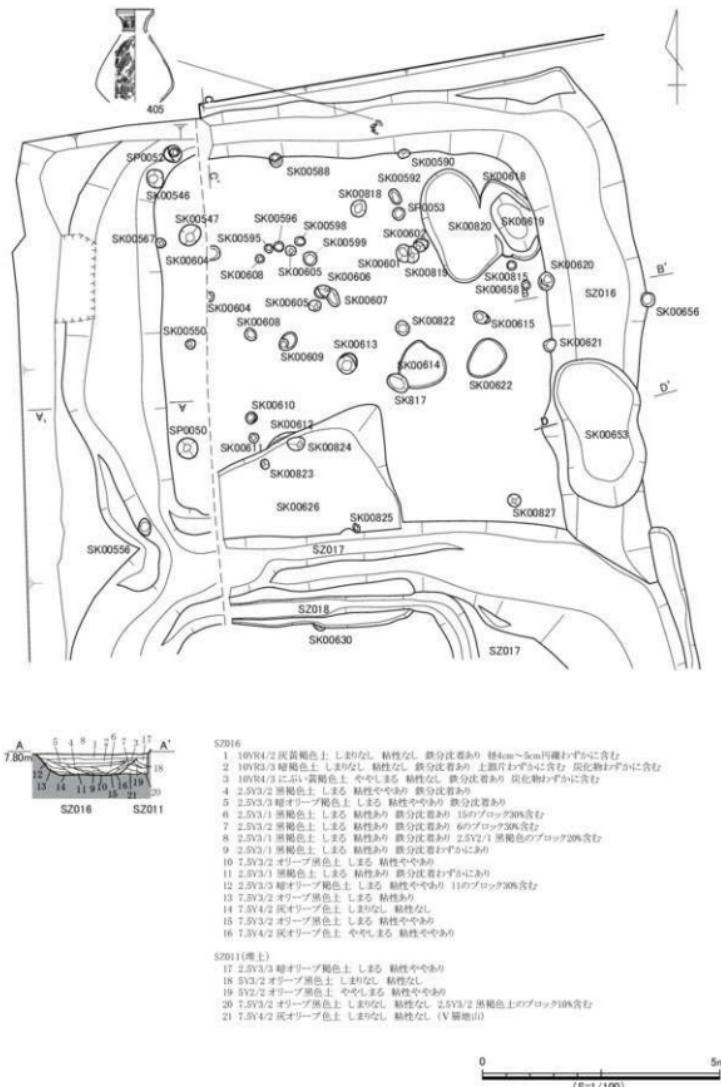


図40 SZ016構造図（1）

方台部 各辺は直線的で、北東・北西隅はやや丸みを帯びる。方台部の規模は、南北長8.80m、東西長9.65mで、東西にやや長い。南東隅部は、方台部南辺とともにSZ017北溝によって削られているため、本来のかたちをとどめていないと思われる。墳丘・主体部は残存しない。

周溝 周溝は途切れることなく方台部をめぐり、周溝の軸は東西南北にはば沿っている。北溝の遺構上面幅は中央部で1.10m、深さは0.32m、東溝の遺構上面幅は中央部で2.28m、深さは0.31m、西溝は幅2.03m、深さ0.45mである。南溝は上述のとおり、南に接するSZ017構築時に再掘削され本来の形状は不明である。周溝の形状は、東溝がやや外周側で外に膨らむが、他は直線的で、隅部は方台部に沿いつつ丸くなる。北溝の壁面断面形に比べ、西溝のそれは緩やかである。周溝内埋土の堆積状態からは、周溝壁面からの土砂崩落と、水平方向の自然堆積があつた経緯が窺える。

遺物出土状況 遺構検出面から0.10m程度掘り下げるとき多くの土器片が出土した。埋土上部ではV期の土器の出土が目立つが、こうした状況は他の周溝墓と同様である。北溝中央付近では、最下層から土器片(405)が比較的まとまって出土している。

出土遺物 IV期は壺A類(405~407)がある。405は、IV期壺A1類で、口縁端部の凹線のほかに頸部にも2条認められる。壺A2類は406・407で407は口頸部を欠損するが人為的な要因かは判断できない。胴部に直線文と波状文をもつ。V期前半と思われる高杯H類(411)、B1a類(410)の出土が目立つ。413はVI期甕B2類に類似するが、口縁部の屈曲がやや弱く、頸部からやや離れて施文されることから、IV期より後出の資料と判断し、V期の甕A2類であろう。415は手焙形土器で胴部中央に2条の突帯があり、その上にキザミを加えている。

時期 出土した405~407のIV期の壺A類及び、隣接するSZ011より後出することからIV-2期と思われる。

SZ017（遺構：図42~45、遺物：図107~114）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、SZ011、SZ012、SZ016の3基の周溝墓と連接し、4基の方形周溝墓が田の字状に並ぶ。V層上面において検出した。

方台部 方台部の各辺は直線的で、隅部はやや丸みを帯びる。方台部の規模は南北長11.60m、東西長11.40mである。墳丘及び主体部は確認できなかった。



- 1 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 粘性あり しまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 やや粘性あり ややしまりあり
径1cm未溝の凹溝を少しある 鋼分沈着あり
- 3 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含まず 鋼分沈着あり
- 4 2.5Y4/6 黒褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含む 鋼分沈着あり
- 5 2.5Y4/6 黒褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含む 鋼分沈着あり
- 6 2.5Y3/2 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含む 鋼分沈着あり
- 7 2.5Y3/2 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含む 鋼分沈着あり
- 8 2.5Y4/3 黒褐色土 粘性なし しまりなし 繩を含まず 鋼分沈着あり



- 1 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 粘性あり しまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 粘性あり しまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 粘性あり ややしまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 4 2.5Y4/6 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり
繩を含む 鋼分沈着あり
- 5 10Y2/4 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 6 2.5Y2/2 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 7 10Y2/2 黑褐色土 ややや粘性あり ややしまりあり 繩を含まず 鋼分沈着あり
- 8 3Y4/3 墓オーバーレイ層上 粘性なし しまりなし 繩を含まず 鋼分沈着あり



- 1 2.5Y3/3 新オリーブ褐色土 粘性あり しまりあり 鋼分沈着あり
- 2 2.5Y3/1 黑褐色土 粘性あり しまりあり 鋼分沈着あり
- 3 2.5Y5/2 暗褐色砂質土 粘性あり しまりあり
- 4 2.5Y5/6 暗褐色砂質土 粘性あり しまりあり
- 5 2.5Y2/1 黑褐色土 粘性あり しまりあり 上部土を含む 鋼分沈着あり



図41 SZ016遺構図（2）

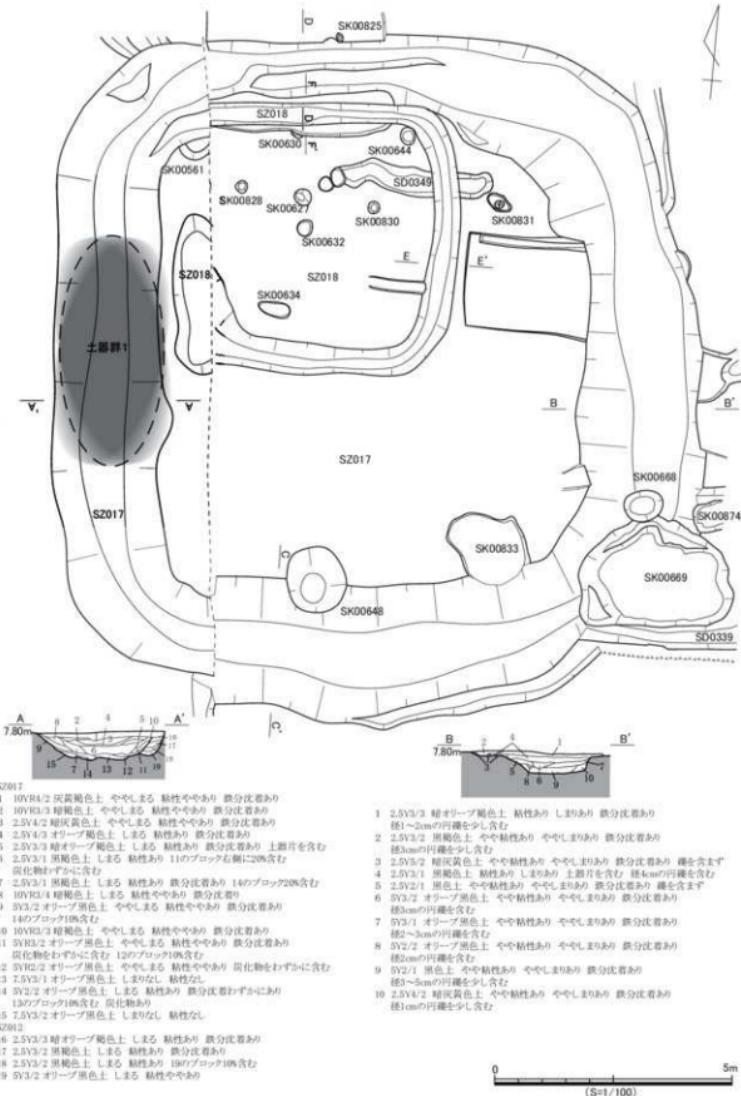


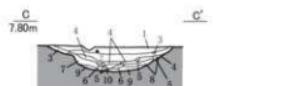
図42 SZ017-018構造図（1）

周溝 周溝は途切れることなく方台部をめぐり、周溝の軸は東西南北にほぼ沿っている。SZ016の南溝を兼ねる北溝の遺構上面幅は、SK00626により攪乱されて確定できないが、中央部で1.50m程度、深さは0.25mである。他の溝は同様に、東溝が2.50m、深さ0.45m、西溝は中央幅2.20m、深さ0.60m、南溝は中央幅2.90m、深さ0.52mである。周溝の形状は、東溝がやや外周側で外に膨らむが、他は直線的で、隅部は方台部に沿いつつやや丸くなる。北溝は、北で接するSZ016と共有するかのように完全に重複している。調査ではSZ016が先行するものと判断した。周溝の壁面断面形は緩やかで、逆台形状を呈する。周溝内埋土の堆積状態は、最も残りのよいA断面周溝壁面で觀察すると、壁面崩落に由来する土質はあまり認められない。比較的ゆっくりとしたペースで自然堆積が進行したと考えられる。

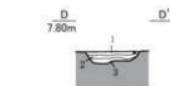
遺物出土状況 墓上層からは、V期～VI期の土器群が多く出土しており、周溝の埋没時期はVI期と推定される。ただし、V期～VI期の土器群の出土状況については、他の周溝墓と同様、廃棄などの人為的な行動による可能性がある。また、西溝中央付近の上層からは、V～2期のまとまった土器群が出土しており、土器群1として他と区別した。また、北東隅、東溝、南溝の2カ所などで、土器が多く出土しており、便宜的に土器群2～4とした。周溝を0.10m程度掘削したところ（埋土1層）から出土しており、大半がVI期に相当する。土器群2は、IV期の資料として438・440が出土しているが、破片資料であり、VI期の439などと混在している。土器群3は、3個体の土器（441～443）が出土している。土器群4からは多く土器が出土し、8個体を図示した。そのうちIV期に相当するのは446のみで、その他はV期（444・445・447）～VI期（448～451）の資料である。なかでもV期の資料はほぼ完存し、あまり移動していないと思われる。なお、この遺構の供獻土器と考えられるのは、周溝底面近くから出土した、土器群5の資料（432・433・435）である。435は正位で出土した。これら3点のほか、西溝からもIV期の土器資料がまとめて出土した（430・431）。431は西溝中央付近で出土し、口頸部を欠損するが正位に置かれ、そこからやや南で430が出土した。

出土遺物 西溝から出土した土器群1の土器は、416～429である。416、418は高坏B2a類で、丁寧なミガキを施す。口縁端部の平坦面が比較的顕著で、坏部と口縁部との境界も明瞭である。419は坏部

SZ017



- 1 2.5V3/3 緩オーリーズ褐色土 黏性あり 上部あり
鉄分沈着あり 鉄分沈着あり 沈み5cmの円錐孔を含む
- 2 2.5V3/2 黒褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 3 2.5V5/2 緩灰褐色土 黏性あり やや上部あり 黏分沈着あり
- 4 2.5V3/1 黒褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 5 2.5V4/3 オリーブ褐色土 やや粘性あり ややしまりあり 鉄分沈着あり
- 6 2.5V2/1 黒褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 7 2.5V1/2 オリーブ褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 8 2.5V2/1 オリーブ褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 9 2.5V2/2 オリーブ褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 10 2.5V4/2 緩灰褐色粘質土 しまりあり 鉄分沈着あり



- 1 2.5V3/3 緩オーリーズ褐色土 黏性あり しまりあり
鉄分沈着あり 細3cmの円錐孔を含む
- 2 2.5V3/2 黒褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 3 2.5V4/2 緩灰褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり

SZ018



- 1 2.5V3/3 緩オーリーズ褐色土 黏性あり しまりやや 鉄分沈着あり
- 2 2.5V3/2 黒褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり



- 1 2.5V3/3 緩オーリーズ褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり
- 2 2.5V4/3 オリーブ褐色土 黏性あり しまりあり 鉄分沈着あり



図43 SZ017-018遺構図（2）

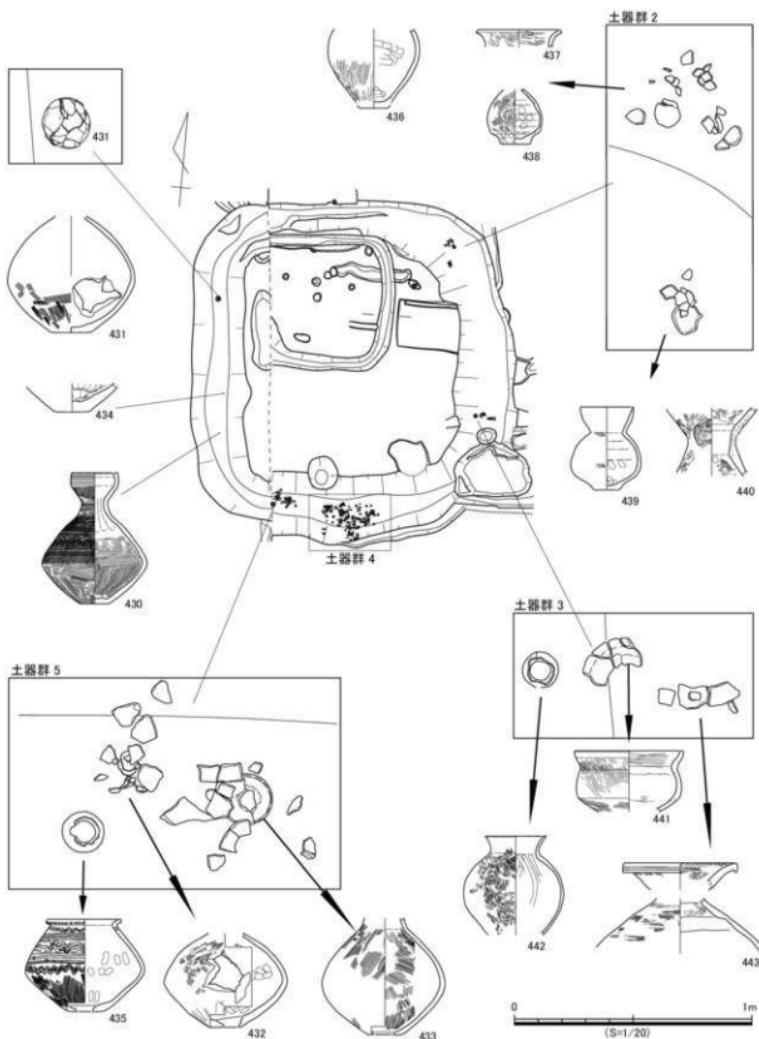


図44 SZ017遺物出土状況図

南溝土器群4

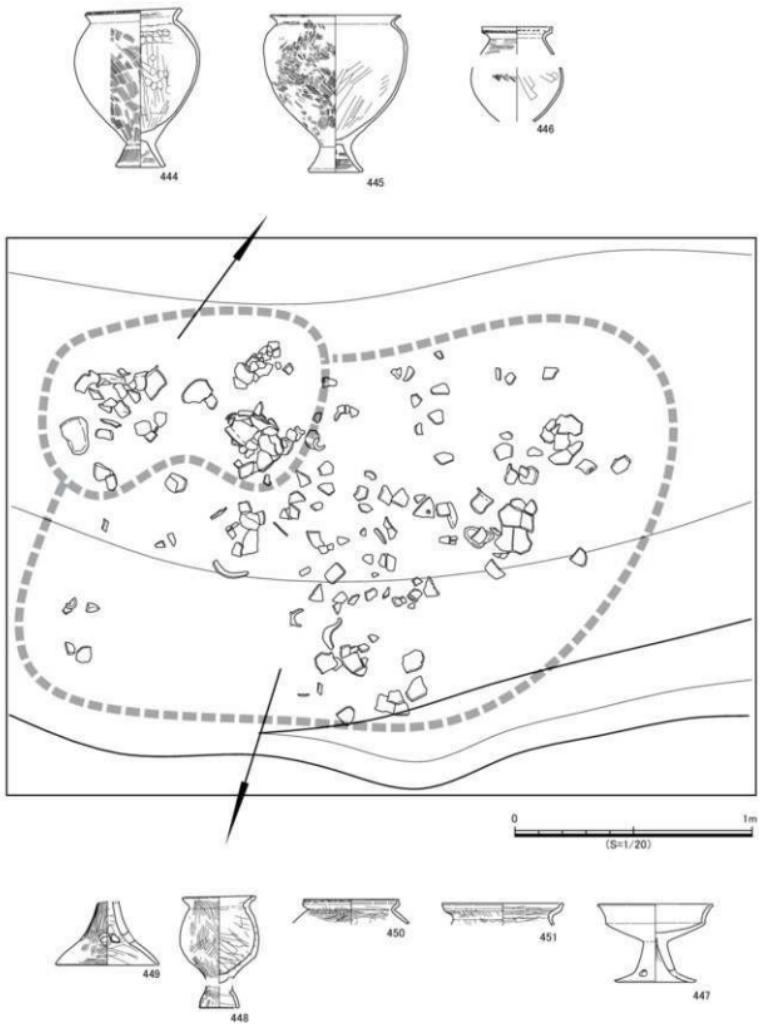


图45 SZ017南溝土器群4出土状况图

を欠損するものの長脚の資料で、裾部付近に透孔がある。高坏B1類脚部の可能性が高い。423は、高坏H2類で短い脚部をもち、口縁部がわずかに直立する。420も同類の脚部であろう。421は器台A1b類とした。口縁端部・脚裾端部ともに平坦面を強く意識し、裾部の外反が顕著である。左側面の形状が基部から裾部に向かって緩やかに開くようみえるが、作りが雑なことによるもので、本来は右側面同様、基部は柱状となる。壺頸部の425は竹管文をもち、赤彩がある。426は受口状口縁をもつ壺D2類。口縁部と胴部に刺突がみられる。

IV期の資料としては、南溝の土器群5の3点(432・433・435)で、底部の打ち欠き穿孔で共通する。432・433ともに口頭部を欠損するがIV期壺A1類であろう。ハケ目調整のみで文様は認められない。底部に打ち欠き穿孔があり、432は胴部にも打ち欠き穿孔が認められる。摩耗が著しく、観察不可能だが、偶然ではなく人為的行為による可能性が高い。435は壺F類、短頸壺の典型的な資料。頭部に穿孔を有し、胴部下半及び底部には打ち欠きによる穿孔が認められる。胴部に波状文・直線文を複合構により2帯施文し、その他に壺でよくみられる刺突文を胴部中央付近に2条施文する。西溝から出土した430は壺A2類でほぼ完存する良好な資料。穿孔は認められなかった。袋状口縁をもち、頭部に刺突文をもち胴部以下に直線文・波状文を交互に施文する。431は壺A1類で、口頭部を欠損する。人為的行為によるものは不明だが、胴部に文様はない。IV期の壺Aで供獻土器の可能性が高いと思われる。459・460はIV期壺B2類で、湖南地域からの搬入品であろう。453はIV期壺A類の大型品。残念ながら胴部片が認められなかった。

西溝はV期前半の良好な資料が多い。469はV期の脚付の壺でいわゆるワイングラスにも類似するが、本来は大きな口縁部を有する資料。口縁部は欠損のため不明。強く短く外反する脚部をもち、胴部は内傾しながら長く立ち上がる。胴部には直線文が3帯認められ、その間を刺突文と振幅が小さい独特な波状文で充填する。現状ではこの資料1点しか認められない。その他では退化した受口状口縁をもつ壺・甕が目立つ。なかでも463はほぼ完形に復元できた壺D1類の典型的な資料である。口縁端部は比較的強く屈曲して端部にも平坦面をもつが、頭部の屈曲が弱い。胴部最大径は中央よりやや下がった位置となる。文様は端部に刺突文、頭部に直線文と刺突文が交互に施文されるが、2段目の直線文が摩耗のため観察できなかった。器形、文様が胴部上半に限定されることから、祖型となるIV期の資料からの退化傾向が顕著である。胴部最大径付近に残存する横方向のハケは波状文が痕跡的となつたものかもしれない。468・479はV期高坏B類で時期決定の材料となりうる資料である。465は円錐状の脚部をもち裾部がわずかに外反する。脚部から上部の器形が不明だが、高坏の脚部ではないかと想定している。487は大型の壺。この2点はV期前半の資料と考えられる。503は、上部が不明な小型の精製品で、丁寧なミガキが認められ、小さな穿孔を有す。V期からVI期の資料と考えられる。

北東隅部の土器群2からは、IV期の資料が壺G類(438)、高坏(440)、甕(436)。438は小型の壺で口頭部を欠損する。人為的かどうかは不明。440は坏部底部を形成する円板を欠損しているが、高坏と判断した。内外面とともに打ち欠きと思われる剥離痕が著しい。

東溝埋土上層部の土器群3は、VI期の資料が多い。441はVI期のA2類で退化した受口状口縁をもつ。口縁端部及び胴部の文様を消失し、口縁部内外面に鋭いハケ目痕跡が目立つ。甕D・E類にも類似する特徴で、同時期の資料であること示唆している。しかし、頭部には屈曲は弱いが、直立する傾向があり鉢A1類の形状も認められる。443は胴部を加飾する壺。直線文・波状文が3帯と思われるが、摩耗が著しく不明瞭である。口縁部内面にも羽状文がみられる。また、胎土が在地のものと異なり、赤彩されていた可能性もあるが摩耗により判然としない。

南溝埋土上層部の土器群4は、V期の資料がまとまって出土した。444・445はV期甕B1b類でほぼ

完存する良好な資料。短くくの字に口縁部が外反し、端部に刺突をもつ。胴部最大径が胴部上半に位置し、内面にはケズリ調整が認められる。脚部は円錐状に開く。この2点はV期前半の典型例であり、447の高杯B1b類と組み合う可能性がある。残る448～451がVI期の資料で、450が甕G1a類でS字甕A類新段階に相当し、仮に共伴するとすれば448・449・451の時期決定の参考資料となろう。446がIV期甕B2類。胴部に直線文・刺突文・波状文がみられる。

土器群としてまとめたものとして、次のようなものが出土している。IV期に相当する資料は断片的で壺C類(452)、甕A類(454)、甕B類(458・461・462)がみられる。V期前半の資料としては器台Ala(470・471)、甕A2類(473)、甕A1類(464・472)、壺D2類(466・475)がある。470、471は基部に加飾があり、直線文のほかに斜格子文や刺突文が施文される。残る資料はVI期と思われる。甕C類(494・496・498)、高杯D2a類(480・481)、壺A類(484・485)の出土が目立ち、時期的にまとめた資料となりうる。478は手焙形土器の覆部であろう。482は円文が施文され、口縁端部が下方に引き出された器台として復原したが、壺と結合した資料の可能性もある。483は胎土・調整などからV期としたが、V期以前の土器かもしれない。また、蓋の可能性もある。504は砂岩製の砥石。505は砂岩製の砥石。一部の縁辺が敲打によりつぶれている。

時期 隣接する方形周溝墓との関連性や、西溝や南溝土器群5などの時期から、IV～2期のものと思われる。

SZ018（遺構：図42・43）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、V層上面において検出した。丁度、SZ017方台部上に位置する。06_4地点ではコ字上に溝状遺構を確認し、07_63地点ではそこから続く土坑状の掘り込みを確認した。位置関係からは同一の遺構と考えられるが、北西隅部にまで溝は及んでいない。

方台部 方台部の各辺は比較的直線的で、各隅部はやや丸みを帯び、北西隅は周溝が途切れる。方台部の規模は南北5.10m、東西5.60mである。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 各溝の中央部での幅と深さは、北溝で幅0.45m、深さ0.10m、東溝で幅0.60m、深さ0.22m、南溝で幅0.72m、深さ0.30mである。北溝はSZ017北溝と平行しているが、重複する部分はわずかであり、先後関係を明らかにすることはできなかった。周溝の壁面断面形は緩やかで、周溝内埋土は水平に堆積する。

遺物出土状況 埋土中から土器小片が散在して出土した。

出土遺物 図示可能な遺物はない。

時期 方形周溝墓の規模からは、SZ009やSZ010との関連性が考えられることから、VI期の可能性があると思われるが、位置が若干離れていることから明確な位置付けは困難である。

SZ019（遺構：図46）

検出状況 A地区北部のほぼ中央で、V層上面において検出した。多くの遺構と重複関係があるが、堅穴住居よりも古いことは明らかであった。4mから7mの3条の溝状遺構がコ字状に配置され、方形に区画された状態であることから、方形周溝墓とした。南溝については、SD0341とした溝状遺構が規模的には類似するものであるが、その方向が異なること、位置がやや離れることから、別の遺構と判断した。このため、南溝については不明である。

方台部 方台部の規模は確認した3辺の溝から、東西6.20m、南北は7.30m以上となり、南北に長い、長方形となる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 北、西、東に溝状構が配置される。南溝は確認できなかったが、一般的に四隅切れ方形周溝と呼ばれる形状のものである。壁面はいずれも緩やかに立ち上がるが、後世の遺構により削平を受けている。このため、溝の深さは、約0.18m～0.38mと比較的浅い。

遺物出土状況 埋土中から土器小片が散在して出土した。

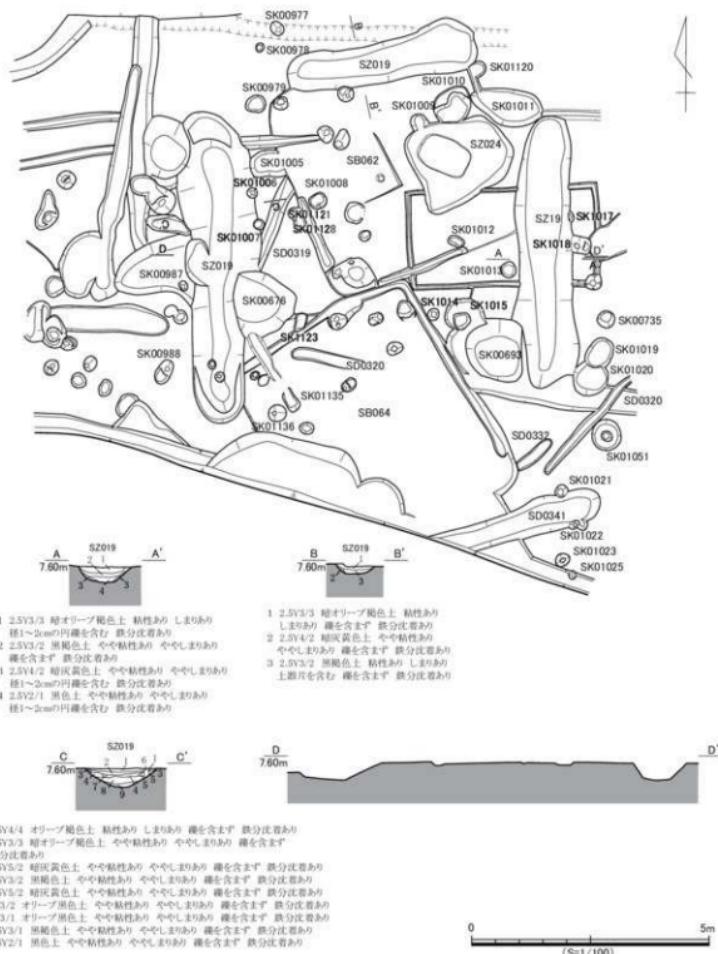


図46 S2019遺構図

出土遺物 図示可能な遺物はない。

時期 方形周溝墓の形状からは、II期～III期の可能性が考えられる。

SZ020 (遺構: 図47、遺物: 図114)

検出状況 A地区北部の中央近くに位置し、V層上面で検出した。南西隅は調査区外となる。

方台部 方台部は東西8.50m、南北9.40mで南北にやや長く、確認した3ヵ所の隅部も比較的強く屈曲する。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 周溝は南西隅部が調査区外になるが、他はほぼ途切れることなく方台部をめぐる。しかし、南東隅部ではやや浅くなっている。東溝では外周側が外に膨らみ弧状となるが、他は直線的である。深さは、0.30m～0.40mで、断面形も一様ではない。上部の豎穴住居跡による削平のためと考えられる。なお、SD0342は、方台部上で検出した長さ約5.40m、幅約1.15mの東西方向に伸びる構造遺構で、深さは約0.25mである。少量の土器片が出土しただけで、時期を決定できないが、四隅切れ周溝墓の一部であった可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土した。中世の土器も混入していることから、周溝内で重複した中世の遺構を見落としている可能性が高い。

出土遺物 図示した遺物は5点である。506、507はIV期甕B類の胴部片である。506は刺突文と直線文、507に波状文がある。508、509はVI期後半の甕であろう。510は土師器皿である。体部の立ち上がりが短く、口縁部は尖り気味である。

時期 他の方形周溝墓の形状から、周溝が全周し伴出遺物が明確なものはIV期であることから、IV期の可能性が高いと思われる。

SZ021 (遺構: 図48、遺物: 図114)

検出状況 A地区北部のやや東に位置し、V層上面で検出した。

方台部 方台部は、南北9.65m、東西8.40mで、やや南北に長い長方形だが、それぞれの辺ともわずかに歪みがあり整った直線的な形状ではない。南辺は北辺とやや平行しておらず、若干台形状となる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 方台部をめぐるように全周するが、北東及び南東隅部はやや浅くなる。周溝は外縁・内縁とも直線的である。壁面はゆるやかに立ち上がり、断面形は逆台形である。深さ最大0.5m。残りの良い西溝で9層、東溝では6層に分層した。埋土中に礫も含み、土器は多くはない。溝の底はV層下に堆積する河川堆積(VI層)となる。周溝中央での幅は東溝1.55m、西溝1.42m、北溝1.60m、南溝1.40mである。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土した。

出土遺物 511は小型品で、現状では1例のみの出土資料である。ほぼ完存し供獻土器の可能性がある。胴部の刺突文、平底、胴部の形状からみてV期よりもIV期の甕に類似することから、IV期と判断した。VI期後半の資料は、512・515などがある。512はほぼ完存する資料で口縁部が直線的に伸びるV期鉢A4b類である。520はガラス製の小玉である。

時期 出土した小型の甕が供獻土器の可能性があり、重複関係から時期が新しいSB074がVI期と思われることから、それよりも先行する時期となる。また、周溝が全周する形状からは、IV～2期の可能性が考えられる。

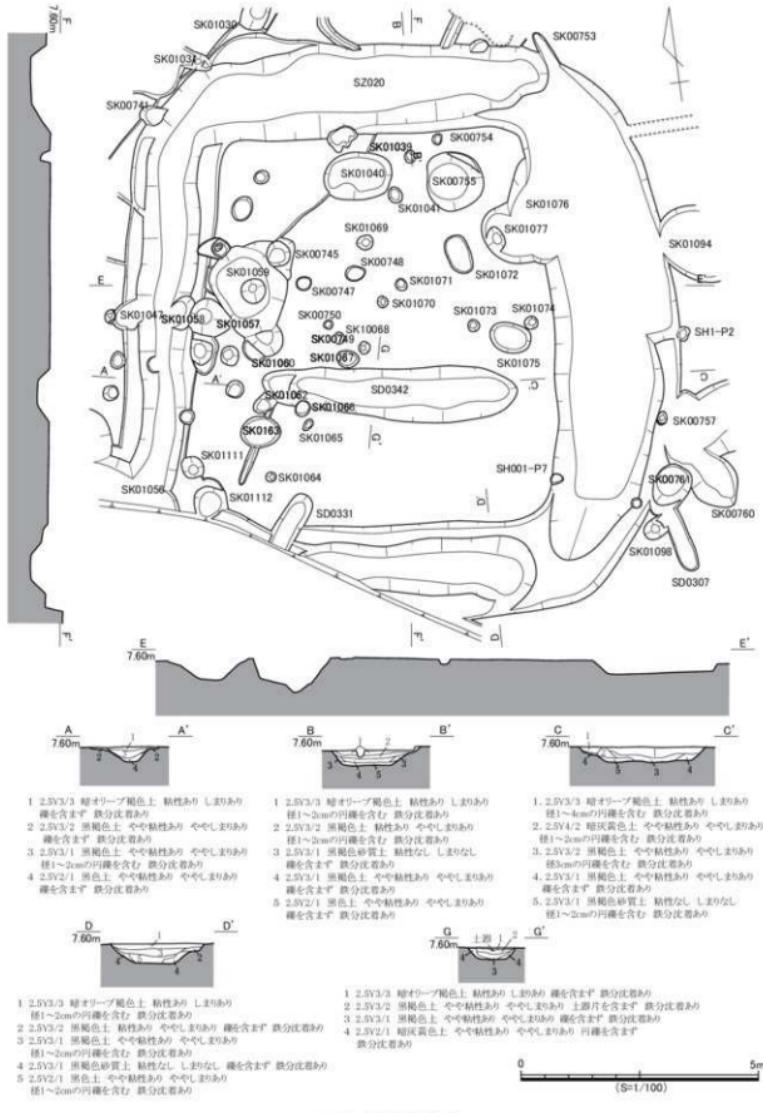


図47 S2020断構造図

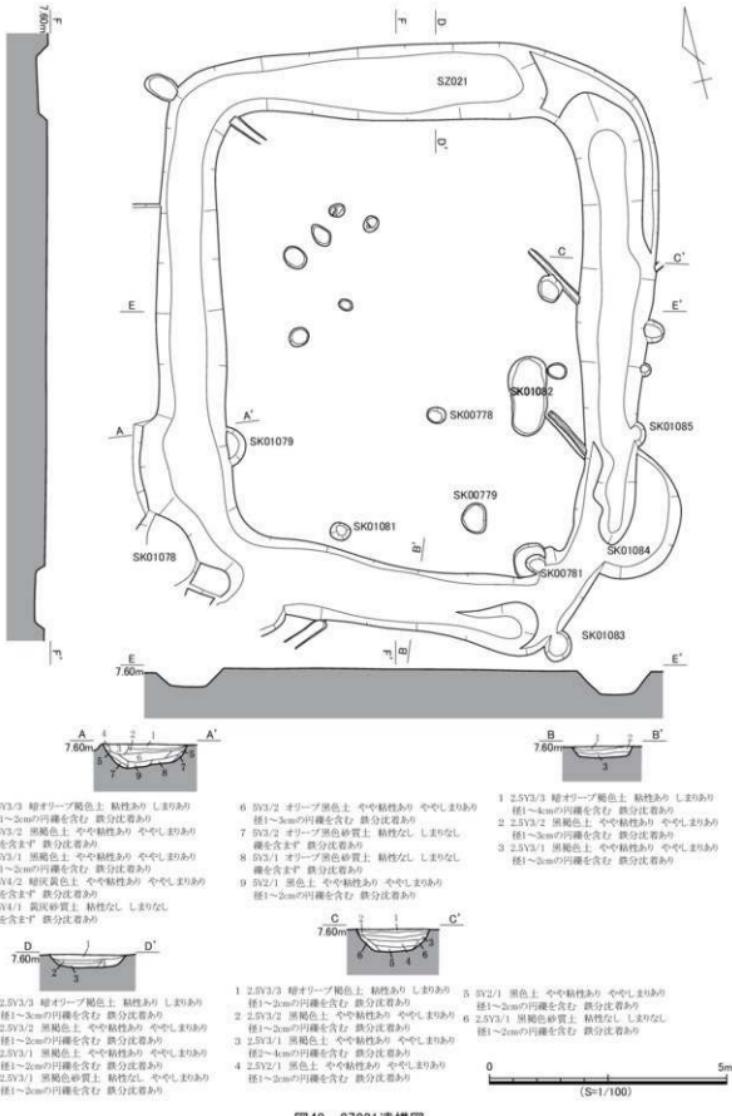


図48 S021遺構図

SZ022（遺構：図49、遺物：図115・116）

検出状況 A地区の北東部において、V層上面で検出した。中央部分は、南北方向に現代の用水路がかかっており、破壊されていると思われる。

方台部 方台部は、現存長で南北方向8.9m、東西方向8.6mである。湾曲する南辺を除き、直線的な形状である。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 周溝は、途切れることなく全周する。周溝の幅は一定ではなく、北溝で2.3m、東溝で1.7m、南溝3.1m、西溝で2.0mである。深さは北溝で0.25m、南溝で0.3m、断面形状は逆台形を呈す。北溝は壁面の角度が緩やかで、崩落が著しかったか、もしくは後世の遺構による掘削の影響を受けた可能性がある。周溝埋土の堆積状況は、壁面の崩落を思わせる土層が認められ、構築直後から壁面の崩落が始まったとみられる。方台部からの流入土は、土層断面からは確認できなかった。隣接する周溝墓との重複関係では、東溝でSZ029と重複し、SZ022の方が後出の遺構であることを確認した。

遺物出土状況 周溝埋土から比較的多くの土器片が出土したが、意図的な配置状況を示すようなものは確認できなかった。

出土遺物 527、530はVI期の土器片でやや受口状を呈する鉢と高杯。544がIV期の甕の底部。521がIV期壺A類。口縁部が受口状となるものでIII期に属すると考えられる。切り合い関係からみても、本資料がSZ22の構築時期を示すと想定したいが、資料の残存状況や出土状況からみて時期決定資料と認定するのが難しい資料である。522は口縁部片だが、断面外側に口縁を外側に肥厚し、横方向に半截竹管による押し引きをめぐらせる。さらに端部に押し引きを施す。III期の資料で、福井県坂井兵庫遺跡群出土資料に類似する例がある。523はIV期末の甕で、日本海側に分布する資料と類似する。524はII期の甕で、その他はVI期の資料。539は壺Gla類で内面に赤色顔料が付着する。545はハイアロクラスタイプの石製品。546はハイアロクラスタイプの擦切磨製石斧。

時期 出土した遺物から構築時期を決定することは困難である。しかし、A地区東部からB地区東部にかけて南北に連なる方形周溝墓群は、出土遺物から時期が判明するものは概ねIII期であり、SZ029よりも後出することから、III-2期と思われる。

SZ023（遺構：図50）

検出状況 A地区北部のほぼ中央に位置し、V層上面で検出した。幅3mほどのトレンチ状の調査区で確認しており、2条の溝状遺構がL字形をなすような位置関係にあるため、方形周溝墓の可能性があるものと判断した。しかし、1/2以上は調査区外である。

方台部 正方形もしくは長方形を呈すると考えられ、確認した北辺及び東辺は直線的である。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 北溝は、幅約1.3m、深さ約0.4mで、東溝は、幅約1.8m、深さ約0.4mである。壁面は斜めに立ち上がり、断面形は逆台形を呈す。北溝、東溝ともに、形状は直線的であるが、隅部の形状は調査区外になるため確認できなかった。

出土遺物 出土遺物はなかった。

時期 遺物がないことや、周溝の形状も不明であることから、時期は不明である。しかし、方台部の方位が近いものにSZ015やSZ027があり、これらがIV期と思われることから、近い時期のものである可能性を考えたい。

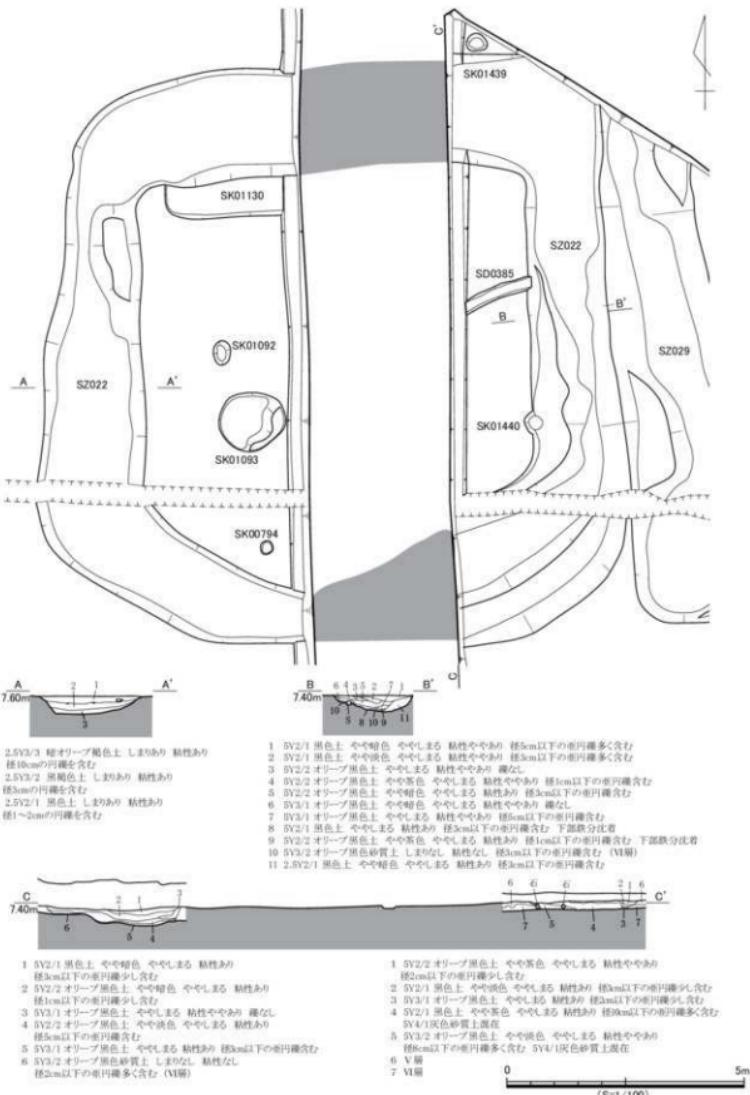


図49 S2022遺構図

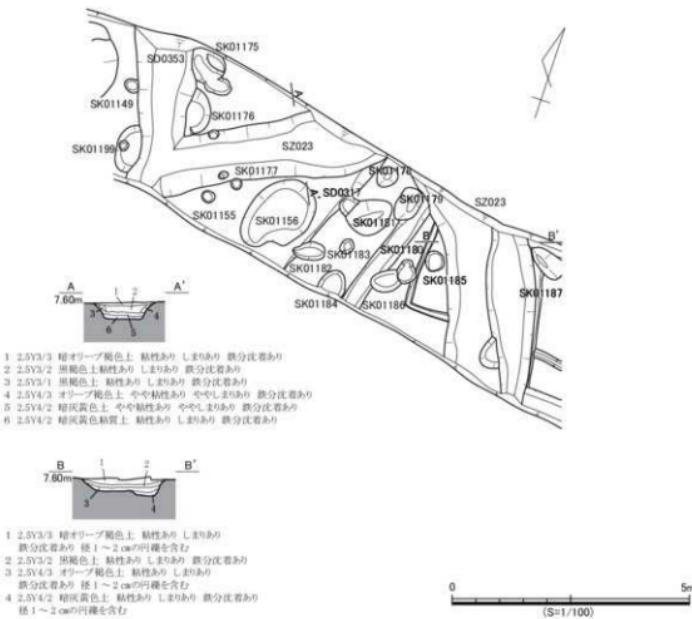


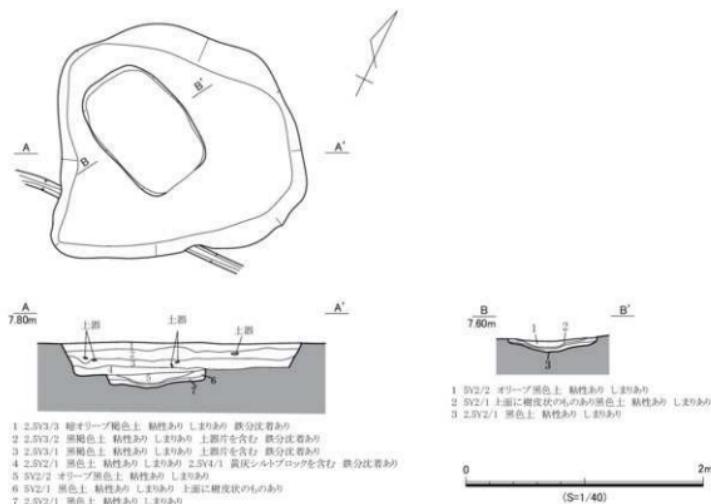
図50 SZ023遺構図

SZ024（遺構：図51、遺物：図117・118）

検出状況 A地区北部のはば中央に位置し、IV層上面で検出した不整形の土坑墓である。掘り下げにより、底面において隅丸長方形の土坑をさらに確認したが、両者を同一の遺構とするか、別の遺構の重複とするか判断が分かれ。

主体部 土坑を長軸上で土層観察するように、南半部を掘り下げたところ、S字彫2点と板状木製品が出土したため精査したところ、底面で方形状の平面形が一部確認でき、北半部も掘り下げると隅丸長方形の平面形を持つことが判明した。これを土坑墓の主体部と判断した。土層断面では、主体部を削平するような堆積となる不整形の部分は、主体部とは別のものとする見方と、主体部を埋葬するために掘られた土坑とする見方が成立つ。以下、両者を区別する場合は、主体部及び上部土坑として説明する。

主体部は、長軸1.1m×短軸0.7mほどの規模で、遺構平面の外形線内側では、黒色土が幅10cm程度の広がりで確認できた。黒色土の帯は遺構外形線のほぼ半分の範囲で確認されている。また埋土の6層上面から、草か藁のような繊維を敷いた痕跡が検出された。平面形や遺物の出土状態から考えて、古墳時代の土坑墓と判断した。黒色土の帯は木棺痕跡である可能性が考えられるが断定はできない。遺構の規模から小児の墓か、屈葬あるいは座葬の成人の墓の可能性が想定できる。



遺物出土状況

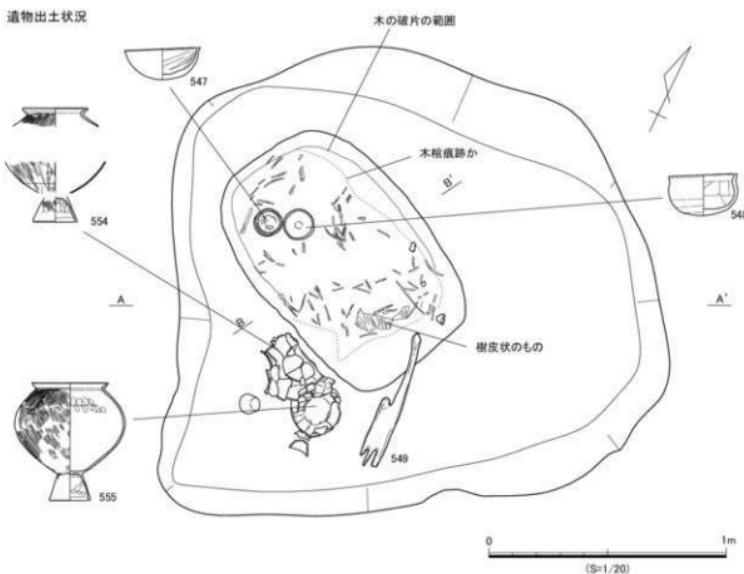


図51 S024遺構図

遺物出土状況 主体部内から鉢の完形品が2点、正位で並んだ状態で出土した。上部土坑からは、主体部の外側に並べたように、S字状口縁台付甕が2点出土した、また、その横には板状木製品が出土した。

出土遺物 上部土坑からは、S字状口縁台付甕のほぼ完形品が2点(554、555)、三又となる端部を持つ用途不明の板状木製品(549)が1点出土している。板状木製品の端部は三又状に分かれているが、明瞭な加工痕はない。本来、板として加工されたものが、木質の組織が脆弱な部分が劣化していく過程で、今日見ることができる形状を呈するようになったものと考えられる。出土位置から考えて、棺材の一部の可能性を残す。554、555はヨコハケがなくS字甕D類である。555は口縁部の屈曲が比較的強く残っているので、D類でも古い段階に相当する。S字甕はこの2点の他に、破片資料ではある多くの資料が出土し8点図化した。574はB類、残る556~562はS字甕C類に相当する。その結果、同一遺構内からS字甕B類~D類まで出土しており、据え置かれた可能性が高い554・555以外は、土坑墓を掘削した際の混入と思われる。S字甕以外の資料をみてみると、565はV~VI期で鉢A1類、570は甕A1類でVI期でも中程を下がらない資料である。高坪566はC3e類、567~569は高坪D2類であることから、VI~VII期にあたる資料であろう。550は小型の鉢、551・552は小型の器台、553は小型の壺で精製器種である。これらは古墳時代前期の資料で、Ⅶ~IX期と考えられる。VI期に相当する資料を混入資料と考え、これらを除外して残った資料が上部土坑に伴う供献土器の可能性が高い。

主体部からは完形無文の鉢が2点(547・548)出土した。ともに外面をナデとケズで調整する。この鉢がX期であるとするなら、上部土坑から出土した土器(S字甕)と年代観に逆転が起きるが、板状木製品の出土位置が主体部に重なることから、土層観察に大きな誤りがないと考えられる。

時期 上部土坑は、554・555が土坑内に置かれた可能性が高いことから、IX期の可能性があると思われる。主体部から出土した鉢は、単純にはX期に相当するものと思われるが、主体部及び上部土坑を一体として土坑墓を考えるならば、IX期にこうした鉢の存在を認めるか、X期までこうしたS字甕が残存すると考えるかであろう。現状ではIX~X期の遺構としておく。

SZ025(遺構:図52、遺物:図118)

検出状況 A地区の中央部近くの、V層上面で検出した。狭小な調査区のため、周溝らしき溝の一部を確認したのみである。

方台部 一部の確認に留まっているため、全体の形状を推定することもできない。墳丘や主体部は確認できなかった。

周溝 検出した部分での幅は約1.50m、深さは0.30mである。断面形はやや皿状で北側の壁面が比較的立ち上がりが急なのに対して、南側の壁面はなだらかで顕著な立ち上がりが認められない。なお、SK01197と重複しており、周溝埋没後に掘削された土坑と思われる。

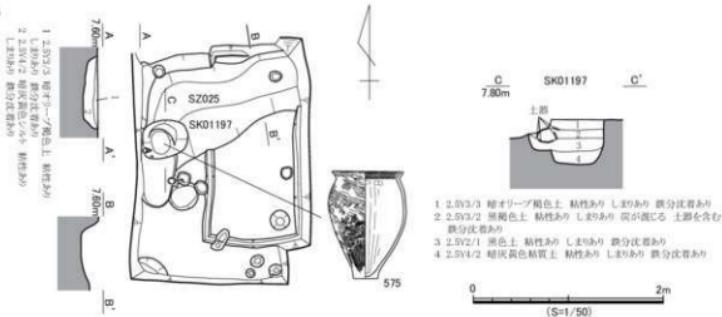
出土遺物 周溝内からは遺物が出土していないが、遺構の構築時期を検討する上で、重複するSK01197出土土器が参考になる。575はSK01197から横位で出土した。IV期甕A2類で、口縁部が「く」の字に屈曲し、刺突文が胴部最大径をめぐるように施文する。

時期 周溝内から遺物が出土していないが、埋没後に掘削されたSK01197からIV期の土器が横位に置かれた状態で出土していることから、これよりも古くIII期と思われる。

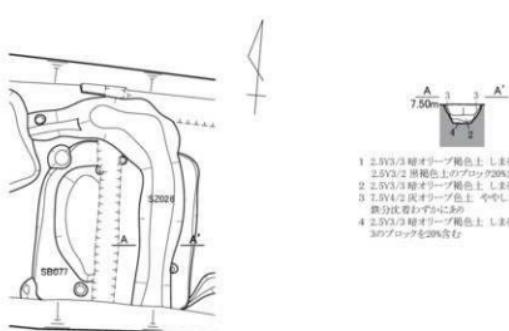
SZ026(遺構:図52、遺物:図118)

検出状況 A地区ほぼ中央部のV層上面で検出した。周溝の東溝から北溝の一部を確認したのみで、

SZ025



SZ026



SZ027

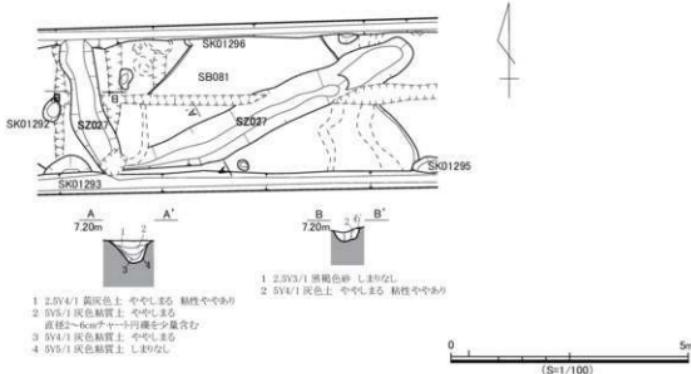


図52 SZ025・SZ026・SZ027構造図

方形周溝墓の北東部1/4程度になろうか。北溝西端はSK01127の削平を受け、東溝はSB077完掘後に確認していることから、これらの遺構よりも古い。

方台部 確認した北辺及び東辺の一部はほぼ直線的で、北東隅部はやや丸みを持つ。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 北溝の幅は0.65m、深さ0.20m、東溝の幅は0.93m、深さ0.40mである。北東隅部はやや幅広となるが、東溝から底面が続き、北溝に至って一段浅くなる。

遺物出土状況 埋土中から出土した遺物は少なく、図示できたのは砥石だけである。

出土遺物 砂岩製の砥石(576)が出土した。

時期 出土遺物からは検討できないが、SK01127やSB077よりも古いことは、重複関係から明らかであるため、VII期以前と思われる。

SZ027（遺構：図52、遺物：図118）

検出状況 A地区南部のほぼ中央のV層上面で検出した。トレンチ状の幅が狭い調査区のため南溝と西溝の一部のみを確認しただけであるが、L字形に屈曲するため方形周溝墓と考えた。

方台部 方台部にはV期後半のSB081が重複し、墳丘や主体部は確認できなかった。方台部の西辺及び南辺は直線的で、南西隅は擾乱をうけているため改変が著しい。

周溝 比較的幅がなく直線的だが、大半が調査区外に広がる。また、南西隅部が途切れるのか連続する溝となるのかは、擾乱坑により判断が困難であった。南東隅部にあたる南溝の東端は、途切れた状態となっている。周溝は断面V字形で、西溝0.72m、南溝0.82mと幅が狭いが、深さは西溝0.30m、南溝0.48mである。埋土は、南溝でみると砂質土系の堆積が目立ち、構築直後から周溝埋没が著しかったか、もしくはVI期遺構構築に伴って埋没が進行したものと思われる。

遺物出土状況 周溝埋土から遺物が散在した状態で出土した。

出土遺物 図化した土器は2点で、甕(578)と高壺(577)である。いずれもVII期と思われる。

時期 埋土中から出土した土器は、遺存状態から混入した可能性が高い資料である。なお、重複関係からSB081よりも古い時期であることから、VII期以前と思われる。

SZ028（遺構：図53、遺物：図118・119）

検出状況 A地区南部のほぼ中央のV層上面で検出した。トレンチ状の幅が狭い調査区のため西溝と東溝の一部のみを確認しただけであるが、平行する位置関係にあることや遺物の出土状況から方形周溝墓と判断した。

方台部 大半が調査区外にあるため詳細は不明だが、検出した範囲で東西長をはかると8.10mである。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 西溝は3.70mと幅広く、深さは0.78mである。底面が比較的平坦で、断面形は逆台形を呈す。東溝は幅2.45m、深さ0.48mで断面形はV字形を呈す。壁面の周囲には黄灰色土の堆積がみられる。墳丘もしくは地山由来で流入したものと判断でき、構築直後から周溝墓の崩壊があったものと推測できる。その一方で、東溝で顯著だが、6・7層の下層と3～5層のいわば中層とで不整合な様相がみられる。とくに灰色土系の土層に不整合が観察できることから、墳丘の崩壊が徐々に進行したのではなく、数回の段階をおって進行したとの推測が可能である。後述するが、出土土器は構築時期を示すIV期の土器と中層以上に多く出土するVI期の土器が出土した。以上のことから、VI期に墳丘を崩壊させる事象があつて、それが土層に投影されている可能性があり、また、周溝そのものもVI期に再掘削・

再利用されている可能性がある。そうした現象が東溝や西溝の不自然な壁面傾斜あるいは幅の広さにつながっているのではなかろうか。

遺物出土状況 周溝埋土下層からIV期の土器、上層からVI期の土器が出土した。IV期の土器である、580は横位で出土しているが、人為的に設置した資料かどうかは判断できない。また、579は転落した状況と考えられる。

出土遺物 IV期の土器は、591・581の甕B類、582の甕A1類、580の甕A3類、583の甕C類、579の壺C類がある。このうち581～583、591は遺存状態から混入した可能性がある。579・580は遺存状態から供獻土器の可能性がある。579は大型の壺で胴部下半を欠損する（人為的な可能性もある）。他はVI期と思われる。580は全形を復元できた資料。底部に穿孔をもつ。口縁部が屈折して直立し、胴部に刺突文が4段にわたってみられる。579は大型の広口壺で、今回報告分ではもっとも大きい。口縁部には継位の沈線、内面には扇形文と廉状文的な押引き文を施す。頸部には低い突帯がありその上に刺突文を施す。583は口縁端部が外傾する甕で、胎土が白色を呈し、在地のものとは異なる資料である。VI期の資料では585が高坪B1b類、586が高坪B3類でやや古い様相をもつ。V期の資料かもしれない。588は沈線のめぐる脚部で高坪B1類のものであろう。589は高坪D1c類で多重沈線を2帯施文し、その

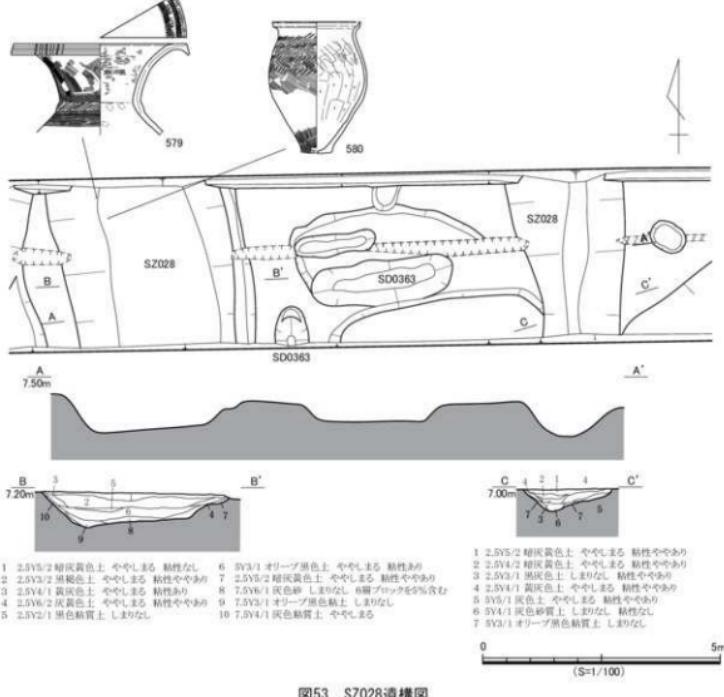


図53 S2028遺構図

間に山形文でさらに加飾する。590は小型の高杯でF2c類。施文やつくりが稚拙だが、ヘラで多重沈線と弧線文で加飾する。

時期 西溝から出土したIV期の土器が、遺存状態が良く供獻土器の可能性が考えられることから、IV-2期と思われる。

SZ029（遺構：図54、遺物：図119・120）

検出状況 A地区の北東部において、V層上面で検出した。SZ022の東、SZ030の北に接して並ぶ。北から東にかけて、1/2程度が調査区外となる。

方台部 確認した範囲では、南北6.0m、東西5.5mと南北に長い長方形を呈し、方台部の西辺及び南辺は直線的で、隅部はやや丸みを帯びる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 西溝から南溝、東溝は連続して方台部をめぐる。西溝はSZ022に切られるが、南へ向かうにつれてやや幅広となる。南西隅部の屈曲度が強く、南溝は東へ向かって幅狭となる。また、南東隅部を南に隣接するSZ030に切られる。幅は中央付近で西溝2.3m、南溝で1.7mである。

遺物出土状況 西溝の底面付近から、2個体の壺(596・597)が転落した状況で出土した。他は、埋土中から出土した。

出土遺物 597はやや小型の細頸壺。受口状の口縁を有し、頸部に櫛描直線文を施文する。胴部上半にも櫛描直線文が4帯みられ、各文様帯は幅狭となり多段化した印象を受ける。全体に摩耗が著しく、細かな調整痕の観察が困難で、ミガキ痕は観察不可能であった。596も細頸壺。器形・文様構成とも597と類似し、文様帯は幅狭で磨消帶が幅広となっている。頸部の櫛描直線文の下端に刺突が加えられる。どちらも文様構成などからみてIII期に相当する。南溝から出土した598も、櫛描直線文をもつ細頸壺の一部とみられる。周溝内の詳細な地点は明らかでないが、埋土上層から出土した。一部の破片が南に隣接するSZ030出土土器と接合した。重複関係ではSZ030が新しいことから、SZ029埋土中にあったものが、SZ030掘削により移動したと考えられる。596や597とはほぼ同じ時期の資料と考えられる。他に周溝出土資料として、599～602の4点を図示した。601は中層出土だが、残りはすべて上層出土である。601は甕片の一部。602は壺A類の口縁部片で内面に綾杉文がみられる。600は内面多条沈線をもつ有段高杯と思われる。599はIV期甕B類の口縁部片。600～602はVI期後半に相当し、主に西溝において同時期の破片資料が出土した。また、599は周溝墓構築時期に近いが、小破片であり混入資料と思われる。

時期 西溝の底面付近で、転落した状況で出土したと思われる土器から、III-1期と思われる。また、近接する方形周溝墓は、南北方向に列状に並んでおり、時期的に連続性を窺うことができる。

SZ030（遺構：図55、遺物：図120）

検出状況 A地区北東部において、V層上面で検出した。北にSZ029、南にSZ031と近接して並び、北溝はSZ029の南溝を削平している。なお、北東隅部は調査区外となる。

方台部 南北6.95m、東西4.96mあり、南北に長い長方形となる。墳丘及び主体部は確認できなかった。なお、SK01455を方台部上で検出しているが、関連性については不明である。各辺は比較的直線的で、各隅部はやや丸みがある。

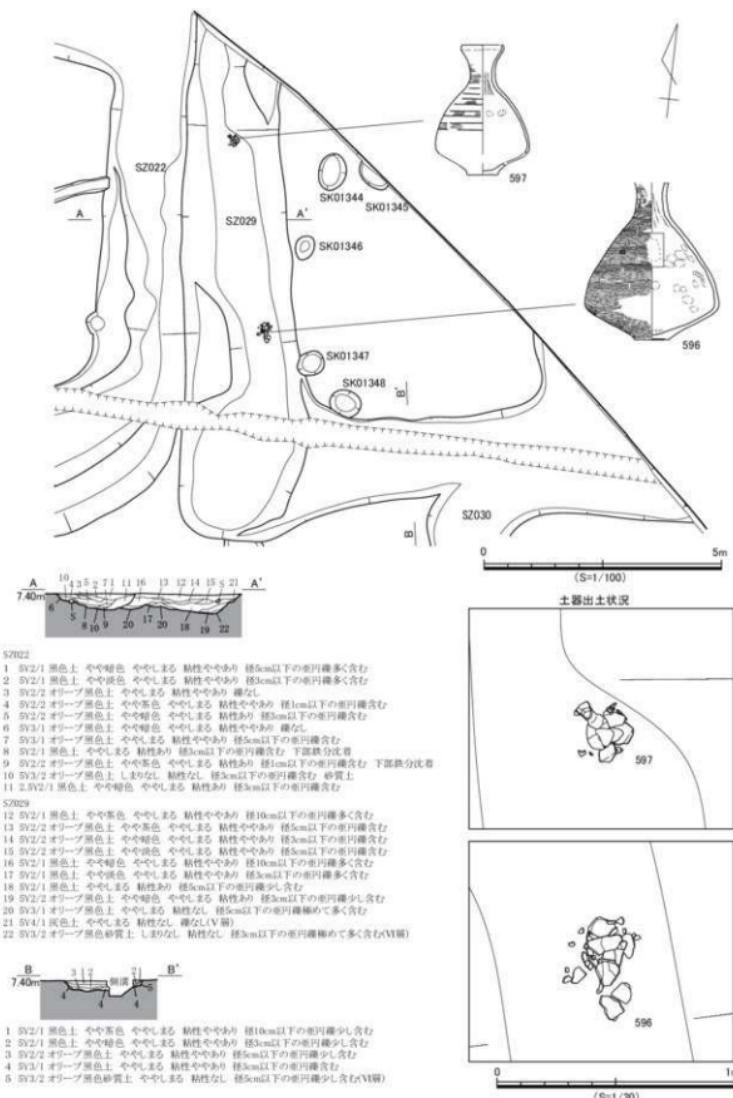


図54 S029遺構図

周溝 幅は、1.3m前後の近似した数値を示すが、北溝のみ1.8mとやや幅広である。深さは0.3m前後で、断面形状は逆台形を呈す。堆積状況は、壁面等の崩落があった後、水平に堆積していく状況であったと思われる。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土した。

出土遺物 603～606を図示した。605を除いていずれも埋土1層出土資料の混入資料である。604はV期～VI期の壺の胴部片。直線紋と波状文がみられる。606は、V期初頭～前半の甕A類の口縁部片である。605はV期の高杯脚部。603は破片資料ではあるが、縄文時代晩期葉の変容壺口縁部片。外反する口縁と一条の素文空帯が認められる。

時期 出土した土器から時期を決定することはできないが、SZ029との重複関係からIII～二期と思われる。

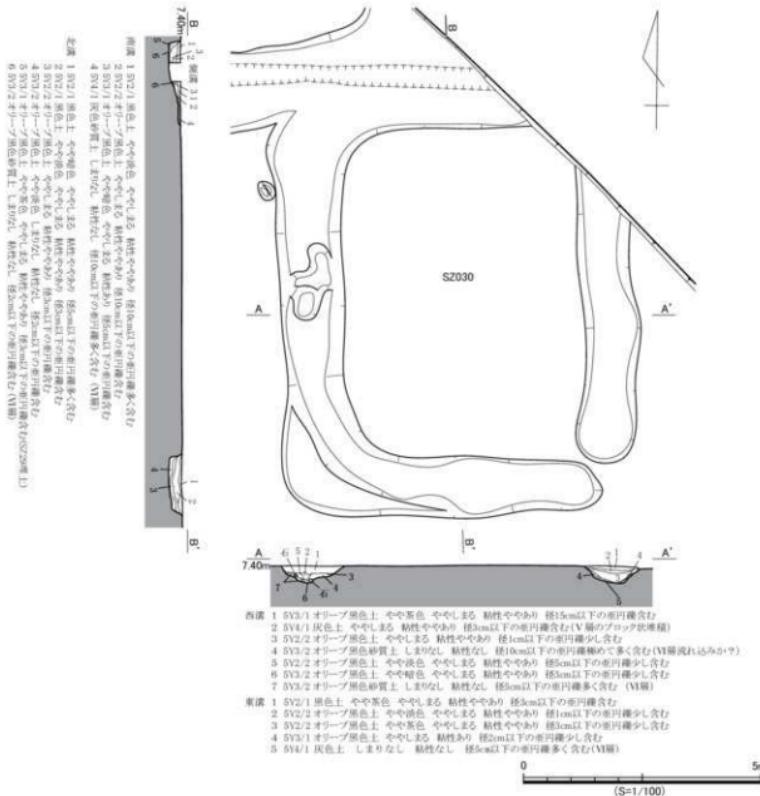


図55 SZ030遺構図

SZ031（遺構：図56、遺物：図120）

検出状況 A地区北東部のV層上面で確認した、周溝が南東隅で途切れる方形周溝墓で、北にSZ030、南にSZ033と近接する。また南西部ではSZ032と重複し、SZ031が後出する。東側のSZ041との間には、4.5mほどの空闊地がある。

方台部 主軸を南北方向にとり、方台部の主軸長7.20m、短軸長6.65mである。各辺は直線的で、隅部はやや丸みがある。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 深さは、各辺とも0.2m程度で浅く、遺存状況が悪い。断面形は逆台形で底面が比較的平坦な面が続く。A断面の西壁面6層が黄灰色砂質土と周囲とは異なる色・土質であるので注意する必要がある。周囲のベースとなる土質に含まれないため、どのような堆積状況でもたらされたのか検討を要する土層である。可能性が高いのは、方台部墳丘盛土からの流入土である。しかし、堆積部位は西側側面であり、方台部とは逆サイドにあり、流入土と認めるには根拠が薄い。周囲にはSZ032も隣接するので、SZ032からの流入も考えられるが、これについても断面位置からみて難しい。以上のようにどれも決定するだけの条件を満たさないが、前述したように注意を払う土層である。また、西溝断面で

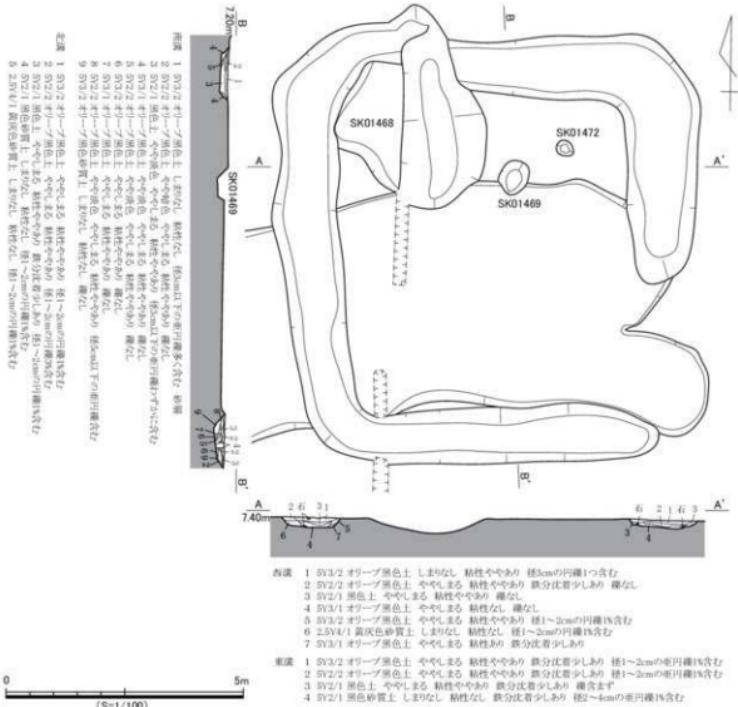


図56 SZ031遺構図

は東西壁面に堆積する2・6層と5・7層において、2・6層の分離ラインと5層上端ラインがレベル的にそろう。周囲からの流入した自然堆積が検出した周溝上面まで一度堆積し、その後1・3・4層が再堆積したようにみえる。

遺物出土状況 埋土中から遺物が少量出土しただけである。

出土遺物 図示したのは607～610の4点で、いずれも混入資料と思われる。609はII期の甕。口縁端部に押引き、内面には波状文がみられ、伊勢湾西部産の可能性がある。608はII期壺の頸部片であろうか。610は多重沈線のあるVI期後半の高环口縁部片。607は破片のため判別が難しいが、縄文晩期の深鉢の口縁部片と考えられる。

時期 出土した土器から時期を決定することはできないが、SZ032との重複関係や、SZ030やSZ033との位置関係からIII-3期と思われる。

SZ032（遺構：図57、遺物：図120）

検出状況 A地区北東部のV層上面で検出した。SZ031、SZ033の西側に位置する。SZ031、SZ033によって北東隅及び南西隅を削平され、また、西溝の中央はSD0393によって切られている。以上のように周囲の遺構との重複関係は多数認められるが、周溝の大半が現存し、概して残存状況もよい。南東隅はSZ033による削平を受けるが、陸橋部が認められる。

方台部 規模は、方台部で南北6.98m、東西8.03mで、東西に長いが、東辺の中央部がやや張り出したようになるためである。他の辺は直線的で、隅部は角をなすように屈曲する。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 深さは、平均で0.2m強だが、西溝では0.46mと深い。埋没状況は構築後、黒色砂質土が底面付近に堆積し、その後やや時間を費やすながらシルト質の黒色土が堆積し、疊混じりの黒色土が上層を覆うという順序が各断面において共通してみられ、安定的な堆積状況が認められる。底面付近の黒色砂質土が壁面崩落土の可能性が高く、構築直後から壁面崩落があったと推測される。周溝の幅は、各辺で多少異なるが、外側への膨らみはなく、0.7m～1.75mほどである。

遺物出土状況 埋土中から遺物が少量出土しただけである。

出土遺物 破片資料だが1点のみ図化した。611は甕の胴部片でVI期の資料と思われる。

時期 出土した土器から時期を決定することはできないが、SZ031との重複関係や、SZ031やSZ033との位置関係からIII-2期と思われる。

SZ033（遺構：図58、遺物：図120）

検出状況 A地区東部のV層上面において検出した。比較的、周溝が良好に遺存し、各周溝は方台部を全周する。北側のSZ031や東側のSZ042との間には約2mの空闊地がある。

方台部 南北7.90m、東西6.30mで、南北方向にやや長い、長方形となる。方台部の各辺は直線的であるが、隅部は丸みがある。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 各周溝の幅は南溝が約1.0mと他より狭いが、他の溝は1.2m前後とほぼ一定している。深さも0.4m前後である。断面形は逆台形であるが、東溝ではV字形に近い。周溝埋土のシルト状の土壤が時間をかけながら堆積したと判断できる。周溝の外縁は、周溝の南北ではやや凹み、東西ではわずか

に膨らみがある。隅部でも浅くなることはないが、東溝と南東隅部では、段差が認められる。

遺物出土状況 周溝内から少量の遺物が出土した。

出土遺物 615、616はII期条痕文系の甕であろうか。616は縦列羽状文がみられる。617も胴部下半の残存するII期平底の条痕文系の甕。底部外面はケズリ調整で布目压痕は確認できなかった。613、614はII期ハケ目調整の甕の破片と思われる。612はIV期甕B類。出土した土器の中では、II期の資料が多いが、破片資料であることや他の方形周溝墓との関係から、II期相当の資料は混入の可能性が高い。



図57 S2032遺構図

と思われる。

時期 出土した土器から時期を決定することはできないが、SZ032、SZ034、SZ035と重複関係があり、いずれの方形周溝墓よりも新しいと考えられることから、III-3期と思われる。

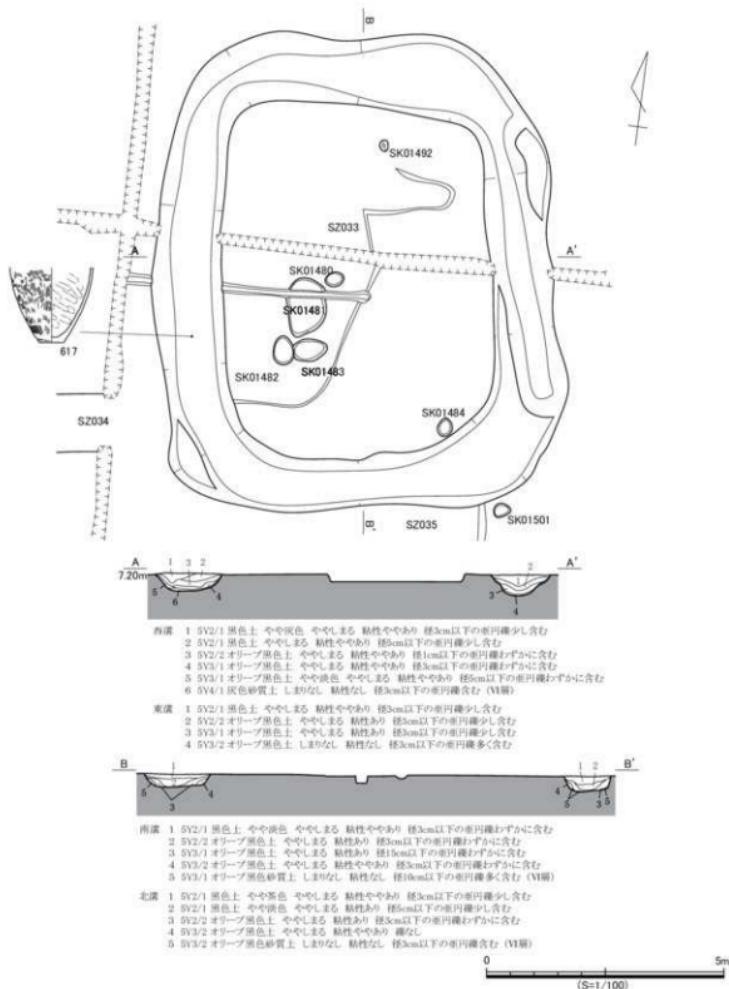


図58 S2033遺構図

SZ034（遺構：図59・60、遺物：図121・122）

検出状況 A地区東部のV層上面で検出した。他の方形周溝墓と比較してやや大型である。北東隅でSZ033と重複しており、SZ034が古いことを遺構検出時に判断した。北側のSZ032、南側のSZ036に挟まれた位置にあり、東側にはSZ030から続く方形周溝墓列がある。しかし、西側には方形周溝墓はなく、SZ032との間に空闊地が認められる。東に隣接するSZ035とは、溝を重複させることなく隣り合っている。

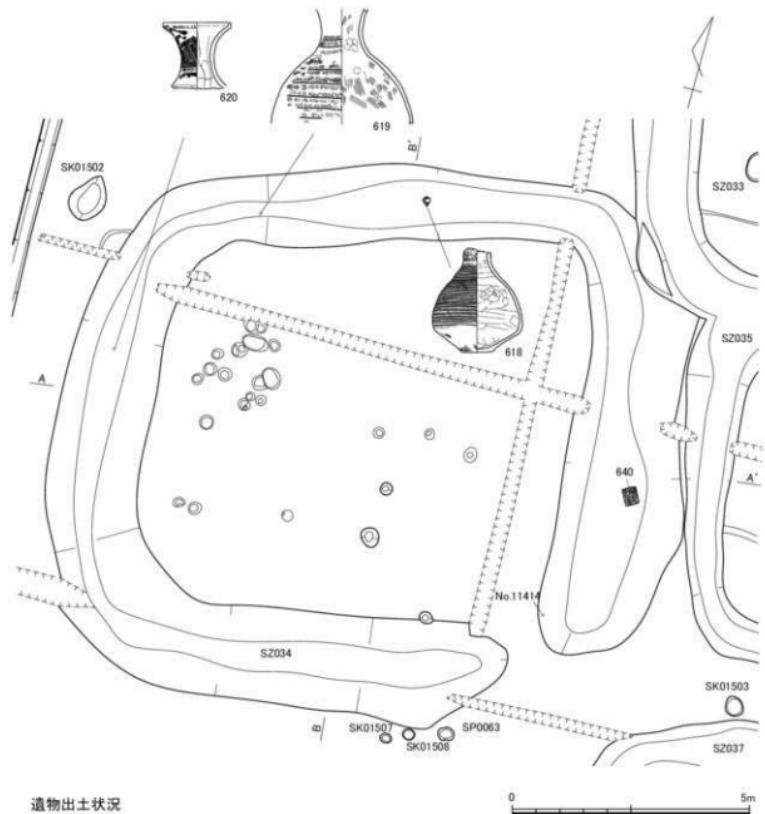
方台部 南北で8.90m、東西で10.10mと東西に長い長方形である。各辺は直線的であるが、南北溝と東西溝の隅部が直角とはならず、形状がやや平行四辺形に歪んでいる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 周溝の幅は、北溝1.60m、東溝2.30m、西溝1.90m、南溝2.00mで、深さはいずれも0.5m前後あり、断面形は逆台形に近く、周溝の壁面は比較的緩やかな傾斜である。周溝は、南東隅部で途切れているが、他の隅部では深さをあまり変えることなく続いている。周溝埋土の埋没状況は、大まかに2段階を考えることができ、第1段階として、墳丘流失土及び周囲のベース土からの流入土の堆積があり、その後、第2段階として長期間にわたる緩やかな土砂の堆積があったと考えられる。第1段階の堆積は北溝ないしは南溝で顕著でみられ、砂質土やブロック混入土が相当する。西溝外縁はやや弧状を呈し、隅部も丸みがある。

遺物出土状況 墓土中から比較的多くの遺物が出土した。北溝の底面近くでは細頸壺(618)が、西溝中央付近からも細頸壺(620)が出土した。また、東溝底面から板材(640)が出土した。

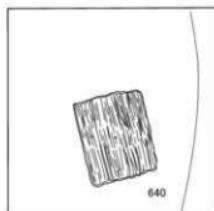
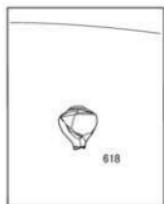
出土遺物 細頸壺(618)は、口頸部を欠くが、人為的な破損によるものかもしれない。残存する頸部には円形浮文、その下に貝殻による刺突がみられる。胴部はやや張りが弱く、文様は多重化した沈線のみである。磨消帶や沈線間の文様を省略しており、III期細頸壺資料のなかでは下限的資料であろう。620は西溝中央で出土したIII期細頸壺。口頸部のみがほぼ完存する細頸壺。受口状口縁を呈し、端部下端に摩耗のため判別困難だが、押引状もしくは廉状文の文様が認められる。頸部にはハケ目があり、口縁部の外反にそって方向を変える。頸部には幅広の沈線が1本ひかれ、その下に貝殻による刺突が施される。さらにその下位には頸部と同様のハケ目が残る。頸部以下を欠損しているが、人為的な破損の可能性もある。619もIII期の細頸壺で、618とし、多重沈線と貝殻による刺突がみられる。621もIII期の壺。南溝に散在していた破片を復元した。618と類似して、太い多重化した沈線がみられる。625はハケ調整のIV期壺D類胴部片。626はIV期壺B2類の口縁部。627はV期壺B1類。内面にはヘラケズリが認められる。623は甕で、内面にハケ目が残り、II期と思われる。632はV-1期とした高壙。环部を波状文と直線文で加飾し、脚部も直線文で加飾する。また、口縁端部を外方に引き出し、上面にも直線文がある。629は文様・調整は摩耗して不明だが、胎土からみてV期～VI期の生駒西麓産壺胴部の破片。638はV期初頭の高壙。635はV期器台A類。639は赤彩のある底部。壺の底部ではないため、形状は不明。637はVI期台付甕の脚部。631はVI期後半器台B類の口縁部。633は高壙C3類脚部、630は壺胴部で扇形文が認められる。以上がV期～VI期の土器。624はII期の壺の頸部片。他の方形周溝墓と比してII期の出土量が多い。622は绳文時代晚期後半の深鉢。貝殻条痕がある。640は磯板で、厚さ約5cm、平面形は長方形である。四方を削り落として加工している。

時期 北溝や西溝から出土した土器(618～620)により、III-3期と思われる。



遺物出土状況

0 5m
(S=1/100)



0 1m
(S=1/20)

図59 S2034遺構図（1）

SZ035（遺構：図61、遺物：図123）

検出状況 A地区東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面で検出した。北側のSZ033とは北溝を共有するように重複しているが、SZ033が新しいと判断した。西側に隣接するSZ034とは密接するものの、重複関係は認められない。東側のSZ044との間には約2mの空闊地がある。

方台部 南北6.90m、東西5.10mで、南北に長い長方形となる。各辺は比較的直線的だが、北西隅部及び南東隅部はやや丸みがある。墳丘や主体部は確認できなかった。



- 西溝
1 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径1cm以下の赤円繩少し含む
2 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
3 SY2/2 オリーブ黒色土 しわなし 黏性なし 径1cm以下の赤円繩多く含む (砂質層)
4 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径1cm以下の赤円繩少し含む (砂質層)
5 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径1cm以下の赤円繩少し含む
6 SY2/3 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径5cm以下の赤円繩少し含む
7 SY2/3 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩含む 砂粒多く含む
8 SY2/3 オリーブ黒色土 やや茶色 黏性なし 径3cm以下の赤円繩多ぐ含む

- 東溝
1 SY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
2 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩わずかに含む
3 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
4 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり ソカリ 繩なし SY2/2 オリーブ黒色土ブロック混じる
5 TSY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
6 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
7 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
8 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
9 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
10 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり ソカリ 繩なし 下部SY4/1 灰色砂質土混じる
11 SY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり ソカリ 繩なし
12 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
13 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
14 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
15 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし SY4/3 灰色砂質土ブロック混じる
16 SY2/1 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし SY4/1 灰色砂質土混じる
17 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり ソカリ 繩なし SY2/2 オリーブ黒色土ブロック混じる
18 SY2/3 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
19 SY4/2 沈オリーブ砂質土 略しまりなし 黏性なし 繩なし
20 SY4/2 沈オリーブ砂質土 略しまりなし 黏性なし 繩なし



- 北溝
1 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 径3cm以下の赤円繩少し含む
2 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
3 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし SY4/1 灰色砂質土混じる
4 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
5 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
6 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
7 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
8 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
9 SY2/2 オリーブ黒色土 略しまりなし 黏性なし 径3cm以下の赤円繩少し含む (M1層)
10 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
11 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
12 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし

- 南溝
1 SY2/2 オリーブ黒色土 しわなし 黏性あり 径1cm喉以下の赤円繩含む (M2層上)
2 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
3 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
4 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
5 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
6 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし SY3/2 オリーブ黒色土ブロック混じる
7 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
8 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし 0Y2/2 オリーブ黒色土ブロック混じる
9 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
10 SY2/2 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
11 SY2/1 黑色土 ややしまる 黏性あり 繩なし
12 TSY2/1 黑色土 ややしまる 黏性あり 繩なし SY4/1 灰色砂質土ブロック混じる
13 SY2/1 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし
14 SY2/2 黑色土 やや茶色 ややしまる 黏性あり 繩なし SY4/1 灰色砂質土ブロック混じる
15 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 黏性あり 繩なし SY2/2 オリーブ黒色土ブロック混じる
16 SY4/1 灰色砂質土 やや茶色 しまりなし 黏性なし 繩なし



図60 SZ034遺構図(2)

周溝 各溝の幅は一定せず、西溝で1.10m、南溝で1.00m、東溝で1.60mと東側でやや幅広となり、深さは西溝で0.4m、東溝で0.2mと東溝が浅い。周溝は途切れることなく方台部を全周し、各隅部も浅くなることはない。西溝埋土の8・9層は砂質土で、埴丘流失土の可能性が高く、中層にあたる3・4層は土壤化が著しい。構築直後から埴丘の崩落が始まり、壁面崩落によって周溝底面が次第に埋没して、その後周囲からの流入土によって埋没が進行するが、中層の土壤化した様相からすると、中層堆積段階で埋没の進行が緩やかだったとみられる。

遺物出土状況 西溝底面付近において、口縁部及び底部を欠くⅢ期の細頸壺が2個体(641、642)出土した。横位でやや割れた状態であり、転落したものと思われる。

出土遺物 641はⅢ期の細頸壺で、胴部下半に打ち欠きの穿孔がある土器。穿孔は4カ所に認められる。残存する頸部上端を観察すると、打ち欠いて口頭部を人為的に破損させた可能性もあるが断定は難しい。底部を欠損するが、胴部はほぼ全周する。文様は、付加沈線研磨技法によるもので頸部、胴部ともに沈線間を埋める櫛描直線文がみられ、頭部は密接した3帯、胴部は磨消費帶をはさんで4帯が施文する。胴部は継位の弧線文が3帯配置される。沈線と櫛描直線文は粗雑で、沈線と櫛描直線文の間隔が一定ではなく、箇所によっては交差する箇所も認められる。弧線文もほぼ直線的で退化傾向が強い。642もⅢ期の細頸壺で、頭部より上を欠損する。641と同様、頭部を人為的な破損させた可能性がある。文様構成は641と同一で沈線間の櫛描直線文と継位の弧線文の組み合わせで共通する。弧線文は5カ所に配置され、櫛描直線文は5帯を精緻に施文する。643は、642と同一個体の可能性がある底部で、ほぼ全周した胴部に比べると、遺存状態が悪く、胴部とは接合できなかった。645はⅡ期の壺の頭部と考えられる。646は壺の底部。644は胎土などからⅣ期とした。

時期 西溝出土の土器や、列状に並ぶ他の方形周溝墓との位置関係などから、Ⅲ-2期と思われる。

SZ036（遺構：図62・63、遺物：図123）

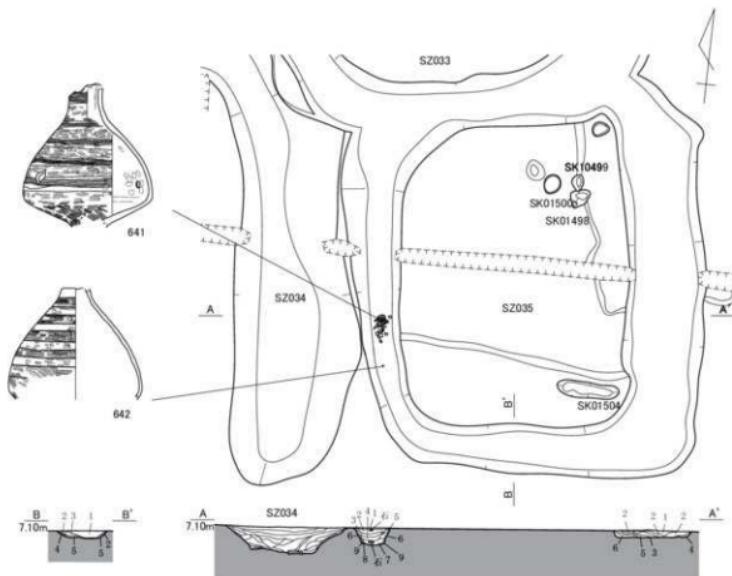
検出状況 A地区東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面で検出した。東側のSZ037とは東溝を共有するように重複しているが、SZ036が新しいと判断した。北側にSZ034が隣接するが、1m程の空闊地がある。南西隅部はSZ038と一部重複し、SZ038が新しいと判断した。

方台部 南北9.00m、東西7.60mで南北に長い長方形で、隅部はやや丸い。各辺は比較的直線的だが、南辺は南西部でやや突き出たように膨らむ。埴丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅は、北溝と南溝が約1.0m前後、東溝と西溝が1.5mを超える幅広である。断面形は逆台形状で、深さが0.4～0.5mある。南西隅部は特に深さに変化がないが、南東隅部は弧状となって浅くなる。また北西及び北東隅部については、溝が途切れるように確認した。しかし、検出時にやや掘り下げすぎたために途切れてしまった可能性があり、その場合には南東隅部と同様に浅くなると思われる。周溝埋土には、西溝断面8・9層などのようにブロック状の土が混入し、埴丘流失土と推測される土層が認められた。

遺物出土状況 周溝埋土から、比較的多くの土器片が出土した。東溝北部の底面付近から、Ⅲ期の壺(647)が出土した。なお、西溝や南溝の埋土上層を中心に、Ⅳ期～Ⅴ期の土器片が出土した。

出土遺物 647はⅢ期の壺で、頭部より上を欠損し、人為的欠損の可能性がある。胴部下半には打ち欠きがみられる。胴部に頭部から最大径にかけて、3本1組による沈線帶を9帯施文する。沈線間は



- 西溝
 1 SY2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややかり 褐分沈着少しあり 繩なし
 2 SY2/2 オリーブ黒色土 やや淡色 やや粘性あり 細かい砂利含む
 3 SY2/2 オリーブ黒色土 やや淡色 やや粘性ややかり 細かい砂利含む
 4 SY3/1 オリーブ黒色土 ややじまる 粘性ややかり 褐分沈着少しあり 径2cmの円錐2つ含む
 5 SY3/2 オリーブ黒色土 ややじまる 粘性ややかり 繩なし
 6 SY3/1 オリーブ黒色土 しまる 粘性ややかり 繩なし
 7 SY2/2 黒色土 しまる 粘性ややかり 繩なし
 8 SY5/2 深オリーブ砂質土 しまなし 粘性なし 繩なし
 9 SY4/2 深オリーブ砂質土 しまなし 粘性なし 繩なし
- 東溝
 1 SY2/2 オリーブ黒色土 やや基盤 ややしまる 粘性ややかり 径3cm以下の重円錐少し含む
 2 SY2/2 オリーブ黒色土 やや淡色 ややじまる 粘性あり 径5cm以下の重円錐少し含む
 3 SY2/1 黒色土 やや淡色 ややじまる 粘性あり 径5cm以下の重円錐少し含む
 4 SY3/1 オリーブ黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 径3cm以下の重円錐少し含む
 5 SY2/2 オリーブ黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 繩なし
 6 SY3/1 オリーブ黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 繩なし
- 南溝
 1 SY2/1 黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 繩なし 径10cm以下の重円錐2つ含む
 2 SY2/2 オリーブ黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 繩なし
 3 SY2/2 オリーブ黒色土 やや暗色 ややじまる 粘性あり 繩なし
 4 SY3/2 オリーブ黒色土 ややじまる 粘性ややかり 繩なし
 5 SY3/2 オリーブ黒色土質 やや暗色 ややじまる 粘性なし 繩なし

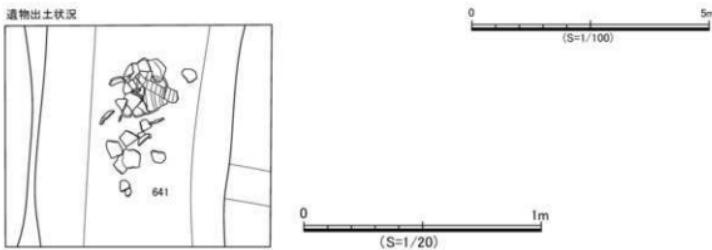


図61 S2035遺構図

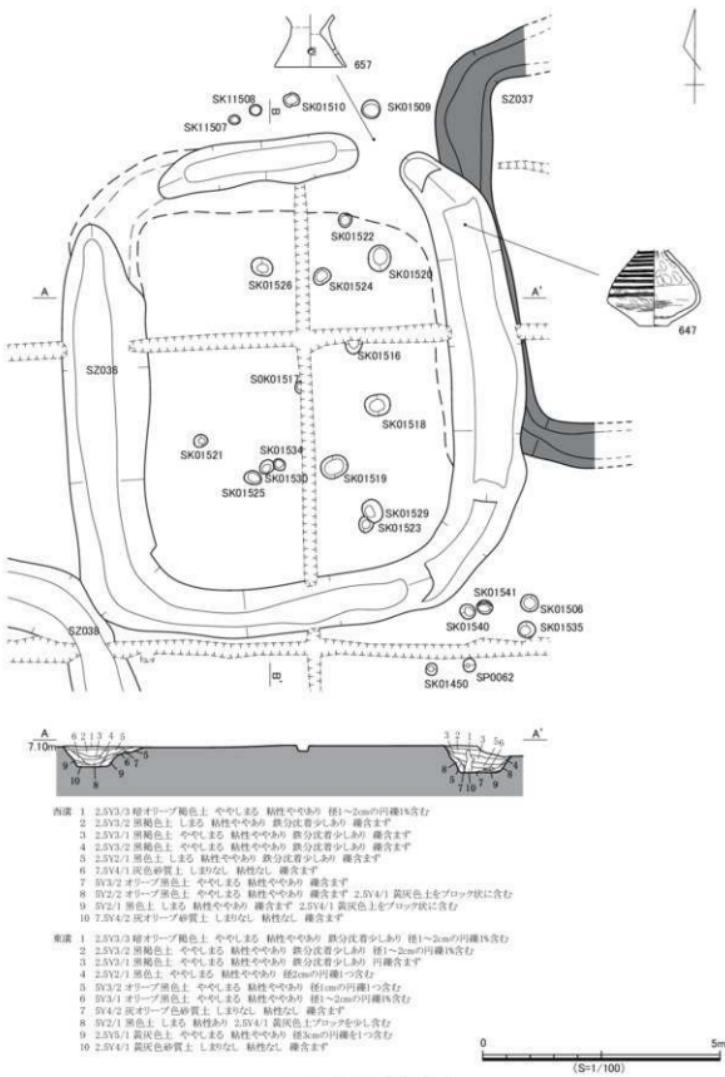


図62 SZ036構造図 (1)

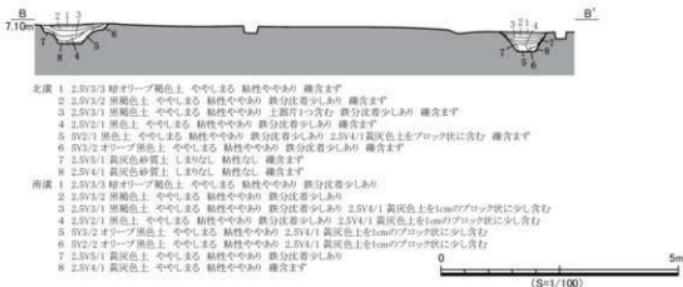


図63 SZ036遺構図（2）

ハケ目をそのまま残す。多重化した沈線帶、さらに沈線帶が粗雑化して櫛描直線文が退化した様相が認められる。沈線間に磨消帯がなく、Ⅲ期壺としては口頭部を欠損するが末期にあたる。647に類似する時期の資料として、648がある。Ⅲ期壺の胴部片であろう。649・650の甕はIV期の資料。649には波状文が認められる。659は底部、656は高坏B類。器台657は北東隅部から出土した。656・657はV期であろう。651～655II期の壺と思われる。出土位置はやや南溝に偏るが、顕著な偏在傾向は認められない。層位は底面付近のものも多いが、埋土上層出土も認められる。さらに隣接するSZ037周溝出土の資料と接合する破片もある。混入資料と思われるが、SZ036など方形周溝墓構築以前に、II期の遺構が存在していたことを想像させる。

時期 遺存状態の良い土器(647)及び、他の方形周溝墓との位置関係などから、III-3期と思われる。

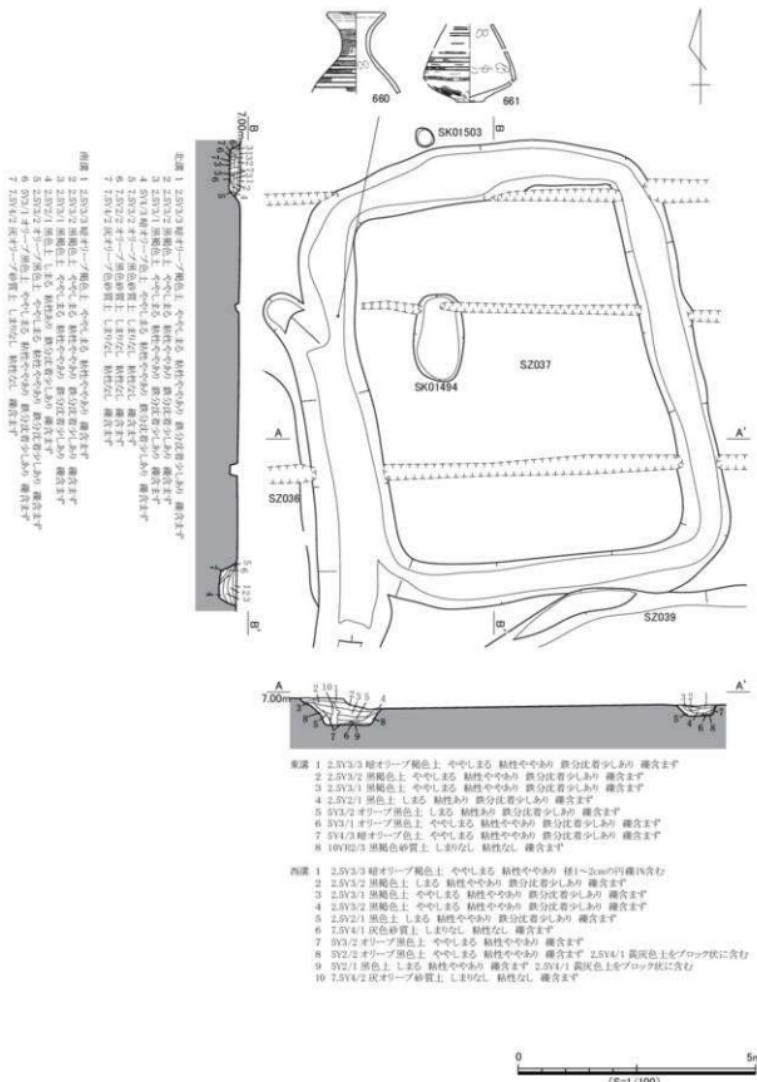
SZ037（遺構：図64、遺物：図124）

検出状況 A地区東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面において検出した。西溝の多くをSZ036、南溝の一部をSZ039によって削平されている。北側のSZ035との間には約1m、東側のSZ045との間には約3mの空閑地がある。

方台部 南北8.10m、東西6.30mで東西に長い長方形である。各辺は比較的直線的で、北東及び南東隅部は屈曲するが、北西及び南西隅部は丸みがある。墳丘及び主体部は確認できなかった。方台部上で検出したSK01494は、時期が異なる遺構と判断した。

周溝 幅は0.8m～1.2mで、各溝は直線的な形状である。断面は逆台形で、SZ036と重複する西溝のみ0.6mと深いが、その他は0.2m～0.4mである。各隅部は深さを変えることなく、各辺の溝が接続し、方台部を全周している。周溝埋土の状況は、周溝底面の立ち上がり付近に壁面もしくは墳丘流失土が堆積している。周溝は、構築直後に墳丘から流入土があったものの、安定的な状況が継続し、その後、緩やかに中央付近が埋没したものと推測される。

遺物出土状況 周溝内からは土器片が少量出土した。なお、西溝の底面付近から比較的遺存状態が良い土器(660・661)が出土したが、大半は破片となっていた。



出土遺物 V期～VI期の壺底部665、II期壺胴部662・663、II期壺口縁片664、III期壺660、661の計6点を図示した。660は口縁部～胴部上半までが残存し、櫛描直線文で施される。口縁部は受口状を呈し、端部には波状文がみられる。頸部は3帯の櫛描直線文、残存する胴部には付加沈線研磨技法による櫛描直線文が3帯施され、660と類似するが、ハケ目が細く断面が浅い。660については同一個体と思われる土器片が、SZ036周溝内からも出土した。662・663はII期壺の胴部片。664は同じII期だが、条痕のある壺。

時期 最も遺存状態の良い土器(660・661)及び、他の方形周溝墓との位置・重複関係から、III～Ⅱ期と思われる。

SZ038（遺構：図65、遺物：図124）

検出状況 A地区東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面において検出した。中央から西部にかけて、調査区外となるが西溝の一部を確認した。また、南溝については、SD0404、SD0405とした東西方向の溝状遺構が該当する可能性がある。北東側にSZ036が接している他は、方形周溝墓と接しておらず、A地区東部で列状をなす方形周溝墓群から1基のみ西へ外れた位置となってている。

方台部 南溝をSD0404と仮定した場合、南北約9m、東西でも同程度と思われ、ほぼ方形に近い形状と推定する。東辺と北辺の一部を確認しただけであるが、比較的直線的で、北東隅部は屈曲する。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 検出した範囲での幅は、北溝1.6m、東溝1.4mで、深さは0.36mである。中央部近くでやや膨らみ、隅部に向かって幅が減少しているように見える。東溝は、北溝では深さをあまり変化させることなく続くが、南東隅では途切れている。断面形は逆台形状となっている。

遺物出土状況 周溝埋土中から少量の土器片が出土した。

出土遺物 666・667はIV期の甕。668は断片的資料だが、IV期水差の把手の可能性がある。高坏(673)、高坏脚部(671)、甕(674)はIV期からV期の資料。673・674は遺存状態もよく、底面付近の土層から出土している。

時期 V期の土器は、重複した竪穴住居跡と関係があると思われ、これを除くとIV期の土器が残る。また、東側に列状に並ぶ方形周溝墓群とも、近い関係にあると思われ、SZ037やSZ038との位置関係からIII期後半と考えたい。

SZ039（遺構：図66・67、遺物：図125・126）

検出状況 A地区南東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面において検出した。南西隅をSD0382に削平されるが、底面にまで掘削は及んでいない。北側にSZ037が周溝を接しており、南側には約1mの間をおいてSZ040が位置する。東側のSZ047との間には約2mの空闊地がある。

方台部 南北9.40m、東西8.10mで、南北方向にやや長い長方形となる。各辺は比較的直線的で、隅部はやや丸い。墳丘及び主体部は確認できなかった。

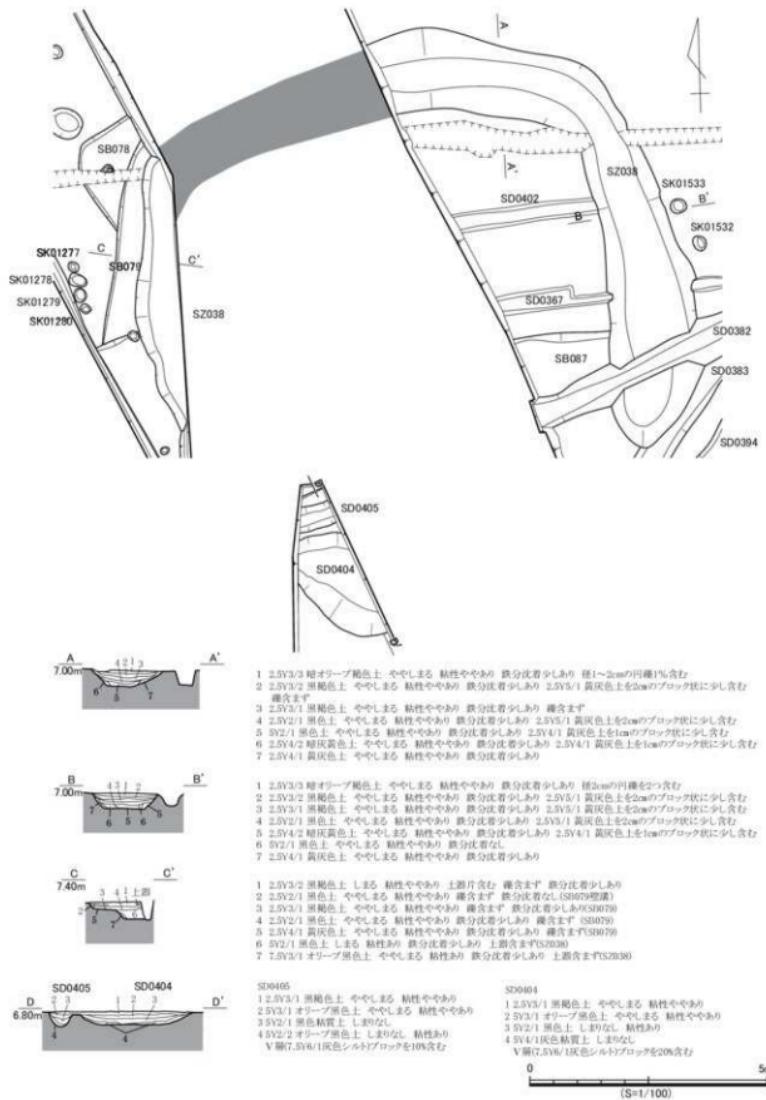


図65 SZ038遺構図

周溝 幅は、西溝で2.15m、東溝で1.4m、北溝で1.65m、南溝で1.1mと一樣ではなく、深さは0.5m～0.7mである。断面形状はいずれも逆台形状となる。南東隅部で周溝は途切れているが、他は深さをあまり変化させることなく連続する。北溝埋土2層については、周溝外側壁面の立ち上がり角度から、SZ039ではない別の遺構である可能性が考えられ、その場合は、SZ037とSZ039の前後関係は不明となる。また、周溝埋土中に含まれる黄灰色土ブロックは、墳丘からの崩落と思われるが、間層をおいて中程の土層にもこうしたブロックが含まれている。

遺物出土状況 周溝埋土中から土器片や木製品が出土した。木製品は西溝南半部にまとまっている。SD0382との重複部分が含まれる南西隅部では、VI期の土器が出土しており、これはSD0382の掘り下げが不足していた可能性がある。

出土遺物 682・683の器台B類、684の壺H類、679・680の鉢A類が遺存状況が良く、すべてVI期の資料である。683は器台B1類の基準資料ともいえ、長脚の脚部をもち、VI-1・2期の典型例である。また、高杯B類(681)もほぼ同じ時期に相当する。681を除いていずれも同じ取り上げ番号で処理されている。以上の5点は、南西隅部から出土している。678は、東溝埋土上層から出土したIV期の壺。胸部に直線文と波状文を交互に施す。675、677はII期、676はIII期の資料。678はII期の壺頭部。周辺の周溝墓からも同一個体と思われる破片が出土している。679はII期のハケ甕と思われるが、摩耗が著しく判断が難しい。676は底面付近の土層から出土した。III期の細頸壺の口縁部。摩耗もあまり認められないが、小片のため供献土器とするのは困難である。受口状口縁で端部に波状文、頭部には直線紋が認められる。685は板状木製品で、上端は山形である。686は加工材で、全面が腐食しております、顕著な加工痕は認められない。687は断面台形の細長い加工材で、上下端が欠損している。表面には加工痕がわずかに残る。688は直柄鍬で、柄孔隆起は身の周囲から柄孔に向けて徐々に厚みを増す。柄は断面円形で上部より下部の方が細い。689は棒状木製品で、両端を縱方向から削り出している。表面はまばらに炭化している。690は棒状木製品で、下部は細く加工している。上部は樹皮が残り、中央部は炭化している。691は直柄鍬で、不整形な加工材で上下端とも欠損している。上部には円形に抉った痕跡がある。表面は全体的に炭化している。

時期 底面近くから出土したIII期の細頸壺(676)や、他の方形周溝墓との位置関係から、III期と思われる。

SZ040（遺構：図68、遺物：図127）

検出状況 A地区の南東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面において検出した。北側のSZ039との間には約1m、東側のSZ048との間には約3mの空閑地がある。北溝の一部がSD0382に削平されている。

方台部 南北7.65m、東西6.10mで、南北に長い長方形となるが、南へ向かってやや幅が広がる。各辺は比較的直線的である。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 北溝から西溝、南溝にかけて、1.0m前後の幅でコ字状に方台部を囲み、東溝だけが南北端で途切れている。南西隅部では幅がやや狭くなり、周溝が屈曲する。深さは0.3m強で、断面形は逆台形状を呈す。

遺物出土状況 周溝埋土上層から土器片が少量出土した。

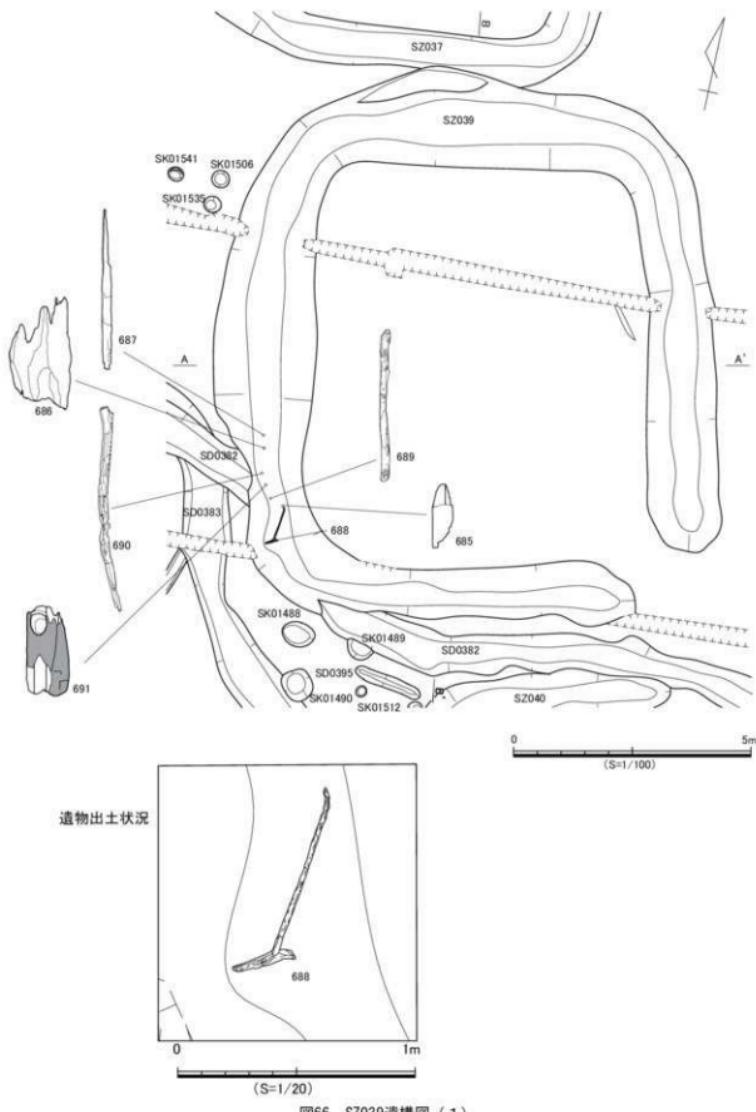


図66 SZ039造構図（1）

出土遺物 696・698はVI期の資料であろう。698には頸部に焼成前の穿孔が認められる。692はI期後半の壺。693・694はII期の壺で上層出土である。貝による施文が認められる。697は口縁部片で竹管文が施文される。695は口縁部片だが、口縁が内傾し突帯が2条貼付され、その上に刻みが加えられる。摩耗が著しいが、貝による条痕が確認できるのでII期に分類した。

時期 出土した土器からは時期を判断することはできないが、列状に並ぶ方形周溝墓との関係から、III期と思われる。

SZ041（遺構：図68、遺物：図127）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。大半が調査区外に及ぶため、南西隅部と西溝、南溝の一部を確認したのみである。南側のSZ042との間には約1m、西側のSZ031との間には約5mの空閑地がある。



- 西溝
1. 2.SV3/3 線オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着が少入る
2. 2.SV3/3 線オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり 鉄分沈着少く0.0%ある
3. 2.SV3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり 鉄分沈着は少い
4. 2.SV3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性あり 2.5V4/1 黄灰色土を2cmのブロック状に含む
5. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
6. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性あり 層の中央に鉄分沈着少く0.0%ある
7. SV3/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり 層の中央に鉄分沈着少く0.0%ある
8. SV3/1 オーリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 鉄分沈着少く0.0%ある
9. 2.SV4/1 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着を3cmのブロック状に含む
10. 2.SV5/1 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着が細かい0cmで多く入る(顕り出す)
11. SV4/3 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
12. SV4/2 水溶性褐色土 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
13. SV4/2 水溶性褐色土 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある

- 東溝
1. 2.SV3/3 線オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
2. 2.SV3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
3. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
4. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
5. SV2/2 オーリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を1cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
6. SV2/1 黑色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を1cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
7. SV2/1 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
8. SV2/3 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を3cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
9. 2.SV2/2 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある

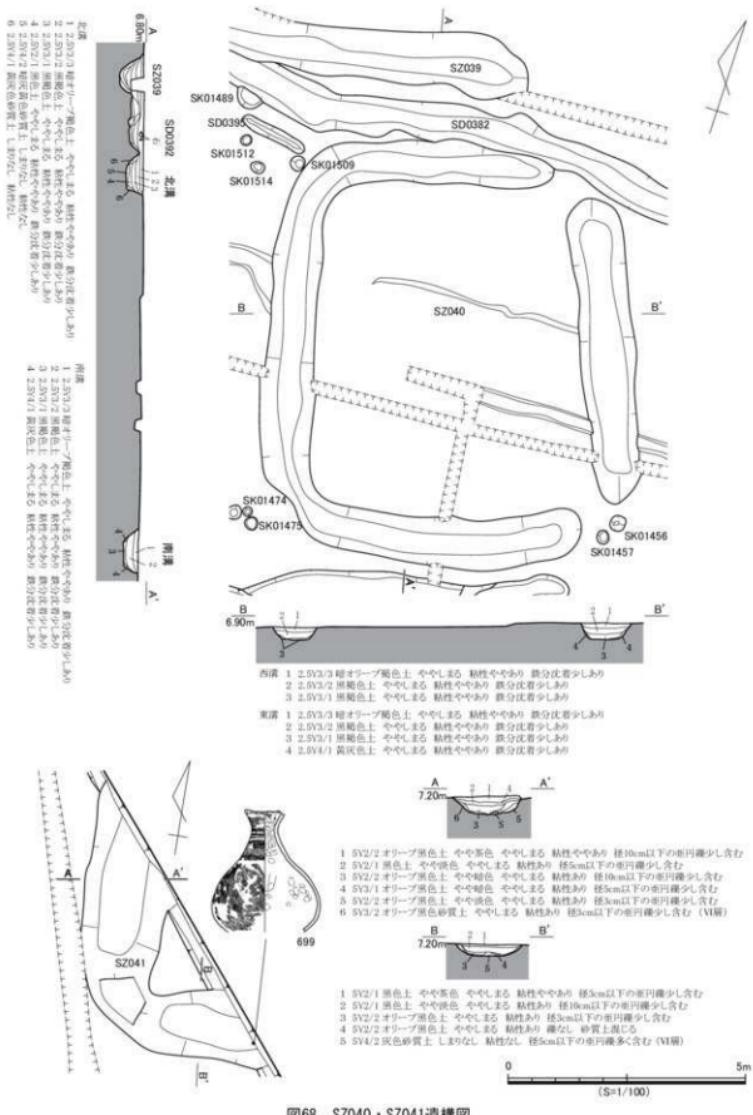


- 北溝
1. 2.SV3/3 線オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
2. 2.SV3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
3. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
4. SV3/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
5. SV3/1 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を1cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
6. SV2/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を3cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
7. SV2/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
8. SV2/3 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を3cmのブロック状に少し含む 鉄分沈着少く0.0%ある
9. 2.SV2/2 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある

- 南溝
1. 2.SV3/3 線オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
2. 2.SV3/2 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
3. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
4. SV3/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
5. SV3/1 オーリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を1cmのブロック状に少し含む(SD0382)
6. SV2/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 2.5V4/1 黄灰色土を1cmのブロック状に少し含む(SD0382)
7. 2.SV3/2 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
8. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
9. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
10. 2.SV3/1 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
11. SV3/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
12. SV3/1 オーリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
13. SV2/2 オーリーブ褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
14. SV2/1 水溶性オーリーブ褐色土 黄褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある
15. 2.SV3/2 黑褐色土 ややしまる 粘性ややかめ 鉄分沈着少く0.0%ある



図67 SZ039遺構図（2）



方台部 検出した範囲では、南北約3m、東西約2mで、南西隅部は屈曲している。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅は西側で1.7m、南溝で1.4m、深さはそれぞれ0.4m、0.2mであるが、南西隅部はさらに浅くなる。

遺物出土状況 南溝底面近くから、Ⅲ期の盞(699)が出土したほか、埋土中から土器片が少量出土した。

出土遺物 699は頭部がやや短く、胴部最大径の屈曲が丸みをもつのが特徴的な資料である。頭部には沈線間を上下端にそれぞれ刺突が加えられ、胴上半には櫛描直線文が2帯施文される。胴上半の文様帶以下にはハケ目調整をそのまま残す。

時期 南溝から出土した盞(699)や列状に並ぶ方形周溝墓との関係から、Ⅲ期と思われる。

SZ042（遺構：図69）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。北東部は調査区外となり、東溝はSZ043の西溝と、南溝はSZ044の北溝と重複するが、構築順序はSZ044が古く、次いでSZ042、その後SZ043となる。北側に位置するSZ041との間には約1m、西側のSZ033との間には約2mの空閑地がある。

方台部 南北8.60m、東西7.50mで、南北にやや長い長方形である。各辺は直線的で、調査区外となる北東隅部を除き、隅部は丸みがある。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 検出した範囲では、方台部をほぼ全周するが、南東隅部は南溝よりも浅くなっている。各溝の深さはさまざまで、西溝が0.4mと最も残りが良い。西溝で埋没状況を観察すると、構築直後に内縁、外縁からの壁面崩落が堆積し、その後、一定の安定期間を経て1層がゆっくりと堆積して埋没する経過がみてとれる。6層は土層中に砂質土が混在することから、人為的な土層である可能性が高い。堆積箇所からみて構築直後に堆積した墳丘盛土からの流入土と考えられる。

出土遺物 土器片がわずかに出土したが、図示可能な資料はなかった。

時期 出土土器からSZ042の構築時期を検討することはできなかった。周囲の方形周溝墓との重複関係からは、SZ044よりも新しく、SZ043よりも古くなる。しかし、SZ043、SZ044とも出土した土器は少なく、構築時期を決めうる資料に欠けている。西側にはSZ029からSZ040に至る方形周溝墓列があり、これと2~5mの間を置いてSZ041からSZ048までの同様の方形周溝墓列があること、重複関係からSZ043よりも古いことからⅢ-2期と思われる。

SZ043（遺構：図70、遺物：図127）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。大半が調査区外となり、西溝と南溝の一部を確認しただけである。西溝はSZ042の東溝と、南溝はSZ044の北溝と重複する。

方台部 西辺と南辺の一部を確認しただけであるが、ほぼ直線的で南西隅部は角をなす。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅1m前後で、深さは0.20mであるが、南西隅部は浅くなることなく、西溝と南溝が続く。断面形は逆台形状である。

遺物出土状況 周溝埋土から少量の土器が出土した。

出土遺物 702は赤彩のあるV期の壺胴部片。700は直線文と波状文がみられ、701は小片のため判断が難しいが、700とともにIV期甕B類の胴部片と思われる。

時期 出土土器から構築時期を検討することはできなかったが、SZ042と同様に、列状に並ぶ方形周溝墓群の一つであり、重複関係からIII-3期と思われる。

SZ044（遺構：図71、遺物：図127）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面において確認した。北東部が一部調査区外となり、北溝はSZ042とSZ043と、南溝はSZ045と重複するが、SZ044が最も古い。西側のSZ035との間に1～2mの

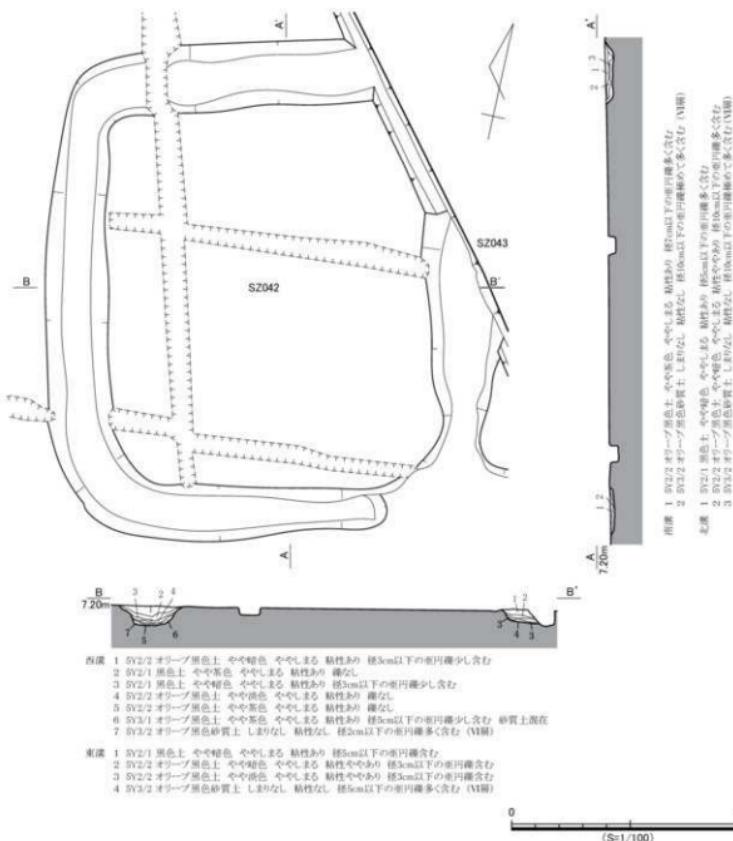


図69 SZ042遺構図

空閑地がある。

方台部 南北8.35m、東西11.30mで、東西に長いが、各辺はやや湾曲するため、方台部は不整長方形となる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 東溝の一部は調査区外となるが、各周溝の深さは0.2m前後と比較的浅く、南西隅で途切れる。幅は1.7m~2.0m前後とやや広く、底面が比較的平坦である。

遺物出土状況 周溝埋土から少量の土器片が出土した。

出土遺物 図示したのは4点である。703はⅢ期壺の頸部で櫛描直線文がある。705はⅡ期の甕口縁部片。端部に刻み、内面に波状文が2帯施文される。704はⅡ期壺の頸部。貝による施文が認められる。706はV期・VI期壺の胴部～底部にかけての資料。摩耗が著しい。

時期 出土土器から構築時期を検討することはできなかったが、SZ042などと同様に、列状に並ぶ方形周溝墓群の一つであり、重複関係からⅢ-1期と思われる。

SZ045（遺構：図72・73、遺物：図128）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。周溝墓の中で唯一周溝が円形に巡る円形周溝墓である。北部でSZ044、南部でSZ047、南東部でSZ046と重複しているが、いずれの方形周溝墓よりも新しいと判断した。西側のSZ037との間には、約3mの空閑地がある。

方台部 南北12.50m、東西12.25mで不整円形となる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅は概ね2.2m前後だが、北西部の一帯で1.3mほどと狭い所もある。また南東部では途切れしており、陸橋を残している。周溝の深さは0.2m~0.3m程度で、断面形は逆台形状である。

遺物出土状況 周溝西部底面近くで、2個体の土器が出土した(708・709)。709は転落したような出土状況である。その他、周溝埋土中から土器片が出土した。

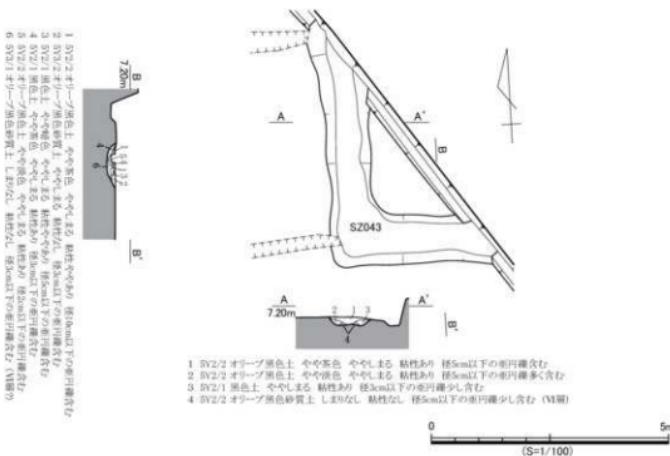
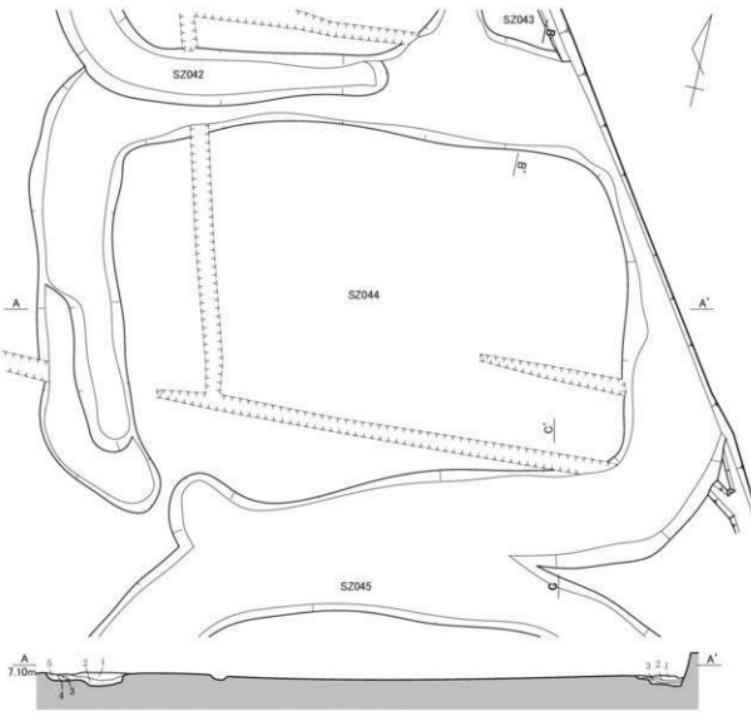


図70 SZ043遺構図



西端 1 SY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐わざかに含む

2 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 残3cm以下の重円錐わざかに含む

3 SY3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 緩含まず

4 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 残5cm以下の重円錐下部にわざかに含む

5 SY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 粘性ややあり 緩含まず (透視構造)

東端 1 SY2/1 黒色土 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐多く含む

2 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐多く含む

3 SY3/2 オリーブ黒色砂質土 ジヤなし 粘性なし 残5cm以下の重円錐多く含む (V1層)

4 SY2/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 粘性ややあり

5 SY2/2 オリーブ黒色砂質土 しまなし 粘性なし 残3cm以下の重円錐含む

6 SY2/1 オリーブ黒色砂質土 しまなし 粘性なし 残3cm以下の重円錐含む

7 SY4/1 黒色土 やや茶色 ややしまる 粘性なし 残10cm以下の重円錐多く含む

8 SY2/1 オリーブ黒色土 やや茶色 ややしまる 粘性ややあり

9 SY2/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり 残5cm以下の重円錐含む

- 10 SY3/2 オリーブ黒色砂質土 しまなし 粘性なし 残5cm以下の重円錐多く含む (V1層)

1 SY2/1 黒色土 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐含む

2 SY2/2 オリーブ黒色砂質土 ジヤなし 粘性なし

3 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり

残5cm以下の重円錐少しく含む SY3/2 オリーブ黒色砂質土ブロック混在

4 SY2/1 黒色土 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐含む

5 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり 残5cm以下の重円錐含む

6 SY2/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり

残5cm以下の重円錐少しく含む SY2/1 黑色砂質土ブロック混在

7 SY2/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし

残5cm以下の重円錐少しく含む SY2/1 黑色砂質土ブロック混在

8 SY3/2 オリーブ黒色砂質土 ジヤなし 粘性なし

残5cm以下の重円錐多く含む (V1層)



図71 SZ044造構図

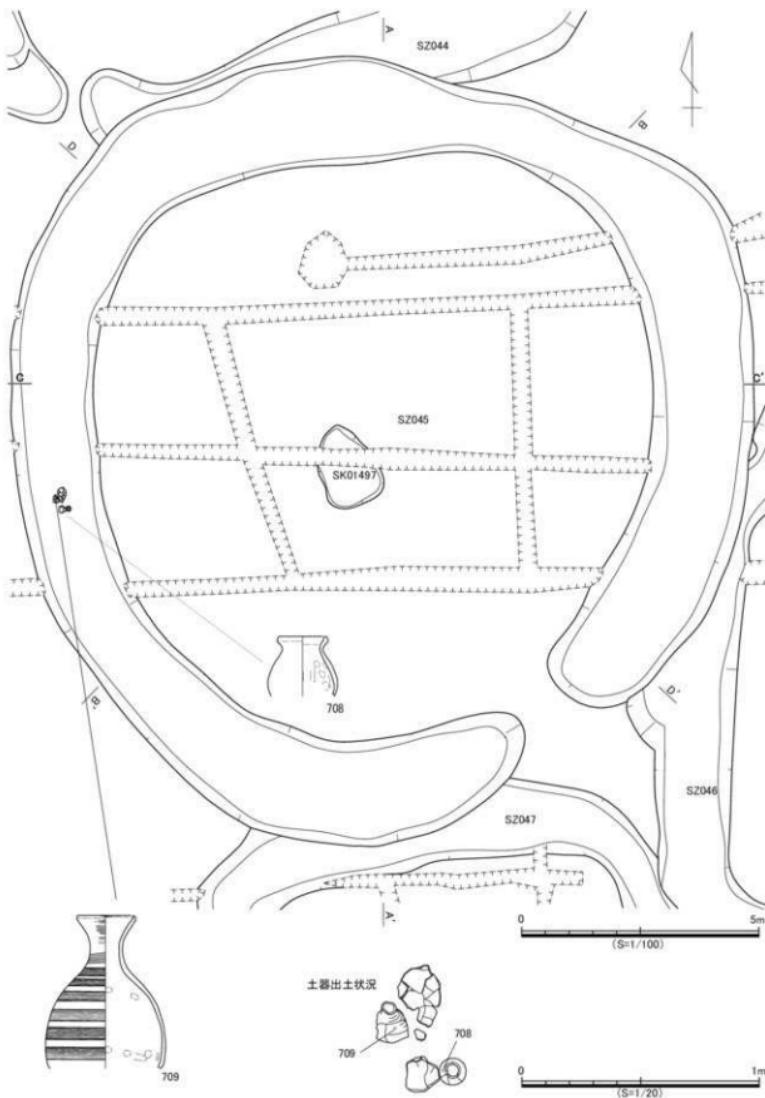


図72 SZ045遺構図（1）

出土遺物 708・709はⅢ期の壺で、底面からやや浮いた状況で出土した。708は胴部下半を欠損する。摩耗が著しく文様・調整は不明。709は、口縁部から胴部上半にかけて残存し、胴部下半を欠損する。胴部の残存が半分弱にとどまり、完形品ではないが、供獻土器の可能性が高い。口縁端部は受口状を呈し、直立する頸部から胴部へはなだらかに移行し、あまり肩は張らない。頸部に櫛描直線文が認め

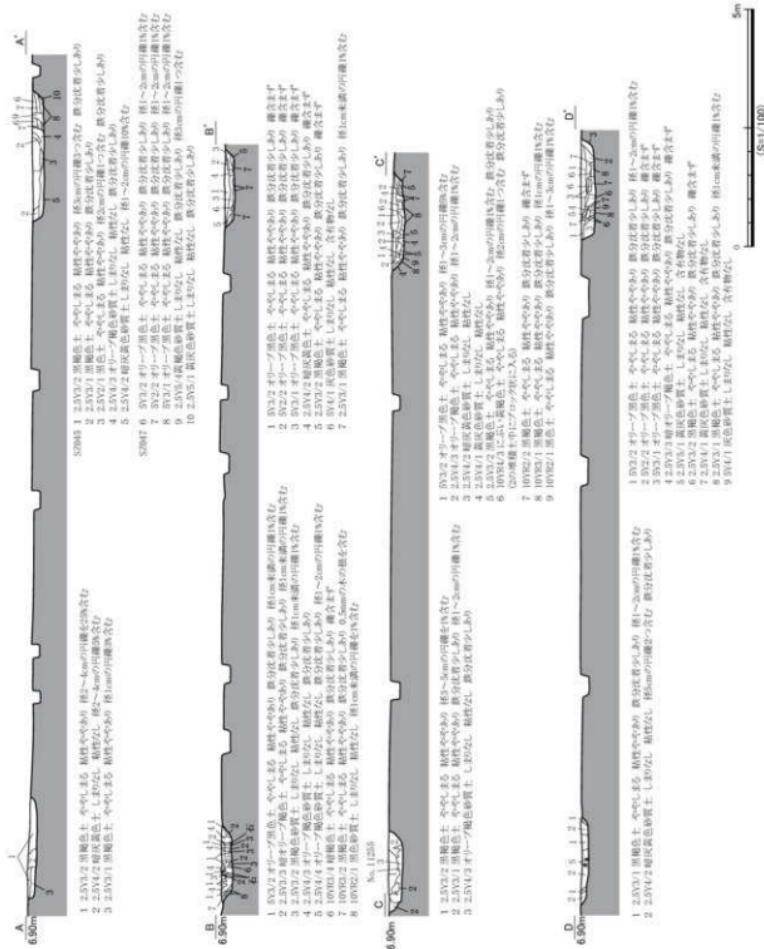


図73 S0245遺構図(2)

られるが、胸部の摩耗が著しく、文様の確認が困難だが、櫛描直線文が痕跡的に確認できる。時期はⅢ期でも後半に相当する。710～713はいずれもⅡ期壺の口縁部片。714はⅢ期壺の口縁部片。内面に瘤状突起がある。715は口頭部を欠損し、文様はなくハケ調整のみで、内面には輪積み痕を荒々しく残す。Ⅲ期の壺であろうか。

時期 遺存状態が良く、周溝底面近くで出土した土器(708・709)から、Ⅲ-2期と思われる。

SZ046（遺構：図74、遺物：図128）

検出状況 A地区南東部に位置し、IV層上面の水田遺構除去した後に、V層上面で検出した。北東隅は調査区外となり、全形は確認できなかった。北西部はSZ045と、南西部はSZ047と重複するが、前後関係は、SZ047が古く、その後SZ046、最も新しいのはSZ045と判断した。

方台部 南北10.10m、東西8.55mで、南北にやや長い長方形である。各辺は比較的直線的で、南西隅部は比較的角をなしているが、北西及び南東隅部はやや丸くなる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅は、各溝の中央で、東溝1.3m、西溝1.8m、北溝1.6m、南溝1.7mで、各溝では幅をあまり変えることなくほぼ直線的である。確認した範囲では、周溝は方台部を巡り、南東隅部のみ幅0.6m程に狭く、浅くなる。断面形は逆台形状となるが、東溝と西溝は深さが約0.4m、南溝と北溝は約0.2mである。

遺物出土状況 周溝埋土から土器片が少量出土した。

出土遺物 1点のみ図示した。718はⅣ期の甕である。

時期 出土した土器からは、構築時期の検討はできなかったが、SZ042などと同様に、列状に並ぶ方形周溝墓群の一つであり、重複関係からⅢ期前半と思われる。

SZ047（遺構：図75）

検出状況 A地区南東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面で検出した。北溝はSZ045、東溝はSZ046、南溝はSD0382と重複し、前後関係はいずれもSZ047が古いと判断した。西側のSZ039との間には、約2mの空閑地がある。

方台部 南北8.30m、東西8.46mとほぼ方形である。各辺は比較的直線的で、隅部は角をなす。墳丘及び主体部は確認できなかった。方台部の中央南寄りの位置に、SK01438はを検出したが、時期が異なると判断しており、主体部ではない。

周溝 幅は各溝の中央で、東溝1.65m、西溝1.35m、南溝1.18m、北溝約1.6mである。北溝や南溝はSZ045やSD0382と重複しており、外縁部の状況は明確ではないが、東溝で若干認められるようにやや外に膨らみを持つか、あるいは、西溝のように幅をあまり変えることなくほぼ直線的となる。南西隅では周溝が途切れるが、他の隅部では深さを大きく変えることなく、連続している。深さは0.2m～0.5mあり、断面形も逆台形である。

出土遺物 周溝埋土からは土器小片が少量出土しただけで、図示可能なものはなかった。

時期 出土した土器からは、構築時期の検討はできなかったが、SZ042などと同様に、列状に並ぶ方形周溝墓群の一つであり、重複関係からⅢ-1期と思われる。

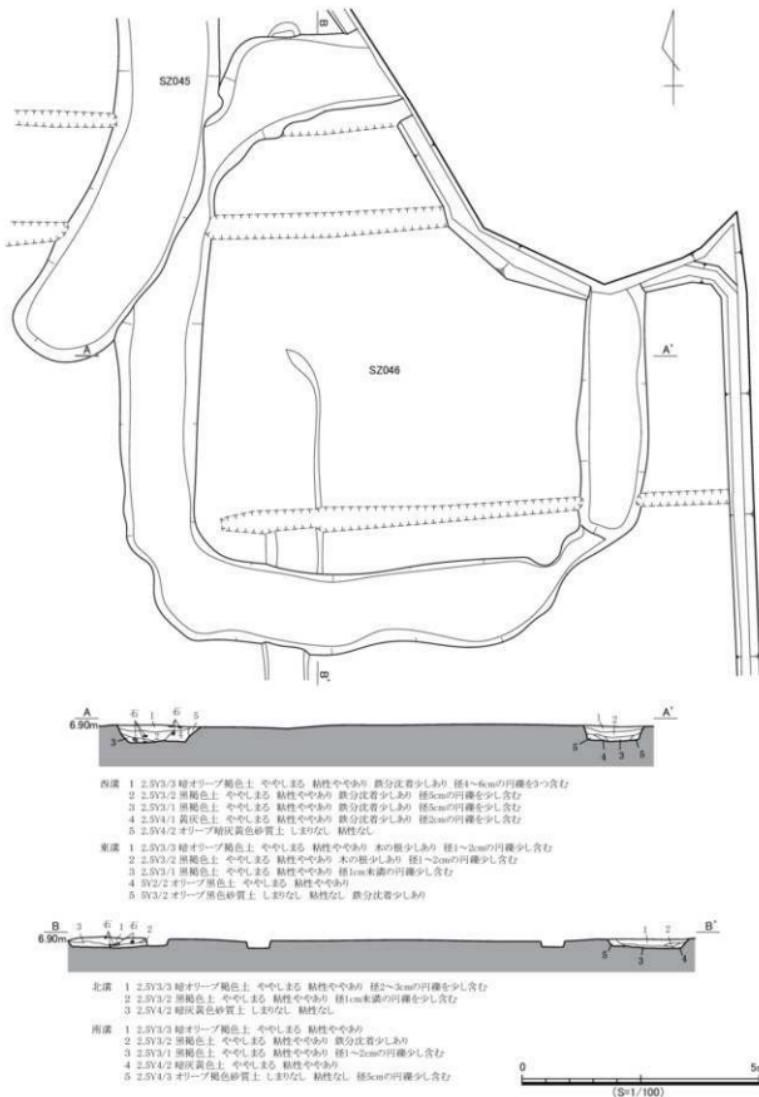


図74 S2046造構図

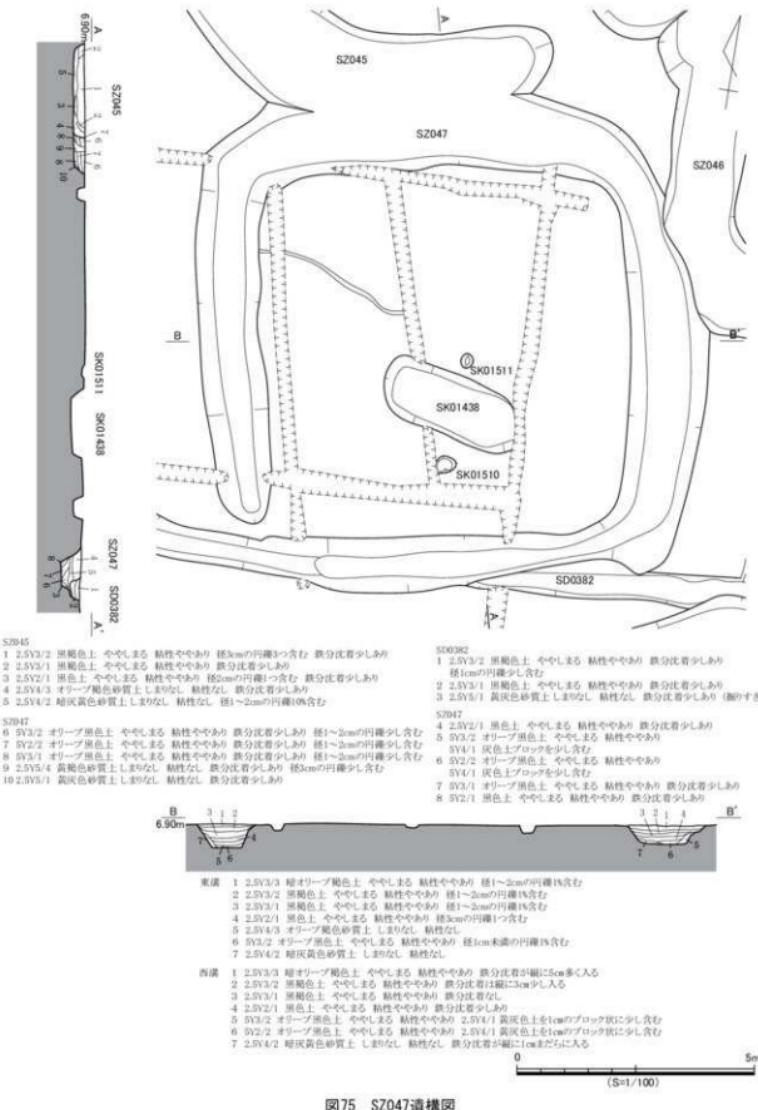


図75 S2047遺構図

SZ048(遺構:図76、遺物:図128)

検出状況 A地区南東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面で検出した。西側のSZ040との間に約3m、北側のSZ047との間に約1の空闊地がある。SZ049と重複しているが、検出時はSZ048が新しいと判断した。

方台部 南北6.62m、東西5.98mで方形に近いが、東辺がやや湾曲しており、北辺よりも南辺は短くなる。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 幅は、各溝の中央で、東溝1.30m、西溝1.10m、南溝1.00m、北溝約0.80mで、東溝は幅が一定でなくやや湾曲するが、他の溝では幅をあまり変えることなくほぼ直線的である。北西隅及び南西隅は周溝が回らず、西溝は北溝と南溝に続かない。深さは東溝が0.1mで、他が0.2mほどである。

遺物出土状況 周溝埋土中から土器片が少量出土した。

出土遺物 719は内面に沈線のある資料。720は縄文時代晩期末の深鉢であろう。721は壺は底部で、木葉痕が残る。IV期の資料か。

時期 出土した土器からは、構築時期の検討はできなかったが、SZ042などと同様に、列状に並ぶ方

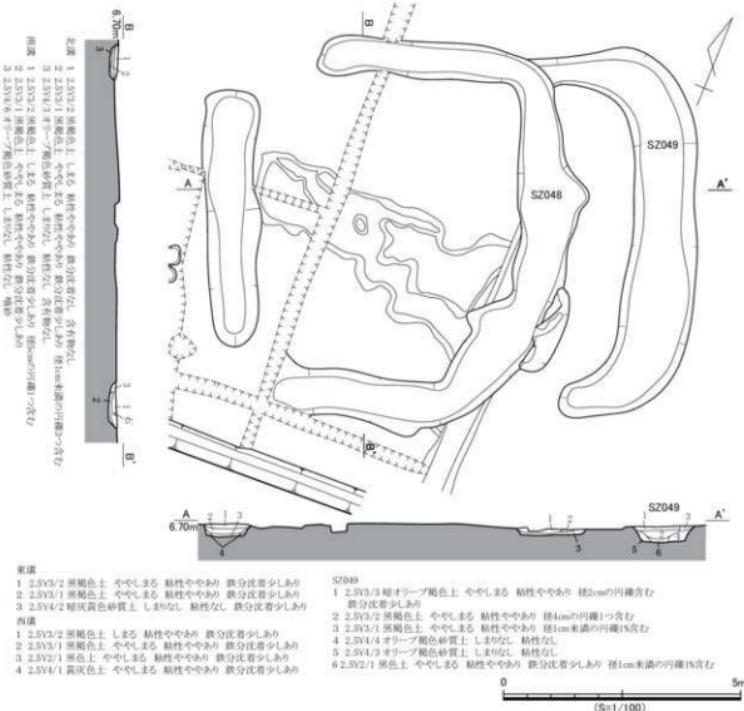


図76 SZ048・SZ049遺構図

形周溝墓群の一つであり、SZ049との重複関係からIII-2期と思われる。

SZ049（遺構：図76、遺物：図128）

検出状況 A地区南東部に位置し、IV層上面の水田遺構を除去した後、V層上面で検出した。SZ048の東側にコ字状の溝状遺構を確認し、SZ048と関連するものと思われるが、検出時はSZ048とSZ049は重複関係にあるものとし、SZ048が新しいと判断した。

方台部 南北6.50mで、東西方向は約2m残存する。東辺は直線的である。墳丘及び主体部は確認できなかった。

周溝 東溝の中央での幅は1.4m、深さ0.32mである。北溝は、SZ048北溝と重複しているが、南溝は、東溝が南東隅部から南溝へ続くところで途切れ、確認できない。SZ048とSZ049とがまったく別の方形周溝墓で重複する関係にあるとすれば、SZ048方台部の中でSZ049西溝が確認でき、北溝や南溝で重なり合う状況を確認できても良いと思われるが、そうした状況は確認できなかった。このため、SZ049はSZ048を拡幅するように掘削されたもの、あるいは、SZ048西溝からSZ049東溝までの、東西に長い長方形の方台部を持つ方形周溝墓を、SZ048に作り替えた可能性が考えられる。

遺物出土状況 周溝埋土中から土器片が少量出土した。

出土遺物 722は壺で、研磨帯もなく、多重化した直線文があり、III期でも末葉のものと思われる。

時期 SZ042などと同様に列状に並ぶ方形周溝墓群の一つであり、SZ048との重複関係、出土した土器からIII-3期と思われる。

表7 方形周溝墓等一覧(1)

遺構番号	現場遺構番号	調査区分	機出位置	埋土	平面形状	主軸方位	上端長幅	上端短幅	下端長幅	下端短幅	深さ	新>●>旧	時期	出土遺物	挿図	図版
SZ001	07_A0241 06_A0317 08_A0090	E13～K5	V上	9層C	A1	N4° E	11.60	(11.50)	8.95	(8.60)	0.48	SK00336, SK00337, SK00377, SD0280> >SD002, SK00175	IV-2期	H	20	7
SZ002	07_A0236 08_A0133	E12～N3	V上	9層B	A3	N10° E	14.30	(9.10)	11.10	(6.90)	0.19	SZ0044> >SD0066	IV-2期	H	21・22	7
SZ003	07_A0210	E01	V上	9層C	A1	N5° E	7.80	6.15	7.40	5.78	0.89	SK00135, SK00302, SD00124, SK00299,	IV-2期	H,P	23・24	7・8
SZ004	07_A0209 08_A0025	E11～Q4	Ic基	7層C	B2	N5° W	(17.60)	(16.00)	14.20	(12.00)	0.70	SK00461, SK00462, SK00464, SD0445, SD0047, SD0278> >SK00166, SK00168, SK00465, SD0061, SD0075, SD0099, SB010., SB0111, SB0112., Z0001	IV-2期	H,P,S,T	25・26	8・24
SZ005	06_A0263	E46～C8	V上	7層C	C1	N7° E	11.45	11.25	9.50	9.47	0.57	SD018., SD0161., SD0165, SK00361, SK00362, SK00348, SK00349> >SD014, SD0198	IV-2期	H,S	27	15
SZ006	06_A0257	E19～C9	V上	5層C	B2	N1° E	12.90	9.80	10.34	6.92	0.36	SK00309, SK00310, SK00356, SK00375, SK00376, SK00385, SK00392, SD0182, SD1180, SD0181, SD0182, SD0183, SB016.> >SD0174	IV期?	H	28	15
SZ007	06_A0135	EB10～C12	V上	7層C	A1	N47° W	4.59	4.41	3.70	3.60	0.60	SK00375, SK00376, SK0377, SK00385, SK00388, SK00389, SK00390, SK00391, SK00392, SD0181, SD0182, SD0183	IV-2期	H	29	15

表8 方形周溝墓等一覧（2）

遺構番号	現場遺構番号	調査区画	検出層位	埋土	平面形状	主軸方位	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土遺物	辨認	図版
SZ008	06_A0178 06_A0234	EC1.0～ E1.2	V上:8層 C	B2	N2° E	13.30	(11.85)	10.50	(7.85)	0.52	SB0.21, SB0.22, SB0.39, SK00356, SK00396, SK00398, SK00399, SK00439, S2010+ >SK00397, SK00401	IV期	H,S	30	15	
SZ009	06_A0174	ED1.1	V上:6層 B+C	A3	N4° E	5.40	(3.40)	5.00	(2.60)	0.53	SK00400, SK00401, SK00402 >SB0.21, SB0.22, SB0.39, SK00402, SK00403, SK00404	VI期	H,S	31	16	
SZ010	06_A0235	ED1.2～ D1.3	V上:5層 B+C	C3	N10° W	5.80	(2.80)	4.11	(2.40)	0.50	SK00416, SK00415, SK00416 >SB0.22	VI期	H	32	16	
SZ011	07_D0274 06_A0144	AR1.2～ T1.4	V上:5層 C	A3	N4° W	(12.00)	(8.80)	(10.00)	(7.85)	0.48	SZ0.12, SD0.18.4, SD0.186, SD0.187 >S2016	IV～I期	H,S	33～34	16	
SZ012	07_D0276 06_A0074 06_A0182	AT1.3～ EB1.4	Ib F	4層 C	A1	N3° W	13.10	(11.50)	10.47	(9.50)	0.53	SZ0.17, SK00371, SK00372, SD0147, SD0149, SD0184, SD0185, SD0186, SD0187>>S2011	IV～2期	H,S	35～36	16～ 17
SZ013	06_A0165 06_A0221	EE1.2～ F1.4	V上:3層 B	C2	N10° E	(8.80)	(7.95)	(8.20)	(7.20)	0.17	SK00441, SB0.39, SB0.40, SB0.41 >S207	IV期	H	37	-	
SZ014	08_A00866 08_A0126	EP1.2～ Q1.4	V上:6層 B	D3	N7° E	(10.40)	(2.60)	(8.30)	(2.60)	0.53	SP00332, SP00333, SK00490, SK00491, SK00492, SP00356, SP00357, SD0289, SB0.055, SB0.57, SK00517, SK00518, SK00519 >SD0297	IV～2期	H,H	38	24～ 26	
SZ015	07_D0260	EC1.5～ C1.6	V上:3層 C	D1	N32° W	(6.30)	1.32	(5.30)	0.33	0.28	SK00565	IV期	H,S	39	29	
SZ016	06_B0707 07_00251	AR1.5～ I1.7	V上:16層 D	A2	N1° E	12.70	(9.60)	9.65	(8.80)	0.42	SZ0.17, SK00546, SK00567, SK00588, SK00590, SK00619, SK00620, SK00621, SK00623, SK00636, SK006821, SK006827, SP052 >S2011	IV～2期	H,P,S	40～41	34	
SZ017	07_D0275 06_B0410 06_B0408	AT1.5～ EC1.8	V上:15層 C	A1	N6° W	(14.70)	14.70	11.60	11.40	1.00	SK00648, SK00833, SK00974 >SD0339, SD0339, S2012, S2016	IV～2期	H,J,T,5,†	42～ 45	34～ 35	
SZ018	06_B0067 07_D0280	AT1.5～ A1.7	V上:2層 B	C2	N3° W	(6.80)	5.70	(5.60)	5.10	0.20	SD00306, SD0349 >S2017	VI期?	H,P,T	42～43	35	
SZ019	06_B0566 06_B0573 06_B0589	EB1.8～ D1.9	V上:9層 B+E	B1	N1° W	8.20	(8.00)	6.20	(7.30)	0.52	SB0.62, SD03.18, SD0323, SD0338, SK00676, SK00693, SK00990, SK01006, SK01007, SK01011, SK01016, SK01017, SK01018 >SK0090, SK00985, SK00988, SK01005, SB0.064, S7.02.4, SB003, SB006	II期～ III期	H	46	-	
SZ020	06_B0851	ED2.0	V上:5層 B	A1	N2° E	12.13	11.70	9.40	8.50	0.40	SK00741, SK01030, SK01031, SK01037, SK01038, SK10417, SK1050, SK00548, SK1059, SK01061, SK01076, SK01094, SK01111, SK01112, SD0331, SB0066, SB0067 >SK1118, SK00950	IV期	H,P	47	-	
SZ021	06_B0901	FA2～M4	V上:6層 B	A2	N15° E	12.30	10.60	9.65	8.40	0.50	SB0.71, SK00776, SK01078, SK01080, SK01079, SK01083, SK01084, SK01085, SD0327>>SK01114	IV～2期	H	48	36	

表9 方形周溝墓等一覧（3）

遺構番号	現場遺構番号	調査区画	検出層位	埋土	平面形状	主軸方位	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土遺物	博団	国版	
SZ022	07_B0329 07_B0268	FA5～C6	1bT	11層 B	A1	N2° W	(12, 10)	(11, 90)	(8, 90)	(8, 60)	0, 40	SD0385, SK01130, SK01440,>SZ029	III-2期	H, T	49	36	
SZ023	06_B0447 06_B0456	EE17～F19	V上	6層 B	B3	N21° W	(8, 00)	(6, 90)	(6, 10)	(5, 60)	0, 40	SD0353, SK01176, SK01191>>SK01177	IV期?	H	50	-	
SZ024	06_B0093	EC19	1bT	7層 B	不規 円形	N65° W	2, 02	2, 00	1, 75	1, 70	0, 40	>SB062	IX期～ X期	H, W	51	36	
SZ025	06_B0234	EP16	1bT	2層 B	D3	方位 不明	-	-	-	-	0, 30	SK01197>	III期～ IV期	H	52	36	
SZ026	07_D0294	EG15～ G16	V上	4層 B	D3	N1° W	(4, 40)	(3, 00)	(3, 60)	(2, 30)	0, 40	SK01227, SK01232>	不明	H, S	52	29	
SZ027	07_A0066 07_A0064	EP16～ Q17	V上	4層 C	B3	N22° W	(7, 10)	(3, 00)	(6, 40)	(2, 80)	0, 48	>SB081	不明	H, P, W	52	45	
SZ028	07_A0073 07_A0099	EP20～ FP2	V上	10層 B	D3	N8° W	(2, 10)	(3, 60)	8, 10	(3, 60)	0, 78	>SB082	IV-2期	H, S, W	53	45	
SZ029	07_B0337	FA7～C9	V上	11層 B	D2	N12° W	(11, 00)	(10, 00)	(6, 00)	(5, 50)	0, 30	SK01347, SK01348, SZ0300, SZ022>	III-1期	H, P, T	54	49	
SZ030	07_B0371	F C 9 D10	V上	7層 B	C2	N0°	10, 00	7, 40	6, 95	4, 96	0, 36	>SZ029	III-2期	H	55	49	
SZ031	07_B0399	F D 8 F10	V上	9層 B	C1	N1° W	9, 10	8, 20	7, 20	6, 65	0, 20	>SD0388, SZ032	III-3期	H, T	56	49	
SZ032	07_B0447	FF7～F9	V上	9層 B	C2	N2° W	9, 70	8, 40	8, 03	6, 98	0, 40	SD0333, SD0393, SD0341>>SD0388	III-2期	H	57	49・ 50	
SZ033	07_B0429	F G 9 I11	V上	6層 B	A2	N7° W	10, 00	8, 00	7, 90	6, 30	0, 40	>SZ035, SZ034, SZ032	III-3期	H, S, T	58	50	
SZ034	07_B0444	F H 7 J10	V上	19層 B	C2	N3° W	13, 05	10, 10	10, 10	8, 90	0, 60	SD0333>	III-3期	H, S, T, W	59	60	50
SZ035	07_B0445	FH10～ J11	V上	8層 B	A2	N6° W	8, 50	7, 50	6, 90	5, 10	0, 40	SD033>	III-2期	H	61	50・ 51	
SZ036	07_B0466	F K 8 M10	V上	10層 B	C2	N4° W	10, 50	9, 70	9, 00	7, 60	0, 60	SD038> >SZ037	III-3期	H, S, T	62・63	51	
SZ037	07_B0395	F J10～ L12	V上	10層 B	A2	N9° W	9, 50	(8, 10)	8, 10	6, 30	0, 60	SD0336, SZ039>	III-2期	H, P	64	51	
SZ038	07_B0464 07_B0247	FM6～09	V上	7層 B	D3	N8° W	11, 60	(9, 90)	(3, 50)	(7, 50)	0, 36	SD0382, SD0383, SZ039, SB087> >SZ036, SB078, SB079, SB080	III期後半	H, N	65	51	
SZ039	07_B0378	F H 10～ N12	V上	15層 B	C2	N12° W	12, 00	10, 60	9, 40	8, 10	0, 70	SD0382, SD0383> >SZ037, SD0397	III期	H, S, W	66	67	51・ 52
SZ040	07_B0373	F012～ P13	V上	6層 B	C2	N21° W	9, 20	7, 80	7, 65	6, 10	0, 50	SD0382> >SD0386	III期	H	68	52	
SZ041	07_B0413	FD11～ F12	V上	6層 B	D3	N2° E	(5, 50)	(4, 50)	(3, 00)	(2, 00)	0, 42		III期	H	68	52	
SZ042	07_B0414	FF11～ H13	V上	7層 B	B2	N1° E	10, 20	9, 50	8, 60	7, 50	0, 30	SD043> >SZ044	III-2期	H, P	69	52	
SZ043	07_B0426	FG13～ H13	V上	6層 B	D3	N13° W	(5, 20)	(3, 40)	(3, 40)	(2, 30)	0, 20	>SD042, SZ044	III-3期	H, T	70	52	
SZ044	07_B0462	FH11～ J14	V上	10層 B	C2	N16° W	14, 40	(10, 50)	11, 30	8, 35	0, 25	SZ045, SZ042> SZ043	III-1期	H, P, S	71	53	
SZ045	07_B0306	F J13～ L15	V上	9層 B	C4	N4° W	16, 50	15, 20	12, 50	12, 25	0, 30	>SZ044, SZ046, SZ047	III-2期	H, P, S, T	72	73	53
SZ046	07_B0292	FK15～ M17	V上	5層 B	D1	N3° E	13, 00	11, 00	10, 10	8, 55	0, 20	SD045> >SZ047	III-2期	H, P, T	74	53	
SZ047	07_B0315	FL13～ O15	V上	7層 B	C2	N8° W	10, 78	(10, 00)	8, 46	8, 30	0, 40	SZ045, SZ046, SD0382>	III-1期	H, P, S	75	53	
SZ048	07_B0316	FO14～ P15	V上	4層 B	C2	N19° W	8, 20	7, 86	6, 62	5, 98	0, 30	SD0373> >SZ049, SK01496	III-2期	H, P, T	76	53	
SZ049	07_B0308	FN15～ P16	V上	6層 B	D3	N19° W	(7, 60)	(3, 40)	(6, 50)	(2, 00)	0, 32	>SZ048>	III-3期	H	76	-	

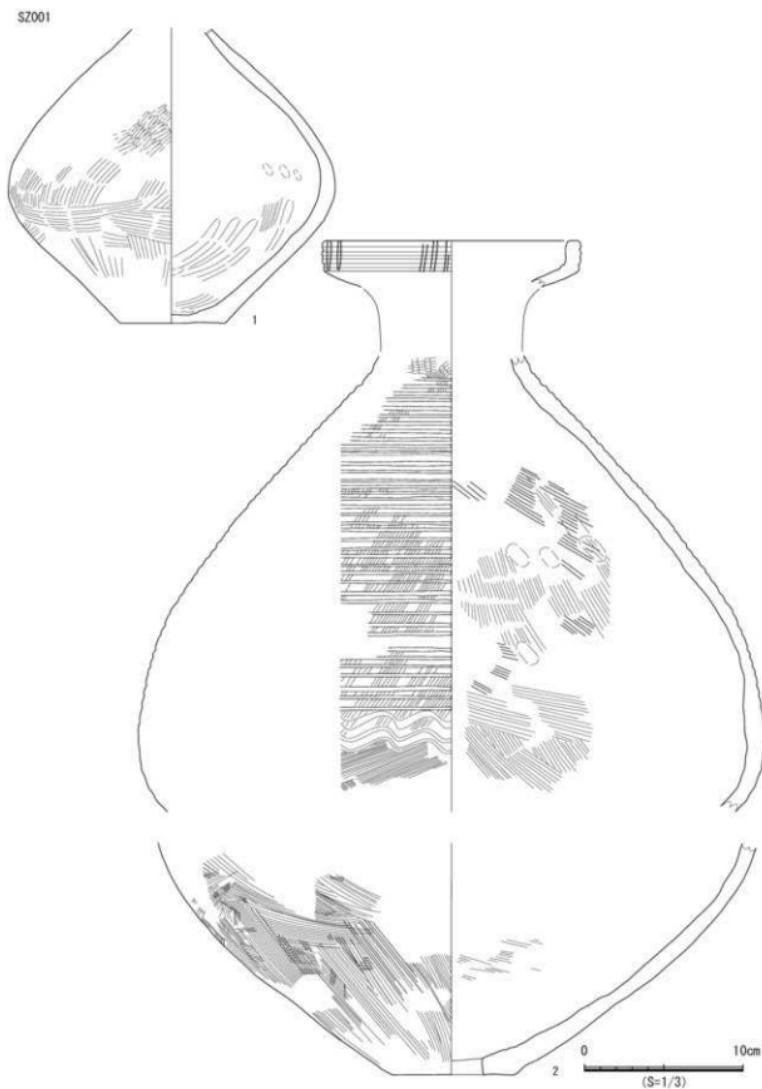


図77 遺物実測図 (1)

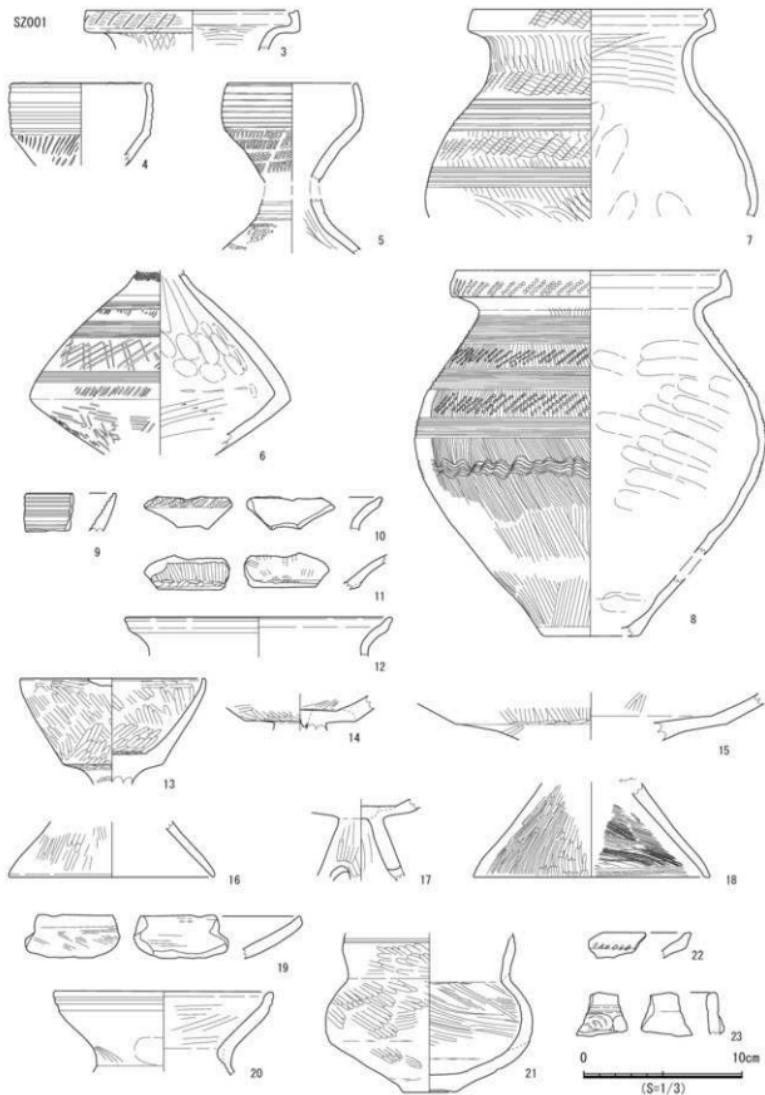


図78 遺物実測図（2）

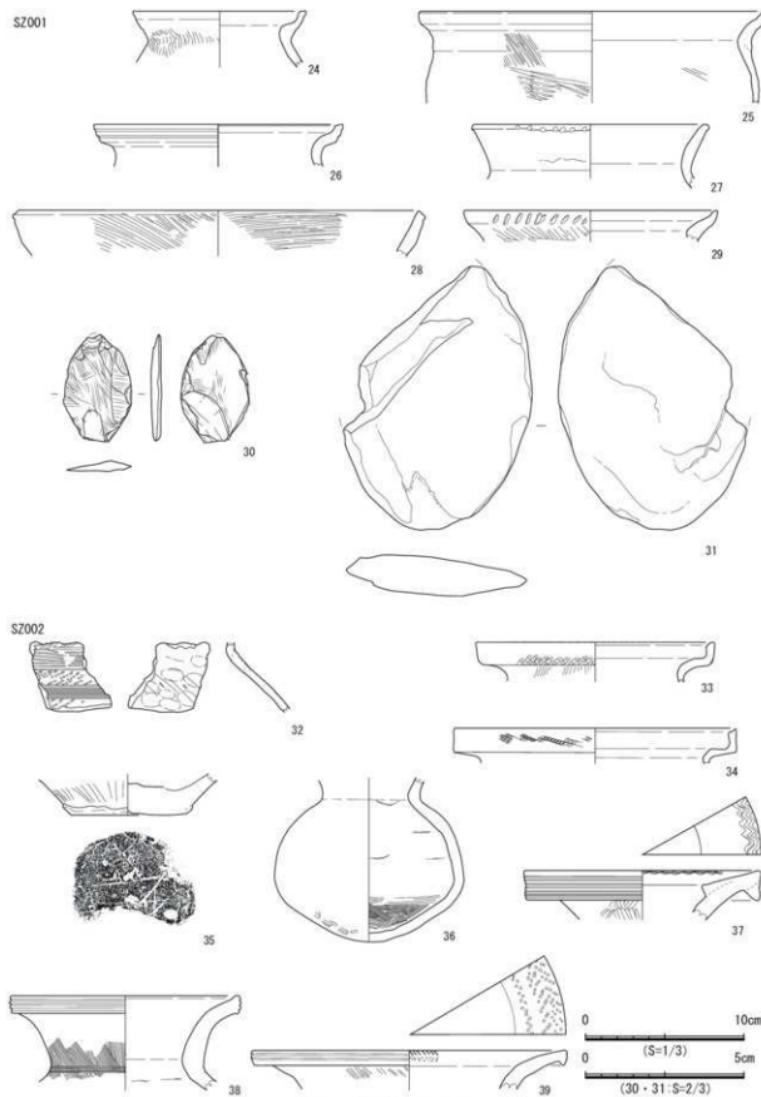


図79 遺物実測図（3）

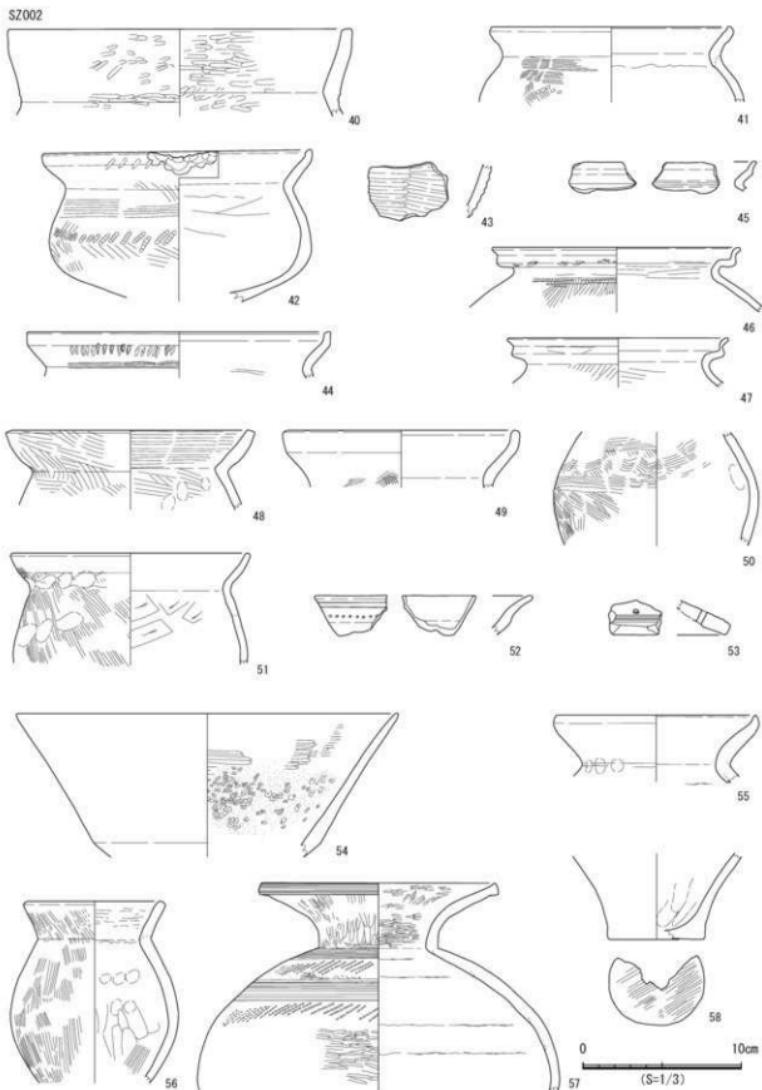


図80 遺物実測図 (4)



図81 遺物実測図(5)

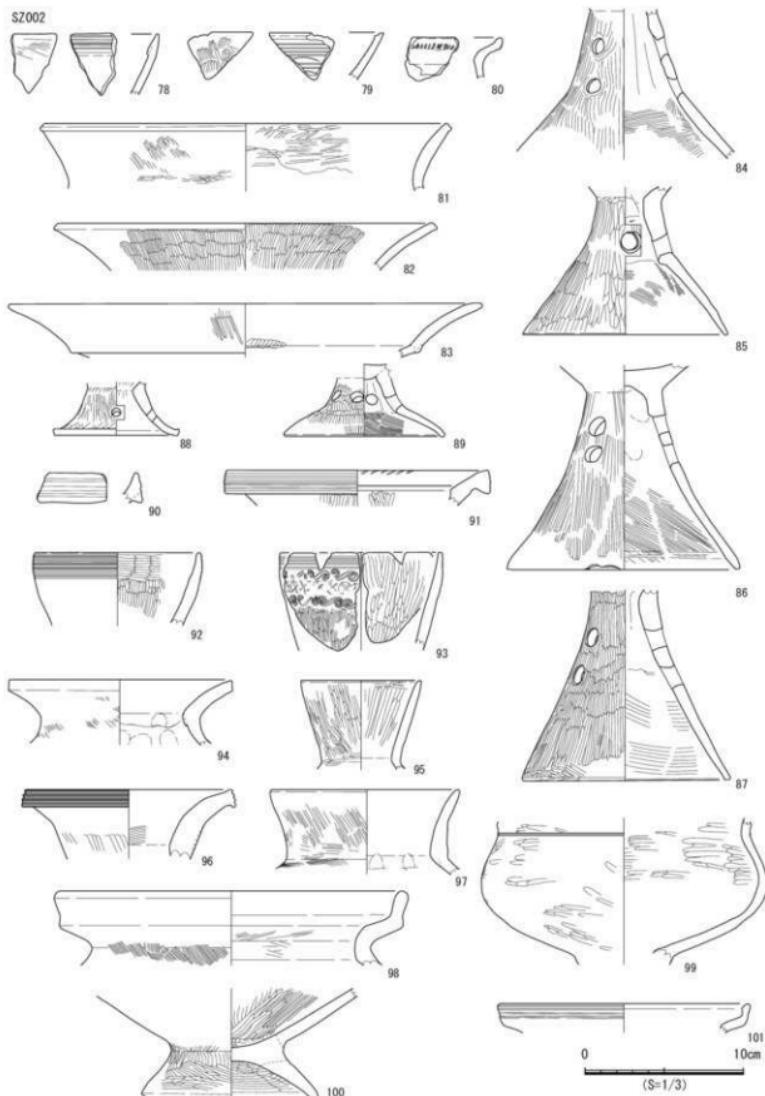


図82 遺物実測図（6）

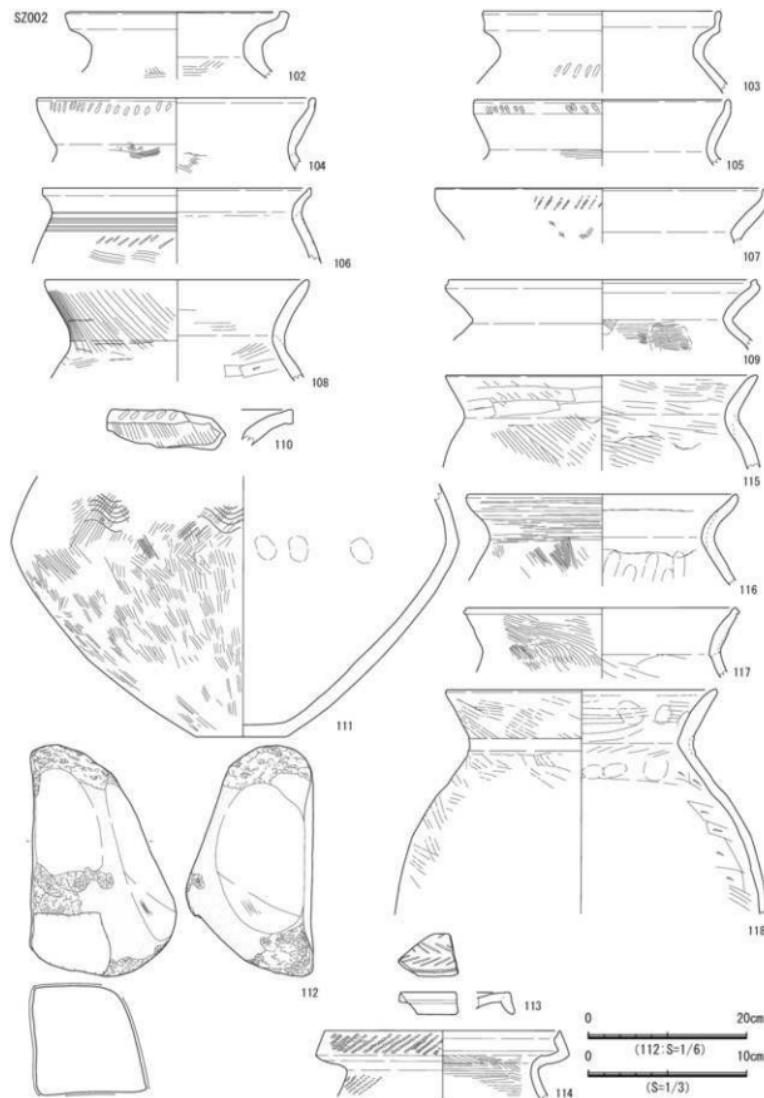


図83 遺物実測図（7）

S2003

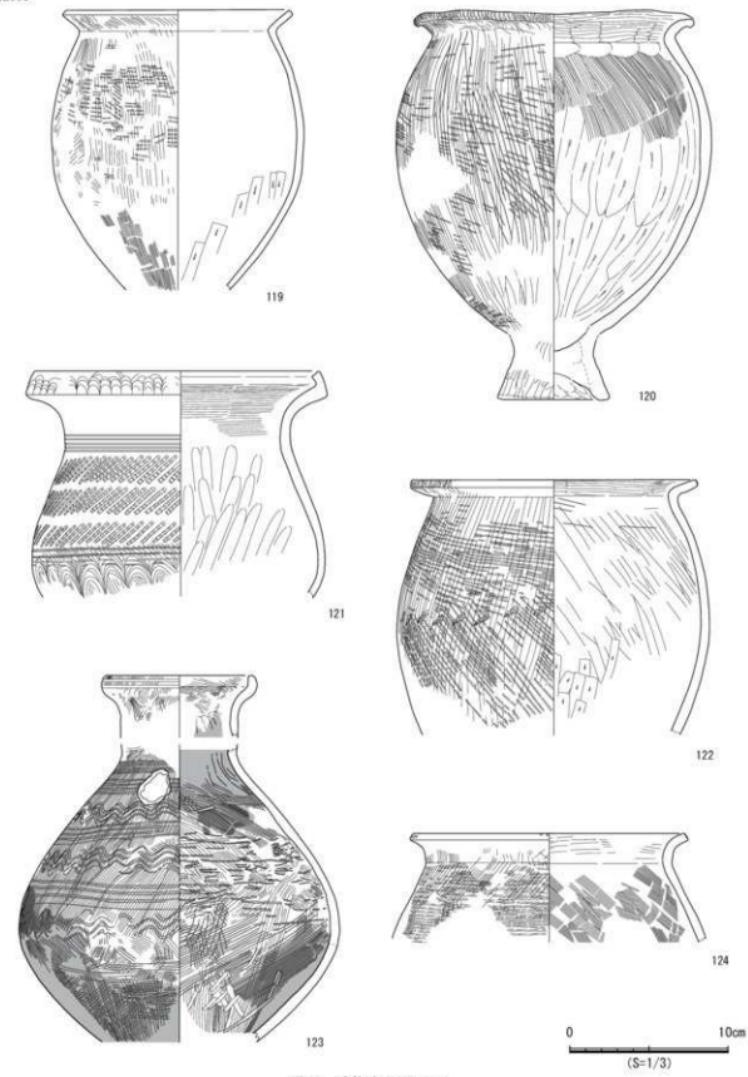


図84 遺物実測図 (8)

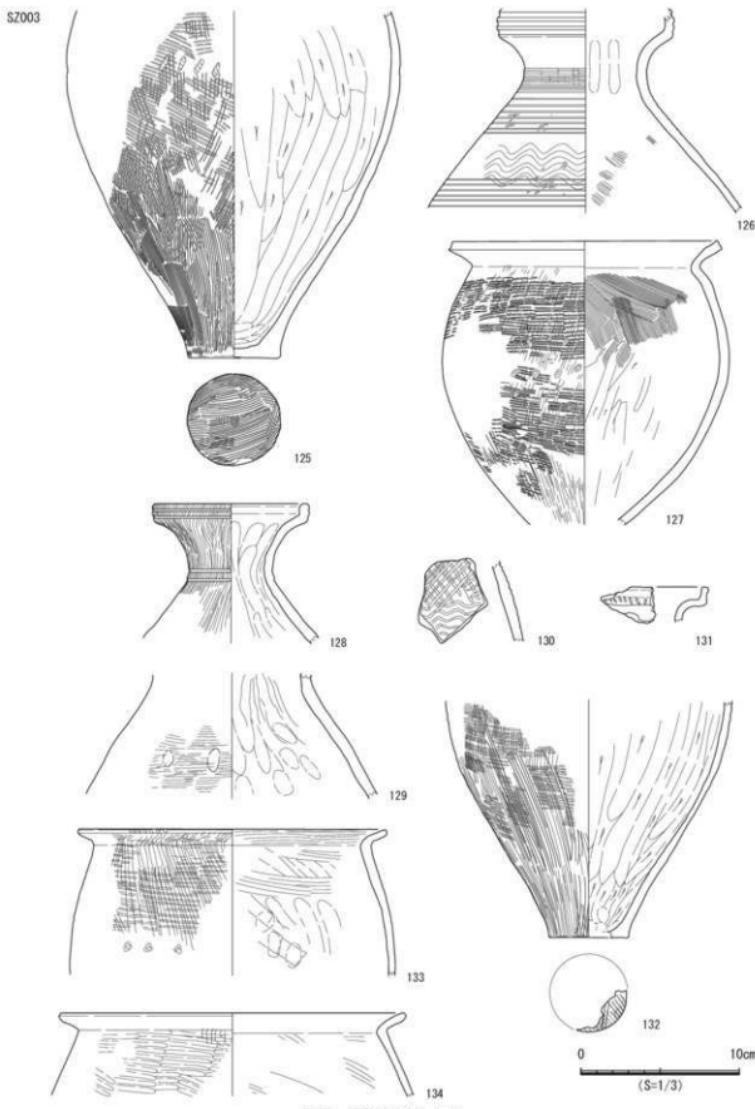


図85 遺物実測図 (9)

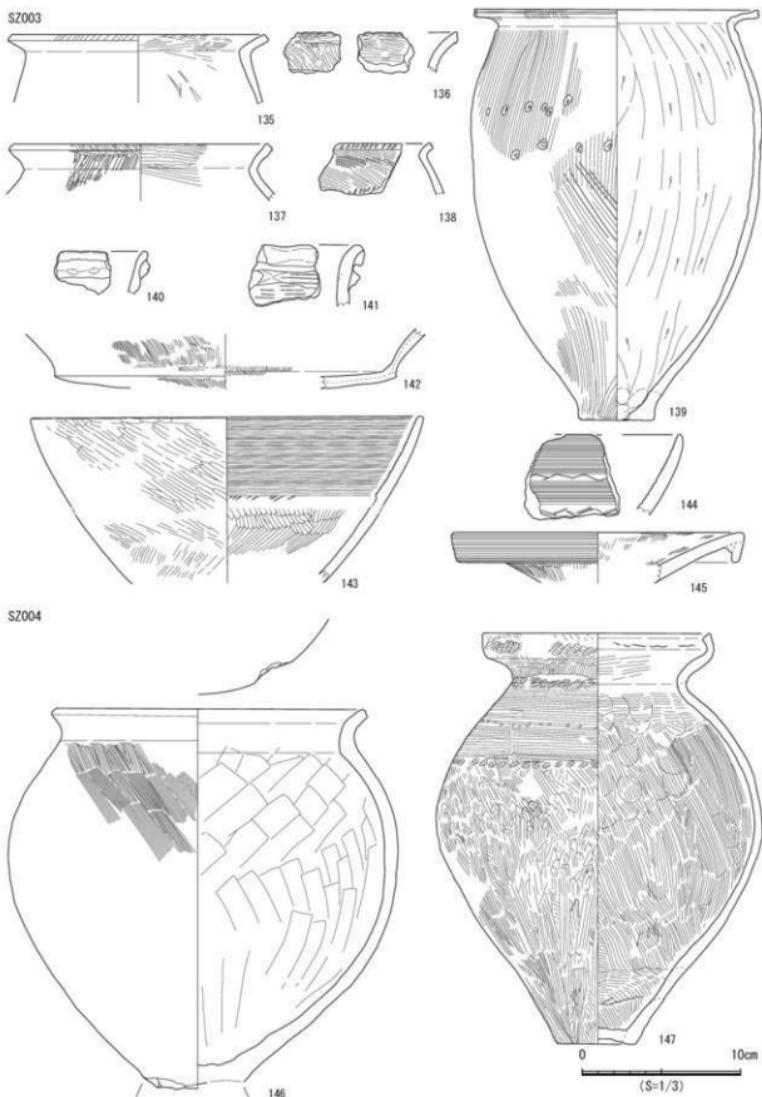


図86 遺物実測図 (10)

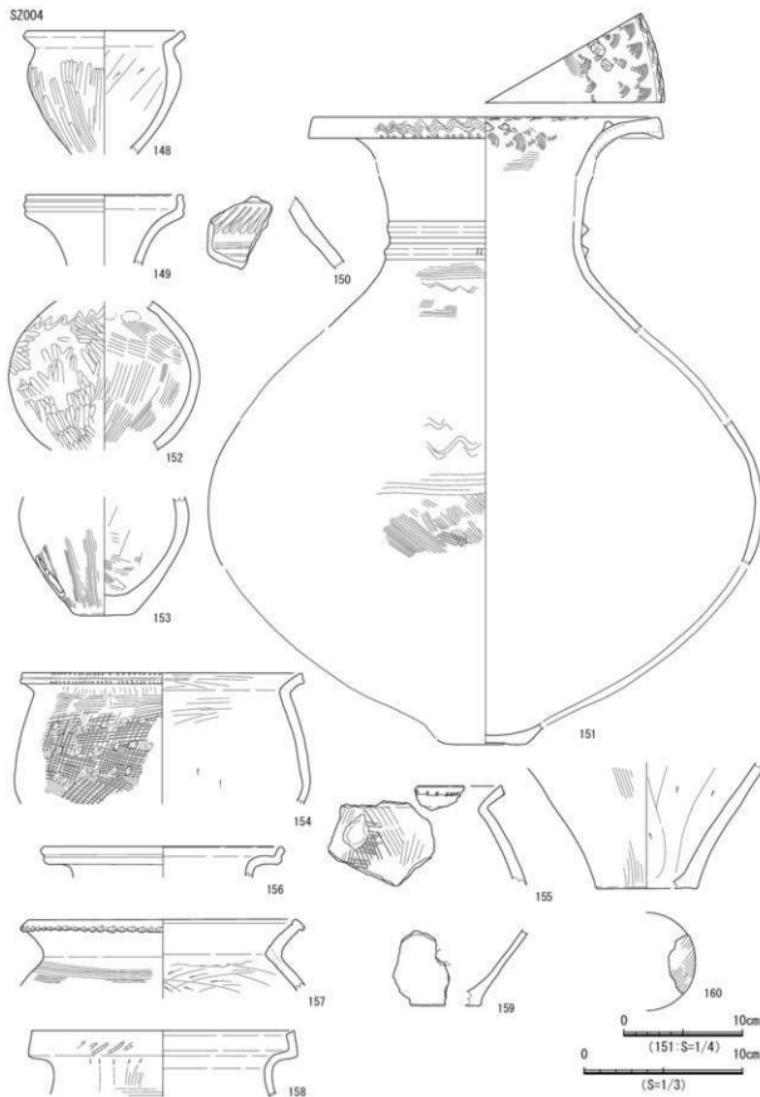
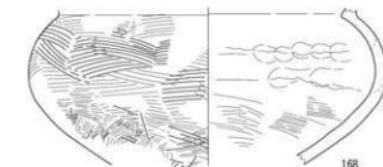
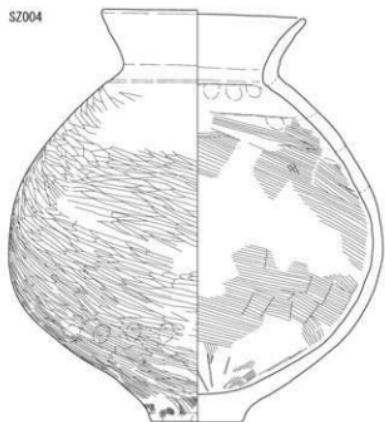


図87 遺物実測図 (11)

S2004



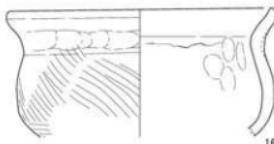
168



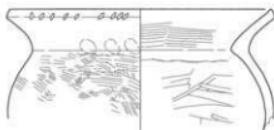
162



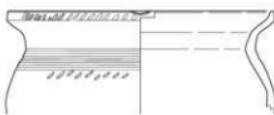
163



164



165



166



167

0 10cm
(\$=1/3)

図88 遺物実測図 (12)

S2004

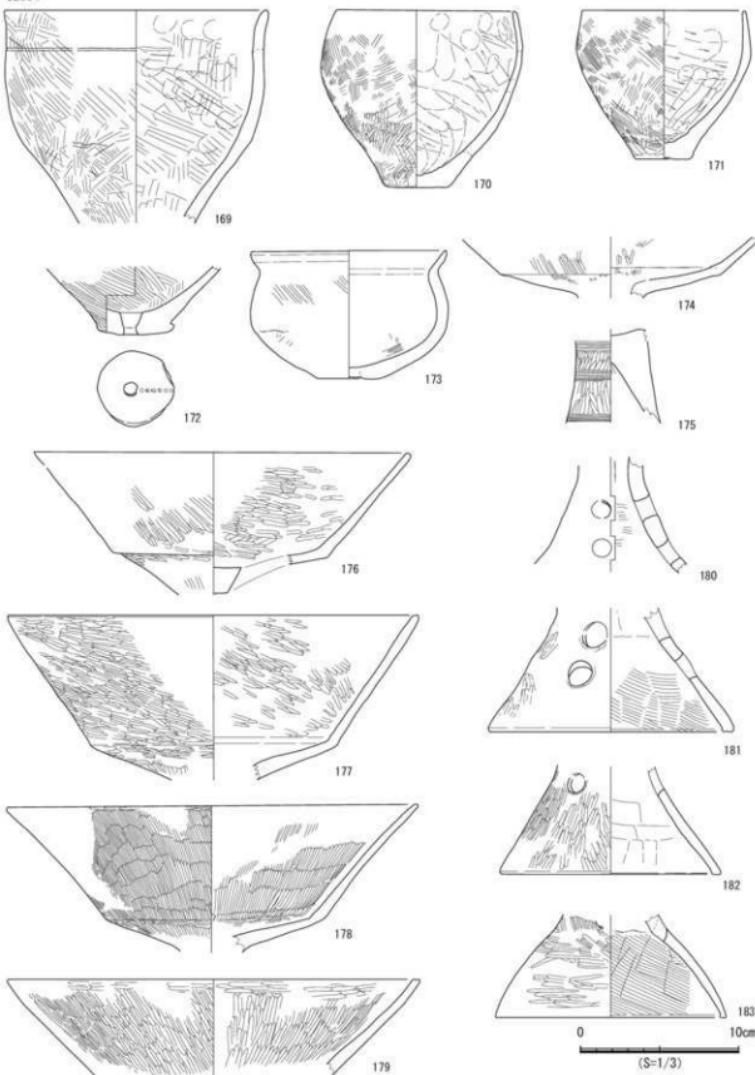


図89 遺物実測図 (13)

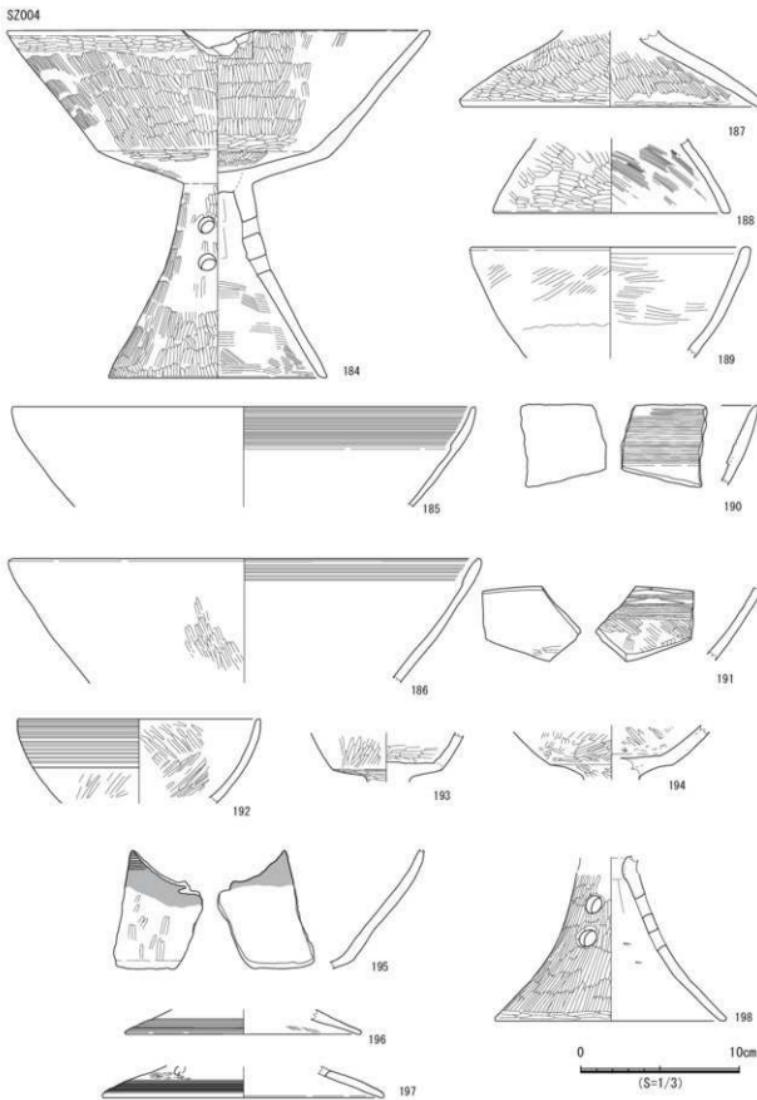


図90 遺物実測図 (14)

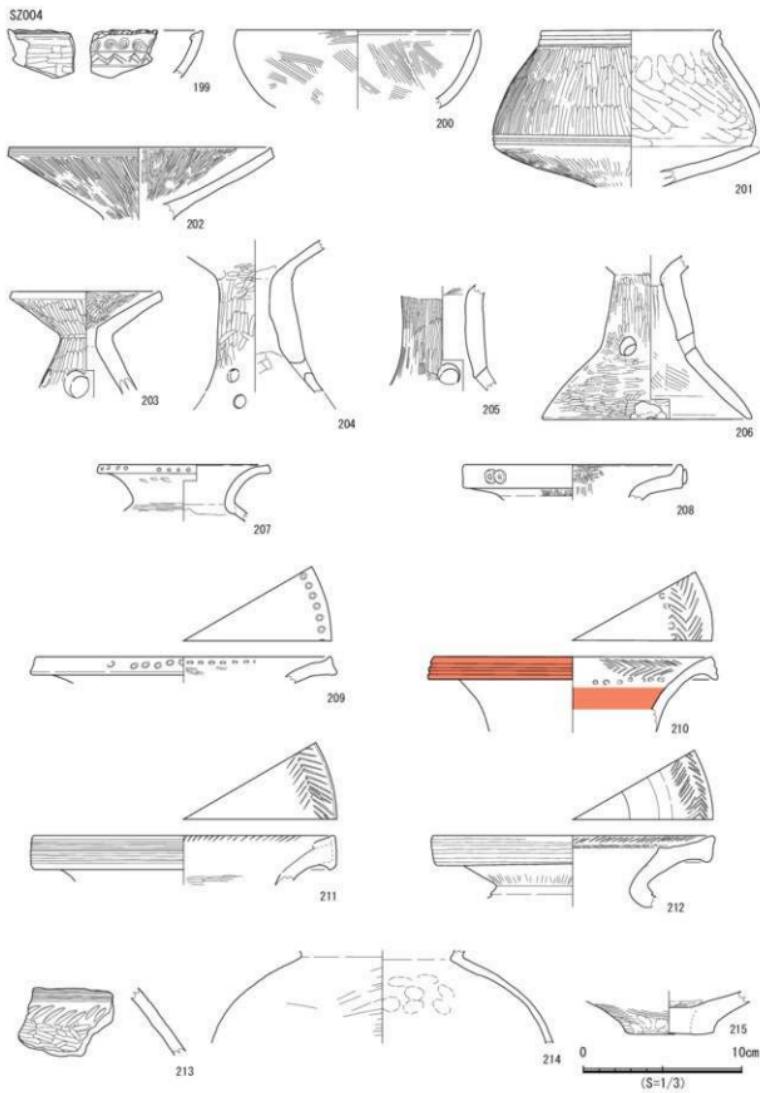


図91 遺物実測図 (15)

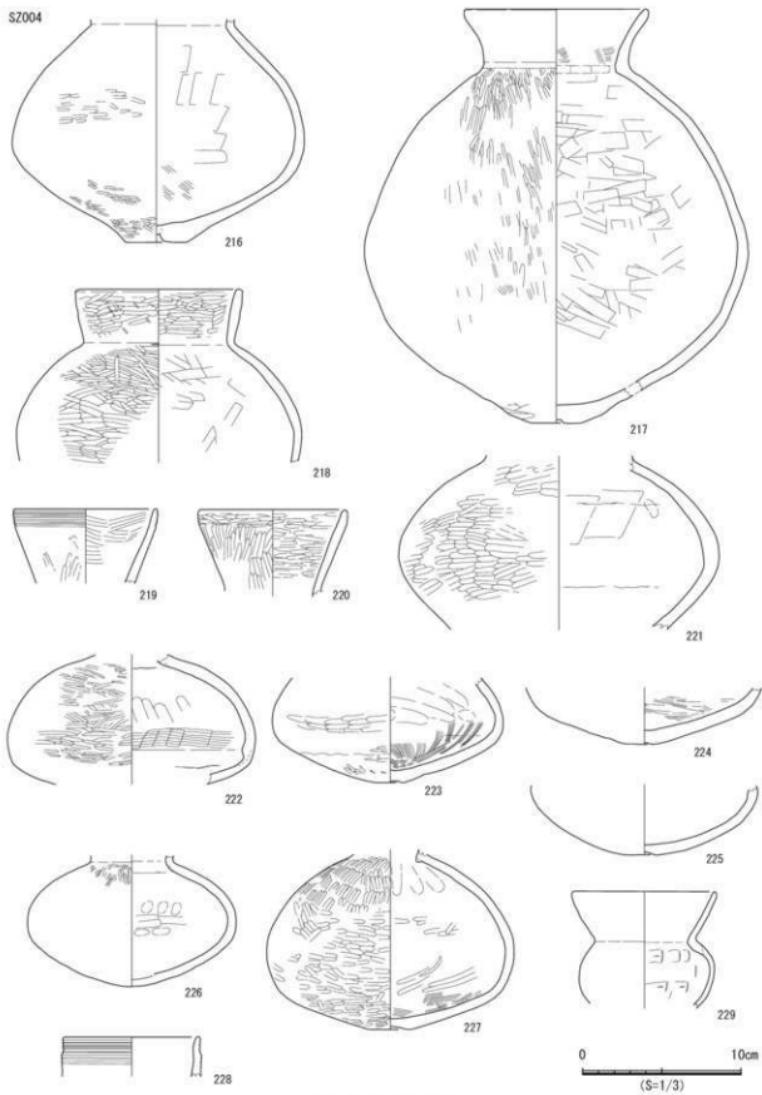


図92 遺物実測図 (16)

S2004

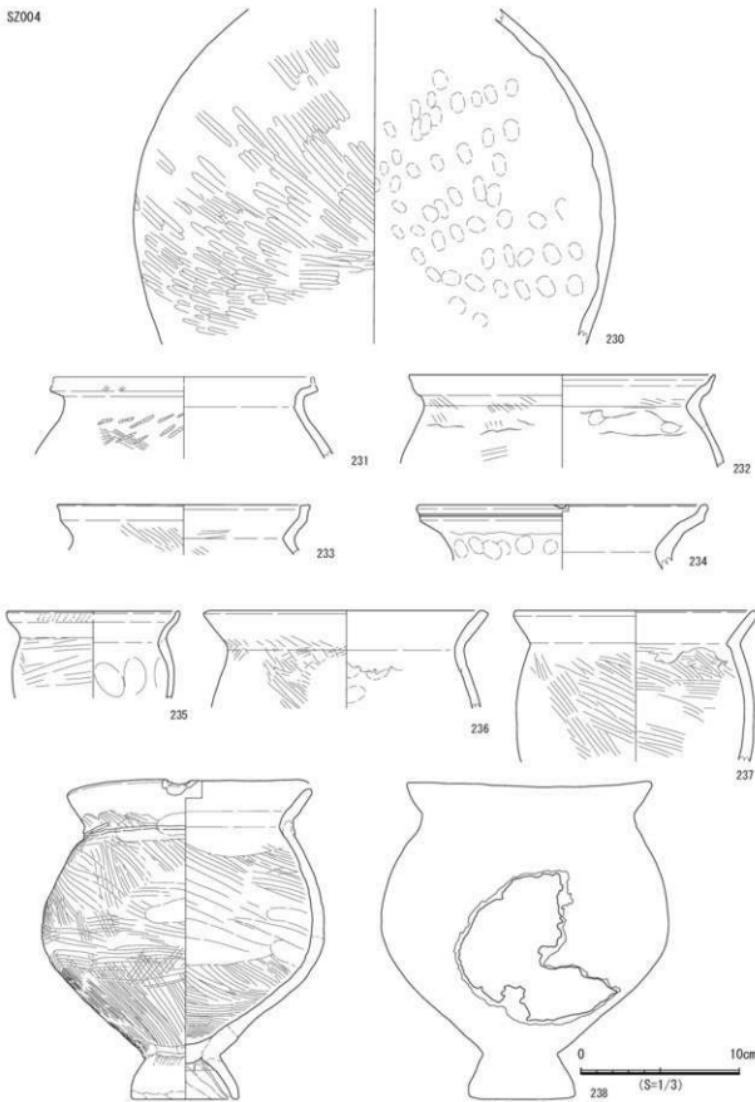


図93 遺物実測図 (17)

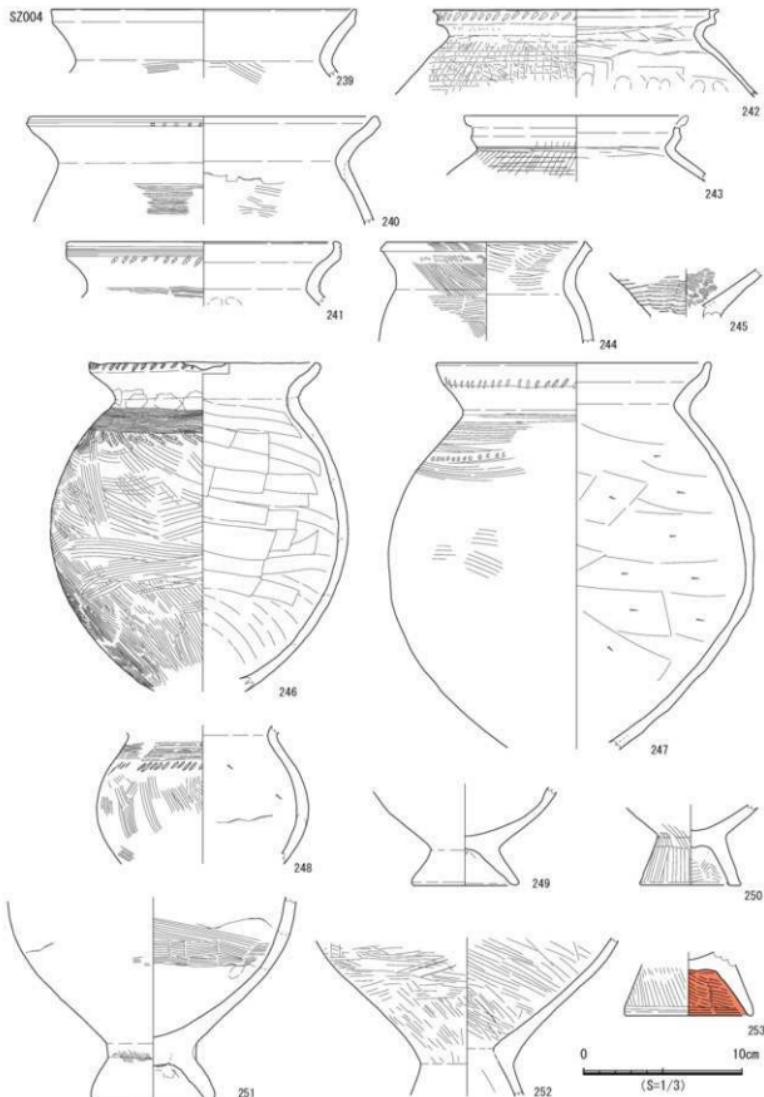


図94 遺物実測図 (18)

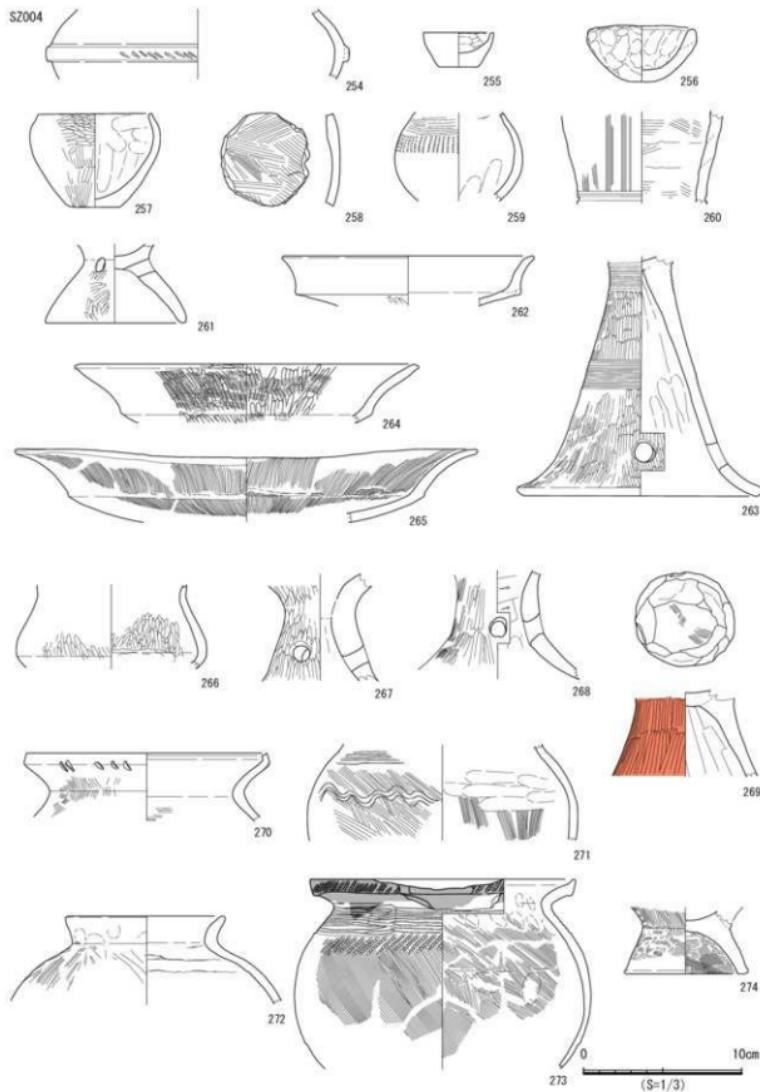


図95 遺物実測図 (19)

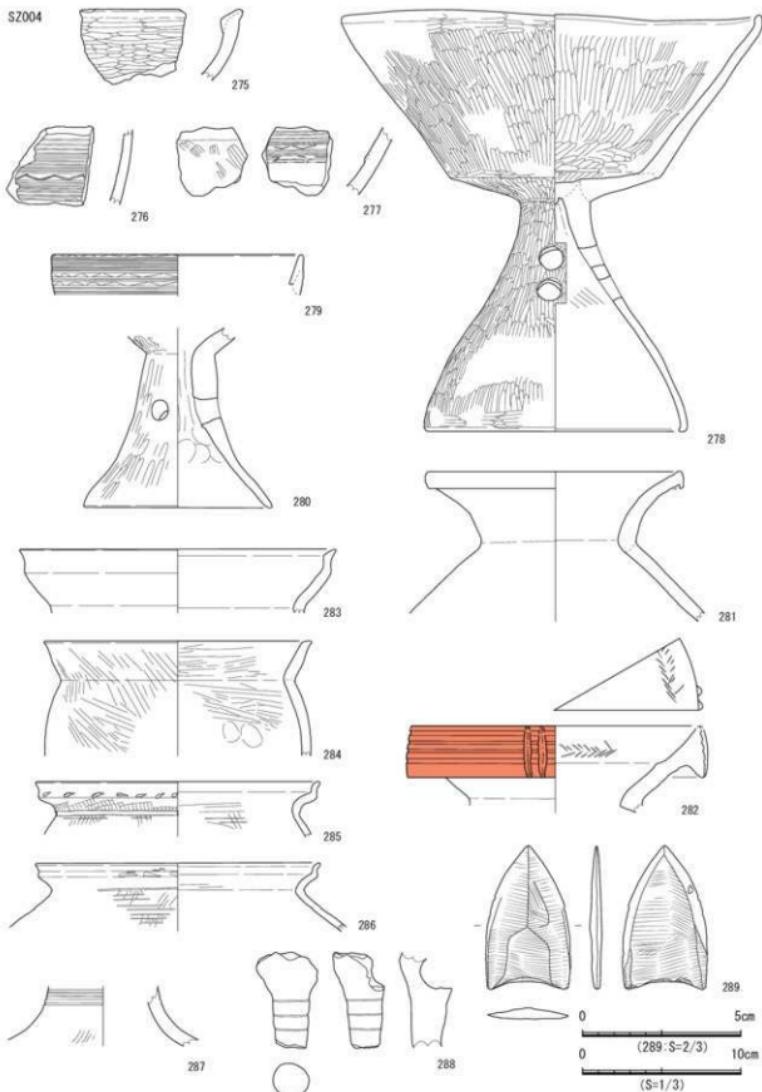


図96 遺物実測図 (20)

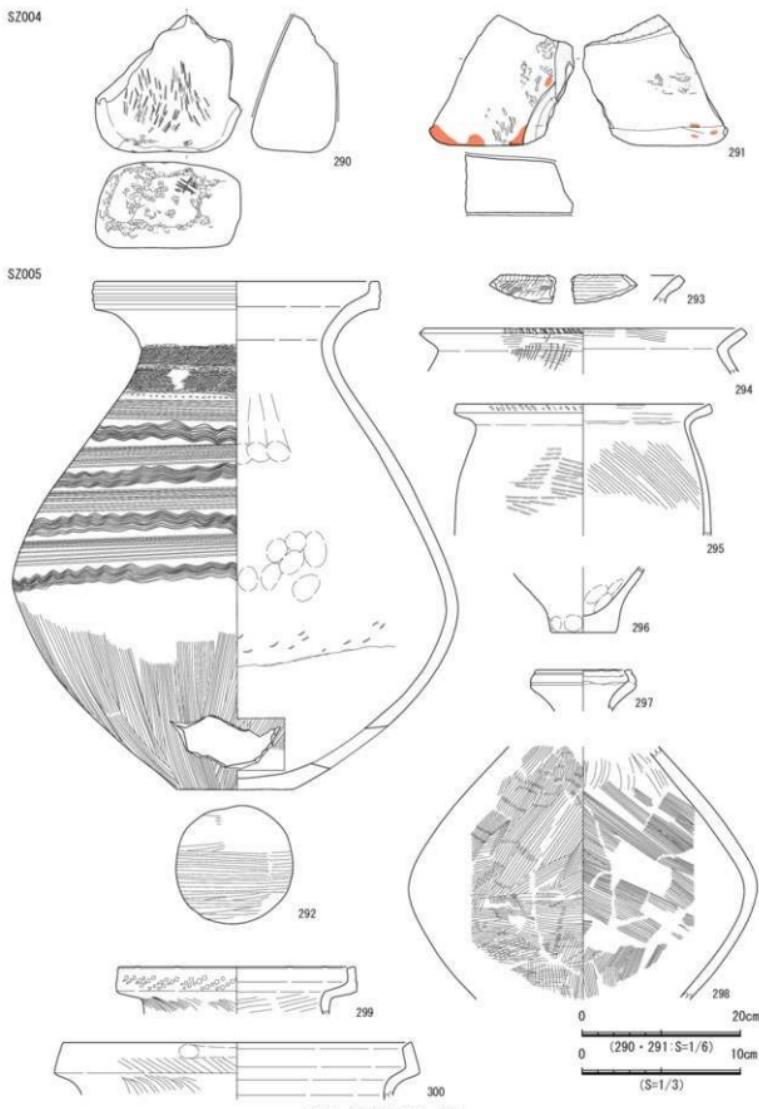


図97 遺物実測図 (21)

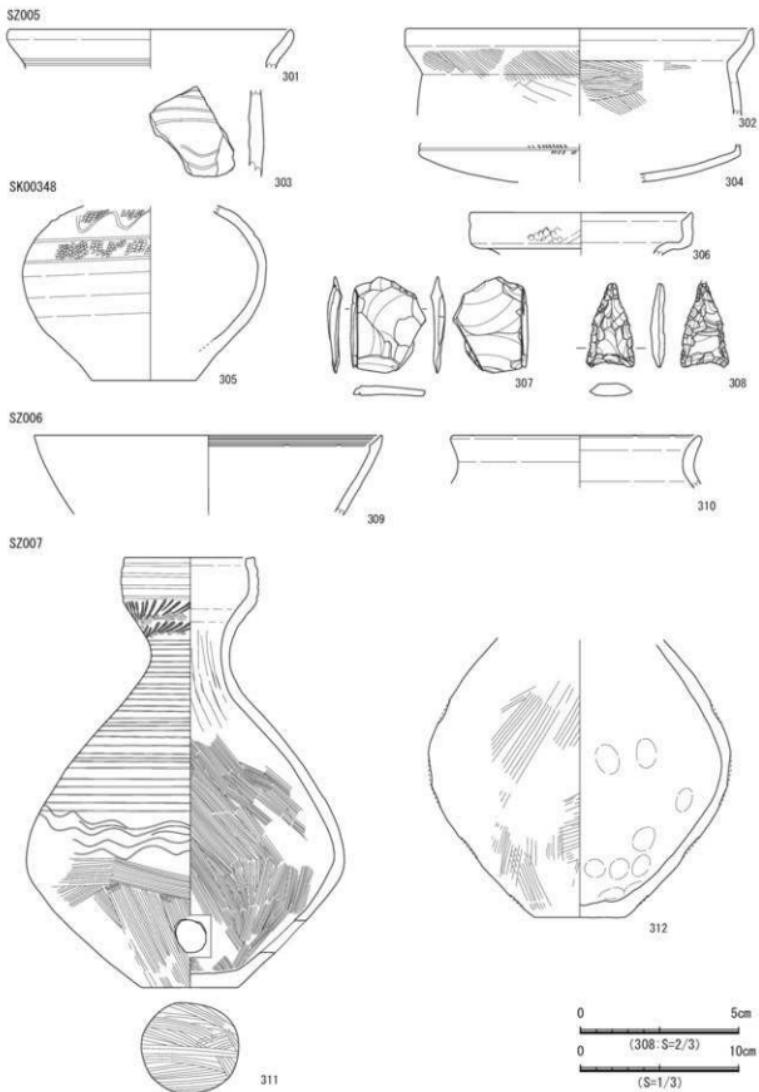


図98 遺物実測図(22)

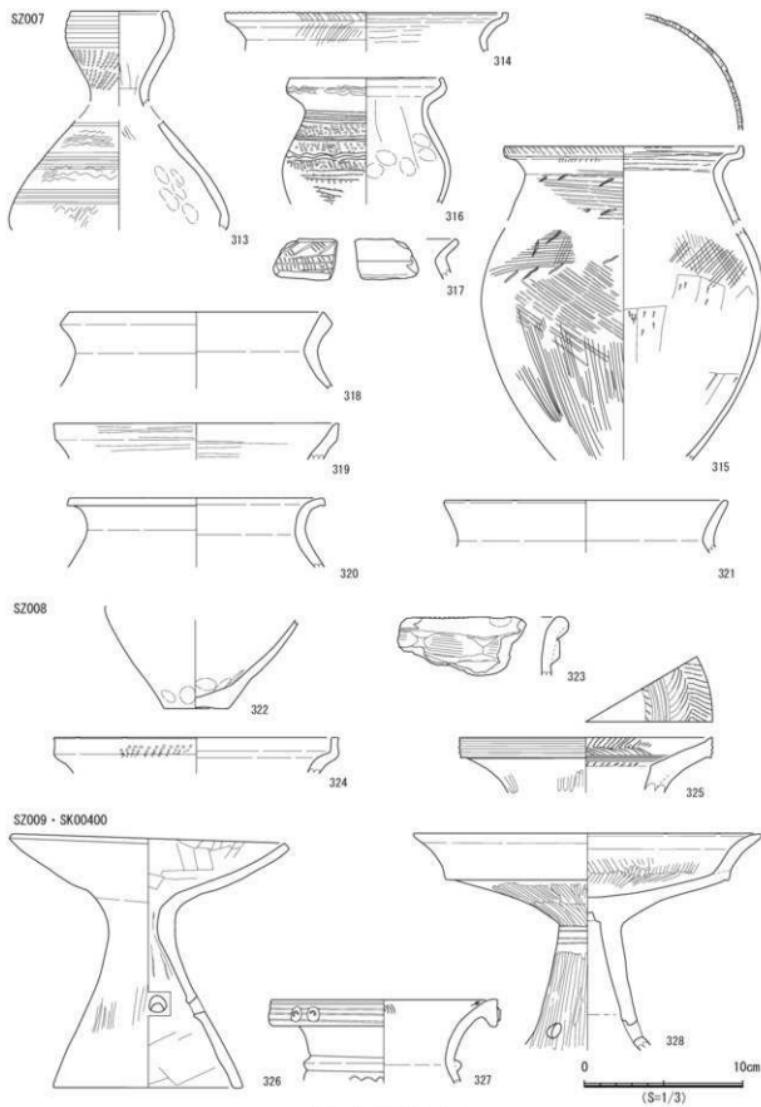


図99 遺物実測図 (23)

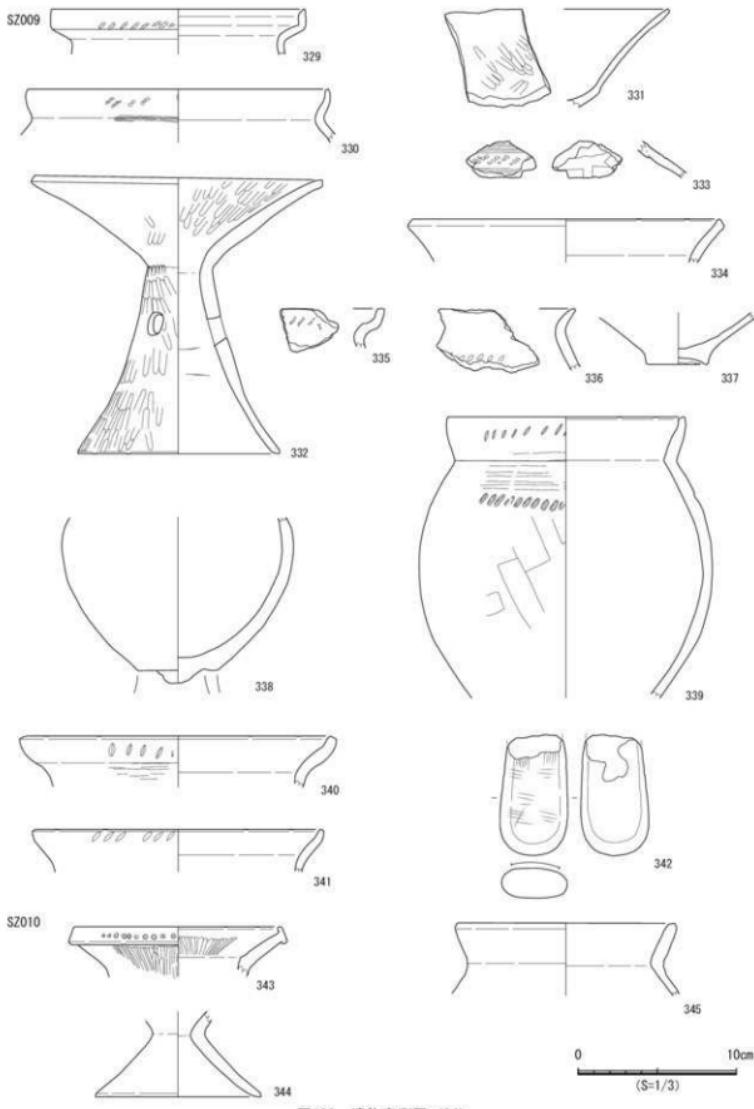


図100 遺物実測図 (24)

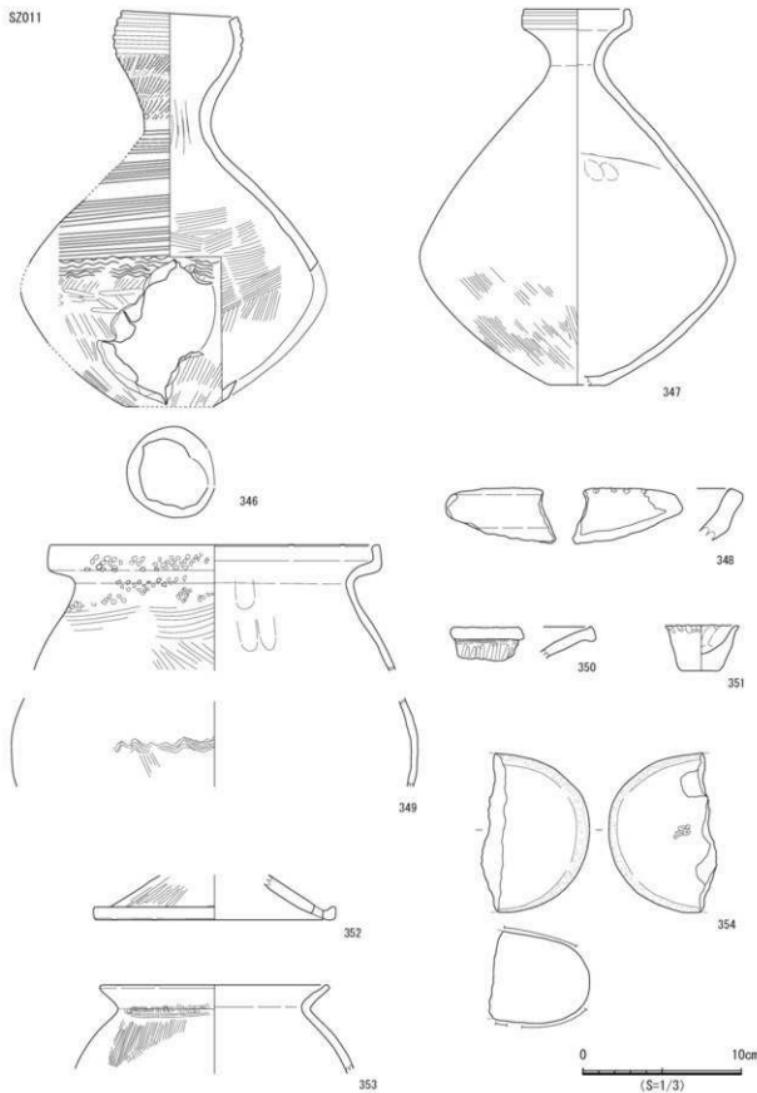


図101 遺物実測図 (25)

S20012・SK00406

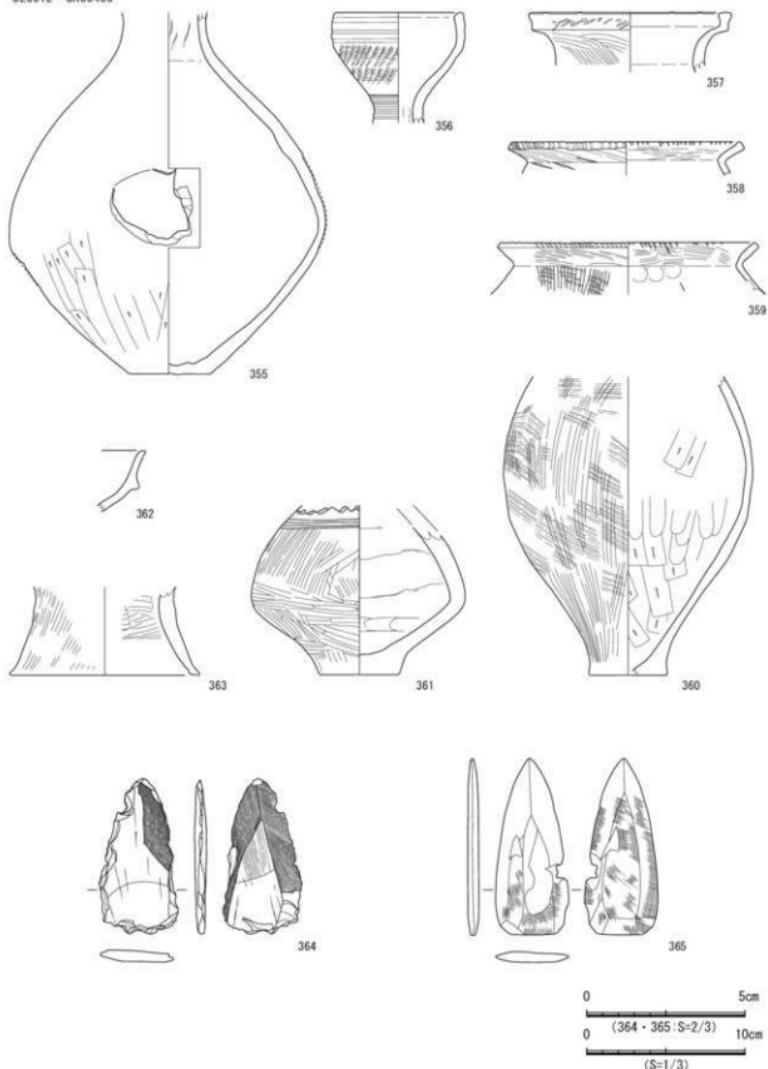


図102 遺物実測図 (26)

SZ011・SZ012 埋土最上層

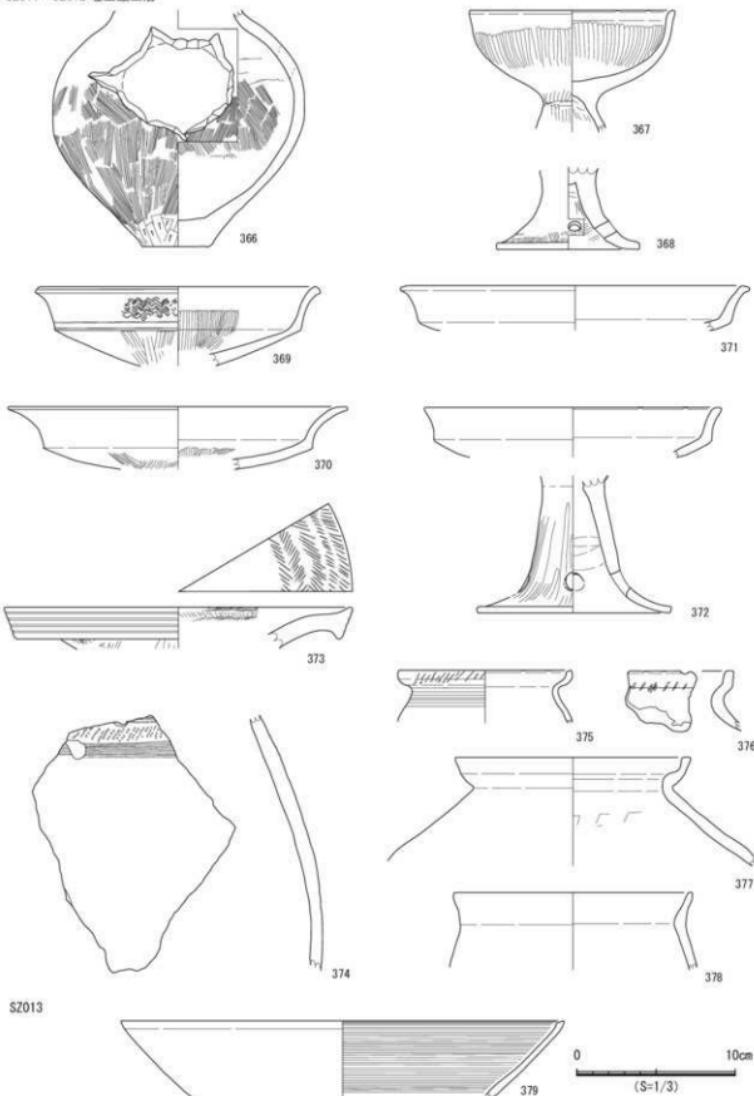


図103 遺物実測図 (27)

0
10cm
(S-1/3)

S2014

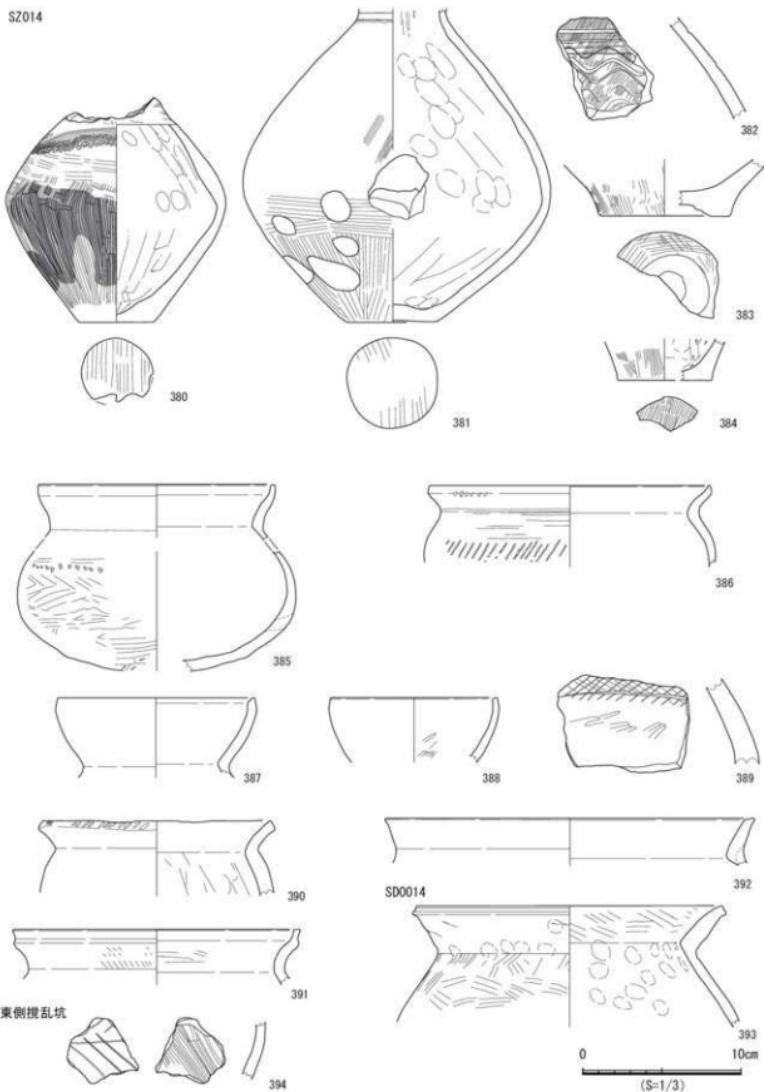


図104 遺物実測図 (28)

東側擾乱坑

SZ2015

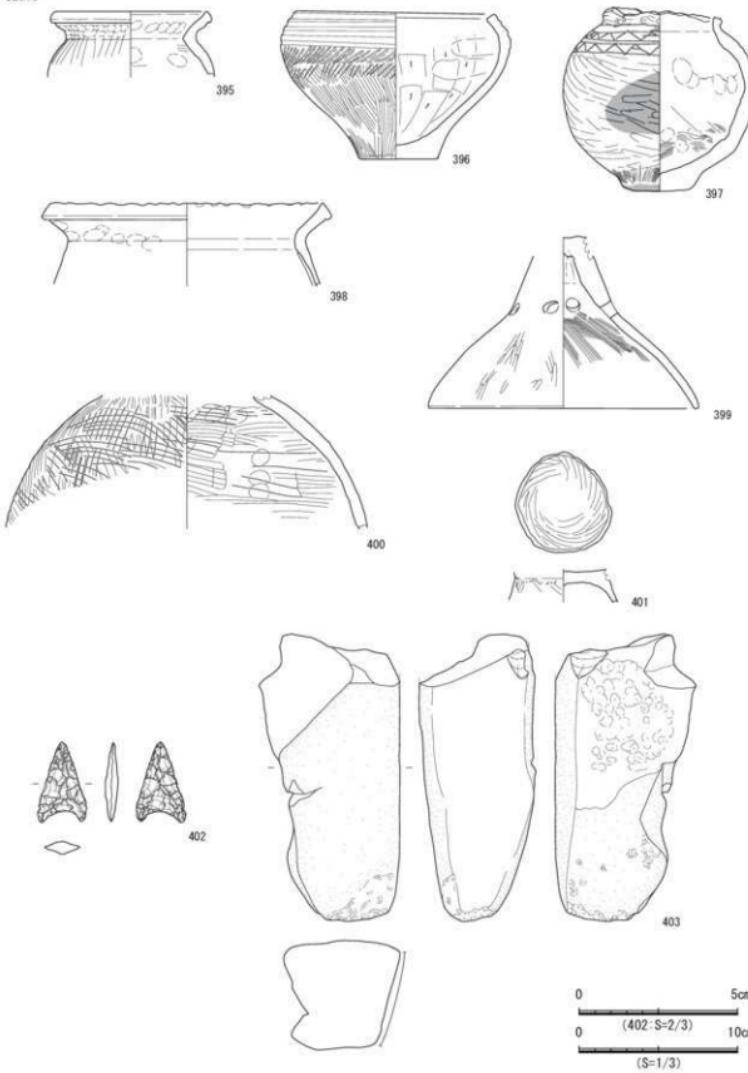
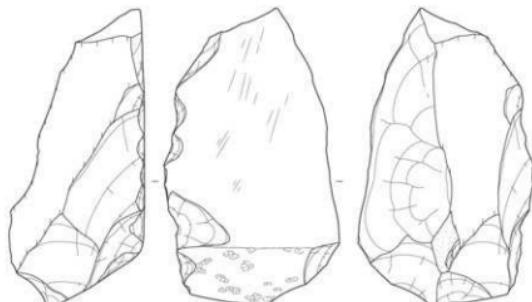
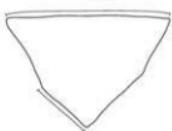


図105 遺物実測図 (29)

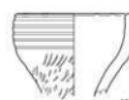
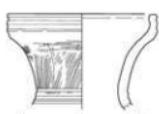
SZ015



404



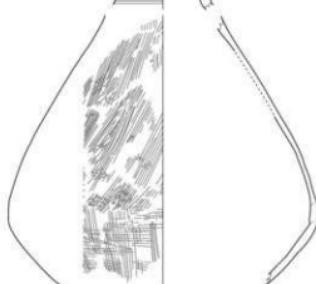
SZ016



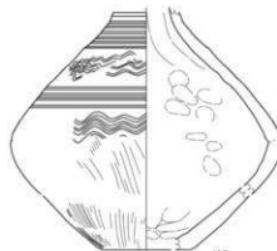
406



408



405



407



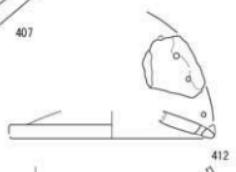
409



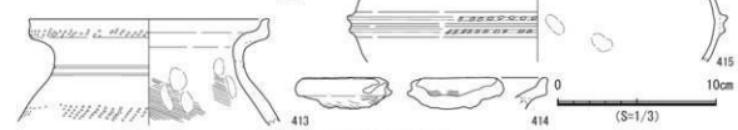
410



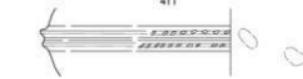
411



412



413



414



415

10cm

図106 遺物実測図 (30)

SZ2017土器群1

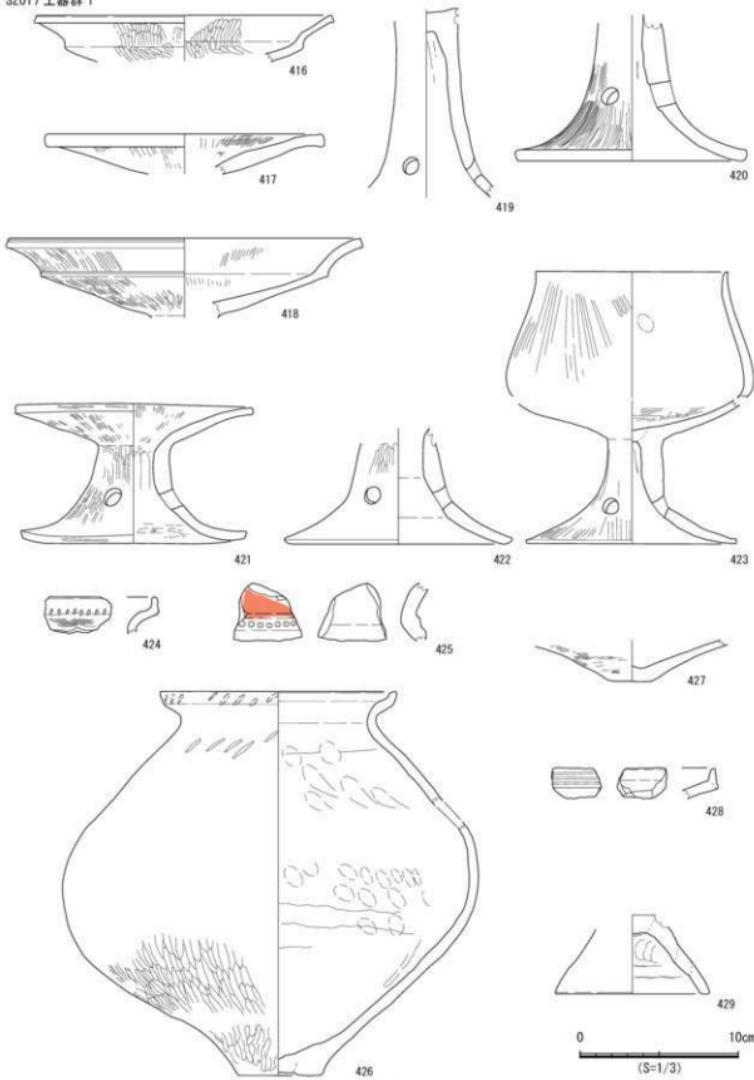


図107 遺物実測図 (31)

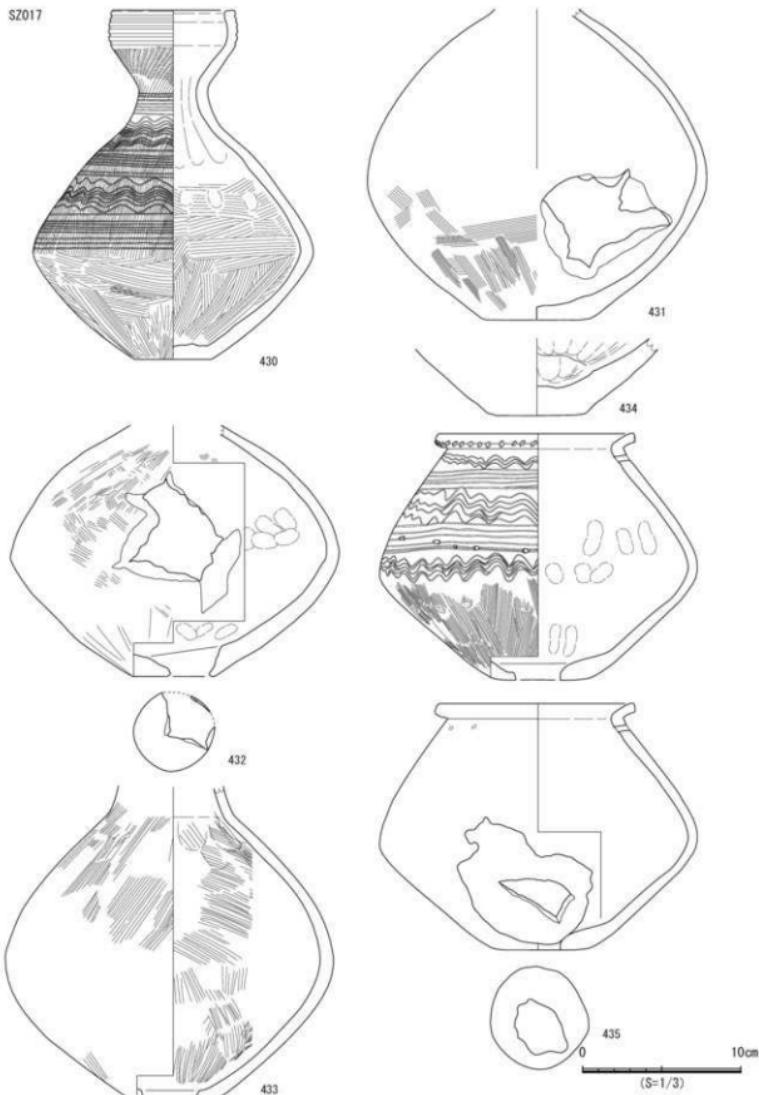


図108 遺物実測図 (32)

S2017

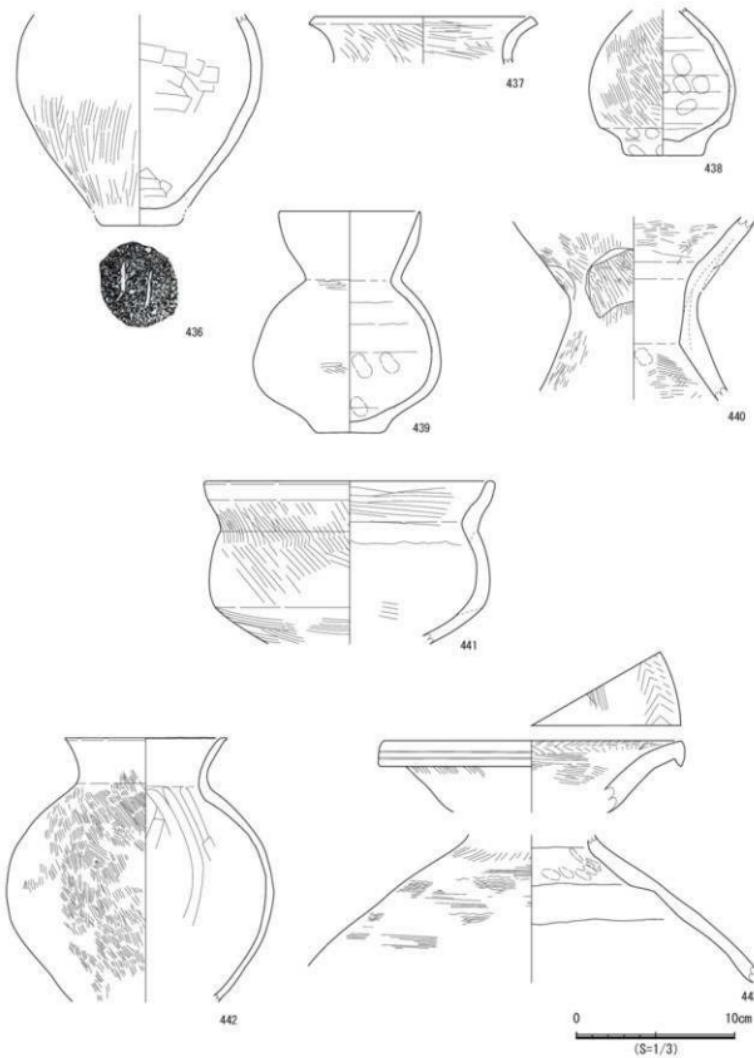


図109 遺物実測図 (33)

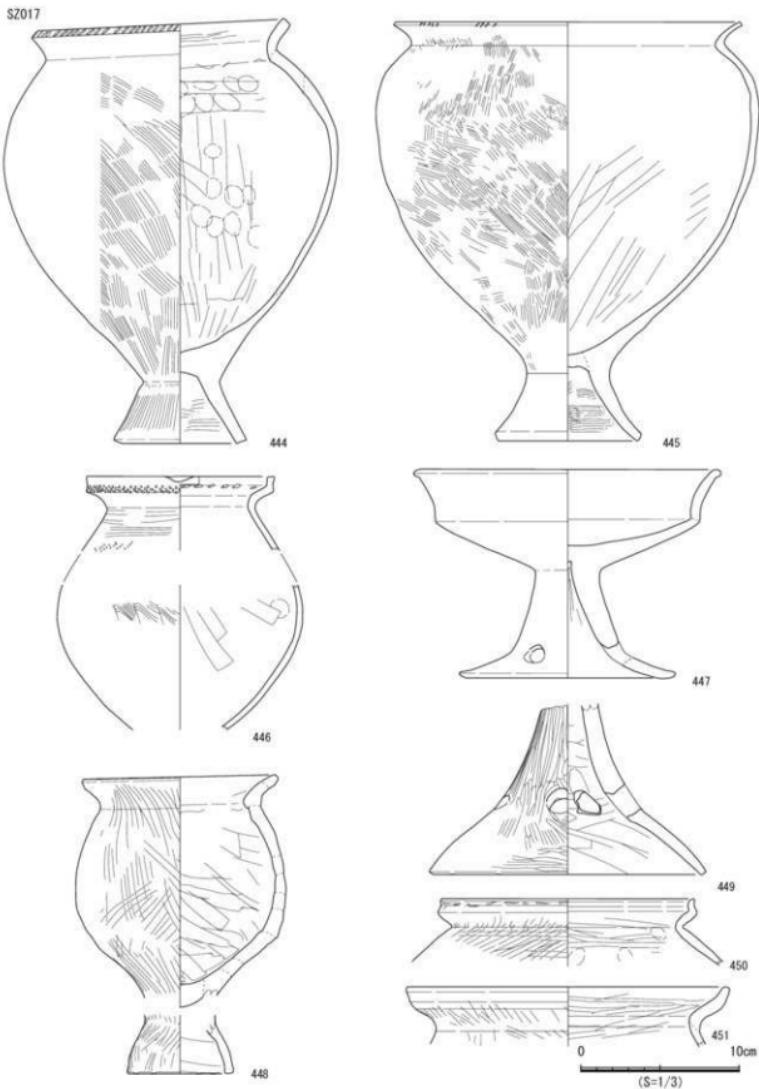


図110 遺物実測図 (34)

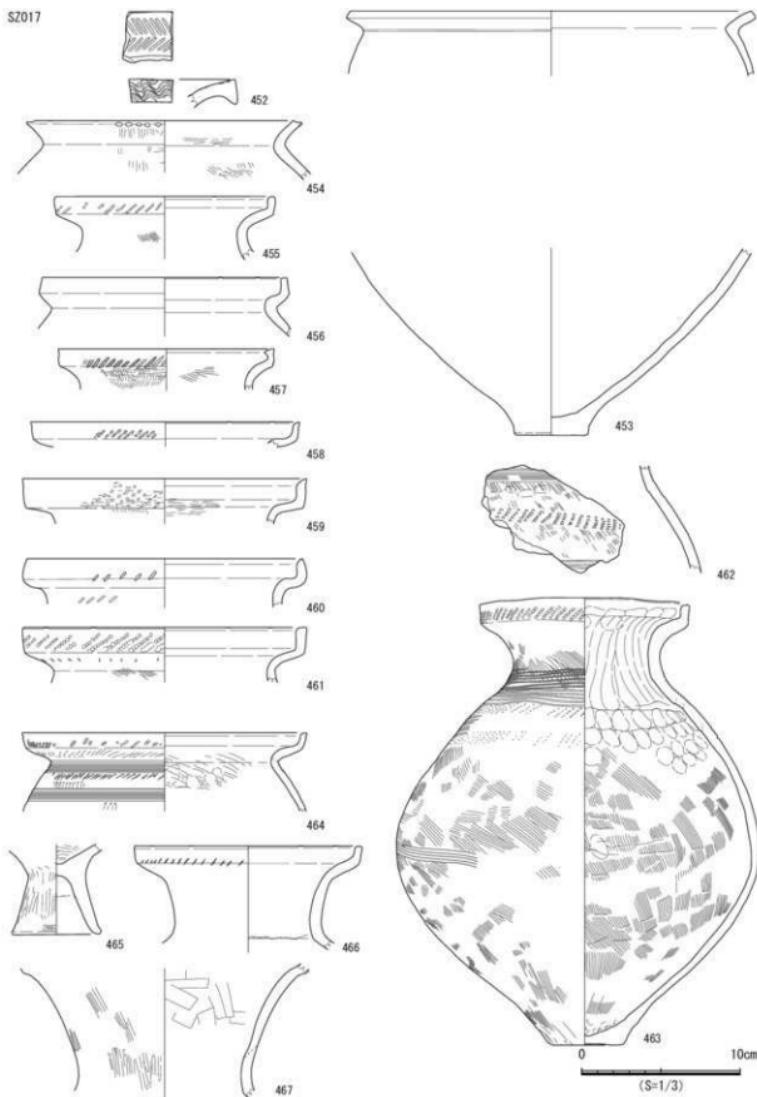


図111 遺物実測図（35）

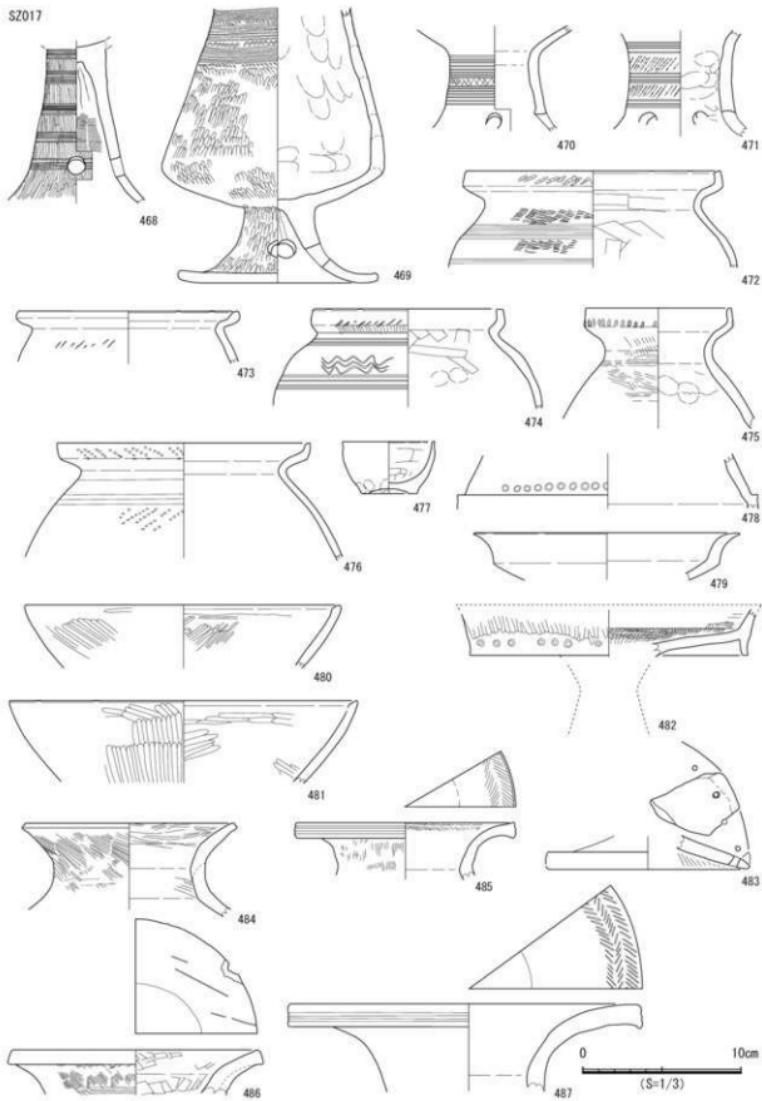


図112 遺物実測図（36）

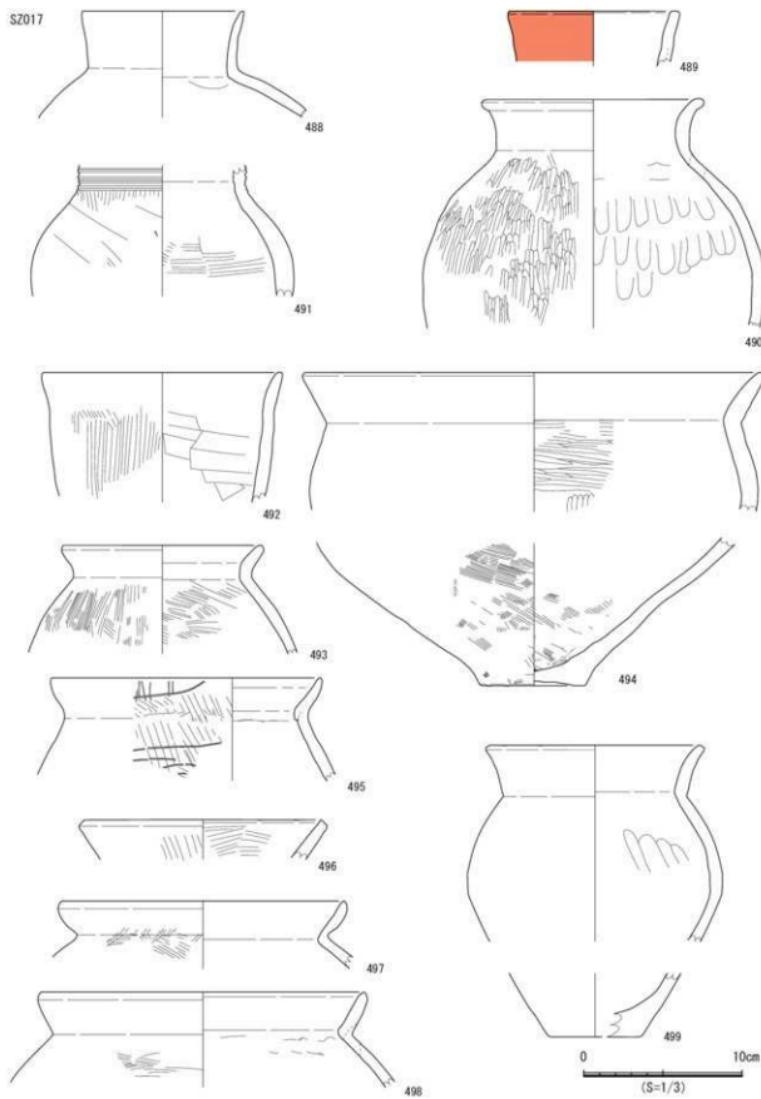


図113 遺物実測図 (37)

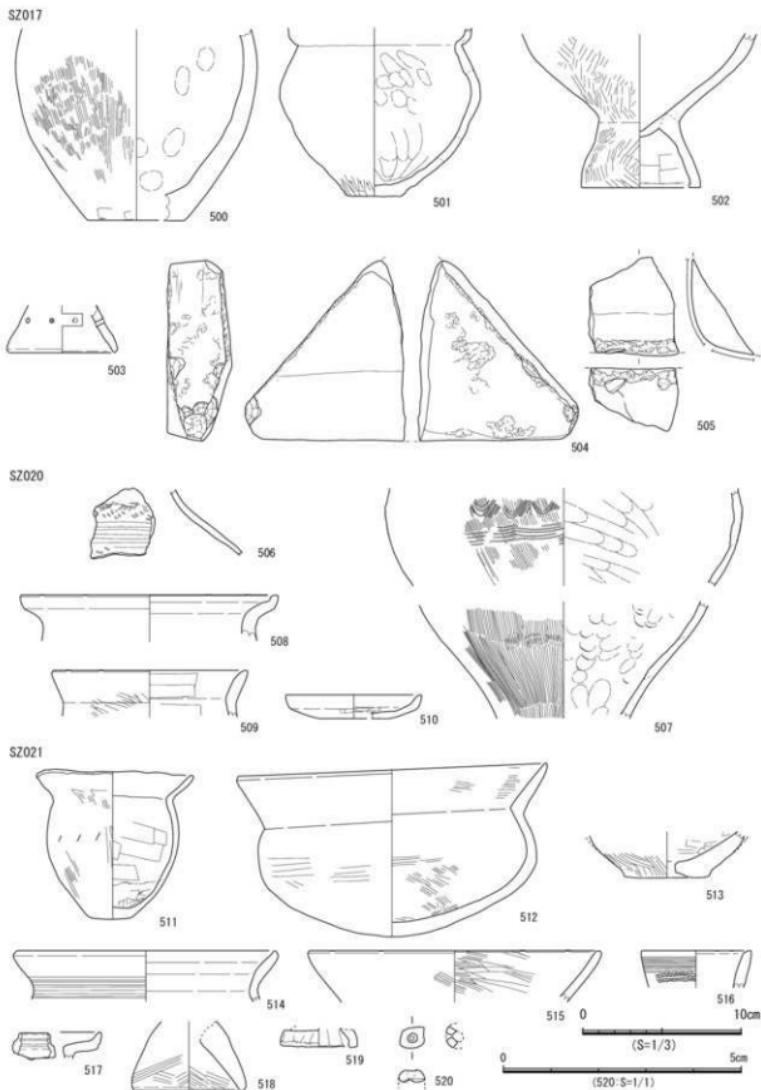


図114 遺物実測図 (38)

SZ022

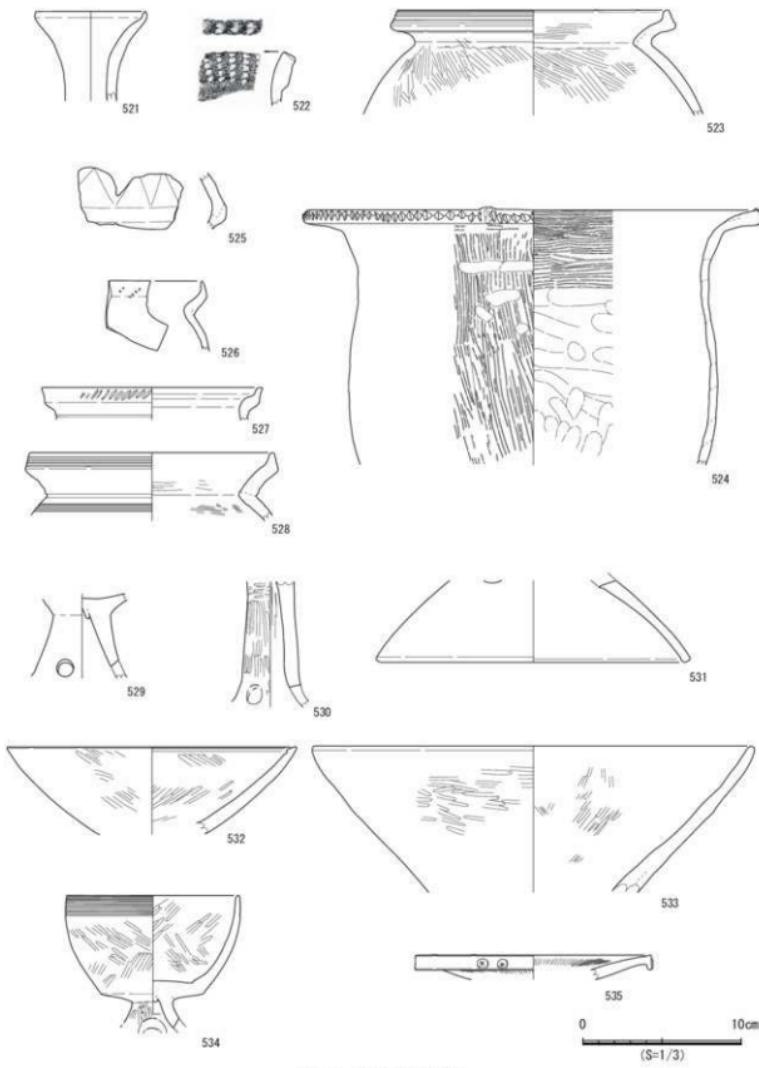


図115 遺物実測図 (39)

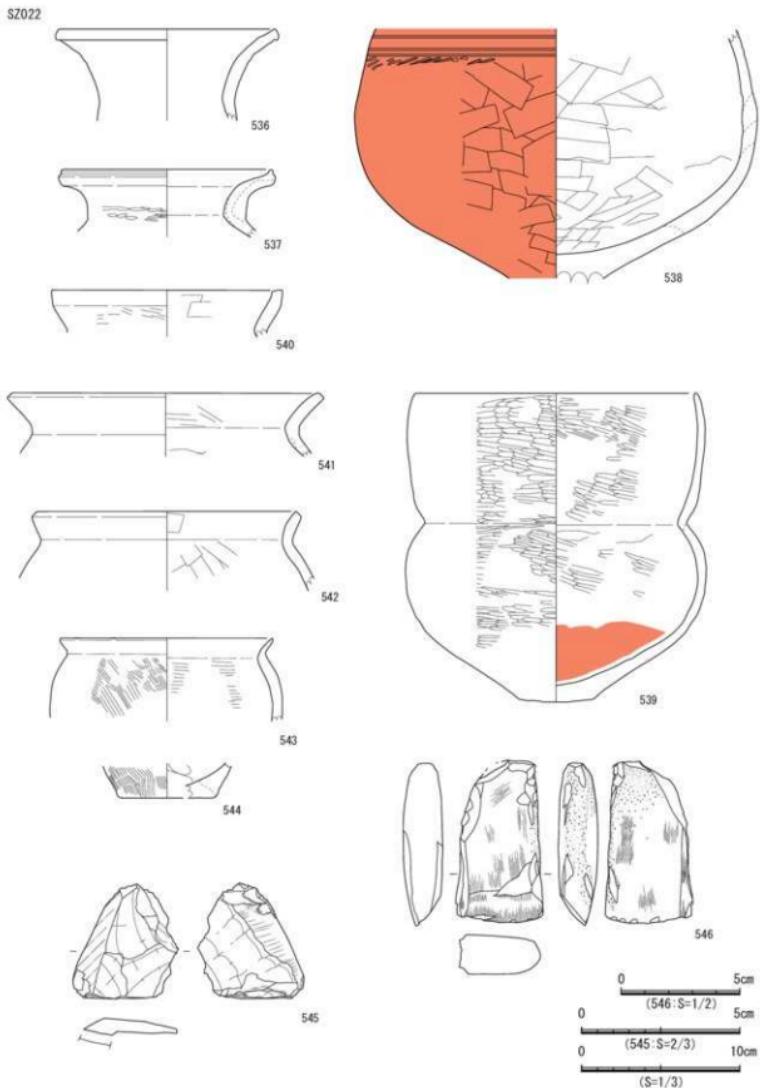


図116 遺物実測図 (40)

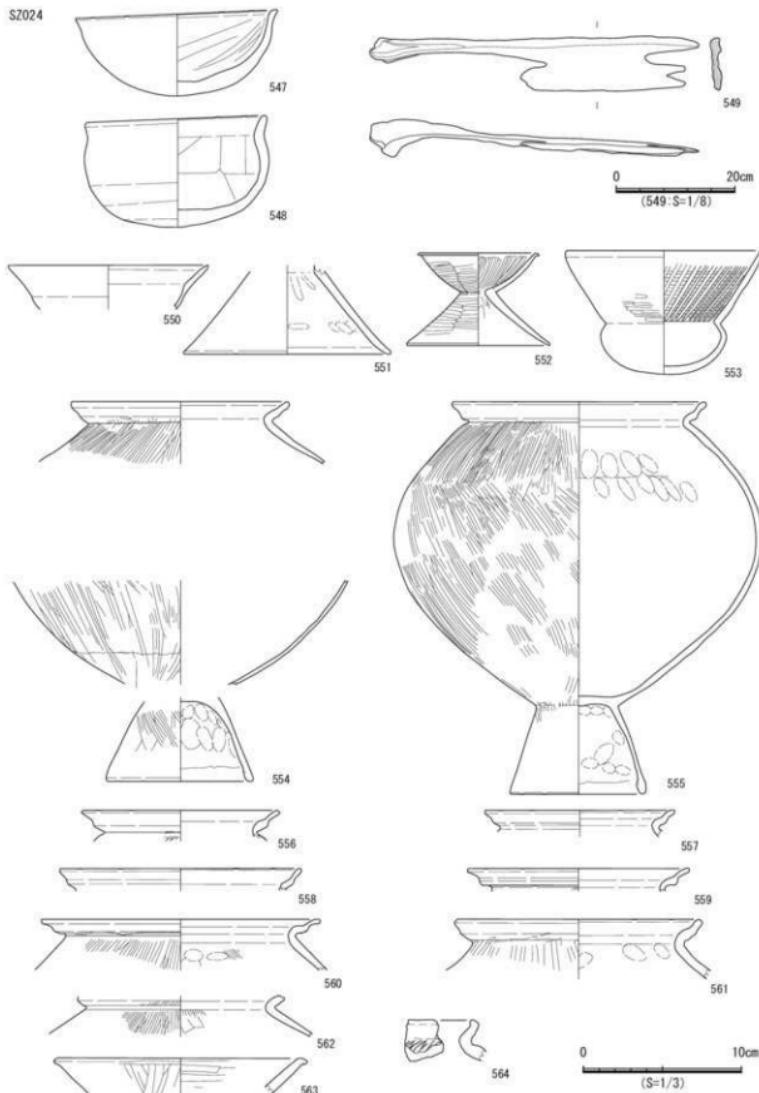


図117 遺物実測図 (41)

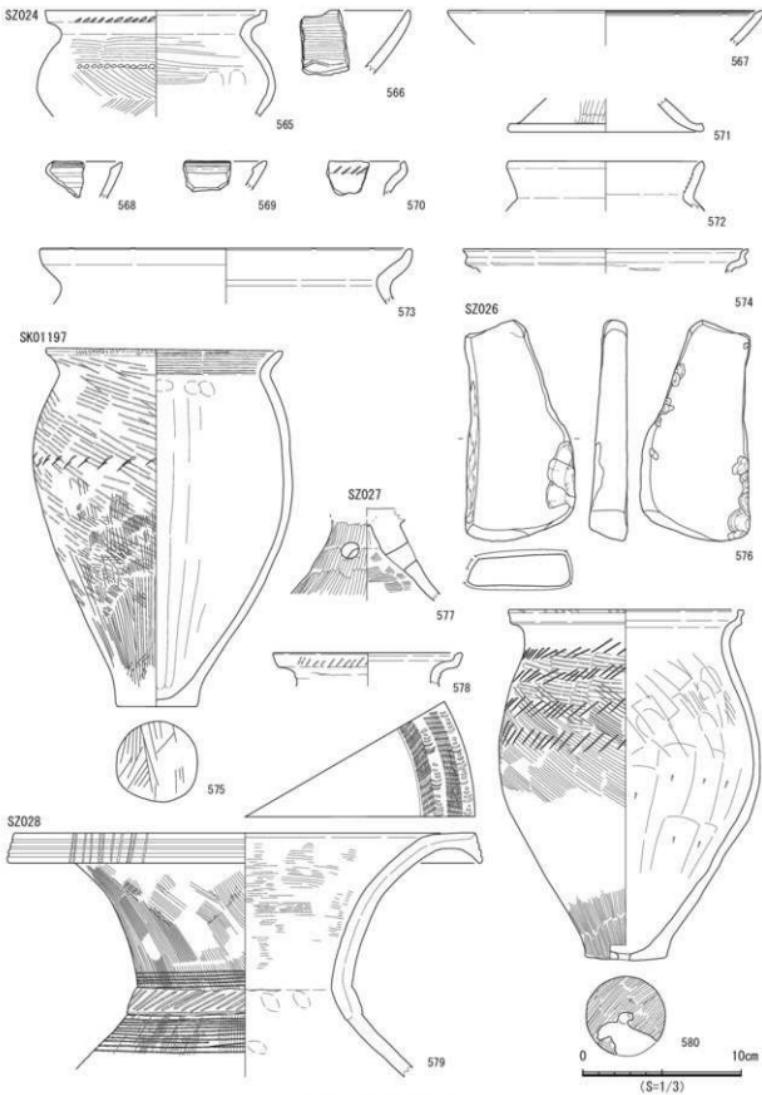


図118 遺物実測図 (42)

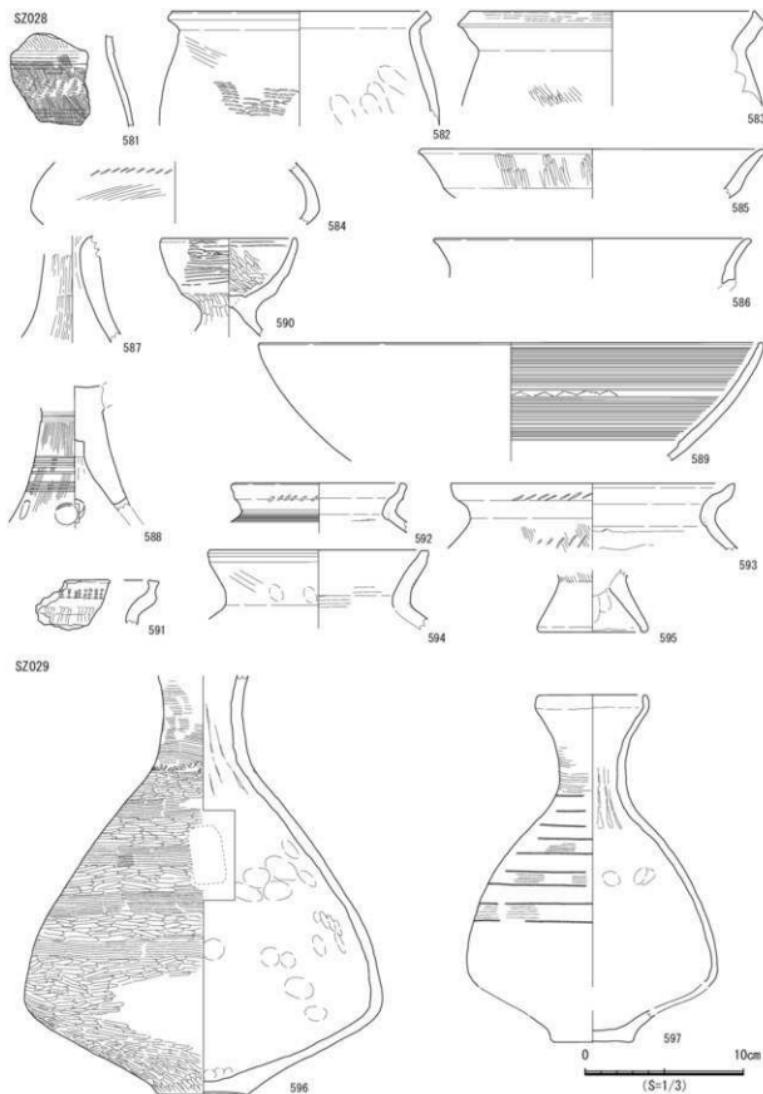


図119 遺物実測図 (43)

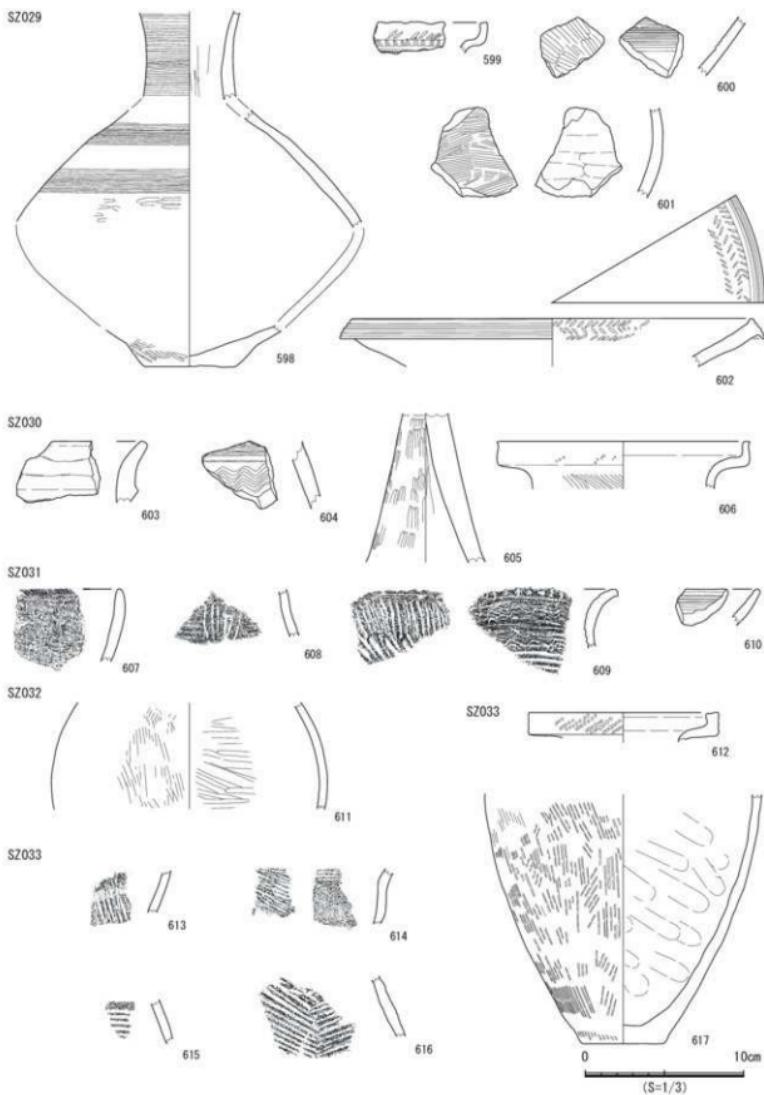


図120 遺物実測図 (44)

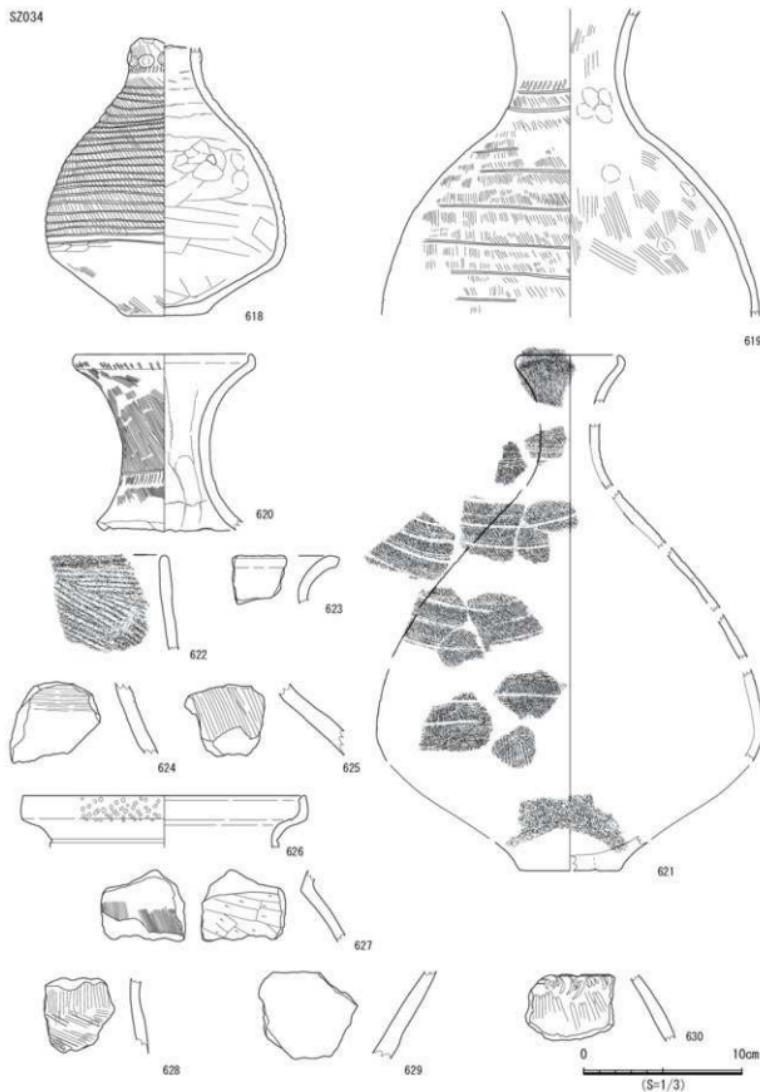


図121 遺物実測図 (45)

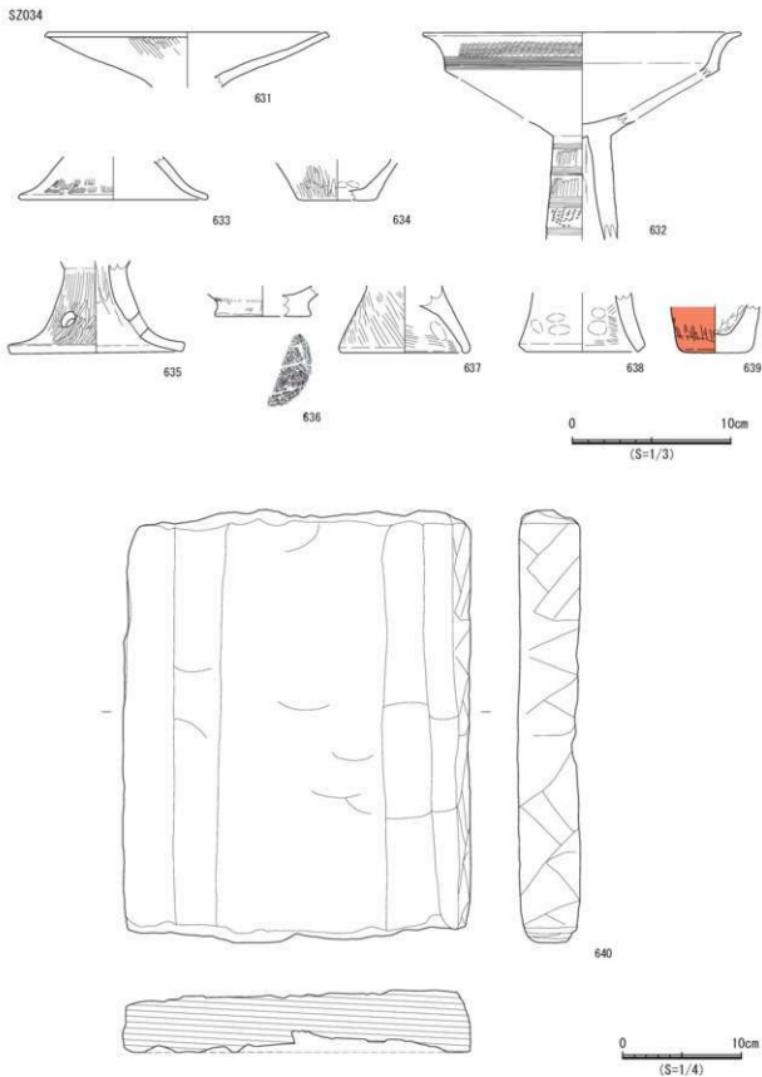
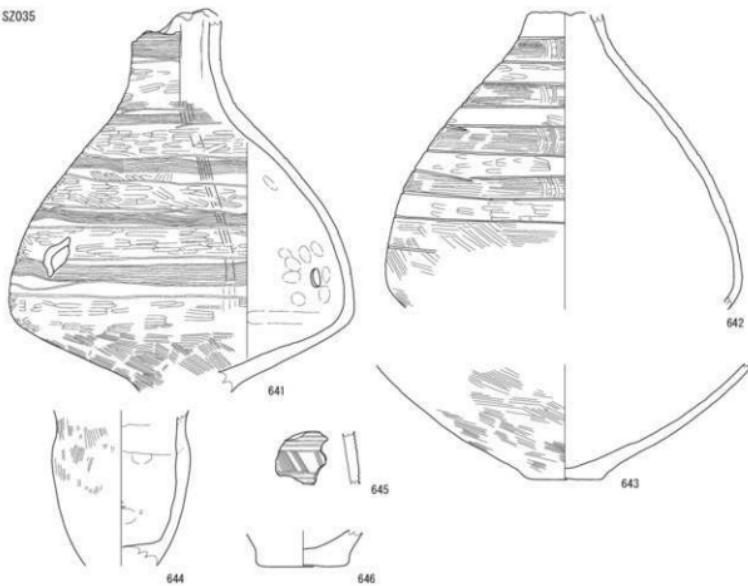


図122 遺物実測図 (46)

SZ035



SZ036

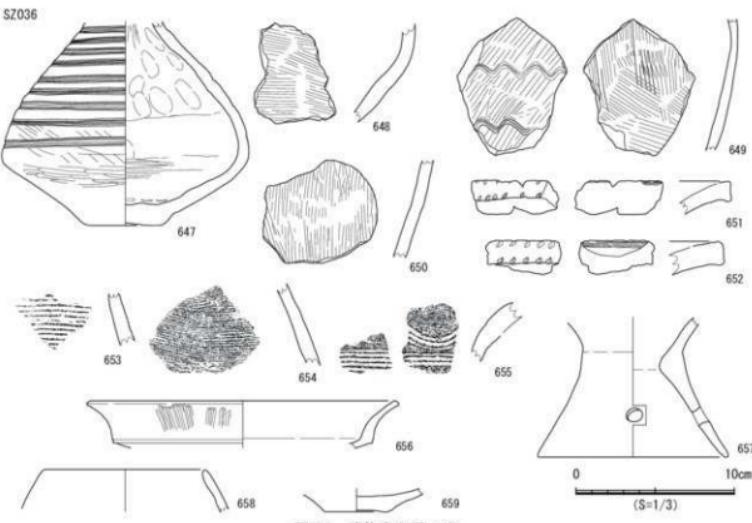


図123 遺物実測図 (47)

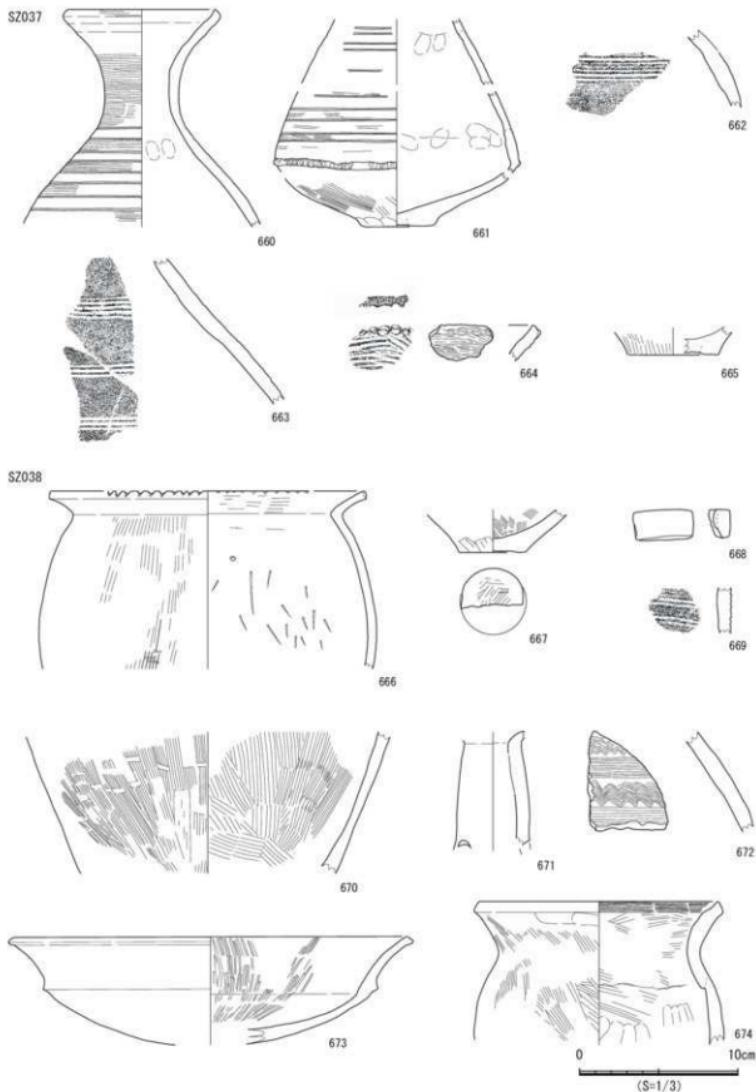


図124 遺物実測図 (48)

SZ039

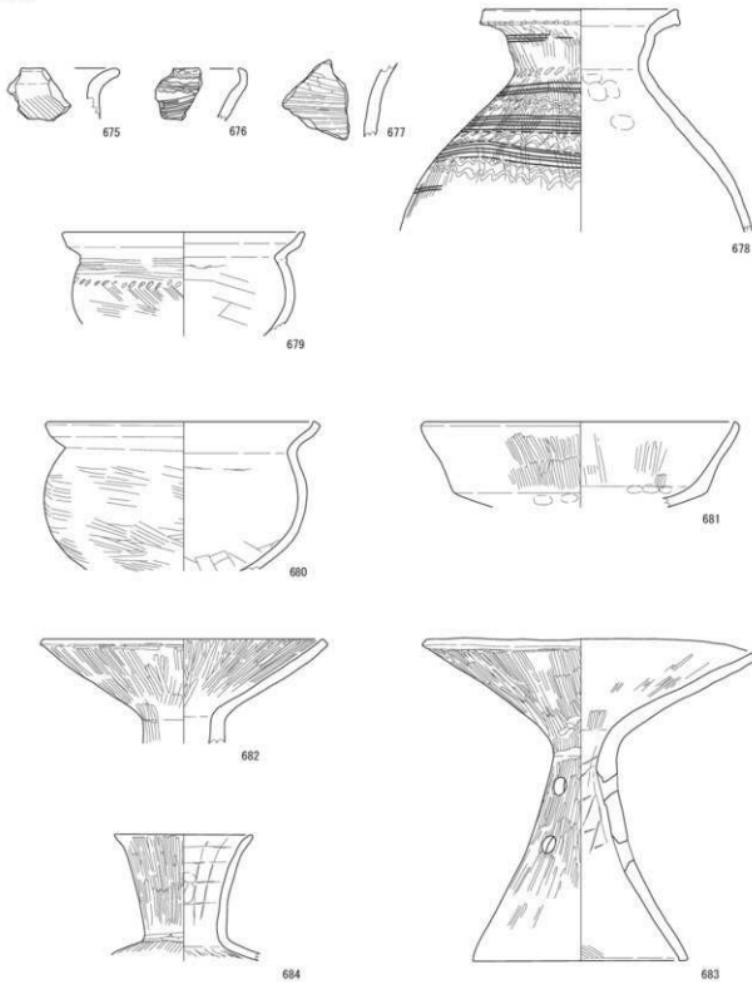


図125 遺物実測図 (49)

S2039

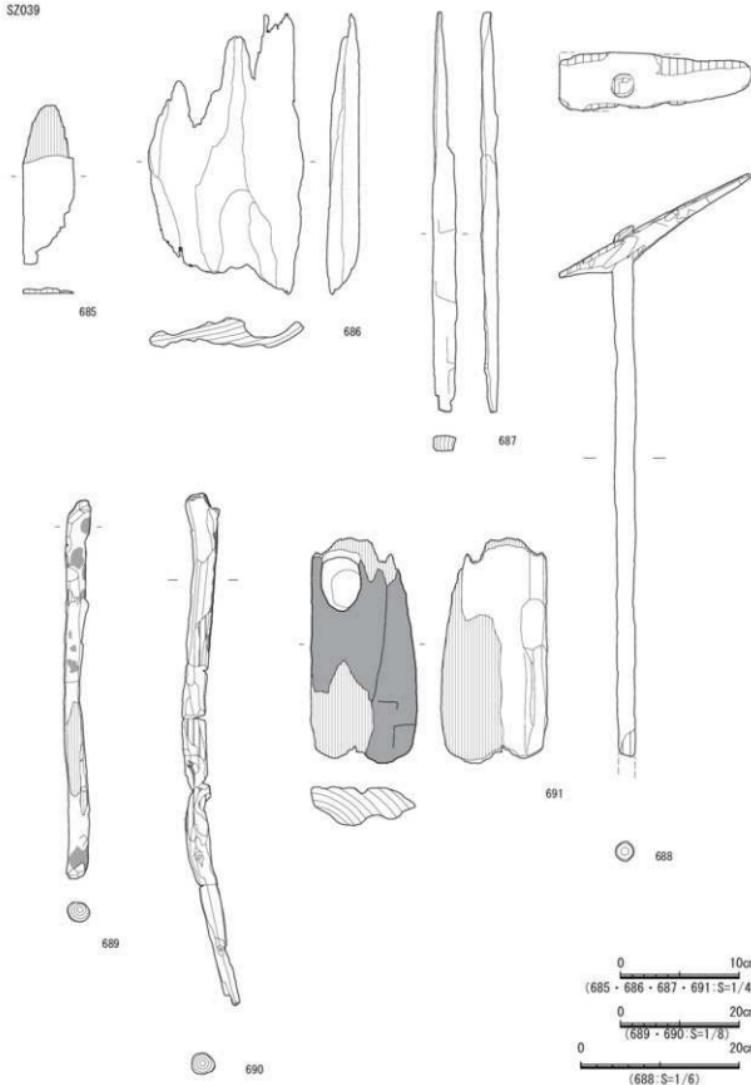


図126 遺物実測図 (50)

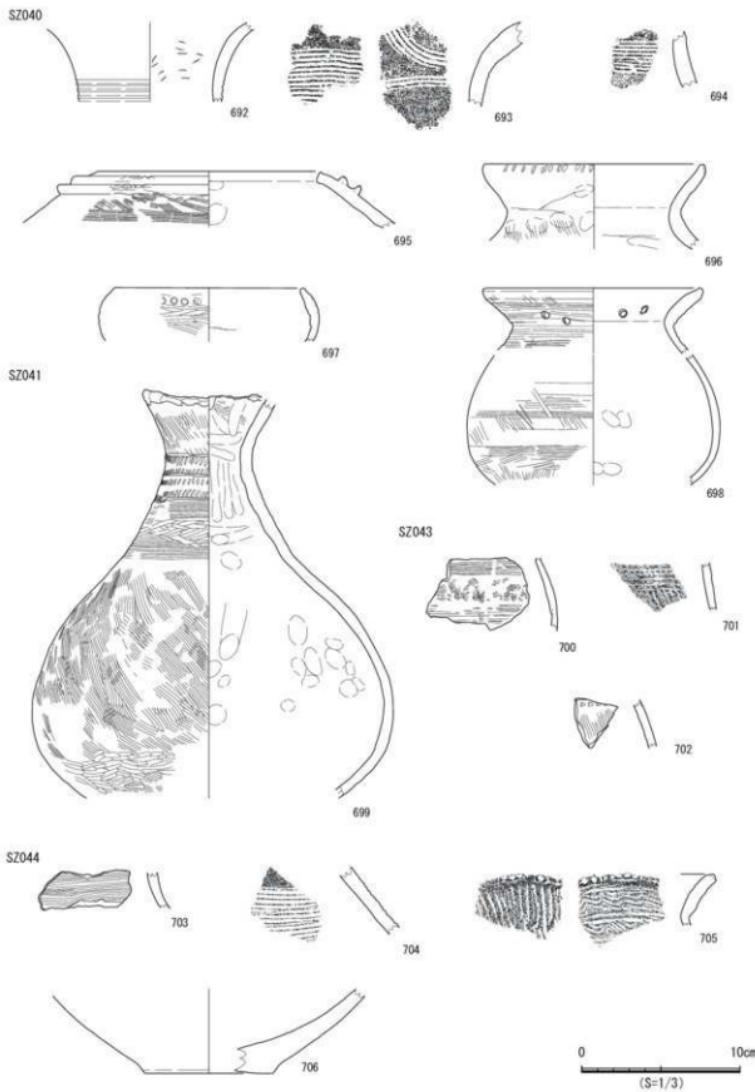


図127 遺物実測図 (51)

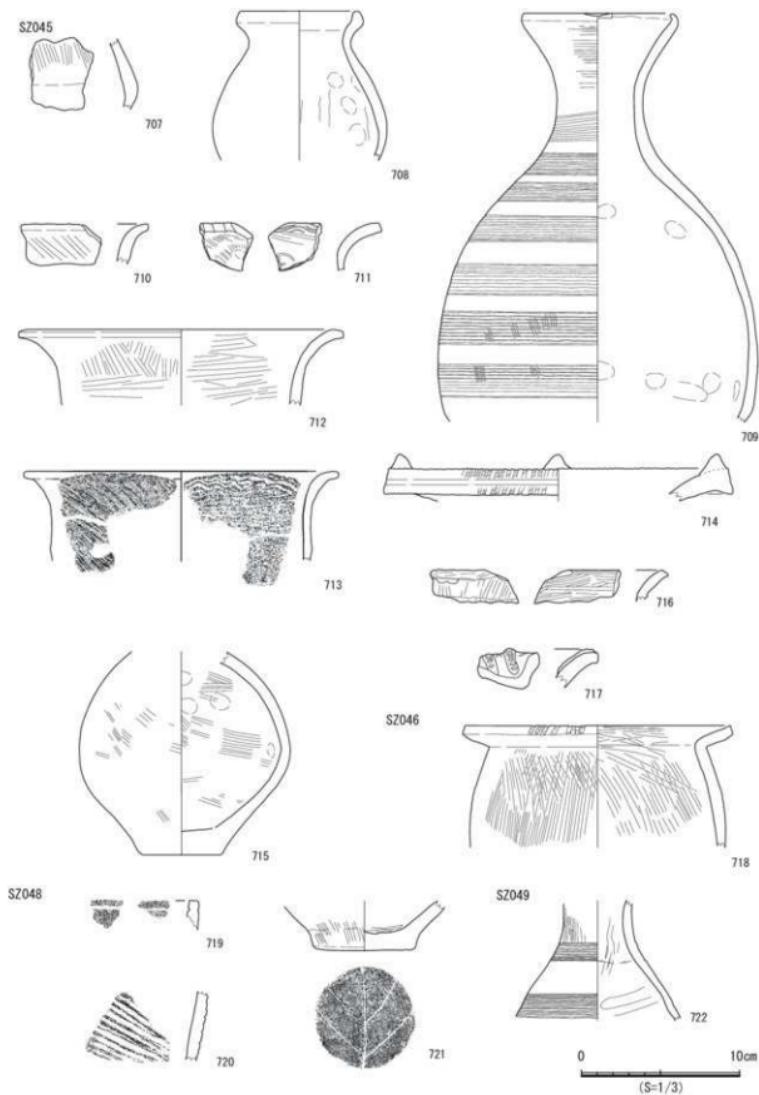


図128 遺物実測図 (52)

第6節 壇穴住居跡

A地区では、縄文時代晩期1軒、弥生時代中期1軒、弥生時代後期から古墳時代前期95軒（時期不明を含む）、合計97軒の壇穴住居跡を検出した。弥生時代後期から古墳時代前期の壇穴住居跡は、巨視的にはA地区北東部から南西部に帯状に展開しているように見える。また、この中でも、壇穴住居跡の密集の仕方には差があり、重複が著しい部分や散漫な部分がある。

壇穴住居跡の時期決定を行う資料は、壇穴住居跡に残された土器によるが、良好な資料が残されたものと、土器小片しか出土していないものがある。このため、遺構の時期を検討する際には、他の遺構との重複関係も含めて検討した。

検出した壇穴住居跡の多くは、方形もしくは長方形を基調とする平面形であるが、壁面の残存状態はあまり良くなく、数cmから10cm程度のものが多い。また、床面に炉跡が残る壇穴住居跡は非常に少なく、A地区では1軒だけであった。柱穴については、床面で検出した小穴の中から、壇穴内の位置関係や土層観察から検討した。

SB001（遺構：図130、遺物：図218）

検出状況 A地区北西部に位置し、V層上面で検出した。やや大きな穴を中心に、小穴が環状に配置されたような位置関係にあることから、壇穴住居跡の可能性があるものと判断した。

形状 壁面が確認されていないため、規模や形状は不明である。

床面 床面と明確に確認できた部分はないが、P10を中心PI～P9が環状に配置されたような位置関係にある。小穴は、円形や梢円形で深さ0.02mから0.24mまで様々である。他に土坑としたものも、何らかの関係があるかもしれない。炉跡や壁溝は確認できなかった。

遺物出土状況 P10から1個体の深鉢(723)が潰れたような状態で出土した。他の小穴からは、P2から石器が出土した他はなかった。

出土遺物 723は、P10から出土した縄文土器深鉢で、口縁部が内捻りし、沈線と刺突による文様を施

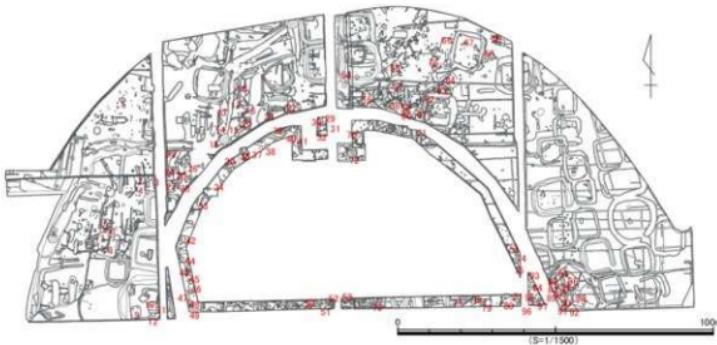
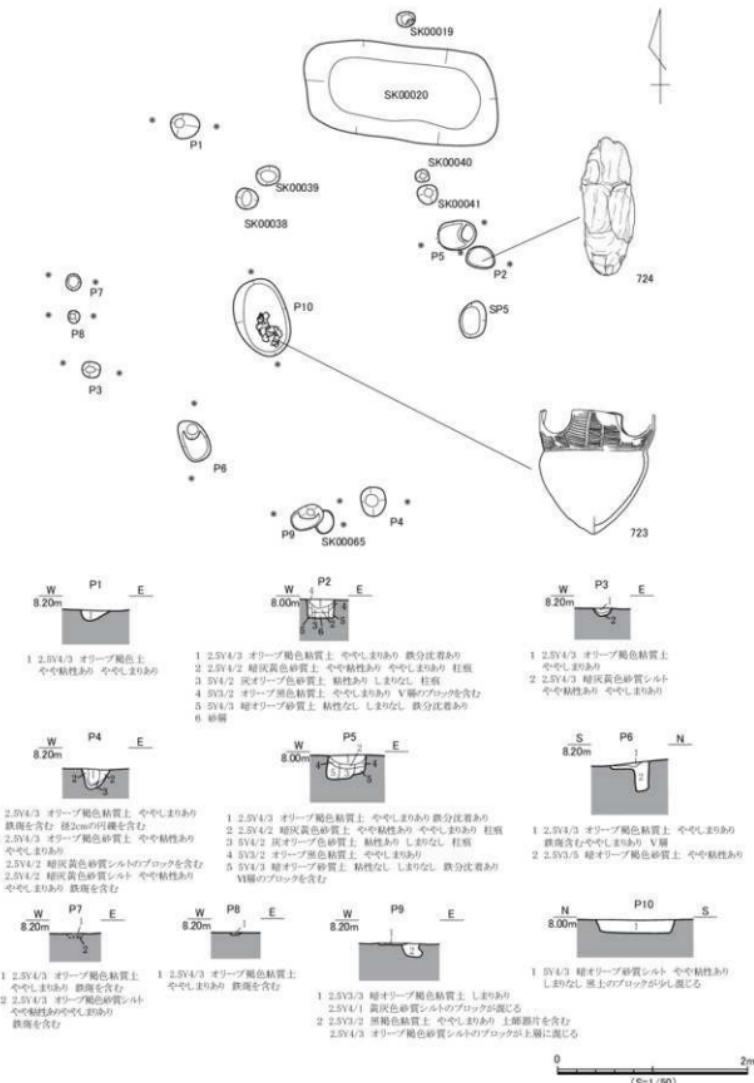


図129 壇穴住居跡位置図（数字は遺構番号）



す。胴部は無文で、底部は尖底となる。器形や文様ともあまり例を見ない土器である。口縁部の形状からは、後期末葉の可能性も考えられるが、口縁部の文様構成から晩期前葉の可能性が高いと思われる。724は、P2から出土した泥岩製の打製石斧である。

時期 P10から出土した縄文土器により、縄文時代晩期と思われる。A地区で検出した遺構の中では、縄文時代と思われるものは、この遺構だけである。

SB002（遺構：図131・132、遺物：図218）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。平成18年度と19年度の2カ年の調査で検出しているが、平成18年度では平面形を確認できていない。南東部のわずかな部分であるがSB003と重複しており、SB002が先行すると判断した。平成19年度の調査では、方形のコーナー部分と思われる平面形と壁溝、柱穴と思われる小穴を確認したことから、堅穴住居跡と判断した。

形状 検出した範囲では方形プランの南西部分を確認しており、そこからほぼ方形と推定した。壁面は非常に浅く0.06mしか残存せず、床面を除去した掘形の深さで0.13mである。

埋土 埋土は壁溝を含めて3層であるが、下層（土層図3層）は床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層である。

床面 南西部分では壁溝を壁面に沿って確認したが、北半部では不明である。床面及び推定した平面形の中に入る小穴は、14基であった。このうちP4～P6が位置関係から柱穴と思われる。また南壁際で検出したP9・P10は、入口に関係する小穴の可能性がある。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中からは少量の土器が出土しただけである。柱穴等の床面で検出した遺構についても同様である。

出土遺物 725はP8出土の壺L類の破片で、726はP5出土のS字甕の破片資料である。時期はⅧ-1期前後と思われる。

時期 出土土器からの時期決定は困難であるが、柱穴から出土した726を重視すると、Ⅷ-1期を上限として考えられる。

SB003（遺構：図132、遺物：図218）

立地と検出状況

A地区東部に位置し、V層上面で検出した。壁面のわずかな残存と壁溝の存在によって、住居跡であると判断した。遺構の重複関係からは、SB002より新しい時期に構築された。

形状 ごく一部しか検出していないため形状は不明。壁面は0.06mほど残存する。この壁に沿って幅0.14mほどの溝があり、これを壁溝と判断した。炉跡や柱穴は確認できなかった。

埋土 埋土は壁溝を含めて4層あるが、最下層は床面形成のため、掘形を埋めたと思われる土層である。

遺物出土状況 埋土中からは少量の遺物が出土しただけで、1点のみ図化した。

出土遺物 729はVI-2期の高環脚部である。

時期 出土した遺物はVI期のものであるが、Ⅷ-1期と思われるSB002よりも新しい時期と考えられることから、Ⅷ-1期以降と思われる。

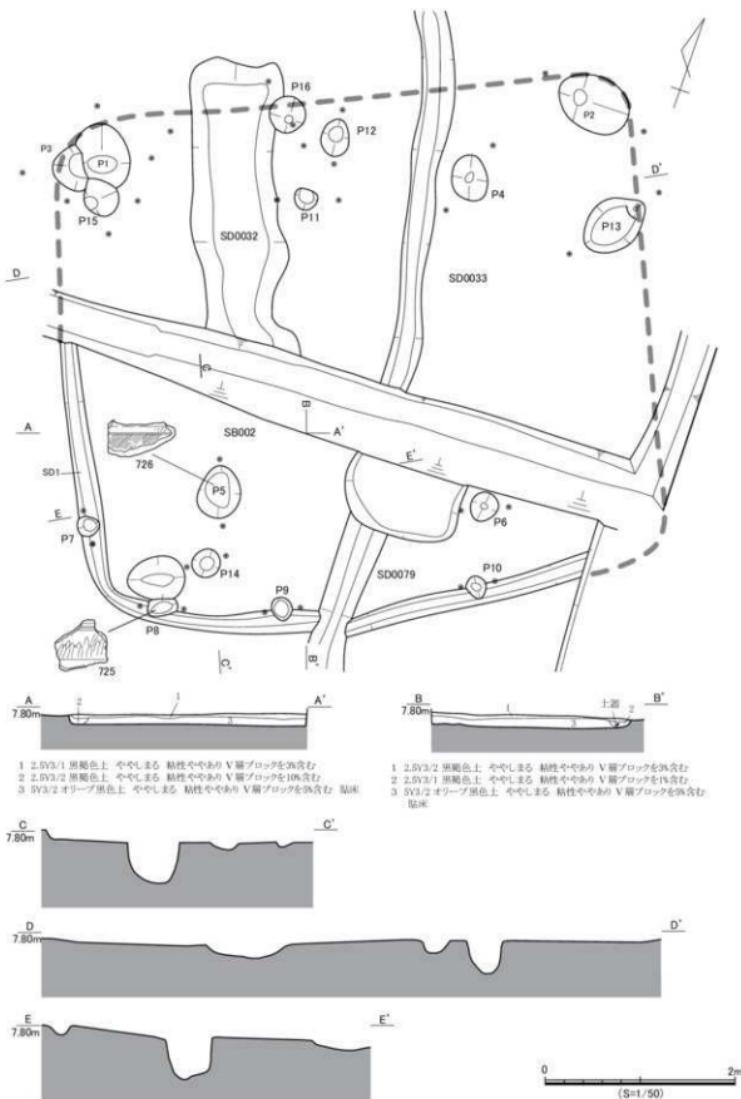


図131 SB002遺構図

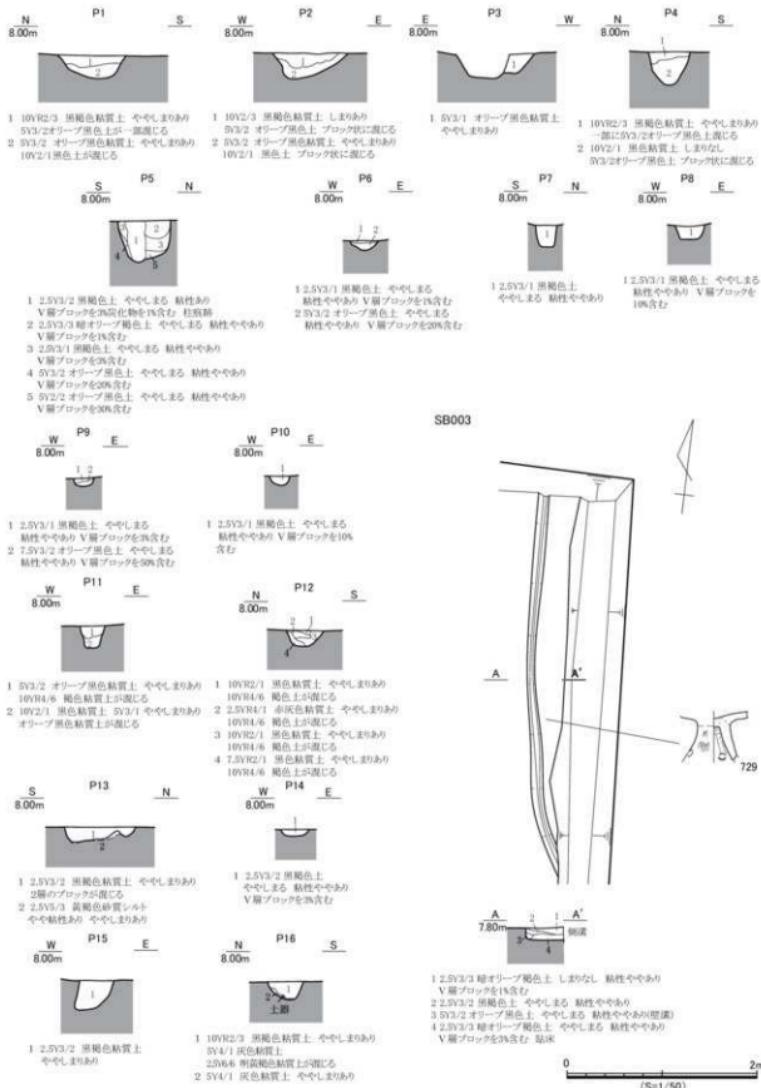


図132 SB002・SB003造構図

SB004（遺構：図133）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。東辺と思われる壁溝の残存と柱穴状の小穴がまとまることから、壁穴住居跡であると判断した。

形状 東辺と思われる壁溝が直線的であることから、方形か長方形を平面形とするものと思われる。ただし、他辺の壁溝は確認できなかった。壁面は残存しておらず、壁穴掘形まで削平が及んでいると思われる。

床面 P1～P3を壁溝との位置関係から柱穴と考えた。その周辺で確認した9基の柱穴を、壁穴住居跡の床面遺構の可能性があるものとして図示したが、P4～P6及びP9、P10については、壁溝とP1～P3との位置関係から推定できる平面形よりも外に位置し、SD0078との重複関係からP6、P11は、P1とは時期が異なる。炉跡は確認できなかった。

出土遺物 図示できる遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり、時期不明である。

SB005（遺構：図134、遺物：図218）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB006より新しいことが判明している。壁内に柱穴や壁溝を確認したことから、壁穴住居跡と判断した。

形状 ほぼ正方形で、壁面は床面まで0.06mほど残存していた。東西2.54m、南北2.70mと規模は小さい。

埋土 埋土は壁溝を含めて3層あるが、最下層は床面形成のため、掘形を埋めたと思われる土層である。

床面 壁に沿って、幅0.1～0.12m、深さ0.05mの溝が巡る。床面上では9基の柱穴を確認したが、このうちP1～P4が、壁内での位置関係や柱痕跡状の堆積から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土した。

出土遺物 730、733～735はVI期の資料と考えられるが、731・732の高环はC・D類でVII期前後に相当する可能性が高く、新旧の資料が混在する。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるがSB006との重複関係からVII期前半頃か。

SB006（遺構：図135）

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB005、SB007に先行することが判明している。

形状 一边が3.2mほどと小規模な正方形で、壁面は0.06mほど残存していた。

埋土 埋土は単層であった。

床面 壁溝はなく、床面で6基の柱穴を確認したが、柱穴は明確にできなかった。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中からは土器小片が出土しただけであり、図示可能なものはなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB005やSB007よりも古くなることからVI期後

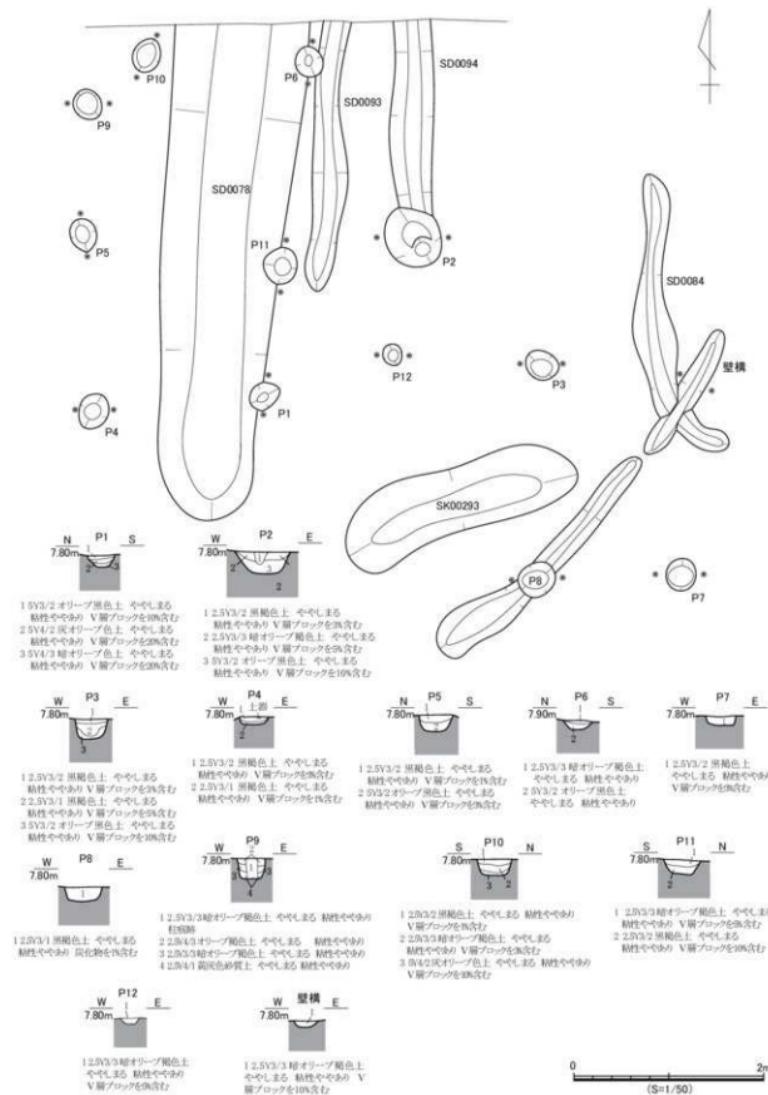


図133 SB004構造

半と思われる。

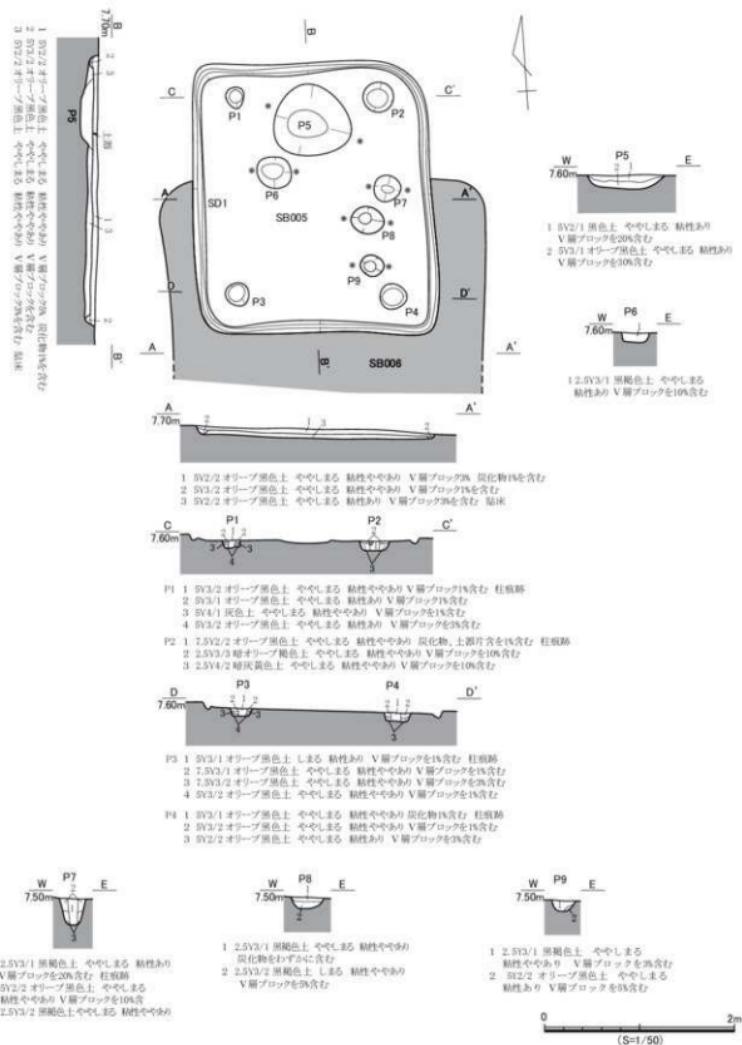


図134 SB005遺構図

SB007 (遺構: 図136、遺物: 図218)

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB008に先行し、SB006より新しい時期に構築されたことが判明している。

形状 多くがSB008に削平されているが、残存した西部から北部にかけての形状から、長方形と思われる。壁面は0.06mほど残存していた。

埋土 埋土は壁溝を含めて3層あるが、最下層は床面形成のため、掘形を埋めたと思われる土層である。

床面 西部から北部にかけて、壁に沿って幅0.11~0.16mの溝が巡る。床面では3基の小穴を確認したが、平面形との位置関係から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在した状態で出土した。

出土遺物 高坏B・C類の737・738はVI期前半から中頃の可能性が高い。P3からは甕脚台部(736)が出土した。737・738とほぼ同時期とみられる。

時期 出土した遺物や、SB005やSB008よりも古くなることからVI-2期頃と考える。

SB008 (遺構: 図137・138、遺物: 図218・219)

検出状況 A地区東部に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB007より新しい時

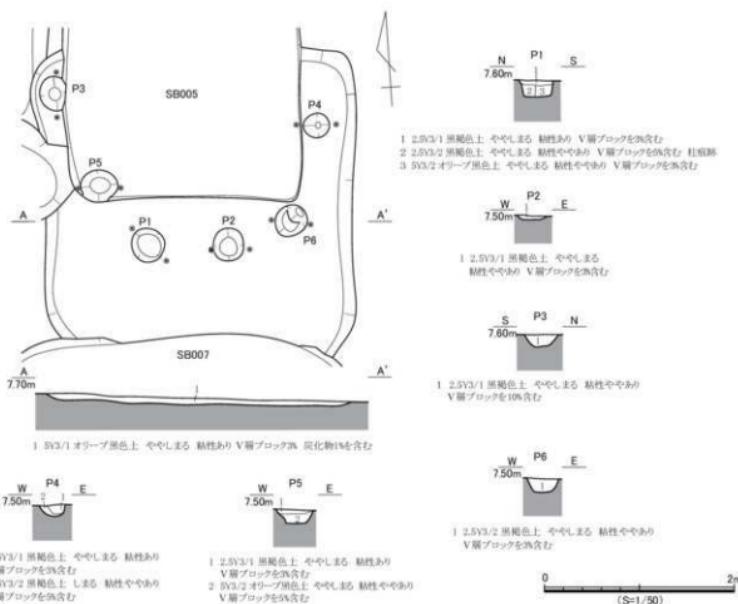


図135 SB006遺構図

期に構築されたことが判明している。

形状 南北6.20m、東西5.57mの長方形であるが、北東隅はSK00170によって削平されている。壁面は0.05mほど残存していた。

埋土 埋土は壁溝を含めて4層あるが、最下層は床面形成のため、掘形を埋めたと思われる土層である。

床面 壁に沿って幅0.10~0.16mの溝が巡る。床面では9基の小穴を確認したが、平面形との位置関係から、P1~P4が柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。なお、床面を除去したところ、P5~P7とP8を検出したが、これらはSB008とは重複する関係になるかもしれない。他に3条の溝状遺構も検出しているが、これらはSB008と重複する別の時期の遺構と判断した。なおこの溝状遺構から出土した遺物も、堅穴住居跡の時期を検討するために合わせて図示した。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在した状態で出土した。また、P8から器形を復原できる土器が

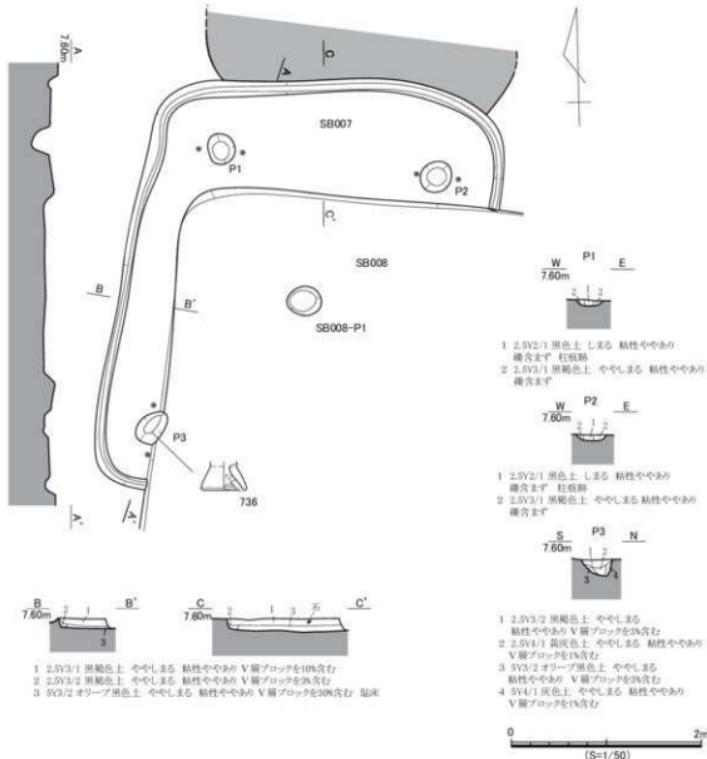


図136 SB007遺構図

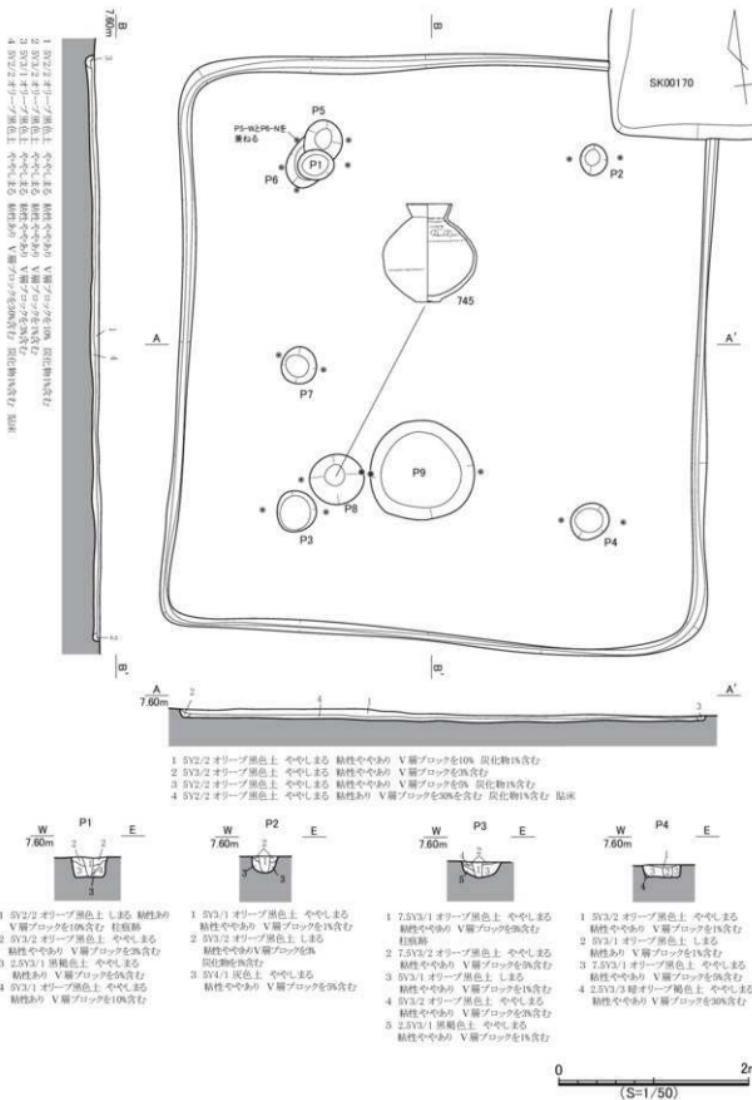
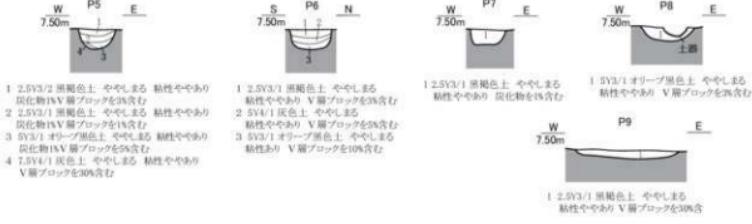


図137 SB008構造図

SB008



SB009

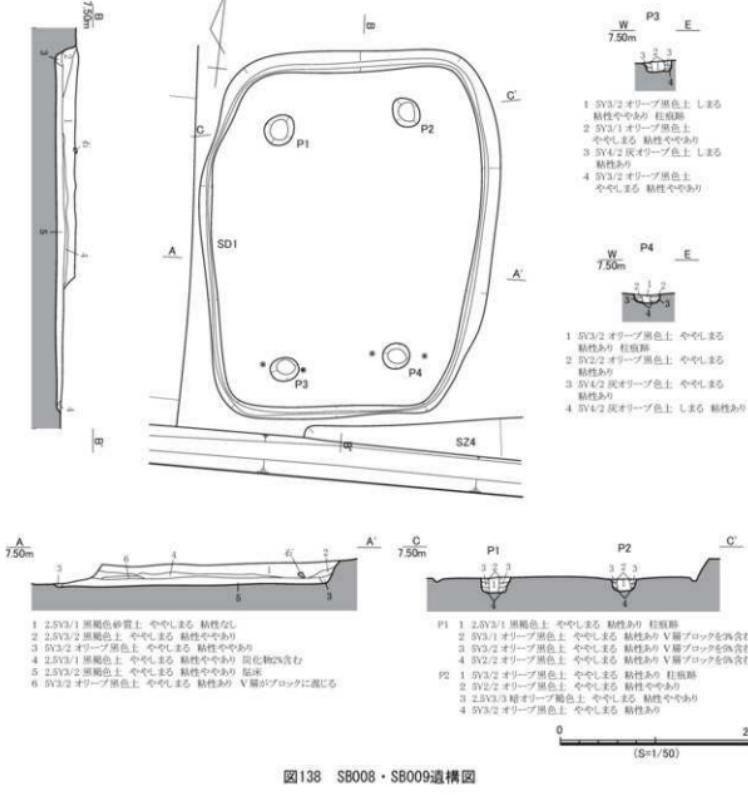


図138 SB008・SB009遺構図

出土した。

出土遺物 P8から出土した壺C類(745)は、口縁部が短く直線的に立ち上がり、胴部はほぼ球形を呈すが、最大径は胴部中央からわずかに下がった位置にある。摩耗によって調整は不明だが、輪積み痕を残しあまり丁寧なつくりではない。壺C類としては後半に属するものである。745のほかに時期決定の参考資料として、摩耗が著しいが多条沈線が残る高坏C3b類(744)、甕E2b類(750)がある。いずれもVII-1期の資料であり、構築時期を示すと思われる。甕C2類(746・747)もVI期後半からVII期に多く出土する資料である。740~742は、SB008床面除去後に検出した溝状遺構から出土した。SB008の時期を検討する上で参考となる資料と思われる。

時期 SB008に伴うと思われるP8から出土した壺や、埋土中から出土した高坏や甕から、VII-1期と思われる。

SB009（遺構：図138、遺物：図219）

検出状況 A地区南東部のSZ004方台部上に位置し、V層上面で検出した。重複する住居跡はないが、東側でSB010~012が重複している。

形状 南北3.90m、東西3.17mの不整長方形で、小規模な竪穴住居跡である。壁面は遺存状態の良い場所で0.16mほど残るが、南西部は壁面があまり残存していない。

埋土 壁溝を含めて6層に分層したが、このうち5層とした土層は、床面形成のため、掘形を埋めたものと思われる。

床面 幅が0.1m~0.2mの溝状遺構が壁に沿って巡り、床面では4基の小穴を確認した。平面形との位置関係からこのP1~P4が柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が出土した。

出土遺物 754~756を図示したが、いずれもIV期の資料である。

時期 出土遺物からはIV期の可能性が考えられるが、IV期のSZ004方台部上に位置しており、同じ時期とは考えられないため、時期不明である。

SB010（遺構：図139）

検出状況 A地区南東部のSZ004方台部上に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB011に先行する。

形状 南北2.85m、東西2.64mのほぼ正方形で、小規模な竪穴住居跡である。壁面はSB011と重複していない遺存状態の良い場所で0.2mほど残るが、他は0.04mほどである。

埋土 壁溝を含めて6層に分層したが、このうち6層とした土層は、床面形成のため、掘形を埋めたものと思われる。

床面 幅が0.1m~0.26mの溝状遺構が壁に沿って巡り、床面では1基の小穴を確認した。P1はほぼ中央に位置しており、柱穴と考える。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が出土したが、図示できるものはなかった。

時期 出土遺物からは時期を検討することは困難なため、時期不明である。

SB010

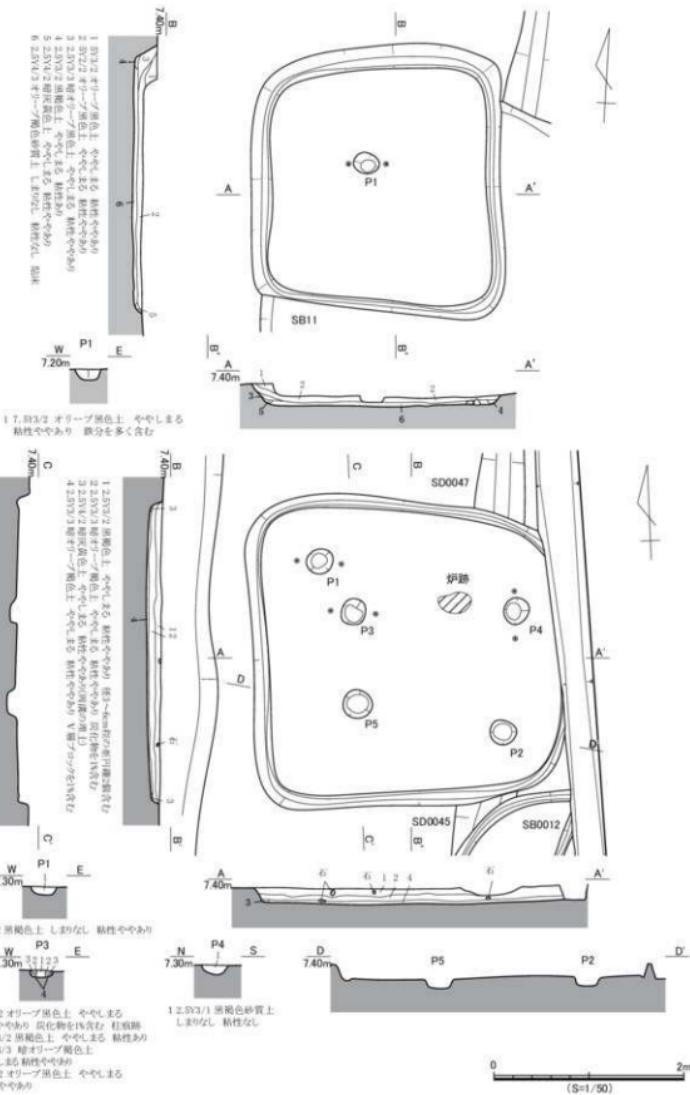


図139 SB010・SB011遺構図

SB011（遺構：図139、遺物：図219）

検出状況 A地区南東部のSZ004方台部上に位置し、V層上面で検出した。遺構の重複関係からは、SB010より新しい時期に構築されたことが判明している。東辺部は、調査区排水溝によって一部掘削した。

形状 南北3.22m、東西3.22mのほぼ正方形で、小規模な堅穴住居跡である。壁面は0.15mほど残存している。

埋土 壁溝を含めて4層に分層したが、このうち最下層は、床面形成のため、掘形を埋めた土層と思われる。

床面 幅が0.1m～0.16mの溝状遺構が壁に沿って巡り、床面では5基の小穴を確認した。P1が北西隅に寄った位置にあり、他の小穴が平面形との位置関係から、柱穴と思われる。P3とP4の間に、0.35m×0.25mほどの焼土面があり炉跡と思われる。

遺物出土状況 埋土中から少量の遺物が出土した。

出土遺物 759はIV期の甕、760は砂岩製の石製品である。

時期 出土遺物からは時期を検討することは困難なため、時期不明である。

SB012（遺構：図140、遺物：図219）

検出状況 A地区南東部のSZ004方台部上に位置し、V層上面で検出した。大半が調査区外となり、一部の確認に留まるが、壁溝と思われる溝状遺構や柱穴の可能性がある小穴を確認したことから堅穴住居跡と判断した。

形状 大半は調査区外となるため形状は不明である。壁面の遺存状態は悪く、0.05mほどである。

埋土 壁溝を含めて3層に分層した。

床面 幅が0.12m～0.14mの溝状遺構が壁に沿って確認でき、床面では1基の小穴を確認した。P1が位置的に柱穴となる可能性がある。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中であるが、床面近くから2個体の土器がつぶれた状態で出土した。

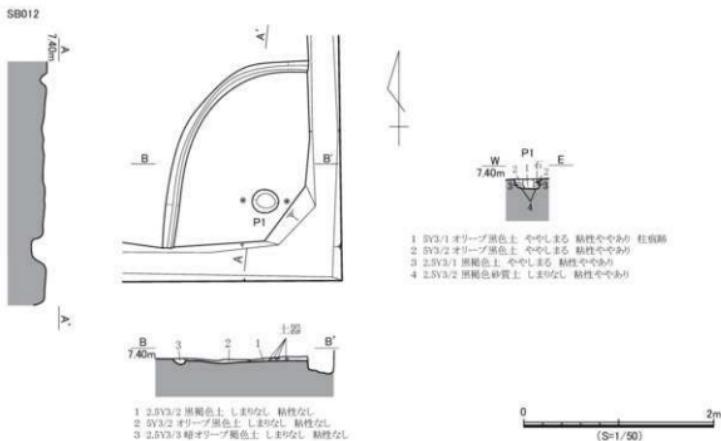
出土遺物 761は壺F類で、胴部最大径付近に波状文がわずかに認められる。波状文より上位は摩耗が激しく文様は認められなかつたが、他の類似資料と同様、施文があった可能性が高い。762は甕M類で、外面ハケ調整の在地系甕であろう。底部に穿孔がある。いずれもIV期のものである。

時期 出土遺物からはIV期と思われるが、SB009と同様にIV期の方形周溝墓方台部上に位置することを考えると、堅穴住居跡との認定自体を再考し、主体部あるいは墳丘構築時の何らかの施設といったことを検討する必要がある。しかし、調査時の見解に基づき、とりあえず堅穴住居跡として報告する。

SB013（遺構：図141、遺物：図219）

検出状況 A地区北東部に位置し、V層上面で検出した。IV層上面の水田遺構及びそれに関連する溝状遺構により東から南半部削平されている。壁溝と思われる溝状遺構や、柱穴の可能性がある小穴を確認したことから堅穴住居跡と判断した。遺構の重複関係から南側のSB014よりも先行すると判断した。

形状 北西及び北東隅の形状から、方形もしくは長方形と思われる。壁面は北壁側を除いてほとんど



遺物出土状況図

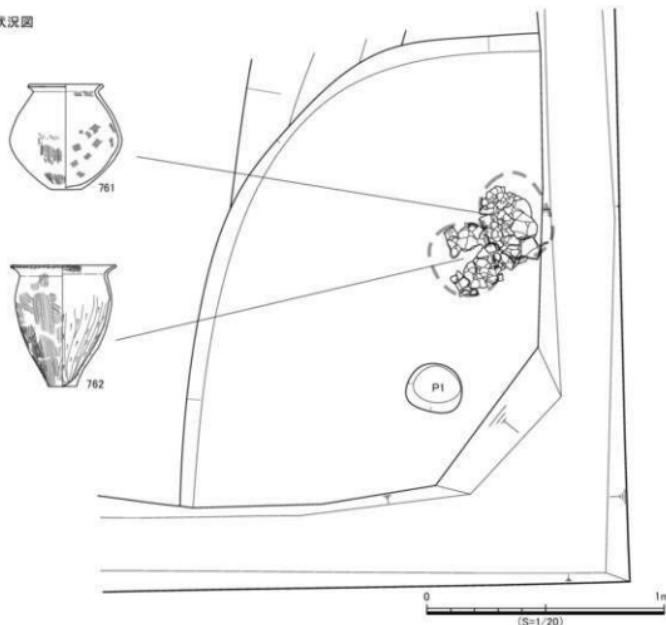


図140 SB012遺構図

なく、平面形を確認した際には、西側の壁溝も確認できた状態である。北側の壁面は0.04mほど残存していた。

埋土 壁溝を含めて5層に分層したが、1・2層は北壁近くに残存していた埋土で、4・5層としたものは、床面形成のため、掘形を埋めた土層と思われる。

床面 幅が0.06m~0.12mの溝状遺構が壁に沿って確認できたが、北壁中央で一部途切れる。床面では2基の小穴を確認したが、柱痕跡が確認でき、平面形との位置関係から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土した。

出土遺物 764~766はV期からVI期の甕A類口縁部片、763はVI期高坏である。

時期 出土遺物からは時期を検討することは困難であるが、重複するSB014よりも先行することから、V期後半であろうか。

SB014（遺構：図142・143、遺物：図220~223）

検出状況 A地区北東部に位置し、V層上面で検出した。IV層上面の水田遺構及びそれに関連する溝状遺構により東部から南部を削平されている。壁溝と思われる溝状遺構や、柱穴の可能性がある小穴

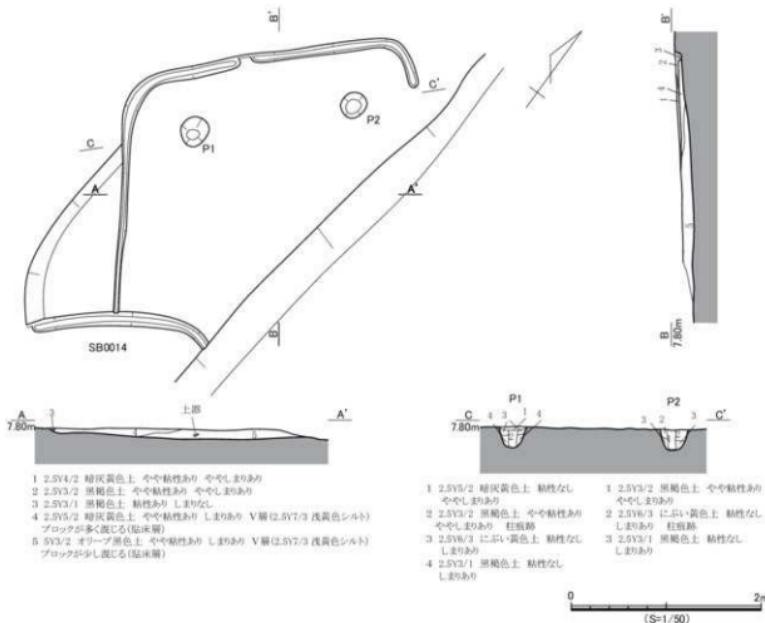


図141 SB013遺構図

を確認したことから壁穴住居跡と判断した。遺構の重複関係から北側のSB013、南側のSB015よりも新しいと判断した。

形状 北西及び北東隅の形状から、方形もしくは長方形と思われる。壁面は北壁及び西壁の一部が、約0.1～0.15m残存していた。

埋土 壁溝を含めて10層に分層した。1層～6層は床面よりも上に堆積した埋土で、7・8層が壁溝、9・10層は床面形成のため、掘形を埋めた土層と思われる。

床面 床面は平坦でほぼ水平である。幅が0.12m～0.20mの溝状遺構が壁に沿って確認できたが、北壁中央で一部途切れる。床面では3基の小穴を確認したが、P1とP2が平面形との位置関係から柱穴と思われる。P3は、住居のほぼ中央に位置し、長軸長0.70m、短軸長0.65m、深さ0.15mの規模を有し、内部に高环や甕片を多量に含む。形状と位置から炉跡の可能性もあるが、炭や焼土は認められなかった。

遺物出土状況 北西部の床面から埋土中やP3から、まとまりのある土器群を検出した。特に北西隅においては、器台や高环と小型土器の4つの組み合わせ（A～D）が認められ、並べられたように出土した。A～Dの組み合わせは、それぞれ入れ子状となっていた。また、床面及び埋土中からも多量の土器が出土した。

出土遺物 767～777は、北西隅で出土した土器群である。768は器台B1b類で、受部が直線的に伸びる。770は高环F1類で、脚部はわずかに内湾傾向を据部にもつ。773は器台B3類とした¹⁾。写真で判別する限り、やや内湾傾向をもつ円錐状に開く脚部をもつと考えられる。777は器台B2a類で、若干内湾傾向が認められるが、脚裾部はあまり内湾せず、基部付近では直立する傾向がある。767は壺H3類で、短い口縁部をもち、胸部下半はミガキが及ばずケズリ調整をそのまま残す。口縁部には打ち欠きが認められる。776は壺J1類で、胸部下半はミガキがなく、やや粗雑なつくりである。772は脚付の鉢。半球状の胸部をもち、後述する771、775も類似する。771、775は鉢H類。775は底部中央、771は底部側面に穿孔（焼成前）がある²⁾。他に手捏ね土器769、774が認められる。769は高环を模していることは明らかだが、774は不明である。類似するものをあげると鉢C類であろうか。両資料ともに本来の形態を模倣した資料と考えられ、こうした資料は今回報告分ではこの2点のみである。768や770からVI-1期に相当する。

778～782、811はP3から出土した遺物である。778は高环B類脚部だが、おそらくB2b類もしくはB3類と考えられる。穿孔は2穿孔である。782は甕C3類。口縁部がやや直立するが、本来は強く外反する。荒々しいハケ目調整が顕著で、胸部最大径は中央付近に位置する。779は壺Hb類で、口縁部に沈線が認められる。781はタタキをもつ甕。平底で畿内V様式系の系譜をもつと考えられる³⁾。811は砂岩製の台石である。778から北西隅の土器群と同様に、VI-1期のものである。

1) 脚部を現地からの取り上げ作業から一次整理作業の過程において紛失した。

2) 平成21年度年報では柿田遺跡第40号住居跡出土の蓋を類例としたが、柿田遺跡例は1組2穿孔が1対。そして天井部に平坦面がある。しかし、771・775は、突出した底部、深さのある形態、組み合う器種は何かなど考慮すると蓋としての根拠に欠き、775のように底部中央穿孔の事例は鉢G類では通有である。以上のことから、鉢として報告する。

3) 豆谷和之氏など畿内の研究者からは、輸入品でもよいと指摘された。

783～791、812は床面上付近から出土したものとして、埋土中出土遺物とは分離できたものである。高坏坏部(784)、高坏脚部(785)、器台脚部(786・787)など破片資料が多い。787はV期の器台に類似する。788の蓋は口縁部端部を折り返す資料で今回報告分では1点のみの確認例である。789、791は甕A類で受口状口縁が痕跡的となり、口縁部の刺突文も消失した資料である。812は砂岩製の砥石である。789、791のような甕の時期判断は難しいが、北西隅の土器群と同じVI-1期としても矛盾はない。784、785の高坏の存在からほぼ同時期と考えてよいと思われるが、器台787はA1・A2類の脚部でV期前後の資料である。787のように明らかな混入資料も認められる。

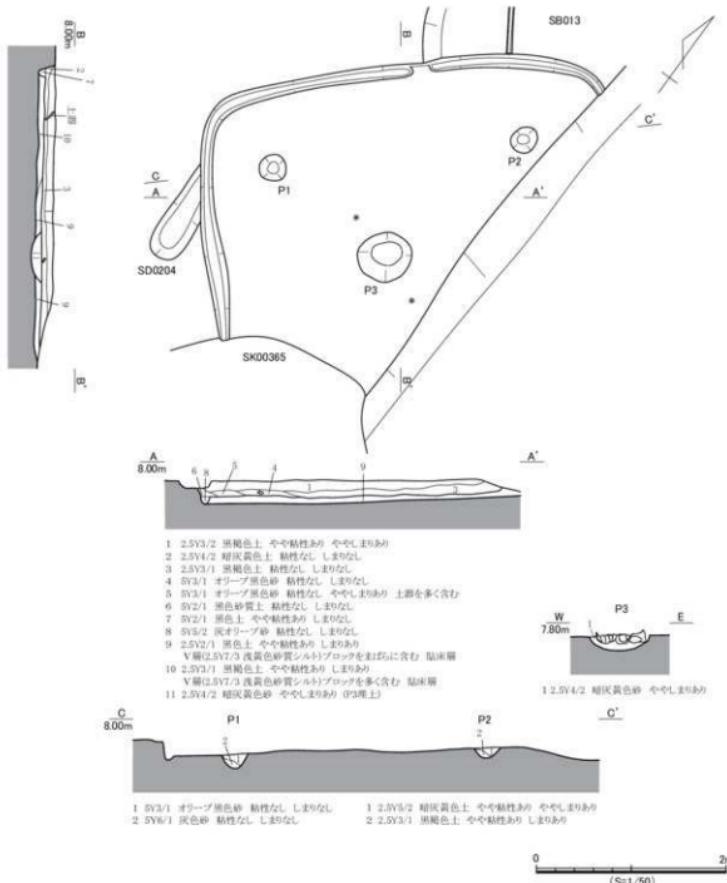


図142 SB014遺構図 (1)

遺物出土状況図

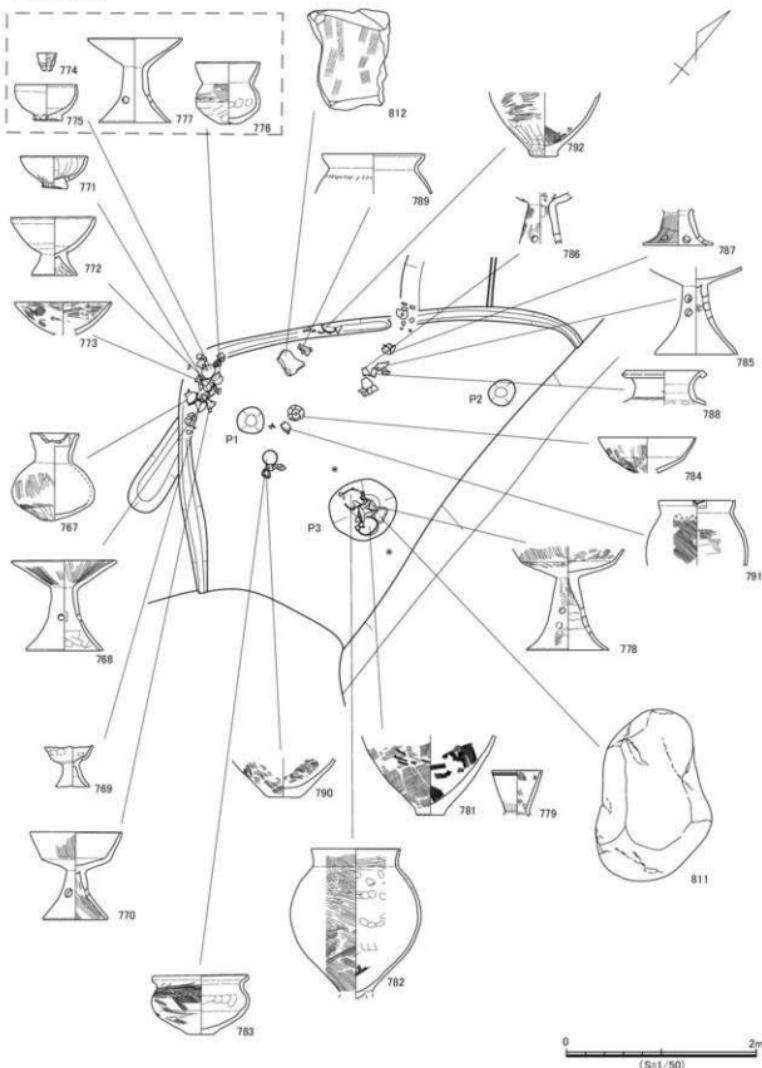


図143 SB014遺構図（2）

792～810は、床面からは浮いており、埋土中から出土したものである。鉢はA1類(798)とA2類(795)、A4b類(793)があり、口縁部が外反するものと受口状との2形態がみられる。798は摩耗が著しく、文様の有無は判断できない。796の鉢は突出した底部をもちタタキがみられる。799は脚部を欠損するものの高壺C1類の良好な資料。800も799に類似するが胎土が異なり、壺部が深いことから高壺I類とした。甕は口縁部片を中心とした抽出だが、A2類(806)、A3類(805)、A5類(804)、D1類(808)とバリエーションが豊富である。809の甕脚部には打ち欠きが認められる。792は781と同様、タタキをもつ甕である。高壺の799は、北西隅出土土器群と近い時期であると思われるが、IV期甕の807は混入資料である。

時期 北西隅から出土した土器群は、その出土状況から住居廃絶時の資料と思われ、一括性が高い。P3出土資料も、床面を掘り下げ、SB014埋土に覆われることから、住居使用時もしくは廃棄時の資料である可能性が高いと思われる。これらの土器により、VI-1期と思われる。

SB015（遺構：図144）

検出状況 A地区北東部に位置し、V層上面で検出した。IV層上面の水田遺構及びそれに関連する溝状遺構により西部の一部が残存するだけである。壁溝と思われる溝状遺構を確認したことから、堅穴住居跡と判断した。遺構の重複関係からは、SB014より古い時期に構築されたことが判明している。

形状 大半が削平されており、西辺に当たると思われる部分も、壁溝が若干蛇行することから、形状は不明である。壁面も最も残りの良い場所で0.06m残存するだけである。

埋土 2層に分層したが、壁面側から堆積が始まっている。

床面 床面は平坦でほぼ水平である。幅が0.12m～0.16mの溝状遺構が壁に沿っている。柱穴と思われるような小穴や炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の遺物が出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 出土遺物からは時期を検討することは困難であるが、重複するSB014よりも先行することから、V期後半であろうか。

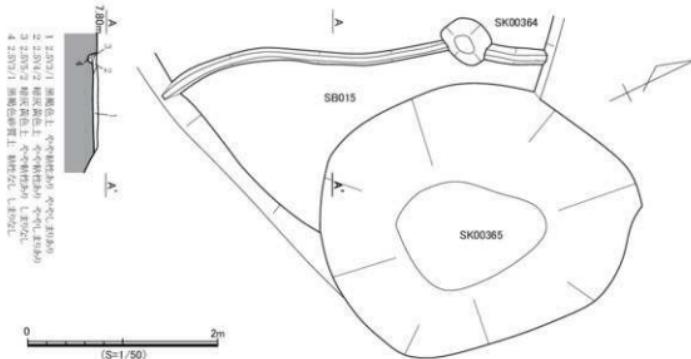


図144 SB015遺構図

SB016（遺構：図145、遺物：図224）

検出状況 A地区北東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平されている。遺構の南部分はSB017やSB018と重複し、当住居跡が先行することが判明している。この住居跡を北限とし、南側には住居跡群が密集する。V層上面では、北から東にかけての壁溝と埋土が、部分的に残存していただけであった。

形状 壁溝を北西から北東、南東において確認しており、方形に近い形状と思われる。壁面はほとんど残存しておらず、西から南西部については壁溝も残存していない。

埋土 2層に分層したが、壁面側から堆積が始まっていると思われる。

床面 床面は平坦で、床面上の北及び東隅において、P1とP2を検出した。どちらにも柱痕跡状の堆積を確認したことから、柱穴と思われる。しかし、西及び南には柱穴を確認できていない。西側はIV層上面の水田遺構に伴う溝状遺構により削平されている。また、炉跡についても確認できなかった。

床面は、厚さ0.06～0.10mの貼床で構成されており、これを除去したところ、さらにP3～P6を平面形の四隅で、P7をほぼ中央で検出した。東から南の壁溝内側には、L字形の溝状遺構を検出した。P3～P6は平面的な位置関係から、柱穴と判断した。P4～P6の土層では、柱痕跡状の堆積の上部を覆うような堆積があり、柱を抜かれた後に埋められたと思われる。P5の平面形は、底面が2つに別れており、2基の小穴が重複していた可能性がある。L字形の溝状遺構は、壺穴掘削時に溝状に深く掘り下げられたものと思われる。こうした掘削方法は、他の壺穴住居跡でも確認できるが、その場合は溝状の深い部分が四辺の内側を巡るのが一般的である。P7は、住居のほぼ中央に位置し、浅く平坦な底面を持つ（底面西側の小穴はSB017-P1）ことから、炉跡の可能性があるが、焼土や炭等は認められなかった。

こうした壺穴内部の遺構の状況から、床面上で検出したP1とP2を柱穴とする壺穴住居と、床面下で検出したP3～P6を柱穴とする壺穴住居の2時期が存在し、これらは柱穴位置は変えているものの、壺穴住居自体の平面形を変えていないと思われることから、建て替えを示すものと思われる。

遺物出土状況 埋土から少量の遺物が出土したほか、床面下で検出した遺構からも遺物が出土した。

出土遺物 図示した資料はすべてVI期後半である。口縫端部に刺突文をもつ甕A類（813・815・816）が多くを占め、他に高坪2b類（817）、高坪C3a類（818）が出土した。816と818はP7から、他はSB016埋土中出土である。高坪の817と818を比較検討すると、多重沈線の有無から818から817への時期差を想定できるが、それほど大きな時期差は認められない。

時期 埋土中から出土した高坪（817・818）からVI期後半と思われる。重複するSB017がVII-1期、SB018がVII期と思われることからこれらよりも古くなる。

SB017（遺構：図146、遺物：図224）

検出状況 A地区北東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平されている。SB016やSB018、SB019と重複しているが、SB017よりもSB016が古く、SB018、SB019が新しいことが判明している。なお、西隅部は、IV層上面の水田遺構に関係する溝状遺構により削平されている。

形状 西隅部が削平されているが、長軸長4.11m、短軸長4.05mとほぼ方形で、壁溝を含めない壁の

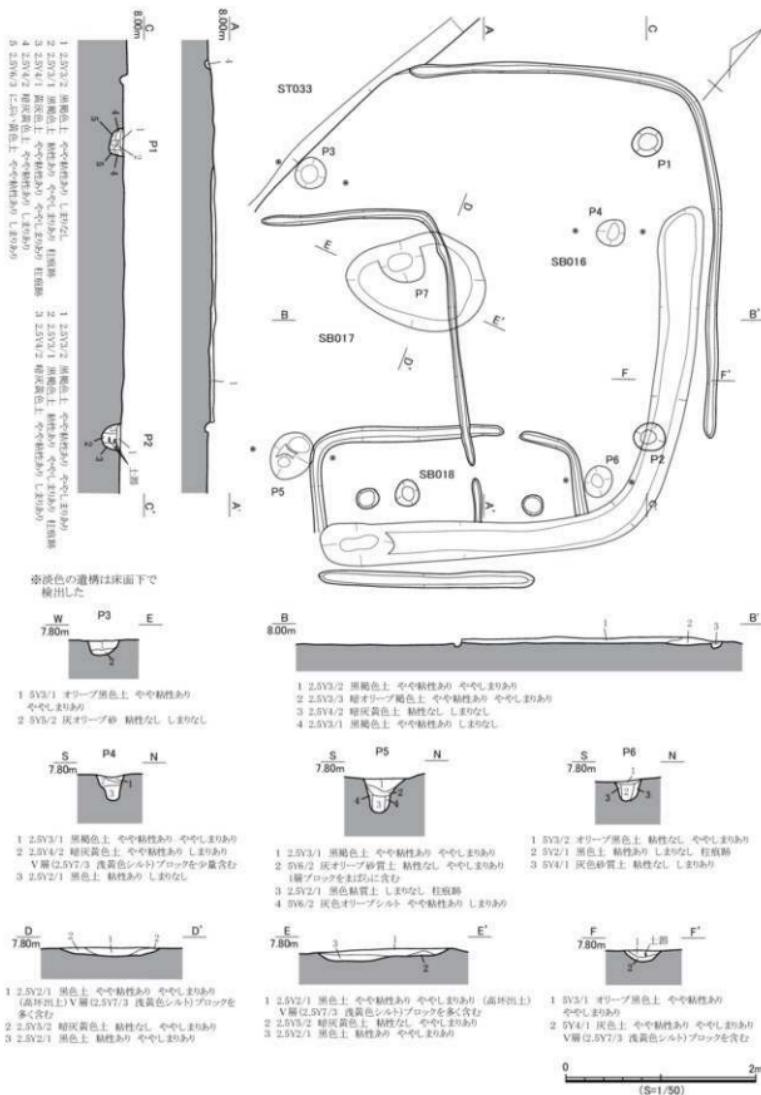


図145 SB016道構図

深さは、最も残存状態のよい北西側壁面でも0.05mが残存するに過ぎない。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 埋土は4層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。なお、床面を形成するために、厚さ0.09~0.13mの貼床状の整地層がある。

床面 床面は平坦でほぼ水平である。床面からは、P1~P3の3基の小穴を確認したが、平面的位置関係と、P2とP3に柱痕跡状の堆積があることから柱穴と思われる。また、西隅部はIV層上面の溝状構造により削平されているため、柱穴も残存していないと思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から遺物が出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 830はIV期の甕で、混入資料と思われる。823と828は甕A類でV期と思われる。他は断片的な資料であるが、VI期後半前後と思われる。819は鉢A3a類、820は脚付の鉢で丁寧なミガキがある。

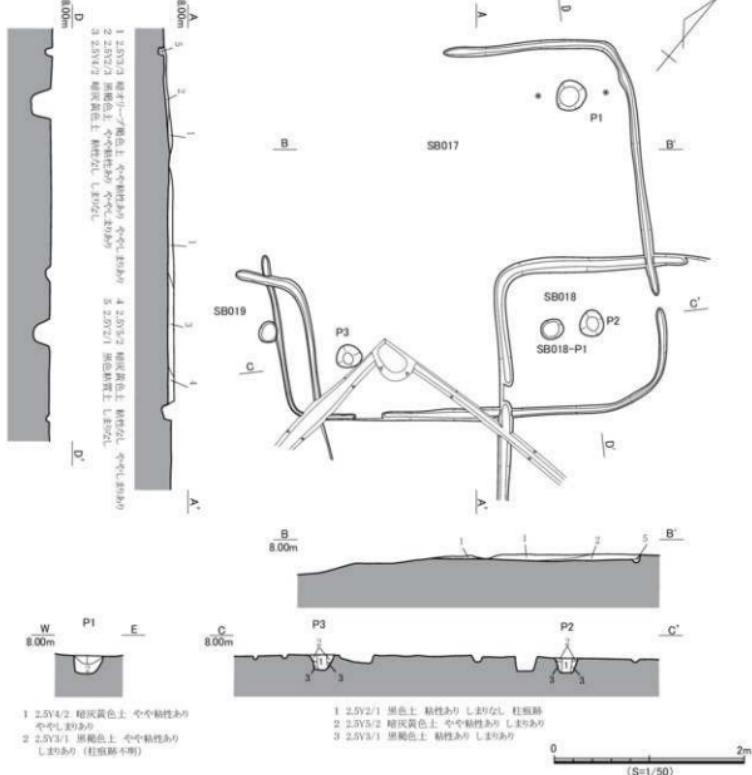


図146 SB017遺構図

脚付鉢の類例はSB014（772の土器）でも出土しているが、胴部が半球状ではなく、口縁部が屈曲して外反する。中型の甕F4類（826・827）は口縁部に雑なハケ調整が残る。

時期 出土した土器からはVI期後半前後と思われるが、SB016との重複関係からVII-1期とする。

SB018（遺構：図147、遺物：図224）

検出状況 A地区北東部の竪穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平されている。SB016やSB017と重複しているが、SB018が新しいことが判明している。なお、東隅部は、IV層上面の水田遺構に関する構状遺構により削平されている。

形状 東隅部が削平されているが、長軸長3.60m、短軸長3.52mとほぼ方形で、壁溝を含めない壁の

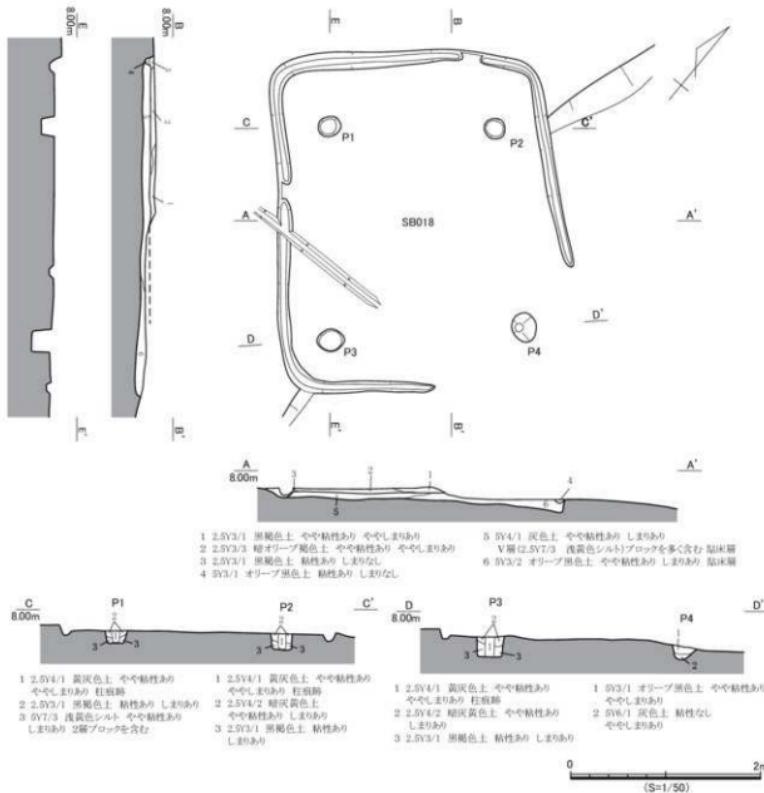


図147 SB018遺構図

深さは、最も状態のよい北西側壁面でも、わずかに0.05mが残存するに過ぎない。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 埋土は、壁溝埋土を含めて6層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。3・4層から壁溝埋土、5・6層が床面形成のため掘形を埋めた土層と思われる。

床面 床面は平坦であるが、南東に向かってわずかに下がる。四隅にP1～P4の4基の小穴を確認したが、平面的な位置関係とP1～P3に柱痕跡状の堆積があることから柱穴と思われる。炉跡は確認できなかつた。

遺物出土状況 埋土中から遺物が出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 835は、IV期の甕で混入資料と思われる。831はVI期からVII期の壺A3d類で、内面に羽状文がみられる。832と833はVI期からVII期の甕脚部で、833は接合部が厚い。834はVI期からVII期の甕胴部片を転用した加工円盤と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB017よりも新しいことから、VII-2期と思われる。

SB019（遺構：図148、遺物：図225）

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平されている。SB017やSB020と重複しているが、SB019が新しいことが判明している。なお、西隅部は、IV層上面の水田遺構に関係する構造遺構により削平されている。

形状 西隅部が削平されているが、長軸長3.52m、短軸長3.47mとほぼ方形で、壁溝を含めない壁の深さは、最も残存状態のよい南東側壁面で0.1mである。壁の断面形はほぼ垂直である。

埋土 壁溝埋土を含めて6層に分層したが、3・4層が壁溝埋土、5・6層が床面形成のため掘形を埋めた土層と思われる。住居内に堆積した埋土は、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦であるが、東に向かってわずかに下がる。壁溝は、北東部で途切れるが、他はほぼ壁面に沿って確認できた。四隅にP1～P4の4基の小穴を確認したが、平面的な位置関係とP1、P2、P4に柱痕跡状の堆積があることから柱穴と思われる。炉跡は認められなかつた。

遺物出土状況 埋土中から少量の遺物が出土した。

出土遺物 VI期からVII期の高坏(836)、壺(837)、甕(838)の3点を図示したが、断片的資料である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB017やSB020よりも新しいことから、VII期後半と思われる。

SB020（遺構：図149、遺物：図225）

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部及び南東部は削平されている。西側のSB019と重複しているが、SB020が古いことが判明している。

形状 南東部が削平されているが、残存する辺は3.21mで、壁溝を含めない壁の深さは、最も残存状

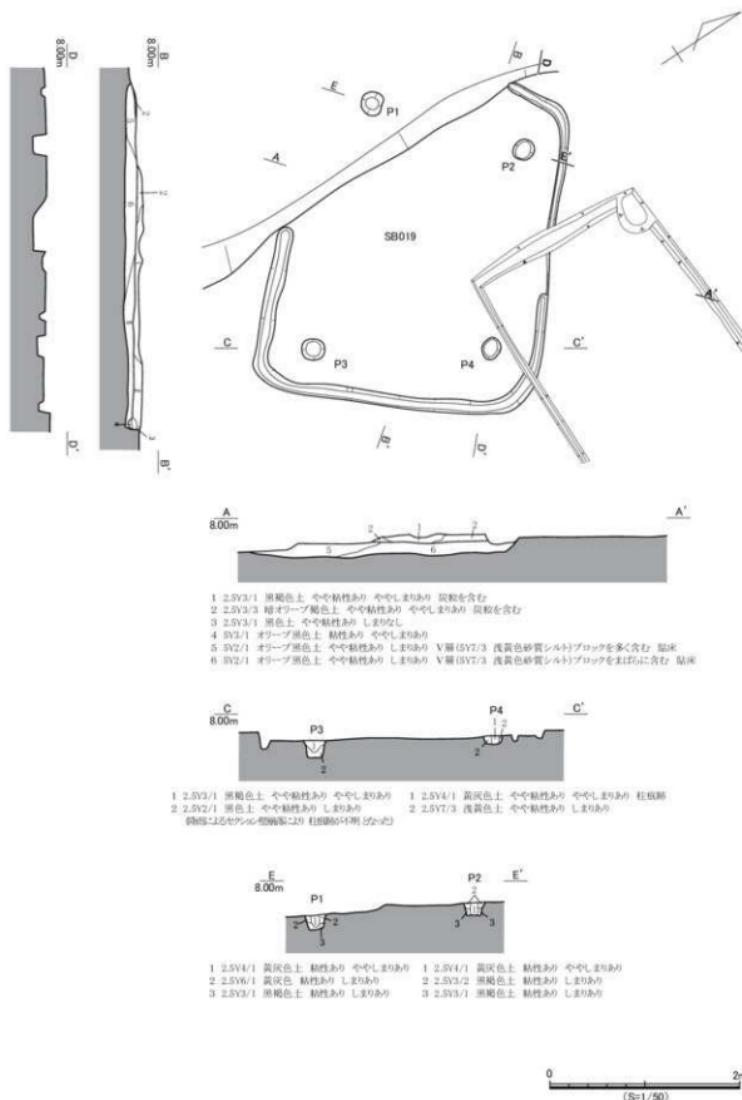


図148 SB019造構図

態のよい北西側壁面で0.05mである。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 壁溝埋土を含めて4層に分層したが、3層が壁溝埋土、4層が床面形成のため掘形を埋めた土層と思われる。住居内に堆積した埋土は、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦であるが、南東に向かってわずかに下がる。壁溝は幅0.1m前後で、北隅近くで途切れるが、他はほぼ壁面に沿って確認できた。北と西の隅部にP1とP2の2基の小穴を確認したが、平面的な位置関係と柱跡状の堆積があることから柱穴と思われる。炉跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の遺物が出土した。

出土遺物 VI期後半前後の資料6点を図示した。時期決定資料は認められず、高坏D2類(840)が参考資料となる可能性がある。その一方で、甕(839・843)、壺(841)の資料は840より時期が先行する可能性がある。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB019よりも古いことから、VI期の中でも新しい段階と思われる。

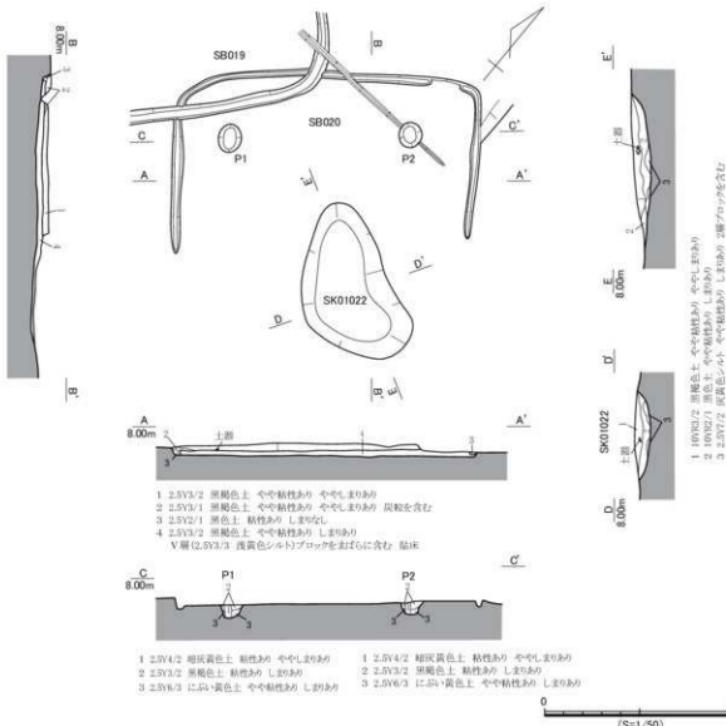


図149 SB020遺構図

SB021 (遺構: 図150、遺物: 図225)

検出状況 A地区北東部の豊穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南に向かって緩やかに下る傾斜地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によつて遺構上部は削平され、南東部は調査区外に広がる。SZ009と重複しているが、SB021が古いことが判明している。

形状 南東部は調査区外となるが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した北西辺は、上面で4.10mを測る。壁溝を含めない壁の深さは、残りのよい北側で0.1mほどである。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 4層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面全面にわたって、厚さ0.06mの貼床が住居床面のほぼ全面に確認できた。床面は、埋土と比較して全体にやや硬化している。床面上には、一辺5mm前後の炭粒が住居床面の全面に散布していたが、炉跡は認められなかった。P1～P3の小穴を3基確認したが、平面的な位置関係からP1とP2が柱穴と思われる。壁溝は各辺に沿つて、断続的に検出した。

遺物出土状況 埋土中から土器細片が多く出土した。

出土遺物 5点を示したが、847・848は、混入資料と思われるIV期の甕である。845は手焙形土器の

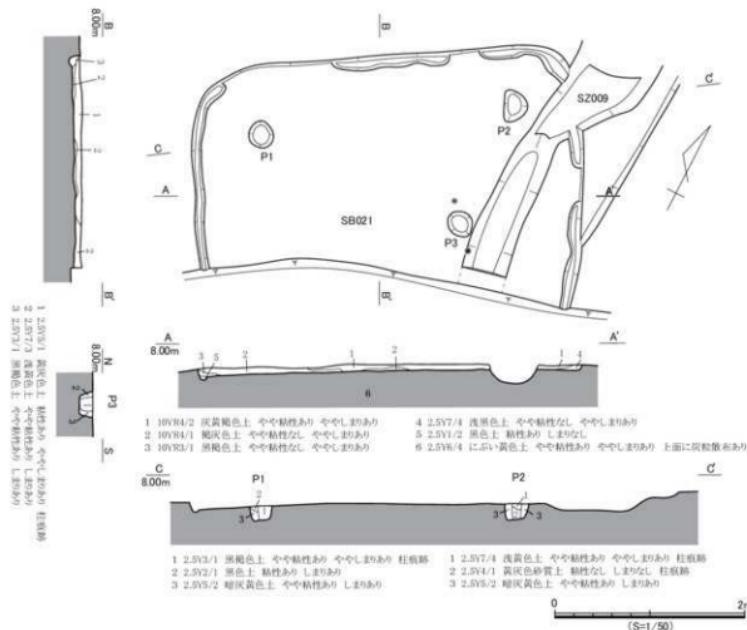


図150 SB021遺構図

破片である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SZ008の周溝が埋没した後に構築されている。周溝の埋没時期がVI期であることが判明しているので、SB021の年代上限もVI期であったと判断し得る。SZ008周溝埋没後に構築されたSB022も同様である。その後、SB021及びSB022を破壊して、SZ009が構築されている。

SB022（遺構：図151、遺物：図225）

検出状況 A地区北部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南東に向かって緩やかに下る緩やかな傾斜地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平され、南部は調査区外に広がる。SZ009、SZ010によって南西辺と北東辺が削平されている。

形状 南部は調査区外となるが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した北西辺は、上面で3.73mを測る。壁溝を含めない壁の深さは、北側で0.08m、西側で0.12m、東側で0.05m

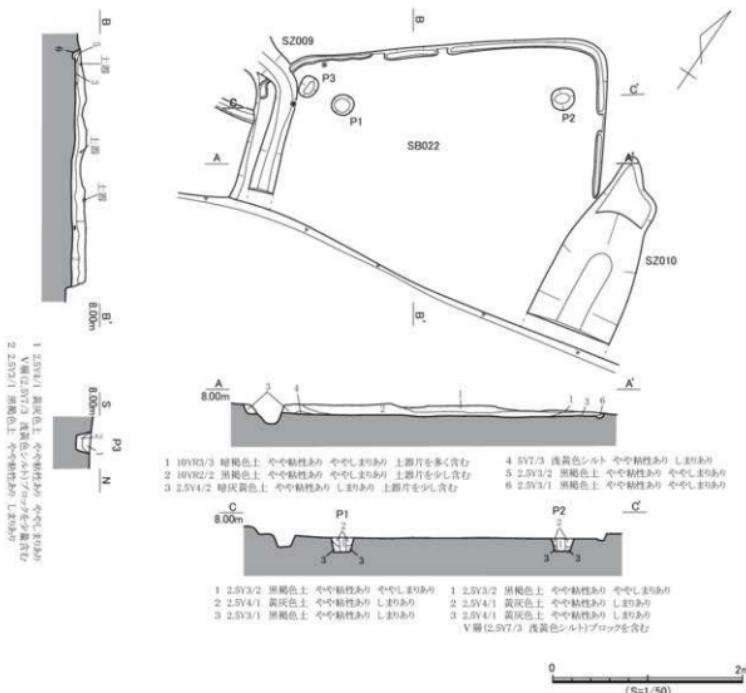


図151 SB022遺構図

ほどである。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 5層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦であるが、南東に向かって緩やかに下る。床面は基本的に貼床・炉跡ともに認められなかったが、床直下から検出された4号方形周溝墓の東側溝には、厚さ数cmの整地土が入れられていた。住居を構築するにあたり、整地土を入れて地形としたものと判断し得る。P1～P3の小穴を3基確認したが、柱痕跡状の堆積と平面的な位置関係から、P1とP2が柱穴と思われる。壁溝は各辺に沿って、断続的に検出した。

遺物出土状況 埋土中から比較的多くの遺物が出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 855は甕E2a類だが、細片である。その他の資料も大きな時間差はないと考えられるが、破片資料ばかりである。図示した土器はVI期後半前後と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB021と同様に方形周溝墓との重複関係からVI期と思われる。

SB023（遺構：図152、遺物：図225）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平され、西半部は調査区外に広がる。SD0167によって南東隅が削平される。

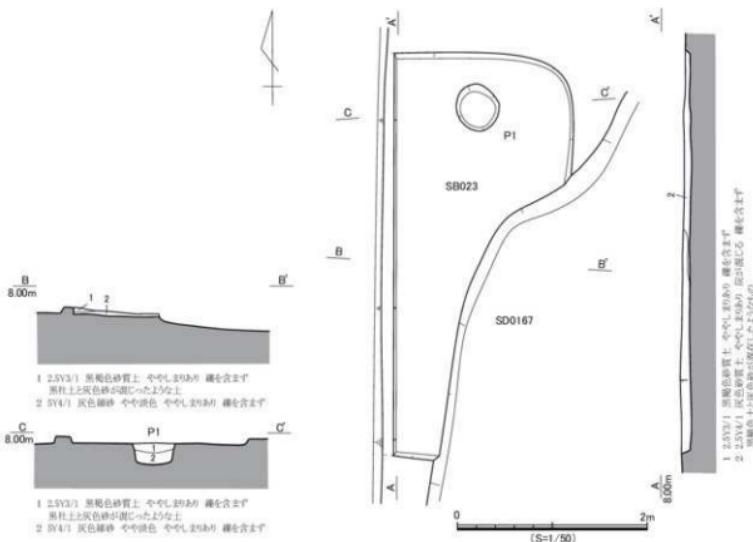


図152 SB023遺構図

形状 西半部は調査区外となるが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した南北長は4.30mである。壁面の断面形は急傾斜を呈し、深さは南側壁面で0.1mである。

埋土 2層に分層した。緩やかな傾斜の高い北側から堆積している。

床面 床面は平坦で、東に向かってわずかに下がる。床面には貼床及び炉跡や壁溝は確認できなかつた。北西隅でP1を検出したが、平面的な位置関係から柱穴と思われる。

遺物出土状況 埋土中から遺物が出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 3点の土器を図示した。859は高环脚部片、860は壺の口縁部片である。861は甕であるが、摩耗が著しく、ハケ目調整の痕跡が滅失している。859、861はVI-1期前後に相当する。

時期 出土した遺物からはVI-1期が考えられるが、破片資料であり時期決定は困難である。

SB024（遺構：図153、遺物：図226）

検出状況 A地区東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平され、西半部は調査区外に広がる。SB025やSB027と重複するが、SB024が新しいと判断した。

形状 西半部は調査区外となるが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した南北長は3.20mである。壁溝を含めない壁の深さは、南側壁面で0.08mである。壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面はほぼ平坦で、5基の小穴を検出した。このうち平面的な位置関係から、P1とP2を柱穴と判断した。壁溝は検出した壁に沿って確認した。

遺物出土状況 埋土中から遺物が出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 865はIV期の甕で、混入資料と思われる。862はVI期の甕E1b類の口縁部片である。863は摩耗が著しく、ハケ目調整の痕跡が滅失している。864は手捏ね土器で1/2程度が残存する。

時期 出土した遺物からはVI期が考えられるが、SB025との重複関係からはVII期後半と思われる。

SB025（遺構：図154、遺物：図226）

検出状況 A地区東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって遺構上部は削平されている。西側の一部はSB024と重複しており、SB024が新しいと判断した。ただし、南西部については、当初の遺構検出作業時に遺構の誤認をしており、部分的に掘り下げてからそのことが判明した。

形状 方形住居跡の北西隅部付近以外を確認した。住居跡の規模は、南北方向の上面で3.40m、東西方向の上面で3.18mを測る。壁面は周壁溝底面から強く立ち上がり、壁溝を含めない壁の深さは、東側壁面で0.1mを数え、壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦で西に向かって緩やかに下がる。貼床や炉跡は認められなかつたが、床面で3基の

小穴を検出した。平面的な位置関係や、P1とP3に柱痕跡状の堆積があることから、P1～P3は柱穴と思われる。北西隅から西壁及び南壁の一部では、壁溝は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から遺物が出土し、高坏脚部(870)が床面近くで出土している。また、柱穴と思われるP3からも台付甕(866)の体部下半が出土した。

出土遺物 P3から出土した866は、口縁部から胴部上半を欠損するが、甕E2類と考えられる。甕E2類は、摩耗した口縁部片だが874がある。868は高坏C3類、870は高坏D2類で、866とはほぼ同じ時期と思われ、VII-1期と思われる。876はIV期の甕、872はV期の資料である。

時期 床面近くから出土した土器やP3出土土器からVII-1期と思われる。

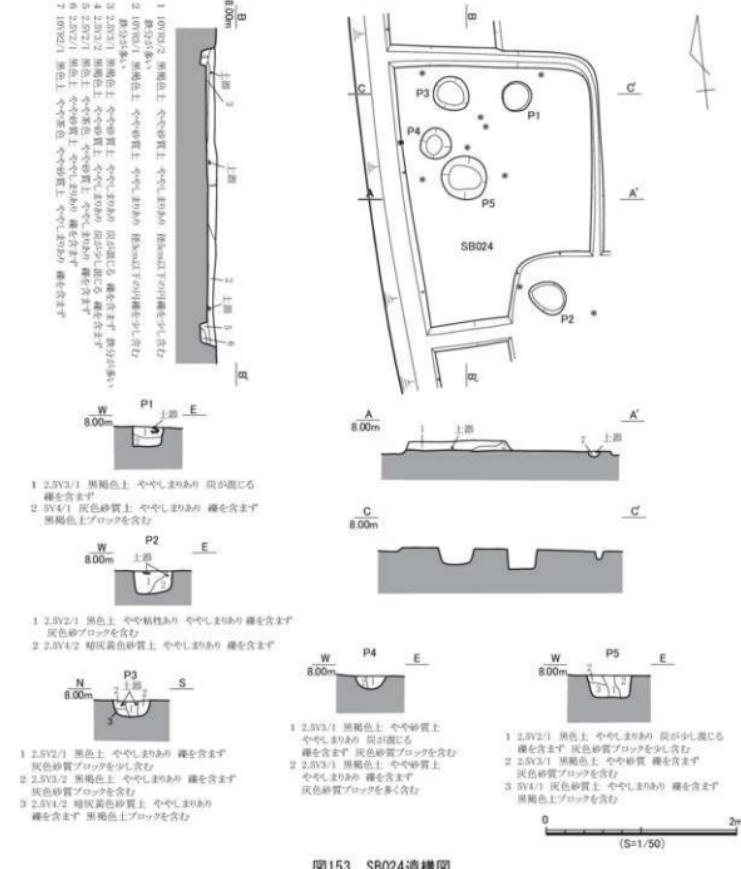


図153 SB024造構図

SB026（遺構：図155、遺物：図226・227）

検出状況 A地区東部の竪穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構やSD0164によって、遺構上部及び東半部は削平されている。

形状 東半部はSD0164によって削平されているが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した南北長は4.36mである。壁溝を含めない壁の深さは、東側壁面で0.11mを測り、壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 壁溝埋土を含めて4層に分層したが、4層は床面形成のため掘形を埋めた土層と思われる。

床面 南西及び北西隅に小穴を1基ずつ検出したが、平面的な位置関係から柱穴と思われる。検出した壁に沿って溝を確認した。

遺物出土状況 埋土中から多くの遺物が出土し、床面から高坏(877)が出土した。

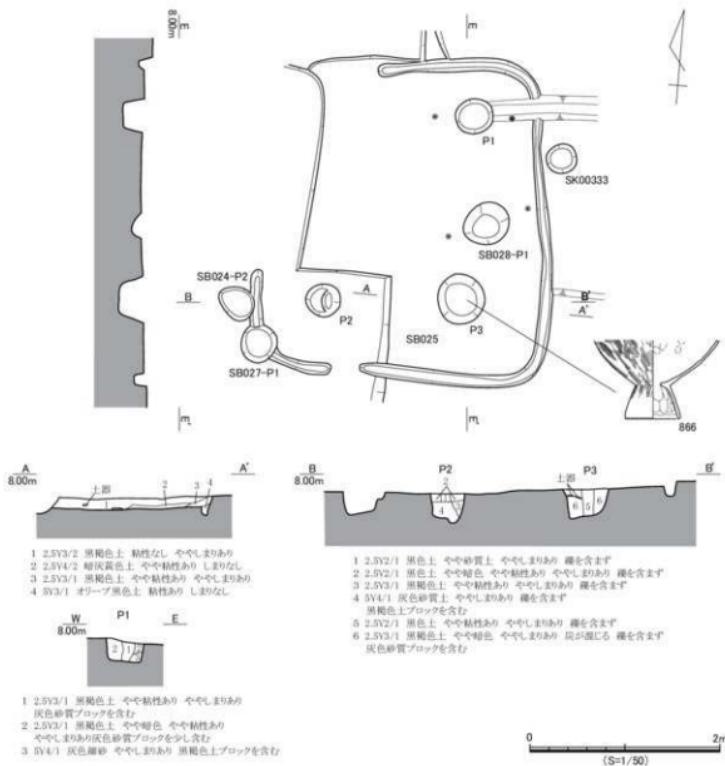


図154 SB025遺構図

出土遺物 877は高坏で、口縁部を欠損するが、おそらく878のように内面加飾のある高坏の可能性が高い。その他の高坏879～882も類似資料で、C3類となる可能性がある。887は甕E2b類である。884は壺A1類だが口縁端部装飾がなく、つくりが粗雑で877と同時期でも矛盾がない。883はやや小型の器台で、丁寧にミガキが施される。888は混入資料で、IV期の壺である。

時期 高坏を見る限り、床面から出土した資料と埋土出土資料は同時期と考えられる。このため出土土器からVII-1期と思われる。

SB027（遺構：図156、遺物：図227）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構やSD0167によって、遺構上部は削平されている。また、西部は調査区外となる。北部ではSB024と重複するが、SB024が新しいと判断した。また、北東部でSB025とも重複し、これについては当初SB025が新しいと考え調査していたが、SB025南西隅の壁溝を切る小穴が、SB027の柱穴と考えられたことから、SB027が新しいと最終的に判断した。

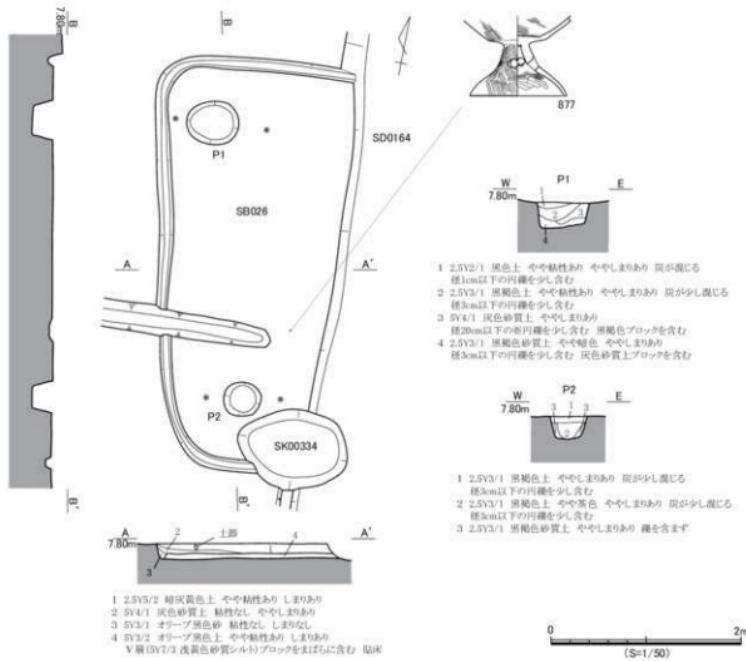


図155 SB026遺構図

形状 西部は調査区外となるが、検出した形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した南北長は3.72mである。壁溝を含めない壁の深さは、南側壁面で0.02mであり、壁の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 単層であるが、非常に薄く残存しているのを確認した。

床面 床面はほぼ水平である。炉跡は認められなかったが、2基の小穴を検出した。P1とP2は、平面的な位置関係から柱穴と思われる。壁溝は、西壁の一部がSD0167によって確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から遺物が少量出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 889はP1から出土した甕F4類である。891はIV期の壺と考えられる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB024よりも古く、SB025よりも新しいと考えられることからVII期前半と考えておく。

SB028（遺構：図157、遺物：図227）

検出状況 A地区東部の竪穴住居跡が密集する場所に位置する。南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構やSD0167

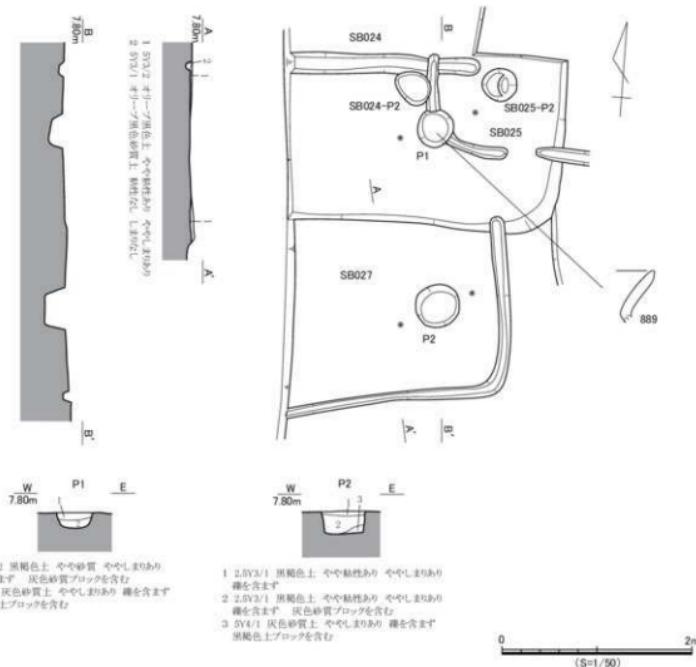


図156 SB027遺構図

によって、遺構上部は削平されている。北部ではSB025やSB026と重複するが、SB028が古いと判断した。

形状 北半部の形状は不明であるが、検出した南半部の形状から方形もしくは長方形と思われる。検出した東西長は4.30mである。壁面の深さは南側壁面で0.04mを数え、断面形は急傾斜を呈する。

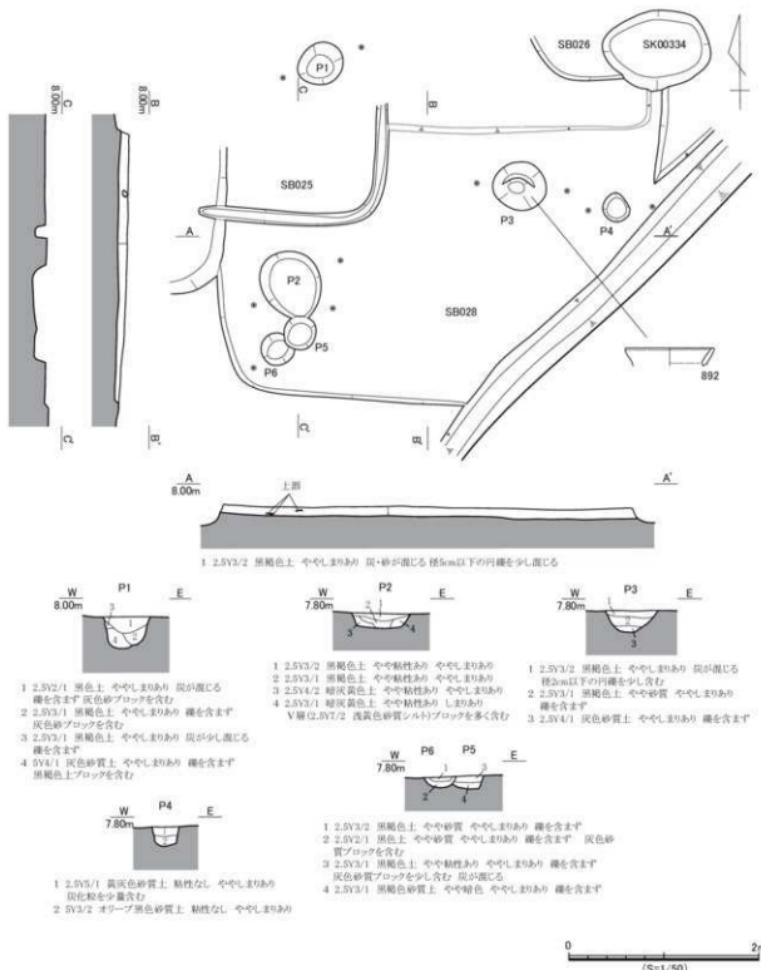


図157 SB028遺構図

埋土 単層であった。

床面 床面は平坦で、南東に向かってわずかに下がる。床面に炉跡は認められなかつたが、6基の小穴を検出した。このうち平面的な位置関係からP1とP2もしくはP5が柱穴と思われる。

遺物出土状況 墓土中から遺物が少量出土しているが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 892は壺C類の口縁部片、894は器台A類と考えられる。893はP3出土の壺A3c類である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB025やSB026よりも古いことから、VI期後半と考えておく。

SB029（遺構：図158）

検出状況 A地区中央部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構やSB030によって、遺構上部は削平されている。南西隅の一部を検出しただけで、他は調査区外となる。SB030の床面で確認しており、これよりも古いたと判断した。

形状 検出した部分の形状から方形もしくは長方形と思われる。壁面の断面形は急傾斜を呈し、深さは0.14mである。

埋土 2層に分層した。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかつたが、小穴を1基検出した。平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から柱穴と思われる。

遺物出土状況 墓土中から少量の土器片が出土したが、図示できるものはなかつた。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり時期不明である。

SB030（遺構：図158、遺物：図227）

検出状況 A地区中央部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。南隅の一部を検出しただけで、他は調査区外となる。SB029と重複しているが、これよりも新しいと判断した。

形状 検出した部分の形状から方形もしくは長方形と思われる。壁面は壁溝を含めて0.07mが残存するだけであった。

埋土 非常に薄く残存するだけで、単層であった。

床面 炉跡は確認できなかつたが、小穴を1基とL字形に壁溝を検出した。P1は平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積があることから柱穴と思われる。

遺物出土状況 墓土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 895は鉢、896と897は高杯である。896は高杯H3類であろう。VI期からVII期のものと思われる。898はチャート製の石鏃である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり時期不明である。

SB031（遺構：図158）

検出状況 A地区中央部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V

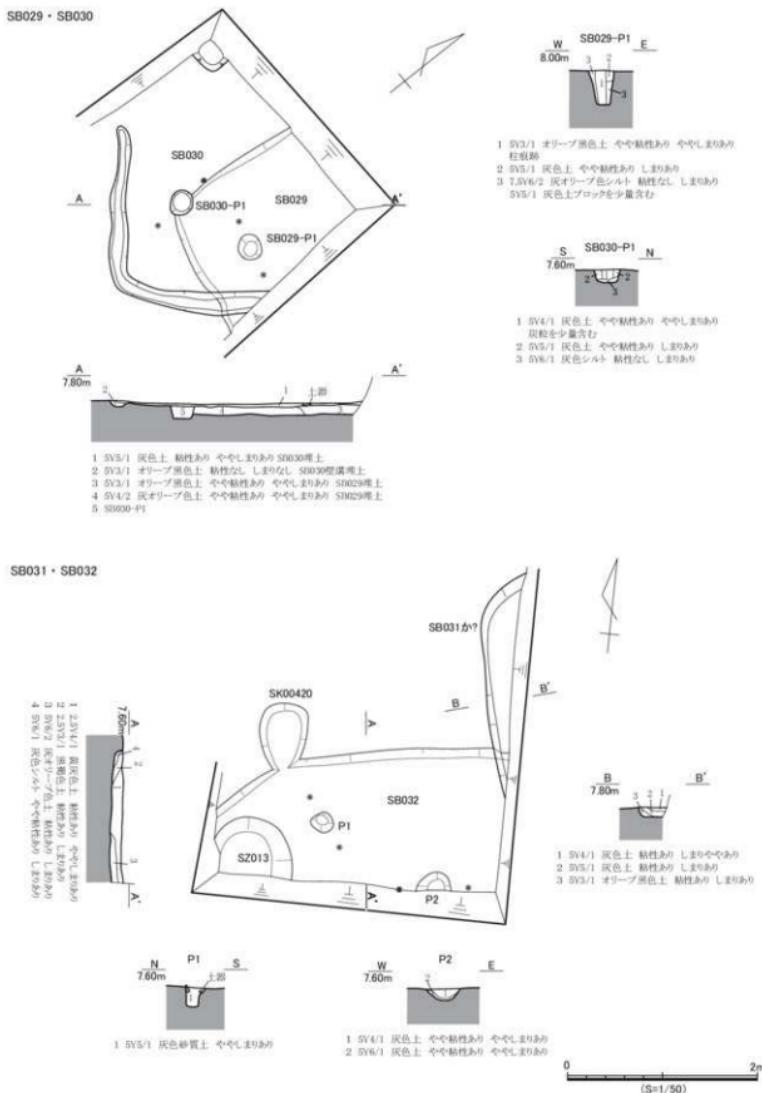


図158 SB029・SB030・SB031・SB032造構図

層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北西隅の一部を検出ただけで、大半は調査区外となる。SB032と重複しているが、これよりも新しいと判断した。検出時は、大型の土坑と判断したが、遺構掘削の結果、底面が平坦であり、調査区東側の壁面に周壁溝の痕跡が認められたため、壁穴住居跡と判断した。

形状 検出した部分の形状から方形もしくは長方形と思われる。壁面の深さは0.1mで、壁面の断面形は床面近くは緩やかで、遺構上面近くで垂直に近くなる。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 調査区東側壁面の観察において、住居壁面下にV層を0.05mほど掘り下げた壁溝の痕跡を確認した。本来は、住居壁面の底面を巡っていたと考えられる。柱穴や炉跡などは確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示できるものはなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、重複するSB032がⅦ-2～3期と思われるところからそれよりも新しくⅧ期か。

SB032（遺構：図158、遺物：図227）

検出状況 A地区中央部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北部の一部を確認ただけで、大半は調査区外である。

形状 大部分が調査区外であるが、北辺部が直線的であること、北西隅部がわずかに確認できることから、方形もしくは長方形の平面形を呈する住居と考えられる。壁面の深さは0.12mで、壁面の断面形は緩傾斜を呈する。

埋土 4層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面はほぼ水平で、貼床、床面の硬化面、床面上の炭化物の散布、炉跡は認められなかつたが、小穴を2基検出した。このうちP1を平面的な位置関係から柱穴の可能性があると思われる。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 899は高杯D1d類で、多条沈線と連弧文をセットにした文様帶が3帯認められる。900は土製品で、断面形は細長く、上から見ると偏平に伸びる紐をもつ。側面には2孔1組の穿孔が1対認められる。何か小型の精製品の蓋と考えられる。いずれもⅦ-2～3期のものと思われる。

時期 出土した遺物からは、Ⅶ-2～3期の可能性が考えられる。

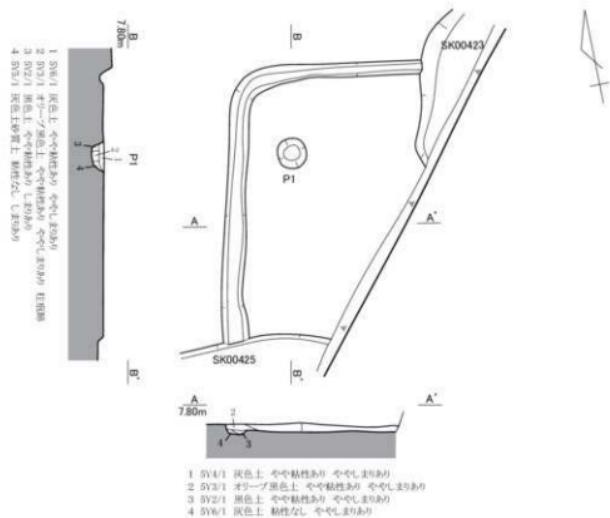
SB033（遺構：図159、遺物：図227）

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北西部の一部を確認ただけで、大半は調査区外である。

形状 大部分が調査区外であるが、北西隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁溝を含めない壁面の深さは、最も残存状態の良い西側壁面で0.06mである。壁面の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 2層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

SB033



SB034

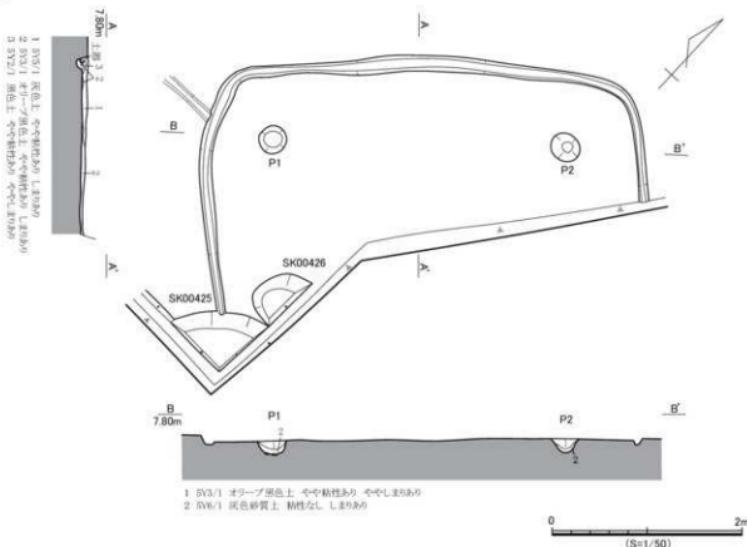


図159 SB033-SB034造構図

床面 床面は平坦で水平である。炉跡は認められなかったが、小穴を1基検出した。平面的な位置関係からP1は柱穴と思われる。北から西壁にかけて、壁溝を検出した。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 9点を図示したが、そのうち高坏が4点(902~905)を占める。高坏B1a類、B3類(902、903)、C2類(904)、F類(905)が認められる。907は壺A3d類で、口縁部内面に横羽状文が施される。出土した高坏はVI期後半からVII期の時期幅がある。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期後半頃であろうか。

SB034 (遺構: 図159、遺物: 図228)

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北西部を確認しただけで、南東部は調査区外である。

形状 1/2程度が調査区外であるが、北西隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の傾斜は急で、周壁溝を含めない深さは、最も残存状態のよい北西側壁面で0.06mである。

埋土 2層に分層した。

床面 床面は平坦であるが、南東に向かってわずかに下がる。床面に炉跡は認められなかったが、2基の小穴を検出した。P1とP2は、平面的な位置関係から柱穴と思われる。壁溝は、壁面に沿って検出した。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 913は小型品の壺E1a類で、口縁端部に刺突文がみられる。912は口縁部や直線的に伸びる壺B2類。911は壺A3c類で、口縁部内面には横羽状文が認められる。910は器台B1類。4点とも埋土出土資料だがVI期後半の資料と考えられる。914は砂岩製の叩石類である。915は砂岩製の砥石で、砥面に強い光沢をもつ。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期後半頃であろうか。

SB035 (遺構: 図160・161、遺物: 図228・229)

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。南部の1/3程度を確認しただけで、中央から北部は調査区外となる。

形状 2/3程度が調査区外であるが、南部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁溝を含めない壁面の深さは、最も残存状態のよい東側壁面で0.09mである。壁面の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦で床面には厚さ0.04~0.06mの貼床を確認した。床面に炉跡は認められなかったが、4基の小穴を検出した。P1とP2は、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積があることから柱穴と判断した。壁溝は、壁面に沿って検出した。なお、貼床層を除去した後、壁面の内側に1.1m~1.2m程の溝

状の掘形及び、P5を検出した。こうした床下構を持つ堅穴住居跡は、他にも認められる。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したほか、東壁寄りの床面上において、甕が2個体出土した。

出土遺物 916は胴部資料だが、おそらく甕E2類であろう。917も甕E2b類で、そのなかでも口縁部の屈曲が鈍化していることから新しい段階の資料と考えられる。916・917はVII-1期の資料と思われる。甕の口縁部資料中(919~922、924)にはA3類(919、920、924)が含まれ、VII-1期より先行する資

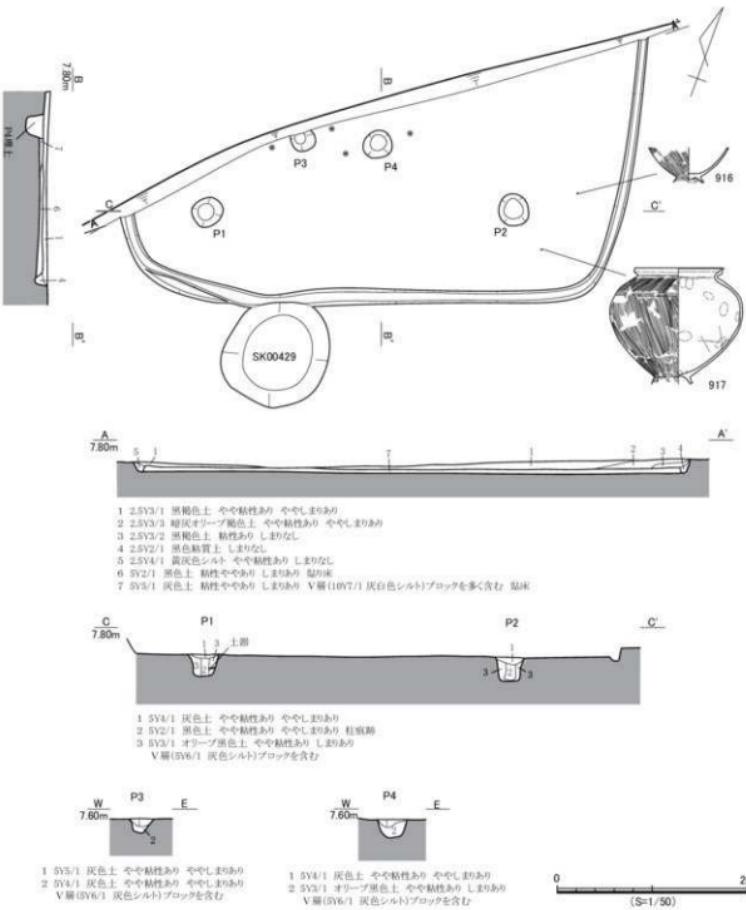


図160 SB035遺構図(1)

料が含まれる。壺A3e類（927、928）や甕C4類（935）はVII-2期前後の資料であろう。927、928ともに棒状浮文をもち、928は内面に横羽状文が認められる。936は貼床下の溝状掘形から出土した柱材である。柱上部は欠損し、底部は横方向に削り、やや丸く仕上げる。

時期 床面直上から出土した916・917を時期決定資料として、VII-1期と思われる。

SB036（遺構：図162、遺物：図229）

検出状況 A地区北東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲は南に向かってわずかに傾斜する平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北西部及び南部が調査区外となる。北西部分でSB035と重複するが、SB036が古いと判断した。

形状 一部調査区外であるが、北東隅部や東西の壁面の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁溝を含めない壁面の深さは東側壁面で0.10mである。壁面の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 2層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 面は平坦で水平ある。貼床や炉跡は認められなかつたが、小穴を2基検出した。P1は平面的な位置関係から柱穴と思われる。壁溝は確認した東西の壁面に沿って検出したが、東壁溝は北壁に至るところで途切れるようである。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 受口状口縁の退化形態をもつ鉢や甕類（938～940）がみられる。すべてVI期のものと思わ

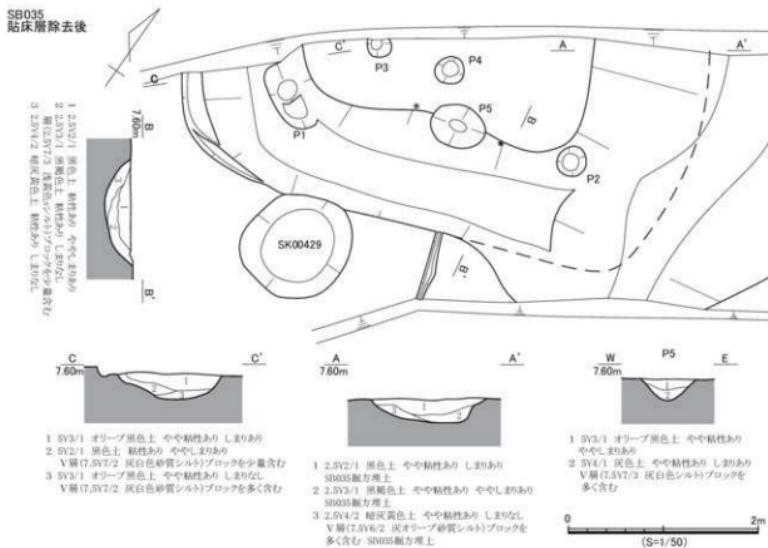


図161 SB035遺構図（2）

れる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB035よりも古いことからVI期と思われる。

SB037（遺構：図163、遺物：図229）

検出状況 A地区北東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲はほぼ平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北西部及び南東部が調査区外となる。

形状 一部調査区外であるが、南北3.80m、東西4.69mの長方形となる。壁溝を含めない壁面の深さは北側で0.11m、東側で0.08mである。壁面の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 2層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦であるが、東に向かってわずかに傾斜する。炉跡は確認できなかったが、床面から厚さ0.06m前後の貼床と、小穴を2基検出した。P1とP2は平面的な位置関係から柱穴と思われる。なお、堅穴外であるが、柱痕跡状の堆積が確認できるSP0064を検出した。SB037との関係は不明である。壁溝は、北から東壁ではほぼ壁面に沿って検出したが、西及び南壁では断続的であった。

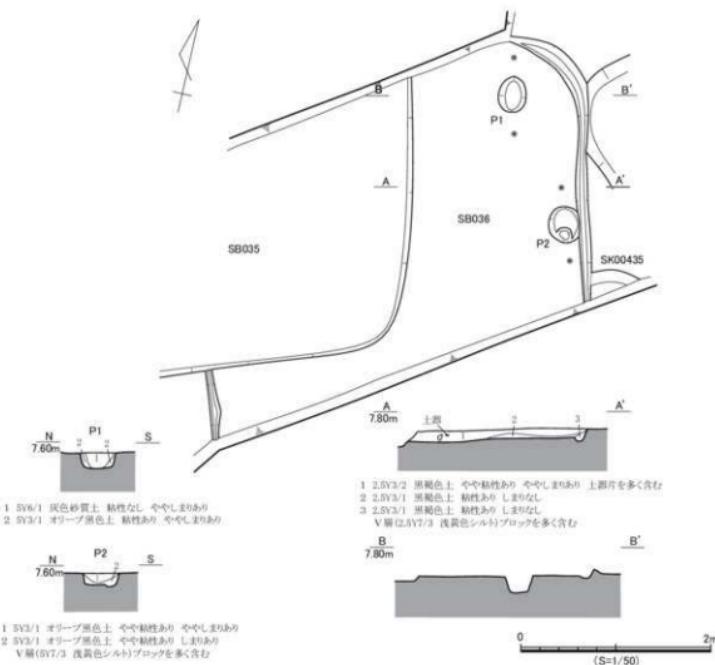
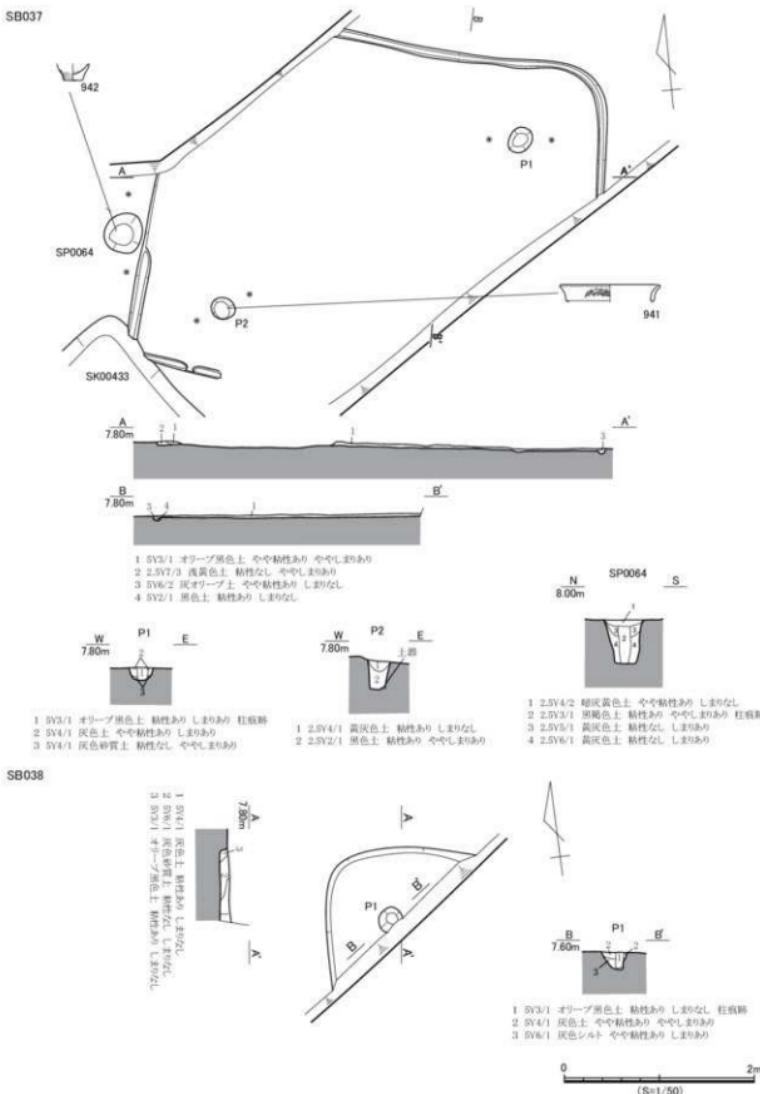


図162 SB036遺構図



遺物出土状況 埋土中から遺物が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 945は高坏I類で、あまり周辺地城では類例がない。坏部の口縁部と底部との境に擬口縁の接合部位を利用した突帶状のものを形成し、坏部は碗形を呈する。この突帶状には刺突文らしきものが認められるが、これは接合時に利用するもので文様ではなく、擬口縁として残された手法の痕跡であると考えられる。福岡市雀居遺跡出土例にも類似するが、脚部は異なり形態は高坏H類にも類似する。つまり外的な要素は濃いものの、搬入品というよりは外的な要素と在地的な要素が組み合わさった資料の可能性がある。ミガキが丁寧で全体に薄く仕上られた資料である。941はP2から出土した高坏B1b類で、波状文があり、V期前半と思われる。同じ時期の資料は、甕B2類の946である。残る資料は断片的ながらおよそVI期後半の資料と考えられる。

時期 出土した土器の多くはVI期後半のものであり、この時期と思われる。

SB038（遺構：図163、遺物：図230）

検出状況 A地区北東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。周囲はほぼ平坦地である。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。大半は調査区外となり、北西隅の一部を検出しただけである。

形状 北西隅の形状から方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の高さは0.09mで、断面形は急傾斜を呈する。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦でほぼ水平である。貼床、炉跡、壁溝とともに認められなかったが、小穴を1基検出した。平面的な位置関係と柱痕跡状の堆積から、P1は柱穴と判断した。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 VI期の細片が出土しただけで、高坏C3a類（949）1点の図示にとどまった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期であろうか。

SB039（遺構：図164・165、遺物：図230）

検出状況 A地区中央部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南東に向かって緩やかに下る緩やかな傾斜地に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によって、遺構上部は削平されている。北東及び南西部は調査区外となり、南辺のプランは確認できなかった。

形状 北及び東辺の状況から方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁溝を含めない壁の深さは、北側で0.11m、東西側で0.08m、南側では壁面は確認できなかった。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦で水平である。炉跡は検出できなかったが、0.04～0.06mほどの貼床層や小穴4基を検出した。平面的な位置関係と柱痕跡状の堆積があることから、P1とP2を柱穴と判断した。P3及びP4は、東壁面に沿って住居内に位置する。北壁に沿って壁溝を検出した。

遺物出土状況 埋土最上層からは比較的大型の土器片が出土した。

出土遺物 950は竹管文を施す器台。竹管文は壺（956）の口縁部内面や頸部にもみられる。口縁

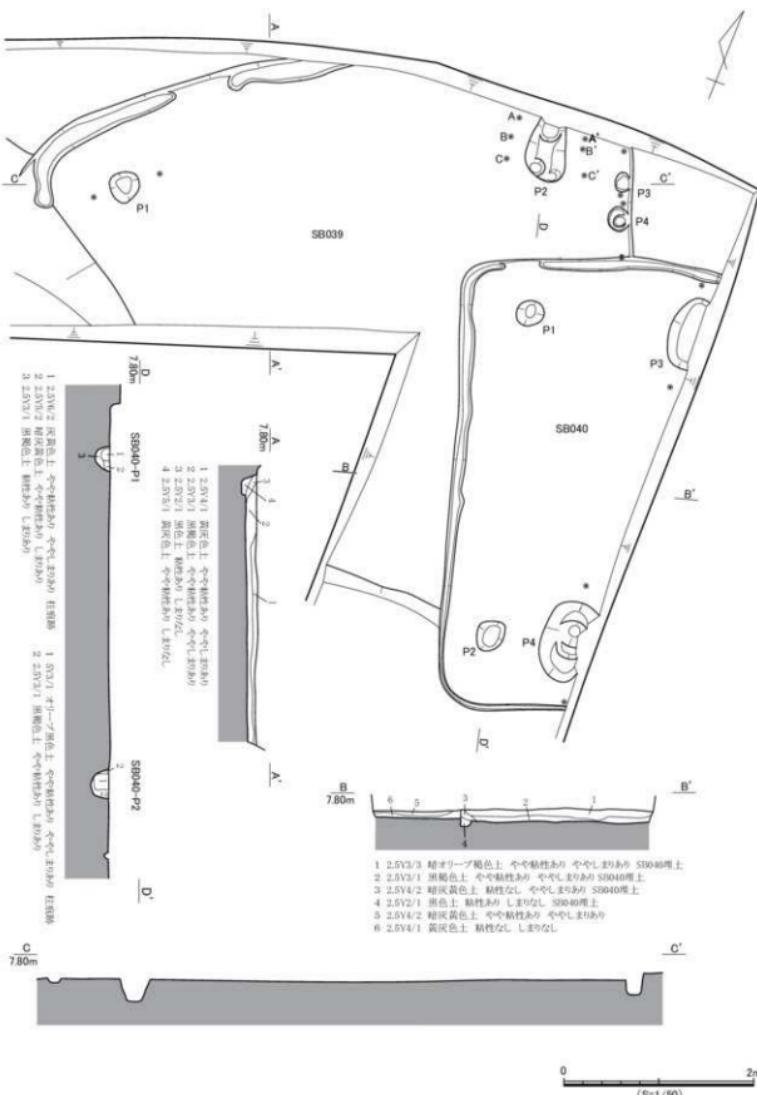


図164 SB039・SB040構造図（1）

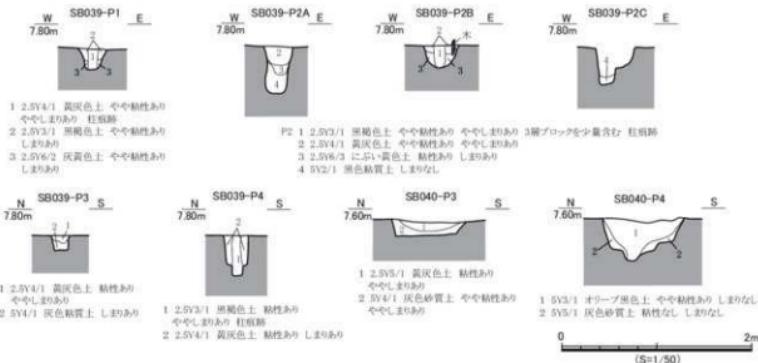


図165 SB039・SB040遺構図（2）

部内面には竹管文に加えて、横羽状文が施文される。955は中型品の壺G3類で、口縁部内面に多重沈線がみられる。952は高壺C類の脚部である。細かな時期の決定は難しいが、他の資料も含めておよそⅦ-2期前後の時期と思われる。

時期 出土した土器からⅦ-2期と思われる。

SB040（遺構：図164・165、遺物：図230）

検出状況 A地区中央部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南東に向かって緩やかに下る傾斜地に位置する。IV層上面の水田遺構を除去し、V層上面において検出した。IV層上面の水田遺構によつて、遺構上部は削平されている。東側1/2程度が調査区外となる。

形状 検出した西半部の状況から方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁溝を含めない壁の深さは残りのよい北側で0.11m程度である。壁面の断面形は急傾斜を呈する。

埋土 3層に分層したが、壁際から徐々に堆積しており、自然堆積と考えられる。

床面 床面は平坦であるが、南に向かってわずかに傾斜する。炉跡は検出できなかつたが、0.05m前後の貼床層や小穴4基を検出した。平面的な位置関係と柱痕跡状の堆積があることから、P1とP2を柱穴と判断した。壁面に沿つて壁溝を検出したが、北西隅近くで一部途切れている。

遺物出土状況 埋土最上層からは比較的大型の土器片が出土した。P4からはS字甕が出土したが、床面とほぼ水平な位置から出土した。また、貼床層上部から小型の管玉が1点出土した。

出土遺物 961は埋土中から出土した、繩文時代晚期の突帯文系の深鉢である。P4から出土した963は甕E2a類で、口縁部の屈曲が鈍化しており、Ⅶ-2期に相当する。962は凝灰岩製の管玉である。

時期 出土した土器からⅦ-2期と思われるが、遺物からは同時期と思われるSB039よりも重複関係では新しい。

SB041（遺構：図166）

検出状況 A地区中央部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南東に向かって緩やかに下る緩や

かな傾斜地に位置する。SB040床面除去後に西辺を検出した。

形状 検出したのが西辺のみであるが、直線的な形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。西辺の規模は4.15mほどであった。壁溝を含めない壁面の深さは西側壁面で0.11m、壁面断面形は急傾斜を呈する。

埋土 埋土は単層であるが、掘形を埋め床面を形成する土層が下層にある。

床面 壁溝を西壁に沿って検出したが、北西隅で途切れている。柱穴、炉跡などは確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示できる遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB040よりも古いことからVII期以前と思われる。

SB042（遺構：図167、遺物：図230）

検出状況 A地区東部の竪穴住居跡が密集する場所に位置する。北側はSD0288によって削平され、東半部は調査区外となる。V層上面の遺構であるSK00469底面で検出したが、残存状況は悪く、平面形状はやや不明瞭であった。

形状 一部を検出いただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。

埋土 掘形埋土を含めて3層に分層したが、堆積状況は不明である。

床面 ほぼ平坦で、やや貼床状に硬化した部分がある。炉跡と考えられる長礫を伴う焼土を検出した。床面上では3基の小穴を検出したが、明確な柱穴は不明である。壁溝は確認できなかった。

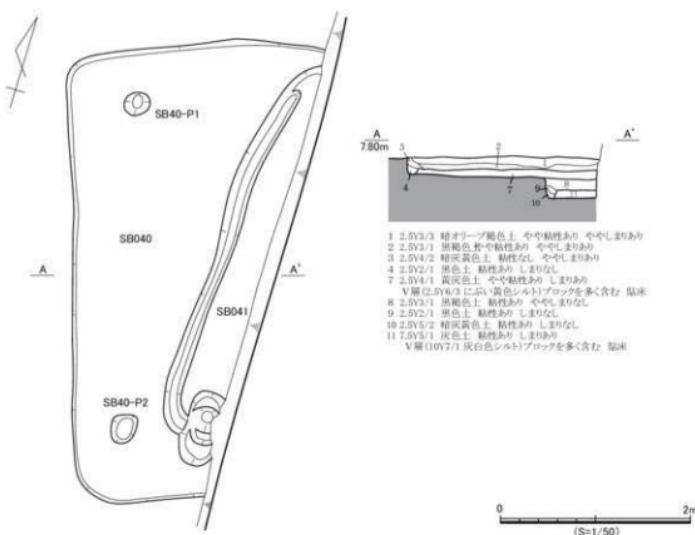


図166 SB041遺構図

遺物出土状況 埋土中から散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 964は直線文と刺突文がみられる鉢A類の胴部片である。965は口頭部に強いナデのみられる甕I3類である。いずれもVI期と思われる。967は砂岩製の叩石類である。

時期 出土した遺物からはVI期と思われる。

SB043（遺構：図168、遺物：図231）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南側はSB045に、東側はSB044に削平されるが、東半部は調査区外となる。V層からVI層上面で検出したが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 西辺の一部を検出しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.05m前後で、壁面は比較的緩やかな傾斜である。

埋土 単層で円窓やV層ブロックを含むことから、埋土というよりも床面形成のための掘形を埋めた土層の可能性がある。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかったが、3基の小穴を確認した。このうちP1は平面的な位置関係から柱穴と思われる。また、SB045床面で検出したP2についても、同様に柱穴と思われる。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 P1から出土した968は、甕A3類としたが、鉢の可能性もある。969は口縁部に刺突文をもつ

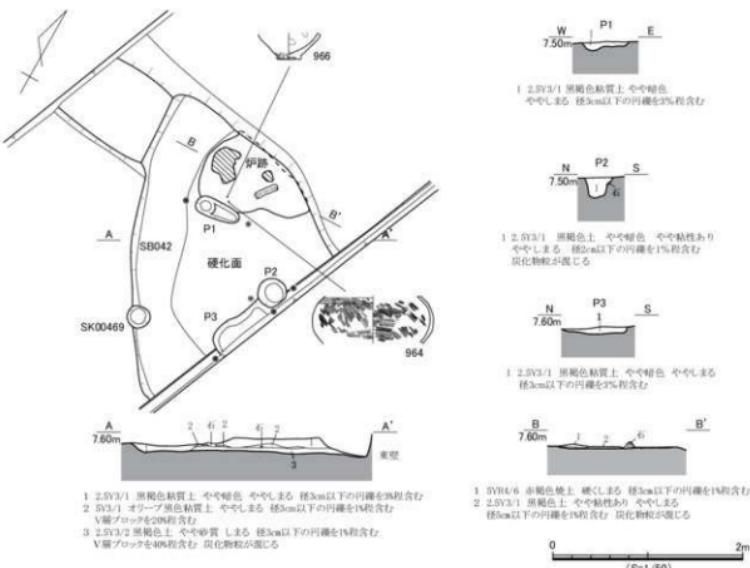


図167 SB042遺構図

甕A2類である。V期に相当する。

時期 P1から出土した土器から、VI期前半であろうか。

SB044（遺構：図168）

検出状況 A地区東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。南側はSB045に削平されるが、東側

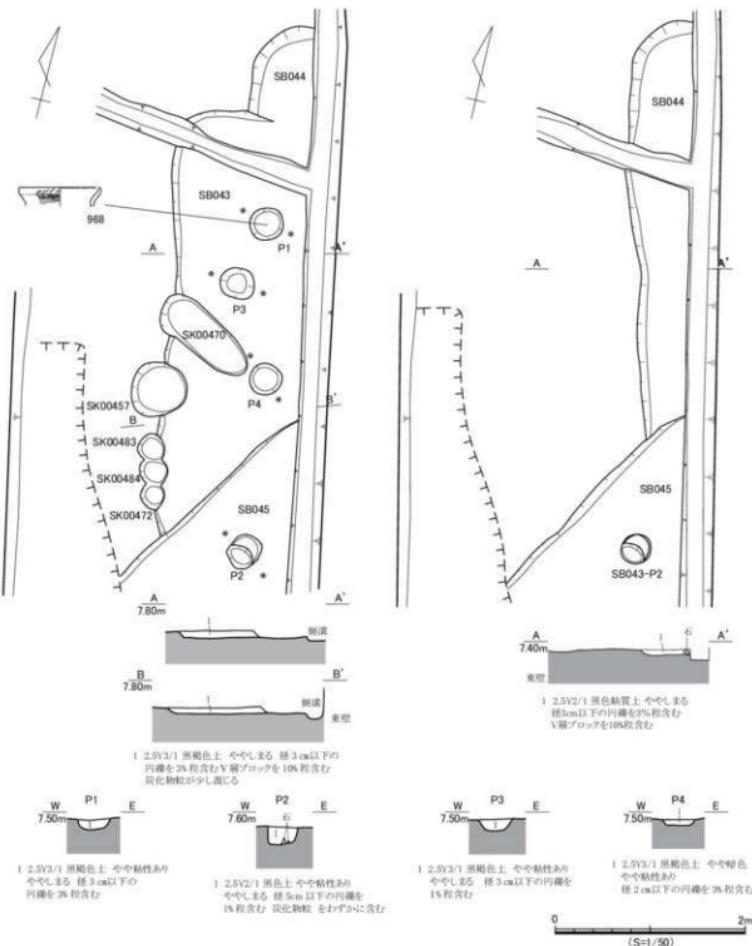


図168 SB043・SB044遺構図

の大半は調査区外となる。V層からVI層上面で検出したが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 北西隅と西辺の一部を検出しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.05m前後で、壁面は比較的緩やかな傾斜である。

埋土 単層で円礫やV層ブロックを含むことから、埋土というよりも床面形成のための掘形を埋めた土層の可能性がある。

床面 柱穴や壁溝、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難である。SB043よりも新しいことから、VI期後半以降と思われる。

SB045（遺構：図169）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。南側はSB046、北側はSB043、SB044と重複し、いずれよりも新しいと判断した。V層からVI層上面で検出したが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 北西から南西部の一部を検出しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.06m前後で、壁面は比較的急傾斜である。

埋土 壁溝を含めて3層に分層したが、4層は床面形成のための掘形を埋めた土層である。

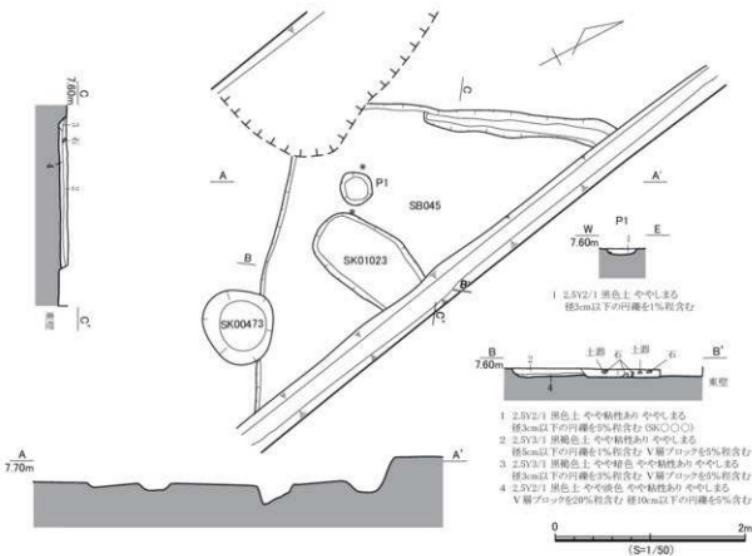


図169 SB045遺構図

床面 北西辺に沿って部分的に壁溝を確認した。南西辺では確認できなかった。西隅近くで小穴を1基確認したが、平面的な位置関係から柱穴と思われる。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難である。SB043、SB044、SB046よりも新しいことから、VII期であろうか。

SB046（遺構：図170、遺物：図231）

検出状況 A地区東部の壁穴住居跡が密集する場所に位置する。南側はSB048、北側はSB045と重複し、いずれよりも古ないと判断した。V層からVI層上面で検出したが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 北西から南西部の一部を検出しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.10m前後で、壁面は比較的急傾斜である。

埋土 壁溝を含めて5層に分層したが、5層は貼床層と思われる。

床面 北西辺及び南西辺のやや内側で壁溝を確認した。北西辺では一部途切れる。小穴を2基検出したが、平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 VI期の資料4点を図示した。970は鉢A類胴部であろう。973は手形土器の破片資料で、

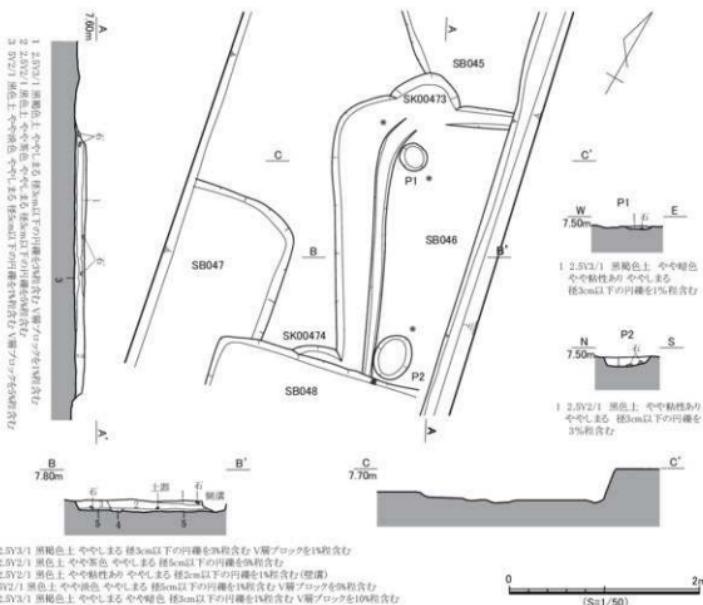


図170 SB046遺構図

細い沈線で斜格子文を構成しているがやや雑である。

時期 出土した遺物からは、VI期の可能性があるが、SB045、SB048よりも古い。

SB047（遺構：図171、遺物：図231）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。西半部の1/2以上が調査区外となる。南東側でSB048と重複し、SB047が新しいと判断した。V層からVI層上面で検出したが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 東半部を検出しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.10m前後で、壁面は比較的急傾斜である。

埋土 3層に分層した。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかったが、2基の小穴を検出した。平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 974は内面加飾の高環で、多重沈線と二重の山形文がみられる。

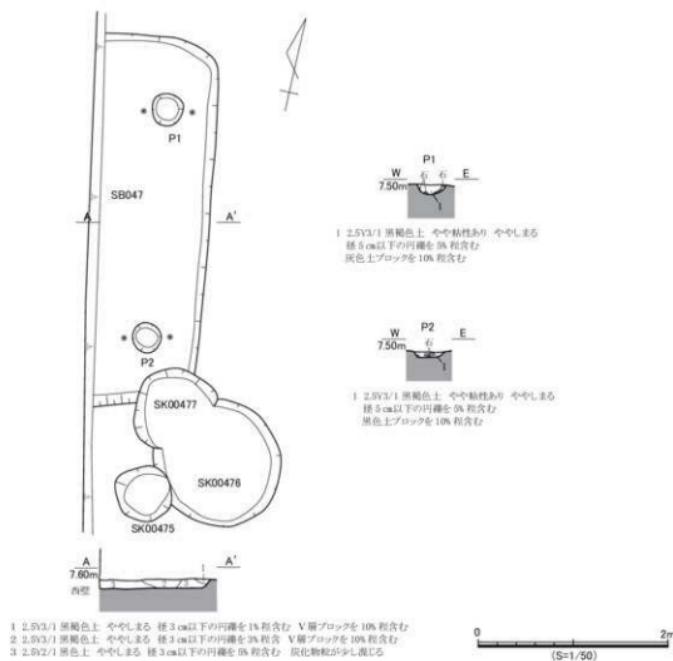


図171 SB047遺構図

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難なため細別時期は不明である。

SB048（遺構：図172、遺物：図231）

検出状況 A地区東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。北東部が調査区外となる。北西側でSB047と、北側でSB046と重複し、SB047が新しく、SB046が古いと判断した。V層からVI層上面で検出されたが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 北東部が不明であるが、南北5.32m、東西5.14mとほぼ方形である。壁面の深さは0.10m前後で、壁面は比較的緩やかな傾斜である。

埋土 単層であるが、南西隅で土器片がまとまって出土したレベルが床面となれば、分層できた可能性がある。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかったが、3基の小穴を検出した。平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土した。また、南西隅で大型の土器片がまとまって出土しているが、埋土中から出土した多くの土器が比較的細片となっている。こうしたことから、前述のようにこの面が床面であった可能性も考えられる。

出土遺物 975を除くとVII-2期の比較的安定した資料と判断できる。出土状況も975を構成する破片の大半が底面から浮いた状態で出土しており、混入の可能性もある。975は坪部がほぼ完存し、口縁端部がやや外方へ伸びる、高坪B1b類の良好な資料。V-2期に相当し、類似する時期の資料には堀脚部983がある。その他の資料では加飾のある高坪・器台(976~981)の出土が目立つ。976~979は多重沈線と貝による連弧文の組み合わせがみられ、980・981は多重沈線と山形文の組み合わせがみられる。984は手焙形土器の破片資料で、刺突文と突帯がある。本住居跡出土資料は975のV-2期を中心とする時期と加飾の高坪977などのVII-2期を中心とする時期が認められる。

時期 出土した遺物からは、V-2期もしくはVII-2期となるが、SB046をVI期と考えるとVII-2期と考えるべきと思われ、南西隅からまとめて土器が出土した範囲は、むしろ掘り下げすぎた可能性が考えられる。

SB049（遺構：図173）

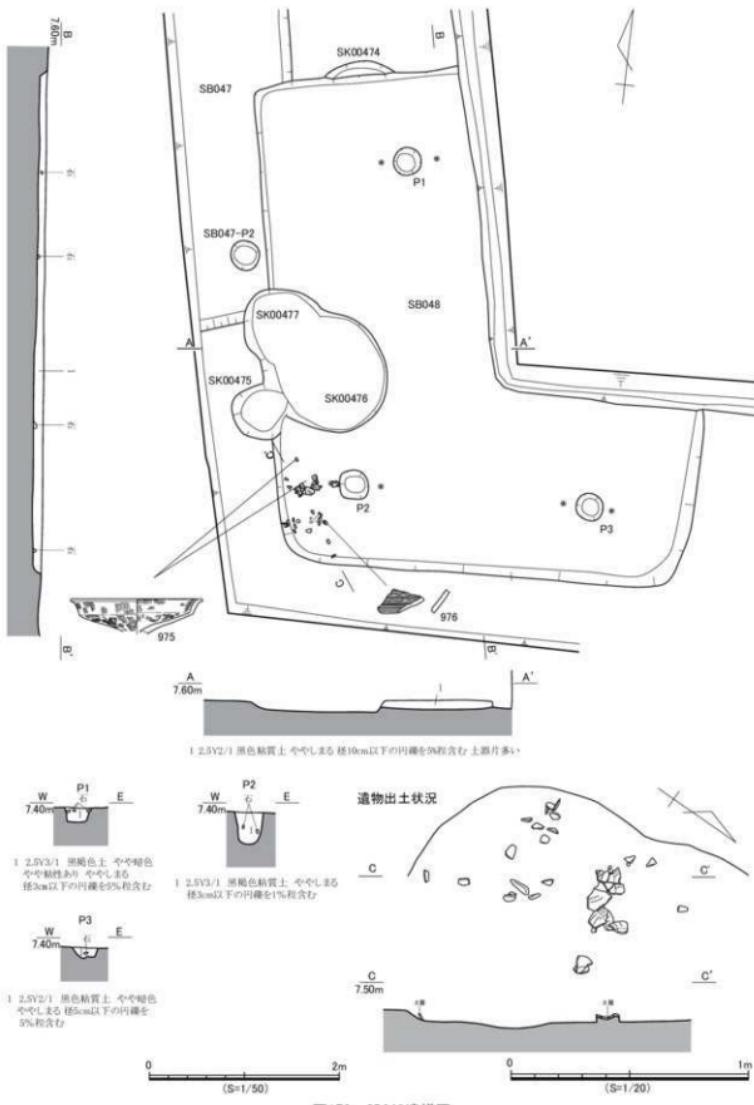
検出状況 A地区東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。大半が調査区外となり、北部の一部を確認しただけである。北部でSB048と重複し、SB048が新しいと判断した。V層からVI層上面で検出されたが、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 北辺の一部のみ確認しただけであり、形状は不明である。壁面の深さは0.10m前後で、壁面は比較的緩やかな傾斜である。

埋土 単層である。

床面 壁溝や炉跡、柱穴は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。また、図示可能な遺物はなかった。なお、検出段階よりも前の包含層掘削時に、出土状況を示したように壺が出土している。検出面よりも若干高い位置で出土していることから、包含層出土遺物と



して別節で報告する。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB048よりも古いことから、VII期以前と思われる。

SB050（遺構：図174、遺物：図232）

検出状況 A地区南部の壁穴住居跡がやや密集する場所に位置する。1/2以上が調査区外となり、他の遺構との重複があるため、西辺の一部を確認しただけである。東側でSB052と重複し、SB052が新しいと判断した。V層上面で検出したが、他の遺構との重複が激しく、プランは不明瞭で残存状況は悪い。

形状 西辺の一部のみ確認しただけであり、形状は不明である。壁面の深さは0.05m前後で、壁面は比較的急な傾斜である。

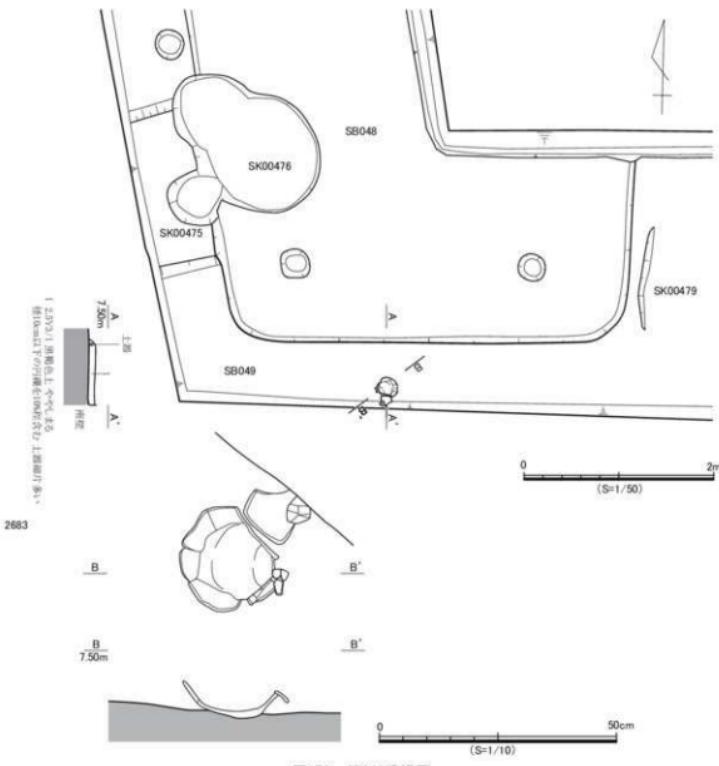


図173 SB049遺構図

埋土 2層に分層した。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。床面で小穴を1基検出しているが、形状が柱穴状であることから柱穴の可能性が考えられるが、平面的な位置関係が不明であるため、断定はできない。

遺物出土状況 墓土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 3点を図化した。いずれも細片だが、VI期の資料と考えられる。1007は器台B4b類で、口縁端部が大きく下方に拡張される。出土数が少ない例である。1008は甕A3類としたが、頭部がやや直立して刺突文をもち、他とは異なる資料である。

時期 出土した遺物やSB052との重複関係からVI期と思われる。

SB051（遺構：図175、遺物：図232）

検出状況 A地区南部の堅穴住居跡がやや密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、大半が調査区外となり、南西辺の一部を確認しただけである。西側でSB052と重複し、SB051が新しいと判断した。

形状 南西辺の一部のみ確認しただけであり、形状は不明である。壁面の深さは0.08m前後で、壁面は比較的急な傾斜である。

埋土 単層で貼床層は確認できなかった。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。床面で小穴を7基検出しているが、このうち柱痕跡状の堆積

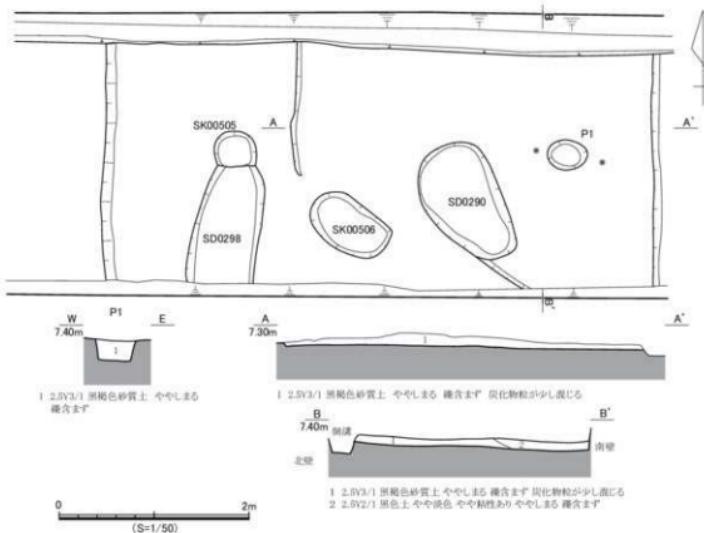


図174 SB050遺構図

があるP7が柱穴の可能性があると思われるが、平面的な位置関係が不明であるため断定はできない。

遺物出土状況 墓土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1点だけ図化した。1009は口縁部が直線的に伸びるので壺B2類としたが、内外面にハケ目を残す例で他にはあまり類似例がない。壺F4類にも類似する。

時期 出土した遺物やSB052との重複関係からⅦ期と思われる。

SB052（遺構：図176、遺物：図232）

検出状況 A地区南部の壁穴住居跡がやや密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、南北側が調査区外となり、東側はSB051と重複しているため、西辺の一部を確認しただけである。

形状 西辺の一部のみ確認しただけであり、形状は不明である。壁面の深さは0.12m前後で、壁面は比較的急な傾斜である。

埋土 単層で貼床層は確認できなかった。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。床面で小穴を7基検出しているが、柱穴は不明である。

遺物出土状況 墓土中から土器片が少量出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

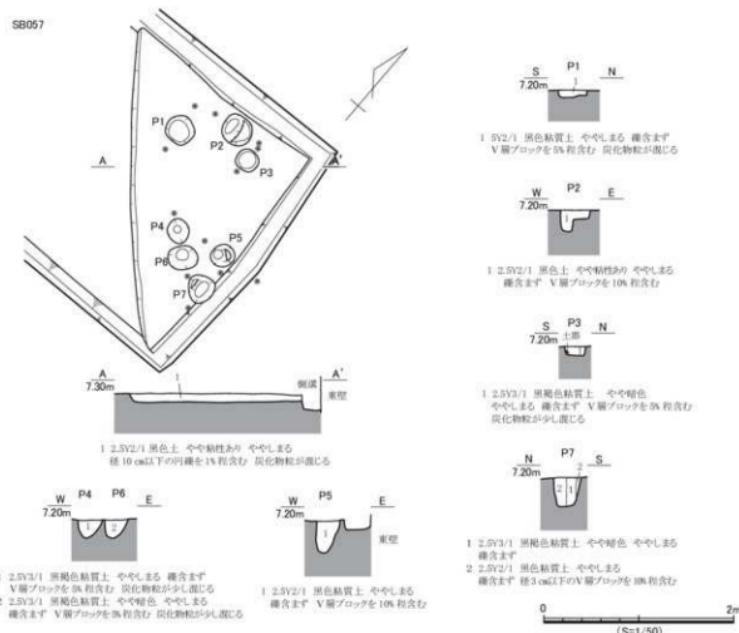


図175 SB051遺構図

出土遺物 鉢1010、高壙1011、器台1012を図示した。いずれも小片だが、VI期からVII期の資料と考えられる。1010の口縁部には打ち欠きがある。

時期 出土した遺物やSB051との重複関係からVI期からVII期と思われる。

SB053（遺構：図177、遺物：図232）

検出状況 A地区南部の堅穴住居跡がやや密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、大半が調査区外となり、南隅部を検出しただけである。

形状 南隅部を確認しただけであるが、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.16

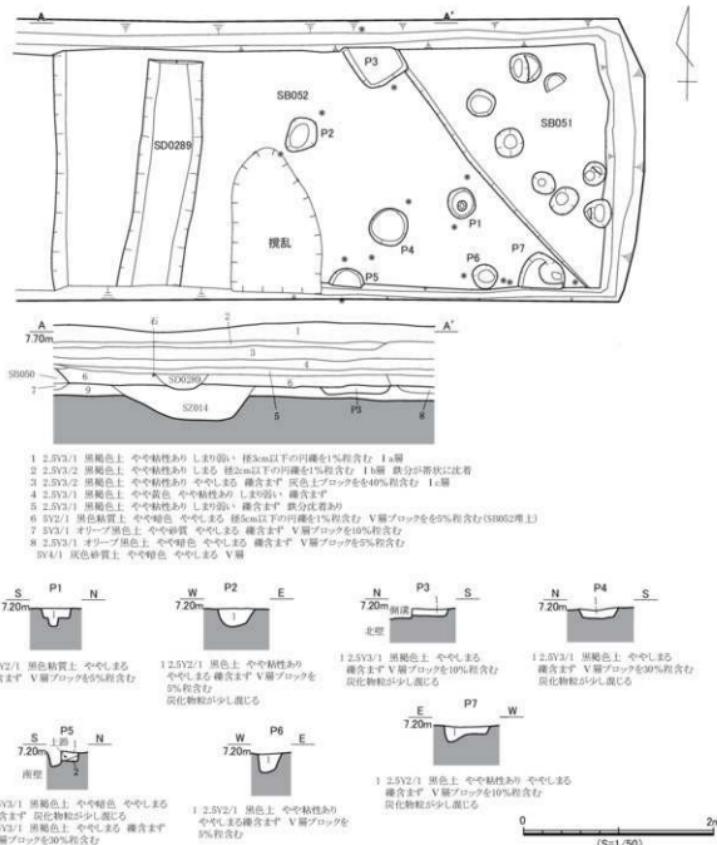
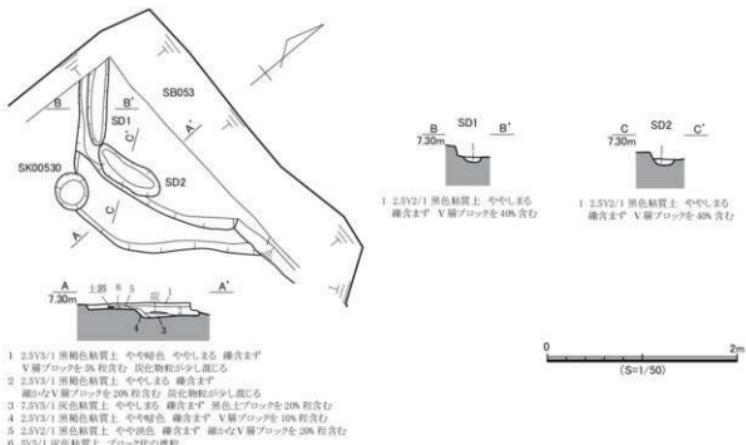


図176 SB053遺構図



炭化材出土状況

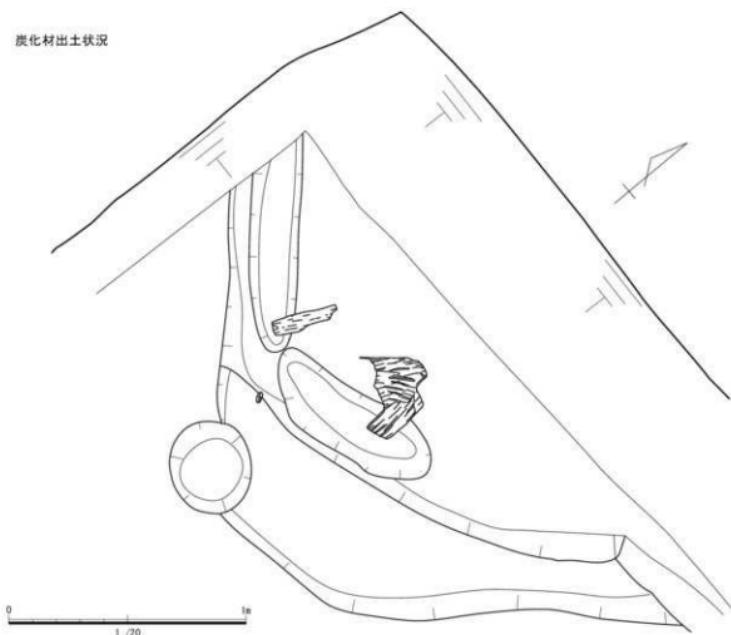


図177 SB053遺構図

mほどあるが、検出した南隅部では、幅0.15m～0.40mのテラス状の段があり、この下に壁溝を確認した。

埋土 6層に分層したが、壁際に4層が堆積し、その上から床面にかけて3層が堆積している。この3層で炭化材が出土している。

床面 断続的な壁溝を確認したが、炉跡や柱穴は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土し、壺状の炭化材が埋土中で出土している。

出土遺物 壺頭部(1013)を図示した。VI期の資料と思われるが、詳細な時期は不明である。

時期 出土した遺物からは、時期決定は困難であるが、VI期であろうか。

SB054(遺構: 図178、遺物: 図232)

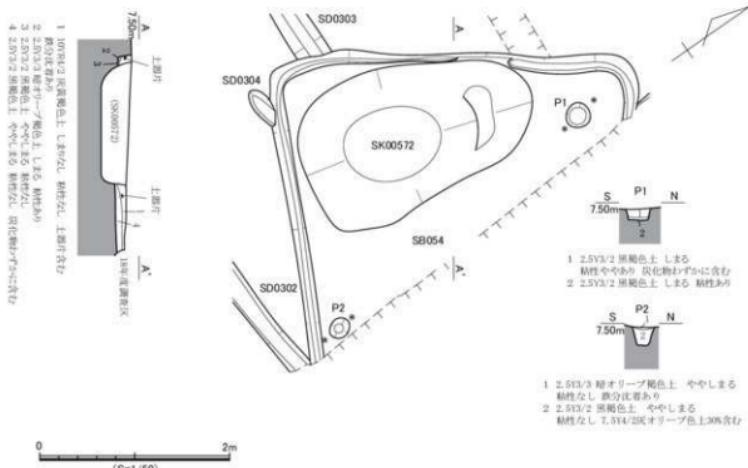
検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。平成18年度及び平成19年度の調査区にまたがるが、平成18年度の調査では東半部を見落としており、西半部のみ検出しただけである。V層上面で検出した。

形状 検出した西半部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面の深さは0.12m前後である。

埋土 4層に分層した。

床面 北西辺で一部途切れるが、壁面に沿って幅0.10m～0.21mの壁溝を確認した。2基の柱穴を確認したが、平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。なお、西隅部はSK00572により大きく削平を受けしており、柱穴等を確認することはできなかった。また、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められな



かった。

出土遺物 1014は甕の可能性もあるが鉢A1類とした。口縁部が屈曲して直立し、端部下端には刺突文がある。1018は高杯B類の脚部。1019は高杯B2類の脚部。1019の穿孔は上下2穿孔を交互に配置する。1020は口縁端部下端をわずかに拡張している。1016は高杯B類でV期の資料と考えられる。他はVI期前半と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定は困難であるが、遺物の多さからVI期前半であろうか。

SB055（遺構：図179、遺物：図233）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。調査ではIV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。南隅部は調査区外となる。

形状 西北辺は搅乱によって滅失、南隅は調査区外であるが、5.0m×4.2mの不整形である。壁面の深さは0.10m前後である。

埋土 単層であるが、埋土中から炭化材が出土しており、焼失住居と思われる。

床面 壁溝、炉跡は確認できなかった。12基の小穴及び土坑を床面で検出した。このうち平面的な位置関係からP5～P8が柱穴の可能性が高いと思われる。南西辺に沿うように、2.07m×0.80mの土坑を検出したほか、東隅部近くで小穴が多くあるが、これらの性格は不明である。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 埋土上層から多くの土器片と炭化材が出土している。炭化材の樹種同定の結果、モミ属？(1点)・アカガシ属(1点)・クリ(1点)・広葉樹(2点)であった。土器は15点を図示した。P1からは1021～1024が出土したが、時期差のある資料を含む。1021は高杯H3類の脚部であろう。1022は粗いハケ目が口縁部にも残る甕C3類であろうか。1028は口縁端部を下方に拡張する器台B4b類で摩耗により端部の擬円線は滅失している。P3からは1025・1027が出土した。1027は高杯C2類の脚部に相当し、裾部内湾傾向が強いことからVI期後半の資料と考えられる。1029は外反口縁の壺A2a類で口縁部にミガキがなく雑なつくりである。1034は壺胴部片で波状文と横羽状文が認められる。1033は線刻のある壺胴部片で左下がりの沈線1本、右下がりの沈線3本で構成され、旗の一部ように見える。

時期 出土した遺物からは、時期決定は困難であるが、遺物の多さからVI期であろうか。

SB056（遺構：図180、遺物：図233）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。調査ではIV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 長軸長3.98m×短軸長3.70mの不整形である。壁面の深さは0.12m前後である。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかったが、7基の小穴を確認した。P1,P3,P4,P6がほぼ長方形の配置となるが、壺穴住居の平面形とは方向性が異なるものの、これら4基の小穴が柱穴の可能性があると思われる。なお、北隅部近くで検出したP2は、長軸長0.70mの土坑で内部から土器が出土したが、性格は不明である。

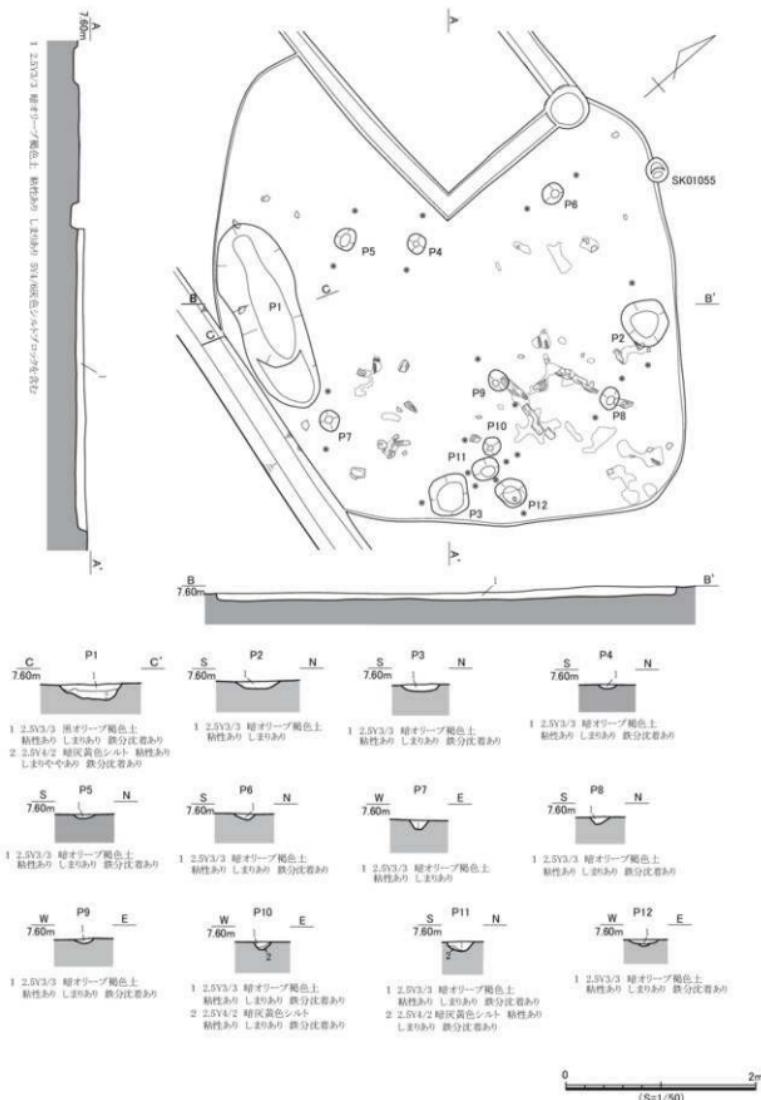
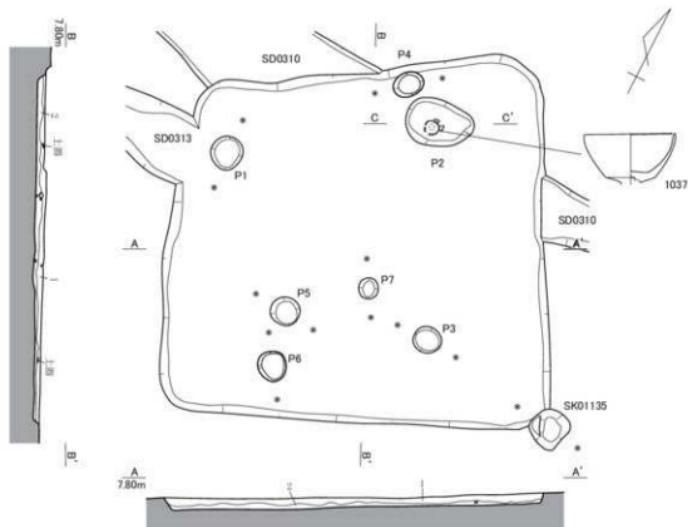
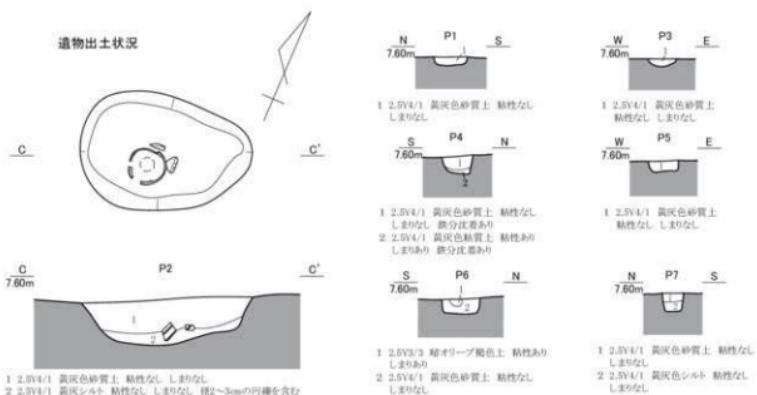


図179 SB055構造図



1 2.5V3/3 緑オリーブ褐色土 粘性あり しまりあり 2.5V4/1 黄灰色シルトブロックを含む 鉄分沈着あり
2 2.5V3/2 黒褐色土粘性あり しまりあり 径1~2cmの円礫を含む 2.5V4/1 黄灰色シルトブロックを含む 鉄分沈着あり



0 1m
(S=1/20)

0 2m
(S=1/50)

図180 SB056遺構図

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 V期に相当する高坏B類(1039)、X期の甕(1045)を含み、時期幅のある土器が出土した。1037は高坏で、内面の段が比較的明瞭で坏部が内湾することから、VI-3期の資料であろう。1038は多条沈線のある高坏C3b類である。甕は口縁部片1040、1041、1042があり、甕A2~A4類が出土した。

時期 P2から出土した高坏からVI-3期と思われる。

SB057（遺構：図181、遺物：図233）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。調査ではIV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 北隅部を暗渠排水溝により削平されているが、長軸長4.75m×短軸長4.65mのほぼ正方形で、壁面の深さは0.10m前後である。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。

床面 北西辺を除いて、部分的に壁構を検出したが、炉跡は確認できなかつた。床面では、11基の小穴を確認したが、平面的な位置関係からP1、P2、P3が柱穴と思われる。なお、西隅及び南隅部のP4とP5も柱穴の可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 7点の土器を図示したが、おおむねVI期後半と思われる。北東の壁構から出土した1048は、壺口縁部片であろう。多条沈線のほかに連弧文らしき文様が認められるが、細片で定かでない。1047は甕A3類でP1から出土した。甕A類はその他1049、1051がある。1046はVII期の高坏でP3から出土した。1053は武器か。断面U字状の材で上端は欠損している。表面は平滑にしている。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期後半頃であろうか。P3からはVII期の高坏が出土しており、この点からはP3は柱穴ではなく、上部から掘り込まれた遺構と考えるべきかもしれない。その場合は、P11が柱穴となる可能性がある。

SB058（遺構：図182、遺物：図234）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。調査ではIV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 南隅部は調査区外となり、東隅部はSD0351によって削平されているが、長軸長4.14m×短軸長3.80mのほぼ正方形である。壁面の深さは0.10m前後で、比較的緩やかに傾斜する。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。

床面 床面で2基の小穴を確認したが、P1については北隅部に位置することから、柱穴の可能性が考えられたが、他の隅部にはこうした小穴が確認できなかつた。また、P2は炉跡1に接し、埋土に灰を含むことから、炉跡1に関連するものと思われる。炉跡1は、床面上で0.40m×0.30m程の不定形に焼土が確認できたことから地床炉と思われる。炉跡2は、床面からやや浮いた埋土中で検出した焼土で、0.40m×0.20mほどの範囲が被熱している。壁構は確認できなかつた。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

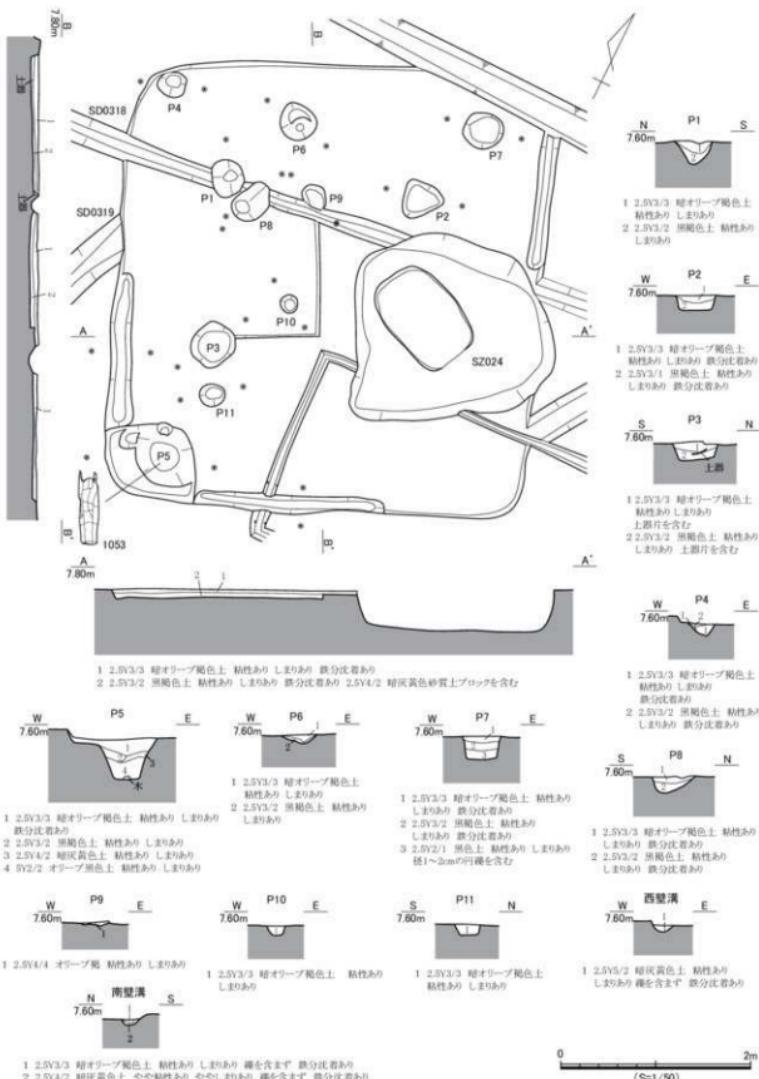


図181 S8057遺構図

出土遺物 時期は高環B2a類（1057）相当の時期と高環D2a類（1062・1063）相当の時期の2時期に大別できる。前者がV期、後者がVII期にある。口縁部の屈曲が強い甕A2（1058）、甕A3類（1059）はV期、口縁部の屈曲が弱い鉢A3a類（1055・1056）はVI期後半の可能性が高い。1064の蓋は摩耗のため調整不明とはいえ、ややつくりが雑でVI期からVII期の資料と考えられる。1061は突带上に刺突のみらされる手焙形土器である。以上のように、本住居跡出土資料は新旧の資料が混在している。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VII期頃であろうか。

SB059（遺構：図183）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出した。

形状 南隅部は調査区外となるが、長軸長5.25m×短軸長4.35mの長方形である。壁面の深さは0.10m前後で、比較的急傾斜である。

埋土 3層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。

床面 北西辺から北東辺には、壁面に沿って壁溝を検出したが、他辺では確認できなかった。また、床面上で7基の小穴を確認したが、P1とP2については平面的な位置関係から柱穴と思われる。しかし、

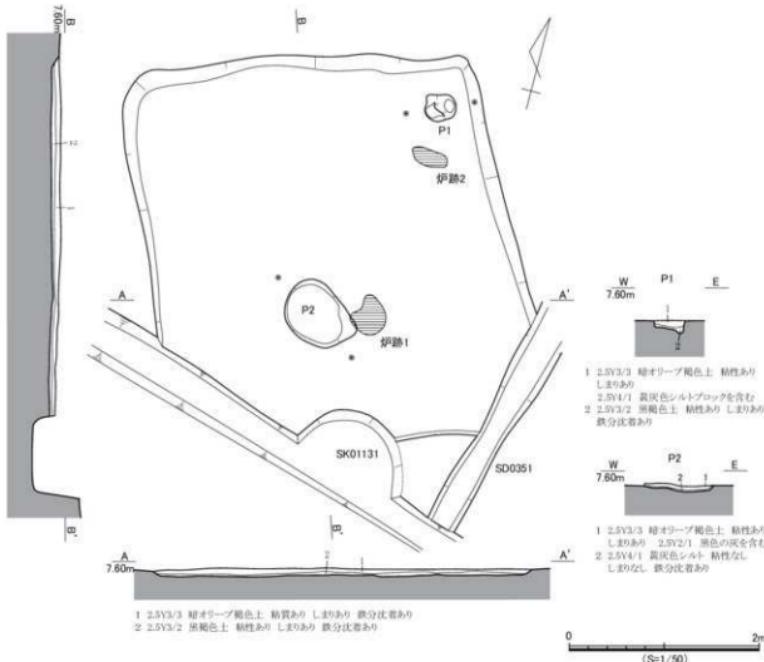


図182 SB058遺構図

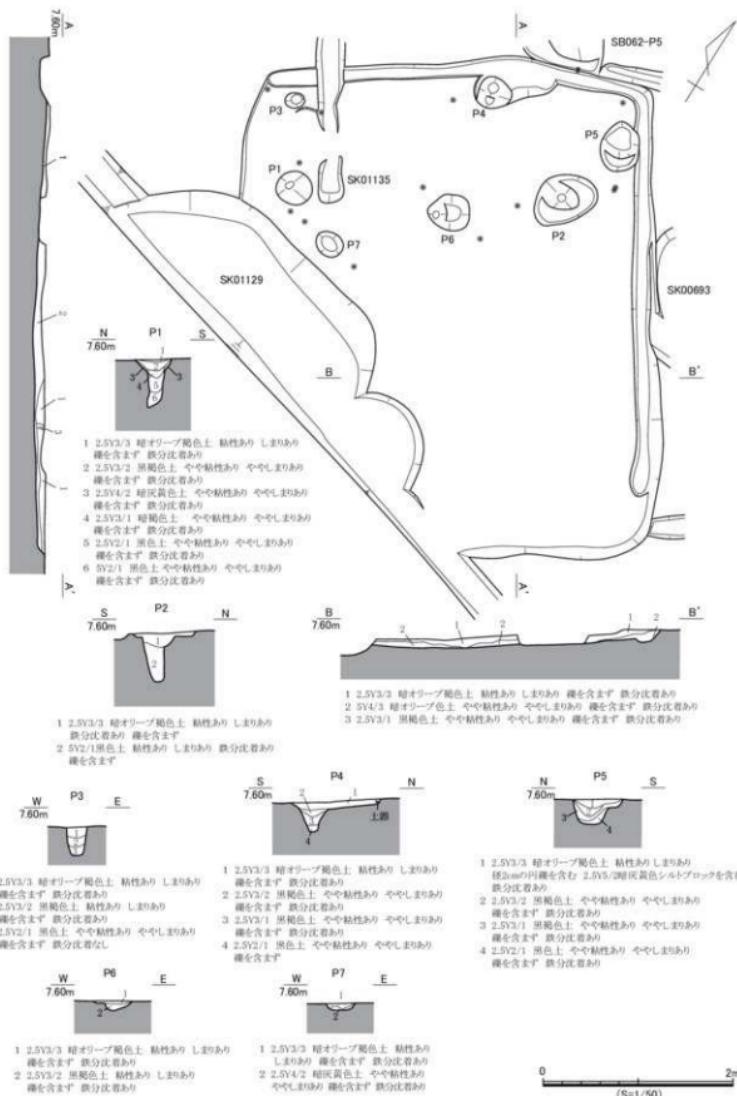


圖183 SB059遺址圖

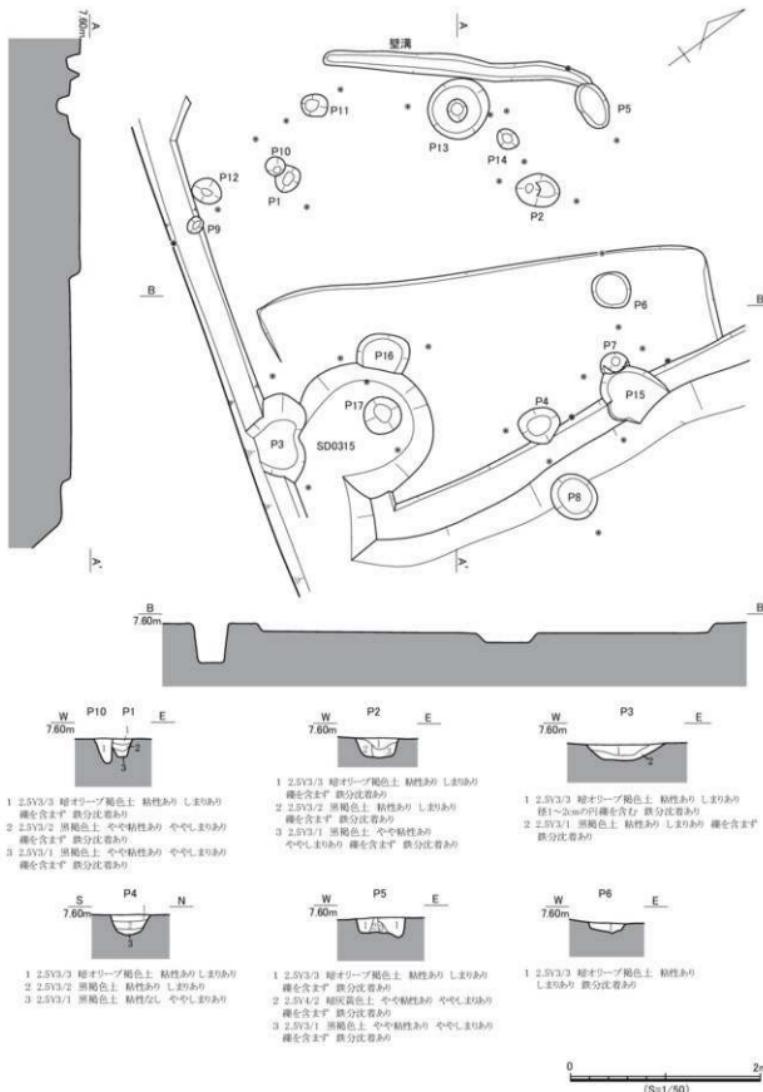


図184 SB060遺構図（1）

中央から南東部では小穴が確認できていない。なお、炉跡も確認できなかった。

遺物出土状況 墓土中から少量の土器片が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難である。

SB060（遺構：図184・185）

検出状況 A地区北部の壁穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出した東半部はSB061と重複するが、SB060が古いと判断した。調査では平面形を確認できておらず、壁穴住居跡との認識はなかったが、壁構や平面的な位置関係が方形となり、柱穴と思われる小穴の存在などから、壁穴住居跡判断した。

形状 平面形は不明であるが、北西辺の壁構が直線的であることから、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。

床面 北西辺に壁構を検出したが、他邊では確認できなかった。推定される平面形の内部で17基の小穴を確認したが、P1～P4については、平面的な位置関係から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 壁穴住居跡としての出土遺物はなく、各小穴埋土から少量の土器が出土したが、図示

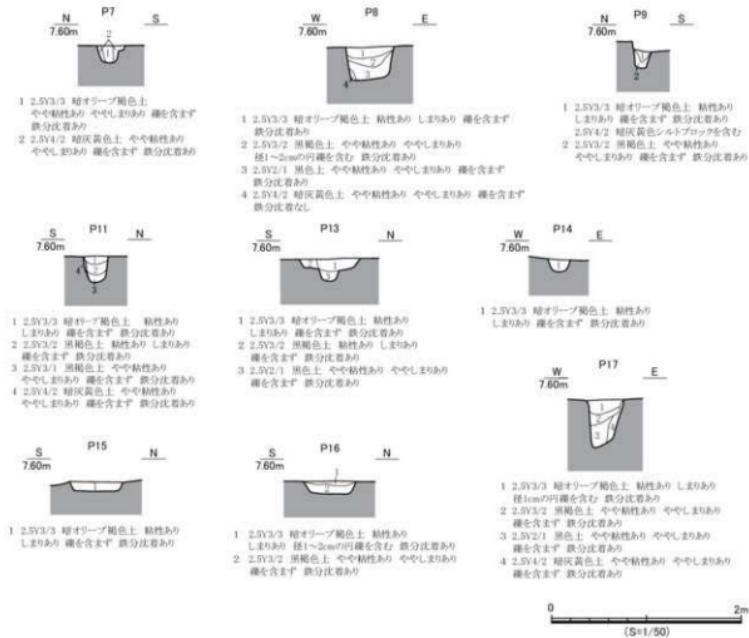


図185 SB060遺構図（2）

可能な遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB061との重複関係からV期の可能性がある。

SB061（遺構：図186、遺物：図234）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。調査ではIV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。西側はSB060と重複するが、SB060が古いと判断した。

形状 南辺部は調査区外となり、全形を確認できていないが、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.10m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。

床面 東辺に壁溝を検出したが、他邊では確認できなかった。床面では11基の小穴が確認できたが、平面的な位置関係からP3とP5が柱穴となる可能性がある。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。なお、床面近くで細片化した炭化材が出土したことから、焼失住居と思われる。

出土遺物 13点を図示したが、時期幅がある資料である。1065～1067は高環C3b類で安定した資料である。1067は摩耗のため内面の多重沈線を滅失している。甕は6点図示したが、甕E1類（1068～1070）、甕E2類（1071、1072）、甕E3類（1073）が出土した。甕E3類相当の資料は数量的には少ないため、VI期からVII期に近い資料が多いと考えられる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期からVII期と思われる。

SB062（遺構：図187、遺物：図234・235）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。北東部ではSB063と重複するが、SB062が古いと判断した。

形状 部分的に他の遺構に削平されているが、長軸長約5m、短軸長4.00mで不整長方形となる。壁面は0.05m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

埋土 単層であった。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。また、小穴を4基検出したが、P2とP3は埋土上面で確認したもので、P1とP4は埋土除去後の床面で検出した。P2出土土器とSB062出土土器に時期差があまり認められないことから、埋土と考えた土層が、掘形を埋めて床面を形成するためのものである可能性も考えられる。柱穴は不明である。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。なお、P2埋土上部から多くの土器が出土した（1081～1084）。

出土遺物 P2から出土した4点を含め、計7点を図示した。1078は器台B3類で、丁寧なミガキのある器台である。直線的な受部とやや内湾しながら開く脚部をもち、VI～3期に相当する。P2から出土した4点もVI～3期と思われる。口縁部の屈曲が痕跡的となった鉢（1081・1082）と中型の甕（1083・1084）がある。1084は打ち欠きの痕跡と線刻が認められる。1082には胴部文様がないが、摩耗のため

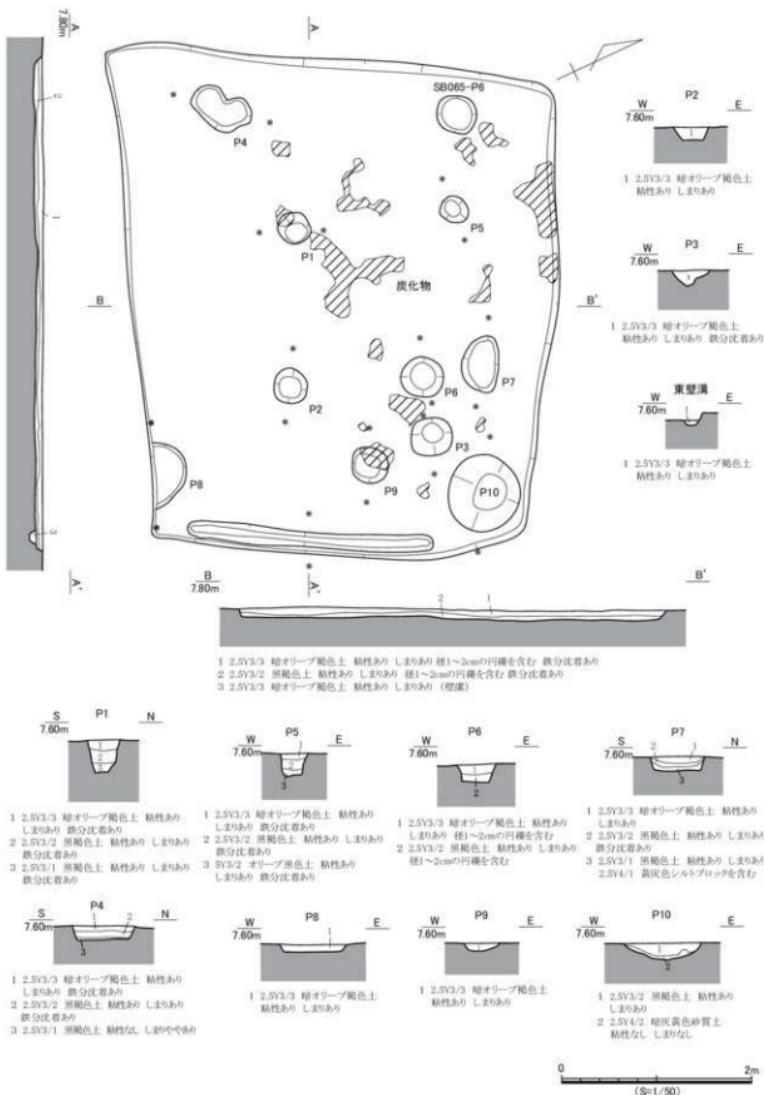


図186 SB061遺構図

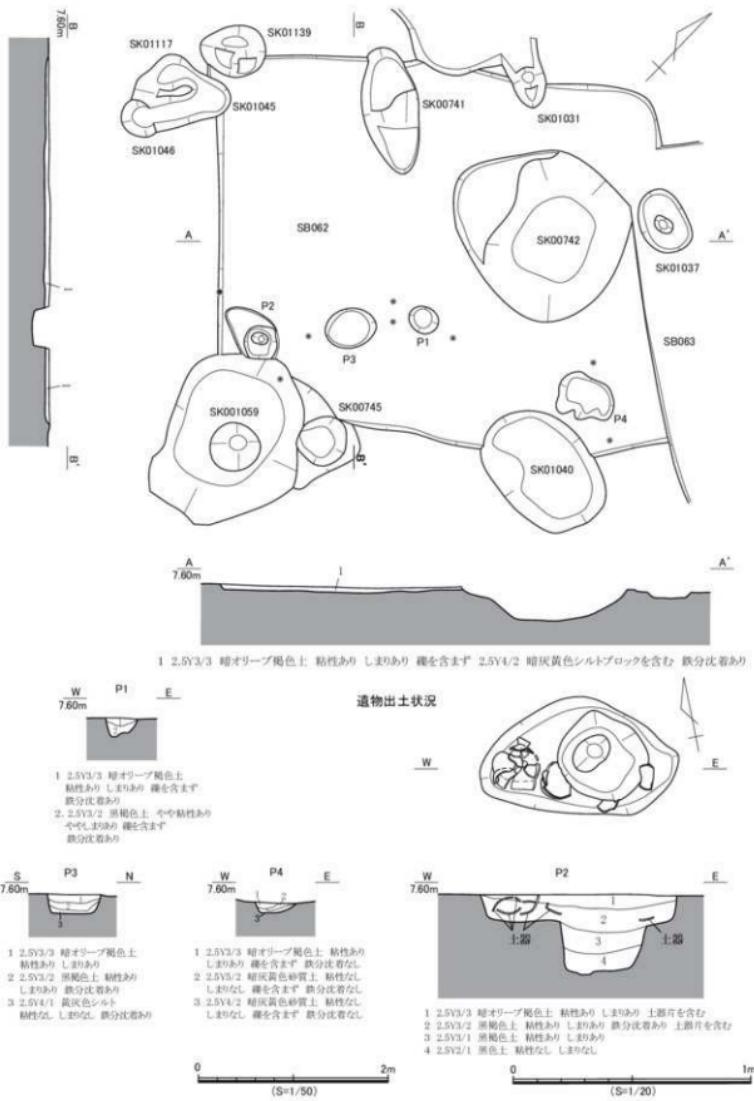


図187 SB062構造図

滅失している可能性がある。1084の口縁部は壺に類似し、内湾する。1080は壺胴部の細片だが直線文の下に貝による刺突が認められる。

時期 出土した遺物からは、VI—3期と思われる。

SB063（遺構：図188・189・190、遺物：図235）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。北東部ではSB064、南西部でSB062と重複するが、SB063が新しいと判断した。

形状 部分的に擾乱溝によって削平されているが、長軸長4.80m、短軸長4.60mで不整形となる。壁面は0.10m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 北西辺から北東辺にかけて断続的に壁溝を確認した。また、内部に3.12m×2.90mの方形に巡る、幅0.2m前後の溝を検出した（図188の内部周溝）。堅穴住居跡の平面形と方向性や中心位置がほぼ同じであることから、間仕切り溝もしくは堅穴住居の拡張前の壁溝の可能性が考えられる。また、床面では小穴を20基検出したが、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積からP1～P4が柱穴の可能性がある。ただし、内部周溝の内側では、柱穴と思われるような小穴は検出していない。炉跡は確認できなかつた。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。なお、P17埋土から多くの土器が出土した。

出土遺物 1085～1089はP17から出土した。1085は壺A3e類で口縁部内面には段があり、横羽状文が認められる。1086は壺E2b類、1087～1089は壺E3類である。P1から出土した1090は壺C4類で、粗いハケがある。埋土中からは壺E1a類（1099）、壺C2類（1098）が出土した。壺E1a類はP15からも出土している（1100）。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、遺構の重複関係から、VII—1期のSB069より新しいことが判明しているため、これよりも後の時期となる。

SB064（遺構：図191、遺物：図236・237）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。南西部でSB063と重複するが、SB063が新しいと判断した。

形状 部分的に擾乱溝によって削平されているが、長軸長4.80m、短軸長4.55mでほぼ正方形となる。壁面は0.10m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかつた。小穴を9基検出したが、北西部に片寄っている。平面的な位置関係からP1とP2は柱穴の可能性がある。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から多くの遺物が出土した。一部大型の土器片がまとまって出土したが、他に出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

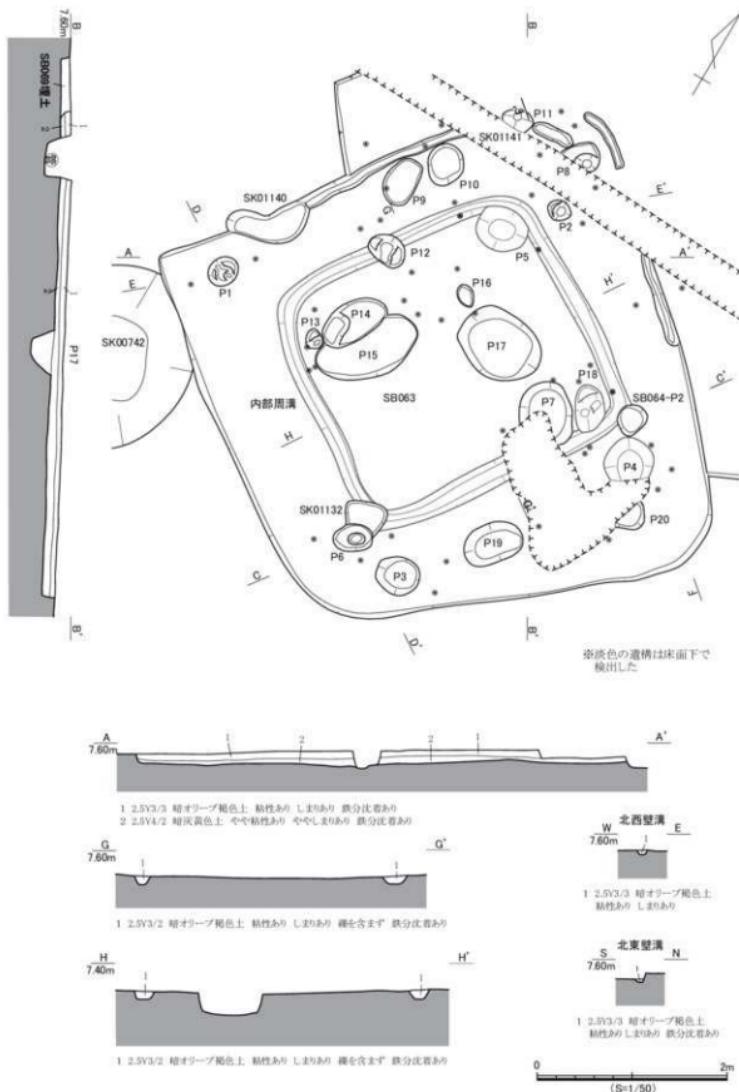


図188 SB063構造図 (1)

出土遺物 1102～1105はSB064よりも新しいSK01198から出土した土器であるが、土坑の底面はSB064の床面を掘り抜いており、参考までに出土遺物を示した。多重沈線と山形文のある高坏C3c類（1102）と高坏B2類（1103）があり、小片だが壺A3類（1104）、壺C4類（1105）もある。1103はV期と考えられ、他はVI期からVII期である。

1106～1133は埋土から出土した。そのうち1111～1113、1117、1122、1125～1127、1131、1133は大型の破片である。1108は高坏D2a類。壺（1111～1115・1117）は6点で、壺A類とB類が確認できる。壺は壺C2類1122・1126、C4類1125、E2a類1127がある。1125は壺C4類の典型例。その他、壺胴部1131、手捏ね1133も出土した。これらは埋土中で比較的まとまった状態で出土した。これらとは別の埋土資

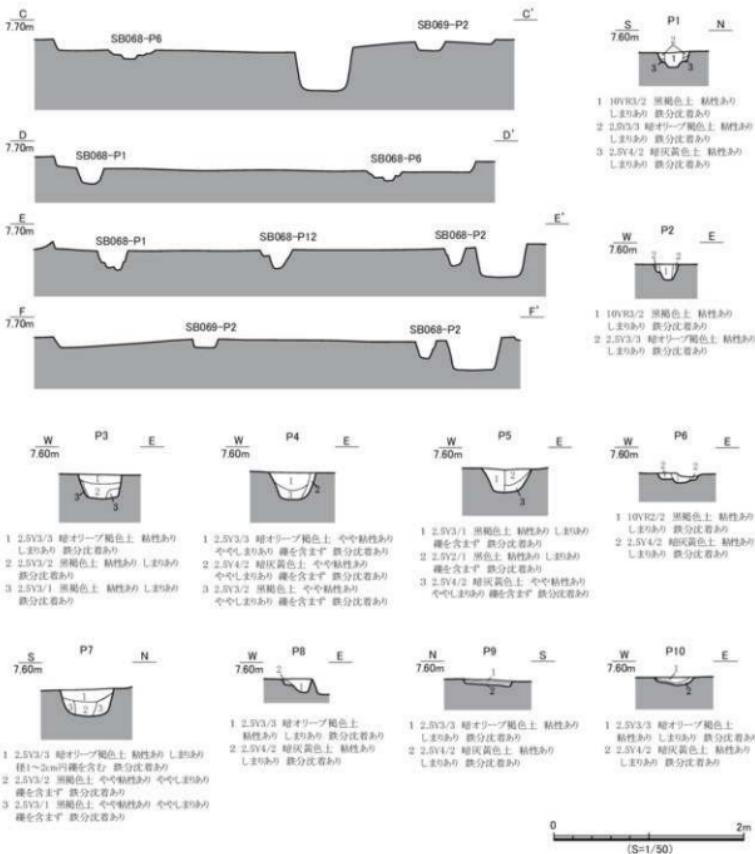


図189 SB063遺構図（2）

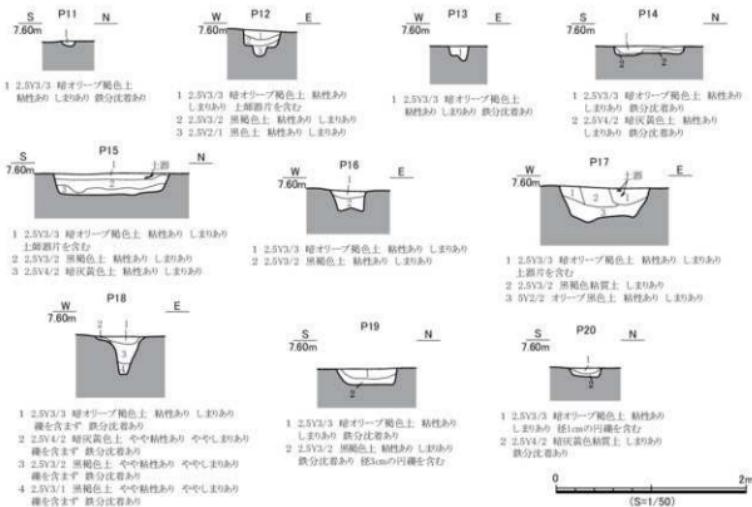


図190 SB063遺構図（3）

料にも比較的大きな破片資料があり、1121、1123、1124、1128は甕B2類・C2類である。中型の甕1130は半完存品で、甕F3類の良好な資料である。

これらの土器は出土状況から、SK01198出土、埋土中のまとまりのある大型土器片、他の埋土出土器に分けることができるが、それぞれVII-1期前後のそれほど時期差のない資料と考えられる。一部1103などV期の資料も含まれるが、比較的VII-1期のまとまりがある資料と思われる。

時期 出土した遺物からは、VII-1期と思われる。

SB065（遺構：図192・193、遺物：図238）

検出状況 A地区北部の堅穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 部分的に他の遺構によって削平されているが、長軸長5.74m、短軸長5.40mでほぼ正方形となる。壁面は0.06m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 壁溝や軌跡は確認できなかった。床面で小穴及び土坑を18基検出したが、このうちP1~P4は平面的な位置関係から柱穴と思われる。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から遺物が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 1134~1137は埋土中から出土したもので、1138はSK01358、1139~1141はSK01359から出土した。この2基の土坑はSB065よりも新しいことから、SB065の時期を検討する上で参考にした。

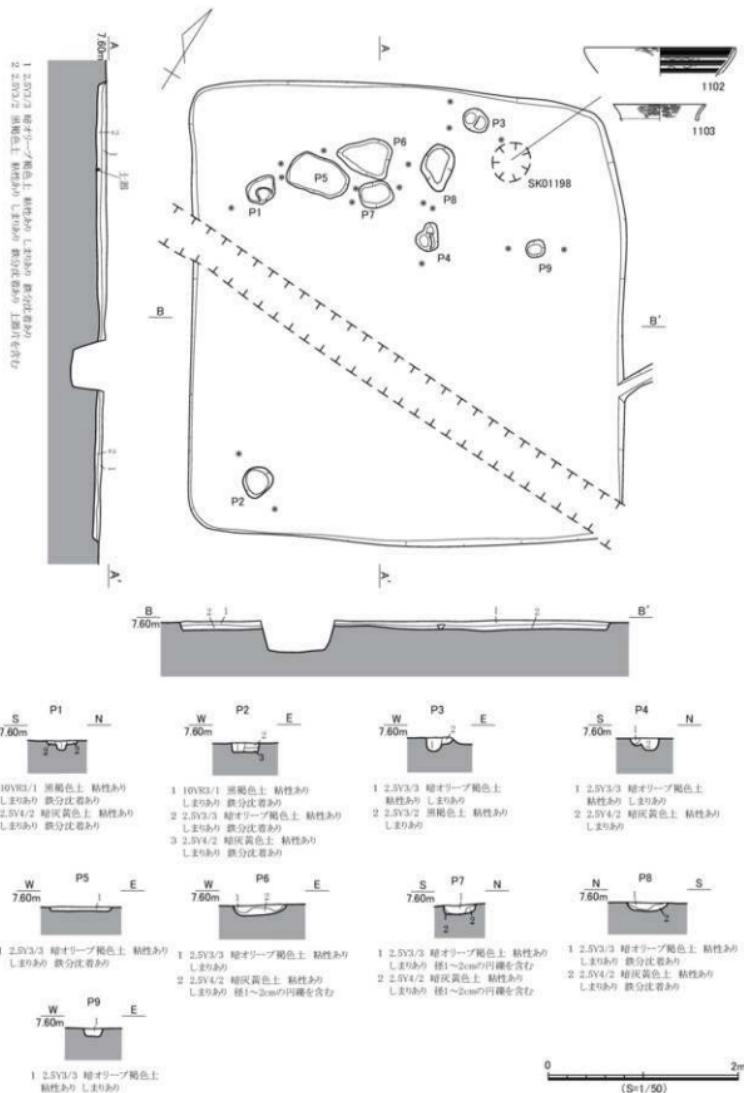


図191 S8064遺構図

1134はV期前半の高坏B1b類である。1137は壺A3e類で口縁部内外面に横羽状文をもち、頸部以下に直線文と波状文を施す。VII期と思われる。1136は甕E3類で1137と同様、VII期と思われる。1135は高坏の坏部と脚部の接合部位である。脚部下方から棒状の工具で算盤玉状の粘土で接合を図っている。1138はSK01358から出土した高坏C類の脚部。SK01359から内面加飾のある高坏C3類（1139～1141・1143）と壺C類（1146～1148）がまとまって出土した。VII-1期前後のものでSB065埋土出土土器と比較的時期が近い資料と考えられるが、明らかにV期の高坏B1b類（1142）も含んでいる。甕A4類とした1144もVII-1期よりは先行すると思われる。1148の壺口縁部には打ち欠きが認められる。

時期 出土した遺物からは、VII-1期と思われる。

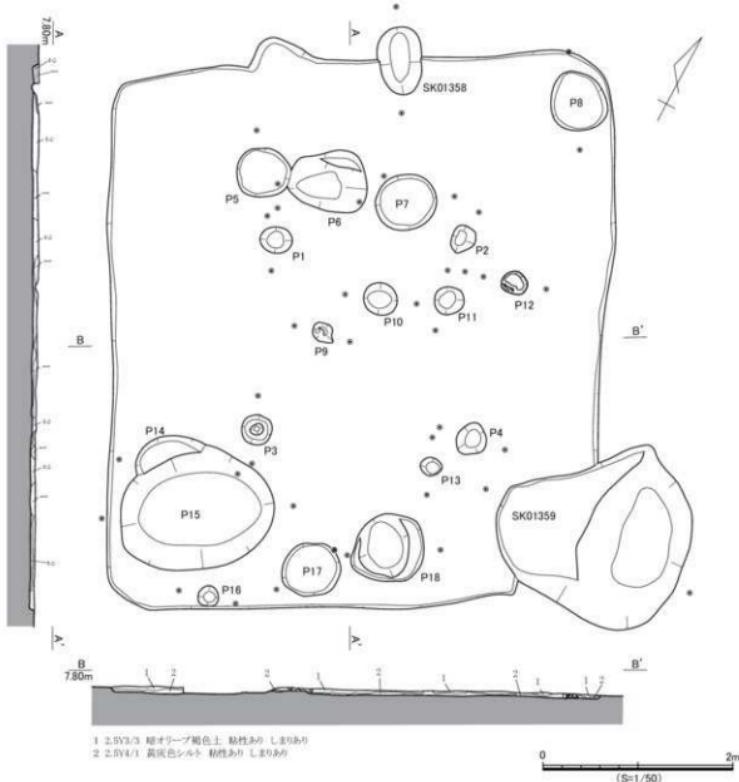


図192 SB065遺構図（1）

SB066（遺構：図194、遺物：図238）

検出状況 A地区北部の竪穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 長軸長4.80m、短軸長4.72mで、なな西南隅が突き出るような不整方形となる。壁面は0.12m

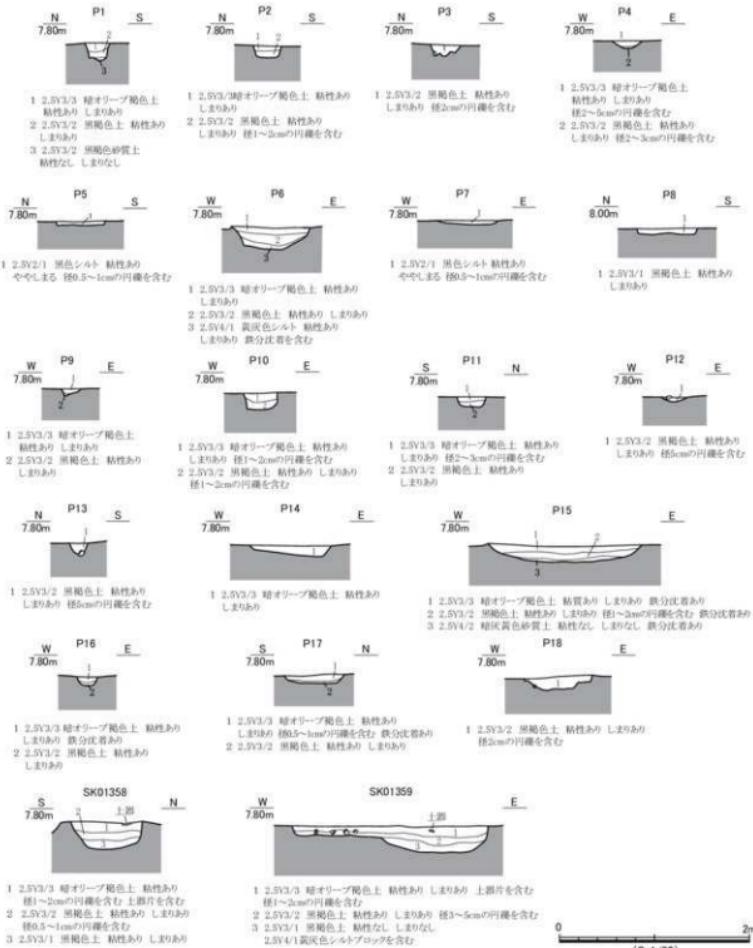


図193 SB065遺構図(2)

前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。床面で小穴を5基検出したが、このうちP1～P3は平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。

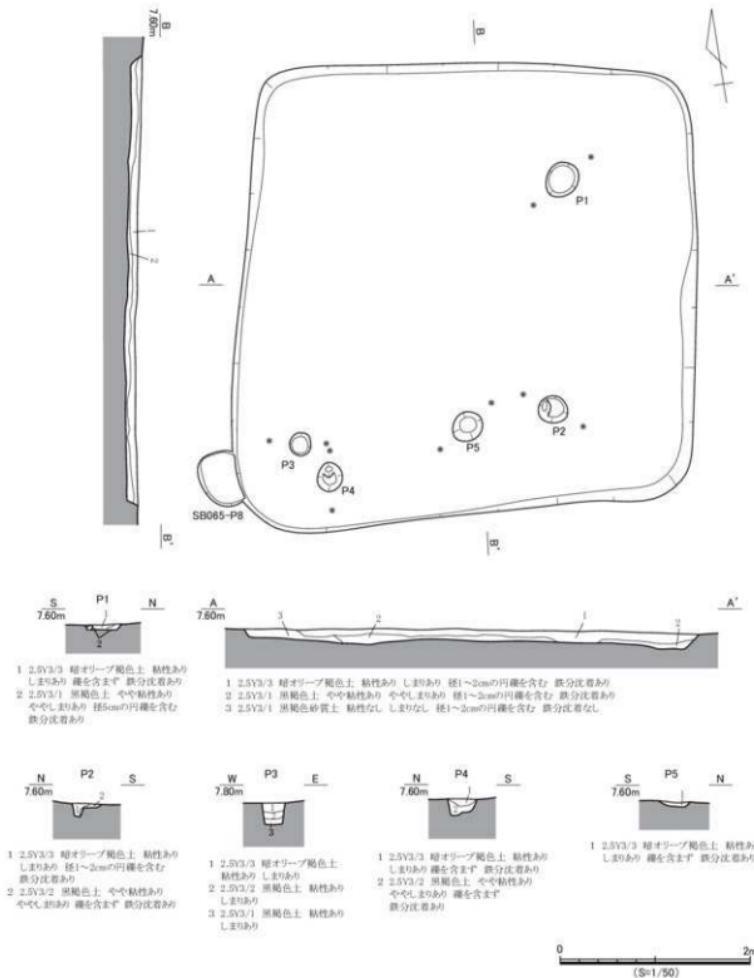


図194 SB066遺構図

埋土 3層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から少量の遺物が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 1150は口縁部が受口状の壺D2類で、口縁部に打ち欠きがある。1151は壺A3d類で内外面ともにハケが残る。1154はIV期の甕である。1152・1153は受口状口縁を有する甕である。1154を除くとVI-3期と思われる。

時期 出土した遺物やSB065、SB067との重複関係から、VI-3期以前と思われる。

SB067（遺構：図195、遺物：図239・240）

検出状況 A地区北部の壁穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 一部溝状遺構により削平されているが、長軸長4.60m、短軸長4.50mで、ほぼ正方形となる。壁面は0.06m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかつた。床面で小穴を6基検出したが、柱穴は不明確である。また、埋土中から炭化材が出土したことから、焼失住居と思われる。炭化材は遺存状態は悪く、碎片化しているため、上部構造を復原することはできなかつた。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 西壁から南西隅にかけて、土器片がまとめて出土した（1155～1160）ほか、住居の中央近くから砥石（1166）が出土した。

出土遺物 住居内出土の炭化材は、樹種同定の結果、アカガシ亜種（12点）、ヒサカキ（1点）、シイノキ（4点）、ヒノキ（1点）であった。

1155は高坏はC3a類、1156は高坏D1a類である。1157は壺A1b類とした脚付壺。脚付壺として形状が復元できた例は本例のみである。装飾のない口縁部をもち、頭部以下に直線文と刺突文を2帯加えるが、その範囲はかなり狭い。文様帶以下はミガキのないまゝハケが残り、やや雑なつくりである。ハケは胴部最大径付近では横方向となり、甕と同様の手法となる。胴部最大径は中央よりかなり下がり、その形状は下彫れである。脚部は据部にむかって強く外反し、不安定である。1158・1159とも甕A6a類で胴部の膨らみに差異が認められるが、類似性の強い資料。比較的長く外反する口縁部と口縁端部にわずかな受口状口縁の痕跡が認められ、胴部は倒卵形で最大径はやや中央より下がる位置となる。外面には粗いハケ、内面には板ナデがみられる。1158の脚部には打ち欠きが認められる。1160は手焙形土器で、胴部と覆部がセットで確認できたのは本例のみである。胴部は鉢A類を原形として最大径付近に突帯2条を貼付して、その上を羽状の刺突を加える。覆部はハケ調整を基本として3帯の斜格子文が認められる。時期は高坏・甕の特徴からVI-3期と思われる。1161～1165は埋土から出土した。1161は丁寧なミガキの残り、高坏C類もしくはD類の脚部であろう。1162は多重沈線のめぐる壺の脚部とした。1165は甕の比較的大きな破片の資料だが、口頭部を欠損する。ハケの調子からみて、A6類とは別の胴部と考えられる。1166は砂質凝灰岩製の砥石で、表裏面と側面に砥面を残す。

時期 出土した遺物からVI-3期と思われる。重複関係があるSB066よりも新しいと思われるが、出土した遺物にはあまり時期的な差がない。

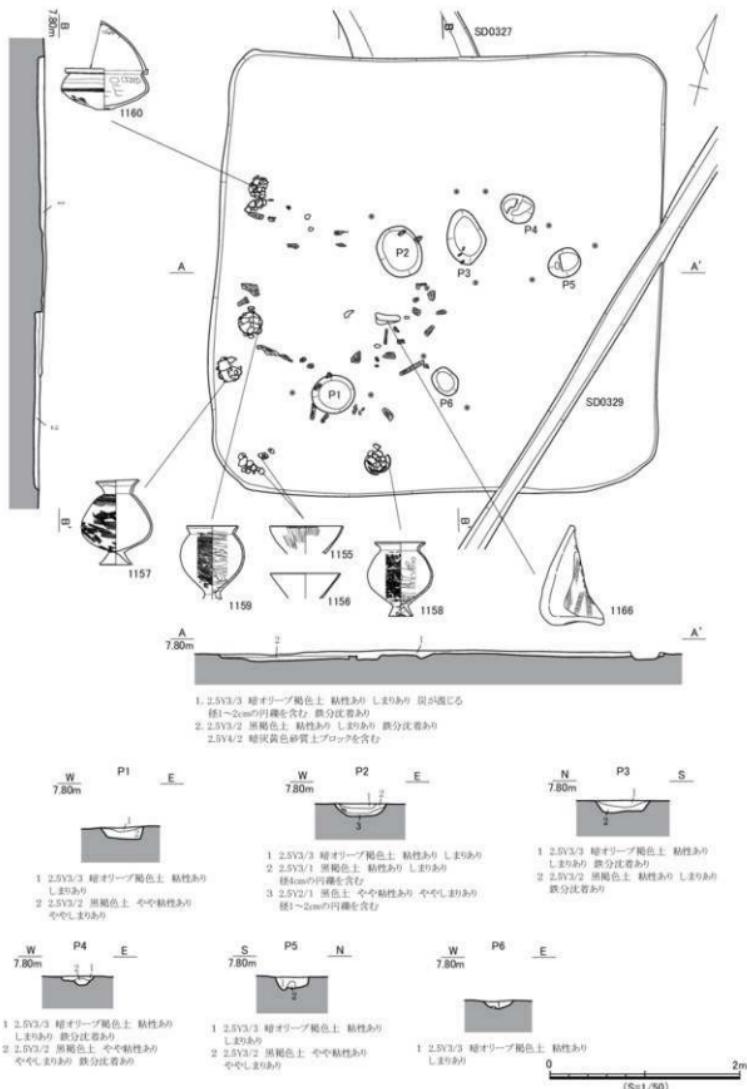


図195 SB067造構図

SB068（遺構：図196、遺物：図240）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 中央部をSK01134により削平されているが、長軸長4.30m、短軸長4.25mで、ほぼ正方形となる。壁面は0.20m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 南西辺で部分的に壁溝を検出したが、炉跡は確認できなかった。床面で小穴を8基検出したが、柱穴は不明確である。

埋土 3層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1167は高壺C3b類で、VII-1期と思われる。1173は甕E1b類であるが、SB068よりも新しいと判断したSK01134から出土した。

時期 出土した遺物からVII-1期と思われる。

SB069（遺構：図197、遺物：図241）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 北半部が調査区外となるが、検出した東西長5.00mで南半部の形状から、方形もしくは長方形の平面形となる。壁面は0.20m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 壁溝や炉跡は確認できなかった。床面で小穴を11基検出したが、平面的な位置関係からP1とP2が柱穴と思われる。

埋土 3層に分層したが、ほぼ水平に堆積していた。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、甕脚部（1180）が床面から出土したほかは、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 高壺C3a類（1174）、C3b類（1175）が出土しているので、およそVI-3期前後が目安となる。甕はA3類（1178）、A4類（1179）があり1178の頸部下には刺突文がみられる。

時期 出土した遺物からVI-3期と思われる。

SB070（遺構：図198）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。

形状 大半が調査区外となるが、検出した東隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形となる。壁面は0.05m前後の深さがあり、比較的急傾斜となる。

床面 南東辺で壁溝を検出したが、炉跡は確認できなかった。床面で小穴を1基検出したが、壁溝と重複する部分があることから、この壺穴住居跡とは無関係である可能性が高い。

埋土 単層であった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示できる遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり、時期不明である。

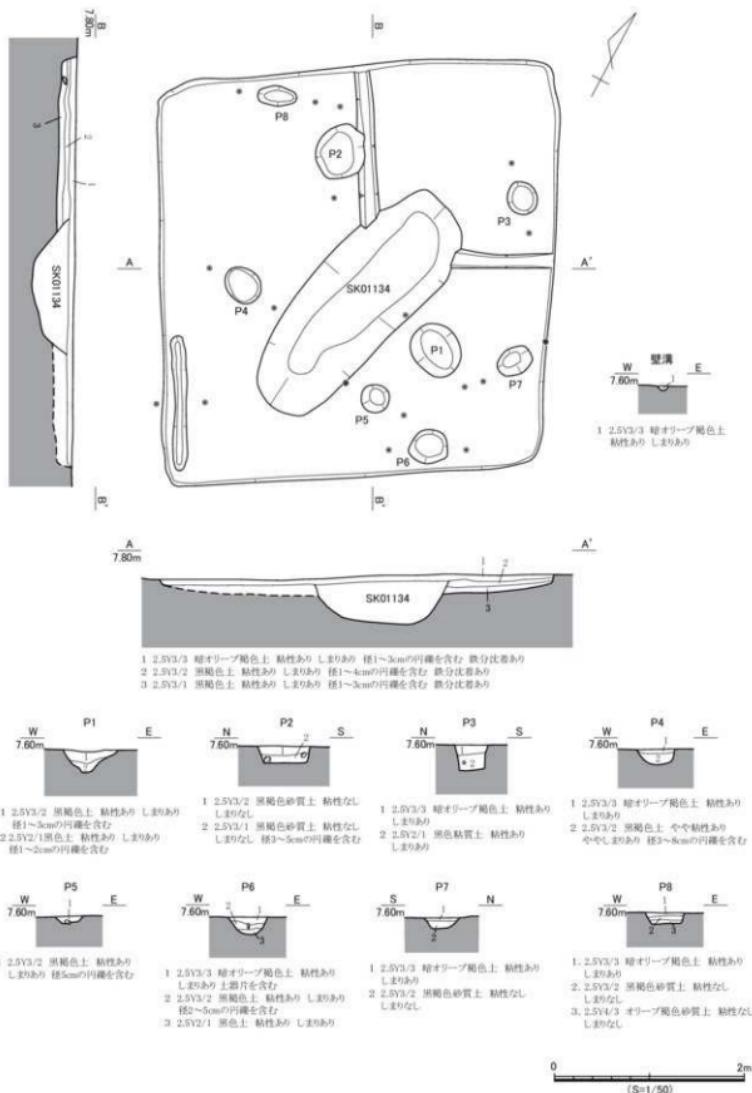


図196 SB068構造図

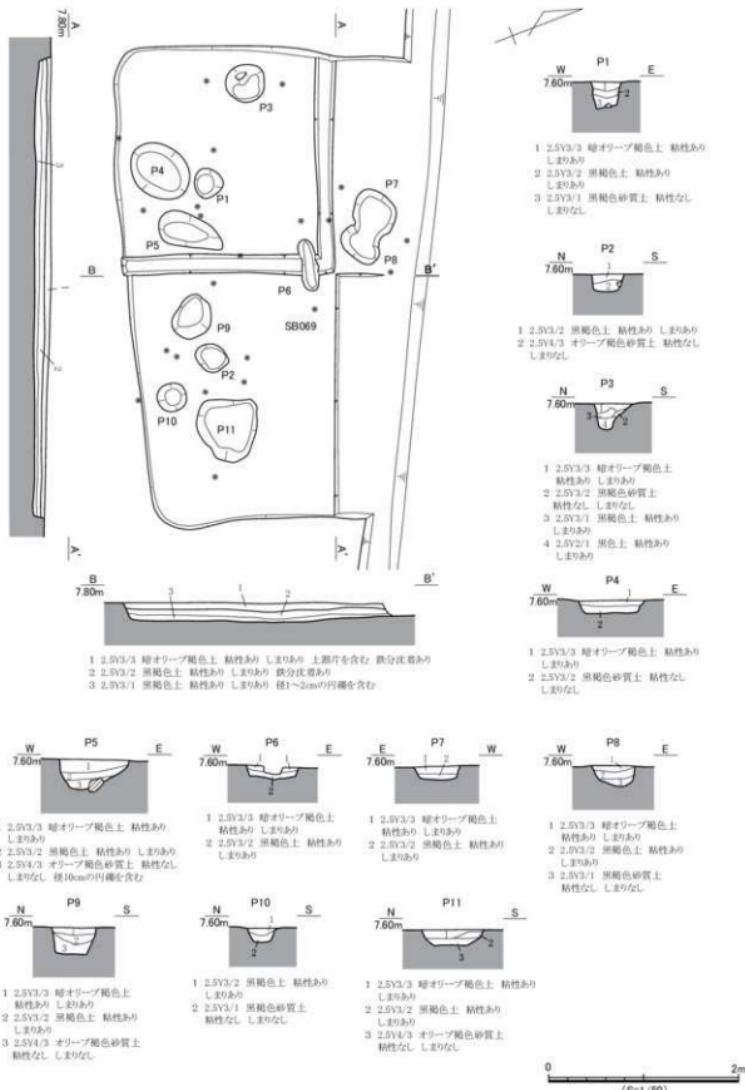


図197 SB069遺構図

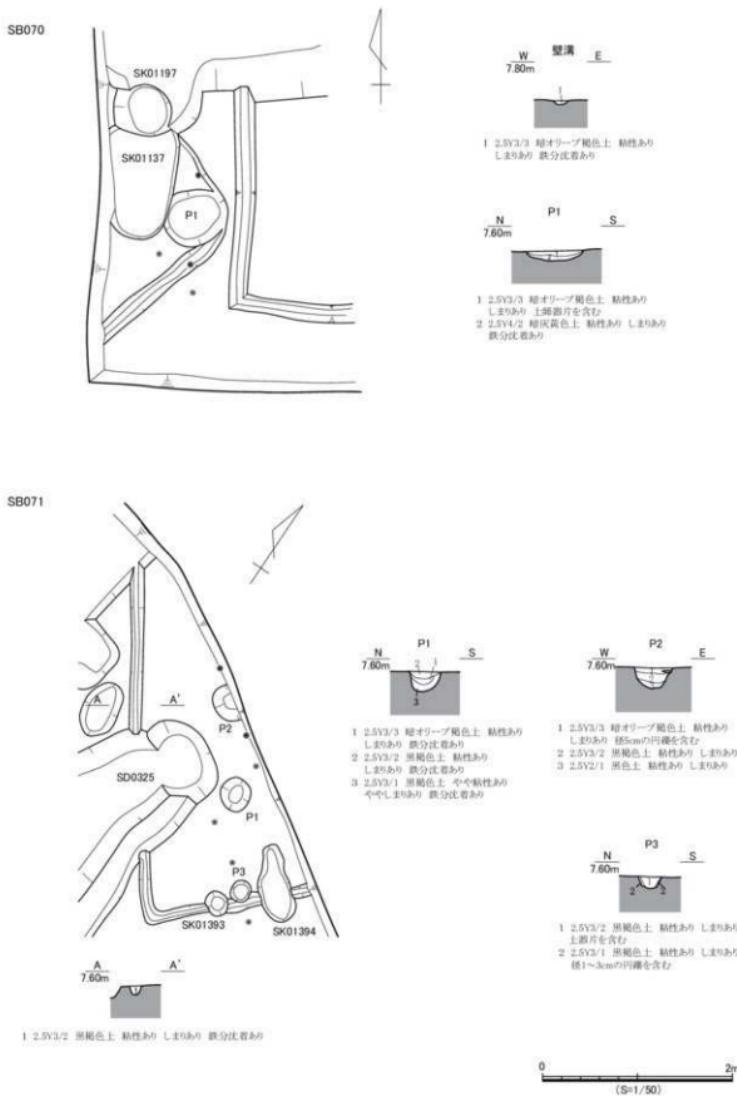


図198 SB070・SB071造構図

SB071（遺構：図198）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出したが、掘形は確認できず、壁溝と小穴の存在により壺穴住居跡と判断した。

形状 大半が調査区外となるが、検出した南隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形となる。壁面は残存していなかった。

床面 南西及び南東辺で壁溝を検出したが、炉跡は確認できなかった。床面で小穴を3基検出したが、平面的な位置関係からP1が柱穴と思われる。P3は壁溝と重複する部分があることから、この壺穴住居跡とは無関係である可能性がある。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、図示できる遺物はなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり、時期不明である。

SB072（遺構：図199、遺物：図241）

検出状況 A地区北部の壺穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出したが、南辺は調査区外となる。

形状 南辺が調査区外となるが、東西長3.27mで方形と思われる。壁面は0.05mほどの深さがあり、比較的急傾斜となる。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平堆積である。また、床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層を確認した。

床面 検出した壁面に沿って、幅0.15m前後の壁溝を検出した。床面で小穴を7基検出したが、平面的な位置関係からP1～P4が柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1181は壺A3a類で、棒状浮文と内面に横羽条文がみられる。1182は口縁端部に沈線のある甕D2類である。1183はX期もしくはそれ以降の高杯である。1184は泥岩製の削器である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であり、時期不明である。

SB073（遺構：図200、遺物：図241）

検出状況 A地区東部の壺穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、東半部は調査区外となり、SB074に南部を削平されている。

形状 大半が調査区外となるが、東隅部の形状から方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.05mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 単層であったが、下層に床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層を確認した。

床面 検出した壁面に沿って、幅0.10m～0.15mの壁溝を検出した。床面で小穴を1基検出したが、平面的な位置関係から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が少量出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1185は高杯B1b類、1186は高杯B類に脚部であろう。1187は小片だが口縁端部下端に刺突をもつ甕A2類とした。いずれの資料も小片だが、V期前半の資料と考えられる。

時期 出土した遺物からは、V期と思われる。

SB074 (構造: 図200、遺物: 図241)

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、東半部は調査区外となり、SB075に南部を削平されている。

形状 大半が調査区外となるが、検出した西辺が直線的であることから方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.10mほど残存し、比較的急傾斜となる。

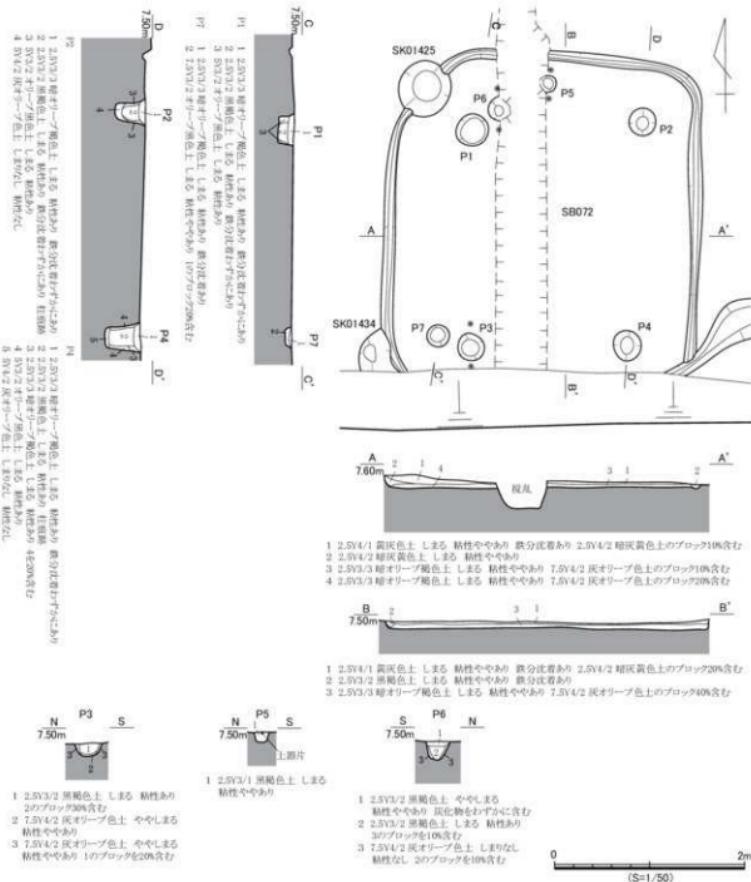
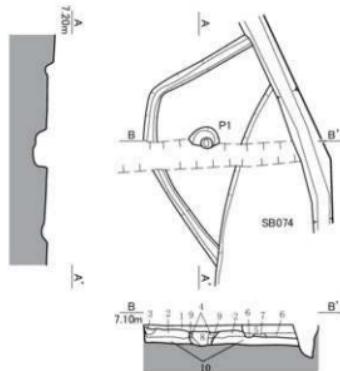


図199 SB072構造図

SB073



SB074

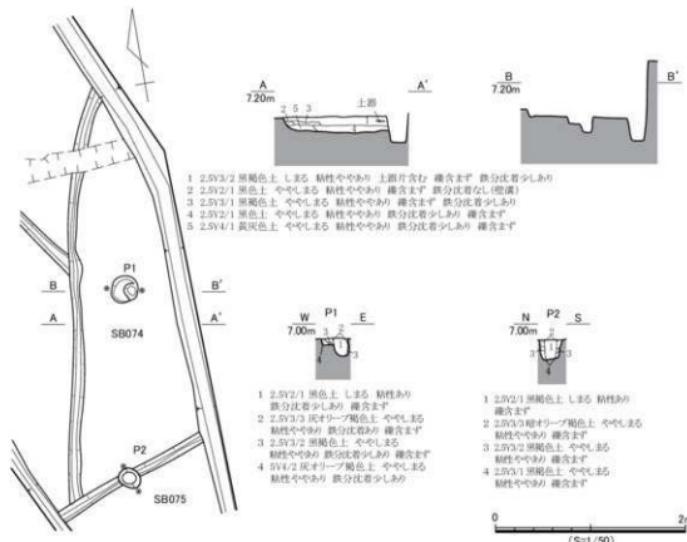


図200 SB073・SB074遺構図

埋土 2層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層に床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層を確認した。

床面 検出した壁面に沿って、幅0.10m～0.15mの壁溝を検出した。床面で小穴を2基検出したが、平面的な位置関係から柱穴と思われる。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が少量出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1188の高環B2a類、基部に直線文のある1189の器台A1類が認められる。V期前半と思われる。

時期 出土した遺物からは、V期と思われる。

SB075（遺構：図201、遺物：図241）

検出状況 A地区東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、大半が調査区外となる。

形状 大半が調査区外であるが、検出した北辺が直線的なことから方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.10mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 2層に分層したが、ほぼ水平に堆積している。また、下層に貼床及び床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層を確認した。

床面 検出した北壁では壁面に沿って、幅0.12m～0.15mの壁溝を検出した。床面で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積が認められることから柱穴の可能性がある。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が少量出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1195はIV期甕の底部片で、重複した方形周溝基に関連する遺物の可能性がある。1192は脚柱部に横線文のある高環脚部である。1193は沈線文様のある器台である。1192～1194はV期前半と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、V期と思われる。

SB076（遺構：図201、遺物：図242）

検出状況 A地区南部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、1/2以上が調査区外となる。

形状 1/2以上が調査区外であるが、検出した北西辺と北東辺が直線的なことから方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.05mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 3層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層に床面形成のため掘形を埋めたと思われる土層を確認した。

床面 検出した北西及び北東の壁面に沿って、幅0.10m～0.16mの壁溝を検出した。北東辺の東端では南西に湾曲して調査区外へ続いていることから、ここが東隅部にあたると思われる。柱穴や炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1197は波状文のある高環B1b類、1196は多重沈線のある高環D2d類、1202は甕はA5類、1204

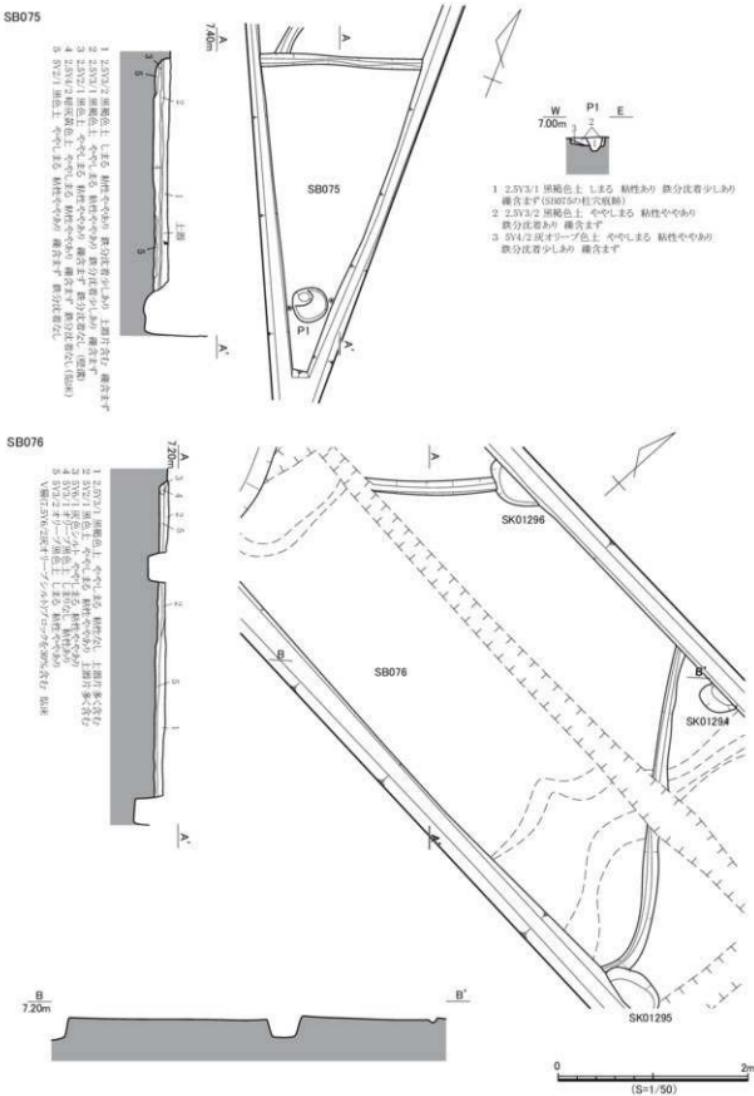


図201 SB075・SB076遺構図

は焼E2a類である。V期期とVI期後半～VII期前半のものがある。他の壺（1201）や高杯（1198）もVI期後半に相当する。しかし、1198・1200・1203は住居内を掘削した暗渠排水溝から出土したものであり、注意を要する。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期と思われる。

SB077（遺構：図202、遺物：図242）

検出状況 A地区南部東寄りの竪穴住居跡が散在する場所に位置する。V層上面で検出したが、北辺及び南辺が調査区外となる。また、調査時は西側に構造構がSB077を削平すると判断し、調査を行つたが、出土遺物は明らかにSB077のものが後出であったため、重複関係を認証し、西側を掘削してし

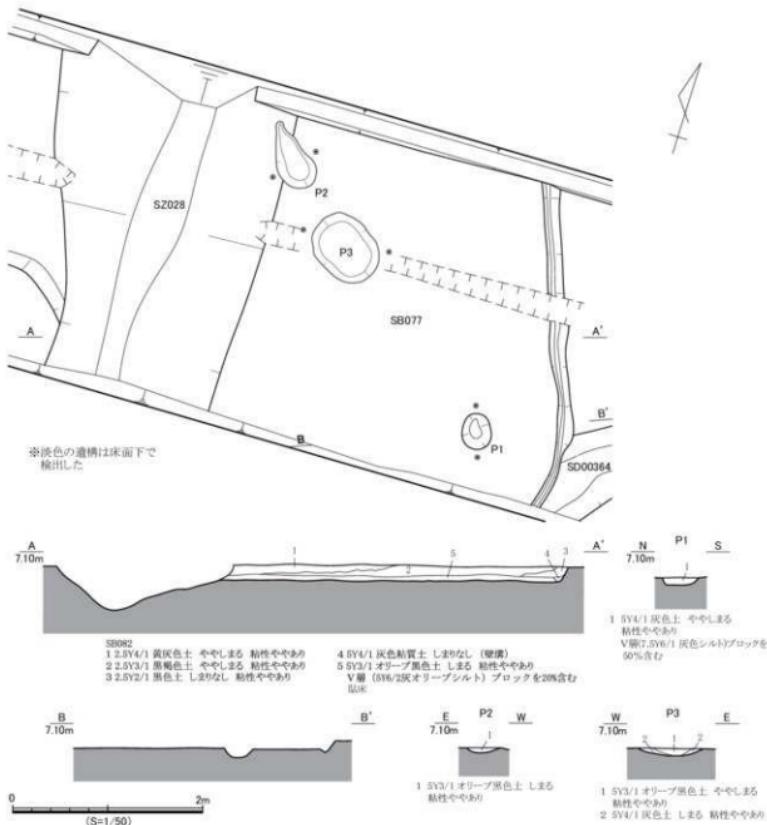


図202 SB077遺構図

また。

形状 検出した東辺が直線的で、湾曲して南辺に至ると思われることから、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.12mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 3層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層に貼床層を確認した。

床面 東壁に沿って、幅0.16m前後の壁溝を検出した。南東隅近くで小穴を1基検出したが、平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。また、貼床層を除去したところ、小穴を2基検出した。SB077に伴う遺構ではないかもしない。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から比較的多くの土器片が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1205は高壙B1類、1206は高壙B2類、1207は高壙B2類、1213～1215は甕A3類にあたり、V期後半と思われる。1209と1210は器台B1類もしくはB2類、1219の甕脚部は前述の資料とは異なり、VI期と思われる。1217と1218はIV期のもので混入資料と思われる。1211は透孔の位置が上下で交互にある器台で、VI期に相当する。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、V期後半と思われる。

SB078（遺構：図203、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、堅穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、北西辺から北東辺の一部を検出しただけで、他は調査区外となる。また、南東辺ではSB079と重複しており、これよりも古いことを確認した。

形状 検出した北隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.06mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 単層であるが、下層に貼床層を確認した。

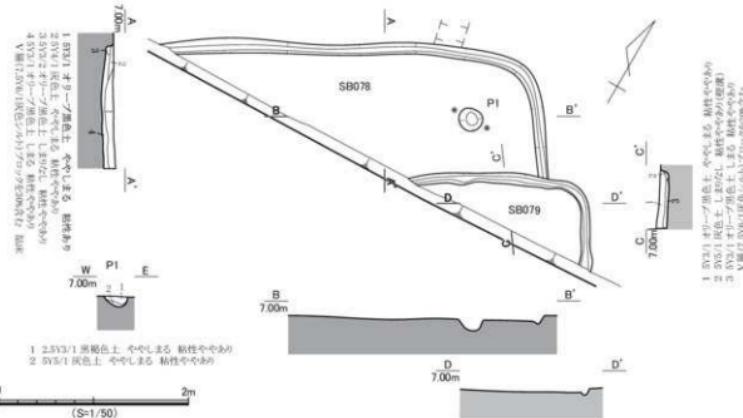


図203 SB078・SB079遺構図

床面 検出した壁に沿って、幅0.12m～0.15mの壁溝を検出した。また、北隅部で小穴を1基検出したが、平面的な位置関係から柱穴の可能性がある。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1220は埋土から出土したもので、VI期からVII期の甕の胴部片である。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難なため不明である。

SB079（遺構：図203）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、北西辺から北東辺の一部を検出しただけで、大半は調査区外となる。また、北西辺ではSB078と重複しており、これよりも新しいことを確認した。

形状 検出した北隅部の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.06mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 単層であるが、下層に貼床層を確認した。

床面 検出した壁に沿って、幅0.12m～0.15mの壁溝を検出した。柱穴及び炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められず、図示可能な遺物もなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難なため不明である。

SB080（遺構：図204、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、南部1/3程度が調査区外となる。北部ではSH002と重複しており、これよりも新しいことを確認した。

形状 南部が調査区外となるが、長軸長4.52m、短軸長3.47mと長方形である。壁面は0.05mほど残存し、比較的急傾斜となる。

埋土 単層であるが、下層に貼床層を確認した。

床面 検出した壁に沿って、幅0.10m～0.14mの壁溝を検出した。また、床面で4基の小穴を確認したが、平面的な位置関係や柱痕跡の堆積からP1～P3が柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかつた。貼床層を除去したところ、P5を確認したが、浅い穴である。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1221は高壙の脚部、1222は壙B2類で、VI期のものである。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難だが、VI期の可能性がある。

SB081（遺構：図204、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、南北隅を検出しただけである。

形状 南西隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形と思われる。壁面は0.03mほど残存し、比較的急傾斜となる。

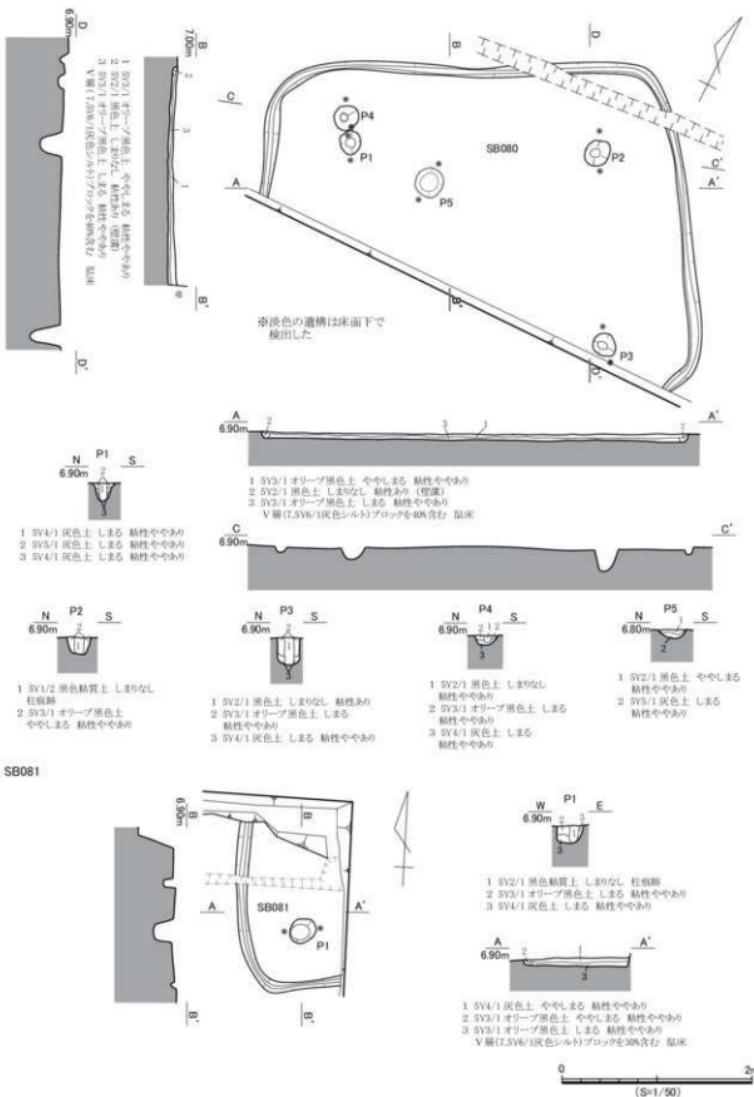


図204 SB080・SB081遺構図

埋土 単層であるが、下層に貼床層を確認した。

床面 検出した壁に沿って、幅0.10m～0.14mの壁溝を検出した。また、床面で1基の小穴を確認したが、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 1223は高環H類で、V期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難だが、V期の可能性がある。

SB082（遺構：図205、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、西辺部が調査区外となり、南辺部はSB083によって削平されている。

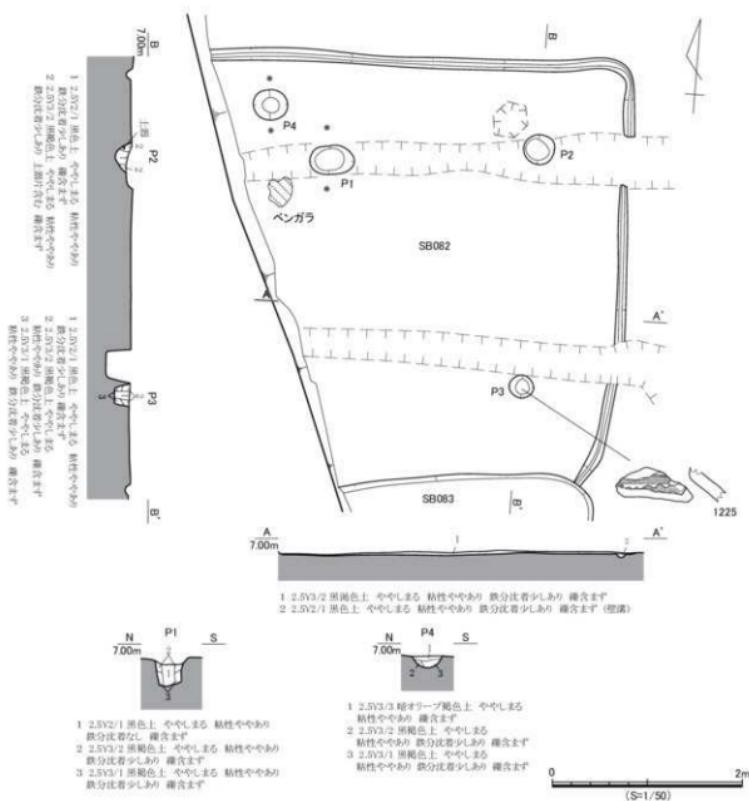


図205 SB082遺構図

形状 北辺及び東辺の形状から、方形もしくは長方形の平面と思われる。壁面は0.03mほど残存し、比較的の急傾斜となる。

埋土 非常に薄くしか残存していなかった。

床面 検出した壁に沿って、幅0.12m～0.15mの壁溝を検出した。また、床面で4基の小穴を確認したが、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、P1～P3は柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかつた。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。なお、北西隅のP1近くにおいて、ベンガラがまとまって出土した。

出土遺物 1224は波状文があり、高坏B1b類であろう。1226も高坏B類の脚部で、透孔のうち1つが貫通していない。1227はII期の資料である。1228はチャート製の凸基有茎式石鐵。V期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難だが、V期の可能性がある。

SB083（遺構：図206、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、壺穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、西半部が調査区外となり、東辺の一部はSB087、南辺の一部はSB089によって削平されている。

形状 西半部が調査区外となるが、検出した北辺及び東辺の形状から、方形もしくは長方形の平面と思われる。壁面は0.04mほど残存し、比較的の急傾斜となる。

埋土 単層であるが、下層に貼床層を確認した。

床面 検出した壁に沿って、幅0.10m～0.14mの壁溝を検出した。また、床面で6基の小穴を確認したが、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、P1とP2は柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかつた。

遺物出土状況 床面上で高坏部（1229）が正位の状態で出土した。埋土中からは少量の土器片が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかつた。

出土遺物 1229は高坏B2b類の坏部で、口縁部が強く外反する。V-3期と思われる。1230は壺頭部片、1231は甕A4類の口縁部片である。

時期 床面上から出土した高坏（1229）から、V-3期と思われる。

SB084（遺構：図207、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、壺穴住居跡が密集する。SB087床面で壁溝を検出したことにより判明した。重複関係にあるSB086やSB087よりも古く、SB085よりも新しいと思われる。なお、SB087とは平面形がわずかに東にずれているだけであり、SB084を建て替えた可能性がある。

形状 長軸長5.23m、短軸長4.50mで、北隅部がやや銳角となる不整長方形である。壁面は残存していない。

埋土 埋土はなく、貼床層を確認した。

床面 SB087床面で不整長方形に巡る、幅0.08m~0.12mの壁溝を検出した。また、小穴も確認したが、SB084に関連する可能性があるものを抽出するとP1~P7の7基の小穴で、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、P1~P4が柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 貼床層から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1232は甕D1類の口縁部片である。

時期 出土遺物からは時期決定が困難であるが、VI-1期とする区画溝からVI期前半と推定する。

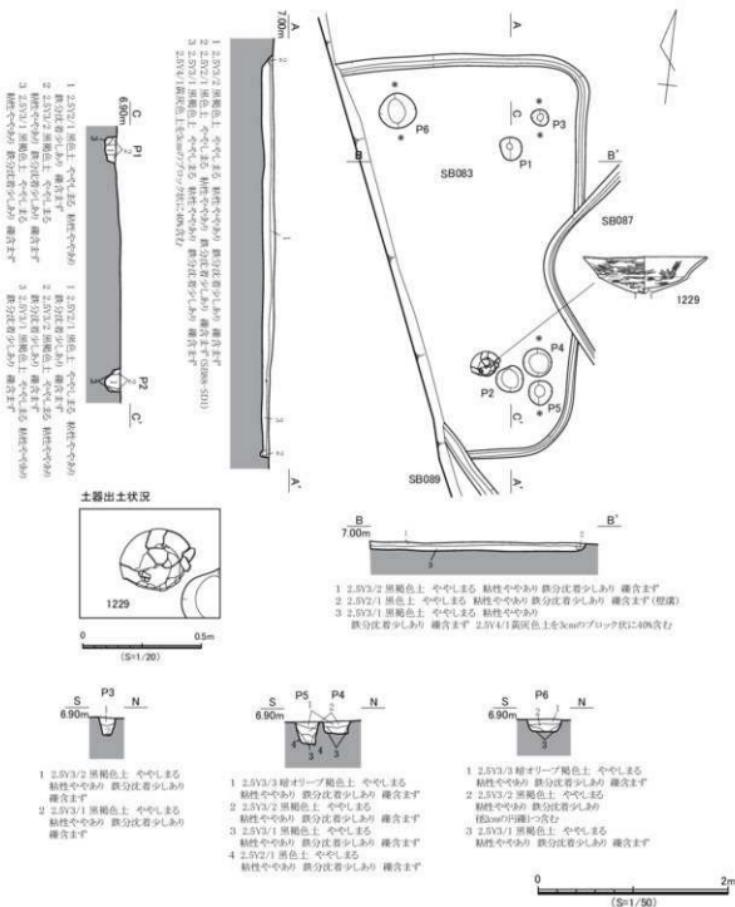


図206 SB083遺構図

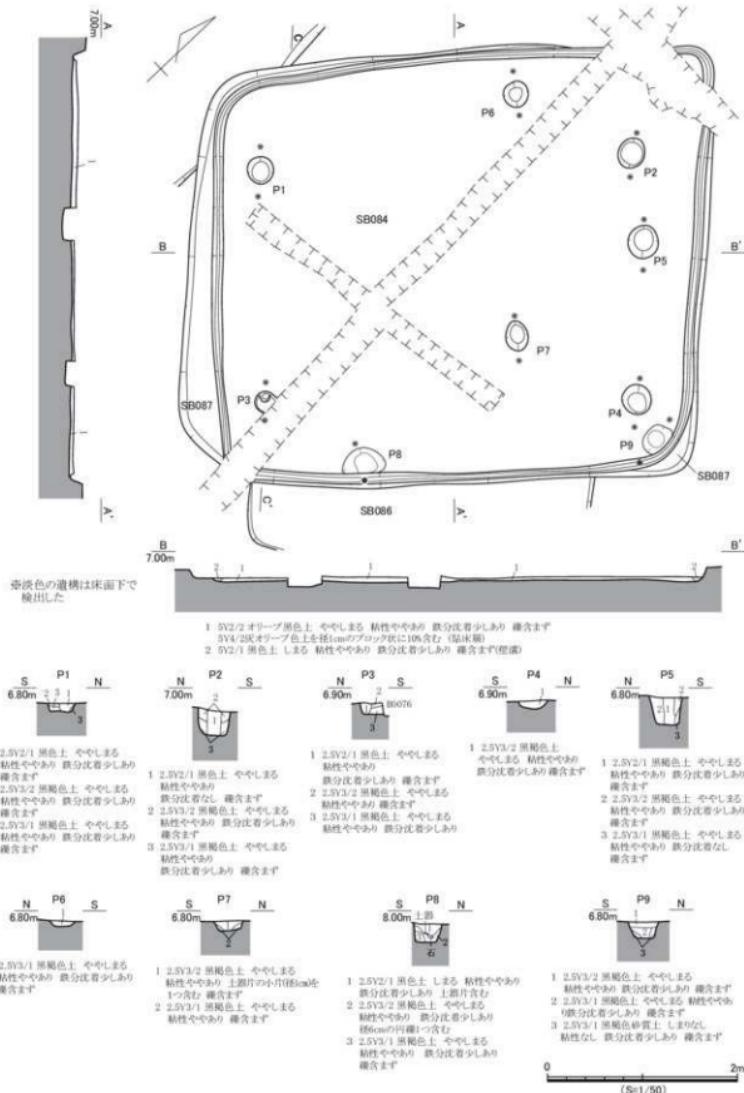


図207 SB084遺構図

SB085（遺構：図208、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面からSB084床面で検出した。重複関係にあるSB084やSB086、SB087よりも古いと思われる。

形状 長軸長5.10m、短軸長4.10mのほぼ長方形である。壁面は北東から南東辺で0.04mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 壁溝埋土を含めて6層に分層したが、4層から6層は床面を形成するために掘形を埋めた土層と思われる。

床面 壁面に沿って幅0.14m～0.25mの壁溝を検出した。また、小穴も確認したが、SB085に関連する可能性があるものを抽出するとP1～P6の6基の小穴で、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、P1～P4が柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 貼床層から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1233はP6から出土した、刺突文のある鉢A4類である。

時期 出土遺物から時期決定が困難であるが、VI-1期とする区画溝からVI期前半と推定する。

SB086（遺構：図209、遺物：図243）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、南東部を一部検出しただけである。重複関係にあるSB084やSB087よりも古く、SB085よりも新しいと思われる。

形状 検出した東隅から南隅までの形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は南東辺で0.04mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 壁溝埋土を含めて3層に分層したが、3層は床面を形成するために掘形を埋めた土層と思われる。

床面 壁面に沿って幅0.08m～0.13mの壁溝を検出した。また、床面で2基、SB087床面で検出した小穴の中で1基、SB086に関連する可能性があるものも抽出し、P1～P3の3基の小穴が平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P1埋土上部から甕(1236)が横位で出土した。また、埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1234は壺、1235は甕の破片であろう。1236はP1から出土した甕A2類で、胴部は下ぶくれ気味となり底部を欠く。直線文と刺突文が頸部付近に凝縮されて施文される。

時期 P1から出土した遺物からは、VI期前半と思われる。

SB087（遺構：図210、遺物：図244）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、重複関係にあるSB083、SB085、SB086よりも新しいと思われる。

形状 長軸長5.20m、短軸長4.65mの長方形である。壁面は0.04mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 単層である。

床面 壁面に沿って幅0.10m～0.18mの壁溝を検出した。また、床面で多数の小穴を確認したが、こ

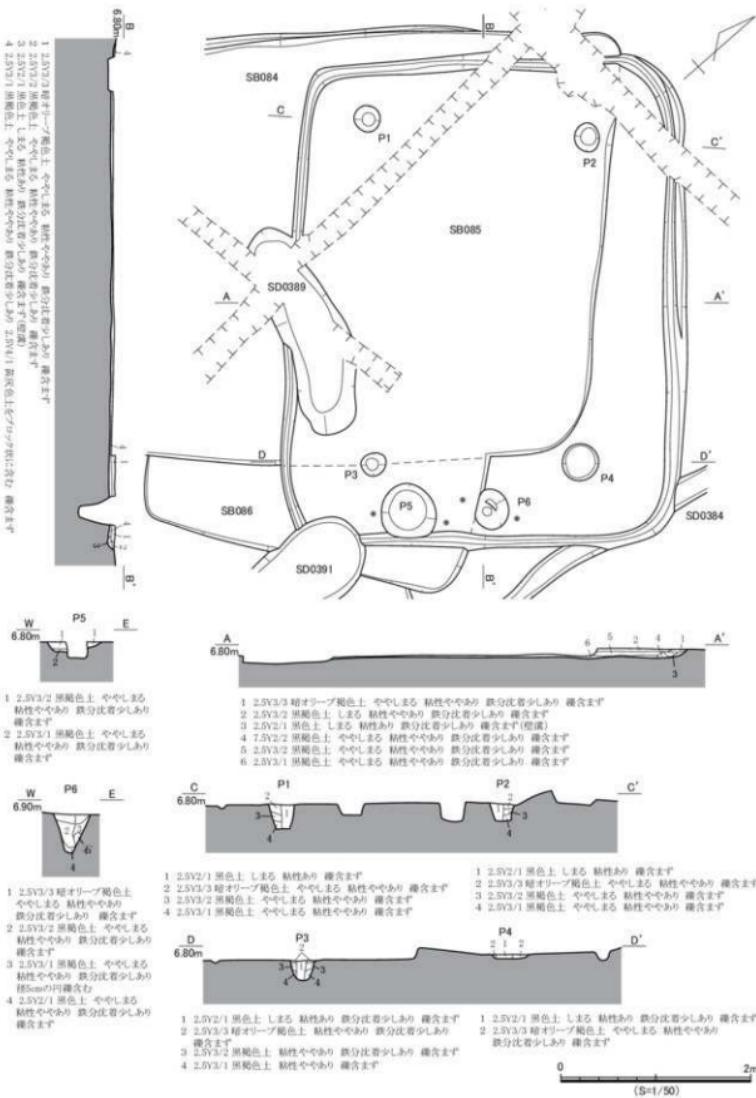


図208 SB085遺構図

のうちSB087に関係すると思われるは8基で、P1～P4の4基の小穴が平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1237は高坪B2a類、1241は壺A1類、1240は壺A2類である。1240の口縁端部が頗著に直立し、端部・胴部ともに刺突文がみられる。V-3期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、重複するSB083よりも新しいことから、VI期前半と思われる。

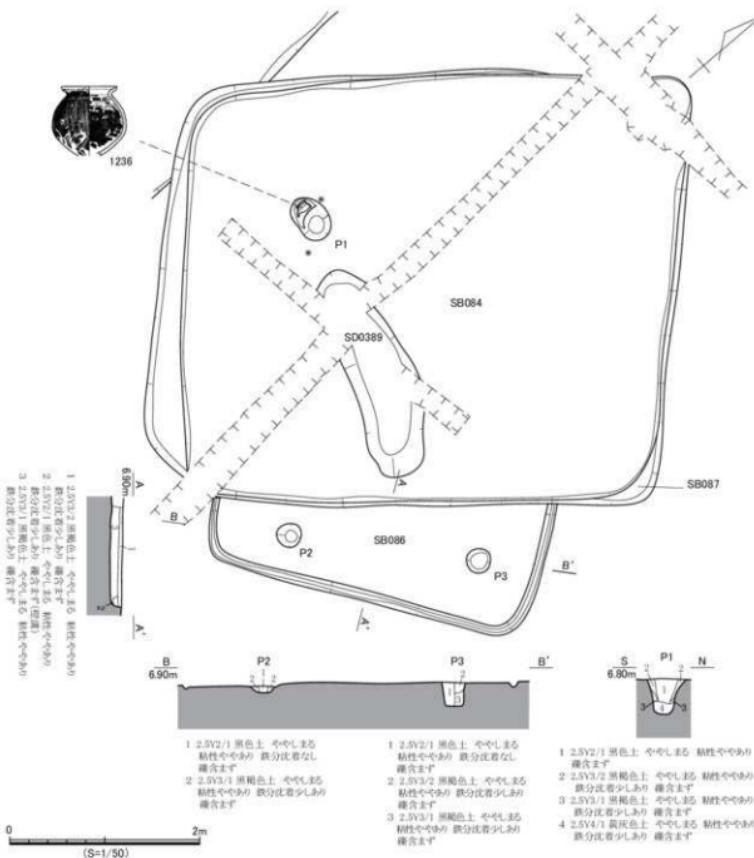


図209 SB086構造図

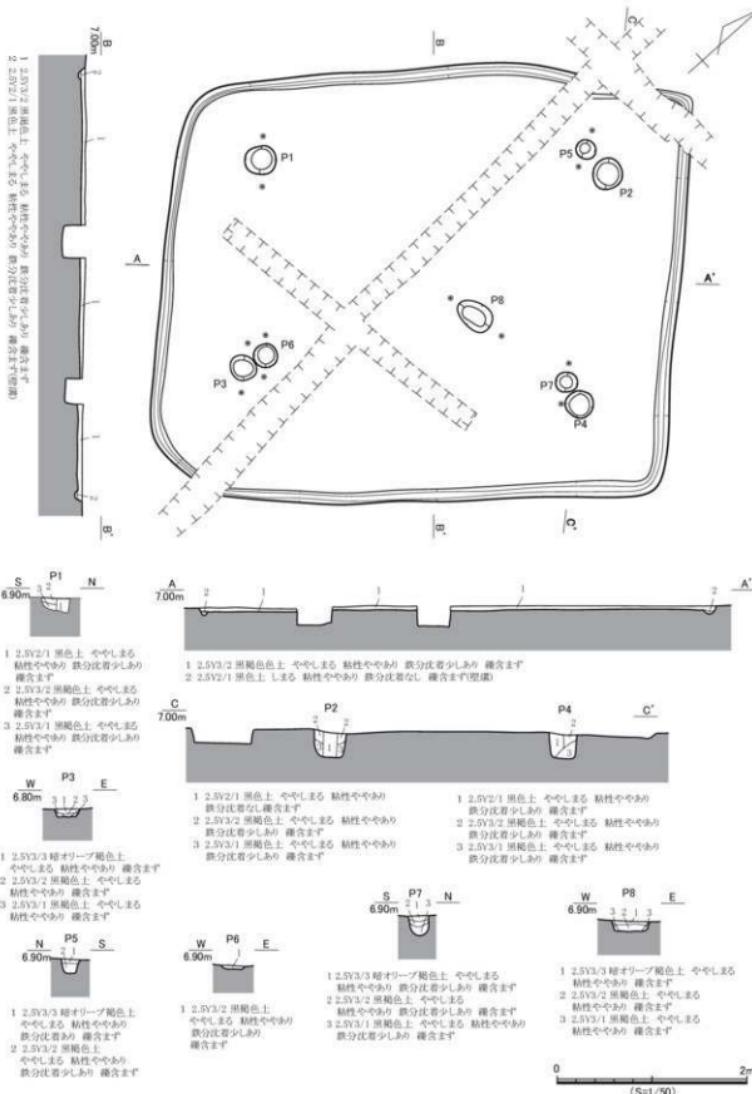


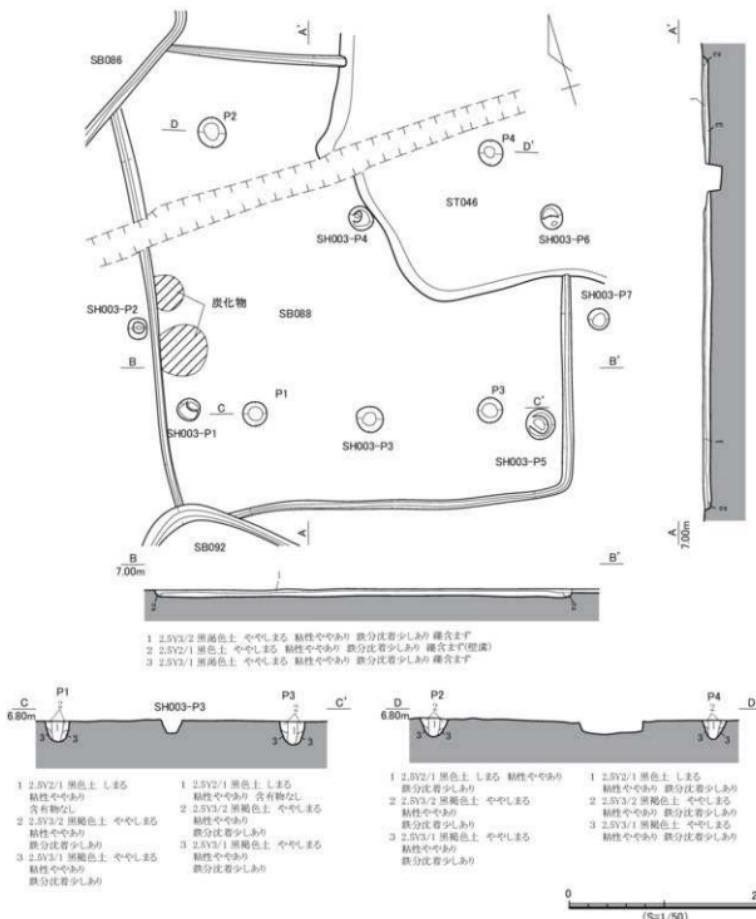
図210 SB087遺構図

SB088 (遺構: 図211、遺物: 図244)

検出状況 A地区南東部の区画溝(SD0364やSD0382など)の内部に位置し、堅穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、重複関係にあるSB086、SB092、SH003よりも古いと思われる。北東部はIV層上面の水田遺構により削平されている。

形状 長軸長4.80m、短軸長4.40mの不整形である。壁面は0.04mほど残存し、比較的急傾斜である。



埋土 単層であるが、下層には床面を形成するために掘形を埋めたと思われる土層がある。

床面 壁面に沿って幅0.10m～0.16mの壁溝を検出した。また、床面で3基、IV層上面のST046底面で1基の小穴を確認したが、平面的な位置関係や柱痕跡状の堆積から、柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1242と1243は、他の土器とは異なる赤褐色の胎土を有し、外面調整はハケとしたが条痕にも似たもので、同一個体と思われる。1245は高坪B2b類で、1246、1247は高坪の脚部である。1247は脚裾部が強く外反し、おそらく高坪H類の脚部であろう。甕はA3類(1249)、B1b類(1250・1252)、C1類(1251)がある。高坪B2b類や甕B1類からV期を中心とする時期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI-1期とする区画溝との関係からVI期前半と思われる。なお、重複するSB086もVI期前半と思われるがこれよりも古い。

SB089（遺構：図212、遺物：図244）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、壺穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、重複関係にあるSB083やSB090よりも新しいと思われる。大半は調査区外となり、南東部の一部を検出しただけである。

形状 大半が調査区外となるが、南東部の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.08mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 単層であるが、下層には床面を形成するために掘形を埋めたと思われる土層がある。

床面 壁面に沿って幅0.15m前後の壁溝を検出した。柱穴や炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1253は鉢A1類で、直線文と刺突文がみられる。1254は甕A5類で文様はない。1257は器台B2類かB3類であろう。いずれもV期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB083やSB090よりも新しいことからVI期以降と思われる。

SB090（遺構：図212、遺物：図244）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、壺穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、重複関係にあるSB089やSB091よりも古いと思われる。大半は調査区外となり、北東辺から東隅を検出しただけである。

形状 大半が調査区外となるが、北東辺から東隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.02mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 単層であるが、0.05mほどの貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.10m～0.15mの壁溝を検出した。床面上で小穴を2基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。また、貼床層を除去して3基の小穴を検出した。炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

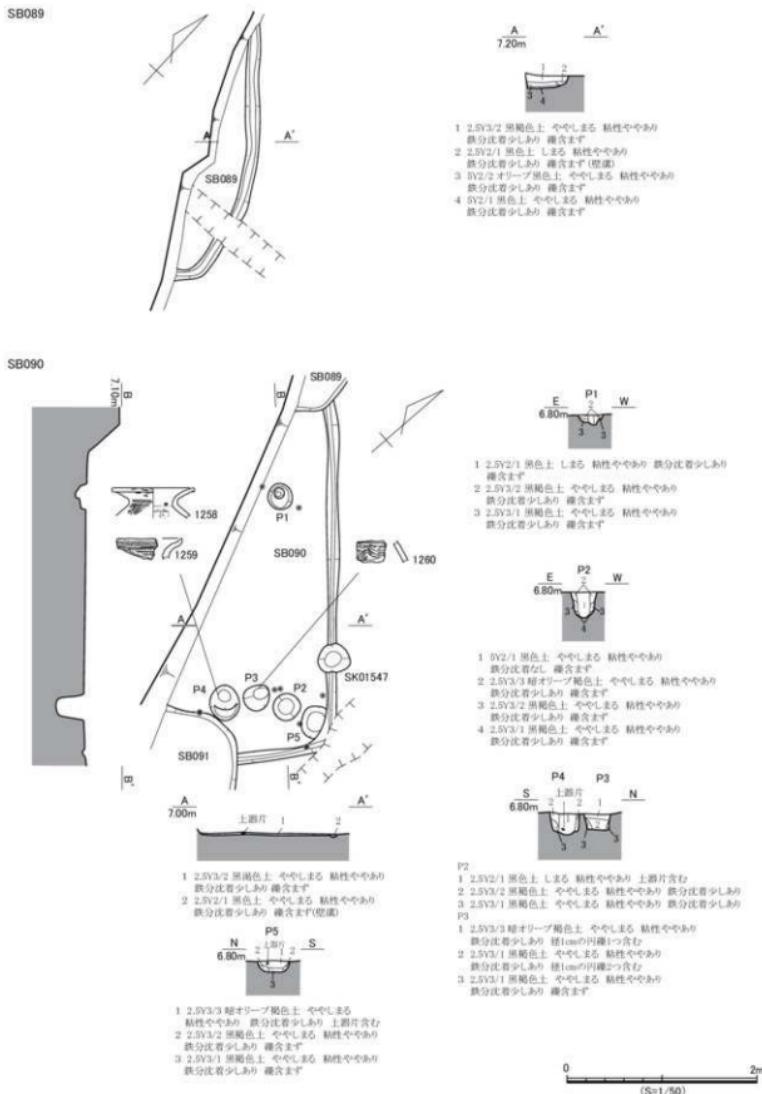


図212 SB089・SB090構造図

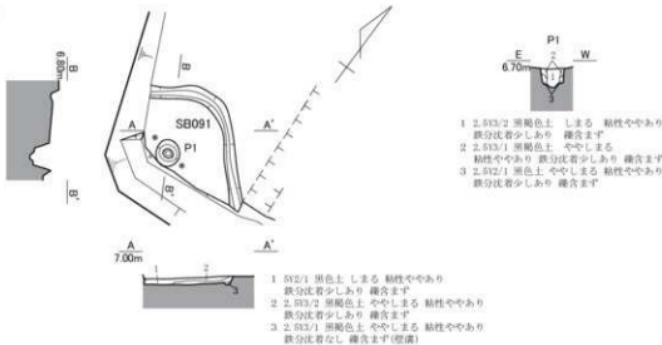
出土遺物 1258と1259はP4から出土した。1258は壺B2類、1259は甌D1類でVI期前後の時期と思われる。1260はP3から出土した壺で、IV期と思われる。1261は埋土から出土した器台であるが、摩耗が激しい。1258より時期が若干先行する資料であろう。1265は縄文時代晩期後半の深鉢である。1262～1264はいずれも底部で詳細な時期は不明だが、VI期と考えられる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期と思われる。

SB091（遺構：図213、遺物：図245）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、堅穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、重複関係にあるSB090よりも新しいと思われる。大半は調査区外となり、北

SB091



SB092

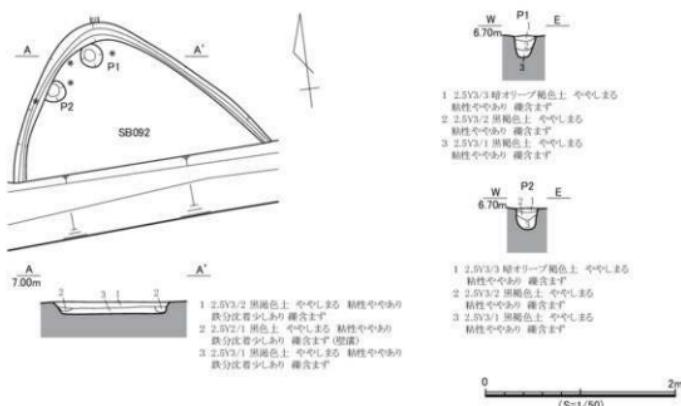


図213 SB091・SB092遺構図

隅を検出しただけである。

形状 大半が調査区外となるが、北隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。

壁面は0.08mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 2層に分層したが、壁際から堆積している。

床面 壁面に沿って幅0.12m～0.16mの壁溝を検出した。床面上で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1266と1267は壁溝埋土出土だが、1266はVI期の高坏脚部、1267はIV期の甕であろう。埋土から出土した1268～1270もIV期と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、VI期と思われる。

SB092（遺構：図213）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、堅穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、重複関係にあるSB088よりも新しいと思われる。大半は調査区外となり、北隅を検出しただけである。

形状 大半が調査区外となるが、北隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.06mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 単層であるが、下層には床面を形成するために掘形を埋めたと思われる土層がある。

床面 壁面に沿って幅0.12m～0.16mの壁溝を検出した。床面上で柱穴や炉跡は確認できなかった。なお、掘形埋土を除去したところ、P1とP2を検出した。

遺物出土状況 埋土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。また、図示可能な遺物もなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、SB088よりも新しいことからV期以降と思われる。

SB093（遺構：図214、遺物：図245）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、堅穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、大半は調査区外となり、北辺の一部と南隅を検出しただけである。

形状 大半が調査区外となるが、南隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.12mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 3層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層には貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.12m～0.16mの壁溝を検出した。床面上で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

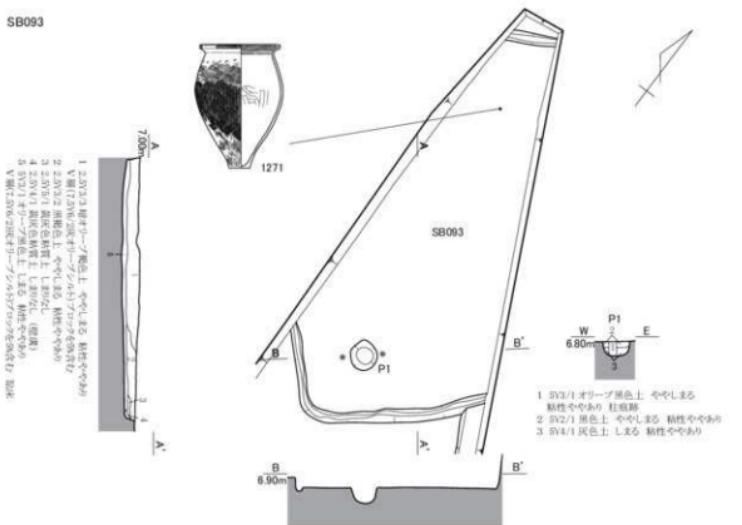
遺物出土状況 北辺近くの埋土中から、土器片がややまとまって出土した他、少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1271は半完存品の口縁端部が直立する甕A3類である。胸部上半に3条の刺突文をもつ。タキは左上がりでその後に細かなハケを施す。IV期と思われる。1277は甕で、口縁端部の面がやや鈍

化し、胴部直線文の間隔が狭く、V期初頭の可能性もある。1278～1280も甕であるが、IV期と思われる。その他の資料はV期前半の資料であろう。1272は高坏B2a類、1274～1276は比較的受口状口縁の形状を強く残す甕A類である。V期後半と思われる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、V期後半と思われる。

SB093



SB094

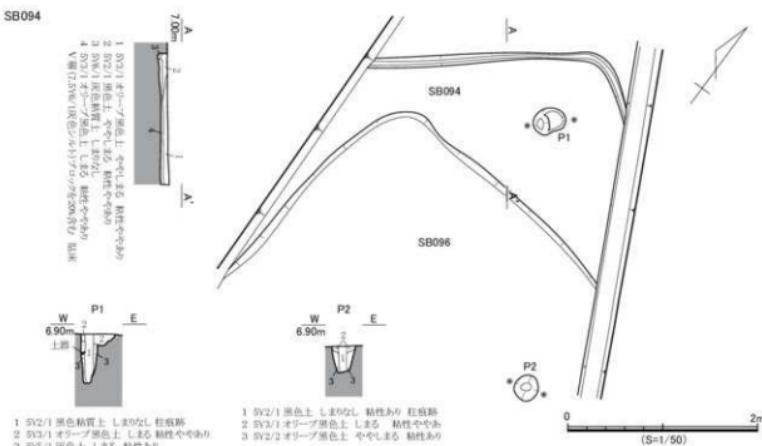


図214 SB093・SB094遺構図

SB094（遺構：図214、遺物：図245）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、大半は調査区外となり、北西辺の一部と北隅を検出しただけである。重複関係にあるSB096より古く、SB095よりも新しい。

形状 大半が調査区外となるが、北隅の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.04mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 2層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層には貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.10m～0.14mの壁溝を検出した。床面上で小穴（P1）を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。また、重複関係としては古いSK01550の底面で小穴（P2）を確認したが、位置的にSB094の柱穴の可能性が考えられるため、検出時の見落としの可能性がある。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 墓土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。

出土遺物 1281は高壙B2b類の口縁部片で、丁寧なミガキが残る。V期と思われる。1282は壺胴部で頸部付近に文様らしきものが認められる。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、V期と思われる。

SB095（遺構：図215）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、西側の1/2以上は調査区外となり、北東及び南東隅と東辺を検出しただけである。重複関係にあるSB094やSB096よりも古い。

形状 1/2以上が調査区外となるが、検出した部分の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.03mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 単層であるが、下層に貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.04m～0.12mの壁溝を検出した。南東隅の床面上で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。なお、炉跡は確認できなかった。

遺物出土状況 墓土中から少量の土器が出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。また、図示可能な遺物もなかった。

時期 出土した遺物からは、時期決定が困難であるが、重複するSB094やSB096よりも古いくことから、V期以前と思われる。

SB096（遺構：図216、遺物：図246）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。V層上面で検出したが、南半部はSB097に削平され、東辺部は調査区外となる。重複関係にあるSB094やSB095よりも新しく、SB097よりも古い。

形状 検出した部分の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.06mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 2層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層に貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.15m前後の壁溝を検出した。北西隅の床面上で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。また、その南側にP2とした浅い穴を検出したが、埋土中から土器片や炭化物が出土したもの、被熱した痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土中から土器が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。また、P2から多くの土器が出土した。

出土遺物 III期とおもわれる1293の壺を除くと、埋土出土土器はV-3期の資料が多い。その例として口縁部が強く外反する高坪B2a類1284があげられる。1292は口縁部が強く屈曲する甕A2類。1283は口縁部の屈曲が明瞭な鉢A1類。1285の高坪H3類は口縁部に弦線がある。以上のように本住居跡出土資料は比較的まとまりのある資料といえる。また、1283、1285、1286、1290の4点は通常の煤痕以外に二次的な強い被熱を受けていたり、破断面にも被熱を受けた痕跡を認めることがある。しかし、こうした状況も状況証拠ながら本住居跡出土資料がある程度、一括性のある資料として判断できる材料と考えられる。1289は高坪B1b類で、重複するSB097出土資料と類似する。1290は高坪H3類の脚部。1295は甕A2類で刺突文と直線文をもつ。1294、1295はP2から出土した。

時期 出土した遺物や重複するSB094やSB095よりも新しく、SB097よりも古いことから、V-3期と

SB095

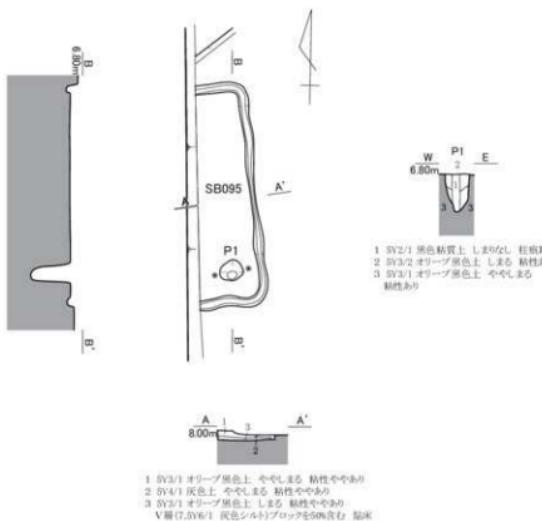


図215 SB095遺構図

思われる。

SB097（遺構：図217、遺物：図246・247）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部に位置し、竪穴住居跡が密集する。

V層上面で検出したが、南半部は及び東半部は調査区外となる。重複関係にあるSB096よりも新しい。

形状 検出した部分の形状から、方形もしくは長方形の平面形となると思われる。壁面は0.06mほど残存し、比較的急傾斜である。

埋土 2層に分層したが、壁際から堆積している。また、下層に貼床層がある。

床面 壁面に沿って幅0.15m前後の壁溝を検出した。北西隅の床面上で小穴を1基検出したが、柱痕跡状の堆積があり、平面的な位置関係から柱穴と思われる。

遺物出土状況 埋土中から土器が散在して出土したが、出土状況に特徴的なものは認められなかった。なお、西壁近くの床面上でベンガラの集積が出土した。また、その東側に接して炭化物の集積が認められたが、焼土などは確認できなかった。

出土遺物 SB096に先行もしくは同時期に近い資料に1296・1297・1299～1301・1303・1304がある。とくに1296・1297・1299・1300の高杯B類は屈曲部が明瞭であり、SB096より先行する資料であろう。1303の甕も高杯と同時期と思われる。残る資料はVI期からVII期の資料である。1307は底部に内外面か

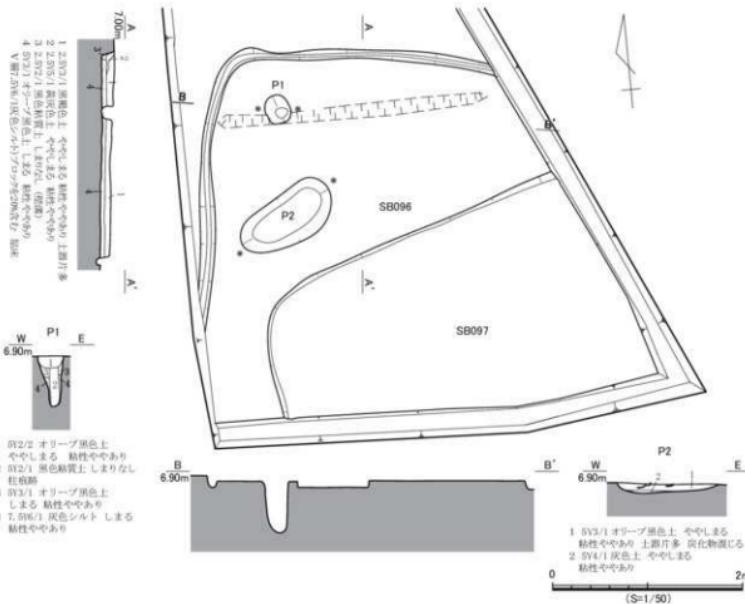


図216 SB097遺構図

ら穿孔が認められる。

時期 出土した土器からは、V-2期と思われる。

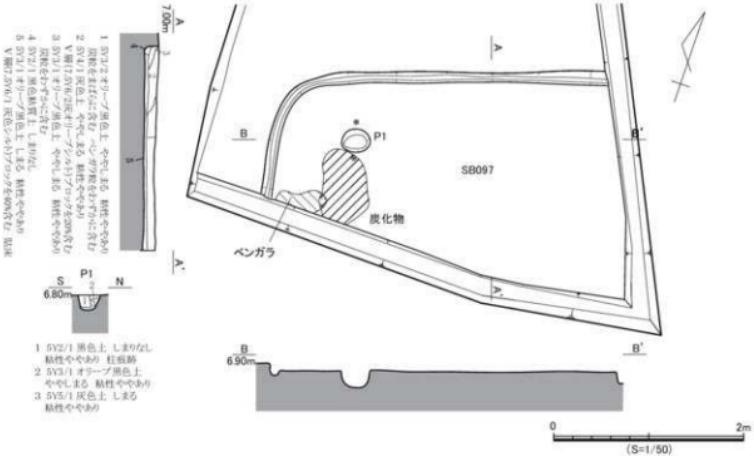


図217 SB097遺構図

表10 竪穴住居跡一覧表（1）

追跡 No	現場構造 番号	調査 位置	積出 層位	埋土	平面 形状	主輪 方位	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土 遺物	博団	固版
S6001	-	ED1	V上	-	不明	N63°W	-	-	-	-	-	-	調文晚期	-	130	4
SB602	07_0429A	EG2~ E13	V上	3層B	正方形	N26°W	(5,30)	(3,36)	(5,26)	(3,25)	0.66	SB605, SB607 ⁹⁹ +SB6073	VII-1期	H	131~132	4
SB603	07_0429D	E13	V上	4層B	不明	N2°W	(4,00)	(0,42)	(3,66)	(0,33)	0.13	SB602	VII-1期以降	H	132	-
SB604	-	EH1~ E12	V上	-	不明	N40°E	-	-	-	-	-	-	不明	-	133	-
SB605	-	OK29	V上	-	正方形	N2°E	2.87	2.53	2.68	2.33	0.10	SB606	VII期前半	-	134	8
SB606	07_04243	BL20	V上	1層A	正方形	N3°E	(3,20)	3.20	(3,10)	2.94	0.66	SB605, SB607, SK0 02533~ +SK06301	VIII期後半	H	135	8
SB607	07_04267	DL20	V上	3層A	長方形	N8°E	(4,34)	(3,76)	(3,45)	(1,18)	0.11	SB608~ +SB606	VI-2期	H	136	8
SB608	07_04266	DL20~ M1	V上	4層A	長方形	N10°E	6.20	5.57	6.12	5.48	0.12	SB607, SD6078, S D6079, SK0176	VII-1期	H	137~138	9
SB609	07_04220	EP2~ Q2	V上	6層B	不整長 方形	N5°W	3.90	3.17	3.19	2.93	0.23	-	不明	H	138	9
SB610	07_04477	EP3	V上	6層B	正方形	N5°W	2.85	2.64	2.65	2.31	0.12	SB611	不明	H	139	9
SB611	07_04231	EQ3	V上	3層B	不整方 形	N0°	3.22	3.22	3.05	2.90	0.13	SD6047~ +SB610	不明	H, S	139	9
SB612	07_04230	EQ3	V上	3層B	不明	N5°E	(1,83)	(1,70)	(1,41)	(1,30)	0.04	SD6045, SD6067~	IV期	H	140	9
SB613	06_04279	ED1~ F8	V上	3層B	不整方 形	N42°W	(3,17)	(2,56)	(2,84)	(2,12)	0.09	SB614	V期後半	H	141	17
SB614	06_04280	EF7~ F8	V上	6層C	不明	N40°W	(3,52)	(2,26)	(3,33)	(2,52)	0.25	SK60965, SD6204~ +SB013, SB515	VI-1期	H, S	142~143	17
SB615	06_04251	EF7~ F8	V上	3層C	不明	不明	(4,03)	(1,90)	(4,03)	(1,80)	0.06	SB614, SB614~ +SD1, SB60365, SK0 0364~+SB601	V期後半	H	144	18
SB616	06_04248	ES9~ F8	V上	2層B	不整方 形	N41°W	4.00	3.30	(3,83)	0.22	0.07	SB617, SB618~ +SB606	VII期後半	H, S	145	18

表11 積穴住居跡一覧表（2）

遺構 No.	現場遺構 番号	調査 区画	検出 層位	埋土	平面 形状	主軸 方位	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土 遺物	種団	固版
SB017	06_A0249	EE8~E9	V上	4層 C	不整方形	N42° W	4.11	3.90	4.05	3.85	0.05	>SB016, SB019 >SB016, SB0188, SK0063	VII-1期	H	146	18
SB018	06_A0250	EE9~E9	V上	2層 C	不整長方形	N40° W	3.60	3.07	3.52	3.05	0.05	>SB016, SB017, SK0188	VII-2期	H	147	18
SB019	06_A0253	EE8~E9	V上	3層 C	不整長方形	N46° W	3.52	2.93	3.47	2.36	0.10	>SB017, SB020, SK0063 >SB017, SK00179, SK0188, SK00179, SK0063	VII期後半	H	148	18
SB020	06_A0254	EE9	V上	2層 C	方形	N34° W	3.21	(1.66)	3.15	(1.54)	0.06	>SB019, SK00223 >SB0178, SK00179, SK00367	VII期後半	H	149	18
SB021	06_A0176	EE10~E11	V上	4層 C	方形か、N26° W	4.10	(2.70)	3.96	(2.67)	0.07	S70099 >SB0044, S70068	VII期	H	150	18	
SB022	06_A0177	EE11~E12	V上	5層 C	不整方形	N32° W	3.73	(3.10)	3.67	(3.02)	0.18	SD0183, S70099, S20160 >S2008	VII期	H	151	18
SB023	06_A0440	E64	V上	2層 D	0.5万形か、N17° E	(4.30)	(2.10)	(4.16)	(1.95)	0.10	SD0167?	VII-1期?	H	152	-	
SB024	06_A0439	E14~E14	V上	3層 C	不整方形	N32° E	3.20	(2.13)	2.90	(2.04)	0.08	>SB025, SB027, SK00167	VII期後半	H	153	19
SB025	06_A0425	E15~E15	V上	3層 C	不整長方形	N17° W	3.40	3.18	3.36	3.10	0.10	>SB024, SB027, SD0167 >SB028, SK000330	VII-1期	H	154	19
SB026	06_A0424	E15	V上	2層 C	不整長方形	N6° W	4.36	(2.22)	4.32	(2.08)	0.11	SD0164, SK000340	VII-1期	H	155	19
SB027	06_A0426	E14~E15	V上	1層 A	不定形	NE° W	3.72	(2.35)	3.63	(2.21)	0.02	>SB024, S700167?	VII期前半	H	156	19
SB028	06_A0458	E15	V上	1層 A	不整方形	N2° W	(4.30)	(2.85)	(4.30)	(2.85)	0.10	>SB025, SB026, SD0167	VII期後半	H	157	19
SB029	06_A0230	E14	V上	2層 C	不明	N17° E	(1.83)	(1.30)	(1.83)	(1.30)	0.09	SK00301	不明	H	158	19
SB030	06_A0164	E14	V上	1層 A	不明	N43° W	(2.00)	(1.41)	(1.30)	(1.17)	0.04	>SB029	不明	H,L,S	158	19
SB031	06_A0166	E14	V上	3層 C	不明	N12° W	(1.00)	(0.45)	(1.00)	(0.45)	0.10	>SB032	VII期?	H	158	19
SB032	06_A0169	E14~E14	V上	4層 C	不明	N7° W	(2.94)	(1.40)	(2.94)	(1.40)	0.12	>SB031, SK00420 >SB013	VII-2~3期	H	158	20
SB033	06_A0382	E16~E17	V上	2層 C	不明	N10° E	(2.90)	(2.10)	(2.79)	(1.93)	0.10	SD0268, SK004230	VII期後半	H	159	20
SB034	06_A0380	E17~E18	V上	2層 C	不明	N42° W	4.69	(2.75)	4.66	(2.67)	0.06	SK006318, SK006319, SK00425, SK00426	VII期後半	H,S	159	20
SB035	06_A0320	E68~E68	V上	3層 C	不明	N18° W	5.32	(2.68)	5.23	(2.57)	0.09	>SB035, SK00429 >SB035, SK00433, SK006271	VII-2期	H,S	160~161	20
SB036	06_A0423	E88	V上	2層 C	不明	N15° W	3.99	(2.83)	3.92	(2.83)	0.10	SD0355, SK00433, SK00435 >SB0271, SK00432	VII期	H	162	20
SB037	06_A0212	E69~F10	V上	2層 C	長方形	N15° E	4.69	3.80	4.60	3.68	0.03	>SB00433 >SB00432	VII期後半	H	163	20
SB038	06_A0209	EF10	V上	3層 C	不明	N5° E	(1.56)	(1.53)	(1.56)	(1.53)	0.09		VII期	H	163	20
SB039	06_A0297	E12	V上	3層 C	不明	N37° W	(7.40)	(5.14)	(7.00)	(5.14)	0.11	>SB040 >SB00439, SK00440, SK0088, S20103	VII-2期	H	164~165	20
SB040	06_A0206	E12~F13	V上	3層 C	不明	N17° W	4.80	(2.73)	4.63	(2.59)	0.13	>SB039, SK00411, S2013	VII-2期	H,S	164~165	21
SB041	06_A0405	E12~F13	V上	1層 A	不明	N18° W	4.15	(0.52)	(4.15)	(0.52)	0.20	SK140, SK041~ SK1~S2013	VII期以前	H	166	21
SB042	06_A0168	E15~M5	V上	3層 B	不明	不明	(3.25)	(2.37)	(3.25)	(2.28)	0.16	SK00899, SK00288, S5 K00522~ >SK00523	VII期	H,S	167	-
SB043	06_A0658	E5	V上	1層 A	不明	N9° W	(4.50)	(1.63)	(4.44)	(1.58)	0.08	SK044, SK0470, SK0457, SK0472SK00468 >SK00484	VII期前半	H	168	24
SB044	06_A0038	E5~O6	I C 基	1層 A	不明	N52° W	(3.40)	(3.40)	(3.33)	(3.35)	0.05	>SB045~ >SB043	VII期後半以降	H	168	-
SB045	06_A0037	E5~O6	I C 基	1層 A	不明	N52° W	(3.40)	(3.40)	(3.33)	(3.35)	0.05	>SB043, SK00441, SK00446 >SK0043	VII期	H	169	24
SB046	06_A0041	E05~P6	I C 基	4層 B	不明	N26° W	(3.03)	(1.95)	(2.98)	(1.90)	0.09	SK045, SK00448, SK00473, SK00474	VII期	H	170	25
SB047	06_A0046	E05~P6	I C 基	3層 E	不明	N11° W	(3.92)	(1.16)	(3.70)	(1.07)	0.09	>SK0477~ >SB048	不明	H	171	25
SB048	06_A0047	E06~Q6	I C 基	1層 A	方形	N8° W	5.32	(4.50)	5.14	(4.30)	0.10	>SK047, SK00474, SK00475, SK00477, SK00478, SK00479 >SB0295	VII-2期	H	172	25

表12 穴式住居跡一覧表(3)

遺構 No.	現場遺構 番号	調査 区画	検出層位	埋土 形狀	平面 方位	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土 遺物	博団	圖版	
SB049	08_A0050	E05	I-C 基	1層 A	不明	N1° E	(5.00)	(1.50)	(5.00)	(1.38)	0.06	SB048, SB00479, >SB0295	VII期以前	H	173	25
SB050	08_A0122	EPI3~ Q14	V上	1層 A	不明	N0°	(3.78)	(2.77)	(3.72)	(2.77)	0.14	SB0290, SB052, >SB0144, SB00507	VII期	H	174	26
SB051	08_A0119	EPI4~ Q15	V上	1層 A	不明	N2° E	(3.65)	(2.10)	(3.65)	(2.06)	0.10	SB0052, SB0292, SP 0648	VII期	H	175	26
SB052	08_A0128	EPI4~ Q14	V上	1層 A	不明	N41° W	(5.55)	(2.70)	(5.45)	(2.70)	0.14	SB051, SB0280, >SB0292	VII期~VIII期	H	176	26
SB053	08_A0093	EPI5~ P16	V上	6層 H	不明	N50° W	(2.10)	(1.50)	(2.00)	(0.85)	0.16	SB00492, SK00530, >SB0285, SK00510, >SK00530	VII期?	H, P	177	26
SB054	07_D0271	EH5~ C16	V上	1層 A	不明	N55° W	3.90	(2.95)	3.25	(2.85)	0.11	SB00572, SD0304	VII期前半	H	178	29
SB055	06_B0026	EH16~ C17	V下	1層 A	不整方形	N60° W	5.00	4.20	4.90	4.10	0.05	SB01055, >SB00615, SK01133	VII期	H, T	179	36~ 37
SB056	06_B0092	EH19	I b 下	2層 B	不整方形	N25° W	3.98	3.70	3.85	3.55	0.12	SB01135, SD0310, S D0013	VI-3期	H, S	180	37
SB057	06_B0094	ECH18~ C19	I b 下	2層 B	正方形	N23° W	4.75	4.54	4.65	4.47	0.10	S2024, SB0318, S00 >S2019	VII期後半	H, S	181	37
SB058	06_B0098	EPI8~ D19	I b 下	2層 B	不整方形	N23° W	4.14	3.80	3.90	3.70	0.10	SK01131, SD0351, >SB00626, SD0320	VII期	H, J, P	182	37
SB059	06_B0597	EH18~ D18	V上	3層 B-E	長方形	N33° W	5.25	4.35	5.00	4.20	0.10	SK00695, SK01014, SK01124, SK01125, SK01126, SK01127, SK01128, SK01129, SK01135, SK01136, SD0220, >SB0199, SK01123, S K01024, SD032	不明	H	183	37
SB060	06_B0703	EH19~ E20	V上	-	不明	N52° W	-	-	-	-	-	SB0061, SB0315, >SB01022, SK01055, >SK01118	VII期?	H	184~185	-
SB061	06_B0110	EH20	I b 下	3層 B	不整方形	N61° W	5.25	(4.55)	5.05	(4.45)	0.09	>SB0060	VII期~VIII期	H, T	186	37~ 38
SB062	06_B0803	FC1~ C2	V上	1層 A	不整方形	N43° W	(5.00)	4.00	4.86	3.90	0.05	SB0063, SB01031, SK 01037, SB01040, SK 01045, SB01139, SK >SB01090, S2020	VI-3期	H	187	38
SB063	06_B0366	FBI~ B4	I b 下	2層 B	不整方形	N53° W	4.80	4.60	4.70	4.50	0.16	SK01132, SK01140, SK01141,>SB0062, S B064	VII-1期以降	H, T	188~ 190	38
SB064	06_B0337	FBI~ B3	I b 下	2層 B	正方形	N30° W	4.80	4.55	4.74	4.50	0.10	SB0029, SB063, SK0 >S2018	VII-1期	H	191	38
SB065	06_B0138	FA2	I b 下	2層 E	長方形	N27° W	5.74	5.40	5.67	5.35	0.10	SK01358, SK01359	VII-1期	H, P	192~193	38
SB066	06_B0759	B72	V上	3層 B	不整方形	N9° E	4.80	4.72	4.60	4.55	0.16	SB0065, SB067, >SB021, SK01114	VI-3期以前	H	194	39
SB067	06_B0256	B72~ T3	I b 下	2層 B	正方形	N12° W	4.60	4.50	4.55	4.45	0.10	SB0027, SD0329, >SB066	VI-3期	H, S	195	39
SB068	06_B0259	B73~ T4	I b 下	3層 B	不整方形	N27° W	4.30	4.25	4.19	4.13	0.20	SK01134	VII-1期	H, P	196	39
SB069	06_B0255	BS5~ T5	I b 下	3層 B	不明	N51° W	5.00	(2.50)	4.90	(2.48)	0.20		VI-3期	H	197	39
SB070	06_B0904	EPI16	I b 下	1層 A	不明	N38° W	(2.00)	(1.80)	(1.90)	(1.70)	0.04	SB01197, >SB01137	不明	無	198	-
SB071	06_B0462	EPI20~ F1	V上	-	不整方形	N33° W	(3.74)	(1.75)	(3.65)	(1.63)	-	SD0325	不明	H	199	39
SB072	07_D0284	E616	V上	2層 B	方形?	N1° E	(3.39)	3.27	(3.29)	3.16	0.15	SB01230, SK01231	不明	H	199	30
SB073	07_B0161	FIM6	V上	9層 B	不明	N28° W	(1.65)	(1.30)	(1.55)	(1.25)	0.20	>SB0074	V期	H	200	42
SB074	07_B0162	FIM6~ N6	V上	5層 B	不明	N7° E	(3.20)	(3.10)	(3.15)	(3.25)	0.18	SB0075, >SB038, SB073	V期	H	200	42
SB075	07_B0163	FIM6~ N6	V上	4層 B	不明	方位不明	(3.25)	(1.10)	(3.20)	(1.05)	0.16	>SB038, SB074	V期	H, S	201	42
SB076	07_A0065	EPI17	V上	5層 B	不明	N46° W	(2.76)	(2.70)	(1.44)	(1.42)	0.05	SB01295, SK01296, >SB027, SK01297	VII期	H, T, P	201	45
SB077	07_A0075	EP2	V上	5層 B	不明	N22° W	(1.63)	(1.63)	(1.22)	(1.20)	0.08	SB00345, >SB028	V期後半	H	202	45

表13 壓穴住居跡一覧表（4）

遺構 No.	現場遺構 番号	調査 区画	検出 層位	埋土	平面形状	主軸 方位	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	時期	出土 遺物	種団	
SB078	07_A0090	FP4	V上	4層	B	不明	N30°W	(3.35)	(1.32)	(3.30)	(1.29)	0.21	SB079	不明	H	203
SB079	07_A0092	FP4	V上	3層	B	不明	N30°W	(2.10)	(0.71)	(1.80)	(0.56)	0.09	SB078	不明	H	203
SB080	07_A0079	FP6	V上	2層	B	不整長 方形	N28°W	(4.52)	(3.47)	(4.35)	(1.29)	0.02	SD1>SB062- P3, SB002-14	VI期	H	204 45- 46
SB081	07_A0087	FP6	V上	3層	B	不明	N17°W	(1.45)	(1.21)	(1.45)	(1.02)	0.08		V期	H	204 46
SB082	07_B0292	FN8~ 09	V上	3層	B	不明	N3°W	(4.40)	(3.50)	(4.40)	(3.40)	0.15	SD088, SD0383	V期	H, S	205 54
SB083	07_B0290	FO8~ 9	V上	3層	B	不明	N9°W	(4.25)	(2.60)	(4.03)	(2.47)	0.14	SD0392, SB087, SB0 89>SB082	V-3期	H, S	206 54
SB084	07_B0407	FN9~ 10	V上	1層	A	不整長 方形	N43°E	5.23	4.50	5.04	4.13	0.04	SB086, SB087> SB085	VI期前半	無し	207 -
SB085	07_B0501	F09	V上	6層	B	長方形	N46°W	5.10	4.10	5.05	4.02	0.10	7, SK01466, SD0389	VI期前半	H	208 54
SB086	07_B0301	FO9~ 10	V上	3層	B	不整長 方形	N32°W	(3.50)	(1.15)	(3.30)	(0.90)	0.15	SD084, SB087, SD03 89>SB085	VI期前半	H	209 54
SB087	07_B0291	FN9~ 10	V上	5層	B	長方形	N42°E	5.29	4.65	5.15	4.60	0.12	SD0392, SK01546> SB083, SB084, SB0 85, SK086	VI期前半	H	210 54
SB088	07_B0300	FO10~ Q11	V上	3層	B	不整方 形	N15°E	4.80	4.40	4.65	4.20	0.10	SD086, SB092, SB0 03	VI期前半	H, S	211 54- 55
SB089	07_B0287	FO9~ 9	V上	4層	B	不明	N40°W	(2.80)	(0.70)	(2.60)	(0.55)	0.14	SK01473> SB083, SB090	VI期以降	H	212 55
SB090	07_B0285	FF9~ 9	V上	3層	B	不明	N49°W	(3.60)	(1.80)	(3.50)	(1.75)	0.08	SD088, SG094, SK01 547	VI期	H, P	212 55
SB091	07_B0282	FF9~ 9	V上	4層	B	不明	N42°W	(1.34)	(0.95)	(1.25)	(0.87)	0.13	SD090	VI期	H	213 55
SB092	07_B0284	FF9~ Q10	V上	3層	B	不明	N47°W	(2.76)	(1.55)	(2.60)	(1.45)	0.12	SD088	V期以降	H	213 55
SB093	07_A0084	FO7	V上	3層	C	不整方 形	N39°W	(4.24)	(2.66)	(4.12)	(2.53)	0.18	SK01549	V期後半	H, P	214 60
SB094	07_A0083	FO7	V上	2層	C	不整方 形	N29°W	(4.50)	(2.00)	(4.46)	(1.95)	0.05	SD096> SD095, SK01550	V期	H, P	214 60
SB095	07_A0120	FP7	V上	1層	A	不明	N8°W	2.39	(0.82)	2.27	(0.73)	0.10	SD094, SB096> SK01549	V期	H	215 60
SB096	07_A0082	FP7	V上	2層	C	不明	N8°E	(4.70)	(3.70)	(4.40)	(3.65)	0.14	SD097> SD094, SB095, SK0 1549	V-3期	H, S	216 60
SB097	07_A0081	FP7	V上	5層	B	不明	N19°W	(3.75)	(2.02)	(3.51)	(1.96)	0.12	>SD096, SK01552~ SK01555	V-2期	H, S	217 60

表14 壓穴住居跡内小穴等一覧表（1）

遺構番号	現場遺構 番号	調査 区画	検出 層位	埋土	平面形状	断面 形状	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	出土 遺物	備考	
SB001-P1	06_C0090	ED1	V上	1層	A	円形	A2a1	0.31	0.26	0.09	0.08	0.11		H	
SB001-P2	06_C0205	ED1	V上	2層	B	楕円形	B2a2	0.30	0.23	0.27	0.19	0.20		H	
SB001-P3	06_C0145	ED1	V上	2層	A	長楕円形	A2a1	0.19	0.17	0.1	0.06	0.08			
SB001-P4	06_C0104	ED1	V上	3層	G	不整圓形	A2a1	0.34	0.31	0.14	0.13	0.21			
SB001-P5	06_C0204	ED1	V上	5層	G	長楕円形	B3a2	0.39	0.31	0.38	0.24	0.25		H	
SB001-P6	06_C0099	ED1	V上	2層	D	不整長楕円形	B2a2	0.46	0.28	0.13	0.13	0.30		無し	
SB001-P7	06_C0091	ED1	V上	1層	A	楕円形	B1a1	0.18	0.16	0.11	0.09	0.02			
SB001-P8	06_C0092	ED1	V上	1層	A	楕円形	B1a1	0.12	0.13	0.06	0.05	0.02			
SB001-P9	06_C0105	ED1	V上	1層	A	円形	B1a1	0.35	0.24	0.07	0.06	0.02	>SK00065	無し	
SB001-P10	06_C0203	ED1	V上	1層	A	長楕円形	B1a1	0.83	0.55	0.73	0.43	0.13		H	
SB002-P1	06_C0180	EH2	V上	2層	D	長楕円形	B2a3	0.72	0.48	0.31	0.18	0.23	>P3, P7	H	
SB002-P2	06_C0174	EG3	V上	2層	D	円形	A2a3	0.80	0.56	0.17	0.14	0.27		H	
SB002-P3	06_C0181	EH2	V上	1層	A	不明	B2a1	0.47	(0.32)	0.24	(0.14)	0.20	P1>	H	
SB002-P4	06_C0175	EH2	V上	2層	D	不整円形	C3a1	0.49	0.37	0.12	0.08	0.34		H	柱穴
SB002-P5	07_A0322	EH2	V上	5層	G	長楕円形	B3a1	0.55	0.45	0.37	0.24	0.42		H	柱穴
SB002-P6	07_A0319	EH3	V上	2層	B	円形	A2a1	0.32	0.27	0.08	0.06	0.10		H	柱穴
SB002-P7	07_A0334	E12	V上	1層	A	不整圓形	B3 A1	0.24	0.23	0.14	0.12	0.23		H	
SB002-P8	07_A0335	E12	V上	1層	A	長楕円形	B2 A1	0.32	0.22	0.23	0.11	0.13	>A0321>	H	
SB002-P9	07_A0336	E13	V上	2層	B	楕円形	B2a1	0.25	0.21	0.18	0.15	0.09		人口?	
SB002-P10	07_A0337	E13	V上	1層	A	楕円形	A2a1	0.24	0.22	0.10	0.08	0.09		人口?	
SB002-P11	06_C0183	EH2	V上	2層	D	不整円形	D3a1	0.26	0.21	0.17	0.16	0.23		H	
SB002-P12	06_C0184	EH2	V上	4層	D	不整圓形	B2a1	0.40	0.27	0.16	0.14	0.17		H	
SB002-P13	07_C0290	EH3	V上	1層	A	不整圓形	B1e1	0.75	0.53	0.49	0.32	0.14		H	
SB002-P14	07_A0320	E12	V上	1層	A	円形	B1a1	0.30	0.29	0.15	0.13	0.07		H	
SB002-P15	06_C0182	EH2	V上	1層	A	不明	D3a1	0.43	(0.36)	0.18	0.13	0.30	P1>	H	
SB002-P16	07_C0198	EH2	V上	2層	D	楕円形	A2a1	0.39	0.38	0.10	0.08	0.19	>SD0032	H	

表15 積穴住居跡内小穴等一覧表（2）

造構番号	現場遺構番号	調査区画	棟数	層位	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考	
SB004-P1	07_A0425	E11	V	上	3層	B	不整精円形	A2a1	0.34	0.26	0.12	0.07	0.12		無	柱穴
SB004-P2	07_A0465	E12	V	上	3層	E	椭円形	B2a1	0.68	0.60	0.16	0.14	0.22		日	柱穴
SB004-P3	07_A0468	E12	V	上	3層	C	不整精円形	B2a1	0.35	0.30	0.22	0.18	0.20		無	柱穴
SB004-P4	07_A0424	E11	V	上	2層	B	不整精円形	B1a1	0.39	0.32	0.18	0.18	0.08		日	壁穴外?
SB004-P5	07_A0436	E11	V	上	2層	B	長椭円形	B2a1	0.37	0.27	0.20	0.13	0.17		日	壁穴外?
SB004-P6	07_A0432	EH1	V	上	2層	B	長椭円形	A2a1	0.32	0.28	0.12	0.07	0.09		無	壁穴外?
SB004-P7	07_A0343	E12	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.34	0.31	0.26	0.22	0.13		無	壁穴外?
SB004-P8	07_A0342	E12	V	上	1層	A	椭円形	B1a1	0.40	0.55	0.27	0.18	0.09	壁溝	日	
SB004-P9	07_A0434	EH1	V	上	4層	G	円形	B3a2	0.32	0.28	0.23	0.21	0.21		無	壁穴外?
SB004-P10	07_A0433	EH1	V	上	3層	B	長椭円形	B2a1	0.38	0.28	0.27	0.18	0.16		無	壁穴外?
SB004-P11	07_A0429	E11	V	上	2層	B	不整精円形	B1a1	0.39	0.39	0.20	0.16	0.10		無	壁穴外?
SB004-P12	07_A0466	E11	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.23	0.20	0.12	0.10	0.06		日	
SB005-P1	07_A0295	D2a0	V	下	4層	G	円形	B2a1	0.21	0.20	0.14	0.12	0.08		日	柱穴
SB005-P2	07_A0296	D2a0	V	下	3層	G	円形	B1a1	0.32	0.30	0.23	0.20	0.09		日	柱穴
SB005-P3	07_A0297	D2a0	V	下	4層	G	椭円形	B2a1	0.25	0.23	0.20	0.15	0.07		日	無柱穴
SB005-P4	07_A0298	D2a0	V	下	3層	G	椭円形	B2a1	0.30	0.27	0.23	0.18	0.08		日	無柱穴
SB005-P5	07_A0316	D2a0	V	下	2層	B	不整精円形	A1a1	0.83	0.64	0.43	0.30	0.13		日	
SB005-P6	07_A0317	D2a0	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.37	0.25	0.22	0.28	0.09		日	
SB005-P7	07_A0484	D2a0	V	上	3層	G	不整精円形	B3a1	0.28	0.28	0.34	0.07	0.27		日	
SB005-P8	07_A0483	D2a0	V	上	2層	B	不整精円形	B2a1	0.35	0.28	0.13	0.11	0.12		無	
SB005-P9	07_A0482	D2a0	V	上	2層	E	不整精円形	A2a1	0.25	0.20	0.12	0.10	0.10		日	
SB006-P1	07_A0478	D1a0	V	上	3層	E	椭円形	B2a1	0.38	0.34	0.27	0.20	0.17		無	
SB006-P2	07_A0479	D1a0	V	上	1層	A	椭円形	B1a1	0.34	0.32	0.18	0.18	0.04		無	
SB006-P3	07_A0487	D1a0	V	上	1層	A	椭円形	B1a1	0.36	0.27	0.14	0.11	0.12	SB005	無	
SB006-P4	07_A0481	D1a0	V	上	2層	C	長椭円形	A2a1	0.28	0.25	0.07	0.04	0.11		無	
SB006-P5	07_A0486	D2a0	V	上	2層	B	椭円形	B2a1	0.39	0.32	(4.00)	(3.54)	0.19	SB005	無	
SB006-P6	07_A0480	D2a0	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.37	0.31	0.25	0.18	0.13		日	
SB007-P1	07_A0350	D1a0	V	上	2層	G	長椭円形	A1a3	0.31	0.28	0.29	0.17	0.06		無	柱穴
SB007-P2	07_A0351	D1a0	V	上	2層	G	円形	A1a1	0.35	0.31	0.21	0.18	0.05		無	柱穴
SB007-P3	07_A0352	D2a0	V	上	4層	D	長椭円形	A4a1	0.40	0.25	0.23	0.10	0.15		日	柱穴
SB008-P1	07_A0301	D1a0	V	上	4層	G	椭円形	B2a1	0.40	0.32	0.30	0.23	0.20	P1,P6	無	柱穴
SB008-P2	07_A0302	E11	V	上	3層	G	椭円形	B2a1	0.32	0.28	0.18	0.15	0.17		無	柱穴
SB008-P3	07_A0303	D1a0	V	上	5層	G	円形	B2a1	0.42	0.42	0.35	0.32	0.15		日	柱穴
SB008-P4	07_A0303	E11	V	上	4層	G	椭円形	B2a1	0.40	0.35	0.38	0.30	0.12		無	柱穴
SB008-P5	07_A0357	D1a0	V	上	4層	B	椭円形	B2a1	0.39	0.62	0.24	0.18	0.20	P1>P6	日	床面下
SB008-P6	07_A0358	D1a0	V	上	3層	B	不定形	B2a1	0.78	0.47	0.60	0.35	0.20	P1,P5	日	床面下
SB008-P7	07_A0349	D1a0	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.41	0.38	0.25	0.22	0.16		無	床面下
SB008-P8	07_A0314	D2a0	V	上	1層	A	椭円形	A1a1	0.59	0.51	0.23	0.21	0.12		無	
SB008-P9	07_A0317	D2a0	V	上	1層	A	不整精円形	B1a1	0.10	(4.04)	0.46	(0.79)	0.08		日	床面下
SB009-P1	07_A0259	E92	V	上	4層	G	円形	B2a1	0.32	0.39	0.22	0.17	0.15		無	柱穴
SB009-P2	07_A0270	E92	V	上	4層	G	円形	B2a1	0.34	0.31	0.20	0.17	0.12		無	柱穴
SB009-P3	07_A0272	E92	V	上	4層	G	椭円形	B2a1	0.37	0.25	0.20	0.15	0.10		無	柱穴
SB010-P1	07_A0271	E92	V	上	4層	G	椭円形	B2a1	0.28	0.50	0.29	0.16	0.07		無	柱穴
SB011-P1	07_A0255	E92	V	上	1層	A	椭円形	B5a1	0.29	0.25	0.17	0.14	0.08		無	
SB011-P2	07_A0257	E93	V	上	1層	A	円形	B2a1	0.29	0.25	0.20	0.17	0.10		無	柱穴
SB011-P3	07_A0258	E93	V	上	1層	A	円形	B1a2	0.28	0.24	0.17	0.15	0.07		無	柱穴
SB011-P4	07_A0259	E93	V	上	1層	A	椭円形	B2a1	0.29	0.25	0.18	0.14	0.10		無	柱穴
SB011-P5	07_A0256	E93	V	上	1層	A	椭円形	B5a1	0.30	0.29	0.25	0.18	0.08		日	柱穴
SB012-P1	07_A0260	E94	V	上	4層	G	円形	B2a1	0.29	0.24	0.20	0.14	0.10		無	
SB013-P1	07_A0245	ED8	V	上	4層	G	円形	B3a1	0.31	0.27	0.13	0.10	0.22		日	柱穴
SB013-P2	07_A0266	ED8	V	上	3層	G	円形	B3a1	0.28	0.25	0.17	0.14	0.21		無	柱穴
SB014-P1	07_A0433	E71	V	上	2層	D	円形	A2a1	0.29	0.29	0.12	0.12	0.15		無	
SB014-P2	07_A0452	FF8	V	上	2層	D	円形	A2a1	0.29	0.25	0.13	0.10	0.11		無	
SB014-P3	07_A0323	E71	V	上	1層	A	円形	A1a1	0.60	0.53	0.53	0.25	0.15	B,S	無	
SB016-P1	06_A0324	FO9	V	上	5層	G	円形	A2a2	0.35	0.29	0.20	0.17	0.15	P3~P7	日	柱穴
SB016-P2	06_A0325	ED9	V	上	5層	G	円形	A2a2	0.33	0.29	0.16	0.14	0.20	P3~P7	日	柱穴
SB016-P3	06_A0492	ED8	V	上	5層	G	円形	B2a2	0.33	0.32	0.20	0.17	0.15	P1,P2	日	柱穴(古)
SB016-P4	06_A0493	ED8	V	上	5層	G	円形	B2a2	0.30	0.28	0.11	0.08	0.26	P1,P2	日	柱穴(古)
SB016-P5	06_A0490	ED9	V	上	5層	G	椭円形	B3a2	0.53	0.42	0.23	0.15	0.35	P1,P2	日	柱穴(古)
SB016-P6	06_A0491	ED9	V	上	5層	G	椭円形	B2a2	0.34	0.27	0.15	0.11	0.21	P1,P2	日	柱穴(古)
SB016-P7	06_A0467	E91	V	上	5層	G	椭円形	B1a1	1.45	1.62	1.19	0.66	0.09	P1,P2	日	柱穴(古)
SB017-P1	06_A0281	E91	V	上	2層	C	円形	B2a2	0.33	0.28	0.21	0.20	0.19		日	柱穴
SB017-P2	06_A0292	E91	V	上	3層	G	円形	B2a2	0.28	0.25	0.15	0.12	0.15		日	柱穴
SB017-P3	06_A0291	EF9	V	上	3層	G	円形	B2a2	0.26	0.25	0.13	0.10	0.16		日	柱穴
SB018-P1	06_A0267	E91	V	上	3層	G	円形	B3a2	0.30	0.34	0.24	0.21	0.17		日	柱穴
SB018-P2	06_A0268	EF9	V	上	3層	G	円形	B3a2	0.23	0.22	0.18	0.16	0.16		日	柱穴
SB018-P3	06_A0269	ED9	V	上	3層	G	椭円形	B3a2	0.30	0.34	0.24	0.20	0.21		日	柱穴
SB018-P4	06_A0270	ED9	V	上	3層	C	円形	A2a1	0.31	0.26	0.09	0.09	0.17		日	柱穴
SB019-P1	06_A0271	EF8	V	上	3層	G	円形	B3a2	0.25	0.21	0.13	0.13	0.15		日	柱穴
SB019-P2	06_A0272	EF8	V	上	3層	G	円形	B2a2	0.24	0.21	0.18	0.14	0.13		日	柱穴
SB019-P3	06_A0273	EF8	V	上	2層	G	円形	B3a2	0.24	0.22	0.15	0.15	0.17		日	柱穴
SB019-P4	06_A0274	EF9	V	上	2層	G	椭円形	B2a2	0.24	0.19	0.19	0.13	0.08		日	柱穴
SB020-P1	06_A0293	EF9	V	上	2層	G	円形	B2a2	0.30	0.25	0.23	0.14	0.14		日	柱穴
SB020-P2	06_A0294	EE9	V	上	3層	G	円形	B2a2	0.27	0.24	0.17	0.14	0.14		日	柱穴
SB021-P1	06_A0215	E11	V	上	3層	G	円形	B2a2	0.28	0.26	0.20	0.17	0.14		日	柱穴
SB021-P2	06_A0216	ED11	V	上	3層	G	椭円形	B3a2	0.34	0.24	0.21	0.13	0.17		日	柱穴

表16 壁穴住居跡内小穴等一覧表(3)

遺構番号	現場遺構番号	調査区面	検出位置	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考
S8021-P3 [06_A0217]	EE11	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.29	0.25	0.18	0.15	0.14		H	
S8022-P1 [06_A0258]	ED12	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.25	0.21	0.18	0.15	0.19		H	柱穴
S8022-P2 [06_A0236]	ED12	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.26	0.23	0.18	0.10	0.18		H	柱穴
S8022-P3 [06_A0237]	ED12	V	L	2層	C1楕円形	B2a2	0.24	0.19	0.17	0.07	0.18		H	
S8023-P1 [06_A0468]	EG4	V	L	2層	B1円形	B2a2	0.50	0.44	0.39	0.36	0.22		H	柱穴
S8024-P1 [06_A0472]	EH4	V	L	2層	B1円形	B2a2	0.32	0.32	0.29	0.26	0.19		H	柱穴
S8024-P2 [06_A0451]	E4	V	L	2層	D1楕円形	B2a2	0.40	0.53	0.34	0.26	0.24		H	柱穴
S8024-P3 [06_A0469]	EH4	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.39	0.35	0.29	0.24	0.17		H	
S8024-P4 [06_A0470]	EH4	V	L	2層	D1円形	A2a1	0.33	0.33	0.21	0.16	0.13		H	
S8024-P5 [06_A0471]	EH4	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.47	0.46	0.35	0.25	0.22		H	
S8025-P1 [06_A0459]	EH5	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.40	0.57	0.32	0.27	0.23		H	
S8025-P2 [06_A0460]	E15	V	L	4層	G1円形	B2a2	0.36	0.34	0.25	0.23	0.30		H	柱穴
S8025-P3 [06_A0461]	EH5~E15	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.52	0.49	0.36	0.32	0.30		H	柱穴
S8026-P1 [06_A0447]	EHS	V	L	4層	D1楕円形	B2a2	0.55	0.46	0.45	0.36	0.26		H,S	柱穴
S8026-P2 [06_A0449]	EHS	V	L	3層	C1円形	B2a2	0.39	0.35	0.27	0.27	0.24		H	柱穴
S8027-P1 [06_A0482]	E4	V	L	2層	B1円形	B2a2	0.41	0.38	0.30	0.26	0.16		H	
S8027-P2 [06_A0464]	E4	V	L	3層	D1円形	B2a2	0.46	0.44	0.40	0.31	0.24		H	柱穴
S8028-P1 [06_A0463]	EHS	V	L	4層	D1円形	A3a1	0.50	0.44	0.29	0.25	0.33		H	柱穴
S8028-P2 [06_A0477]	E15	V	L	4層	G1楕円形	B1a2	0.75	0.62	0.64	0.46	0.15	P5	H	柱穴か?
S8028-P3 [06_A0473]	E15	V	L	3層	B1円形	A2a1	0.56	0.52	0.17	0.12	0.22		H	
S8028-P4 [06_A0474]	E16	V	L	2層	B1円形	B2a2	0.31	0.29	0.22	0.20	0.20		H	
S8028-P5 [06_A0476]	E15	V	L	2層	B1円形	A2a1	0.35	0.35	0.25	0.22	0.14	P2,P6	H	柱穴か?
S8028-P6 [06_A0475]	E15	V	L	2層	C1円形	B2a1	0.35	0.34	0.24	0.17	0.11	P5	H	
S8029-P1 [06_A0432]	EE14	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.26	0.24	0.15	0.13	0.36		H	
S8030-P1 [06_A0231]	EE14	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.28	0.26	0.19	0.18	0.13		H	
S8032-P1 [06_A0420]	EF14	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.25	0.21	0.14	0.10	0.19		H	柱穴
S8032-P2 [06_A0422]	EF14	V	L	2層	C1不明	B6a1	0.36	(0.20)	0.17	(0.16)	0.12		H	
S8033-P1 [06_A0446]	EJ6	V	L	4層	G1円形	A2a1	0.32	0.30	0.17	0.15	0.13		H	柱穴
S8034-P1 [06_A0435]	E17	V	L	2層	C1円形	A2a1	0.30	0.28	0.19	0.16	0.14		H	柱穴
S8034-P2 [06_A0436]	E17	V	L	2層	C1円形	A2a1	0.32	0.28	0.10	0.10	0.15		H	柱穴
S8035-P1 [06_A0461]	EHS	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.32	0.30	0.17	0.17	0.22		H	柱穴
S8035-P2 [06_A0462]	EHS	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.35	0.31	0.21	0.20	0.25		H	柱穴
S8035-P3 [06_A0463]	EHS	V	L	2層	C1円形	A2a1	0.27	0.25	0.12	0.12	0.15		H	
S8035-P4 [06_A0494]	EHS	V	L	2層	C1円形	A2a1	0.31	0.29	0.16	0.16	0.19		H	
S8035-P5 [06_A0478]	EHS	V	L	2層	B1楕円形	A1a1	0.59	0.45	0.18	0.11	0.22		H	
S8036-P1 [06_A0452]	E69	V	L	2層	C1楕円形	B2a2	0.32	0.30	0.30	0.30	0.16		H	柱穴
S8036-P2 [06_A0453]	E69	V	L	2層	C1楕円形	B2a2	0.37	0.37	0.32	0.25	0.12		H	
S8037-P1 [06_A0326]	EF10	V	L	3層	D1楕円形	A3a2	0.29	0.24	0.17	0.11	0.14		H	柱穴
S8037-P2 [06_A0254]	EF10	V	L	2層	C1円形	B2a2	0.26	0.23	0.19	0.15	0.30		H	柱穴
S8038-P1 [06_A0366]	EF10	V	L	3層	D1楕円形	A3a2	0.26	0.24	0.12	0.12	0.17		H	柱穴
S8039-P1 [06_A0451]	EF11	V	L	3層	G1円形	B2a2	0.35	0.31	0.31	0.26	0.21		H	
S8039-P2 [06_A0453]	EF12	V	L	3層	G1楕円形	B2a2	(0.69)	0.42	0.42	(0.56)	0.16	0.23	H	柱穴
S8039-P3 [06_A0422]	EF12	V	L	2層	C1楕円形	B2a2	0.20	0.15	0.14	0.12	0.15		H	
S8039-P4 [06_A0423]	EF12	V	L	2層	G1楕円形	B2a2	0.26	0.21	0.21	0.17	0.42		H	
S8040-P1 [06_A0435]	EF12	V	L	2層	B1円形	B2a2	0.30	0.26	0.14	0.10	0.20		H	柱穴
S8040-P2 [06_A0459]	EF12	V	L	2層	G1楕円形	B2a2	0.26	0.30	0.24	0.15	0.19		H	柱穴
S8040-P3 [06_A0464]	EF13	V	L	2層	C1不明	B2a2	0.2	0.77	(0.30)	0.63	(0.19)	0.17	H	
S8040-P4 [06_A0466]	EF13	V	L	2層	C1楕円形	B2a2	0.46	0.50	0.65	0.28	0.43		H	
S8041-P1 [06_A0194]	EE11	V	L	3層	A1不整長楕円形	A2b1	0.49	0.20	0.41	0.11	0.08		H	
S8042-P1 [06_A0193]	EE15~L	V	L	3層	A1円形	B2a1	0.32	0.28	0.20	0.18	0.21	P3	H	柱穴か?
S8042-P3 [06_A0194]	EE15~W	V	L	3層	A1不明	B6a1	(0.73)	(0.22)	0.61	(0.15)	0.07	P2<	H	
S8043-P1 [06_A0176]	EE5	V	L	3層	A1円形	B1a2	0.36	0.35	0.27	0.26	0.10		H	柱穴
S8043-P2 [06_A0106]	EE6	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.37	0.31	0.24	0.19	0.19		H	柱穴
S8043-P3 [06_A0177]	EE5	V	L	3層	A1不整円形	B2a1	0.37	0.31	0.29	0.19	0.12		H	
S8043-P4 [06_A0178]	EE5~N6	V	L	3層	A1円形	B1a1	0.34	0.33	0.26	0.25	0.06		H	
S8045-P1 [06_A0098]	EE5	V	L	3層	A1円形	B1a1	0.36	0.33	0.26	0.23	0.07		H	柱穴
S8046-P1 [06_A0192]	EE17	V	L	3層	A1円形	B1a2	0.30	0.26	0.24	0.19	0.03		H	柱穴か?
S8046-P2 [06_A0198]	EP6	V	L	3層	A1楕円形	B1a2	0.47	0.39	0.39	0.28	0.10		H	柱穴か?
S8047-P1 [06_A0117]	EP5	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.34	0.34	0.25	0.24	0.11		H	柱穴
S8047-P2 [06_A0118]	EP5~I6	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.31	0.31	0.23	0.19	0.06		H	柱穴
S8048-P1 [06_A0181]	EP6	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.29	0.29	0.26	0.18	0.15		H	柱穴
S8048-P2 [06_A0170]	EP6	V	L	3層	A1不整正方形	B2a2	0.30	0.30	0.21	0.17	0.33		H	柱穴
S8048-P3 [06_A0164]	EP6	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.30	0.28	0.19	0.18	0.11		H	柱穴
S8050-P1 [06_A0105]	EP13	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.48	0.35	0.32	0.22	0.22		H	柱穴か?
S8051-P1 [06_A0155]	EP14	V	L	3層	A1円形	B1a2	0.30	0.29	0.22	0.21	0.08		H	
S8051-P2 [06_A0153]	EP14	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.32	0.30	0.19	0.19	0.22		H	
S8051-P3 [06_A0154]	EP15	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.24	0.22	0.19	0.17	0.10		H	
S8051-P4 [06_A0134]	EP14~P15	V	L	3層	A1円形	A3a2	0.27	0.23	0.08	0.08	0.18		H	
S8051-P5 [06_A0135]	EP15	V	L	3層	A1円形	A4a2	0.25	0.23	0.10	0.09	0.33		H	
S8051-P6 [06_A0136]	EP15	V	L	3層	A1楕円形	A5a2	0.32	0.25	0.13	0.12	0.19		H	
S8051-P7 [06_A0137]	EP15~Q15	V	L	3層	A1不整円形	B2a2	0.30	0.28	0.18	0.11	0.30		H	柱穴
S8052-P1 [06_A0171]	EP14~Q15	V	L	3層	A1円形	B2a2	0.32	0.29	0.26	0.22	0.19		H	柱穴か?
S8052-P2 [06_A0183]	EP14	V	L	3層	A1不整円形	A2a1	0.40	0.35	0.27	0.17	0.20		H	
S8052-P3 [06_A0184]	EP14	V	L	3層	A1不明	B1a1	(0.50)	0.51	0.47	0.42	0.07		H	
S8052-P4 [06_A0185]	EP14~V	V	L	3層	A1円形	B1a1	0.42	0.40	0.34	0.32	0.10		H	
S8052-P5 [06_A0187]	EP14	V	L	2層	B1不明	B6a2	(0.37)	(0.19)	(0.30)	(0.17)	0.10		H	

表17 積穴住居跡内小穴等一覧表(4)

造構番号	現場遺構番号	調査区画番号	棟数	層位	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考
SB052-P6	08_A0188	EQ14	1	V上	1層 A	円形	B3e2	0.27	0.26	0.17	0.13	0.19			
SB052-P7	08_A0189	EQ14~15	1	V上	1層 A	不明	B2b2	(0.49)	0.48	(0.33)	0.31	0.16			
SB054-P1	07_D0301	EB16	1	V上	2層 B	円形	B1a1	0.27	0.26	0.19	0.17	0.12		無	柱穴
SB054-P2	07_D0302	EC16	1	V上	2層 C	椭円形	B1a1	0.24	0.20	0.10	0.08	0.18			柱穴
SB055-P1	06_B0060	ED14~15	1	V上	2層 B	長椭円形	A1a1	2.07	0.80	1.80	0.40	0.15			
SB055-P2	06_B0069	EC17	1	V上	1層 A	椭円形	A1a1	0.50	0.50	0.30	0.25	0.07			
SB055-P3	06_B0066	ED17	1	V上	1層 A	正方形	A1a1	0.42	0.40	0.36	0.34	0.07			
SB055-P4	06_B0058	EC16	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.22	0.20	0.20	0.18	0.06			
SB055-P5	06_B0059	EC18	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.22	0.20	0.20	0.18	0.06			
SB055-P6	06_B0057	EC17	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.23	0.20	0.20	0.18	0.06			
SB055-P7	06_B0061	ED17	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.20	0.20	0.07	0.07	0.09			
SB055-P9	06_B0070	EC17	1	V上	1層 A	椭円形	A2a1	0.23	0.18	0.60	0.50	0.08			
SB055-P9	06_B0062	ED17	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.22	0.20	0.07	0.07	0.06			
SB055-P10	06_E0063	ED17	1	V上	2層 D	円形	A2a1	0.22	0.20	0.07	0.07	0.08			
SB055-P11	06_E0064	ED17	1	V上	2層 D	円形	A2a1	0.30	0.22	0.16	0.11	0.09			
SB055-P12	06_E0065	ED17	1	V上	2層 D	椭円形	A1a1	0.37	0.30	0.21	0.16	0.04			
SB056-P1	06_B0189	EB18	1	V上	1層 A	円形	A1a2	0.35	0.35	0.28	0.26	0.05			柱穴か?
SB056-P2	06_B0188	EA18	1	V上	2層 B	長椭円形	A2a1	0.70	0.52	0.58	0.38	0.20			
SB056-P3	06_B0191	EB19	1	V上	1層 A	円形	A1a1	0.28	0.28	0.24	0.22	0.05			柱穴か?
SB056-P4	06_B0187	EA18	1	V上	2層 B	円形	A3a1	0.26	0.25	0.21	0.20	0.09			柱穴か?
SB056-P5	06_B0192	EB18	1	V上	1層 A	円形	A1a2	0.32	0.30	0.26	0.26	0.05			
SB056-P6	06_B0193	EB18	1	V上	2層 E	円形	B2a2	0.32	0.31	0.28	0.24	0.12			
SB056-P7	06_B0190	EB18	1	V上	2層 B	円形	A3a2	0.22	0.22	0.16	0.16	0.20			
SB057-P1	06_B0347	EC18	1	V上	2層 B	円形	C3a1	0.40	0.34	0.16	0.14	0.25			
SB057-P2	06_B0355	EC19	1	V上	2層 B	円形	B2a1	0.44	0.42	0.37	0.28	0.15			
SB057-P3	06_B0350	EC18	1	V上	2層 B	円形	B2a1	0.51	0.49	0.38	0.36	0.20			
SB057-P4	06_B0346	EC18	1	V上	2層 E	円形	B2a1	0.28	0.28	0.16	0.14	0.10			
SB057-P5	06_B0352	EC18	1	V上	4層 B	円形	B2b1	0.95	0.84	0.32	0.32	0.43			
SB057-P6	06_B0353	EC18	1	V上	2層 B	円形	B1a1	0.40	0.38	0.10	0.10	0.10			
SB057-P7	06_B0345	EB19	1	V上	3層 B	円形	B2a2	0.42	0.40	0.38	0.36	0.25			
SB057-P8	06_B0348	EB18	1	V上	2層 B	円形	A3a1	0.45	0.22	0.15	0.13	0.18			
SB057-P9	06_B0354	EC18	1	V上	1層 A	円形	B1a1	0.30	0.23	0.23	0.18	0.03			
SB057-P10	06_B0349	EC19	1	V上	1層 A	円形	B2a1	0.20	0.20	0.12	0.12	0.10			
SB057-P11	06_B0321	EC18~19	1	V上	1層 A	円形	B2a1	0.26	0.26	0.20	0.18	0.10			
SB058-P1	06_B0182	FF2	1	V上	2層 B	長椭円形	A2c2	0.32	0.30	0.15	0.09	0.13			柱穴か?
SB058-P2	06_B0186	ED18	1	V上	2層 B	椭円形	A1a1	0.82	0.58	0.65	0.50	0.06			印跡1に隣接
SB058-P3	06_B0187	ED18	1	V上	6層 B	円形	C4a2	0.40	0.38	0.10	0.10	0.30			
SB058-P4	06_B0169	ED18	1	V上	2層 B	円形	A3a2	0.70	0.52	0.16	0.16	0.50			
SB058-P5	06_B0165	ED18	1	V上	3層 B	円形	B6a2	0.20	0.20	0.16	0.16	0.30			
SB058-P6	06_B0198	EC18	1	V上	2層 B	円形	C2b2	0.92	0.67	0.12	0.12	0.32			
SB058-P7	06_B0199	EC19	1	V上	4層 B	円形	A2b2	0.53	0.46	0.24	0.24	0.24			
SB059-P1	06_B0666	ED18	1	V上	2層 A	円形	A1a1	0.42	0.40	0.29	0.26	0.10			
SB059-P2	06_B0630	ED18	1	V上	2層 A	円形	A1a1	0.30	0.26	0.17	0.17	0.06			
SB060-P1	06_B0615	ED19	1	V上	2層 A	円形	A2c2	(0.30)	0.30	0.10	0.10	0.20			柱穴
SB060-P2	06_B0616	ED20	1	V上	3層 B	円形	B2a1	0.50	0.25	0.15	0.13	0.20			柱穴
SB060-P3	06_B0637	ED20	1	V上	2層 B	不整規四角形	B1a1	0.90	0.70	0.50	(0.40)	0.15			
SB060-P4	06_B0612	ED20	1	V上	3層 B	椭円形	B2c2	0.40	0.29	0.25	0.20	0.22			
SB060-P5	06_B0607	ED20	1	V上	3層 E	椭円形	B2b2	0.50	0.32	0.40	0.20	0.30			
SB060-P6	06_B0237	ED20	1	V上	1層 A	円形	A1a1	0.40	0.37	0.20	0.18	0.10			
SB060-P7	06_B0817	ED20	1	V上	2層 C	円形	B2a1	(0.30)	0.25	(0.10)	0.10	0.20			
SB060-P9	06_B0822	ED20	1	V上	2層 B	椭円形	B2a2	0.55	0.45	0.45	0.32	0.35			
SB060-P9	06_B0619	EF19	1	V上	2層 B	円形	A4a2	0.18	0.16	0.10	0.05	0.20			
SB060-P10	06_B0614	ED19	1	V上	1層 A	円形	A5a2	0.20	0.20	0.07	0.07	0.25	P1		
SB060-P11	06_B0612	ED19	1	V上	3層 B	円形	A4a1	0.28	0.24	0.13	0.11	0.26			
SB060-P12	06_B0618	ED19	1	V上	4層 A	円形	A4a2	0.16	0.14	0.10	0.10	0.20			
SB060-P13	06_B0814	ED20	1	V上	3層 B	椭円形	B2b1	0.65	0.60	0.25	0.20	0.24			
SB060-P14	06_B0615	ED20	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.22	0.20	0.10	0.10	0.16			
SB060-P15	06_B0813	ED20	1	V上	2層 B	円形	B2a2	0.32	0.32	0.20	0.20	0.16			
SB060-P16	06_B0834	ED20	1	V上	2層 B	長椭円形	B2a1	0.55	(0.40)	0.40	(0.30)	0.14			
SB060-P17	06_B0835	ED20	1	V上	4層 B	円形	C2a2	0.40	0.40	0.20	0.20	0.50			
SB061-P1	06_B0628	ED20	1	V上	3層 B	正方形	B3a1	0.34	0.34	0.20	0.18	0.35			
SB061-P2	06_B0243	ED20	1	V上	1層 A	円形	A2a1	0.40	0.37	0.24	0.22	0.12			
SB061-P3	06_B0240	FD1	1	V上	1層 A	円形	C2a1	0.45	0.42	0.24	0.22	0.17			
SB061-P4	06_B0113	ED20	1	V上	3層 B	長椭円形	B2a2	0.65	0.55	0.55	0.25	0.15			
SB061-P5	06_B0111	ED20	1	V上	3層 B	椭円形	B2a2	0.30	0.30	0.18	0.14	0.23			
SB061-P6	06_B0241	FD1	1	V上	2層 B	円形	B1a1	0.45	0.42	0.32	0.30	0.18			
SB061-P7	06_B0170	FD1	1	V上	3層 B	長椭円形	A1a2	0.60	0.40	0.48	0.28	0.15			
SB061-P9	06_B0244	ED20	1	V上	1層 A	椭円形	A1a1	0.70	(0.35)	0.65	(0.30)	0.08			
SB061-P9	06_B0242	FD1	1	V上	1層 A	円形	A1a1	0.38	0.36	0.28	0.26	0.10			
SB061-P10	06_B0239	FD1	1	V上	2層 B	円形	B1a1	0.80	0.79	(0.32)	(0.30)	0.20			
SB062-P1	06_B0801	FC1~D1	1	V上	2層 B	円形	A2a1	0.34	0.30	0.20	0.20	0.20			
SB062-P2	06_B0167	ED20	1	V上	4層 B	円形	A2b2	0.80	0.52	0.30	0.30	0.35			
SB062-P3	06_B0164	FD1	1	V上	3層 B	円形	A2a2	0.55	0.45	0.35	0.35	0.20			
SB062-P6	06_B0802	FC1	1	V上	3層 B	椭円形	A1a1	0.60	0.50	0.45	0.32	0.10	H,S,T		
SB063-P1	06_B0404	FC1	1	V上	3層 G	円形	A2b2	0.34	0.30	0.21	0.15	0.15			柱穴?
SB063-P2	06_B0405	FB2	1	V上	2層 G	円形	A3b2	0.29	0.22	0.10	0.09	0.15			柱穴?
SB063-P3	06_B0396	FC2	1	V上	3層 B	椭円形	A2a2	0.47	0.42	0.32	0.30	0.25	B,H		柱穴?

表18 穴住居跡内小穴等一覧表（5）

遺構番号	現場遺構番号	調査区画	検出位置	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考	
SB063-P4	[06_B0793]	FC2	V J-3層	B1	円形	B2a2	0.50	(0.44)	(0.30)	0.25	0.30	H	柱穴?		
SB063-P5	[06_B0791]	FC1～C2	V J-3層	G1	円形	B2a1	0.57	0.45	0.27	0.20	0.22	内部周溝	H		
SB063-P6	[06_B0395]	FC2	I b1	2層	G1	円形	A2a2	0.42	0.32	0.17	0.12	0.10	無		
SB063-P7	[06_B0790]	FC2	V J-4層	B1	長円形	B2a2	(0.70)	0.50	(0.50)	0.40	0.22	内部周溝	H		
SB063-P8	[06_B0401]	FB2	I b1	2層	G1	円形	A2a2	0.30	(0.30)	(0.11)	0.10	0.15	無		
SB063-P9	[06_B0391]	FC1	I b1	2層	B1	長円形	B1a2	0.52	0.36	0.46	0.30	0.05	無		
SB063-P10	[06_B0389]	FB1	I b1	2層	B1	円形	A1a1	0.42	0.40	0.30	0.30	0.08	無		
SB063-P11	[06_B0399]	FB2	I b1	1層	A1	長楕円形	A2a1	0.45	0.15	0.40	0.10	0.05	無		
SB063-P12	[06_B0364]	FC1	I b1	3層	B1	円形	B2a2	0.45	0.40	0.22	0.20	0.32	内部周溝	H	
SB063-P13	[06_B0393]	FC1	I b1	1層	A1	円形	B3c2	0.18	0.17	0.80	0.70	0.13	無		
SB063-P14	[06_B0392]	FC1	I b1	2層	B1	円形	B1a2	0.73	0.42	0.40	0.32	0.11	無		
SB063-P15	[06_B0363]	FC1	I b1	3層	B1	長楕円形	B1a1	1.26	0.76	1.05	0.52	0.20	無		
SB063-P16	[06_B0339]	FC1～C2	I b1	2層	B1	長楕円形	B3c2	0.30	0.20	0.20	0.12	0.19	無		
SB063-P17	[06_B0338]	FC2	I b1	2層	B1	円形	B2a2	0.92	0.78	0.65	0.55	0.35	無		
SB063-P18	[06_B0789]	FC2	V J-4層	B1	円形	C5b1	0.52	0.32	0.10	0.08	0.40	内部周溝	H		
SB063-P19	[06_B0397]	FC2	I b1	2層	B1	長楕円形	A2a2	0.65	0.41	0.51	0.20	0.18	無		
SB063-P20	[06_B0398]	FC2	I b1	2層	B1	長楕円形	A2a2	0.35	(0.20)	0.25	(0.15)	0.10	無		
SB064-P1	[06_B0386]	FB2	I b1	2層	G1	円形	A2a2	0.30	0.28	0.12	0.10	0.10	H	柱穴?	
SB064-P2	[06_B0387]	FC2	I b1	3層	G1	円形	A2a2	0.32	0.30	0.25	0.23	0.10	H	柱穴?	
SB064-P3	[06_B0379]	FB2	I b1	2層	G1	円形	A2b2	0.28	0.26	0.16	0.15	0.15	H		
SB064-P4	[06_B0382]	FB2	I b1	2層	F1	円形	B2c1	0.32	0.18	0.14	0.10	0.14	H		
SB064-P5	[06_B0385]	FB2	I b1	1層	A1	長楕円形	A1a1	0.65	0.40	0.58	0.32	0.05	H		
SB064-P6	[06_B0383]	FB2	I b1	2層	B1	長楕円形	A1a1	0.58	0.40	0.48	0.30	0.10	H		
SB064-P7	[06_B0384]	FB2	I b1	2層	B1	円形	A2a2	0.34	0.31	0.30	0.26	0.10	H		
SB064-P8	[06_B0381]	FB2	I b1	2層	B1	長楕円形	A1a1	0.50	0.35	0.32	0.22	0.10	無		
SB064-P9	[06_B0380]	FB2	I b1	1層	A1	円形	A2a1	0.20	0.18	0.16	0.15	0.10	無		
SB065-P1	[06_B0197]	FA1	I b1	3層	B1	円形	B2a1	0.35	0.32	0.18	0.16	0.20	H	柱穴	
SB065-P2	[06_B0132]	FA1	I b1	2層	B1	長楕円形	A2a1	0.25	0.24	0.18	0.12	0.20	H	柱穴	
SB065-P3	[06_B0200]	FA1	I b1	1層	A1	円形	C2a1	0.35	0.35	0.16	0.16	0.12	H	柱穴	
SB065-P4	[06_B0135]	FA1	I b1	2層	B1	長楕円形	A1a1	0.30	0.30	0.28	0.20	0.05	H	柱穴	
SB065-P5	[06_B0154]	FA1	I b1	1層	A1	円形	A3a1	0.52	0.50	0.48	0.44	0.40	P6		
SB065-P6	[06_B0196]	FA1	I b1	3層	B1	長楕円形	A2a1	0.82	0.65	0.48	0.25	0.23	P5	H	
SB065-P7	[06_B0155]	FA1	I b1	2層	B1	円形	A2a1	0.66	0.55	0.56	0.50	0.40	H		
SB065-P8	[06_B0196]	FA1	I b1	1層	A1	円形	A1a1	0.64	0.60	0.59	0.50	0.05	H		
SB065-P9	[06_B0134]	FA1	I b1	2層	B1	円形	C2a1	0.14	0.12	0.06	0.06	0.07	H		
SB065-P10	[06_B0198]	FA1	I b1	2層	B1	円形	A2a1	0.34	0.32	0.28	0.26	0.18	H		
SB065-P11	[06_B0133]	FA1	I b1	2層	B1	円形	A2a1	0.30	0.30	0.15	0.15	0.10	H		
SB065-P12	[06_B0209]	FA1	I b1	1層	A1	円形	A1a1	0.25	0.25	0.22	0.22	0.05	無		
SB065-P13	[06_B0199]	FA1	I b1	2層	A1	円形	A2a1	(0.25)	(0.21)	(0.16)	(0.14)	0.13	H		
SB065-P14	[06_B0209]	FA1	I b1	1層	A1	円形	A1a1	0.85	0.65	0.70	0.52	0.05	P15		
SB065-P15	[06_B0213]	FA1	I b1	3層	B1	円形	A1a1	1.62	1.31	1.29	0.78	0.17	P14	H	
SB065-P16	[06_B0191]	FA1	I b1	2層	B1	円形	A2a1	0.30	0.28	0.10	0.10	0.10	H		
SB065-P17	[06_B0139]	FA1	I b1	1層	A1	円形	A1a2	0.65	0.55	0.60	0.50	0.10	H		
SB065-P18	[06_B0203]	FA1	I b1	2層	B1	長楕円形	A1a2	0.32	0.32	0.50	0.46	0.12	H		
SB066-P1	[06_B0896]	BT2	V J-2層	B1	円形	B2a1	0.38	0.34	0.28	0.25	0.05	H	柱穴?		
SB066-P2	[06_B0895]	BT2	V J-2層	G1	円形	B2b1	0.32	0.30	0.20	0.15	0.15	無	柱穴?		
SB066-P3	[06_B0129]	BT1	I b1	2層	B1	円形	B2a2	0.24	0.21	0.18	0.18	0.23	H	柱穴?	
SB066-P4	[06_B0893]	BT2	V J-2層	B1	円形	B1b1	0.30	0.28	0.15	0.10	0.18	H			
SB066-P5	[06_B0894]	BT2	V J-1層	A1	円形	A1a1	0.34	0.30	0.18	0.18	0.05	H			
SB067-P1	[06_B0360]	BT3	I b1	2層	B1	円形	B2a2	0.46	0.36	0.34	0.30	0.10	H		
SB067-P2	[06_B0356]	BT3	I b1	2層	B1	円形	A2a1	0.52	0.48	0.44	0.40	0.15	H		
SB067-P3	[06_B0357]	BT3	I b1	2層	B1	長楕円形	B1a1	0.62	0.46	0.40	0.30	0.13	無		
SB067-P4	[06_B0358]	BT3	I b1	2層	B1	長楕円形	B2a1	0.34	0.32	0.15	0.10	0.10	H		
SB067-P5	[06_B0359]	BT3	I b1	2層	E1	円形	A2a2	0.37	0.32	0.22	0.20	0.15	H		
SB067-P6	[06_B0361]	BT3	I b1	1層	A1	円形	A1a2	0.32	0.24	0.13	0.17	0.05	無		
SB068-P1	[06_B0329]	FA4	I b1	2層	B1	円形	B3a1	0.60	0.50	0.44	0.26	0.20	H		
SB068-P2	[06_B0323]	FA4	I b1	2層	B1	円形	B2a1	0.55	0.53	0.42	0.35	0.18	H		
SB068-P3	[06_B0324]	FA4	I b1	2層	B1	円形	B2a2	0.35	0.35	0.30	0.29	0.25	H		
SB068-P4	[06_B0326]	FA4	I b1	2層	B1	円形	B2a1	0.36	0.34	0.30	0.30	0.16	無		
SB068-P5	[06_B0328]	FA4	I b1	3層	A1	円形	A1a1	0.52	0.30	0.15	0.14	0.07	H		
SB068-P6	[06_B0331]	FA4	I b1	3層	B1	円形	B2a1	0.38	0.35	0.25	0.24	0.20	H		
SB068-P7	[06_B0330]	FA4	I b1	2層	B1	円形	B2a1	0.37	0.32	0.26	0.18	0.10	H		
SB068-P8	[06_B0332]	BT4	I b1	2層	B1	長楕円形	B2a1	0.40	0.20	0.32	0.14	0.10	H		
SB069-P1	[06_B0315]	BT5	I b1	3層	B1	長楕円形	A1a2	0.32	0.30	0.22	0.18	0.30	H	柱穴	
SB069-P2	[06_B0319]	BT5	I b1	2層	B1	円形	B2a2	0.37	0.30	0.25	0.22	0.19	H	柱穴	
SB069-P3	[06_B0314]	BT5	I b1	4層	B1	長楕円形	B3a1	0.40	0.40	0.32	0.24	0.30	H		
SB069-P4	[06_B0316]	BT5	I b1	2層	B1	長楕円形	B1a1	0.72	0.55	0.53	0.32	0.13	H		
SB069-P5	[06_B0317]	BT5	I b1	3層	B1	長楕円形	A2a1	0.72	0.38	0.48	0.19	0.32	H		
SB069-P6	[06_B0313]	BT5	I b1	2層	B1	長楕円形	B2a2	0.52	0.17	0.48	0.13	0.10	H		
SB069-P7	[06_B0311]	BS5	I b1	2層	B1	長楕円形	B2a1	0.51	(0.38)	(0.44)	(0.33)	0.13	P8	H	
SB069-P8	[06_B0312]	BS5	I b1	3層	B1	長楕円形	A2a2	0.35	(0.27)	0.27	(0.20)	0.20	P7	H	
SB069-P9	[06_B0318]	BT5	I b1	3層	B1	円形	A3a2	0.45	0.38	0.33	0.32	0.27	H		
SB069-P10	[06_B0321]	BT5	I b1	2層	B1	円形	B2a1	0.30	0.30	0.16	0.14	0.16	H		
SB069-P11	[06_B0320]	BT5	I b1	3層	B1	円形	B1a1	0.65	0.62	0.52	0.44	0.15	H		
SB070-P1	[06_B0377]	EF16	I b1	2層	B1	円形	A1a1	(0.65)	0.60	0.55	0.45	0.11	壁裏	H	
SB071-P1	[06_B0477]	EF20	V J-3層	B1	長楕円形	A2a2	0.36	0.36	0.20	0.20	0.20	無	柱穴		
SB071-P2	[06_B0206]	EF20	V J-3層	B1	長楕円形	A5a2	0.40	0.21	0.18	(0.11)	0.23	H			

表19 積石住居跡内小穴等一覧表（6）

遺構番号	現場遺構 番号	調査 区画	棟数 層位	埋土	平面形状	断面 形状	上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	新>●>旧	出土 遺物	備考
SB071-P1	06_5044	EP21	V E	2層 G	円形	A2e2	0.28	0.28	0.22	0.22	0.12	○	壁面	日
SB072-P1	07_00285	EG16	V E	3層 D	円形	A1a2	0.35	0.32	0.27	0.24	0.15	日	柱穴	
SB072-P2	07_00286	EG16	V E	2層 G	円形	A1a2	0.28	0.27	0.14	0.12	0.32	日	柱穴	
SB072-P3	07_00291	EG16	V E	3層 C	円形	A1a1	0.30	0.27	0.18	0.17	0.13	日	柱穴	
SB072-P4	07_00288	EG16	V E	5層 G	円形	A1a2	0.27	0.26	0.18	0.13	0.37	日	柱穴	
SB072-P5	07_00290	EG16	V E	1層 A	椭円形	A2a2	0.18	(0.17)	0.12	0.09	0.11	日	無	
SB072-P6	07_00289	EG16	V E	3層 B	長椭円形	A3a1	0.26	(0.23)	0.12	0.08	0.18	日	無	
SB072-P7	07_00287	EG16	V E	2層 C	円形	A1a2	0.23	0.23	0.15	0.14	0.07	日	無	
SB073-P1	07_00234	PN6	V E	3層 G	椭円形	B2a1	0.35	(0.24)	0.24	(0.18)	0.14	日	B.P.	柱穴
SB074-P1	07_00211	PN6	V E	4層 G	円形	A3b2	0.30	0.28	0.12	0.12	0.20	日	柱穴	
SB074-P2	07_00224	PN6	V E	4層 G	円形	A3a2	0.25	0.20	0.18	0.16	0.20	日	柱穴	
SB075-P1	07_00289	PN6	V E	3層 G	円形	A2a2	0.35	0.33	0.31	0.27	0.16	日	柱穴	
SB077-P1	07_00110	PF7	V E	1層 A	長椭円形	B1a1	0.38	0.30	0.21	0.12	0.08	日	柱穴か?	
SB077-P2	07_00143	PF2	V E	1層 C	不整椭円形	A1a1	0.74	0.42	0.62	0.22	0.04	日	貼床下層	
SB077-P3	07_00135	PF2	V E	2層 C	不整椭円形	A1a1	0.78	0.60	0.60	0.42	0.07	日	貼床下層	
SB078-P1	07_00068	EG16	V E	2層 B	椭円形	A1a1	0.25	0.24	0.17	0.12	0.10	日	柱穴か?	
SB080-P1	07_00128	PN5	V E	3層 G	円形	A1a1	0.26	0.20	0.10	0.16	0.19	日	柱穴	
SB080-P2	07_00114	EP7	V E	2層 G	椭円形	B2a1	0.27	0.25	0.10	0.07	0.17	日	柱穴	
SB080-P3	07_00115	PN6	V E	3層 G	長椭円形	A4a2	0.27	0.24	0.12	0.08	0.29	日	柱穴	
SB080-P4	07_00113	EP7	V E	3層 G	円形	A2a1	0.27	0.25	0.08	0.07	0.10	日	柱穴	
SB080-P5	07_00126	PN6	V E	2層 B	円形	A1a1	0.30	0.28	0.20	0.18	0.08	日	貼床下層	
SB081-P1	07_00116	PN6	V E	3層 G	椭円形	A2a1	0.28	0.25	0.20	0.16	0.14	日	柱穴	
SB082-P1	07_00360	PN8	V E	3層 G	椭円形	A1a2	0.45	0.30	0.30	0.25	0.22	日	柱穴	
SB082-P2	07_00359	PN8	V E	2層 G	椭円形	B2a1	0.32	0.30	0.25	0.20	0.14	日	柱穴	
SB082-P3	07_00358	PN8	V E	3層 G	円形	A1a2	0.26	0.26	0.15	0.14	0.15	日	柱穴	
SB082-P4	07_00361	PN8	V E	3層 G	円形	A1a1	0.35	0.32	0.17	0.15	0.13	日	無	
SB083-P1	07_00353	PO10	V E	3層 G	円形	A2a2	0.24	0.23	0.08	0.08	0.15	日	柱穴	
SB083-P2	07_00355	PO10	V E	3層 G	円形	A2a2	0.38	0.38	0.20	0.18	0.12	日	柱穴	
SB083-P3	07_00352	PO10	V E	2層 B	円形	A1a2	0.18	0.18	0.08	0.08	0.18	日	無	
SB083-P4	07_00357	PO10	V E	3層 B	円形	A2a2	0.30	0.29	0.20	0.20	0.12	日	柱穴	
SB083-P5	07_00356	PO10	V E	4層 G	円形	A3a2	0.25	0.25	0.13	0.13	0.25	日	柱穴	
SB083-P6	07_00354	PO10	V E	3層 B	椭円形	B2a1	0.38	0.38	0.25	0.18	0.14	日	柱穴	
SB084-P1	07_00405	EP10	V E	3層 G	円形	B2a1	0.30	0.30	0.18	0.16	0.10	日	柱穴	
SB084-P2	07_00347	PO9	V E	3層 G	円形	B3a2	0.35	0.30	0.22	0.22	0.21	日	柱穴	
SB084-P3	07_00344	PO9	V E	3層 G	円形	B1a2	(0.24)	0.24	0.10	0.10	0.12	日	柱穴	
SB084-P4	07_00350	PO10	V E	1層 A	円形	A1a1	0.32	0.31	0.20	0.20	0.08	日	柱穴	
SB084-P5	07_00351	PO10	V E	3層 G	円形	B3a2	0.42	0.36	0.22	0.20	0.30	日	柱穴	
SB084-P6	07_00422	PO9	V E	3層 G	円形	A1a1	0.25	0.25	0.15	0.15	0.08	日	柱穴	
SB084-P7	07_00419	PO9~PO10	V E	2層 G	円形	A1a1	0.32	0.32	0.18	0.18	0.10	日	柱穴	
SB084-P8	07_00417	PO9	V E	3層 B	椭円形	B2a2	0.48	0.49	0.25	0.25	0.20	日	貼床下層	
SB084-P9	07_00420	PO10	V E	3層 B	椭円形	B2a1	0.32	0.28	0.18	0.17	0.18	日	貼床下層	
SB085-P1	07_00503	PO9	V E	4層 G	円形	B1a2	0.28	0.25	0.15	0.15	0.13	日	柱穴	
SB085-P2	07_00504	PO9	V E	4層 G	円形	B3a2	0.30	0.28	0.16	0.16	0.18	日	柱穴	
SB085-P3	07_00505	PO10	V E	4層 G	円形	B3a2	0.25	0.25	0.18	0.16	0.20	日	柱穴	
SB085-P4	07_00506	PO10	V E	2層 F	円形	B1a2	0.40	0.35	0.32	0.30	0.05	日	柱穴	
SB085-P5	07_00428	PO10	V E	2層 B	椭円形	A1a1	0.60	0.58	0.49	0.32	0.10	日	柱穴	
SB085-P6	07_00002	PO10	V E	4層 G	円形	C3a1	0.42	0.40	0.10	0.10	0.41	日	柱穴	
SB086-P1	07_00418	PO9	V E	4層 G	円形	B1a1	0.50	0.38	0.20	0.20	0.38	日	柱穴	
SB086-P2	07_00365	PO9~PO10	V E	2層 G	円形	A1a1	0.25	0.25	0.14	0.14	0.06	日	柱穴	
SB086-P3	07_00366	PO10	V E	3層 G	円形	B3a2	0.27	0.25	0.18	0.16	0.25	日	柱穴	
SB086-P4	07_00367	PO10	V E	3層 G	円形	B2a2	0.34	0.30	0.22	0.20	0.15	日	柱穴	
SB087-P1	07_00347	PO9	V E	3層 G	円形	B3a2	0.35	0.30	0.22	0.22	0.27	日	柱穴	
SB087-P2	07_00404	PO10	V E	3層 B	円形	B2a1	0.25	0.22	0.20	0.18	0.10	日	柱穴	
SB087-P3	07_00349	PO10	V E	3層 G	円形	A5a2	0.30	0.30	0.22	0.20	0.25	日	柱穴	
SB087-P4	07_00348	PO9	V E	2層 B	円形	B3a1	0.20	0.20	0.10	0.10	0.15	日	柱穴	
SB087-P5	07_00345	PO9	V E	1層 A	円形	A1a1	0.25	0.25	0.18	0.18	0.05	日	柱穴	
SB087-P6	07_00351	PO10	V E	3層 B	椭円形	A3a2	0.25	0.20	0.15	0.15	0.20	日	柱穴	
SB087-P7	07_00406	EP11	V E	3層 B	椭円形	B2a1	0.40	0.32	0.25	0.17	0.10	日	柱穴	
SB088-P1	07_00436	PO9	V E	3層 G	円形	A1a2	0.25	0.25	0.15	0.15	0.22	日	柱穴	
SB088-P2	07_00437	PO9	V E	3層 G	円形	B3a2	0.35	0.30	0.22	0.22	0.27	日	柱穴	
SB088-P3	07_00454	PO10	V E	3層 B	円形	A3a2	0.27	0.27	0.15	0.15	0.25	日	柱穴	
SB088-P4	07_00456	PO10	V E	3層 G	円形	A3a1	0.26	0.26	0.14	0.14	0.20	日	柱穴	
SB089-P1	07_00321	FP9	V E	3層 G	円形	B2a2	0.28	0.26	0.10	0.10	0.10	日	柱穴	
SB089-P2	07_00320	FP9	V E	4層 G	円形	B3a2	0.36	0.30	0.16	0.15	0.28	日	柱穴	
SB089-P3	07_00393	FP9	V E	3層 G	椭円形	A5a2	0.28	0.25	0.15	0.12	0.56	日	貼床下層	
SB089-P4	07_00392	FP9	V E	3層 G	椭円形	B3a1	0.35	0.30	0.25	0.20	0.22	日	貼床下層	
SB089-P5	07_00394	FP9	V E	3層 B	円形	A2a1	0.35	0.30	0.20	0.20	0.15	日	貼床下層	
SB089-P6	07_00303	FP9	V E	3層 G	円形	B3a2	0.28	0.26	0.10	0.10	0.20	日	柱穴	
SB089-P7	07_00383	FP10	V E	3層 B	円形	A3a2	(0.25)	0.24	0.12	0.12	0.25	日	貼床下層	
SB089-P8	07_00382	FP10	V E	3層 B	円形	A3a1	(0.25)	0.23	0.15	0.14	0.25	日	貼床下層	
SB089-P9	07_00408	FP7	V E	3層 G	円形	A2a1	0.29	0.28	0.17	0.16	0.09	日	柱穴	
SB089-P10	07_00412	FP8	V E	3層 G	長椭円形	C3a1	0.27	0.25	0.11	0.08	0.27	日	柱穴	
SB089-P11	07_00130	FP7	V E	3層 G	円形	C4a2	0.27	0.24	0.05	0.04	0.39	日	柱穴	
SB089-P12	07_00103	FP1	V E	4層 G	椭円形	C5a1	0.30	0.27	0.14	0.10	0.52	日	柱穴	
SB089-P13	07_00107	FP7	V E	2層 B	長椭円形	B1a1	1.09	0.54	0.82	0.30	0.10	日	柱穴	
SB089-P14	07_00106	FP7	V E	3層 G	長椭円形	A2a1	0.30	0.25	0.24	0.15	0.15	日	柱穴	

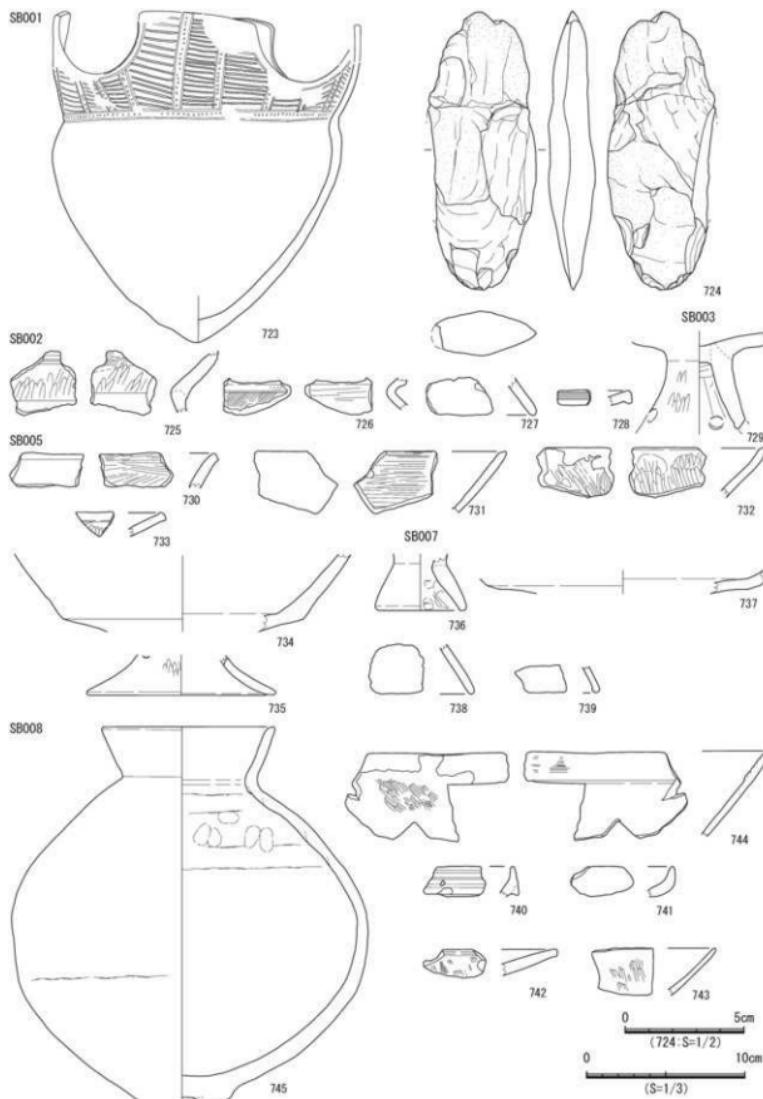


図218 遺物実測図 (53)

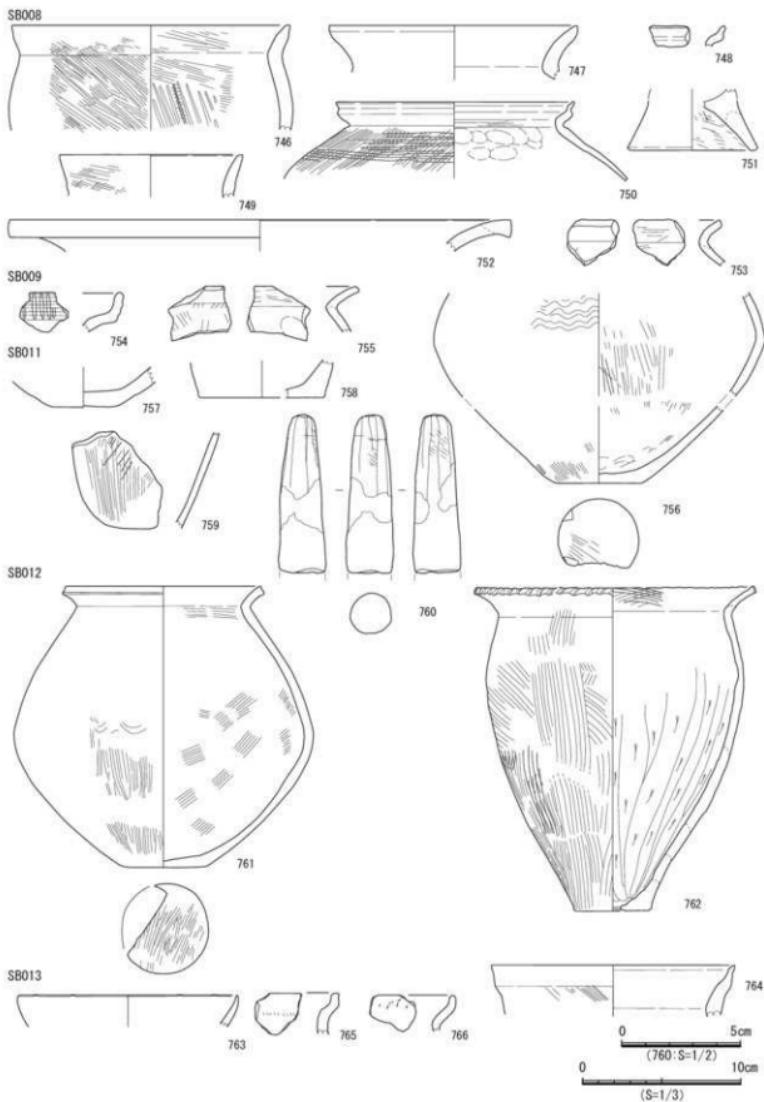
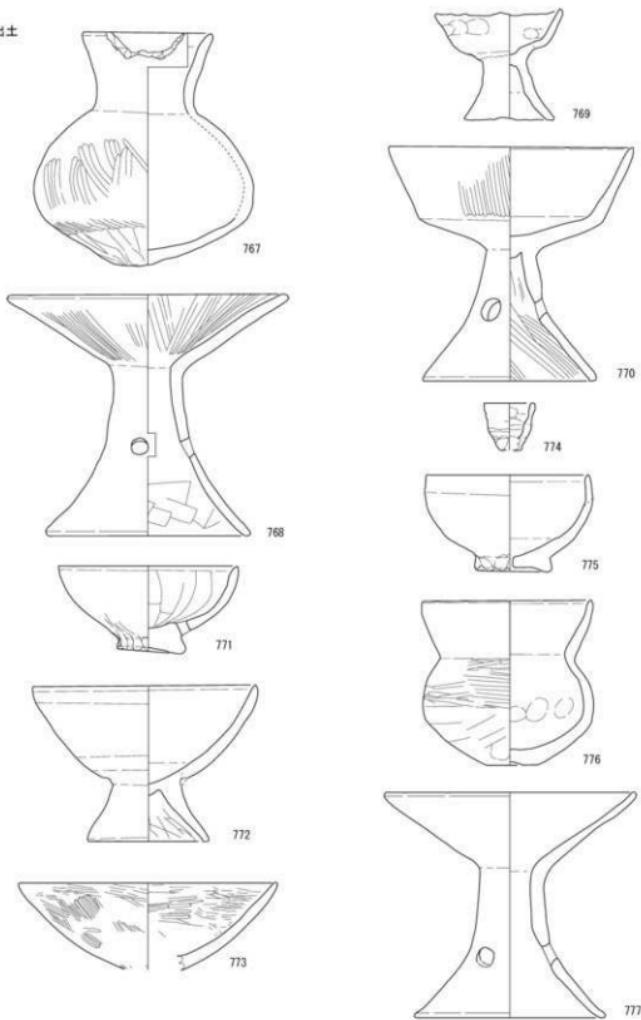


図219 遺物実測図 (54)

SB014
北西隅出土



0 10cm
(S=1/3)

図220 遺物実測図 (55)

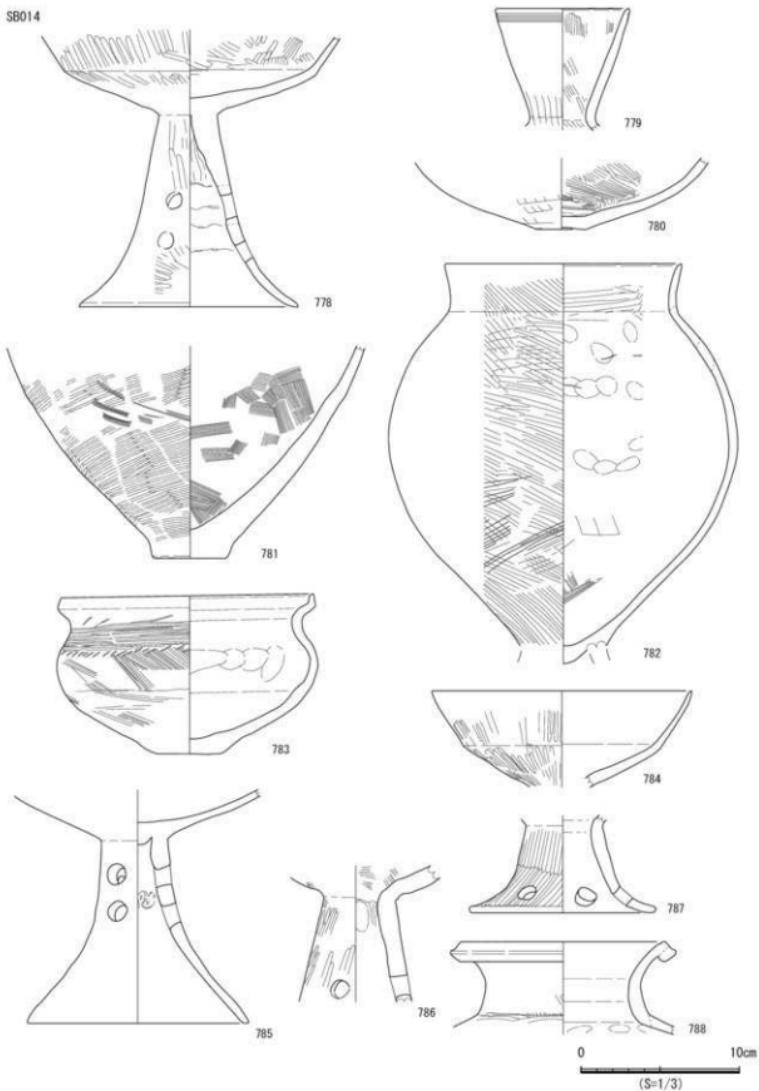


図221 遺物実測図 (56)

SB014

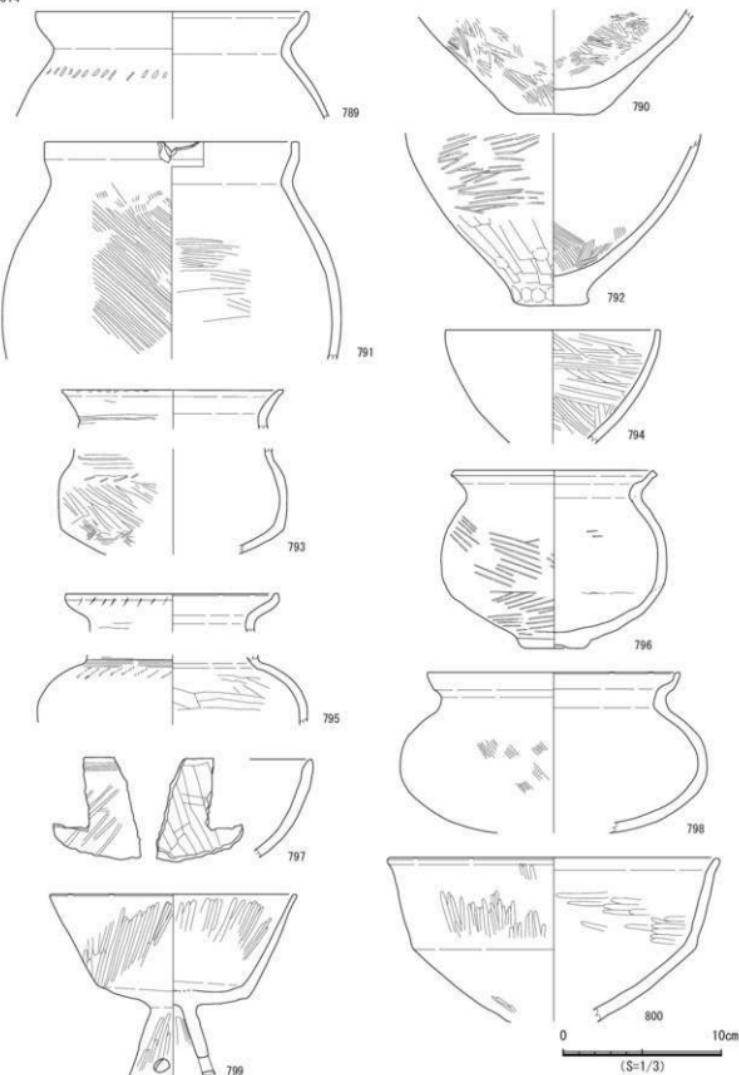


図222 遺物実測図 (57)

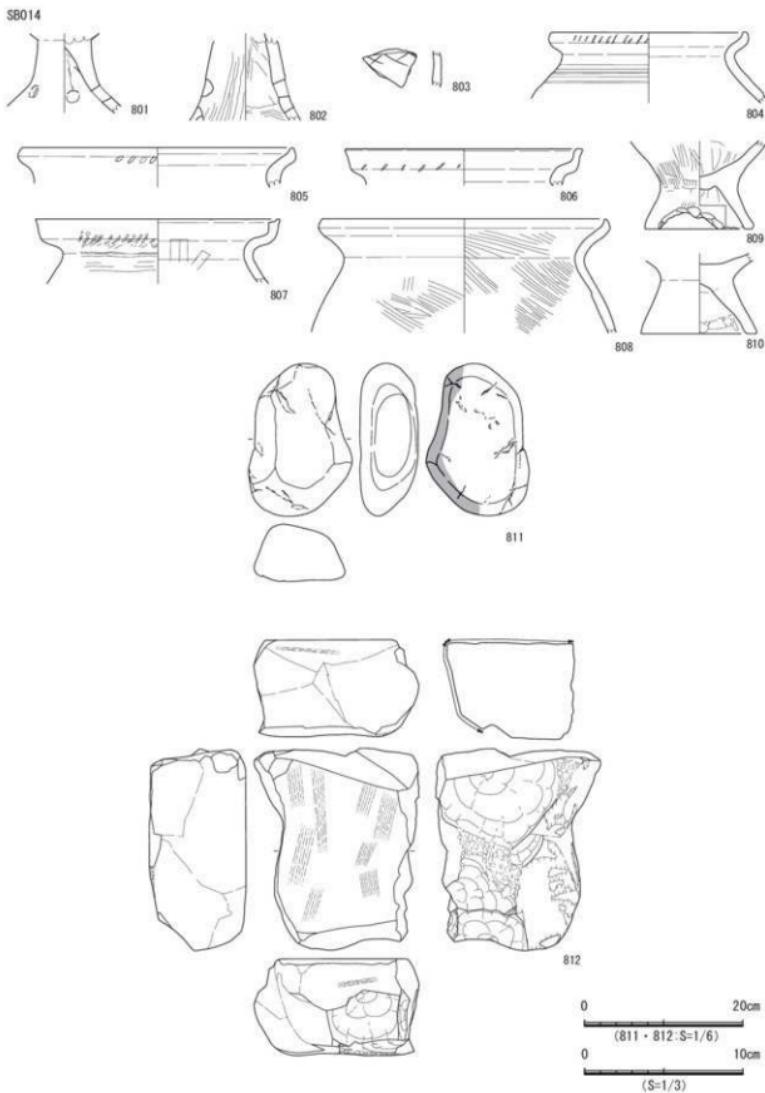


図223 遺物実測図 (58)

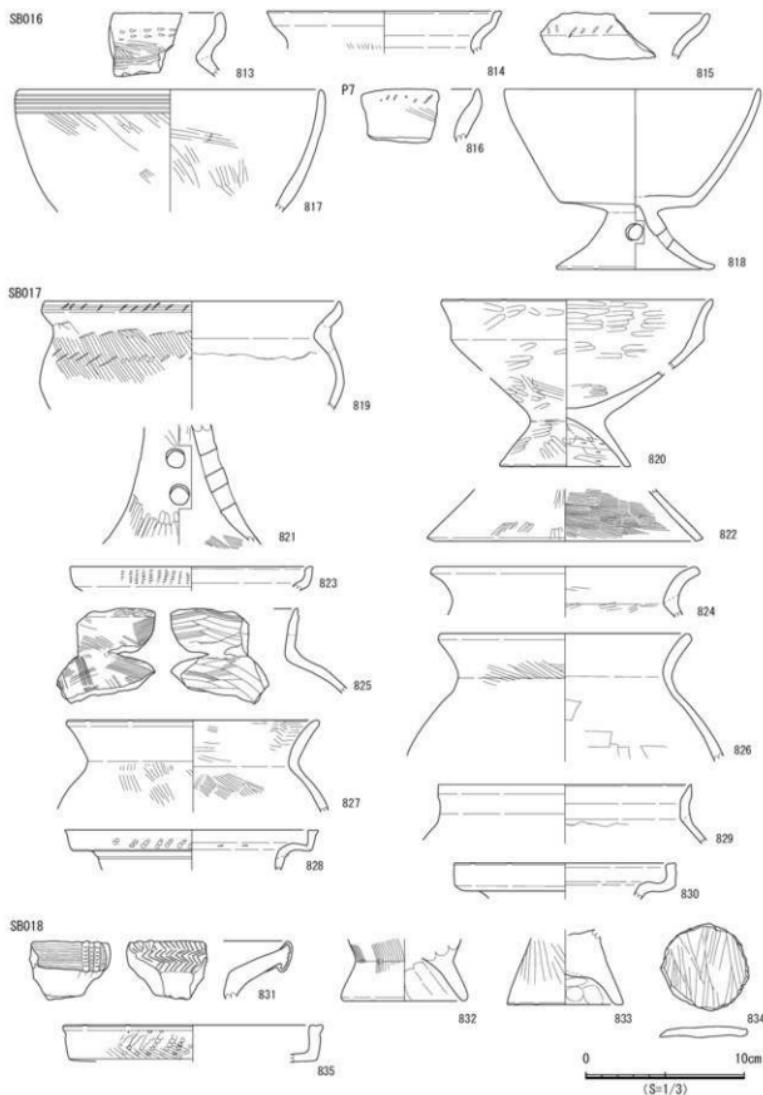


図224 遺物実測図 (59)

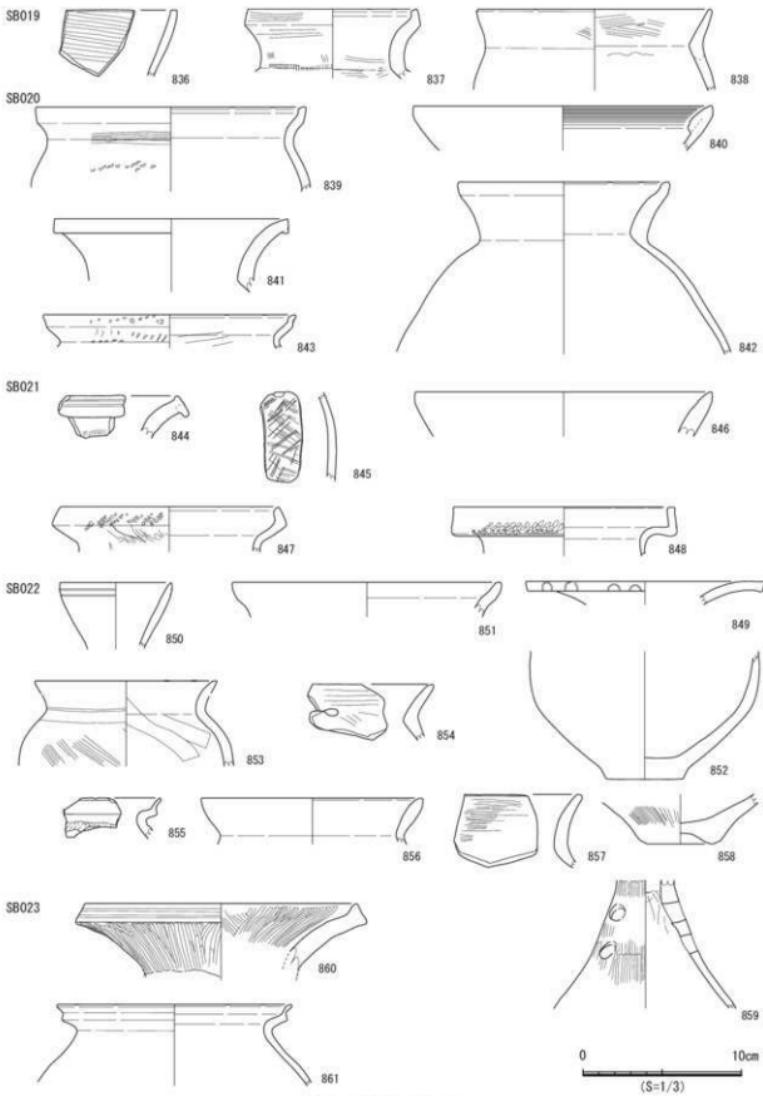


図225 遺物実測図 (60)

SB024



862



864



863



865

SB025



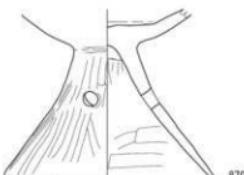
866



867



868



870



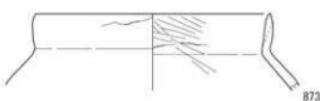
869



871



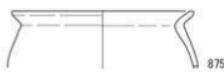
872



873



874

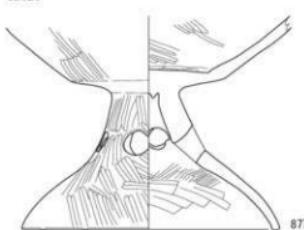


875



876

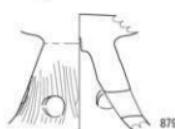
SB026



877



878



879



880



図226 遺物実測図 (61)

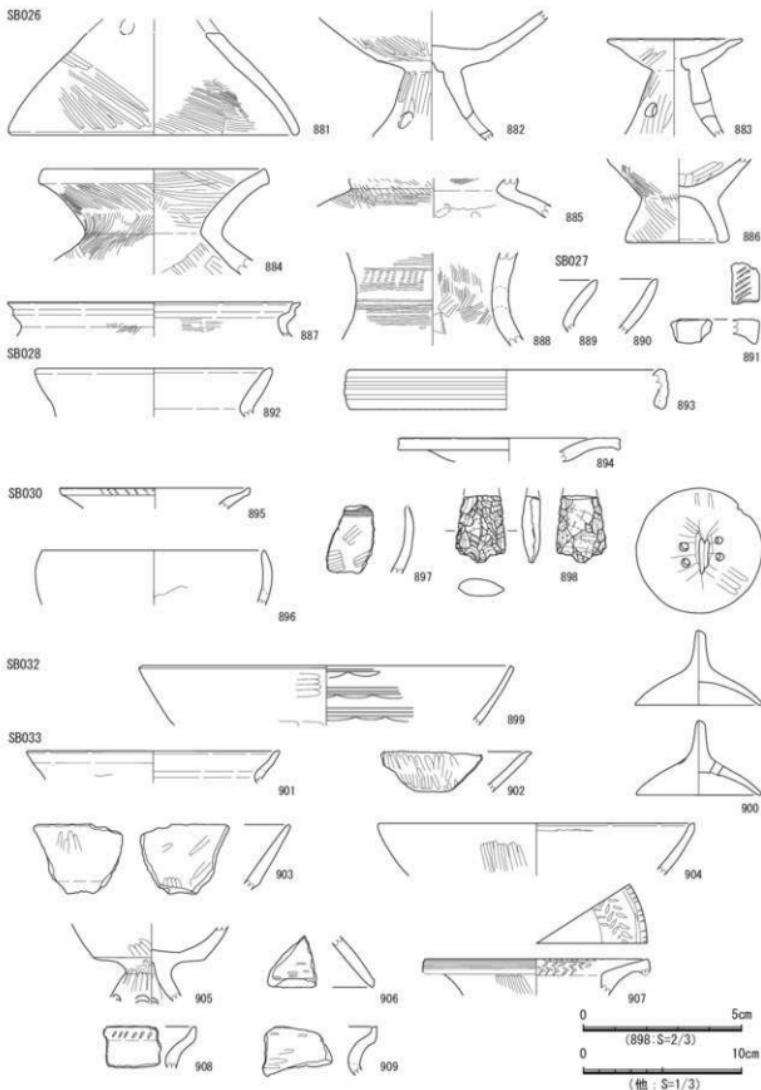
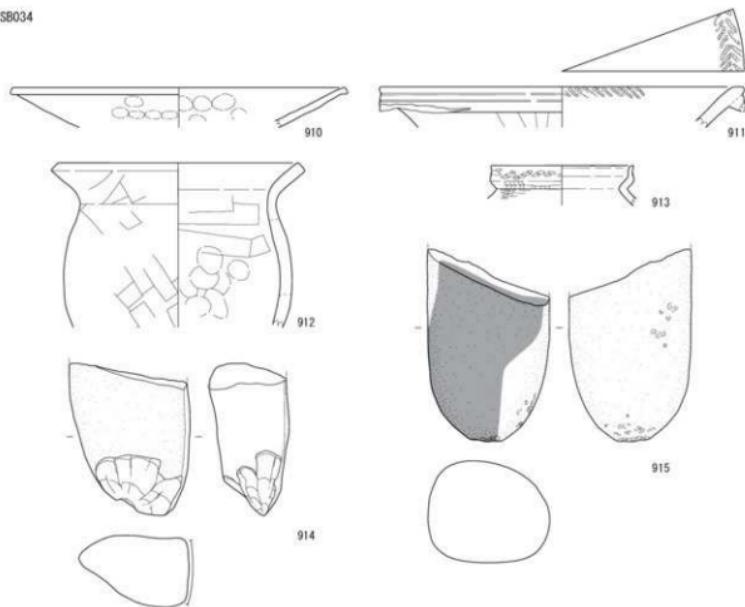


図227 遺物実測図 (62)

SB034



SB035

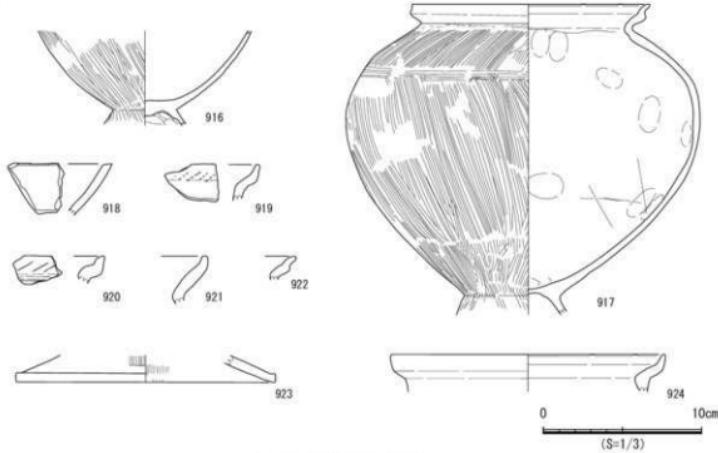


図228 遺物実測図 (63)

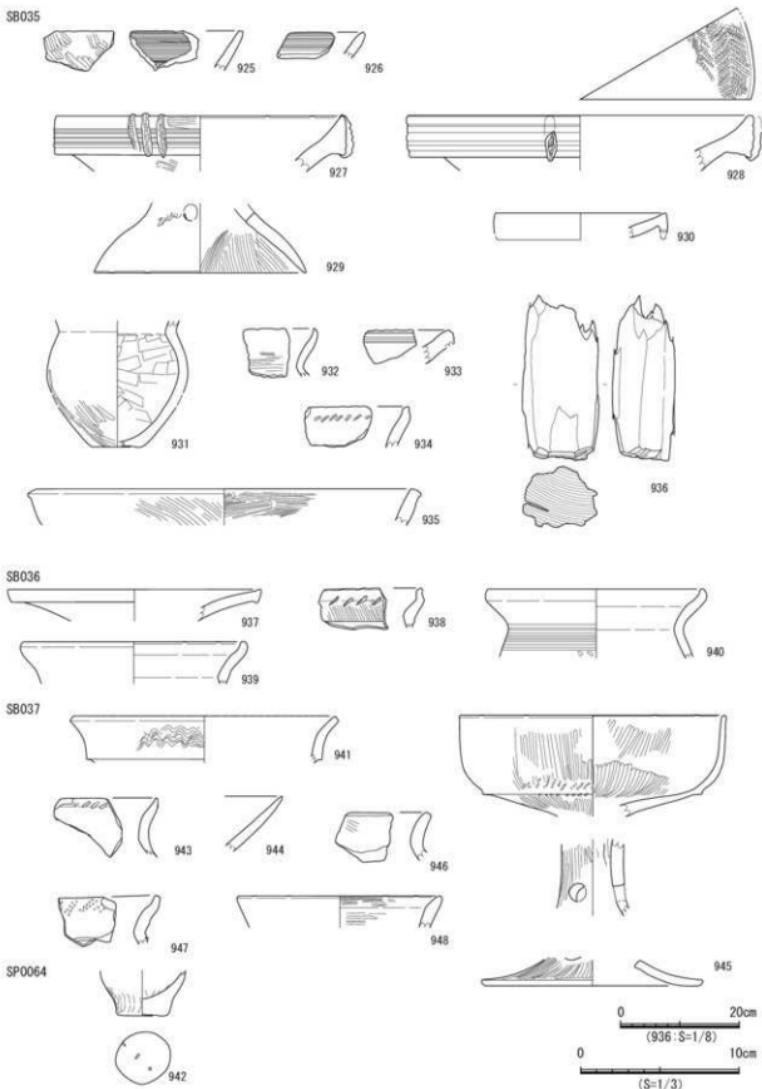


図229 遺物実測図 (64)

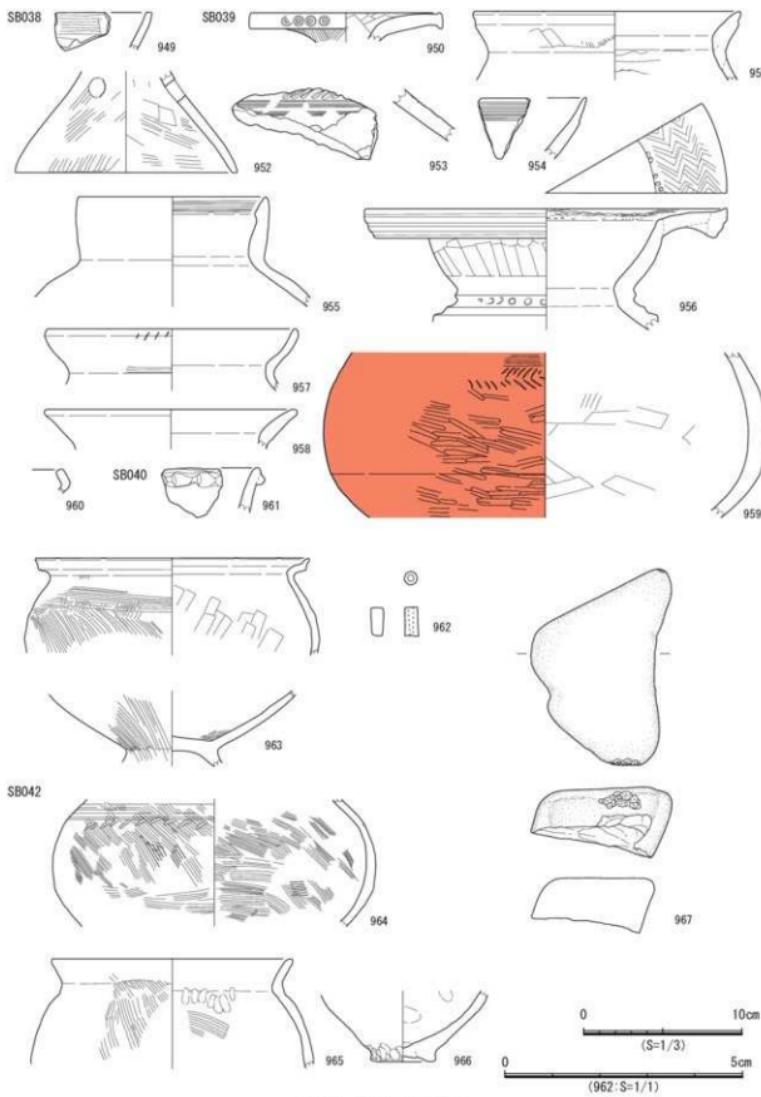


図230 遺物実測図 (65)

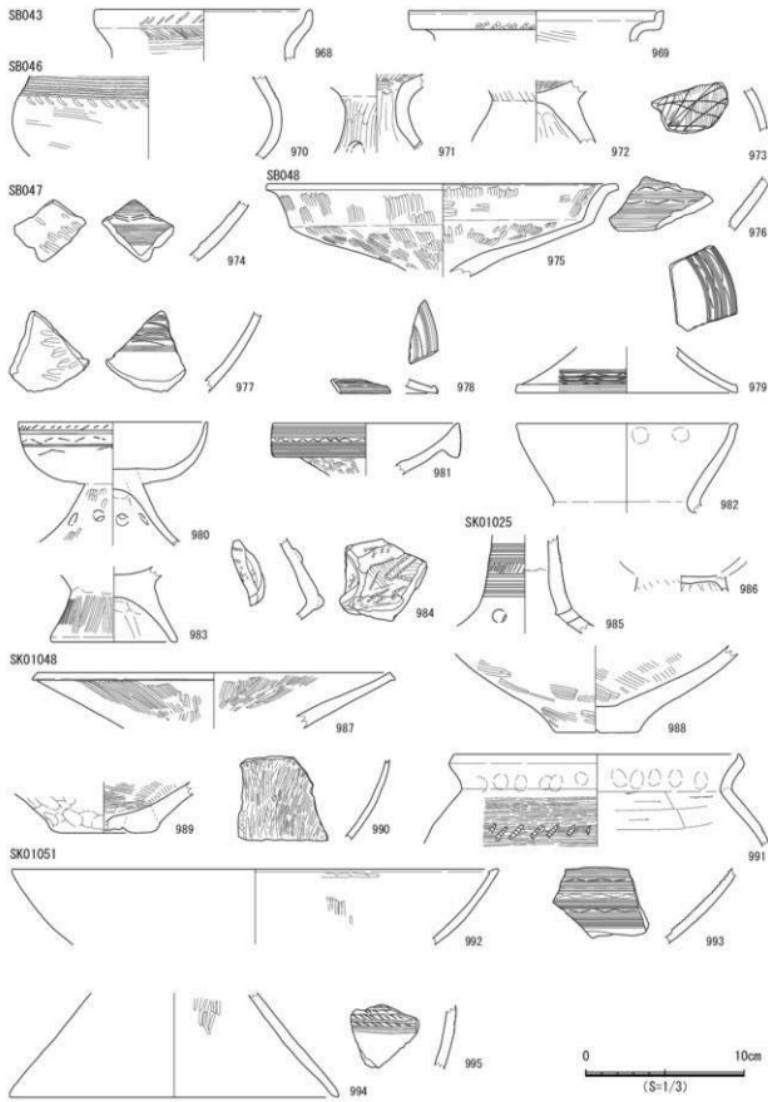


図231 遺物実測図 (66)

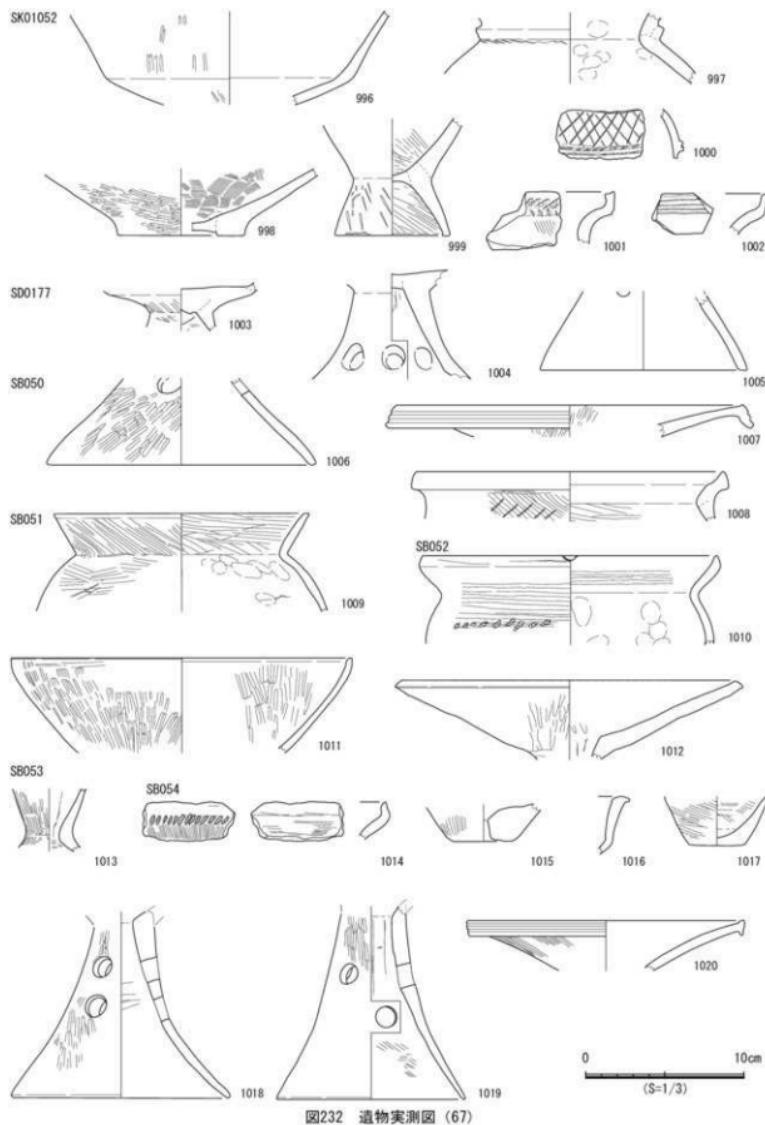


図232 遺物実測図 (67)

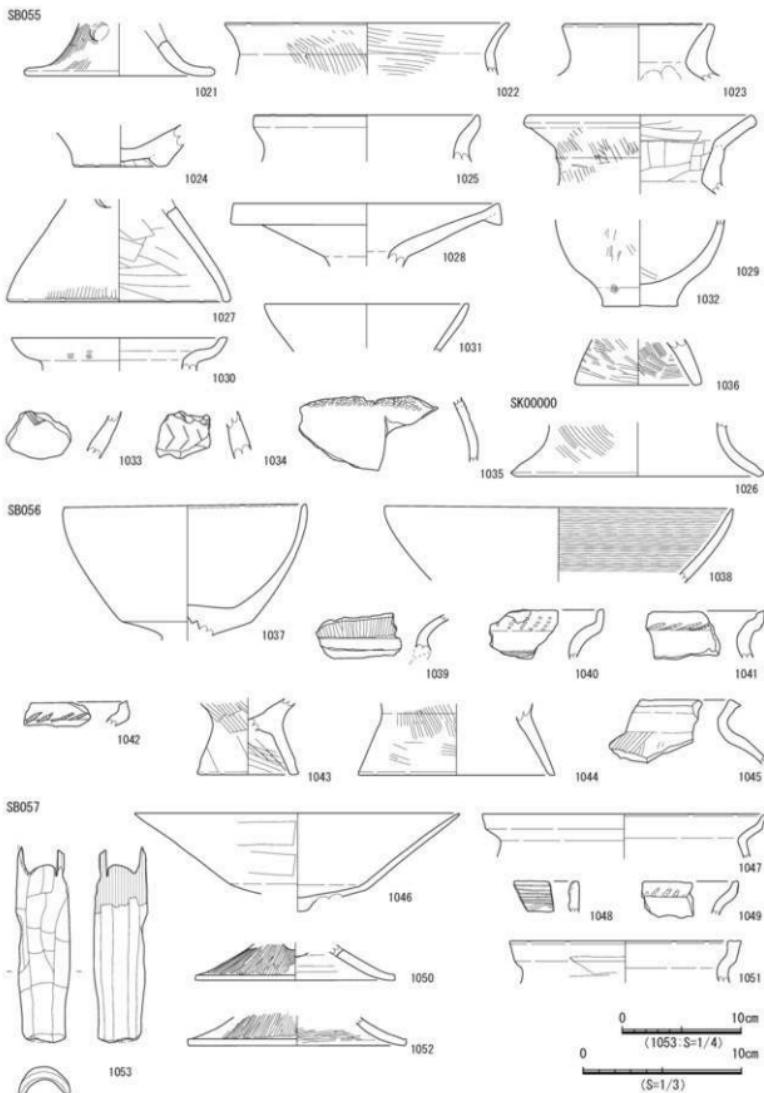


図233 遺物実測図 (68)

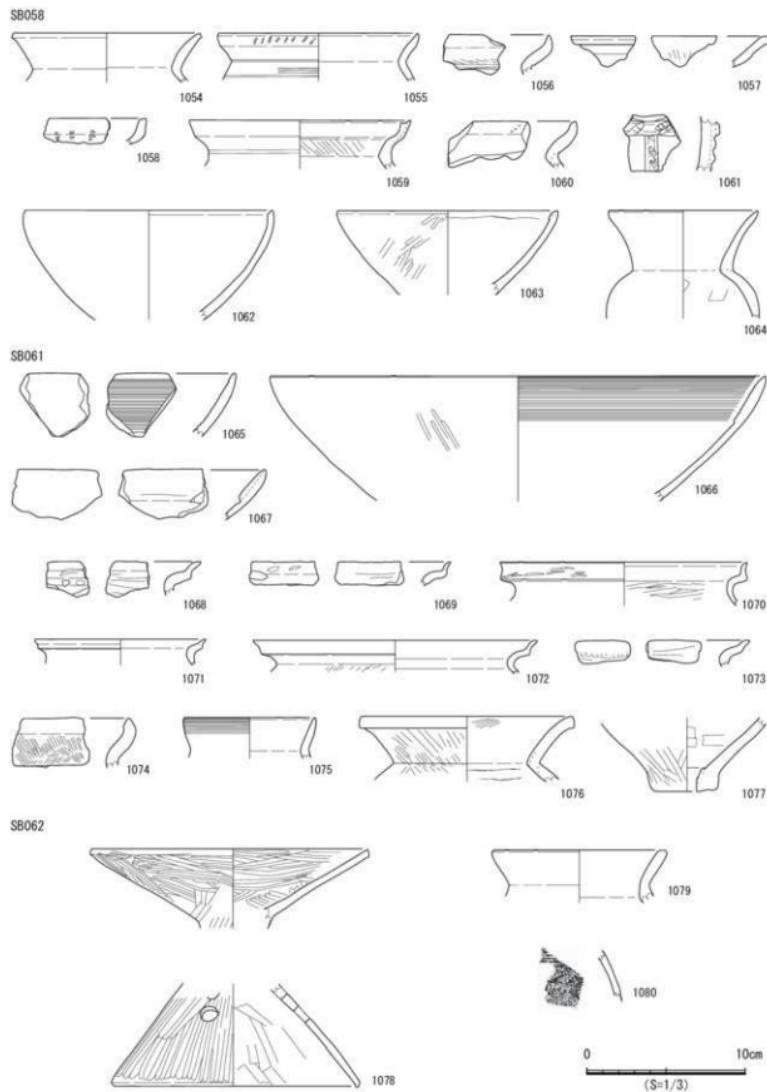


図234 遺物実測図 (69)

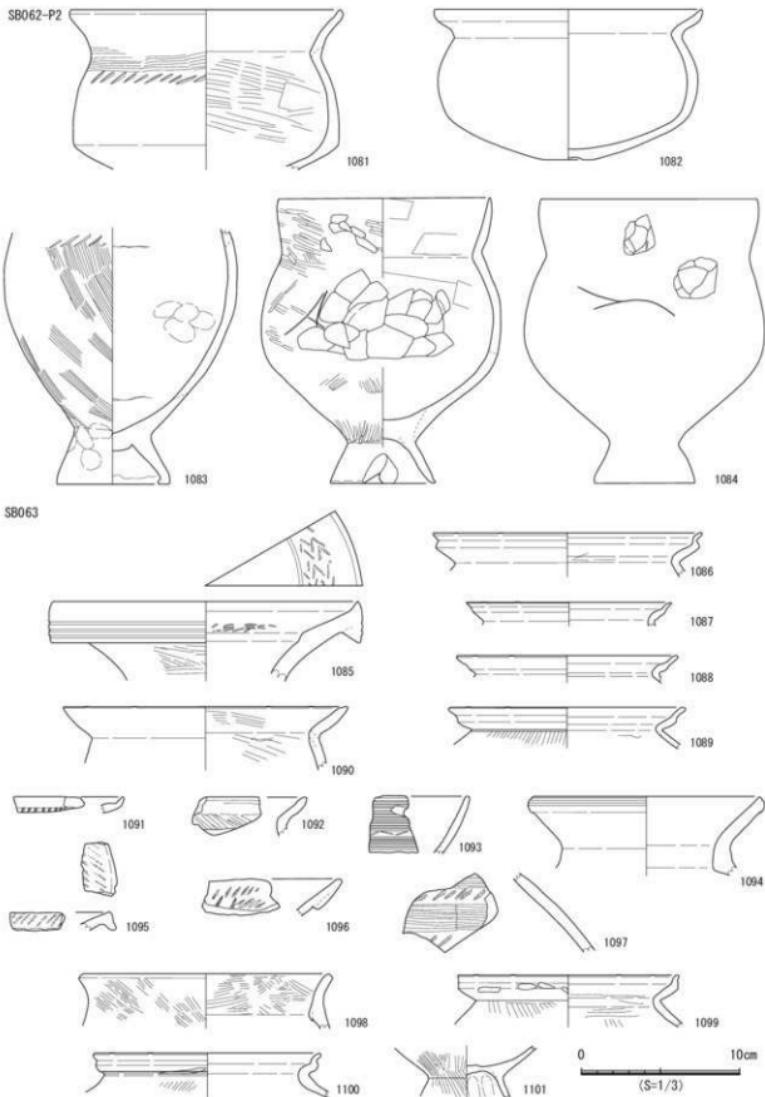


図235 遺物実測図(70)

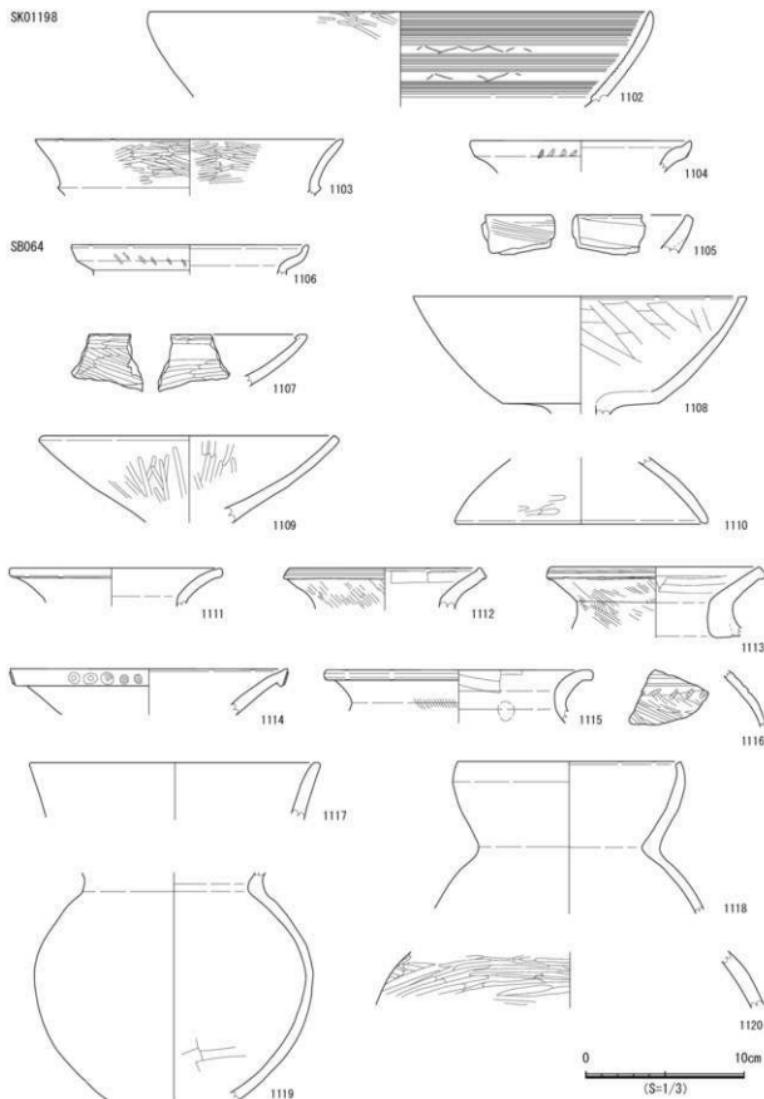


図236 遺物実測図 (71)

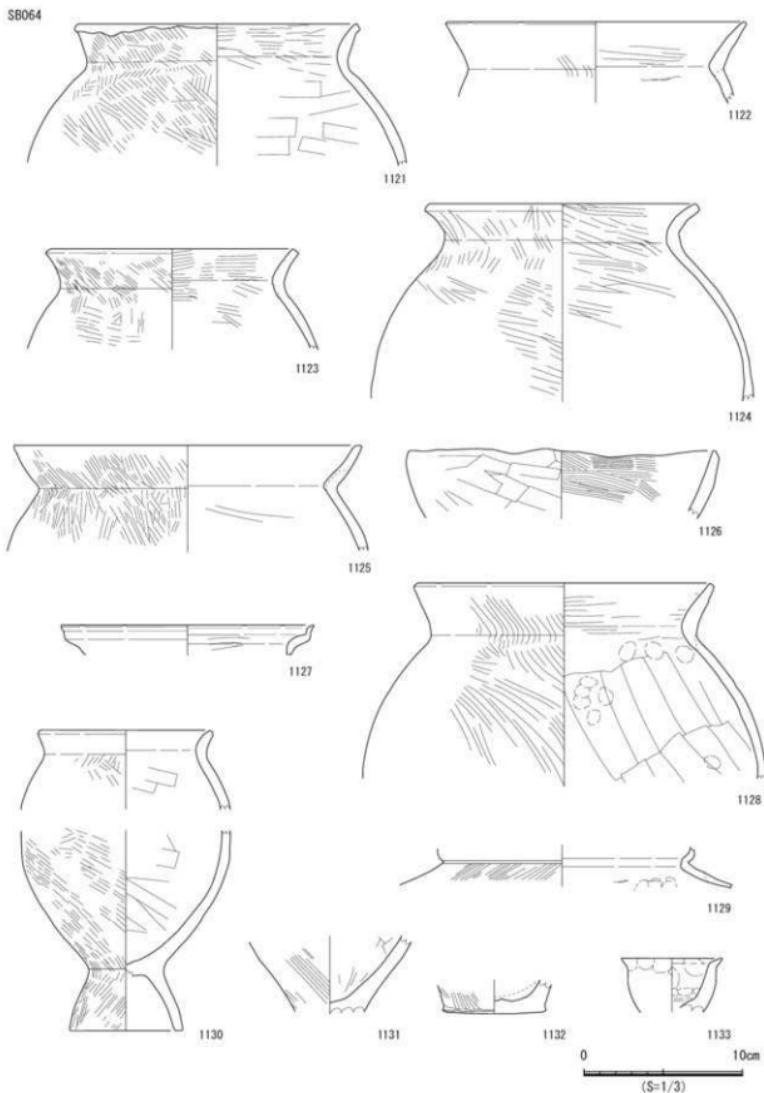


図237 遺物実測図 (72)

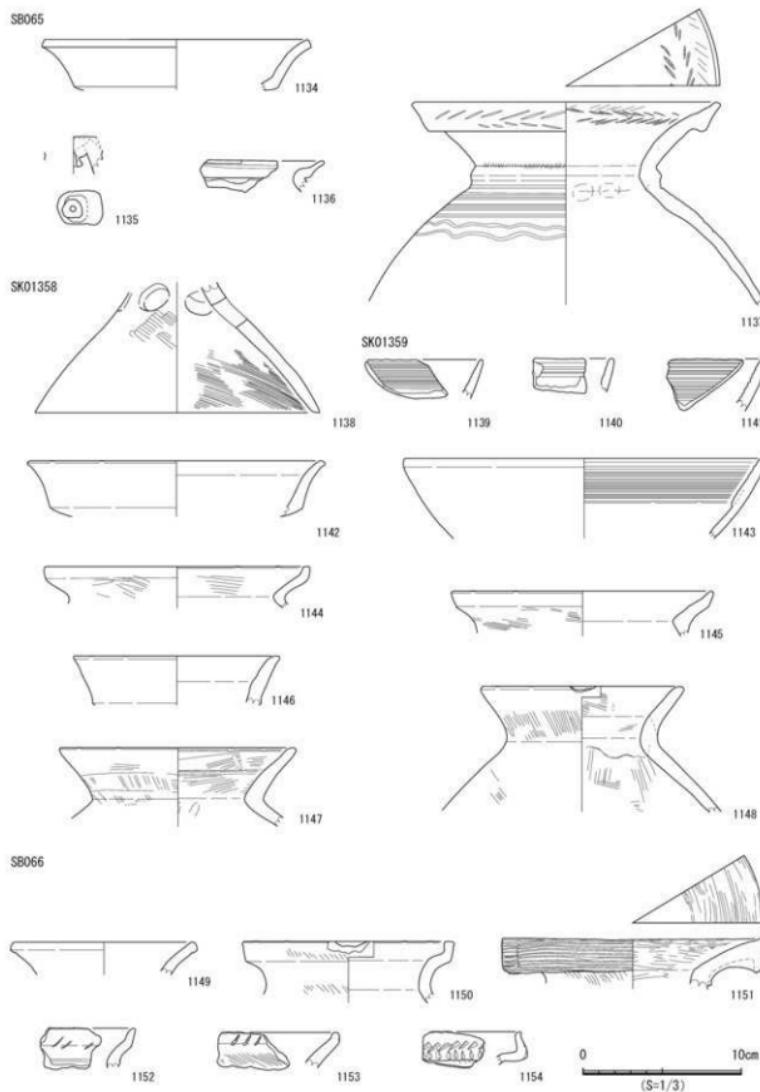
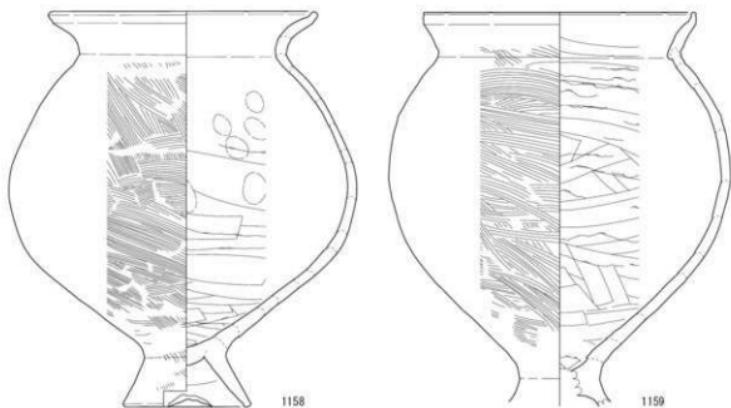
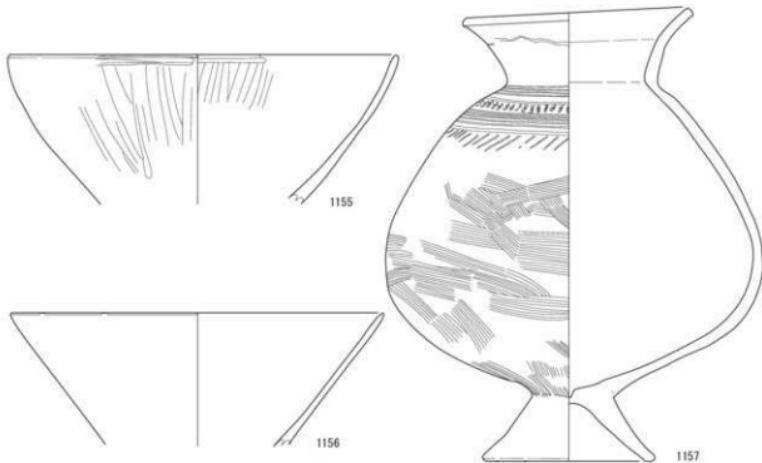


図238 遺物実測図 (73)

SB067



0 10cm
(\$=1/3)

図239 遺物実測図 (74)

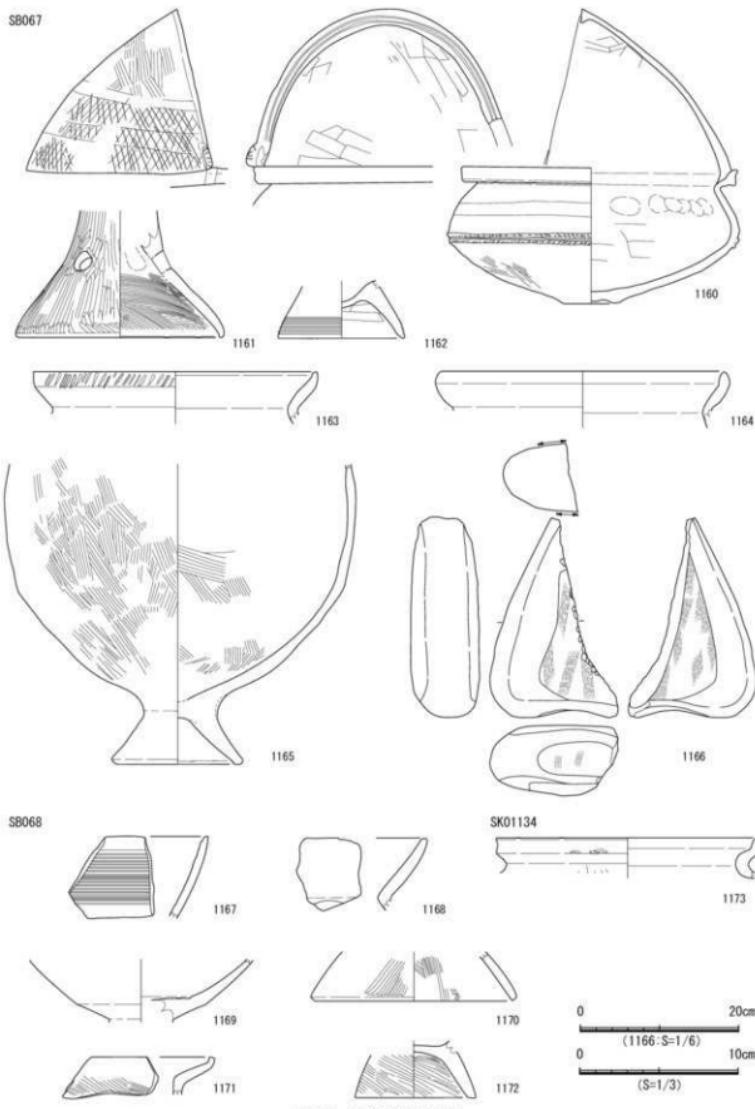


図240 遺物実測図 (75)

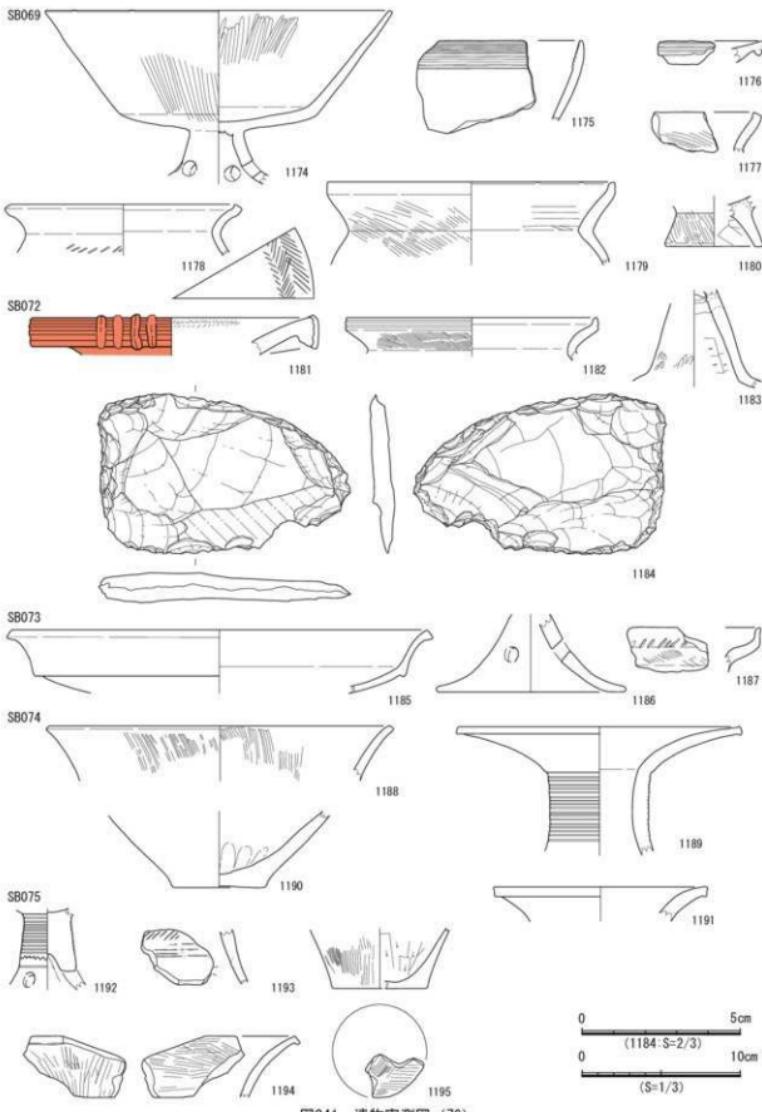


図241 遺物実測図 (76)

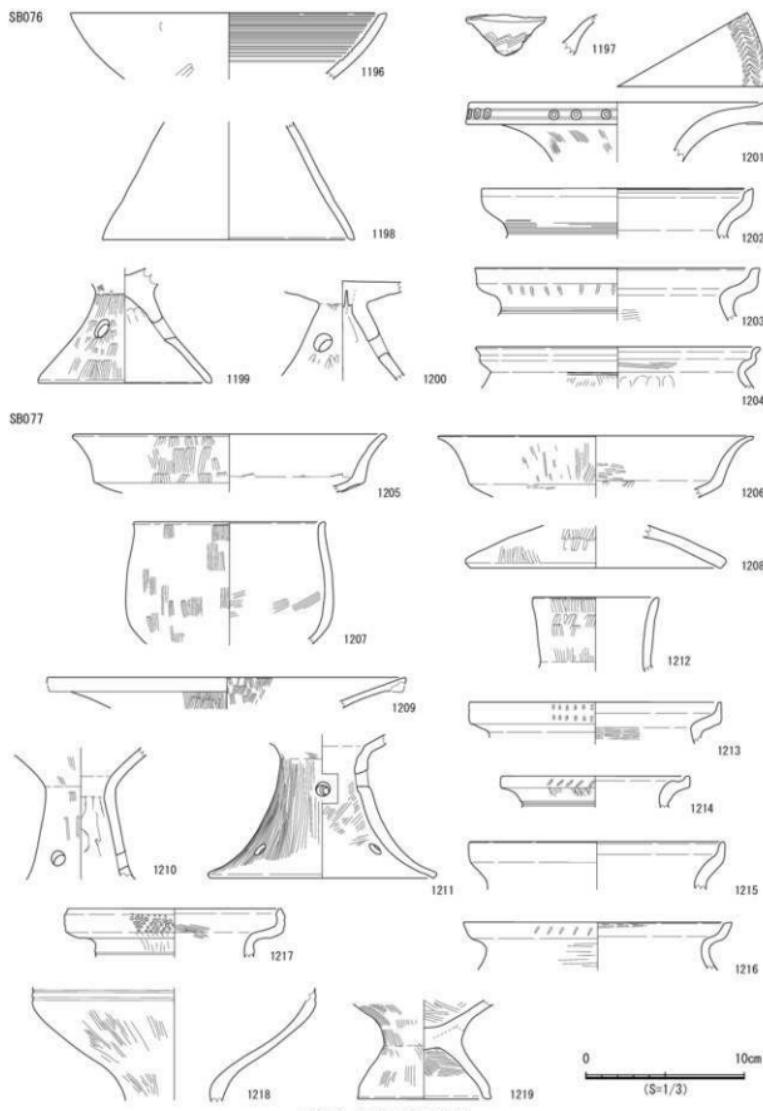


図242 遺物実測図 (77)

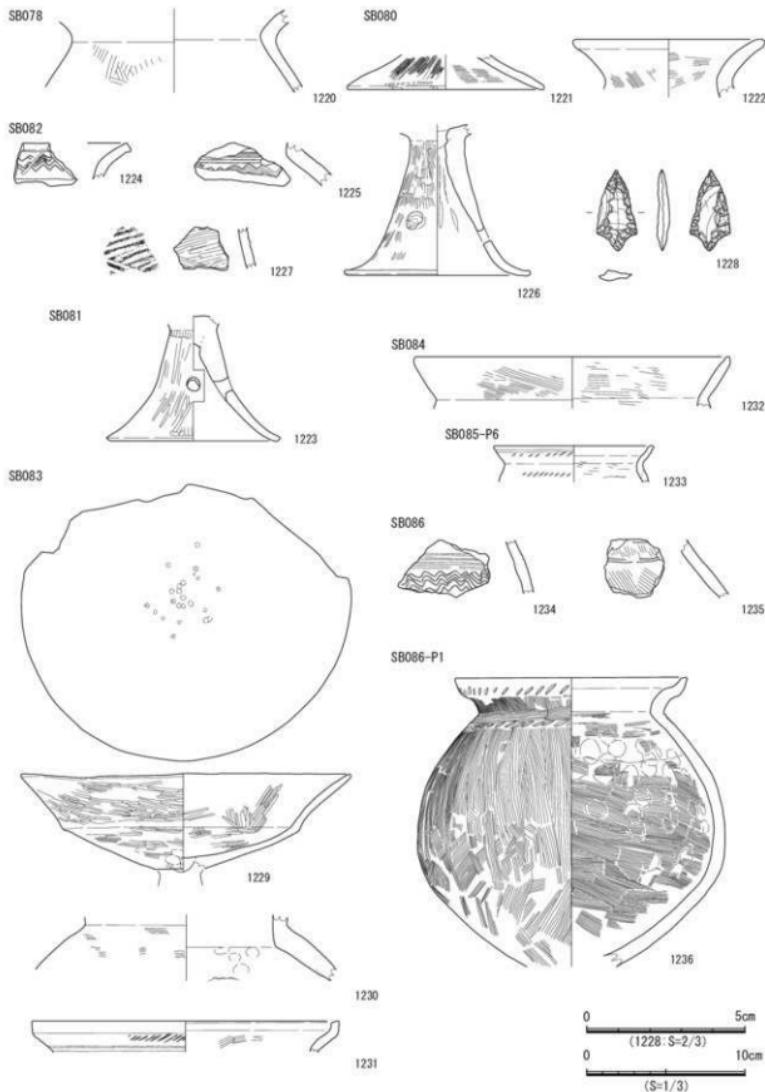


図243 遺物実測図 (78)

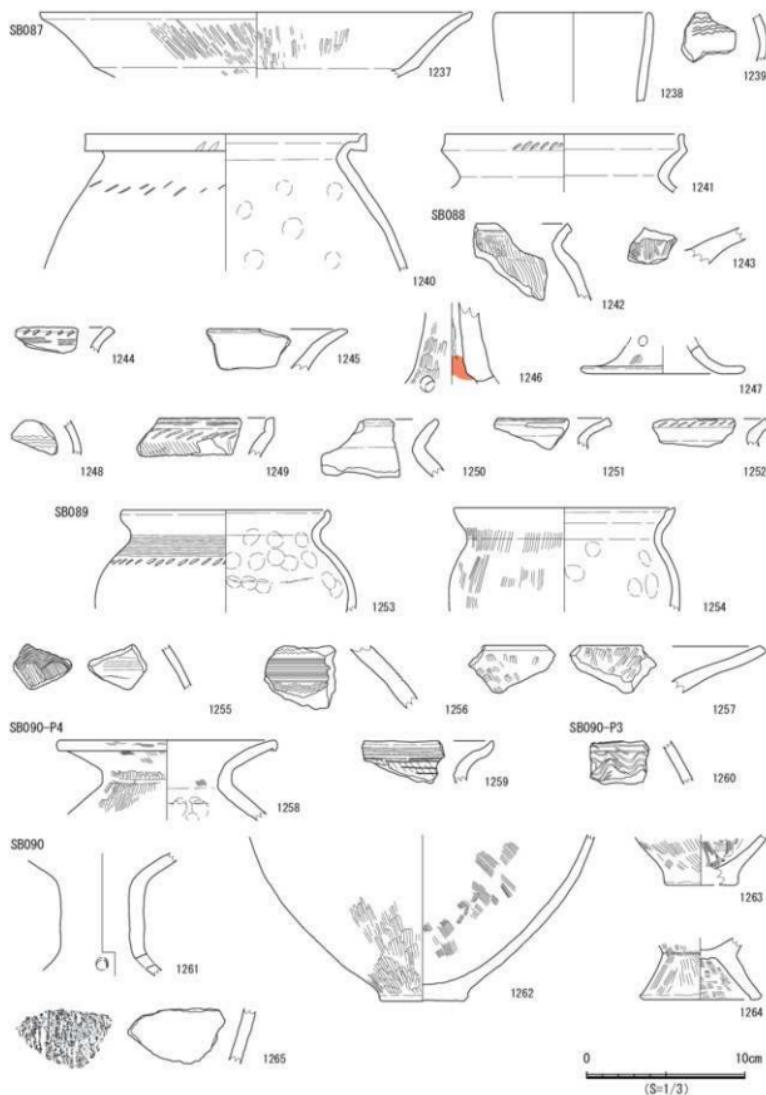


図244 遺物実測図 (79)

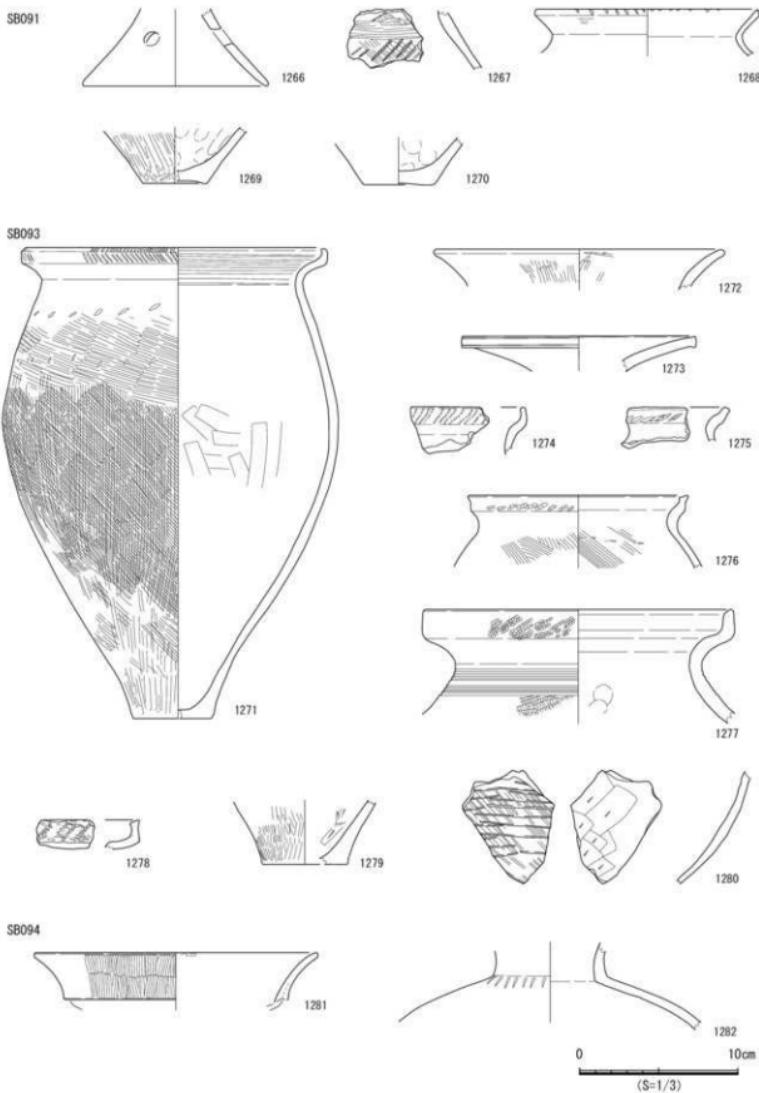


図245 遺物実測図 (80)

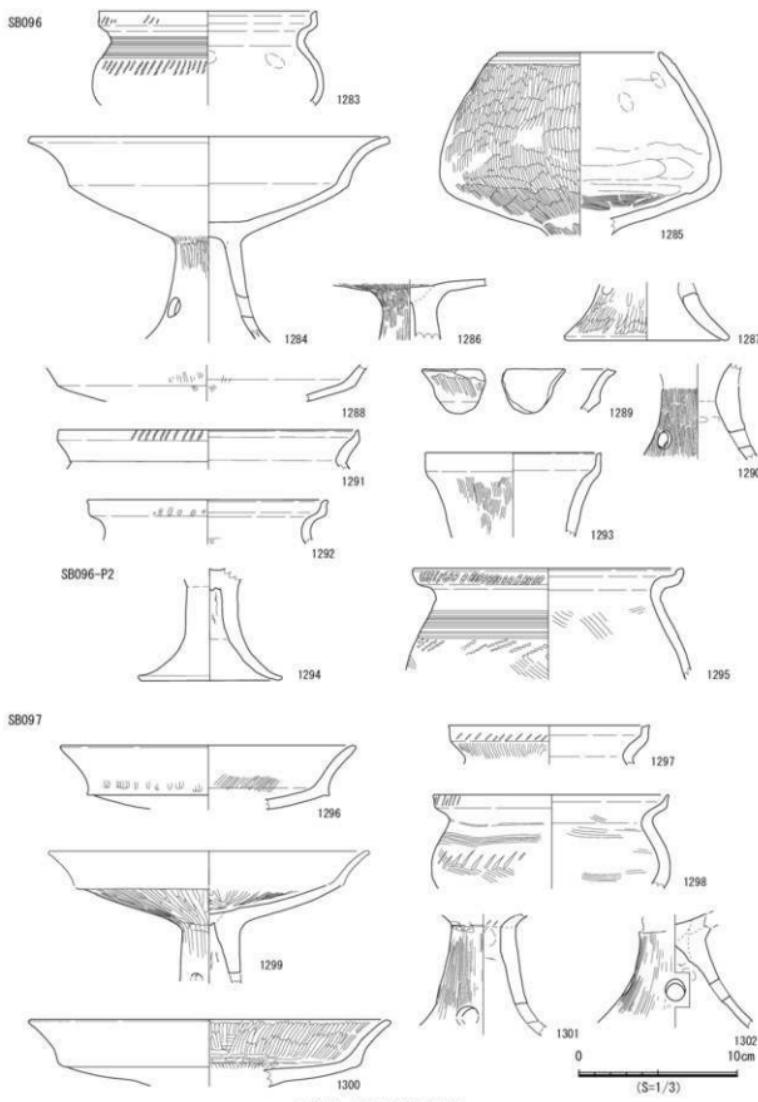


図246 遺物実測図 (81)

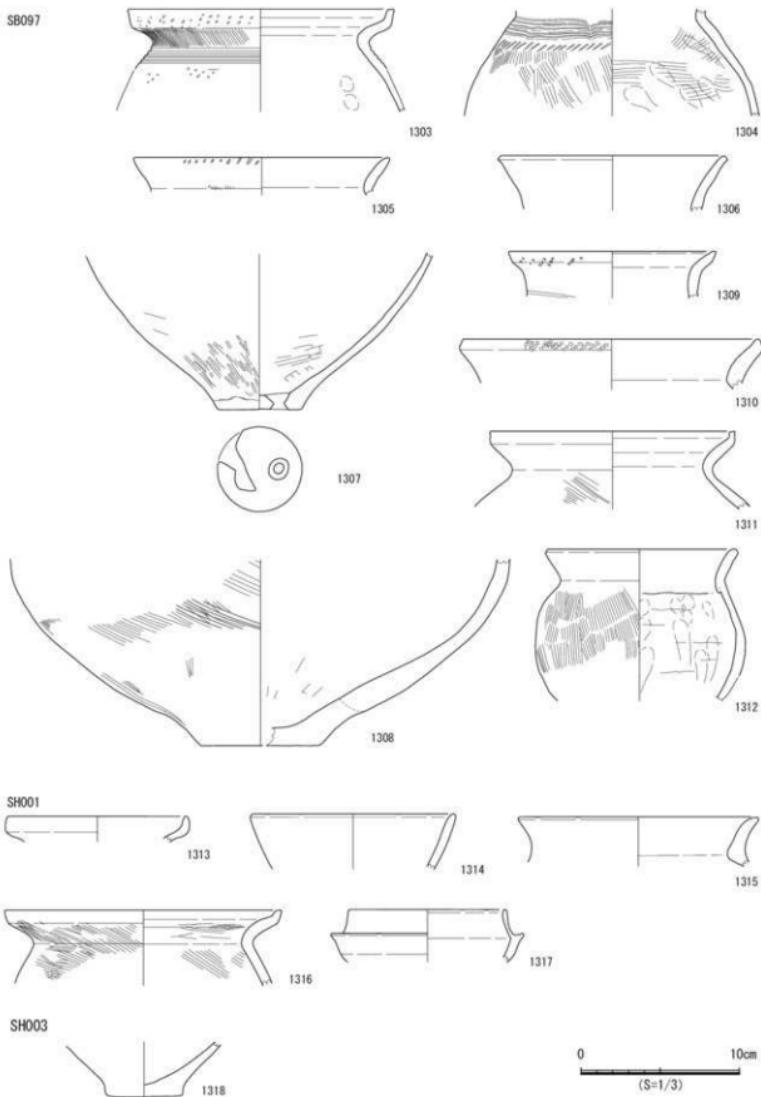


図247 遺物実測図 (82)

第7節 掘立柱建物跡・柵跡

A地区で検出した掘立柱建物跡は、弥生時代後期から古墳時代前期と思われる2棟、古墳時代後期と思われる棟軒の計3棟がある。前者の2棟は、同じ時代の堅穴住居跡が密集する場所に存在している。このため、柱穴もしくは柱穴状の小穴を多数確認していても、遺構の重複が激しいため、建物としてのまとまりを把握することができないものも存在すると思われる。

また、確認できた柵跡は2条であるが、遺物が出土していないか、遺物細片が柱穴から出土しただけであり、時期は不明である。確認した柵跡は、列状に並んだ柱穴しか確認できなかつたため柵跡と判断したもの、掘立柱建物跡であった可能性も考えられる。

表20 掘立柱建物跡一覧表

遺構No.	調査区画	検出層位	柱間(段×根)	長軸長(m)	短軸長(m)	主軸方位	新>●>旧	時期	備考	挿図	図版
SH001	FD2～E3	I b基	2×2	3.70	3.66	N23° E	>SK00757	古墳時代後期以降		248・249	39
SH002	FP5～P6	V上	1×1以上	1.50以上	3.08	N9° W	>SB080	VII期以前		250	-
SH003	FP10～P11	V上	1×2	3.70	2.10	N75° W	>SB088, SD0391	V期以降	独立棟立柱建物	251	-

表21 掘立柱建物跡柱穴一覧表

遺構番号	現場遺構番号	調査区画	検出層位	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考
SH001-P1	06_B0269	FD2	I b基	4層 G	円形	E3a2	0.35	0.32	0.23	0.22	0.25		H	
SH001-P2	06_B0270	FD3	I b基	3層 G	円形	E2a2	0.30	0.27	0.20	0.18	0.18		H	
SH001-P3	06_B0271	FE3	I b基	3層 G	円形	E3b2	0.30	0.27	0.20	0.18	0.25		H	
SH001-P4	06_B0272	FE2	I b基	2層 G	円形	E3b2	0.30	0.30	0.15	0.15	0.30		H	
SH001-P5	06_B0273	FE2	I b基	4層 G	円形	A1b2	0.30	0.28	0.14	0.12	0.35	>SK00757	H, P	
SH001-P6	06_B0274	FE3	I b基	3層 G	円形	E3b2	0.30	0.28	0.20	0.15	0.25	>SK00757	H	
SH001-P7	06_B0275	FE2	I b基	3層 G	円形	E2b2	0.30	0.30	0.18	0.16	0.18		H	
SH001-P8	06_B0276	FE2	I b基	4層 G	円形	E3b2	0.30	0.30	0.15	0.15	0.30		H	
SH001-P9	06_B0277	FE3	I b基	4層 G	円形	E3b2	0.34	0.30	0.15	0.15	0.30		H	
SH002-P1	07_A0149	FP5	V上	4層 G	円形	C5a1	0.48	0.44	0.15	0.13	0.82	SD0366>	H	
SH002-P2	07_A0080	FP6	V上	3層 C	楕円形	B4a2	0.45	0.29	0.25	0.12	0.43		無	
SH002-P3	07_A0125	FP5	V上	4層 D	不整円形	E3a3	0.61	0.48	0.51	0.40	0.41	SD080>	H	
SH002-P4	07_A0127	FP6	V上	4層 C	楕円形	A5a2	0.38	0.32	0.31	0.22	0.57	SD080>	H	
SH003-P1	07_B0342	FP10	V上	2層 G	円形	B2a1	0.22	0.22	0.12	0.12	0.1		無	
SH003-P2	07_B0322	FP10	V上	3層 G	円形	E3b2	0.25	0.26	0.20	0.20	0.15		H	
SH003-P3	07_B0323	FP10	V上	3層 G	円形	E3b1	0.28	0.27	0.14	0.14	0.15		H	
SH003-P4	07_B0327	FP10	V上	3層 G	円形	B2a1	0.25	0.25	0.17	0.10	0.14		無	
SH003-P5	07_B0324	FP10	V上	2層 G	円形	B2b1	0.32	0.30	0.18	0.17	0.12		H	
SH003-P6	07_B0326	FP11	V上	2層 G	楕円形	E3a2	0.25	0.23	0.17	0.14	0.18		H	
SH003-P7	07_B0325	FP11	V上	2層 G	円形	B2b1	0.24	0.24	0.18	0.18	0.1		H	

SH001 (遺構: 図248・249、遺物: 図247)

検出状況 A地区北東部の堅穴住居跡が散在する場所から、やや南東に位置する。IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。桁行2間(3.70m、柱間1.85m)×梁行2間(3.60m、柱間1.80m)の総柱掘立柱建物跡である。SK00757と重複関係にあるが、SH001が新しい。

柱穴 9基の柱穴を検出したが、直径0.3m前後の円形で、深さ0.2m～0.4mほどである。すべての柱穴において、柱痕跡を確認した。

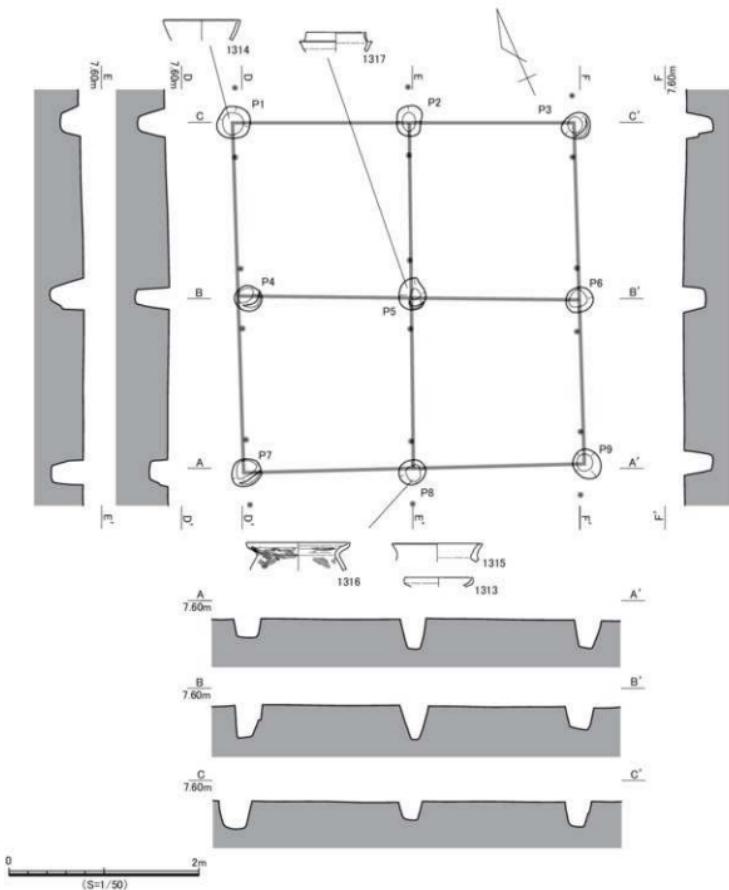


図248 SH001遺構図(1)

出土遺物 P1、P5、P8から出土した土器を図示した。1313～1316は弥生時代末から古墳時代前期の土器と思われるが、1317はP5から出土した須恵器壺身である。

時期 P5から出土した須恵器から古墳時代後期以降と思われる。

SH002（遺構：図250）

検出状況 A地区南東部の堅穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、4基の柱穴がコ字状に配置された状態を確認し、さらに北側の調査区外に続くものと思われる。検出した範囲では桁行1間（1.50m以上）×梁行1間（3.08m）の掘立柱建物跡である。SB080と重複関係にあるが、SH002が古い。

柱穴 4基の柱穴を検出したが、直径0.3m前後の円形もしくは稍円形で、深さ0.42m～0.82mほどである。柱痕跡はP1において確認した。

出土遺物 細片で図化できる遺物はなかった。

時期 SB080よりも古いと思われることから、VI期以前と思われる。

SH003（遺構：図251、遺物：図247）

検出状況 A地区南東部の区画溝（SD0364やSD0382など）の内部、堅穴住居跡が密集する場所に位置する。V層上面で検出したが、重複関係にあるSB088よりも新しいと思われる。北西隅の柱穴が暗渠

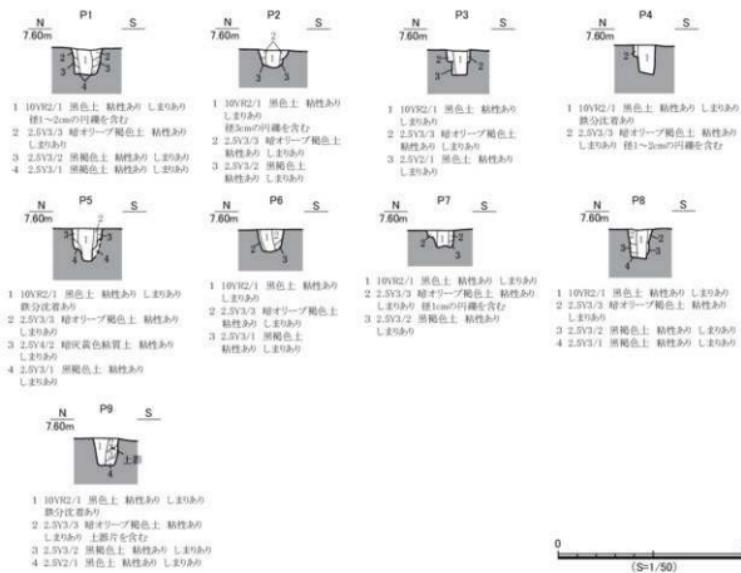


図249 SH001遺構図（2）

排水溝によって削平されているが、他の5基の柱穴が長方形に配置され、その中心軸上の0.55m外側に2基の柱穴を確認し、独立棟持柱付掘立柱建物跡と判断した。桁行2間（3.70m、柱間1.90mと1.80m）×梁行1間（2.10m）である。

柱穴 7基の柱穴を検出したが、直径0.3m前後の円形もしくは楕円形で、深さ0.10m～0.18mほどである。柱痕跡は7基すべての柱穴において確認した。

出土遺物 1318は壺底部であるが、V期からVII期のものと思われる。

時期 SB088よりも新しいことからV期以降と思われる。

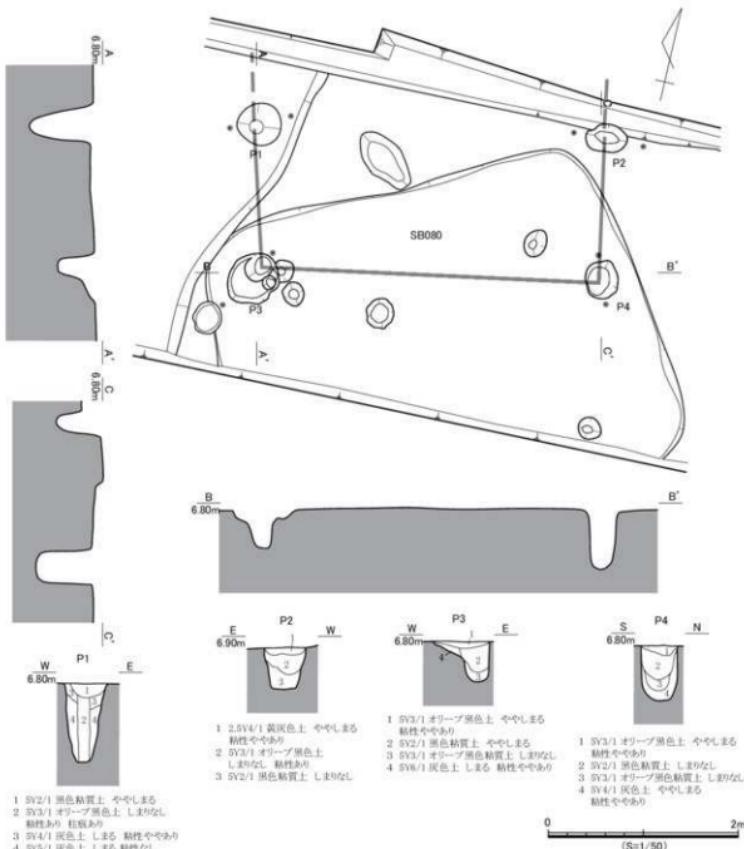


図250 SH002遺構図

SA001 (遺構: 図252)

検出状況 A地区北西部に位置し、V層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。柱穴4基が直線上に位置しており、柵跡と判断した。

柱穴 4基の柱穴を検出したが、直径0.2m~0.25mの円形もしくは楕円形で、深さ0.04m~0.06mと浅い。

出土遺物 どの柱穴からも遺物は出土しなかった。

時期 V層上面で検出し、IV層上面では水田遺構を検出していることから、弥生時代から古代のもの

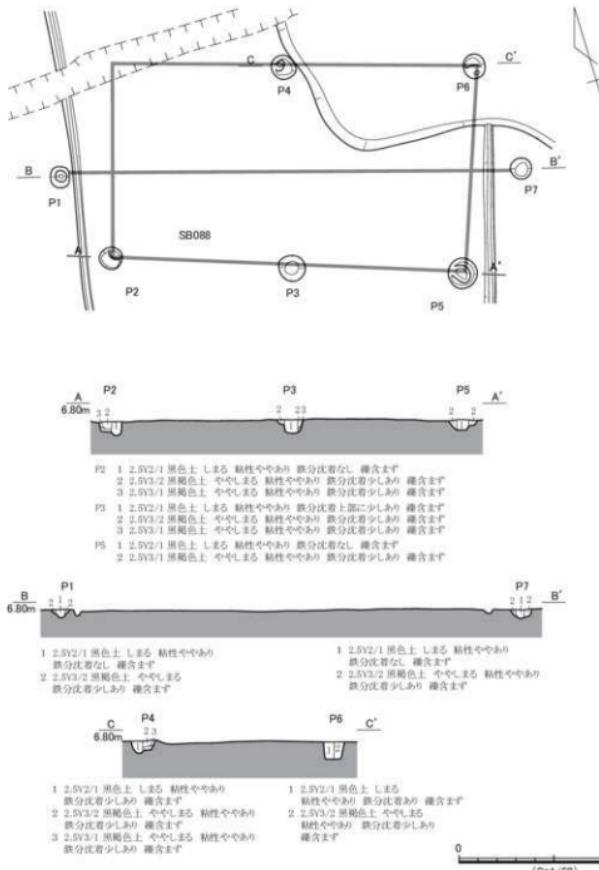


図251 SH003遺構図

と思われる。

SA002（遺構：図253）

検出状況 A地区北部に位置し、IV層上面で検出したが、IV層自体が耕地整理等によりかなり削平を受けた場所である。柱穴4基が直線上に位置しており、柵跡と判断した。

柱穴 4基の柱穴を検出したが、直径0.3m～0.4mのはぼ円形で、深さ0.10m～0.30mである。

出土遺物 どの柱穴からも弥生土器・土師器が出土したが、いずれも細片のため図示できなかった。

時期 IV層上面で検出したが、IV層自体が削平を受けており、出土遺物が弥生土器・土師器であることから、古墳時代前期のものと思われる。

表22 柵跡一覧表

遺構No.	調査区画	検出層位	長さ(m)	柱間(m)	主輪方位	新>●>旧	時期	備考	埠図	図版
SA001	EC1～C2	V上	5.00	1.50, 1.75	N50°W	>N50°W	弥生時代～古代		252	-
SA002	EE16～F17	I b基	4.40	1.45	N52°E	>S205	古墳時代前期		253	-

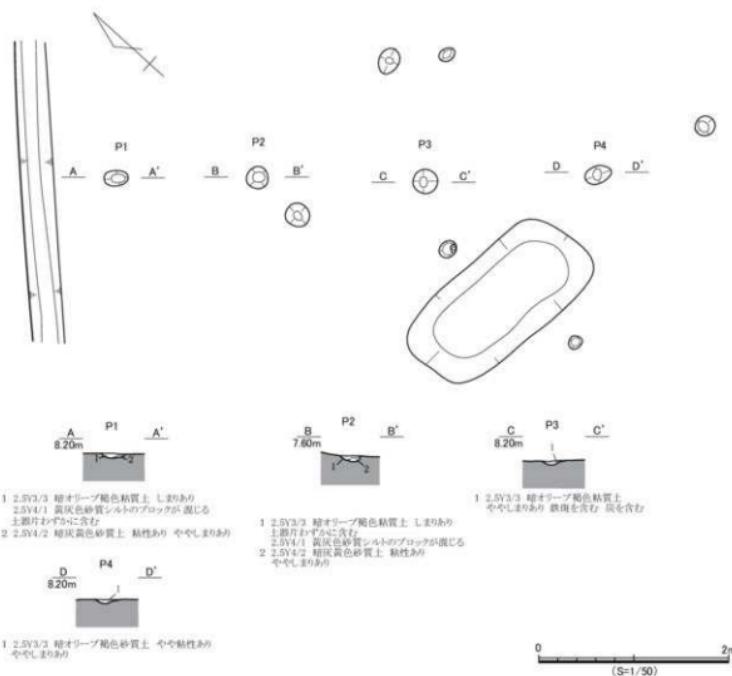


図252 SA001遺構図

表23 棚跡柱穴一覧表

遺構番号	現場遺構番号	調査区画	検出層位	埋土	平面形状	断面形状	上端長軸	上端短軸	下端長軸	下端短軸	深さ	新>●>旧	出土遺物	備考
SA001-P1	06_C0056	EC1	V上	2層 D	長楕円形	A1a1	0.25	0.16	0.14	0.08	0.06	無		
SA001-P2	06_C0057	EC1	V上	2層 D	円形	A1a1	0.23	0.23	0.12	0.11	0.06	無		
SA001-P3	06_C0059	EC1	V上	1層 A	長楕円形	A1a1	0.26	0.25	0.11	0.07	0.04	無		
SA001-P4	06_C0072	EC2	V上	1層 A	不整椭円形	A1a3	0.29	0.18	0.10	0.07	0.04	無		
SA002-P1	06_B0226	EE17	I基	4層 G	円形	A3a2	0.40	0.39	0.15	0.14	0.30	H		
SA002-P2	06_B0231	EE16	I基	2層 B	円形	B2a2	0.41	0.38	0.32	0.26	0.20	H		
SA002-P3	06_B0232	EE16	I基	3層 B	円形	B1a2	0.42	0.40	0.38	0.36	0.23	H		
SA002-P4	06_B0233	EE16	I基	2層 B	円形	B1a1	0.28	0.23	0.16	0.16	0.10	SZ025	H	

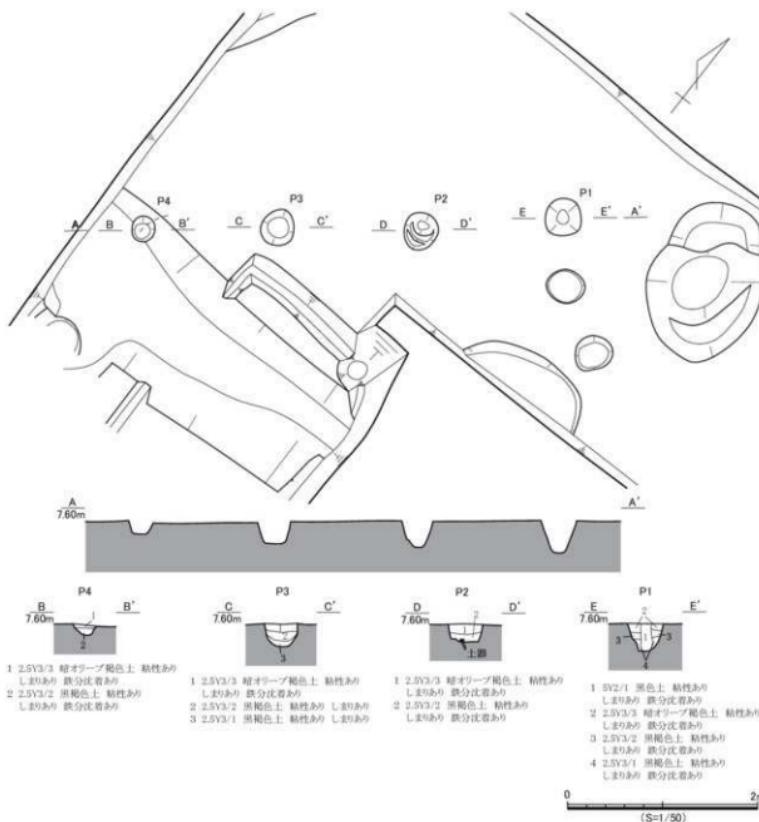


図253 SA002遺構図

報告書抄録

ふりがな	あらおみなみいせきえーちく					
書名	荒尾南遺跡A地区Ⅰ					
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書					
シリーズ番号	第119集					
編著者名	林直樹、藤田英博、三島誠					
編集機関	岐阜県文化財保護センター					
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 Tel058-237-8550					
発行年月日	西暦2012年2月29日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間 調査面積	調査原因
荒尾南遺跡	岐阜県 大垣市 荒尾町 桧町	21202	8568	35° 37' 02"	136° 58' 40"	20060508~20070122 20070423~20071214 20080507~20081212 10,569m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
荒尾南遺跡	集落跡 その他の墓	縄文時代 弥生時代 古墳時代 室町時代 江戸時代	竪穴住居跡 方形周溝墓 掘立柱建物跡 井戸跡 溝状遺構 土坑	97軒 47基 3棟 6基 56条 1556基 など	縄文土器、弥生土器・土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器類、石器・石製品、金属製品など	弥生時代中期の方形周溝墓群、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡、中世以降の水田跡を確認
要約	荒尾南遺跡A地区は、縄文時代晚期から古墳時代後期、古代から近世の遺構を確認した遺跡である。弥生時代中期の方形周溝墓群は、A地区南側からB地区にかけて、およそ南北方向に幾筋かの列をなしており、当地域における一大墓域を形成している。また、弥生時代後期頃に始まる集落の形成は、弥生時代末から古墳時代初頭において最盛期を迎える大規模な集落となる。古墳時代前期には集落は廃絶しているが、その後も断続的な土地利用は認められ、中世にいたって水田城として利用されている。このため、それ以前の遺構、遺物の遺存状態は必ずしも良いとはいえないが、美濃地方西部の弥生時代から古墳時代前期における、中心的な集落のひとつであったと思われる。					

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第119集

荒尾南遺跡A地区 I

(第1分冊)

2012年2月29日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 新日本法規出版株式会社